

Oracle8 Server エラー・メッセージ :Vol.2

リリース 8.0

1998 年 2 月

部品番号 A56829-1

Oracle8 エラー・メッセージ: Vol. 2

部品番号 A56829-1

リリース 8.0

第 1 版: 1998 年 2 月

原本名: Oracle8 Error Messages

原本部品番号: A58512-01

原本主著者:

原本協力者: Yitzkik Brenman, Sandy Dreskin, Jeff Hebert, Jacinda Johnson, Mark Kennedy, Judy Latham, Pricilla Lee, Cathy Novak, Nik Ormseth, Tom Pfaeffle, Brian Quigley, Sandy Venning

Copyright © Oracle Corporation, 1997

All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製、または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。

本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。本書に問題を見つけたら、当社にコメントをお送りください。オラクル社は、本書の無謬性を保証しません。

危険な用途への使用について

当社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、又は医療の分野など、本質的に危険が伴うアプリケーションを用途として特に開発されておりません。当社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は顧客各位の責任と費用により行っていただきたく、万が一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、当社および開発元である米国 Oracle Corporation (その関連会社も含みます。)は一切責任を負いかねます。

ORACLE は、Oracle Corporation の登録商標です。

本文中の他社の商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
1 メッセージの使用方法	
メッセージ関連のマニュアル	1-1
Oracle Server	1-1
製品固有	1-1
オペレーティング・システム固有	1-2
メッセージの精度	1-2
メッセージの形式	1-2
メッセージにおける埋込み変数の認識	1-2
メッセージ・スタック	1-3
オラクル社カスタマー・サポートへの連絡	1-3
Oracle 例外メッセージ	1-4
トレース・ファイル	1-4
警告ファイル	1-5
2 サーバー・メッセージ : ORA-02351 ~ ORA-29799	
ダイレクト・パス・モードの SQL*Loader メッセージ : 02351 ~ 02375	2-1
Oracle リソース・メッセージ : 02376 ~ 02399	2-4
EXPLAIN PLAN コマンド・メッセージ : 02401 ~ 02419	2-7
スキーマ・メッセージ : 02420 ~ 02429	2-7
制約の使用可能メッセージおよび使用禁止メッセージ : 02430 ~ 02449	2-9
ハッシュ・クラスタのコマンド・メッセージ : 02450 ~ 02475	2-11
パラレル・ダイレクト・ローダー・メッセージ : 02476 ~ 02479	2-15
トレース機能メッセージ : 02480 ~ 02489	2-15

サイズ変更可能データ・ファイル・メッセージ: 02490 ~ 02499.....	2-16
CTOS メッセージ: 02500 ~ 02699	2-17
UNIX2 タスク・メッセージ: 02700 ~ 02874.....	2-17
BM RS/6000 メッセージ: 02875 ~ 02899.....	2-34
実現されていない機能のメッセージ: 03000 ~ 03099.....	2-34
2 タスク・インタフェース・メッセージ: 03100 ~ 03199.....	2-35
エクステントの割当ておよびその他の領域管理エラー・メッセージ: 03200 ~ 03289.....	2-39
TRUNCATE コマンド・メッセージ: 03290 ~ 03295.....	2-42
サイズ変更可能データ・ファイル: 03296 ~ 03299.....	2-43
Meiko メッセージ: 03300 ~ 03499.....	2-44
Macintosh メッセージ: 03500 ~ 03699	2-44
AOS/VS メッセージ: 03700 ~ 03999.....	2-44
無効コマンド・パラメータ・メッセージ: 04000 ~ 04019.....	2-44
ライブラリ・オブジェクト・ロック・メッセージ: 04020 ~ 04029.....	2-46
システム・メモリー・メッセージ: 04030 ~ 04039.....	2-47
ストアド・プロシージャ・メッセージ: 04040 ~ 04059.....	2-48
ストアド・プロシージャの実行メッセージ: 04060 ~ 04069.....	2-50
トリガー・メッセージ: 04070 ~ 04099.....	2-51
SQL*Net メッセージ: 06000 ~ 06429.....	2-55
NCR System 3000 メッセージ: 06430 ~ 06449	2-57
PL/SQL メッセージ: 06500 ~ 06580	2-59
European OEM Ports メッセージ: 06581 ~ 06591	2-69
SQL*Net メッセージ: 06600 ~ 06699.....	2-69
SQL*Net TLI メッセージ: 06700 ~ 06899	2-69
CMX メッセージ: 06900 ~ 06939.....	2-69
SQL*Net AppleTalk メッセージ: 06950 ~ 06999.....	2-69
SQL*Connect for DB2 メッセージ: 07000 ~ 07099	2-70
SQL*Connect for IMS メッセージ: 07100 ~ 07199	2-70
UNIX メッセージ: 07200 ~ 07499.....	2-70
VAX/VMS メッセージ: 07500 ~ 07999.....	2-97
データ・アクセス・メッセージ: 08000 ~ 08174.....	2-119
ディスクリート・トランザクション・メッセージ: 08175 ~ 08190.....	2-120
nCUBE メッセージ: 08200 ~ 08399.....	2-121
プロシージャ・ゲートウェイ用 PL/SQL ユーティリティ・パッケージ・メッセージ: 08401 ~ 08499	2-128
MQ Series 用プロトコル・プロシージャ・ゲートウェイ・メッセージ: 08500 ~ 08599	2-135
SQL*Connect メッセージ: 08600 ~ 09099.....	2-135
Oracle Gateway・メッセージ: 09100 ~ 09199.....	2-136

DOS、OS/2、Novell メッセージ: 09200 ~ 09499	2-136
MPE/XL メッセージ: 09500 ~ 09699	2-144
UNIX メッセージ: 09700 ~ 09999	2-144
内部メッセージ: 10000 ~ 10999	2-172
Net8 MVS メッセージ: 11000 ~ 11999	2-172
表スナップショット・メッセージ: 12000 ~ 12099	2-173
OSN エラー・メッセージ: 12150 ~ 12195	2-179
NR (ルーティング) エラー・メッセージ: 12196 ~ 12285	2-182
リスナー・エラー・メッセージ: 12196 ~ 12285	2-188
NS (セッション) エラー・メッセージ: 12530 ~ 12629	2-189
NA エラー・メッセージ: 12630 ~ 12699	2-199
各国語対応メッセージ: 12700 ~ 12799	2-208
パラレル問合せ / インデックスの作成メッセージ: 12800 ~ 12849	2-210
空間データ・オプション・メッセージ: 13000 ~ 13199	2-216
パーティション・オブジェクト - 解析メッセージ: 14000 ~ 14119	2-229
パーティション・オブジェクト - 実行メッセージ: 14400 ~ 14499	2-248
パーティション・オブジェクト - 分析メッセージ: 14500 ~ 14999	2-249
Oracle Hot Standby: 16000 ~ 16099	2-250
サーバー管理の回復メッセージ: 19500 ~ 19998	2-251
ストアド・プロシージャ・メッセージ: 19999 ~ 21099	2-271
内部メッセージ: 21100 ~ 21299	2-272
オブジェクト・インタフェースおよびサブシステム・メッセージ: 21300 ~ 22799	2-272
Oracle Runtime Environment for Objects (OREO) 内部メッセージ: 21500 ~ 21503	2-272
KOD/KOFD/KOUD (データ) メッセージ: 21520 ~ 21559	2-272
ORI*/KOI* (インタフェース) メッセージ: 21600 ~ 21699	2-274
KOC (キャッシュ) メッセージ: 21700 ~ 21799	2-274
KOLL - LOB: 22275 ~ 22279	2-280
LOB: DBMS_LOB および KOLF - ファイルマネージャー一般メッセージ: 22280 ~ 22299	2-280
KOP* (Pickler): 22600 ~ 22699	2-284
オブジェクト SQL メッセージ: 22800 ~ 22849	2-285
オブジェクト SQL DDL メッセージ: 22850 ~ 22879	2-286
オブジェクト SQL REF/DEREF サポート・メッセージ: 22880 ~ 22899	2-289
SQL ネスト表およびコレクション・メッセージ: 22900 ~ 22919	2-291
DBMS PL/SQL パッケージ・メッセージ: 23300 ~ 24299	2-297
拡張問合せ用管理インタフェース・メッセージ: 24000 ~ 24099	2-317
DBMS_HO サポート・パッケージ・メッセージ: 24270 ~ 24279	2-323
DBMS_LOB (FILE) パッケージ・メッセージ: 24280 ~ 24299	2-324
UPI/OCI メッセージ: 24300 ~ 24999	2-324

OCI LOB/FILE 関連メッセージ: 24800 ~ 24999.....	2-337
トリガー・メッセージ: 25000 ~ 25099.....	2-339
解析メッセージ: 25100 ~ 25199.....	2-340
アドバンスト・キュー・メッセージ: 25200 ~ 25699.....	2-347
トランザクション OCI メッセージ: 25350 ~ 25375.....	2-351
アプリケーション・フェイルオーバー・メッセージ: 25400 ~ 25425.....	2-351
DBLINK 集中化メッセージ: 25426 ~ 25435.....	2-353
ダイレクト・パス・ロード・メッセージ: 26000 ~ 26099.....	2-353
表領域関連 DBA エラー: 26100 ~ 26110.....	2-357
レプリケーション: 26500 ~ 26999.....	2-358
UNIX メッセージ: 27000 ~ 27299.....	2-364
IPC メッセージ: 27500 ~ 27650.....	2-375
セキュリティ関連メッセージ: 28000 ~ 28499.....	2-378
異機種間サービス・メッセージ: 28500 ~ 28549.....	2-381
アンストラテッドおよび分散外部プロシージャ・メッセージ: 28575 ~ 28599.....	2-390
ビットマップ索引: 28600 ~ 28620.....	2-392
セキュリティ・サーバー・メッセージ: 28750 ~ 29249.....	2-392
DBMS_SQL メッセージ: 29250 ~ 29399.....	2-404
Oracle データ・カートリッジ・メッセージ: 29400 ~ 29499.....	2-408
分散ロック・マネージャ (DLM) メッセージ: 29700 ~ 29799.....	2-409

3 PL/SQL および FIPS メッセージ

PL/SQL エラー・メッセージ	3-1
FIPS 警告: 01400 ~ 01799.....	3-57

はじめに

このマニュアルでは、Oracle8 製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、次の製品のメッセージを説明します。

- Oracle8 ConText Option
- Oracle8 Image Data Cartridge
- Oracle8 Enterprise Manager
 - Oracle8 Enterprise Console および関連サービス
 - Database tools メッセージ
 - Oracle8 パフォーマンス監視ツール
 - SQL エンジンおよび行モード・メッセージ
- Oracle8 Names
- Oracle8 Server
 - SQL プロセッサ
 - PL/SQL
 - Server Manager
 - プリコンパイラ、Export および Import ユーティリティ
 - Recovery Manager
 - SQL*Loader
- Oracle8 Spatial Data Cartridge
- Oracle8 Solaris プロトコル・アダプタ
- Oracle8 Video Server
- Oracle8 Windows NT プロトコル・アダプタ

- Net8 および SQL*Net リリース 2.0 以降
 - Transparent Network Substrate (TNS)
 - 接続マネージャ
 - Oracle8 プロトコル・アダプタ
 - Oracle8 Advanced Networking Option
- SNMP for Oracle8 Names
- ネイティブ・ネーム・アダプタ

このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、考えられる原因の説明と対処方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合には、解決方法を示します。

対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle8 ユーザーを対象にしています。

構成

Oracle8 Server エラー・メッセージ, リリース 8.0 は全部で 3 冊あります。それぞれの内容は次のとおりです。

Vol.1

- 第 1 章 メッセージの使用方法
- 第 2 章 ConText Option メッセージ
- 第 3 章 Oracle Trace メッセージ
- 第 4 章 Export メッセージ
- 第 5 章 Image Data Cartridge メッセージ
- 第 6 章 インポート・メッセージ
- 第 7 章 Names Server ネットワーク管理プロトコル・メッセージ
- 第 8 章 エージェント・メッセージ
- 第 9 章 Oracle Names クライアント・メッセージ
- 第 10 章 Native Naming メッセージ
- 第 11 章 Oracle Names 制御メッセージ
- 第 12 章 Oracle Names Server メッセージ
- 第 13 章 Names Server ネットワーク・プレゼンテーション・レイヤー・メッセージ

第 14 章 Object 型トランスレータ・メッセージ

第 15 章 Server メッセージ:ORA-00000 ~ ORA-02350

Vol.2

第 1 章 メッセージの使用方法

第 2 章 サーバー・メッセージ:ORA-02351 ~ ORA-29799

第 3 章 PL/SQL メッセージと FIPS メッセージ

Vol.3

第 1 章 メッセージの使用方法

第 2 章 プリコンパイラ・メッセージ

第 3 章 SQL*DBA メッセージ

第 4 章 SQL*Loader メッセージ

第 5 章 SQL*Module メッセージ

第 6 章 Recovery Manager メッセージ

第 7 章 BFILE-Related メッセージ

第 8 章 Oracle Video Server メッセージ

第 9 章 Security Manager メッセージ

第 10 章 メッセージとコード

第 11 章 Storage Manager メッセージ

第 12 章 Instance Manager メッセージ

第 13 章 Backup および Recovery Manager メッセージ

第 14 章 Schema Manager メッセージ

第 15 章 一般的な Oracle Enterprise Manager メッセージ

第 16 章 Oracle8 Visual Information Retrieval Cartridge メッセージ

第 17 章 Oracle Performance Manager メッセージ

第 18 章 Oracle TopSessions メッセージ

第 19 章 Tablespace Manager メッセージ

第 20 章 Console メッセージ

第 21 章 Daemon メッセージ

第 22 章 ジョブ・システム・メッセージ

関連資料

このマニュアルの中で、他の資料の情報を参照している箇所があります。このマニュアルで参照している関連資料は、次のとおりです。

- Oracle Server の概要および機能については、『Oracle8 Server 概要』を参照してください。
- Oracle Server の管理については、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。
- Oracle Server でのアプリケーションの開発方法については、『Oracle8 Server アプリケーション開発者ガイド』を参照してください。
- 前のバージョンの Oracle から Oracle8 への移行手順については、『Oracle8 Server 移行ガイド』を参照してください。
- Oracle SQL コマンドおよびファンクションについては、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。
- Oracle Server にバンドルされているユーティリティ (Export、Import、SQL*Loader など) については、『Oracle8 Server ユーティリティ』を参照してください。
- ホスト・オペレーティング・システムで稼動している Oracle Server 固有の情報については、各オペレーティング・システムに対応する Oracle マニュアル (タイトルはオペレーティング・システムによって異なります) を参照してください。使用可能であれば、システム・リリースも参照してください。
- Net8 については、『Net8 管理者ガイド』を参照してください。データの暗号化、外部認証サービス、Oracle DCE 統合など Oracle Advanced Networking Option に組み込まれている機能については、『Oracle Advanced Networking Option 管理者ガイド』を参照してください。Oracle 固有の認証および認可サービスについては、『Oracle Security Server ガイド』および『Oracle Cryptographic Toolkit ガイド』を参照してください。

オラクル社は、配布媒体上で使用可能な形式でいくつかのファイルを提供する場合があります。これらのファイルには、このマニュアルに記載されていない Oracle ソフトウェアのマイナー・リリースについての説明があります。通常、これらのファイルは、README.DOC および BUGFIX.DOC、BUGHST.DOC、RESTRICT.DOC という名前で提供されます。マニュアルに記載されていないソフトウェア情報については、これらのファイルを参照してください。

追加情報：

上記ファイルの名前および位置は、オペレーティング・システムによって異なる場合があります。これらのファイルについては、各オペレーティング・システムに対応した Oracle マニュアルを参照してください。

オラクル社カスタマー・サポートへの連絡

オラクル社カスタマー・サポートの電話番号は次のとおりです。(営業時間はサポート契約書類に記載されています):

- 米国内の電話番号 : **1.415.506.1500**.
- ヨーロッパの電話番号 : **+44.1344.860160**
- アジアの電話番号 : **+81.3.5717.1850**

オラクル社カスタマー・サポートに電話する前に、次の事項を確認してください。

- あなたの CSI 番号 (ある場合) あるいは、特定のプロジェクト情報などの連絡詳細。
- オラクル・サーバーと関連製品のリリース・レベル。(たとえば、Oracle8 Server リリース 8.0.3.0 および Oracle Forms リリース 4.5.6.3.2 など)
- オペレーティング・システムの名前とリリース・レベル。パッチやパッケージを含む。
- 問題に伴うエラー・コード、番号、詳細。
- 次の問題の詳細について項目。
 - 何が起きたのですか。たとえば、使ったコマンド、得られた結果、など。
 - 問題が起きたのはいつか。たとえば、時間帯、特定のコマンドの後で、オペレーティング・システムやオラクルのアップグレードの後で、など。
 - 問題が起きた場所はどこですか。たとえば、特定のシステムで、あるいは特定のプロセスやあるいは表を使っている時など。
 - どの程度の問題ですか。たとえば、本番システムが使えないか、それほど深刻でもない問題なのか、など。事態は悪くなっているか。

起きたことと、起きなかったことの両方を覚えていてください。

- 問題が起きた前後に記録されたトレース・ファイル、コア・ダンプ、ログ・ファイルのコピー。

インストール関係の問題では、次の項目を確認してください。

- ORACLE_HOME ディレクトリの内容と、Staging 領域がある場合は、その内容。
- \$ORACLE_HOME/orainst ディレクトリ内のインストール・ログ・ファイル install.log および sql.、make.log、os.log. の内容。

詳細は、<http://www.oracle.com/support> を参照してください。

メッセージの使用法

この章では、メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。ここでは次の項目を扱います。

- メッセージ関連のマニュアル
- メッセージの精度
- メッセージの形式
- メッセージにおける埋込み変数の認識
- メッセージ・スタック
- オラクル社カスタマー・サポートへの連絡
- Oracle 例外メッセージ
- トレース・ファイル
- 警告ファイル

メッセージ関連のマニュアル

Oracle Server

これらのメッセージは、Oracle プログラムの実行時に Oracle Server によって生成されます。このマニュアルには、Oracle 製品および Tools に共通するメッセージを記載します。

製品固有

これらのメッセージは各製品ごとに異なり、マニュアルの文章はその製品用のものです。たとえば、Macintosh 上で SQL*Net を使うには、SQL*Net 文書、『Macintosh 用 SQL*Net マニュアル』に書かれたメッセージを参照する必要があります。

オペレーティング・システム固有

これらのメッセージは各オペレーティング・システムに固有のものです。各オペレーティング・システムには、一定の範囲のメッセージ・コード番号が割り当てられています。たとえば、ORA-7500 ~ ORA-7999 の範囲のメッセージは DEC VAX/VMS メッセージ用であり、これらのメッセージは該当するオペレーティング・システム固有のマニュアルに記載されています。

メッセージの接頭辞を見れば、そのメッセージの情報がどこに記載されているか分ります。たとえば、このマニュアル中のメッセージには "ORA" の接頭辞が付いているものがあります。最初にチェックする使っている Oracle Server 用のマニュアルで、接頭辞がないメッセージがある場合、そのマニュアルをチェックします。

メッセージの精度

このマニュアルのメッセージで第一に重要なのは、その精度です。時折、バージョン・アップのときにメッセージに変更があり、Oracle ソフトウェアと一致しない場合があります。万一このマニュアルと異なるメッセージが出力された場合は、次のリリースのソフトウェアに改訂版のメッセージ・テキストが発行されますので、お待ちください。矛盾がみられる場合には、マニュアル巻末の「マニュアル・コメント用紙」を使用して問い合せてください。

メッセージの形式

表示されるすべてのメッセージには、どのプログラムから出力されたかを示す接頭辞が付いています。たとえば、接頭辞 "ORA" は、Oracle 製品によって生成されたメッセージに表示します。このマニュアルに記載されているメッセージはこの接頭辞ごとに並んでいます。次の表に、メッセージの接頭辞とメッセージが記載されている章を示します。

なお、メッセージはすべてメッセージ・コード番号に従って示されています。メッセージを検索するときは、このメッセージ・コード番号を使用してください。

メッセージにおける埋込み変数の認識

メッセージの発見と訂正を容易にするため、Oracle ではある種のメッセージにオブジェクト名、数、文字列が埋め込まれています。これらの埋め込まれた変数は *name*, *num*, *str* などで表されます。たとえば、次のようなメッセージがあるとします。

```
ORA-00020: maximum number of processes (num) exceeded
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00020: maximum number of processes (50) exceeded
```

メッセージ・スタック

「メッセージ・スタック」が表示されることがよくあります。メッセージ・スタックは、Oracle の各レベルから出力される一連の関連メッセージです。

次のメッセージ・スタックは一般的な例です。

```
ORA-06502: PL/SQL: numeric or value error
ORA-06512: at "SCOTT.VALUE_ERR", line 1
ORA-06512: at line 1
```

次のメッセージ・スタックは VAX/VMS の例です。

```
ORA-01034: Oracle not available
ORA-07625: smsget: $MGBLSC failure
%SYSTEM-W-NOSUCHSEC, no such (global) section
```

この例の場合、スタックの一番下のメッセージは VMS オペレーティング・システムから出力されたものです。システム内の各レベルで検出されるメッセージは、その原因をたどるときに役立ちます。たとえば、上記の場合、Oracle がまだ起動されていないためにシステム・グローバル領域 (SGA) が存在せず、Oracle Server を使用できない可能性もあります。オラクル社カスタマー・サポートに連絡する場合、必ずメッセージのスタック全体を報告してください。

オラクル社カスタマー・サポートへの連絡

ある種のメッセージが発生した場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡することをお勧めします。カスタマー・サポートに連絡するときは、次の情報を用意してください。

- Oracle が稼働しているオペレーティング・システム、そのリリース番号とハードウェア。
- Oracle Server の詳細なリリース番号。たとえば、8.0.2 または 7.1.3。
- エラー発生時に実行していたすべての Oracle プログラム（バージョン番号も含む）。たとえば、SQL*Net V2.0 または SQL*Forms V3.0。
- メッセージ・コードまたはメッセージがいくつか表示されている場合、出力順の正確なコード番号とメッセージ本文。
- 問題の重大度：次の順位に従います。

1 = プログラムを実行できない。操作に重大な影響がある。

2 = プログラムが実行できる。操作は非常に制限される。

3 = 限定された機能でプログラムを実行可能。操作全体ではそれほど重大ではない。

4 = 問題はユーザーが回避できる。操作に対する影響はきわめて小さい。

さらに、次の情報を提供してください。

- ユーザーの氏名
- 会社名
- 会社の Oracle サポート ID 番号
- 電話番号

Oracle 例外メッセージ

Oracle の広範な自動検査機能は、内部エラーの検出に役立ちます。あいまいなメッセージでユーザーが困惑しないように、Oracle 内部例外として次のメッセージが一括して出力されます。

```
ORA-00600: internal error code, arguments: [num], [], [],[],[],[]
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00600: internal error code, arguments: [1042], [3],[upilam], [],  
[],[]
```

メッセージ文の後には、エラーの発生地点および属性を示す引数が最高 6 個まで表示されます。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。他の引数は各種の数値、名前、文字列です。空のカッコは無視してかまいません。

ユーザーにメッセージが返されるだけでなく、このメッセージの原因に関する情報と一緒に内部エラーが警告ファイルに書込まれます。警告ファイルには、内部エラーによって生成されたトレース・ファイルの保存位置も書き込まれます。トレース・ファイルと警告ファイルについては、次の節を参照してください。

この ORA-00600 メッセージが出力された場合、ソフトウェアのバグとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

トレース・ファイル

Oracle インスタンスを起動するとき、ユーザー・プロセスまたはバックグラウンド・プロセスで予期しないイベントが発生するときには、必ずトレース・ファイルが 1 つ作成されます。トレース・ファイル名には、インスタンス名、プロセス名、Oracle プロセス番号が含まれています。ファイル拡張子つまりファイル・タイプは、通常 TRC となります。それ以外の場合についてはオペレーティング・システム固有のマニュアルに記述されています。このトレース・ファイルにはシステム・グローバル領域、プロセス・グローバル領域、スーパーバイザ・スタック、レジスタのダンプが入っています。

2 つの初期化パラメータがトレース・ファイルの保存位置を指定します。

BACKGROUND_DUMP_DES

Oracle バックグラウンド・プロセス PMON および DBWR、LGWR、SMON によって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。

USER_DUMP_DEST

SQL*DBA、SQL*Plus、Pro*C などのユーザー・プロセスによって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。

警告ファイルには、内部エラーが発生したときに生成されるトレース・ファイルの保存位置が書き込まれます。警告ファイルについては、次の節を参照してください。

問題の診断に使用する前に、トレース・ファイルをフォーマットする必要があります。トレース・ファイルをフォーマットするためには、たいていのシステムで利用可能であり、各オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルに記述されている DUMPFMT ユーティリティを使用してください。オラクル社カスタマー・サポートは、問題を解決するためにフォーマット済みのトレース・ファイルを要求することがあります。

トレース・ファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

警告ファイル

警告ファイルは、内部エラーやバックアップのような管理作業に関する情報を記録したログ・ファイルです。内部エラーが発生した場合、メッセージは端末の画面に表示されるだけでなく、警告ファイルにも書き込まれます。Oracle は内部エラーに関する他の情報、たとえば、エラーなどによって生成されたトレース・ファイルの名前および位置などを、警告ファイルに書き込みます。

警告ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります。警告ファイルの位置は、バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルの位置と同じです。この位置は、初期化パラメータ BACKGROUND_DUMP_DEST で指定されます。詳細は、各 Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

オペレータのコンソールを使用している場合、Oracle からのメッセージがコンソールに表示されることがあります。重要なメッセージは、オペレータのコンソールだけでなく警告ファイルにも書き込まれます。Oracle 以外のメッセージもコンソールに表示される場合があるため、Oracle の管理作業やエラーをトレースするには、コンソール・ログよりも警告ファイルの方が適しています。

警告ファイルには、バックアップやオンライン REDO ログ・ファイルのアーカイブのような管理作業の情報も記録されます。警告ファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

サーバー・メッセージ : ORA-02351 ~ ORA-29799

ダイレクト・パス・モードの SQL*Loader メッセージ : 02351 ~ 02375

この節では、ダイレクト・パス・モードを使用してデータをデータベースにロードするときに生成されるメッセージを記載します。パラレル・ダイレクト・ローダー・メッセージについては 15 ページの「パラレル・ダイレクト・ローダー・メッセージ : 02476 ~ 02479」の ORA-02476 ~ 02479 も参照してください。

ORA-02351: レコード *:num* は拒否されました (表 *:name*, 列 *:name* でエラー発生)。

原因: 表示されたレコードが挿入時エラーの原因となりました。

解決方法: エラーを判別して、レコードを訂正してください。

ORA-02352: ダイレクト・パス接続は同種でなければなりません。

原因: ユーザー側とカーネル側の接続の種類が異なっています。

解決方法: 同種のハードウェアと OS との間に接続にしてください。

ORA-02353: マルチバイト・キャラクタ・エラー

原因: POSITION によって指定されたテキスト、または改行で終了したテキストが無効です。

解決方法: 制御ファイルまたはデータ・ファイルを編集して、列の配置を修正してください。

ORA-02354: フィールド *:name* に対する変換初期化エラーが発生しました。

原因: フィールドに対する変換の初期化においてエラーが発生しました。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02355: CONSTANT フィールド *:str* で変換エラーが発生しました。

原因: CONSTANT フィールドが原因でエラーが発生しました。すべての行は拒否されました。

解決方法: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。

ORA-02356: データベース領域が不足しているためロードが継続できません。

原因: データベースでスペースが不足したためにロードが打ち切られました。

解決方法: 指定した表に対してスペースを追加してください。

ORA-02357: バック 10 進変換エラーが発生しました。

原因: 列をバック 10 進から文字へ変換できませんでした。

解決方法: 列を調べてバック 10 進形式に合わせてください。

ORA-02358: ゾーン 10 進変換エラーが発生しました。

原因: 列をバック 10 進から文字へ変換できませんでした。

解決方法: 列を調べてバック 10 進形式に合わせてください。

ORA-02359: データ・ファイルのフィールドが最大長を超えました。

原因: 指定した列に対してフィールドが長すぎます。

解決方法: フィールド長を短くして列の長さ以内にしてください。

ORA-02360: 論理レコードの終了まで列が見つかりません (TRAILING NULLCOLS を使用)。

原因: 論理レコードの終了に達した後に列が開始しました。

解決方法: TRAILING NULLCOLS オプションを使用するか、または列にデータを入力してください。

ORA-02361: 最初の囲み文字がありません。

原因: フィールドを囲む最初の文字が見つかりません。

解決方法: フィールドを始める前に囲み文字を入力してください。

ORA-02362: 論理レコードが終了しましたが、2 番目の囲み文字がありません。

原因: フィールドを囲む 2 番目の文字が見つかりません。

解決方法: フィールドを終えた後にこの文字を入力してください。

ORA-02363: TERMINATED または ENCLOSED フィールドの後に終了子がありません。

原因: TERMINATED フィールドと ENCLOSED フィールドの後に終了子が見つかりません。

解決方法: フィールドを終えた後に終了子を入力してください。

ORA-02364: WHEN 句でエラーが発生したためレコード:num は廃棄されました。

原因: 表の WHEN 句でエラーが発生したために、レコードはロードされませんでした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02365: 索引 :*num* はダイレクト・ロードによりロードされませんでした。

原因: 索引はロードされませんでした。エラーの原因はエラー・メッセージの後に示されます。

解決方法: エラーの原因を訂正し、それから再ロードしてください。

ORA-02366: 表 :*name* に対する次の索引は処理されました。

原因: 指定した表に対してリストされた索引はロードされました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02367: 索引 :*name* はロードされました。

原因: メッセージに示された索引はロードされました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02368: レコード *num*: 廃棄されました。すべての列が NULL です。

原因: 表の中の列はすべて NULL であるためにレコードはロードされませんでした。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-02369: 警告: 可変長フィールドは切り捨てられました。

原因: 可変長フィールドは論理レコードの終了で切り捨てられました。

解決方法: このメッセージは単なる警告ですが、可変長フィールドは各行のデータに埋め込まれた長さを持っていますから、自分のデータを检查してください。

ORA-02370: レコード :*num*(表 :*name*、列 :*num*) で警告エラーが発生しました。

原因: 示されたレコードが原因で警告が出されました。

解決方法: 必要であれば、警告から判断してレコードを修正してください。

ORA-02371: ダイレクト・パスではバージョン *num* 以上の SQL*Loader が必要です。

原因: 使用している SQL*Loader のバージョンが Oracle のバージョンと互換性がありません。

解決方法: SQL*Loader のバージョンを少なくとも示されたバージョンまでアップグレードするか、または規定パスを使用してください。

ORA-02372: 相対開始位置が絶対フィールド終了位置より後ろにあります。

原因: POSITION(*+*n*:*y*) として指定されたフィールドの相対開始位置が、絶対位置 *y* の後に発生しています。

解決方法: *n* と *y* の値が正しいことと文が正しく入力されていることを確認してください。また、すべての開始セパレータが終了セパレータと一致することも確認してください。

ORA-02373: 表 *:name* に対して挿入文を解析中にエラーが発生しました。

原因: 解析エラーが発生しました。

解決方法: このエラー・メッセージに続くメッセージを確認してください。

ORA-02374: バッファ・キュー読み用のスロットがありません。

原因: 読み用の空バッファがありません。

解決方法: READBUFFERS キーワードを使用して、読みバッファを増やしてください。

ORA-02375: レコード *num*: 拒否。- 表名にエラーがあります。

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

Oracle リソース・メッセージ : 02376 ~ 02399

この節では、Oracle Server 内でリソースが変更されるときに生成されるメッセージのリストを記載します。

ORA-02376: リソースが無効または重複しています。

原因: 発行した CREATE PROFILE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、未定義のリソースを指定したか、または同じリソースを 2 度指定しようとした。

解決方法: リソースを定義してから CREATE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドを発行してください。または、文を調べて各リソースが 1 度だけ指定されていることを確認してください。

ORA-02377: リソース制限が無効です。

原因: 無効なリソース制限 (0) を指定しました。

解決方法: リソース制限には 0 より大きい値を指定しなければなりません。

ORA-02378: リソース名 *name* が重複しています。

原因: CREATE PROFILE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、同じリソースを 2 度指定しました。

解決方法: 各リソースは 1 度だけ指定可能であることに注意して、文を再実行してください。

ORA-02379: プロファイル *:name* はすでに存在します。

原因: すでに存在しているプロファイルを作成しようとした。

解決方法: 他のプロファイルに使用されていない名前で作成してください。

ORA-02380: プロファイル *name* が存在しません。

原因: 存在しないプロファイルにユーザーを割り当てようとした。

解決方法: 既存のプロファイルにユーザーを割り当ててください。

ORA-02381: PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

原因: PUBLIC_DEFAULT プロファイルを削除しようとした。

解決方法: PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

ORA-02382: プロファイル *name* はユーザーに割当てられています。CASCADE なしで削除できません。

原因: DROP PROFILE 文の CASCADE オプションを使用しないで、ユーザーに割り当てられているプロファイルを削除しようとした。ユーザーに割り当てられているプロファイルは、CASCADE オプションを指定しない限り削除できません。プロファイルを削除する前に、ユーザーは CASCADE によって PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当てられます。

解決方法: DROP PROFILE 文の CASCADE オプションを発行して、再度すべてのユーザーを PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当ててください。

ORA-02383: コスト係数が無効です。

原因: ALTER RESOURCE COST 文で、このリソースに対して負の値または UNLIMITED コストが指定されました。

解決方法: ALTER RESOURCE COST 文のリソースには、正の整数値だけを指定できません。指定した各リソースに対して正の整数値を指定して文を再実行してください。

ORA-02390: COMPOSITE_LIMIT を超えています。ログオフします。

原因: 自分の属するプロファイルの COMPOSITE_LIMIT を超えました。つまり、接続時間、およびセッションあたりの論理的読取り件数、セッションあたりの CPU 使用時間、セッションで使ったプライベート SGA スペースのウェイト合計が、プロファイルの COMPOSITE_TIME 句に設定されている制限値を超えました。

解決方法: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの COMPOSITE_LIMIT を大きくしてもらるか、どのリソースが最も使用されているかを判断してそのリソースの制限を大きくしてもらってください。

ORA-02391: 同時実行の SESSION_PER_USER 制限を超えました。

原因: 自分のプロファイルの SESSION_PER_USER によって許可されている同時実行セッションの最大数を超えました。

解決方法: 1 つ以上の同時実行セッションを終了するか、データベース管理者に依頼してプロファイルの SESSIONS_PER_USER 制限を大きくしてもらってください。

SESSIONS_PER_USER およびデータベース管理者が指定する同時セッションの調整のタスクの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE PROFILE の SESSION_PER_USER」を参照してください。

ORA-02392: CPU 使用に対するセッション制限を超えたためログオフします。

原因: 自分のプロファイルの CPU_PER_SESSION によって許可されている最大 CPU 使用時間を超えました。

解決方法: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの CPU_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02393: CPU 使用時間に対するコール制限を超えました。

原因: ユーザー・プロファイルの CPU_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 CPU 時間を超えました。

解決方法: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの CPU_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02394: I/O 使用に対するセッション制限を超えたためログオフします。

原因: 自分のプロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION によって許可されている自分のセッションの最大 I/O を超えました。

解決方法: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02395: I/O 使用に対するコール制限を超えました。

原因: ユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 I/O を超えました。

解決方法: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02396: 最大アイドル時間を超えました。再接続してください。

原因: アイドル状態を持続できる最大時間を超えました。

解決方法: データベースに再接続しなければなりません。

ORA-02397: PRIVATE_SGA 制限を超えたためログオフします。

原因: このエラーはマルチスレッド・サーバーを使用している場合にだけ発生します。

解決方法: データベース管理者に依頼して PRIVATE_SGA 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02398: プロシージャの領域使用制限を超えました。

原因: ストアド・プロシージャが SYSTEM 表領域内のスペースを限度を超えて使用しました。

解決方法: 使用するストアド・プロシージャを少なくするか、システム表領域に追加ファイルを加えてください。

ORA-02399: 最大接続時間を超えたためログオフします。

原因: データベースに接続していることができる最大時間を超えました。

解決方法: データベースに再接続しなければなりません。

EXPLAIN PLAN コマンド・メッセージ : 02401 ~ 02419

この節には、SQL EXPLAIN PLAN コマンドの使用時に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-02401: 別のユーザーに所有されているビューに EXPLAIN コマンドは実行できません。

原因: SQL 文で指定されたビューは他のユーザーのもです。EXPLAIN できません。

解決方法: 現在のユーザーにおいて、同じ定義を有するビューを作成してください。

ORA-02402: PLAN_TABLE が見つかりません。

原因: SQL 文の記述のために EXPLAIN が使用する PLAN_TABLE が、現在のスキーマに存在しません。

解決方法: 現在のスキーマにおいて PLAN_TABLE を作成してください。または、PLAN の表に EXPLAIN の結果を異なった名前で格納するために、INTO 句を使用してください。

ORA-02403: PLAN_TABLE 表の形式が無効です。

原因: PLAN の表に、適切な列が含まれていません。

解決方法: 表の定義をやり直し、適切な列を含むようにしてください。

ORA-02404: 指定した PLAN_TABLE 表が見つかりません。

原因: 指定された PLAN の表が見あたりません。

解決方法: 指定された PLAN の表を作成するか、既存のものを使用してください。

スキーマ・メッセージ : 02420 ~ 02429

この節には、スキーマまたはスキーマ・オブジェクトを変更するコマンドの使用時に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-02420: スキーマの AUTHORIZATION 句がありません。

原因: CREATE SCHEMA 文にスキーマの AUTHORIZATION 句を指定しませんでした。

解決方法: 文の構文を調べて、有効なスキーマの AUTHORIZATION 句を指定し、文を再実行してください。

ORA-02421: スキーマの認可識別子がないか、または無効です。

原因: 次のいずれかです。

- スキーマの認可識別子が認識されません。
- ユーザーとして接続されていないユーザーのスキーマ認可識別子を使用しようとしました。

解決方法: 原因に応じて次の処置を行ってください。

- 識別子が認識されない場合は、既存の識別子を使用してください。
- 異なるユーザー名で接続されている場合は、いったんその接続を切り離して、正しいユーザー名に接続してください。

ORA-02422: スキーマ要素がないか、または無効です。

原因: CREATE SCHEMA 文に、CREATE TABLE または CREATE VIEW、GRANT 以外の文が指定されています。

解決方法: CREATE SCHEMA 文の有効な要素については、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02423: スキーマ名がスキーマの認可識別子と一致しません。

原因: 表定義で表名を修飾しているスキーマ名と CREATE SCHEMA 文の AUTHORIZATION 句に指定されたスキーマ名が一致しません。

解決方法: スキーマ名が CREATE SCHEMA 文に指定された名前と一致することを確認してください。

ORA-02424: 循環したビュー参照または不明な参照表が存在します。

原因: CREATE SCHEMA 文において、その文の中の他のビューに依存するビューが含まれているか、または存在しない表に対する参照が含まれています。

解決方法: 依存するビューを CREATE SCHEMA 文で個別に作成してください。参照される表がすべて CREATE SCHEMA 文で定義されているか、またはこの文に関係なく存在していることを確認してください。

ORA-02425: 表の作成に失敗しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の CREATE TABLE 文でエラーが発生しました。

解決方法: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。そのエラー・メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02426: 権限の付与でエラーが発生しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の GRANT 文でエラーが発生しました。

解決方法: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。そのエラー・メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02427: ビューの作成に失敗しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の CREATE VIEW 文でエラーが発生しました。

解決方法: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。そのエラー・メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02428: 外部キー参照を追加できません。

原因: 宣言エラーのため、外部キー参照を追加できませんでした。参照される表が存在しないか、または表に一意キーが含まれていません。

解決方法: 参照表が存在し、一意キーが含まれていることを確認してください。

ORA-02429: 一意キーまたは主キーの保持に使用される索引は削除できません。

原因: 一意キーまたは主キーの保持機構として使用されている索引を削除しようとした。

解決方法: 索引を削除するかわりに整合性制約を削除してください。

制約の使用可能メッセージおよび使用禁止メッセージ : 02430 ~ 02449

この節には、表に対する制約に影響を与えるコマンドの使用時に生成されるメッセージが記載されています。

ORA-02430: 制約 :name は存在しないため使用可能にできません。

原因: この表には指定された制約がありません。

解決方法: 制約を使用可能にする前にその制約が定義されていることを確認してください。

ORA-02431: 制約 : name は存在しないため使用不可にできません。

原因: この表には指定された制約がありません。

解決方法: 制約を使用禁止にする前に定義されていることを確認してください。

ORA-02432: 主キーは表に定義されていないため使用可能にできません。

原因: 表に対して定義されていない主キーを使用可能にしようとした。

解決方法: その表に主キーの定義を追加してください。

ORA-02433: 主キーは表に定義されていないため使用不可にできません。

原因: 表に定義されていない主キーを使用禁止にしようとした。

解決方法: 主キーを使用禁止にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02434: 一意キー :str は表に定義されていないため使用可能にできません。

原因: 表に定義されていない一意キーを使用可能にしようとした。

解決方法: 一意キーを使用可能にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02435: 一意キー :str は表に定義されていないため使用不可にできません。

原因: 表に定義されていない一意キーを使用禁止にしようとした。

解決方法: 一意キーを使用禁止にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02436: 検査制約で指定した日付変数、またはシステム変数が無効です。

原因: CREATE TABLE 文や ALTER TABLE 文での指定内容が不完全な検査制約で、データ制約やシステム変数 (USER など) が使用されました。たとえば、世紀を指定しないで日付を指定しました。

解決方法: 日付定数またはシステム変数を完全に指定してください。

ORA-02437: 制約 *name* を使用可能にできません。主キーが違反しています。

原因: 重複値または NULL 値を含む列に対して主キー制約を使用可能にしようとした。

解決方法: 重複値または NULL 値を削除してから主キー制約を使用可能にしてください。

列からの整合性制約の削除の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「整合性制約の列からの削除」を参照してください。

ORA-02438: 列の検査制約では別の列を参照できません。

原因: 別の列を参照する、列の検査制約を定義しようとした。

解決方法: これは列の検査制約では許可されません。この制約は表の検査制約として作成してください。

ORA-02439: 主キー制約または一意キー制約に対して一意でない索引が存在しています。

原因: 既存の一意でない索引を持つ列に対して、主キー制約または一意性制約を使用可能にしようとした。

解決方法: 列の一意でない索引を削除するか、またはこの制約を使用可能にしないでください。

ORA-02440: 参照制約を指定した AS SELECT 形式で表を作成することはできません。

原因: CREATE TABLE... AS SELECT... の形式を使用して表を作成する場合は、その表に対して整合性制約は作成できません。

解決方法: 最初に表を作成してから、その表を変更して必要な整合性制約を追加してください。

ORA-02441: 存在しない主キーを削除することはできません。

原因: 表に対する主キー制約を削除しようとしたが、主キー制約は存在しません。

解決方法: 表の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外は、何もする必要はありません。

ORA-02442: 存在しない一意キーは削除できません。

原因: 一意キー制約が存在しない列に対して、一意キー制約を削除しようとした。

解決方法: 列の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外は、何もする必要はありません。

ORA-02443: 制約が削除できません。制約は存在しません。

原因: 存在しない制約を削除しようとしてしました。

解決方法: 制約と表の名前が正しく入力されていることを確認して、プロシージャを再実行してください。

ORA-02444: 参照制約で参照されるオブジェクトを解決できません。

原因: スキーマ・オブジェクトへの参照を持った外部キーを定義しようとしてしましたが、そのスキーマ・オブジェクトは実表を参照できません。

解決方法: 実表を参照できるスキーマ・オブジェクトとだけ参照制約を定義してください。

ORA-02445: 例外表が見つかりません。

原因: 明示または暗黙宣言された例外表が見つかりませんでした。

解決方法: 正しい例外表名が使用されているなら、表を作成して使用可能なコマンドを再試行してください。

ORA-02446: CREATE TABLE ... AS SELECT が失敗しました。制約を確認してください。

原因: いくつかの行が 1 つまたは複数の CHECK 制約に違反しているときに、CREATE TABLE... AS SELECT 文を使用しようとしてしました。

解決方法: 制約を侵している行を選択しないでください。

ORA-02447: 延期扱いではない制約は延期できません。

原因: 延期不可能な制約を延期しようとしてしました。

解決方法: その制約を削除して、延期可能な制約を新規に作成してください。

ORA-02448: 制約が存在しません。

原因: 指定された制約がありません。

解決方法: 存在しない制約を使用しないでください。

ORA-02449: 表の一意キーまたは主キーが外部キーに参照されました。

原因: 別の表で使用可能な外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除しようとしてしました。

解決方法: 上記の表操作を実行する前に、他の表の外部キー制約を削除してください。次のコマンドを発行すると、どの制約が表を参照しているかを確認できます。SELECT * FROM USER_CONSTRAINTS WHERE TABLE_NAME = "tabnam";

ハッシュ・クラスタのコマンド・メッセージ: 02450 ~ 02475

この節には、ハッシュ・クラスタに影響を与えるコマンドの使用時に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-02450: ハッシュ・オプションが無効です。キーワード IS がありません。

原因: CREATE CLUSTER コマンドに IS キーワードが指定されていません。

解決方法: コマンドの構文を調べて、文を再実行してください。

ORA-02451: HASHKEYS の指定が重複しています。

原因: CREATE CLUSTER コマンドの HASHKEYS オプションが複数指定されています。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。HASHKEYS オプションを 1 度だけ指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02452: HASHKEYS オプション値が無効です。

原因: HASHKEYS オプションには整数値を指定しなければなりません。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。HASHKEYS オプションに整数値を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02453: HASH IS の指定が重複しています。

原因: HASH IS オプションが複数指定されています。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。HASH IS オプションを 1 度だけ指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02454: ブロックあたりのハッシュ・キー数 :num が最大値 :num を超えました。

原因: ハッシュ・クラスタに対して指定された SIZE オプションが小さすぎます。

解決方法: SIZE オプションの値を大きくして、文を再実行してください。

ORA-02455: クラスタ・キー列の数は 1 でなければなりません。

原因: キー列の数を 1 つにしないで、HASH IS オプションを使用してクラスタを作成しようとした。HASH IS オプションを使用するときにはキー列を 1 だけ指定します。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。キー列を 1 つだけ指定するか、または HASH IS オプションを指定しないで、コマンドを再試行してください。

ORA-02456: HASH IS 列指定は NUMBER(*,0) でなければなりません。

原因: コマンドの列指定では整数を指定しなければなりません。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。列指定に対して整数を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02457: HASH IS オプションには有効な列を指定しなければなりません。

原因: 有効な列名を指定しないで、HASH IS オプションを使用してクラスタを作成しようとした。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。文に有効な列名を指定してから再試行してください。

ORA-02458: HASH CLUSTER には HASHKEYS を指定しなければなりません。

原因: 文に HASHKEYS オプションを指定しないで、ハッシュ・クラスタを作成しようとした。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。HASHKEYS オプションを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02459: ハッシュ・キーの値は正の整数でなければなりません。

原因: HASHKEYS オプションに指定した値が正の整数ではありませんでした。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。HASHKEYS オプションに正の整数だけを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-02460: ハッシュ・クラスタに対する索引操作は無効です。

原因: ハッシュ・クラスタに対してクラスタ索引を作成しようとした。

解決方法: ハッシュ・クラスタに対してクラスタ索引は作成できません。この索引を作成しないでください。

ORA-02461: INDEX オプションの使用は無効です。

原因: ハッシュ・クラスタに対して INDEX オプションは指定できません。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。ハッシュ・クラスタに INDEX オプションを指定しないでください。

ORA-02462: INDEX オプションの指定が重複しています。

原因: INDEX オプションが複数指定されています。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。問題を訂正してからこの文を再試行してください。

ORA-02463: HASH IS オプションの指定が重複しています。

原因: HASH IS オプションが複数指定されています。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。問題を訂正してからこの文を再試行してください。

ORA-02464: HASH IS オプションの指定が重複しています。

原因: HASH IS オプションと INDEX オプションの両方が指定されました。クラスタはハッシュまたは索引のいずれかであり、その両方にすることはできません。

解決方法: 作成するクラスタの種類を決定してください。コマンドの構文を調べて、文を再試行してください。

ORA-02465: HASH IS オプションの使用は無効です。

原因: HASH IS オプションはクラスタに対してだけ有効です。

解決方法: コマンドの構文を調べてください。クラスタに対してだけ HASH IS オプションを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-02466: HASH CLUSTERS に対して SIZE オプションを変更することはできません。

原因: クラスタ作成後に、ハッシュ・クラスタの SIZE オプションを変更しようとした。

解決方法: SIZE オプションはハッシュ・クラスタの作成時にだけ指定できます。クラスタの SIZE を変更しないでください。

ORA-02467: ハッシュ式で参照されている列がクラスタ内にありません。

原因: ハッシュ式で参照される列がクラスタ定義に存在しません。

解決方法: クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02468: 式での定数またはシステム変数の指定が誤っています。

原因: 定数またはシステム変数がハッシュ式に指定されました。

解決方法: クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02469: ハッシュ式は ORACLE 番号を戻しません。

原因: ハッシュ式の評価結果が Oracle 番号ではありません。

解決方法: クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02470: TO_DATE, USERENV, SYSDATE のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因: TO_DATE および USERENV、SYSDATE はハッシュ式内では使用できません。

解決方法: クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02471: SYSDATE, UID, USER, ROWNUM, OR LEVEL のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因: SYSDATE、UID、USER、ROWNUM、OR LEVEL は、ハッシュ式では使用できません。

解決方法: クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02472: PL/SQL 関数はハッシュ式では使用できません。

原因: PL/SQL 関数はハッシュ式では使用できません。

解決方法: クラスタを再作成して、PL/SQL 関数を除去してください。

ORA-02473: クラスタのハッシュ式を評価する際にエラーが発生しました。

原因: クラスタのハッシュ式の評価中にエラーが発生しました。

解決方法: 問合せを訂正して、再試行してください。

ORA-02474: 使用された固定ハッシュ領域エクステント (num) が最大値 (num) を超えています。

原因: 固定ハッシュ領域の作成に必要なエクステントの数が許容最大値を超えました。

解決方法: STORAGE 句内のエクステント割当てサイズを増やし、必要なエクステントの数を減らしてください。ハッシュングおよび STORAGE 句の詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「ハッシュ・クラスタ」および「ハッシュング」、または『Oracle8 Server

SQL リファレンス』の索引項目「ALTER CLUSTER の STORAGE 句」を参照してください。

ORA-02475: クラスタ・チェイン・ブロック・カウントが最大値を超えました。

原因: クラスタ・チェインのブロック数が許可されている最大値を超えています。

解決方法: CREATIVE CLUSTER 文の SIZE パラメータを増分させるか、またはクラスタ・キーの適応性を考え直してください。

パラレル・ダイレクト・ローダー・メッセージ : 02476 ~ 02479

この節では、パラレル・ダイレクト・パス・モードを使用してデータをデータベースにロードするときに生成されるメッセージを記載します。ダイレクト・パス・ローダー・メッセージについては 1 ページの「ダイレクト・パス・モードの SQL*Loader メッセージ : 02351 ~ 02375」の ORA-02351 から ORA-02375 の範囲を参照してください。

ORA-02476: 表にパラレル・ダイレクト・ロードをしているため索引を作成できません。

原因: 指定された表はパラレル・ダイレクト・ロード中です。

解決方法: ロードが完了してから文を再試行してください。

ORA-02477: オブジェクト "name" のパラレル・ダイレクト・ロードが実行できません。

原因: 索引を表に作成中のためパラレル・ダイレクト・ロードができません。

解決方法: 索引の作成が完了してからロードを再試行してください。

ORA-02478: 基本セグメントへマージすると、MAXEXTENTS 制限を超えてしまいます。

原因: MAXEXTENTS が一時セグメントおよび基本セグメントにおける合計より大きいため、一時セグメントを基本セグメントにマージすることに失敗しました。

解決方法: 基本セグメントの MAXEXTENTS に対してより大きな値を使用するか、または一時セグメントのエクステントをもっと大きくしてください。

ORA-02479: ファイル名をパラレル・ロード用に変換中にエラーが発生しました。

原因: データをロードするデータベース・ファイルに指定された名前が無効でした。

解決方法: 有効なデータベース・ファイル名を指定してください。

トレース機能メッセージ : 02480 ~ 02489

この節では、トレース機能で生成されるメッセージを記載します。

ORA-02480: イベントに対して指定されているイベント・クラスが多すぎます。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

解決方法: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02481: イベントに対して id 範囲数が多すぎます。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

解決方法: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02482: イベント・クラスは指定しましたが、イベントは指定しませんでした。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

解決方法: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02483: イベントに対して指定した ID 値が無効です。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

解決方法: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02485: 下位 ID 値が上位 ID 値より大きくなっています。

原因: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに無効な名前が指定されています。

解決方法: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02486: ファイル *name* でエラーが発生しました。trace_dest init.ora パラメータを調べてください。

原因: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに無効な名前が指定されています。

解決方法: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02487: ファイル *:name* の書込みでエラーが発生しました。trace_dest init.ora パラメータを調べてください。

原因: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに無効な名前が指定されています。

解決方法: TRACE_DEST INIT.ORA パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02489: trace_block_size (*num*) は *num* で割り切れなければなりません。

原因: INIT.ORA パラメータの TRACE_BLOCK_SIZE の設定が正しくありません。

解決方法: INIT.ORA パラメータを変更して、再起動してください。

サイズ変更可能データ・ファイル・メッセージ : 02490 ~ 02499

この節では、サイズ変更可能データ・ファイルが戻すメッセージを記載しました。サイズ変更可能メッセージについては、43 ページの「サイズ変更可能データ・ファイル: 03296 ~ 03299」を参照してください。

ORA-02490: RESIZE 句に必須のファイル・サイズが指定されていません。

原因: RESIZE 句に値が指定されていません。

解決方法: 正しい構文を使用してください。

ORA-02491: AUTOEXTEND 句に必須キーワード ON または OFF が指定されていません。

原因: AUTOEXTEND 句にキーワード ON または OFF が指定されていません。

解決方法: 正しい構文を使用してください。

ORA-02492: NEXT 句に必須のファイル・ブロック増分サイズが指定されていません。

原因: NEXT 句に値が指定されていません。

解決方法: 正しい構文を使用してください。

ORA-02493: NEXT 句のファイル増分サイズが無効です。

原因: DATAFILE リストの NEXT 句に整数以外の値が使用されました。

解決方法: 正しい構文を使用してください。

ORA-02494: MAXSIZE 句の最大ファイル・サイズが無効か、または指定されていません。

原因: DATAFILE ファイル・リストの MAXSIZE 句に、UNLIMITED が指定 されていないか、または無効な整数値が指定されました。MAXSIZE に SIZE の値よりも小さい値は指定はできません。

解決方法: 正しい構文を使用してください。

ORA-02495: ファイル *name* のサイズ変更ができません。表領域 *name* は読み込み専用です。

原因: 読み込み専用表領域内のデータ・ファイルのサイズを変更しようとした。

解決方法: 表領域を読み書き用に変更して、サイズ変更操作を再試行してください。

CTOS メッセージ : 02500 ~ 02699

この範囲のエラー・メッセージに関する詳細は、使用しているオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

UNIX2 タスク・メッセージ : 02700 ~ 02874

ORA-02700: osnoraenv: ORACLE_SID の変換でエラーが発生しました。

原因: 2 タスク・ドライバが環境で ORACLE_SID 値の検索に失敗しました。

解決方法: 環境変数 ORACLE_SID が正しく設定およびエクスポートされていることを検証してください。

ORA-02701: osnoraenv: oracle イメージ名の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境変数 \$ORACLE_HOME が設定されていません。

解決方法: 環境変数 \$ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを検証してください。

ORA-02702: osnoraenv: orapop イメージ名の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境変数 \$ORACLE_HOME が設定されていません。

解決方法: 環境変数 \$ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを検証してください。

ORA-02703: osnpipe: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが orapop プロセスとの通信のためのパイプの作成に失敗しました。

解決方法: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯です。オペレーティング・システムのエラー・コードを調べ、システム管理者に連絡してください。

ORA-02704: osndopop: fork に失敗しました。

原因: 2 タスク・ドライバが orapop の fork に失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02705: osnpol: 通信チャネルのポーリングに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャネルのポーリングに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02706: osnshs: ホスト名が長すぎます。

原因: 2 タスク環境変数によって指定されたホスト文字列の長さが Oracle システム・インポーズ制限を超えています。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02707: osnaxc: コンテキスト領域を割当てられません。

原因: 起動された UNIX2 タスク・ドライバがコンテキスト領域にヒープ・スペースを割り当ててのに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02708: osnrntab: ORACLE_SID が不明なためホストへの接続に失敗しました。

原因: 起動された UNIX2 タスク・ドライバが提供された sid の oratab でのエントリの検索に失敗しました。

解決方法: oratab への読み込みアクセスおよび必要な sid があるかどうかを検証してください。必要であれば、必要な sid に対する oratab へのエントリを追加してください。

ORA-02709: osnpop: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

解決方法: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯です。オペレーティング・システムのエラー・コードを調べ、システム管理者に連絡してください。

ORA-02710: osnpop: fork に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスの fork に失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02711: osnpvalid: 検証チャンネルへの書き込みに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが orapop プロセスへの書き込みに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02712: osnpop: malloc が失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが十分なヒープ・スペースをそのコンテキスト領域バッファに割り当てるのに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02713: osnprd: メッセージの受信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャンネルからのメッセージの読み込みに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02714: osnpwr: メッセージの送信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャンネルへのメッセージの書き込みに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02715: osnpgetbrkmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02716: osnpgetdatmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02717: osnpfs: 書き込まれたバイト数が無効です。

原因: パイプ・ドライバが明らかに成功のメッセージを送信しましたが、送信されたバイト数とドライバに提供されたバイト数が合致しませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02718: osnprs: プロトコル・エラーをリセットしました。

原因: 2 タスク・ドライバが接続のリセットに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02719: osnfop: fork に失敗しました。

原因: 高速ドライバが Oracle シャドウ・プロセスの fork に失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02720: osnfop: shmat が失敗しました。

原因: 高速ドライバ起動時に、プロセスが共有メモリ・バッファの連結に失敗しました。無効な共有メモリ連結アドレスが提供されたか、システムがバッファに対応するためデータ領域を使い切りました。

解決方法: 高速ドライバの速度をおとして起動するか、デフォルトの連結アドレスを使用してください。

ORA-02721: osnsemit: セマフォ・セットが作成できません。

原因: 高速ドライバがセマフォ・セットの受信に失敗しました。セマフォまたはセマフォ識別子のシステム・インポーズ制限を超えています。

解決方法: オペレーティング・システムのエラー・コードを調べ、システム管理者に連絡してください。

ORA-02722: osnpui: orapop にブレイク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが orapop へのブレイク・メッセージが送信できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02723: osnpui: ブレイク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスへのブレイク・メッセージの送信に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02724: osnpbr: orapop にブレイク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが orapop へのブレイク・メッセージの送信に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02725: osnpbr: ブレイク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスへのブレイク・メッセージの送信に失敗しました。システム・コールの中断に失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02726: osnpop: oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: パイプ・ドライバが Oracle 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-02727: osnpop: orapop 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: パイプ・ドライバが orapop 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: orapop 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-02728: osnfop: oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: 高速ドライバが oracle 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-02729: osncon: osntab にドライバがありません。

原因: 指定されたドライバがサポートされていません。

解決方法: データベース管理者とどのドライバがサポートされているかを検証してください。

ORA-02730: osnrnf: ユーザー・ログオン・ディレクトリが見つかりません。

原因: 指定されたドライバがローカル .sqlnet ファイルの検索時にログオン・ディレクトリの検索に失敗しました。

解決方法: 環境変数 HOME の設定およびエクスポートを行い、ホーム・ディレクトリを識別してください。システム管理者と /etc/passwd ファイルで uid およびホーム・ディレクトリが正しいかどうかを検証してください。

ORA-02731: osnrnf: バッファの malloc が失敗しました。

原因: 指定されたドライバがバッファの malloc に十分なヒープ・スペースの検索に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02732: osnrnf: バッファの malloc が失敗しました。

原因: 指定されたデータベース・別名が \$HOME/.sqlnet または /etc/sqlnet のどちらにも識別されませんでした。

解決方法: 個人使用のホーム・ディレクトリで .sqlnet ファイルに別名を作成するか、システム管理者が作成したシステム全体使用の別名を入手してください。

ORA-02733: osnsnf: データベース文字列が長すぎます。

原因: データベース・別名のデータベース ID への変換時に、結果のデータベース ID 文字列が Oracle システム・インポーズ制限を超えました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02734: osnftt: 共有メモリー許可をリセットできません。

原因: 高速ドライバが共有メモリー許可のリセットに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02735: osnftt: 共有メモリー許可をリセットできません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリー・セグメントの作成に失敗しました。

解決方法: 共有メモリー識別子のシステム・インポーズ制限がシステムに達しているかどうかを検証してください。

ORA-02736: osnfpm: デフォルトの共有メモリー・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバがデフォルトの共有メモリー・アドレスの確立に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02737: osnpcl: orapop を終了させることができません。

原因: パイプ・ドライバが orapop の終了コマンドの送信に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02738: osnpwrtbrkmsg: 書き込みバイト数が無効です。

原因: パイプ・ドライバが明らかに不完全なブレイク・メッセージを送信しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02739: osncon: ホスト・別名が長すぎます。

原因: sqlnet ホストに使用された別名が 161 文字より長くなっています。

解決方法: より短い別名を使用してください。

ORA-02750: osnfsmmap: 共有メモリー・ファイル:\$ORACLE_HOME/dbs/ftt_.dbf をオープンできません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリー・ファイルの作成に失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの許可を検証してください。

ORA-02751: osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルのマッピングができません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリー・ファイルのマッピングに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02752: osnfsmmap: 共有メモリー・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバが予定の位置に共有メモリーを連結するのに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02753: osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルがクローズできません。

原因: 高速ドライバが共有メモリー・ファイルのクローズに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02754: osnfsmmap: 共有メモリー継承を変更できません。

原因: 高速ドライバが共有メモリーの継承属性の変更に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02755: osnfsmcrc: 共有メモリー・ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/ftt_.dbf が作成できません。

原因: 高速ドライバが共有メモリーにファイルを作成するのに失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの許可を検証してください。

ORA-02756: osnfsmnam: 名前が翻訳できませんでした。

原因: 高速ドライバが共有メモリーのファイル名、\$ORACLE_HOME/dbs/ftt_.dbf の翻訳エラーに出会いました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02757: osnfop: fork およびバインドに失敗しました。

原因: 高速ドライバが必要なクラスタおよびノード番号へのプロセスの fork に失敗しました。

解決方法: sercose[0] で必要なノード番号および sercose[1] のクラスタ ID を検証してください。これらが有効な場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02758: 内部配列の割当てに失敗しました。

原因: システムがメモリーを使い切ったため、パッケージが配列にメモリーを割り当てるのに失敗しました。

解決方法: その他のプロセスを中断するか、メモリーを増やしてマシンをリブートし、メモリーを再生してください。

ORA-02759: 使用可能なリクエスト記述子が十分ありません。

原因: パッケージのリクエスト記述子のすべてが他の要求の実行に使用中です。

解決方法: 十分に要求が終了するまで待機するか、パッケージをシャットダウンし、リクエスト記述子を増やして再度初期化してください。

ORA-02760: クライアントによるファイルのクローズは失敗しました。

原因: クライアントがサーバーの fork 後、ファイルのクローズに失敗しました。システムに問題があります。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

ORA-02761: 取消しされるファイル番号は負数です。

原因: sfiov 構造体に含まれるファイル番号が 0 より小さくなっています。これはプログラミング・エラーの可能性もあります。

解決方法: これがプログラミング・エラーでなかった場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02762: 取消しされるファイル番号が最大値を超えました。

原因: sfiov 構造体に含まれるファイル番号が最大値より大きくなっています。

解決方法: これがプログラミング・エラーでなかった場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02763: 要求を取り消すことができません。

原因: 取消し可能な要求が見つかりませんでした。

解決方法: このエラーは、すべての要求のファイル番号がすでに満杯になっている場合に発生します。

ORA-02764: パッケージ・モードが無効です。

原因: パッケージに可能なモードはパラレルまたはデブプレックスのみです。

解決方法: 正しい値のために sfa.h を調べてください。

ORA-02765: サーバーの最大数が無効です。

原因: 指定されたサーバーの数値が 0 以下になっています。

解決方法: 0 より大きい数値を使用してください。

ORA-02766: 要求記述子の最大数が無効です。

原因: 要求記述子の数値が 0 以下になっています。

解決方法: 0 より大きい数値を使用してください。

ORA-02767: 1 つのサーバーに割当てられる要求記述子が 1 未満です。

原因: パッケージが、使用されたサーバーの数値以上の要求記述子の数値を要求しています。

解決方法: より高い数値を使用してください。

ORA-02768: 最大ファイル数が無効です。

原因: パッケージに使用された最大ファイル数が 0 以下になっています。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02769: SIGTERM のハンドラ設定に失敗しました。

原因: パッケージが終了シグナルのためにサーバーによってハンドリングを設定するのに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02770: ブロック合計数は無効です。

原因: パッケージでの使用のために割当てられるブロック合計数が 0 より大きくなっています。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02771: 要求のタイムアウト値が無効です。

原因: 数値が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02772: 最大サーバー・アイドル時間が無効です。

原因: 指定された時間が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02773: 最大クライアント待機時間が無効です。

原因: 指定された時間が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02774: 要求リストのラッチ・タイムアウト値が無効です。

原因: 指定された時間が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02775: シグナルを実行した要求は無効です。

原因: シグナルの数値が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02776: シグナルを実行した要求に対する値は最大値を超えました。

原因: パッケージに "request done" シグナルとして使用するために送信された値がオペレーティング・システムによって許可された最大値を超えています。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

ORA-02777: ログ・ディレクトリで Stat が失敗しました。

原因: パッケージがログ・ファイルが常駐するディレクトリについての情報の取得に失敗しました。

解決方法: ディレクトリの許可を検証するか、別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02778: ログ・ディレクトリに付けられた名前が無効です。

原因: ログが保存されるディレクトリに付けられた名前がディレクトリに対応していません。

解決方法: 別の名前を使用してください。

ORA-02779: コア・ダンプ・ディレクトリで Stat が失敗しました。

原因: パッケージがサーバーが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリについての情報の取得に失敗しました。

解決方法: ディレクトリの許可を検証するか、別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02780: コア・ダンプ・ディレクトリに指定された名前が無効です。

原因: サーバー・プロセスが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリに付けられた名前がディレクトリに対応していません。

解決方法: 別の名前を使用してください。

ORA-02781: タイミングをとるべきところのフラグに指定した値が無効です。

原因: 指定された値が TRUE または FALSE ではありませんでした。

ORA-02782: 読み込み、書き込み機能が両方指定されていません。

原因: 機能の対称的な作動を確実にするには、読み込みと書き込み機能の両方にポインタが必要です。

解決方法: 両方の機能を指定するか、両方の機能を解除してください。パッケージはそれ自体の機能を提供します。

ORA-02783: ポスト、ウェイト機能が両方指定されていません。

原因: 機能の対称的な作動を確実にするには、ポストとウェイト機能の両方にポインタが必要です。

解決方法: 両方の機能を指定するか、両方の機能を解除してください。パッケージはそれ自体の機能を提供します。

ORA-02784: 指定された共有メモリー ID が無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために指定されたセグメントの ID が無効です。

解決方法: 別の ID を使用するか、パッケージ自体に指定させてください。

ORA-02785: 共有メモリー・バッファ・サイズが無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために共有メモリー・セグメントに与えられたサイズが 0 以下になっています。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02786: 共有領域サイズはセグメント・サイズより大きくなければなりません。

原因: 共有バッファ領域のために指定された共有セグメントのサイズが必須のバイト数より小さくなっています。

解決方法: 「追加情報」フィールドの最初のフィールドが必要なサイズです。2 番目のフィールドはセグメントのサイズです。より大きいサイズのセグメントを使用するか、パッケージ自体に割り当てさせてください。

ORA-02787: セグメント・リストにメモリーを割当てることができません。

原因: システムがメモリーを使い切ったため、パッケージが内部セグメント・リストにメモリーを割当てのに失敗しました。「追加情報」フィールドはパッケージが割り当てようとしたメモリーの量です。

ORA-02788: 非同期プロセス配列内でカーネル・プロセス・ポインタを見つけることができません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02789: 最大ファイル数に達しました。

原因: 非同期 I/O で使用可能な最大ファイル数に達しました。

解決方法: サーバーをシャットダウンし、より高い数値でパッケージを再度初期化してください。

ORA-02790: ファイル名が長すぎます。

原因: 非同期 I/O でオープンされているファイルの名前の長さが最大値より長くなっています。「追加情報」フィールドは最大長です。

解決方法: より短い名前を使用してください。

ORA-02791: このファイルは非同期 I/O で使用中するため、オープンできません。

原因: パッケージがファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: ファイル名を検証してください。

ORA-02792: 非同期 I/O で使用しているこのファイルに fstat() を実行できません。

原因: fstat(2) が非同期 I/O で使用しているファイルの呼出しに失敗しました。

解決方法: ファイル名を検証してください。

ORA-02793: 非同期 I/O のクローズに失敗しました。

原因: クライアントが非同期 I/O で使用しているファイルのクローズに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02794: クライアントは共有メモリーのキーを取得できませんでした。

原因: クライアントが共有メモリーと使用する共有メモリーを得るためのキーの取得に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02795: 要求リストは空です。

原因: クライアントが要求に従ったサーバーによってシグナルされましたが、"done" リストが空でした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02796: 要求が正常に終了していません。

原因: 要求が正しい状態にありません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02797: 使用可能な要求がありません。

原因: 使用可能な要求記述子がありません。

解決方法: 一部の要求が満たされるまで待機し、次に要求を再実行するかサーバーをシャットダウンし、より高い要求の数値でパッケージを初期化してください。

ORA-02798: 要求の数が無効です。

原因: sfard() または sfawrite() のどちらかに送信された操作の数値が 0 より小さくなっています。

解決方法: これはユーザーのプログラミング・エラーです。

ORA-02799: シグナル・ハンドラが使用できません。

原因: "done" シグナルに対するシグナル・ハンドラのアーミングに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02800: 要求のタイムアウトが発生しました。

原因: 非同期入力または出力に対する要求の一部が必須の時間量でサービスされませんでした。

解決方法: システム上のロードが高い場合には、タイムアウト制限が低すぎる可能性があります。sfainit() でリセットしてください。サーバー・プロセスが予期しないシグナルのために停止しかけた場合、これは内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02801: 操作のタイムアウトが発生しました。

原因: 一部の非同期操作がカーネル・モードで時間切れになりました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02802: パラレル・モードで使用可能なサーバーがありません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02803: 現在の時間の取得に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02804: ログ・ファイル名に対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: クライアントがログ・ファイル名に対するバッファの割当てに失敗しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

ORA-02805: SIGTPA のハンドラを設定できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02806: SIGALRM のハンドラを設定できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02807: I/O ベクトルのに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: クライアントがサーバーが使用する I/O ベクトルの配列に対するメモリー割当てに失敗しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

ORA-02808: ファイル・オープンに使用される配列のメモリー割当てに失敗しました。

原因: クライアントがサーバーが使用するフラグの配列に対するメモリー割当てに失敗しました。

解決方法: システム管理者に連絡してください。

ORA-02809: ファイル・オープンに使用される配列のメモリー割当てに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02810: メモリー・マップ・ファイルの一時ファイル名が作成できません。**ORA-02811: 共有メモリー・セグメントが付加できません。****ORA-02812: 付加アドレスが無効です。****ORA-02813: キーを取得するための一時ファイル名を作成できません。**

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02814: 共有メモリーを取得することができません。

原因: shmget(2) が失敗しました。

解決方法: UNIX 数値を調べてください。その意味が不確かな場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02815: 共有メモリーを Attach できません。

原因: shmat(2) が失敗しました。

解決方法: UNIX 数値を調べてください。その意味が不確かな場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02816: プロセスを強制終了できません。

原因: サーバーが中断シグナル送信後の停止に失敗しました。プロセスが暴走する可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02817: プロセスを強制終了できません。

原因: サーバーが要求されたデータ量の読み込みに失敗しました。間違ったファイル記述子が sfard() に送信された可能性があります。「追加情報」フィールドの数値は、読み込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。

解決方法: sfard() の呼出しを検証してください。

ORA-02818: 読み込んだブロック数は要求された数に対して不足しています。

原因: サーバーが要求データ量の読み込みに失敗しました。「追加情報」フィールドの最初の数値が読み込まれたブロック数です。2 番目は読み込まれた実際のバイト数です。

解決方法: これはプログラミング・エラーです。

ORA-02819: 書き込みに失敗しました。

原因: サーバーが書き込みの実行に失敗しました。「追加情報」フィールドの数値は、書き込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。「追加情報」フィールドの最初の数値が書き込まれたブロック数です。2 番目は書き込まれた実際のバイト数です。ディスクが満杯の可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02820: 要求されたブロック数を書き込めません。

原因: サーバーがディスクに要求されたデータ量の書き込みに失敗しました。ディスクのスペースが不足している可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02821: 要求されたブロック数を書き込めません。

原因: サーバーが要求されたブロック数の読み込みに失敗しました。ファイルの終わりが読み込まれている可能性があります。

解決方法: ディスク上のファイルを検証してください。

ORA-02822: ブロック・オフセットが無効です。

原因: サーバーが指定されたブロックのシークに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02823: バッファが割当てられていません。

原因: I/O 済みのバッファが正しい境界にありません。

解決方法: 呼出しプログラムを検証してください。

ORA-02824: 要求の空きリストが空です。

原因: すべての記述子が使用中のため、パッケージが要求記述子を割り当てるリストが空になっています。

解決方法: 一部が空くまで待機するか、またはパッケージをより高い数値の要求記述子で初期化してください。

ORA-02825: 使用しようとした空きリストは使われています。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02826: ブロック・サイズが無効です。

原因: 非同期 I/O パッケージで使用される I/O ブロック・サイズが負数になっています。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 正数または 0 を使用して、デフォルト値を取得してください。

ORA-02827: ファイル番号が無効です。

原因: 操作が行われるファイル番号が 0 より小さくなっているか、オープンできるファイルの最大値より大きくなっています。

解決方法: 呼出しプログラムがこの数値に触れることはないので、これはプログラミング・エラーです。

ORA-02828: セグメントの空きリストが空です。

原因: 割当て可能なセグメントがありません。

解決方法: 一部のセグメントを空けるか、パッケージをシャットダウンしてより高いセグメントの数値で再度初期化してください。

ORA-02829: 十分な大きさのセグメントがありません。

原因: 発呼者が使用できるだけの十分な大きさのセグメントが用意されていません。

解決方法: 一部のセグメントを空けて再試行してください。

ORA-02830: セグメントが分割できません。空きセグメントが不足しています。

原因: 空きセグメントが不足しているので、必要なものより大きいセグメントの分割に失敗しました。

解決方法: 一部のセグメントを空けて再試行してください。

ORA-02831: セグメント・リストが空なのでセグメントの割当て解除に失敗しました。

原因: 発呼者がセグメントの割当てを解除しようとしたが、"in use" リストが空でした。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 呼出しプログラムを検証してください。

ORA-02832: セグメントがセグメント・リストにないためセグメントの割当て解除に失敗しました。

原因: 発呼者が "in use" リストにないセグメントの割当てを解除しようとした。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 呼出しプログラムを検証してください。

ORA-02833: セグメントがセグメント・リストにないためセグメントの割当て解除に失敗しました。

原因: サーバーが非同期 I/O で使用しているファイルのクローズに失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02834: サーバーはファイルをオープンできません。

原因: サーバーが非同期 I/O で使用するためのファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02835: サーバーはクライアントにシグナルを送ることができません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02836: 一時キー・ファイルを作成できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02837: 一時ファイルをアンリンクできません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02838: 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラが使用できません。

原因: 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラのアーミングに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02839: ディスクへのブロックの同期化に失敗しました。

原因: サーバーがディスクへの書込みのフラッシュに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02840: クライアントによるログ・ファイルのオープンが失敗しました。

原因: クライアント・プロセスがログ・ファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02841: サーバーが起動時に停止しました。

原因: サーバーがその初期化プロセス中に終了しました。

解決方法: 詳細はサーバー・ログを調べてください。

ORA-02842: クライアントはサーバーを fork できません。

原因: クライアントがサーバーの拡張に失敗しました。オペレーティング・システムが拡張可能なプロセス数の制限に達した可能性があります。

解決方法: 使用可能なサーバーの数値を減らすか、より多くのプロセスをハンドルできるようにオペレーティング・システムを再構成してください。

ORA-02843: カーネル・フラグの値が無効です。

原因: 情報構造体でカーネル・フラグに無効な値が設定されました。許可されているのは TRUE および FALSE だけです。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 呼出しルーチンを検証してください。

ORA-02844: オープンしたままのフラグの値が無効です。

原因: クライアントがサーバーがそれを使用可能かどうかを検証した後でファイルがオープンされたままになっているかどうかを判別するフラグに値が設定されています。サポートされているのは TRUE および FALSE だけです。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 呼出しルーチンを検証してください。

ORA-02845: タイミングをとるフラグの値が無効です。

原因: 操作の時間切れを示すフラグに値が設定されています。サポートされているのは TRUE および FALSE だけです。これはプログラミング・エラーです。

解決方法: 呼出しルーチンを検証してください。

ORA-02846: サーバーを強制終了できません。

原因: サーバーが終了シグナルの応答に失敗しました。最初の数値がサーバーの番号です。2 番目はその UNIX プロセス番号です。これは内部問題です。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02847: ポスト時にサーバーは終了しませんでした。

原因: サーバーがシャットダウンするためにポストされた要求に応答しませんでした。最初の数値がサーバーの番号です。2 番目はその UNIX プロセス番号です。これは内部問題です。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02848: 非同期 I/O パッケージが実行していません。

原因: 最初に sfainit() を使用してパッケージを初期化せずに非同期 I/O パッケージを使用して操作をしようとした。

解決方法: パッケージを使用する前に sfainit() を呼び出してください。

ORA-02849: エラーが発生したため読み込みに失敗しました。

原因: サーバーが要求されたデータ量をディスクから読み込むのに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-02850: ファイルがクローズされました。

原因: 非同期 I/O 操作が実行されるファイルがすでにパッケージによってクローズされました。これはプログラミング・エラーです。

ORA-02851: 要求リストが空です。

原因: これは内部問題です。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-02852: クリティカル・セクション・タイムアウト値は無効です。

原因: 指定された時間が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02853: サーバー・リストのラッチ・タイムアウト値は無効です。

原因: 指定された時間が正数ではありませんでした。

解決方法: 正数を使用してください。

ORA-02854: 要求バッファの数が無効です。

原因: init.ora ファイルで DB_SLAVE_BUFFERS に設定された値が 0 より小さくなっています。

解決方法: 0 以上の数値を使用してください。

BM RS/6000 メッセージ : 02875 ~ 02899

『Oracle8 for IBM RISC System/6000 Installation and Configuration Guide』および『Oracle8 for MVS Messages Message Guide』、『Oracle8 for VM Messages Message Guide』を参照してください。

実現されていない機能のメッセージ : 03000 ~ 03099

この節では、ユーザーが Oracle にインプリメントされていない機能にアクセスしようとした場合、生成されるメッセージを記載します。

ORA-03001: 現在実現されていない機能です。

原因: 現在実現されていない機能を使用しようとしてしました。

解決方法: 現時点ではこの機能は使用しないでください。

ORA-03002: 演算子は実現されていません。

原因: 現在実現されていない演算子を使用しようとしてしました。

解決方法: 現時点ではこの機能は使用しないでください。

ORA-03007: 機能は廃止されました。

原因: 現在サポートされていない機能を使用しようとしてしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-03008: パラメータ COMPATIBLE >= val が *feature_name* が必要です。

原因: 初期化パラメータ COMPATIBLE の設定以降の Oracle パージョンの機能を使用しようとしてしました。

解決方法: COMPATIBLE をメッセージに記述されている値またはそれ以上の値に設定して、コマンドを再試行してください。ただし、これによって、ダウングレード・オプションが制限されるので注意してください。

2 タスク・インタフェース・メッセージ : 03100 ~ 03199

この節には、Oracle との 2 タスク・インタフェースの使用時に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-03100: メモリーが不足しているため通信領域を割当てられません。

原因: 通信の目的でスタック領域を割当てようとしたますが、できませんでした。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03106: 2 タスク通信プロトコル・エラーが発生しました。

原因: Oracle とユーザー・タスク間の通信経路が停止しました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03107: oranet: バッファがアンダーフローしました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03108: oranet: Oracle はこのインタフェースのバージョンをサポートしていません。

原因: Net8 を介入してユーザーが接続している Oracle のバージョンは、このバージョンの Net8 プロトコルをサポートしていません。

解決方法: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03109: oranet: バッファがオーバーフローしました。

原因: ユーザー・プログラムと Oracle 間のデータを転送しようとしたところ、バッファ領域がオーバーフローしました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03110: oranet: Oracle はこの SQL のバージョンをサポートしていません。

原因: Net8 を介してユーザーが接続している Oracle のバージョンは、Net8 プロトコルのバージョンをサポートしていません。

解決方法: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03111: 通信チャンネルでブレイクを受信しました。

原因: 通信チャネル上でブレイクが処理されたが、Net8 ソフトウェアによって正しく処理されませんでした。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03112: 単一タスクとしてリンクしているサーバーは Net8 を使用できません。

原因: シングル・タスク・サーバーに対して、Net8 接続文字列を含む文が発行されました。たとえば、DATABASE LINK が SQL 文で使用されました。

解決方法: シングル・タスク環境で Net8 接続文字列を使用しないでください。Net8 接続文字列の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「Net8 接続文字列」および「Net8」を参照してください。

ORA-03113: 通信チャネルでファイルの終わりが検出されました。

原因: 通信チャネル上で、予期しないファイルの終了処理が行われました。この問題は、Net8 (2 タスク) ソフトウェアで処理できませんでした。このメッセージは、Net8 接続と関係付けられているシャドウ 2 タスク・プロセスが異常終了した場合、またはプロセス間通信媒体の物理的障害、つまり、ネットワーク・マシンまたはサーバー・マシンがダウンした場合に発生することがあります。

解決方法: このメッセージが接続の試行中に発生する場合は、該当する Net8 ドライバのセットアップ・ファイルを調べて、Net8 ソフトウェアがサーバー上に正しくインストールされていることを確認してください。接続に成功した後でこのメッセージが発生し、エラーの原因が物理的な障害ではない場合は、障害発生時にサーバー上でトレース・ファイルが生成されたかどうかを確認してください。トレース・ファイルがあれば、Oracle 技術サポートの援助が必要な Oracle 内部エラーが発生した可能性があります。

ORA-03114: Oracle に接続されていません。

原因: 接続が確立されていないのに Oracle を呼び出そうとしました。このエラーは通常、ユーザー作成プログラムがログオンしていないために起ります。また、通信障害のため切断している時にも起ります。

解決方法: 操作を再試行してください。ユーザー作成プログラムを使用している場合に、このエラーが再発するようであれば、プログラムを調べてください。

ORA-03115: サポートされていないネットワークのデータ型または表現があります。

原因: あるユーザー・バインド、ユーザー定義、Oracle 関数が、この Net8 の接続ではサポートされていません。

解決方法: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03116: 変換ルーチンに渡されたバッファ長が無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03117: 2 タスク保存領域でオーバーフローが発生しました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03118: 2 タスク・コルーチンが無効状態です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03120: 2 タスク変換ルーチン: 整数オーバーフローが発生しました。

原因: 異種性接続を介してデータを変換するとき、内部 Oracle 構造中の整数値がオーバーフローしました。これは、バッファ長が無効である、または行カウントが大きすぎるときに発生する可能性があります。通常は、ユーザー・アプリケーションのバグに起因します。

解決方法: パラメータを Oracle コールに確認してください。問題が再発するようであれば、列値を除くすべての整数パラメータを 32767 未満に設定してください。

ORA-03121: インタフェース・ドライバが接続されていないため関数は実行されません。

原因: 通常このメッセージは、Net8 ドライバがメモリーにロードされていない場合、またはドライバのバージョンの不一致がある場合に発生します。古いライブラリとリンクされているユーザー・プログラムが、このメッセージの原因となる場合もあります。このインタフェースは、オラクル社が提供しているプログラムでしか使用できません。

解決方法: オラクル社が提供したプログラムの使用中にメッセージが発生した場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。ユーザー・プログラムにエラーの原因が認められる場合、現行バージョンのオラクル・ライブラリを使ってプログラムをリンクしてください。

ORA-03122: ユーザー側でオラクル側のウィンドウをクローズしようとしてしました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03123: この操作を行うと現行プロセスがブロックされます。

原因: 試行した操作は、現在完了できません。

解決方法: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-03124: 2 タスク内部エラー

原因: 原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03125: クライアント / サーバー・プロトコル違反が発生しました。

原因: サーバーから、アプリケーションが誤ったエスケープ・シーケンスを受け取りました。クライアント・アプリケーションのユーザー・コードに問題があることを示している可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-03126: ネットワーク・ドライバは、非ブロック操作をサポートしません。

原因: 非ブロック操作が試行されましたが、ネットワーク・ドライバが非ブロック操作をサポートしません。

解決方法: デフォルトのブロック操作を使用するか、または非ブロック操作をサポートするドライバを使用してください。

ORA-03127: アクティブ操作が完了するまで、新しい操作を行えません。

原因: アクティブな非ブロック操作が完了する前または列のすべての断片の挿入やフェッチが完了する前に新たな操作を実行しようとした。

解決方法: 非ブロック操作が完了してから、新たな操作を実行してください。断片単位のバインド / 定義を実行する場合、すべての断片の挿入またはフェッチが完了してから新たな操作を実行してください。

挿入およびフェッチング、非ブロック化モードの詳細は、『Oracle コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「開発、OCI プログラムの」を参照してください。

ORA-03128: 接続がブロック・モードです。

原因: 接続に対する非ブロック・モードの OCI テストは、接続がブロック化モードになっていることを示しています。

解決方法: 非ブロック・モードが必要な場合は、適切な OCI コールを使用して、モードを変更してください。

ORA-03129: 接続がブロック・モードです。

原因: アプリケーションが断片単位のバインドを列で実行しました。

解決方法: このバインド変数の次の断片を指定してください。

バインド変数の詳細は、『Oracle コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「バインド変数」および「入力変数、アドレスのバインド」を参照してください。

ORA-03130: 次にフェッチする断片用のバッファがありません。

原因: アプリケーションが断片単位の定義を列で実行しました。

解決方法: 次の断片用に別のバッファを指定して、断片を取り出せるようにします。

定義およびフェッチ操作の詳細は、『Oracle コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「定義操作」および「行のフェッチ」を参照してください。

ORA-03131: 次の断片に無効なバッファが提供されました。

原因: アプリケーションで、次の断片用のバッファの長さがゼロに指定されたか、または、ヌル・ポインタが指定されました。

解決方法: 次の断片用のバッファ・ポインタが NULL に指定されているかどうか、または、長さがゼロに指定されているかどうかを確認してください。

フェッチ操作の詳細は、『Oracle コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド : Vol.2』の索引項目「行のフェッチ」を参照してください。

エクステンツの割当ておよびその他の領域管理エラー・メッセージ : 03200 ~ 03289

この節では、エクステンツの割当て中に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-03200: セグメント・タイプの指定が無効です。

原因: セグメント・タイプが TABLE または INDEX、CLUSTER ではありません。

解決方法: 正しいセグメント・タイプを使用してください。

ORA-03201: グループ番号の指定が無効です。

原因: 空きリスト・グループの番号が負か、またはセグメント内の空きリスト・グループ数より大きくなっています。

解決方法: 正しいグループ番号を使用してください。

ORA-03202: スキャン制限の指定が無効です。

原因: スキャン制限に、セグメント内の空きリスト・グループの数よりも大きい正の整数値がありません。

解決方法: 正しいスキャン制限を使用してください。

ORA-03203: 同時実行の更新アクティビティにより、領域分析が実行できません。

原因: ユーザー更新の量が多いため、領域の解析を妨げています。

解決方法: コマンドを再試行するか、または基礎オブジェクトをロックしてください。

ORA-03204: セグメント型の指定には \$ パーティション化を指示しなければなりません。

原因: 領域分析にパーティション名が指定されましたが、オブジェクト型はパーティション化を指示していません。

解決方法: オブジェクトがパーティション化されている場合は、セグメント型に PARTITION を指定してください。それ以外の場合は、パーティション名を省略してください。

ORA-03205: パーティション化された型を指定するときは、パーティション名が必要です。

原因: 領域分析にパーティション名が指定されませんでしたが、オブジェクト型はパーティション化を指示しています。

解決方法: オブジェクトがパーティション化されている場合は、パーティション名を指定してください。それ以外の場合は、非パーティション型を指定してください。

ORA-03230: セグメントは高水位より上の未使用領域の *num* しか含んでいません。

原因: 確保しようとしたブロックが多すぎます。

解決方法: KEEP の量を減らしてください。

ORA-03231: INITIAL エクステンツが割振り解除されていない可能性があります。

原因: リリース 7.3 以前のリリースでは切り捨てられていたセグメントの領域を割振り解除しようとしてしました。

解決方法: KEEP の量を増やすか、または、セグメントを切り捨ててコマンドを再発行してください。

TRUNCATE コマンドの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「TRUNCATE コマンド」を参照してください。

ORA-03232: 表領域名から *num* ブロックのエクステンツを割振りすることはできません。

原因: 表領域の NEXT 値より大きい HASH-MULTIBLOCK_IO_COUNT 値を指定しようとしてしました。

解決方法: ALTER TABLESPACE DEFAULT STORAGE を使って表スペースの NEXT 値を大きくするか、または HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT の値を小さくしてください。

ORA-03274: ALLOCATE EXTENT と DEALLOCATE UNUSED オプションの両方が指定されています。

原因: DEALLOCATE オプションおよび ALLOCATE オプションが同じコマンドに指定されました。

解決方法: どちらかのオプションを選択するか、または、2 つのコマンドをそれぞれ発行してください。

ALLOCATE オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER CLUSTER コマンドの ALLOCATE EXTENT 句」および「ALTER TABLE コマンドの ALLOCATE EXTENT 句」を参照してください。

ORA-03275: DEALLOCATE オプションの指定が重複しています。

原因: ALTER TABLE コマンドまたは ALTER INDEX コマンドに対して DEALLOCATE UNUSED オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: オプションは 1 度だけ指定してください。

DEALLOCATE UNUSED オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TABLE」および「ALTER INDEX」を参照してください。

ORA-03276: ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX に ALLOCATE EXTENT オプションを複数指定しています。

解決方法: オプションは 1 度だけ指定してください。

ORA-03277: 指定された SIZE が無効です。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文の SIZE のオプションに指定した値は正数でなければなりません。

解決方法: 適当な整数値を選択してください。

ORA-03278: ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文に、オプションまたはデータ・ファイル、SIZE または INSTANCE が複数回指定されました。

解決方法: 各オプションは 1 度だけ指定してください。

ORA-03279: 指定された INSTANCE が無効です。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文の INSTANCE オプションに指定した値が無効です。

解決方法: 適切な INSTANCE の指定を選んでください。

ORA-03280: DATAFILE ファイル名の指定が無効です。

原因: 文字列リテラルが想定されていますが、ALTER TABLE...ALLOCATE EXTENT 文の DATAFILE オプションには存在しません。

解決方法: 一重引用符で囲まれた文字列リテラルを使用して、ファイル 名を指定してください。データ・ディクショナリ・ビュー DBA_DATA_FILES を問合せ、表領域内の正しいデータベース・ファイルの名前を見つけてください。

ORA-03281: ALLOCATE EXTENT オプションが無効です。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文で DATAFILE、SIZE、INSTANCE 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 無効なオプションを削除して、コマンドを再実行してください。

ORA-03282: ALLOCATE EXTENT オプションがありません。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文のカッコ内に ALLOCATE EXTENT オプションが指定されませんでした。

解決方法: オプションを指定しない場合にはカッコを使用しないでください。オプションが必要な場合は、カッコ内にデータ・ファイル、SIZE、INSTANCE などのオプションを 1 つ以上指定してください。

ORA-03283: 指定したデータ・ファイル :name は存在しません。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文内の DATAFILE オプションに指定されているデータ・ファイルが存在しません。

解決方法: データベース・ファイルとして正しいファイル名を指定して オプションを再実行してください。データ・ディクショナリ・ビュー DBA_DATA_FILES を問い合せて、表領域内の正しいデータベース・ファイルの名前を見つけてください。

ORA-03284: 指定されたデータ・ファイル *name* は、表領域 *name* のメンバーではありません。

原因: ALTER TABLE... ALLOCATE EXTENT 文に指定されているデータ・ファイルは、表が常駐している表領域に属していません。

解決方法: 正しいデータベース・ファイルまたは正しい表を指定して、オプションを再実行してください。データ・ディクショナリ・ビュー DBA_DATA_FILES を問合せ、表領域内の正しいデータベース・ファイルの名前を見つけるか、または DBA_TABLES を問合せ、正しい表の名前を見つけてください。

ORA-03286: ALLOCATE EXTENT は HASH CLUSTERS に対して無効です。

原因: クラスタはハッシュ・クラスタなので EXTENT 割当てオプションは使用できません。

解決方法: ハッシュ・クラスタではこのコマンドを使用しないでください。

ORA-03287: FREELIST GROUP の指定が無効です。

原因: 指定した FREELIST GROUP の数値が無効です。

解決方法: このオブジェクトには、1 からフリー・リスト・グループの数値の間の数値を選択してください。

ORA-03288: FREELIST GROUP および INSTANCE パラメータの両方は指定できません。

原因: FREELIST GROUP と INSTANCE の両方が 1 つの句に指定されています。

解決方法: どちらか 1 つを取り除いてください。

TRUNCATE コマンド・メッセージ : 03290 ~ 03295

この節には、TRUNCATE コマンドの使用時に生成されるメッセージを記載しています。

ORA-03290: CLUSTER または TABLE キーワードがないため TRUNCATE コマンドが無効です。

原因: TRUNCATE コマンドに対して、無効なオブジェクトを指定しました。

解決方法: コマンドの構文を調べて、TRUNCATE CLUSTER または TRUNCATE TABLE のいずれかを指定して操作を再実行してください。

ORA-03291: STORAGE キーワードがないため TRUNCATE コマンドのオプションが無効です。

原因: TRUNCATE コマンドの DROP オプションまたは REUSE オプションでは STORAGE キーワードを指定しなければなりません。

解決方法: コマンドの構文を調べて、操作を再実行してください。

ORA-03292: TRUNCATE しようとした表はクラスタの一部です。

原因: クラスタのメンバーである表を切り捨てようとしたしました。

解決方法: クラスタ全体を TRUNCATE するか、または個々の表を削除してから再作成してください。

ORA-03293: 切り捨てようとしたクラスタはハッシュ・クラスタです。

原因: ハッシュ・クラスタを TRUNCATE しようとしてしました。これは許可されていません。索引クラスタだけ TRUNCATE することができます。

解決方法: TRUNCATE コマンドを使用するかわりにクラスタを削除し、再作成してください。

サイズ変更可能データ・ファイル : 03296 ~ 03299

ここに示したものの以外のサイズ変更可能データ・ファイル・メッセージについての詳細は、16 ページの「サイズ変更可能データ・ファイル・メッセージ: 02490 ~ 02499」を参照してください。

ORA-03296: データ・ファイルはサイズ変更できません。ファイル: *name* が見つかりません。

原因: 指定されたデータ・ファイルはサイズ変更できません。

解決方法: データ・ファイル名が有効であることを確認し、有効であれば、そのファイルがアクセス可能であることを確認してください。有効なデータ・ファイルの指定の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の「ファイルの指定」を参照してください。

ORA-03297: ファイルにはデータが *num* ブロック入っていますが、これは要求されている RESIZE 値を超えています。

原因: 切り捨てられる領域内のファイルの一部分が、データベース・セグメントによって現在使用されています。

解決方法: ファイルをサイズ変更する前に、この領域にエクステントを含んでいるセグメントを削除または移動するか、または切り捨てられた領域内が使用可能領域だけになるように、サイズ変更値を選択してください。

ORA-03298: データファイルを縮小できません。 - ファイル: *name* はホット・バックアップです。

原因: データ・ファイルを縮小しようとしてしましたが、このファイルはホット・バックアップです。これは許可されていません。

解決方法: ホット・バックアップの完了後にファイルの縮小を再試行してください。

サイズ変更可能データ・ファイルの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「データ・ファイル、自動拡張」および『Oracle8 Server 移行ガイド』の索引項目「サイズ変更可能データ: ファイル」を参照してください。

ORA-03299: ディレクトリ表: *name* を作成できません。

原因: ディクショナリ表は、データベースに対するコマンド ALTER DATABASE AUTOEXTEND ON の最初の実行時に作成されます。この操作に失敗しました。その原因として、システム表領域内の領域が不十分である可能性があります。

解決方法: 続いて表示される詳細なメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

Meiko メッセージ : 03300 ~ 03499

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

Macintosh メッセージ : 03500 ~ 03699

Macintosh 対応 Oracle8 Server: エラー・メッセージおよびコードを参照してください。

AOS/VS メッセージ : 03700 ~ 03999

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

無効コマンド・パラメータ・メッセージ : 04000 ~ 04019

この節では、コマンドにおいて矛盾した値が使用されるときに生成されるメッセージを記載します。

ORA-04000: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えることはできません。

原因: クラスタまたは表に対して指定した PCTUSED と PCTFREE の和が 100 を超えています。

解決方法: PCTUSED と PCTFREE に指定した値の和が 100 を超えないようにして、表またはクラスタを作成してください。これらの値の合計は 100 を超えてはなりません。

ORA-04001: 順序パラメータ *str* は整数でなければなりません。

原因: 指定した順序パラメータは整数ではありません。

解決方法: 指定したパラメータに整数値を与えて、順序を作成してください。

ORA-04002: INCREMENT はゼロでない整数でなければなりません。

原因: 順序の増分にゼロが指定されました。

解決方法: 増分を非ゼロ値に指定して、操作を再試行してください。

ORA-04003: 順序パラメータ *num* が順序に対して指定できる最大サイズ:*num* 桁を超えています。

原因: 指定した順序パラメータの桁数が多すぎます。

解決方法: 許可されている桁数のパラメータを指定して、操作を再試行してください。

ORA-04004: MINVALUE は MAXVALUE より小さくなければなりません。

原因: MINVALUE に MAXVALUE 以上の値が指定されています。

解決方法: MINVALUE に MAXVALUE より小さい値を指定して、文を再実行してください。

ORA-04005: INCREMENT は (MAXVALUE-MINVALUE) より小さくなければなりません。

原因: MAXVALUE から MINVALUE を減算した値より大きいか等しい値を INCREMENT に指定しました。これは許可されません。

解決方法: INCREMENT の値を MAXVALUE から MINVALUE を引いた値より小さく指定し、再試行してください。

ORA-04006: START WITH に MINVALUE より小さい値は指定できません。

原因: 指定した開始値は MINVALUE より小さくなっています。

解決方法: 開始値が MINVALUE より大きいことを確かめて、文を再実行してください。

ORA-04007: MINVALUE に現在値より大きい値は指定できません。

原因: 指定した MINVALUE に現在値を超える値は指定できません。

解決方法: MINVALUE が現在値より小さいことを確かめて、文を再実行してください。

ORA-04008: MINVALUE に現在値より大きい値は指定できません。

原因: 開始値が MAXVALUE より大きくなっています。

解決方法: 開始値が MAXVALUE より小さいことを確かめて、文を再実行してください。

ORA-04009: MAXVALUE に現在値より小さい値は指定できません。

原因: 現在値が指定している MAXVALUE の値より大きくなっています。

解決方法: 新しい MAXVALUE の値が現在値より大きいことを確かめて、文を再実行してください。

ORA-04010: CACHE には 1 より大きい値を指定しなければなりません。

原因: CREATE SEQUENCE 文の CACHE 句に指定した値が 1 です。デフォルト 20 です。

解決方法: NOCACHE を指定するか、1 より大きい値を指定して、文を再実行してください。

ORA-04011: 順序 *name* が *num* から *num* の範囲内になければなりません。

原因: 順序パラメータのいずれかに指定した値が制限を超えています。

解決方法: これらの制限を超えない値をパラメータに指定してください。

CREATE SEQUENCE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE SEQUENCE」を参照してください。

ORA-04012: 指定されたオブジェクトは順序ではありません。

原因: 指定したオブジェクト上で順序操作は実行できません。

解決方法: 順序名の綴りを確かめて、文を再実行してください。

ORA-04013: CACHE には 1 サイクルより小さい値を指定しなければなりません。

原因: CREATE SEQUENCE 文で指定した CACHE に対する数は、1 サイクルの値を超えています。

解決方法: サイクルを拡張するか、より小さい値をキャッシュするようにして、文を再実行してください。

ORA-04014: CYCLE を実施する降順の順序は MIN VALUE を指定しなければなりません。

原因: その値を CREATE SEQUENCE 文に指定していません。サイクルを実施する順序は、そこから再び開始する値を指定しなければなりません。

解決方法: 順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04015: CYCLE を実施する昇順の順序は MAX VALUE を指定しなければなりません。

原因: その値を CREATE SEQUENCE 文に指定していません。サイクルを実施する順序は、そこから再び開始する値を指定しなければなりません。

解決方法: 順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04016: 順序 :name が存在しません。

原因: その次の値の処理中に順序が削除されました。

解決方法: 順序を再作成してください。

CREATE SEQUENCE の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE SEQUENCE」を参照してください。

ORA-04017: パラメータ MAX_DUMP_FILE_SIZE の値 num(length = num) が無効です。

原因: MAX_DUMP_FILE_SIZE パラメータの文字列が UNLIMITED 文字列の値と一致しません。

解決方法: このパラメータに有効な値を割り当ててください。

ライブラリ・オブジェクト・ロック・メッセージ: 04020 ~ 04029

この節では、ライブラリ・オブジェクトが、ロックし、アクセスできなくなった場合に生成されるメッセージを記載します。

ORA-04020: オブジェクト name をロックしようとしてデッドロックを検出しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトに対するロックを獲得しようとしたところデッドロックが検出されました。

解決方法: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04021: オブジェクト *name* をロック待ちしていてタイムアウトが発生しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトをロックするために待機している間にタイムアウトが発生しました。

解決方法: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04022: 待機なしの要求ですが、ディクショナリ・オブジェクトのロックで待機が必要です。

原因: 待機なしが要求されている間、ライブラリ・オブジェクトのロックを待つ必要があります。

解決方法: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04028: オブジェクト *:name* のダイアナを生成できません。

原因: ロックが競合しているのでオブジェクトのダイアナを生成できません。

解決方法: 構文を確認してください。構文エラーが見つからない場合は、このエラー・メッセージをオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ロックの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ロック」を参照してください。

ORA-04029: 名前の問合せ時にエラー ORA-*num* が発生しました。

原因: 問合せ対象の表またはビューがありません。メッセージで示された ORA-*num* を調べてください。

解決方法: 修正してください。

システム・メモリー・メッセージ : 04030 ~ 04039

この節には、Oracle セッションでオペレーティング・システムが十分なメモリーを割り当てられない場合に Oracle Server によって生成されるメッセージを記述しています。

ORA-04030: *num* バイト (*str*,*str*) を割当てようとしてプロセス・メモリーが不足しました。

原因: オペレーティング・システム・プロセスのプライベート・メモリーをすべて使い切っています。

解決方法: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割り当てを増やしてください。アプリケーションには、プロセスのメモリー・スペースを過度に割り当てる原因となるバグが存在している可能性があります。

ORA-04031: 共有メモリーの *num* バイトを割当てできません (*num*, *num*, *num*)。

原因: オペレーティング・システムに割り当てられているよりも多くの共有メモリーが必要です。SGA プライベート・メモリーを使い果たしています。

解決方法: 大きいパッケージを確保するには DBMS_SHARED_POOL パッケージを使用するか、共有メモリーの使用を減らすか、または SHARED_POOL_SIZE 初期化パラメータに設定された値を増やして使用可能な共有メモリーの量を増やしてください。

ストアド・プロシージャ・メッセージ : 04040 ~ 04059

この節では、ストアド・プロシージャをアクセスした場合に生成されるいくつかのメッセージを記載します。

Trusted Oracle を使用している場合、その環境のエラー・メッセージ情報については Trusted Oracle ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-04041: パッケージ本体を作成する前にパッケージ仕様部を作成する必要があります。

原因: パッケージ指定を作成する前に、パッケージ本体を作成しようとした。

解決方法: パッケージ指定を作成してから、パッケージ本体を作成してください。

ORA-04042: プロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体が存在しません。

原因: 存在しないプロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体をアクセスしようとした。

解決方法: 指定した名前が正しいことを確認してください。

ORA-04043: オブジェクト *:name* が存在しません。

原因: システムが認識しないオブジェクト名が指定されました。次のような原因が考えられます。

- 表またはビュー、順序、プロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体に対して無効な名前が入力されました。システムは、無効な名前を認識しなかったので、指定したオブジェクトは存在しないというメッセージで応答しました。
- 改名できない索引またはクラスタ、またはその他のオブジェクトを改名しようとした。

解決方法: 改名されたオブジェクトの綴りを確認し、コードをリターンしてください。データ・ディクショナリを問合せることによって、表、ビュー、ファンクションなどの有効な名前をリストできます。

ORA-04044: ここにはプロシージャ、ファンクション、パッケージは指定できません。

原因: 文の中の適切ではない位置にプロシージャ、ファンクション、パッケージを指定しようとした。

解決方法: 文中のプロシージャ、ファンクション、パッケージの正しい配置については、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-04045: *name.name* の再コンパイルまたは再検証中にエラーが発生しました。

原因: エラー・メッセージに示されているオブジェクトの暗黙の再コンパイルまたは再検証中にエラーが発生しました。

解決方法: このメッセージに続いて詳細なエラー・メッセージが表示されます。そのエラー・メッセージに記述されている原因を確認して、適切な処置を行ってください。

ORA-04046: コンパイル結果が大きすぎてサポートできません。

原因: 大きなストアド・プロシージャをコンパイルおよび格納しようとした結果、大きすぎてシステムがサポートまたは格納できないコンパイル・データになりました。

解決方法: 小さいストアド・プロシージャに分割して、ストアド・プロシージャのサイズを小さくしてください。

ORA-04050: プロシージャ、ファンクション、パッケージの名前がないか、または無効です。

原因: 必須のプロシージャ、ファンクション、パッケージの名前が無効であるか、またはそれらが指定されていません。

解決方法: 有効な名前を指定してください。

ORA-04051: ユーザー :name はデータベース・リンク :name を使用できません。

原因: リモート・オブジェクトのアクセス中に、存在しないデータベース・リンク、またはログインしているユーザー（または PUBLIC）が所有していないリンクをアクセスしようとした。

解決方法: 要求または PUBLIC を出す同一ユーザーによって、間接的なリモート・アクセス要求がすべて行われるように、データベース・リンクの構造を変更してください。

ORA-04052: リモート・オブジェクト :name 調査中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトを調査中エラーが発生しました。

解決方法: 修正してください。リモート・データベース・システムが問合せ / 検索に必要なビューを作成するために KGLR.SQL を実行しているか確認してください。

『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-04053: リモート・オブジェクト :name 評価中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトを検査中エラーが発生しました。

解決方法: 修正してください。リモート・データベース・システムが問合せ / 検索に必要なビューを作成するために KGLR.SQL を実行していることを確認してください。

『Oracle8 Server 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-04054: データベース・リンク :name が存在しません。

原因: PL/SQL ブロックのコンパイル中に存在しないデータベース・リンクを使用しようとした。

解決方法: 他のデータベース・リンクを使うか、データベース・リンクを作成してください。

ORA-04055: 異常終了: name が、非参照型の相互に依存した循環を形成しています。

原因: コンパイルされたライブラリ単位が、他のライブラリ単位と、非参照の相互に依存した循環を形成しているため、コンパイルが異常終了しました。これは、この型を循環を形成する型の属性を持つ型とコンパイルすると、このエラーが発生します。次に例を示します。

```
create type t1;
create type t2 (a t1);
```

```
create type t1 (a t2);
```

解決方法: (REF を追加するか、または別の型を使用して) サイクルを中断してください。

ストアド・プロシージャの実行メッセージ: 04060 ~ 04069

ORA-04060: *name* を実行する権限が不十分です。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしたが、権限が不十分です。

解決方法: ロールを介してではなく、権限の直接付与によって、必要な権限を取得してください。

ORA-04061: *name* の既存状態は無効になりました。

原因: ストアド・プロシージャが変更または削除されたため、無効になったか、または矛盾が生じた既存状態を使用して、ストアド・プロシージャの実行を再開しようとした。

解決方法: 再実行してください。これによって、すべてのパッケージの既存状態が初期化されるようにすべきです。

ORA-04062: *name* の名前が変更されています。

原因: ストアド・プロシージャを実行して、このプロシージャのタイムスタンプまたはシグナチャを指定するリモート・プロシージャ・コールのスタブを提供しようとしたが、それらは、現行のタイムスタンプまたはシグナチャと異なります。

解決方法: 新たなタイムスタンプを獲得するために、コール元のプログラムを再コンパイルしてください。

タイムスタンプの獲得の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「タイムスタンプの競合の解決方法」を参照してください。

ORA-04063: *name* にエラーがあります。

原因: エラーのあるストアド・プロシージャを実行しようとした。ストアド・プロシージャの場合には、問題は構文か、または他の存在していないプロシージャへの参照にある可能性があります。ビューの場合には、問題はビューの定義問合せで、存在していない表への参照にある可能性があります。

表が存在していない型やアクセスできない型を参照している場合にも、このエラーは発生します。

解決方法: エラーを修正し、必要に応じて、参照されるオブジェクトを作成してください。

ORA-04064: 実行されません。 *name* は無効です。

原因: 無効となったストアド・プロシージャを実行しようとした。

解決方法: 処置プロシージャとその依存関係を再コンパイルしてください。

ORA-04065: *name* は実行されませんでした。変更 / 削除されています。

原因: 変更または削除されているストアド・プロシージャを実行しようとした。

解決方法: プロシージャの依存関係を再コンパイルしてください。

ORA-04066: *name* は非実行可能なオブジェクトです。

原因: パッケージ、プロシージャ、ファンクションではないオブジェクトを実行しようとした。

解決方法: 正しい名前が使用されていることを確認してください。

ORA-04067: 実行されません。 *name* は存在しません。

原因: 存在しないパッケージ、プロシージャ、ファンクションを実行しようとした。

解決方法: コマンドに指定した名前を確認してください。

ORA-04068: パッケージの既存状態は破棄されました。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしてエラーが発生しました。

解決方法: ともに表示されるエラー・メッセージを参照して、指摘されているエラーを訂正してください。アプリケーション状態を再初期化してから、プロシージャを再実行してください。

トリガー・メッセージ: 04070 ~ 04099

この節では、トリガーのアクセス時に生成されるメッセージを記載しています。トリガー・メッセージについての詳細は、339 ページの「トリガー・メッセージ: 25000 ~ 25099」を参照してください。

ORA-04070: トリガー名が無効です。

原因: 無効なトリガー名を指定しました。

解決方法: トリガー名が予約済みのキーワードでないことを確認してください。

ORA-04071: キーワード BEFORE または AFTER がありません。

原因: トリガー文に BEFORE 句または AFTER 句を指定していません。

解決方法: BEFORE 句または AFTER 句のいずれかを指定してください。

ORA-04072: トリガー型が無効です。

原因: 無効なトリガー名を指定しました。

解決方法: トリガー型として INSERT、UPDATE、DELETE のいずれかを指定してください。

ORA-04073: このトリガー型では列リストが無効です。

原因: UPDATE 以外のトリガー型に対して列リストを指定しました。

解決方法: トリガーから列リストを削除してください。

ORA-04074: REFERENCING name が無効です。

原因: REFERENCING 句に無効な名前を指定しました。

解決方法: REFERENCING に指定した名前が予約語でないことを確認してください。

ORA-04075: トリガー・アクションが無効です。

原因: トリガー・アクションに対して、文を指定しました。

解決方法: 文ではない別のトリガー・アクションを指定してください。

ORA-04076: NEW または OLD の指定が無効です。

原因: 列に対して無効な NEW または OLD を指定しました。

解決方法: 正しい NEW または OLD を使用して、列を再指定してください。

ORA-04077: NEW または OLD の指定が無効です。

原因: WHEN 句は行レベル・トリガーにだけ指定できます。

解決方法: WHEN 句を削除するか、または各行に WHEN 句を指定してください。

ORA-04078: NEW と OLD の値を同一にすることはできません。

原因: REFERENCING 句には NEW と OLD に対して同一の値が指定されています。

解決方法: NEW または OLD を異なる値に変更して、REFERENCING 句を再指定してください。

ORA-04079: トリガーの指定が無効です。

原因: CREATE TRIGGER 文が無効です。

解決方法: CREATE TRIGGER 文の正しい構文については、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-04080: トリガー :name が存在しません。

原因: 指定した TRIGGER 名が無効であるか、またはそのトリガーが存在しません。

解決方法: トリガー名を確認してください。

ORA-04081: トリガー :name がすでに存在します。

原因: トリガー名またはトリガー型がすでに存在します。

解決方法: 異なるトリガー名を指定するか、または同じ型のトリガーを削除してください。

ORA-04082: 表レベル・トリガーで NEW または OLD 参照は使用できません。

原因: トリガーが表トリガー内の NEW 値または OLD 値にアクセスしています。

解決方法: NEW または OLD の参照を削除してください。

ORA-04083: トリガー変数 :name が無効です。

原因: トリガー本体で参照されている変数が無効です。

解決方法: 処置 : 有効なトリガー変数の型については、『Oracle8 Server SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-04084: AFTER 行トリガーでトリガー変数 : NEW の値は変更できません。

原因: BEFORE 行トリガーでだけ、NEW トリガー変数を変更できます。

解決方法: トリガー型を変更するか、または変数の参照を削除してください。

ORA-04085: OLD 参照変数の値は変更できません。

原因: OLD 値は、読取り専用で変更できません。

解決方法: OLD 変数を変更しないでください。

ORA-04086: トリガーの記述が長すぎるので、コメントをトリガー・コードに移動します。

原因: トリガーの記述は、ディクショナリの記憶領域のために、2000 文字に制限されています。記述に「when」句のテキスト、またはトリガーに対して実行された PL/SQL コードのテキストが含まれていません。

解決方法: トリガーの記述に長すぎるコメントがある場合には、コメントをトリガーの PL/SQL コードに移動してください。

ORA-04087: ROWID 参照変数の値は変更できません。

原因: ROWID は、読取り専用では変更できません。

解決方法: ROWID 値を変更しないでください。

ORA-04088: トリガー name.name の実行時にエラーが発生しました。name の頂点の読み込みに失敗しました。

原因: トリガーの実行中に、実行時エラーが発生しました。

解決方法: 操作に関連のあるトリガーを調べてください。

ORA-04089: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーは作成できません。

原因: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しようとしてしました。

解決方法: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しないでください。

ORA-04090: name に name と同じ表、イベント、およびトリガー時間が指定されています。

原因: 示されたトリガーには別のトリガーと重複するイベントおよびトリガー時間があります。

解決方法: 2 つのトリガーを結合して 1 つのトリガーにしてください。

ORA-04091: 表 name は変更中なのでトリガーはこの表を読み込み / 修正することができません。

原因: 原因: 文中で参照されるトリガーまたはユーザー定義の PL/SQL 関数が、トリガーを起動した文によって変更中の表を問合せまたは変更しようとした。

解決方法: その表をコールしないようにトリガーを修正してください。

ORA-04092: トリガーで COMMIT または ROLLBACK はできません。

原因: トリガーが COMMIT または ROLLBACK を実行しようとした。これは許可されません。

解決方法: COMMIT または ROLLBACK 文を使用しないように、トリガーを書き換えてください。

ORA-04093: LONG 型の列への参照はトリガー内で作成することはできません。

原因: トリガーはトリガーしている表内の LONG 型列を参照しようとした。

解決方法: トリガーしている表の LONG 列を参照しないようにしてください。

ORA-04094: 表 *name* は制約が付いているためトリガーによって修正することはできません。

原因: 親 SQL 文の参照制約のために制限される表をトリガーが修正しようとした。

解決方法: その表を修正しないようにトリガーを修正してください。

ORA-04095: トリガー *:name* はすでに別の表に存在しています。交換できません。

原因: 別の表のトリガーと置き換えることはできません。

解決方法: CREATE OR REPLACE TRIGGER 文を使用して、別の表にトリガーを再作成してください。

ORA-04096: トリガー *:name* にある WHEN 句が大きすぎます。最大 2K

原因: トリガーの WHEN 句は、ディクショナリの記憶領域のために 2K に制限されています。

解決方法: 小さい WHEN 句を使用してください。トリガー本体は、WHEN 句と同じ制限アクションを実行できることに注意してください。

ORA-04097: トリガーを削除または変更しようとして DDL 衝突が発生しました。

原因: 2 つの DDL 操作をトリガーまたはトリガー表で同時に実行しようとした。

解決方法: トリガーの現在の状態を調べ、必要に応じて DDL 操作を再実行してください。

ORA-04098: トリガー *name* が無効で再検証に失敗しました。

原因: トリガーを実行しようとして検索し、無効であることが分かりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

解決方法: コンパイル / 許可エラーを解決するには、トリガーを使用禁止にするか、トリガーを削除してください。

トリガーを使用可能および使用禁止にする方法の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「使用可能、トリガー」および「使用禁止、トリガー」、「DROP TRIGGER コマンド」を参照してください。

ORA-04099: トリガー *name* は有効ですが、コンパイル書式で保存されません。

原因: トリガーを実行しようとして検索し、有効であることが分かりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

解決方法: ALTER <triggername> COMPILE コマンドを実行して、トリガーをコンパイルしてください。トリガーがストアド・フォームになります。また、適切にアップグレードされているかを確認しなくてはならない場合もあります。

ALTER TRIGGER の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER TRIGGER」を参照してください。

SQL*Net メッセージ : 06000 ~ 06429

ORA-06165: データ・ファイル *name* が古すぎて回復できません。最新のコピーから復元してください。

原因: データ・ファイルの回復に必要なアーカイブ・ログまたは増分バックアップ・セット（またはその両方）がありませんが、データ・ファイルの最新のバックアップがあるので、回復は可能です。

解決方法: データ・ファイルの RESTORE コマンドを発行して、RECOVER コマンドを再発行してください。

ORA-06166: データ・ファイル *name* が回復できません。

原因: データ・ファイルの回復に必要な増分バックアップまたはアーカイブ REDO ログが見つかりません。回復可能な全体バックアップまたはデータ・ファイルのコピーも存在しません。

解決方法: LIST コマンドを使用して、使用可能にできるバックアップ・セットまたはデータ・ファイル・コピーがあるかどうかを調べてください。これらのファイルやコピーがない場合には、データ・ファイルは回復できません。全体またはデータ・ファイルのコピーがある場合には、Point-in-Time 回復を行うことができます。

ORA-06167: すでに接続されています。

原因: CONNECT コマンドが発行されましたが、指定されたデータベースにはすでに RMAN が接続しています。

解決方法: RMAN には DISCONNECT コマンドがありません。別のインスタンスに接続するには、RMAN を終了して、もう一度起動してください。

ORA-06168: このタグのバックアップ部分が見つかりません :*name*

原因: バックアップ・リストの一部を指定するためにタグが使用されていますが、このタグのバックアップ部分が見つかりません。

解決方法: タグの指定が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06169: データ・ファイル %s のファイル・ヘッダーが読み取れません。エラーの理由は %s です。

原因: 指定されたデータ・ファイルにアクセスできません。理由コードは、次のとおりです。

- 1 - 制御ファイルにファイル名がない。
- 2 - ファイルがオフラインである。
- 3 - ファイルが検証されていない。
- 4 - DBWR がファイルを見つけられない。
- 5 - ファイルがオープンできない。
- 6 - 読取り時の I/O エラー。
- 7 - ファイル・ヘッダーが壊れている。
- 8 - ファイルがデータ・ファイルでない。
- 9 - ファイルがこのデータベースに属していない。
- 10 - ファイル番号が壊れている。
- 12 - ファイルのバージョンが間違っている。
- 15 - 制御ファイルが最新でない。

解決方法: エラーが訂正できる場合には、訂正して操作をやり直してください。バックアップ時にこのエラーを無視する場合には、SKIP オプションを使用してください。

ORA-06170: 制御ファイルのコピーが、オフラインの範囲 recid num スタンプ name データ・ファイル name にありませんでした。

原因: 指定されたデータ・ファイルの回復には、このオフライン範囲が必要ですが、オフライン範囲レコードが現行の制御ファイルよりも古く、レコードの制御ファイルのコピーにアクセスできません。オフライン範囲を含む制御ファイルのコピーが、少なくとも 1 つリカバリ・カタログにあり、使用可能な状態です。

解決方法: 制御ファイルのすべてのコピーに対して、RC_CONTROLFILE_COPY ビューを問合せ、CHANGE CONTROLFILECOPY ... VALIDATE; コマンドを発行してください。その後で、RECOVER コマンドを再発行してください。

ORA-06171: ターゲットのデータベースに接続されていません。

原因: コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースとの接続が確立しませんでした。

解決方法: CONNECT TARGET コマンドを発行して、ターゲット・データベースに接続してください。

ORA-06172: 回復カタログ・データベースに接続されていません。

原因: コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースとの接続が確立しませんでした。

解決方法: CONNECT RCVCAT コマンドを発行して、リカバリ・カタログ・データベースに接続してください。リカバリ・カタログがない場合には、RMAN を起動するときに NOCATALOG オプションを使用しなければなりません。

ORA-06173: クローンの回復時に、データファイル *name* に set newname コマンドが発行されませんでした。

原因: 制御ファイルにクローン型が指定されましたが、データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドが発行されていません。

解決方法: 回復セットの各データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドを発行してください。

NCR System 3000 メッセージ : 06430 ~ 06449

ORA-06430: ssaio: シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効な引数が使用されました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06431: ssaio: ブロック番号が無効です。

原因: ファイル・ブロック番号が、ファイルの範囲内にありません。追加情報として、ブロック番号が戻されます。

解決方法: ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。dbfsize を実行し、ブロック番号がその範囲内にあるかどうかを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06432: ssaio: バッファが整列していません。

原因: I/O バッファが 2K 境界上に整列していません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06433: ssaio: lseek エラーが発生したため要求されたブロックをシークできません。

原因: 追加情報としてブロック番号が戻されます。

解決方法: 戻された追加情報をオペレーティング・システムの参照マニュアルで調べてください。ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06434: sfrfb: 読み込みエラー: データベース・ファイルから要求されたブロックを読み込めません。

原因: 読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06435: ssaio: 書き込みエラー: データベース・ファイルから要求されたブロックを書き込めません。

原因: 書き込みシステム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06436: ssaio: パラメータが無効なため非同期 I/O は失敗しました。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06437: ssaio: 非同期書込みではデータベース・ファイルへ書き込みません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06438: ssaio: 非同期読込みではデータベース・ファイルへ読み込みません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06439: ssaio: 非同期書込みが返したバイト数が無効です。

原因: この書込みコールは、切り捨てられています。

解決方法: 追加情報として、ブロック番号とバイト数が戻されます。書込まれたブロック番号とバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06440: ssaio: 非同期読込みが返したバイト数が無効です。

原因: この読込みコールは、切り捨てられています。

解決方法: 追加情報として、ブロック番号とバイト数が戻されます。読み込まれたブロック番号とバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06441: ssvwatev: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: oracle プロセス ID、待機時間、またはイベント ID のいずれかが無効です。

解決方法: 追加情報として、プロセス ID が示されます。

ORA-06442: ssvwatev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システム問題が起きている可能性があります。エラー・ログを調べてください。

解決方法: 追加情報として、エラーの数値が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06443: ssvpstev: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: このルーチンに無効なイベント ID が渡されました。

解決方法: 追加情報として、イベント ID が示されます。

ORA-06444: ssvpstev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システム問題が起きている可能性があります。エラー・ログを調べてください。

解決方法: 追加情報として、エラーの数値が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06445: ssvpstevrg: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: イベント ID が無効か、低および高イベント ID が存在しません。

解決方法: 追加情報として、エラーの数値が示されます。この情報には、イベント ID、低位限界および高位限界が示されます。

ORA-06446: ssvpstevrg: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システム問題が起きている可能性があります。

解決方法: エラー・ログを調べてください。追加情報として、エラーの数値が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06447: ssvpstp: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: このルーチンに無効な oracle プロセス ID が渡されました。

解決方法: 追加情報として、プロセス ID が示されます。

ORA-06448: ssvpstp: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システム問題が起きている可能性があります。

解決方法: エラー・ログを調べてください。追加情報として、エラーの数値が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06449: I/O リストまたは sysvndor がインストールされていません。

原因: oracle 実行可能プログラムが sysvndor インタフェース (init.ora PARAMETER USE_SYSVENDOR=TRUE) の使用を試みましたが、UNIX カーネルが Oracle 実行可能プログラム sysvndor インタフェースとリンクしていませんでした。

解決方法: このインタフェースを使用しない場合や、このインタフェースと UNIX カーネルとをリンクさせない場合には、init.ora に USE_SYSTVENDOR=FLASE を設定してください。

PL/SQL メッセージ : 06500 ~ 06580

この節では、Oracle が PL/SQL コードに関する問題を検出したときに生成されるメッセージを記載しています。

これらの ORA-*nnnnn* メッセージの後には、通常、PLS-*nnnnn* メッセージが続きます。これらのメッセージについては、3 章「PL/SQL および FIPS メッセージ」を参照してください。

ORA-06500: PL/SQL: 領域エラーが発生しました。

原因: 原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。メモリーを使い果たしたか、破損しています。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06501: PL/SQL: プログラム・エラーです。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。PL/SQL プログラムでエラーが検出されました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06502, PL/SQL: 数値または値エラーが発生しました。

原因: 同じ () 関数へのしきい値引数の有効な範囲は、0.0 から 100.0 です。

解決方法: トリガー文を修正し、やり直してください。

ORA-06503: PL/SQL: ファンクションが値なしで返されました。

原因: PL/SQL ファンクションのコールを行いましたが、RETURN 文が実行されませんでした。

解決方法: 適当な型の値が戻るように PL/SQL ファンクションを書き直してください。

ORA-06504: PL/SQL: Result Set 変数の型が返されたか、または問合せが一致しません。

原因: 問合せの列の数または型 (または、その両方) が、Result Set 変数の宣言されている戻り型と一致していないか、2 つの Result Set 変数の宣言されている型が一致していません。

解決方法: プログラムの文または宣言を変更してください。実行中に変数が実際に参照する問合せを確認してください。

ORA-06505: PL/SQL: 変数には、連続メモリーが 32767 バイト以上必要です。

原因: メモリーを 32767 バイトより多く必要とする制約付きの PL/SQL 変数が宣言されました。現行の PL/SQL では、32767 バイトより大きい連続メモリーの割当てをサポートしていません。

解決方法: 変数宣言の制約を減らしてみてください。それが不可能な場合は、データベースまたは国別文字セットを、同じ制約に対して少ないメモリーしか必要としないように変更してみてください。注意: 文字セットを変更すると、すべての PL/SQL の実行に影響を与えます。

ORA-06508: PL/SQL: コールしているプログラム単位が見つかりません。

原因: 見つけれられないストアド・プログラムをコールしようとしてしました。そのプログラムは削除されているか、変更されて互換性がなくなっているか、コンパイルしてエラーが発生している可能性があります。

解決方法: パッケージ本体など参照されているプログラムすべてが存在し、互換性があるかどうかを確認してください。

ORA-06509: PL/SQL: このパッケージに対して ICD ベクトルがありません。

原因: Oracle 製品に付属のパッケージと実行可能製品とでバージョンが競合しています。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06510: PL/SQL: 未処理のユーザー定義例外 *str*

原因: ユーザー定義の例外が PL/SQL によって発生しましたが、処理されませんでした。

解決方法: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、アプリケーション管理者が、データベース管理者に連絡するとよいでしょう。

ORA-06511: PL/SQL: カーソルはすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしているカーソルをオープンしようとしてしました。

解決方法: カーソルをクローズしてから、再オープンしてください。

ORA-06512: *str* 行 *num*

原因: 通常、これはメッセージ・スタックの最後で、PL/SQL コードのどこで問題が発生したかを示します。

解決方法: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、アプリケーション管理者が、データベース管理者に連絡するとよいでしょう。

ORA-06513: PL/SQL: PL/SQL 表の索引がホスト言語配列の有効範囲内にありません。

原因: PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーしようとしてしましたが、表の索引が 1 つ未満であるか、またはホスト言語配列の最大サイズよりも大きくなっています。PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーするときに、索引 1 の表項目が配列の最初の要素に置かれ、索引 2 の項目が配列の 2 番目の要素に置かれます（以下同様）。表項目が割当てられなかった場合は、ホスト言語配列内の対応する要素は NULL に設定されます。

解決方法: ホスト言語配列のサイズを大きくするか、PL/SQL 表のサイズを小さくしてください。また、1 未満の索引値を使用していないことも確認してください。

ORA-06514: PL/SQL: サーバーはリモート・コールを処理できません。

原因: リモート・コールにはカーソルの変数である複数のパラメータがありました。これは、ご使用のサーバーのストアード・プロシージャでは処理できません。

解決方法: このサーバーで格納されたプロシージャとしてカーソル変数を使用しないようにするか、これをサポートするバージョンにサーバーをアップグレードしてください。

カーソル変数の使用方法の詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の索引項目「カーソル変数」を参照してください。

ORA-06515: PL/SQL: 未処理例外 *error*

原因: PL/SQL コードによって例外が発生しましたが、処理されました。例外番号は、Oracle エラーの正当な範囲外です。

解決方法: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、ユーザーのアプリケーションの管理者または DBA に連絡してください。

ORA-06516: PL/SQL: Probe パッケージが存在しないか、または無効です。

原因: Probe パッケージがロードされていないか、無効になってしまったことが原因で、PL/SQL をデバッグするために Oracle Server を初期化しようとする Probe 操作が完了しなかった可能性があります。

解決方法: DBA は、Probe パッケージをロードする必要があります。RDBMS で提供されている PBLOAD.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-06517: PL/SQL: プローブ・エラー - error

原因: 実行用にプローブ操作をサーバーへ渡しているときにエラーが発生しました。

解決方法: 組み込まれたエラー・メッセージのエントリを参照してください。

ORA-06518: PL/SQL: プローブ・バージョン *num* がバージョン *num* と互換性がありません。

原因: プローブの現行バージョンは、Oracle Server 上のバージョンと互換性がありません。

解決方法: マニュアルを参照して、このレベルの互換性がサポートされていることを確認してください。

ORA-06520: PL/SQL: 外部ライブラリのロード中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL で外部ライブラリを動的にロードしているときにエラーが検出されました。

解決方法: 続いて表示されるメッセージがある場合は、そのメッセージを参照して詳細を確認してください。

ORA-06521: PL/SQL: ファンクションのマッピング・エラー

原因: PL/SQL で指定されたファンクションを動的にマップしているときにエラーが検出されました。

解決方法: 続いて表示されるメッセージがある場合は、そのメッセージを参照してエラーの詳細を確認してください。

ORA-06522: *num*

原因: ORA-06520 または RA-0652 後に、システム固有のエラー文字列を伴うメッセージを表示する場合があります。

解決方法: このメッセージは、ORA-06520 または ORA-06521 のエラーの原因を示しています。

ORA-06523: 引数が最大値を超えています。

原因: 外部ファンクションに渡す引数の値には上限があります。

解決方法: ポート固有のマニュアルを参照して、上限の計算方法を確認してください。

ORA-06524: サポートされていないオプション : name

原因: 指定されたオプションは、外部プロシージャ用にはサポートされていない機能です。

解決方法: 外部指定の構文を修正してください。

ORA-06525: CHAR または RAW データの長さが一致しません。

原因: 長さ変数で指定された長さは、正しい値ではありません。対応する長さ変数のない RAW として INOUT または OUT、RETURN ロー変数を渡すように、PL/SQL に要求した可能性があります。長さ変数にセットされた長さの値が、orlvstr または orlraw にセットされた長さとは一致しない場合も、このエラーが発生します。

解決方法: 外部プロシージャ・コードを訂正して、長さ変数を正しく設定してください。

ORA-06526: PL/SQL ライブラリをロードできません。

原因: EXTERNAL 構文で参照されているライブラリを PL/SQL でインスタンス化できません。これは、重大なエラーです。通常は発生しません。

解決方法: この問題をオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06530: PL/SQL ライブラリをロードできません。

原因: 初期化されていないオブジェクトまたは LOB、その他のコンポジットを間接的に参照しました。

解決方法: 適切なコンストラクタを使用またはオブジェクト全体を割り当てて、コンポジットを初期化してください。

ORA-06531: 参照しているコレクションは初期化されていません。

原因: (初期化されたコレクションが必要な場合に) コレクションを初期化せずに、ネストした表または VARRAY の要素またはメンバー関数を参照しました。

解決方法: 適切なコンストラクタを使用またはオブジェクト全体を割り当てて、コレクションを初期化してください。

ORA-06532: サブスクリプトが有効範囲外です。

原因: サブスクリプトが VARRAY の限界を超えています。または、VARRAY またはネストした表に対してポジティブではありません。

解決方法: プログラムのロジックを確認して、必要があれば VARRAY の限度を上げてください。

ORA-06533: サブスクリプトが制限数を超えています。

原因: インリミット・サブスクリプトが VARRAY のカウントを超えています。または、ネストした表に対して大きすぎます。

解決方法: プログラムのロジックを確認して、必要があれば明示的に拡張してください。

ORA-06534: トリガー・コンテキストの Serially Reusable パッケージ *name* にアクセスできません。

原因: トリガー・コンテキストで、Serially Reusable パッケージ にアクセスを試みましたが、このようなアクセスは、現在サポートされていません。

解決方法: プログラム論理を調べて、トリガー・コンテキストにある Serially Reusable パッケージ (プロシージャ、ファンクション、変数参照) に対する参照を削除してください。

ORA-06540: PL/SQL コンパイル・エラー

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。ただし、通常では、このメッセージは表示されません。また、このメッセージの後には PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

解決方法: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06541: PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中止されました。

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生し、コンパイルが異常終了しました。ただし、通常では、このメッセージは表示されません。また、このメッセージの後には PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

解決方法: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06544: PL/SQL: 内部エラーです。引数 :arg1, arg2, arg3,arg4, arg5, arg6, arg7, arg8

原因: A PL/SQL 内部エラーが発生しました。

解決方法: このエラーをバグとして報告してください。最初の引数は内部エラー番号です。

ORA-06545: PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中止されました。

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが起きましたが、このコンパイル・単位がバックアップ格納以外に書き込まれたため、コンパイルが異常終了しました。ORA-06541 の場合と異なり、ユーザーは、付属する PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照します。

解決方法: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06550: ライン :num、列 :num: str

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。ラインと列に対して示された数値は PL/SQL ブロック内においてエラーの発生した位置です。

解決方法: エラーについての情報は、次の PL/SQL メッセージを参照してください。

ORA-06554: PL/SQL を使用する前にパッケージ DBMS_STANDARD を作成しなければなりません。

原因: PL/SQL に必要なデータ・ディクショナリ・スクリプトがまだ実行されていません

解決方法: 詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』と使用している Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

ORA-06555: この名前は現在ユーザー :SYS によって予約されています。

原因: STANDARD または DBMS_STANDARD、DBMS_OUTPUT という名前のパッケージを作成しようとした。これは許可されていません。

解決方法: パッケージに別の名前を選択してください。

ORA-06556: パイプが空です。UNPACK_MESSAGE 要求を実行できません。

原因: パイプには何も項目がありません。

解決方法: 送信側と受信側でパイプの項目の数と型が同期がとれているかを確認してください。

ORA-06557: icd's をパイプするパラメータには NULL 値を使用できません。

原因: DBMS_PIPE パッケージから内部エラーがでました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06558: dbms_pipe パッケージのバッファが限界です。これ以上の項目は使用できません。

原因: 原因 : パイプ・バッファ・サイズが限界です。

解決方法: プログラムを検査して、パイプへの入出力の比率を分析してください。パイプから項目を取り出す必要がある場合は、RECEIVE_MESSAGE を実行します。また、パイプ全体を空にする必要がある場合は、そのパイプに対して PURGE を実行します。

ORA-06559: 間違ったデータ型が要求されました。実際のデータ型 type は type です。

原因: 送信側が、要求されたデータ型 (パッケージ DBMS_PIPE) とは異なるデータ型をパイプ上に置きました。認識されるデータ型と対応する数値は : 6 - 数値、9 - 文字列、12 - 日付です。

解決方法: 送信側と受信側でパイプの項目の数と型が同期がとれているかを確認してください。

ORA-06560: pos、num は、負数またはバッファ・サイズ num よりも大きい値です。

原因: DBMS_PIPE パッケージから内部エラーがでました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-06561: パッケージ DBMS_SQL ではこの文はサポートされていません。

原因: パッケージ DBMS_SQL で提供されているプロシージャ PARSE を使用して、サポートされていない文を解析しようとした。

解決方法: サポートされているのは、SELECT または DELETE、INSERT、UPDATE、LOCK、BEGIN、DECLARE、<= (PL/SQL ラベルセパレータ) で始まる文だけです。

ORA-06562: 外部の引数の型が列またはバインド変数の型に合致しません。

原因: パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールして、列またはバインド変数の値を取得しようとした

た。ただし、指定された外部引数のタイプが、DBMS_SQL パッケージの DEFINE_COLUMN プロシージャ（列定義の場合）または BIND_VARIABLE プロシージャ（バインド変数をバインドする場合）をコールして以前定義した列またはバインド変数のタイプと異なっていました。

解決方法： プロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールするときに、正しい型の OUT 引数を渡してください。この場合の正しいタイプとは、列の定義またはバインド変数のバインド時に指定したタイプのことです。

ORA-06563: 指定されたオブジェクトはサブパーツになることができません。

原因： 解決される名前に 3 つの部分 a、b、c を指定しましたが、a と b の部分はプロシージャがネストされていない最上位レベルのプロシージャまたはファンクションに解決されました。これは、2 パーツ名 a.b. の場合も発生します。

解決方法： 有効なオブジェクトを指定してください。

ORA-06564: オブジェクト :name が存在しません。

原因： 指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。存在していないか、アクセス許可がない可能性があります。

解決方法： オブジェクトを作成するか、オブジェクトへのアクセス許可を取得してください。

ORA-06565: name をストアド・プロシージャの内部から実行することができません。

原因： 指定されたプロシージャを、ストアド・プロシージャ、ファンクションの内部から実行することができません。このファンクションは、PL/SQL の無名ブロックからしか使用できません。

解決方法： コールするストアド・プロシージャからプロシージャを削除してください。

ORA-06566: 指定された行数が無効です。

原因： DBMS_SQL パッケージの DEFINE_COLUMN プロシージャに対するコールに指定された行数が、無効でした。指定カーソル位置の指定されている解析文の場合、すべての列に同じ行数を定義するので、DEFINE_COLUMN に対するすべてのコールに同じ行数を指定する必要があります。

解決方法： 前に定義された列と同じ番号を指定してください。

ORA-06567: 指定されている値の数が無効です。

原因： DBMS_SQL パッケージの BIND_VARIABLE プロシージャに対するコールに指定されたバインド値の数が無効でした。指定カーソル位置の指定されている解析文の場合、すべてのバインド変数に同じ数の値をバインドするので、BIND_VARIABLE に対するすべてのコールに同じ数の値を指定する必要があります。

解決方法： 各バインド変数に同じ数の値が指定されているかどうかを確認してください。

ORA-06568: 廃止になった ICD プロシージャがコールされました。

原因: PL/SQL プログラムによって呼び出された ICD プロシージャは、廃止されました。この PL/SQL プログラムは、Oracle 旧リリース用である可能性があります。

解決方法: README ドキュメントのアップグレード手順にしたがって、または CATPROC.SQL スクリプトを実行して、すべての PL/SQL パッケージが最新のリリースの Oracle にアップグレードされているかどうかを確認してください。

ORA-06569: BIND_ARRAY で結合されたコレクションに要素がありません。

原因: 要素が 0 個のコレクションが、パッケージ DBMS_SQL 内のプロシージャ BIND_ARRAY のコールでバインド変数にバインドされました。コレクションのバインドを実行するためには、コレクションに少なくとも 1 つの要素が含まれている必要があります。実行時に要素が 1 つもないと値がバインドされず、文を実行する意味がありません。

解決方法: バインドする要素でコレクションを埋めて、バインド・コールをやり直してください。

ORA-06570: 共有プール・オブジェクトが存在しないため、ピンできません。

原因: 指定された共有プールの共有カーソルが見つかりません。このため、ピンできません。

解決方法: 正しい共有カーソル名が指定されているかどうかを確認してください。名前の文字列形式は "HHHHHHHHH,SDDDDDDDDDD" で、この場合、H は V\$SQLAREA の "address" 列の 8 桁の 16 進数、D は "hash_value" 列の 1 から 10 桁の 10 進数 (オプションの先行記号付き) を表しています。

ORA-06571: ファンクション :name が、データベースを更新しないという保証はありません。

原因: このメッセージが出力される原因は 2 つ考えられます。

- SQL 文が、データベースが更新されないようにするプラグマが含まれていないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照しています。
- SQL 文が、データベースを更新する指示が含まれているスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照しています。

解決方法: 参照されたファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、必要なプラグマで PL/SQL ファンクションを再作成し、プラグマの引数リストに "Write No Database State" (WNDS) 引数を指定してください。

参照されたファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合、そのファンクションを使用しないでください。

ORA-06572: ファンクション name に OUT 引数があります。

原因: SQL 文は、引数リストに OUT パラメータが含まれているパッケージ化された PL/SQL ファンクションまたはスタンドアロン PL/SQL ファンクションのどちらかを参照します。SQL 文によって参照される PL/SQL ファンクションには、OUT パラメータが含まれてはいけません。

解決方法：引数リストで OUT パラメータを使用せずに、PL/SQL ファンクションを再作成してください。

ORA-06573: ファンクション :name はパッケージ状態を変更するので、ここでは使用できません。

原因：このメッセージが出力される原因は 2 つ考えられます。

- SQL 文は、「Write no Package State」(WNPS) が含まれているプラグマを含んでいないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照します。
- SQL 文は、パッケージ状態を変更するスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照します。SQL 文によって参照されるスタンドアロン PL/SQL ファンクションは、パッケージ状態を変更できません。

解決方法：ファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、ファンクションを再作成して、「Write no Package State」(WNPS) を含むプラグマを追加してください。

ファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合、SQL 文からそのファンクションを削除してください。

ORA-06574: ファンクション :name はパッケージ状態を参照するので、リモートで実行できません。

原因：このメッセージが出力される原因は 2 つ考えられます。

- 「Write no Package State」(WNPS) 引数および「Read no Package State」(RNPS) 引数を持つプラグマを含んでいないリモート・パッケージ化されたファンクション、またはリモート・マップしたローカル・パッケージ化されたファンクションが、パッケージ状態を参照します。
- リモート・スタンドアロン・ファンクションまたはリモート・マップされたローカル・スタンドアロン・ファンクションに、パッケージ変数を読み書きするパッケージ状態への参照が含まれています。

SELECT リスト、INSERT 文の VALUES 句、UPDATE 文の SET 句で参照されるローカル・ファンクションだけがパッケージ状態を変更できます。

解決方法：ファンクションがパッケージ化されたファンクションの場合は、ファンクションを再作成して、「Write no Package State」(WNPS) および「Read no Package State」(RNPS) 引数を含むプラグマを追加してください。

ファンクションがスタンドアロン・ファンクションの場合は、このファンクションをコールしないでください。

ORA-06575: ファンクション :name は無効な状態です。

原因：SQL 文は、無効な状態になっている PL/SQL ファンクションを参照します。Oracle がファンクションをコンパイルしようとしたが、エラーを検出しました。

解決方法: SQL 文および PL/SQL ファンクションに構文エラーがないかどうか、参照されているオブジェクトに権限が正しく割り当てられているかどうか、権限が欠落していないかどうかを確認してください。

ORA-06580: メモリー内に大きな行を保持中にハッシュ結合でメモリーがなくなりました。

原因: ハッシュ結合で 1 つの行に対してスロットを 3 つ (各スロットのサイズ = `DB_BLOCK_SIZE * HASH_JOIN_MULTIBLOCK_IO_COUNT`) 確保していました。行が各スロット・サイズよりも大きい場合にこのエラーが発生します。

解決方法: 結合された行がスロットに入るように、`HASH_JOIN_MULTIBLOCK_IO_COUNT` を増やしてください。 `HASH_AREA_SIZE` も増やす必要があります。

ハッシングおよびハッシュ・クラスタの管理についての詳細は、『Oracle8 Server アプリケーション開発者ガイド』の索引項目「ハッシュ・クラスタ」と『Oracle8 Server チューニング』の索引項目「ハッシング、使用方法」を参照してください。

European OEM Ports メッセージ : 06581 ~ 06591

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Net メッセージ : 06600 ~ 06699

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Net TLI メッセージ : 06700 ~ 06899

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

CMX メッセージ : 06900 ~ 06939

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Net AppleTalk メッセージ : 06950 ~ 06999

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Connect for DB2 メッセージ : 07000 ~ 07099

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Connect for IMS メッセージ : 07100 ~ 07199

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

UNIX メッセージ : 07200 ~ 07499

ORA-07200: slsid: ORACLE_SID が設定されていません。

原因 : 環境変数 (ORACLE_SID) が設定されていません。

解決方法 : ORACLE_SID 環境変数を設定してください。

ORA-07201: slhom: 環境設定で \$ORACLE_HOME 変数が設定されていません。

原因 : \$(ORACLE_HOME) 環境変数が設定されていません。

解決方法 : \$ORACLE_HOME を設定してください。

ORA-07202: sltln: sltln のパラメータが無効です。

原因 : sltln 名前変換ルーチンのコールで、無効な引数が使用されました。入力または出力文字列が NULL か長さ 0 です。内部エラーの可能性あります。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07203: sltln: 変換する環境変数が長すぎます。

原因 : 長い環境変数を含む文字列が sltln に渡されました。sltln が受け入れる環境名は、30 文字以下です。

解決方法 : 環境変数名を 30 文字より短くしてください。

ORA-07204: sltln: 出力バッファ領域不足のため名前の変換に失敗しました。

原因 : sltln ルーチンの中に入れる名前を拡張するための最大長バッファを与られません。このバッファは、オーバーフローしました。これは、内部エラーの可能性あります。

解決方法 : sercose[0] に格納された出力バッファの長さを調べてください。パス名は、255 文字までです。

ORA-07205: slgtd: time エラーが発生したため、時間を取得できません。

原因 : Time() システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07206: slgtd: gettimeofday エラーが発生したため、時間を取得できません。

原因 : gettimeofday() システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性があります。

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07207: slgtd: gettimeofday エラーが発生したため、時間を取得できません。

原因 : sigpidu ルーチンはプロセス ID 文字列を保持するための最大 長バッファを与られます。このバッファは、オーバーフローしました。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07208: sfwfb: 使用済バッファをディスクヘフラッシュするのに失敗しました。

原因 : fsync システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07209: sfofi: ファイル・サイズ制限を超えています。

原因 : オープンしようとしたファイルのサイズがこのプロセスに乗じた OS の制限を超過しました。

解決方法 : osh を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07210: slcpu: getrusage エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因 : Getrusage システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07211: slgcs: gettimeofday エラーが発生したため wall clock を取得できません。

原因 : gettimeofday システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま

解決方法 : 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07212: slcpu: times エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因 : Times システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07213: slgcs: times エラーが発生したため wall clock を取得できません。

原因: Times システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性にあります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07214: slgunm: uname エラーが発生したためシステム情報を取得できません。

原因: uname システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性にあります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07215: slsget: getrusage エラーが発生しました。

原因: Getrusage システム・コールからエラーが戻されました。これは、OS エラーの可能性にあります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07216: slghst: gethostname エラーが発生したため現ホスト名を取得できません。

原因: Gethostname システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS エラーの可能性にあります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07217: sltln: 環境変数の値を求めることができません。

原因: Getenv コールから NULL ポインタが戻されました。

解決方法: 環境変数を設定して、やり直してください。

ORA-07218: slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: UNIX system() コールに失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べてください。

ORA-07219: slspool: スプール引数をバッファに割当てることができません。

原因: スプーラ引数を入れる領域が割当てられませんでした。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07220: slspool: wait エラーが発生しました。

原因: スプール・ジョブの完了を待機しているときに、エラーが戻されました。これは、スプーラ・プログラム・エラーの可能性にあります。

解決方法: 戻された追加情報を OS リファレンス・マニュアルで調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07221: slspool: exec エラーが発生したためスプール・プログラムを起動できません。

原因: ラインプリンタ・スプール・コマンドの起動時に、Exec が失敗しました。デフォルトのラインプリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されていない可能性があります。

解決方法: デフォルトのラインプリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されているかどうかを調べてください。ORACLE_LPPROG を稼動しているラインプリンタ・スプールに設定してください。

ORA-07222: slspool: ラインプリンタ・スプール・コマンドがエラーで終了しました。

原因: ラインプリンタ・スプールが終了し、ゼロ以外の値を戻しました。ファイルのスプール中にエラーが発生した可能性があります。

解決方法: ラインプリンタ・スプールが稼動しているかどうかを確認してください。ORACLE_LPPROG および ORACLE_LPARG が正しく設定されているかどうかを調べてください。終了戻り値から追加情報を調べてください。

ORA-07223: slspool: fork エラーが発生したためスプール・プロセスを実行できません。

原因: Fork システム・コールが失敗したため、追加プロセスが作成できませんでした。リソース制限に達した可能性があります。

解決方法: 戻された追加情報を調べてください。操作を再試行してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07224: sfmfy: ファイル・サイズ制限の取得に失敗しました (エラー番号 :numbers)。

原因: ulimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07225: sldex: 変換エラーが発生したためファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報として、sltln のエラーが戻されます。

解決方法: 追加情報を調べてください。

ORA-07226: rtneco: 端末モードを取得できません。

原因: ioctl コールからエラーが戻りました。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。

解決方法: errno の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07227: rtneco: noecho モードを設定できません。

原因: ioctl コールからエラーが戻りました。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。

解決方法 : errno の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07228: rtecho: 端末を echo モードへ戻せません。

原因 : ioctl コールからエラーが戻されました。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。

解決方法 : errno の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07229: slcpuc: CPU 数の獲得でエラーが発生しました。

原因 : mpcntl システム・コールでエラーが発生しました。

解決方法 : errno を調べてください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07230: slemcr: fopen エラーが発生したためファイルをオープンできません。

原因 : Fopen でファイルがオープンできませんでした。

解決方法 : オープンできなかったファイルを調べてください。そのファイルが存在し、アクセス可能かどうかを調べてください。

ORA-07231: slemcc: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因 : ファンクション・コールで無効な引数が使用されました。取得できなかったファイル・ハンドルは slemcr です。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07232: slemcc: fclose エラーが発生しました。

原因 : ファイルのクローズでエラーが発生しました。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。

解決方法 : システム管理者に連絡してください。

ORA-07233: slemcw: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因 : ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。slemcr がファイル・ハンドルを獲得できませんでした。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07234: slemcw: ファイルのシーク・エラーが発生しました。

原因 : ファイルの要求位置をシークできません。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。これは、内部エラーの可能性もあります。

解決方法 : エラー・メッセージが残っているかどうかを調べてください。エラー・メッセージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07235: slemcw: ファイルの fwrite エラーが発生しました。

原因: ファイルへの項目書込みに失敗しました。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。これは、許可問題の可能性もあります。

解決方法: 操作を再試行してください。

ORA-07236: slemop: ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: エラー・ファイルのオープンに失敗しました。これは、許可問題の可能性もあります。

解決方法: エラー・メッセージ・ファイルに対する許可を調べてください。errno の追加情報を調べてください。

ORA-07237: slemcl: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。前の slemop の呼出しでハンドルが獲得されませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07238: slemcl: ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルがクローズできません。これは、OS エラーの可能性もあります。

解決方法: システム管理者に連絡してください。errno の追加情報を調べてください。

ORA-07239: slemrd: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。slemop の呼出しでハンドルが獲得されませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07240: slemrd: ファイルのシークでエラーが発生しました。

原因: ファイルの要求位置をシークできません。これは、OS エラーの可能性もあります。

解決方法: エラー・ファイルがまだ存在しているかどうかを調べてください。デバイスの領域を調べてください。システム管理者に連絡してください。errno の追加情報を調べてください。

ORA-07241: slemrd: ファイルの読込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルを読み込めません。これは、OS エラーの可能性もあります。

解決方法: エラー・ファイルが存在しているかどうかを調べてください。エラー・メッセージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。errno の追加情報を調べてください。

ORA-07242: slembfn: 変換エラーが発生しました。エラーのファイル名は変換できません。

原因: 追加情報に sltln から戻されたエラーが表示されます。

解決方法: 追加情報を調べてください。

ORA-07243: sftget: バッファ・サイズ不足のため全行を読み込みません。

原因: 提供されたバッファが小さいため、fgets コールは行の一部しか読み取りませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。追加情報として、提供されたバッファ・サイズが示されます。

ORA-07244: ssfcf: ファイル・サイズ制限を超えたためファイルの作成に失敗しました。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとした。

解決方法: osh を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07245: sfccf: 最後のブロックに lseek および書き込みができません。

原因: 無効なデバイス・アドレスを移動して書き込もうとしました。

解決方法: errno を調べてください。デバイスの空き容量が足りない可能性があります。

ORA-07246: sfofi: オープン・エラー : データベース・ファイルをオープンできません。

原因: sfofi からエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07247: sfrfb: 読み込みエラー : データベース・ファイルから要求されたブロックを読み込みません。

原因: sfrfb からエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07248: sfwfb: 書き込みエラー : データベース・ブロックを書き込みません。

原因: sfwfb からエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07249: slsget: open エラーが発生したため /proc/pid をオープンできません。

原因: Open() からエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: /proc に正しい権限があるかどうかを調べてください。

ORA-07250: spcre: semget エラーが発生したためセマフォを取得できません。

原因: 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07251: spcre: semget エラーが発生したため 1 つもセマフォを割当てられません。

原因: 断片化に失敗したため、シングル・セマフォが割り当てられませんでした。すべて使用中か、あるいはセマフォを持つようにシステムが構成されていません。

解決方法: すべてのセマフォが使用中かどうかを調べてください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。errno を調べます。

ORA-07252: spcre: semget エラーが発生したためセマフォを割当てられません。

原因: semget システム・コールからエラーが戻りました。リソース制限問題の可能性あります。

解決方法: errno を調べてください。システムで十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。セマフォ・セットの破棄中にもエラーが発生すると、sercose[0] にゼロ以外の値が戻ります。この場合には、ipcrm を使用して、セマフォ・セットを削除してください。

ORA-07253: spdes: semctl エラーが発生したためセマフォを無効にできません。

原因: semctl システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: セマフォ・セットを調べてください。これは、手動のクリーン・アップが必要になります。戻された追加情報を調べてください。OS リファレンス・マニュアルを参照してください。

ORA-07254: \$ORACLE_HOME/bin/oracle を拡張する際に変換エラーが発生しました。

原因: Oracle で実行可能な名前の変換中にエラーが発生しました。

解決方法: sltln から戻ってきたエラーのための sercose[0] を調べてください。場合によって、\$(ORACLE_HOME) が正しく設定されません。

ORA-07255: spini: シグナル・ハンドラを設定できません。

原因: シグナル・ハンドラを設定できません。

解決方法: 失敗したシグナル番号の errno および sercose[0] を調べてください。

ORA-07256: sptrap: 例外を取り込むためのシグナル・ハンドラを設定できません。

原因: 例外を取り込むためのシグナル・ハンドラを設定できません。

解決方法: 失敗したシグナル番号の errno および sercose[0] を調べてください。

ORA-07257: spdcr: プログラム名の拡張で変換エラーが発生しました。

原因: プログラム名 ora_PNAME_sid の展開中にエラーが発生しました。この変換の結果は、oracle プロセスの argv[0] に出力されます。

解決方法: sercose[0] にある sltln から戻ったエラーを調べてください。

ORA-07258: spdcr: fork エラーが発生したためプロセスを作成できません。

原因: 新しいプロセスの作成中にエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。プロセス数のシステム制限を超えた可能性があります。

ORA-07259: spdcr: exec エラーが発生したためプロセスの起動が失敗しました。

原因: 起動直後に oracle 分離プロセスが停止しました。Wait() は終了した子プロセスを示します。

解決方法: トレースまたはコア・ファイル用 \$ORACLE_HOME/dbs ディレクトリを調べてください。errno を調べます。

ORA-07260: spdcr: wait エラーが発生しました。

原因: Wait システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-07261: spdde: kill エラーが発生したためプロセスへシグナルを送信できません。

原因: Kill システム・コールからエラーが戻りました。場合によっては、すでに実行しているプロセスを破棄しようとします。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-07262: sptpa: sptpa のコールでに指定したプロセス ID が無効です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07263: sptpa: kill エラーが発生しました。

原因: Kill システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS エラーの可能性がります。

解決方法: errno を調べてください。追加情報として、テストされたプロセス ID が示されます。

ORA-07264: spwat: semop エラーが発生したためセマフォを減らすことができません。

原因: Semop システム・コールからエラーが戻りました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

解決方法: errno を調べてください。セマフォ ID は [0] に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを調べてください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に "shutdown abort" が行われた可能性があります。

ORA-07265: sppst: semop エラーが発生したためセマフォを増やすことができません。

原因: Semop システム・コールからエラーが戻りました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

解決方法: errno を調べてください。セマフォ ID は [0] に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを調べてください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に "shutdown abort" が行われた可能性があります。

ORA-07266: sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な oracle プロセス ID が渡されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07267: spwat: プロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な oracle プロセス ID が渡されました。内部エラーです。

解決方法: 追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。

ORA-07268: szguns: getpwuid エラーが発生しました。

原因: Getpwuid() が、ユーザーの passwd ファイルにある入力の実行に失敗しました。

解決方法: パスワード・ファイルにユーザーの項目を追加してください。

ORA-07269: spdcr: デタッチ・プロセスが起動後すぐに停止しました。

原因: 分離プロセスは安全に実行しましたが、この直後に停止してしまう。

解決方法: プロセス終了の原因に関する情報の終了コードを調べてください。コア・ダンプまたはトレース・ファイルを確認してください。追加情報は終了コードおよび終了状態を示します。

ORA-07270: spalck: setitimer エラーが発生しました。インターバル・タイマーを設定できません。

原因: 間隔タイマーをセットしようとしてエラーが発生しました。おそらく、これに問題があります。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-07271: spwat: oracle プロセス番号が無効です。

原因: ファンクション・コールで無効な oracle プロセス番号 (0) が使用されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07272: spwat: セマフォ・セット ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID が有効な値で初期化できませんでした。追加情報として、セマフォ・セット索引、および oracle プロセス番号が戻されます。内部エラーです。

解決方法: セマフォ・セット索引を調べてください。oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07273: sppst: セマフォ ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID に無効な値がありました。追加情報として、セマフォ・セット索引、および oracle プロセス番号が戻されます。内部エラーです。

解決方法: セマフォ・セット索引を調べてください。oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07274: spdcr: アクセス・エラーが発生したため oracle にアクセスできません。

原因: oracle プログラムへのアクセスの失敗です。\$ORACLE_HOME/bin/oracle または \$ORABCKPRG の存在と実行可能かどうかを調べてください。

解決方法 : errno を調べてください。

ORA-07275: 処理するシグナルを送信できません。

原因 : Kill システム・コールからエラーが戻りました。場合によっては、存在していないプロセスにシグナルを送信しようとします。

解決方法 : errno を調べてください。

ORA-07276: /etc/group に dba グループが指定されていません。

原因 : グループに dba ユーザーのための設定がありません。

解決方法 : システム管理者に連絡してください。/etc/group に dba グループを設定してください。

ORA-07277: spdde: 引数として渡されたプロセス ID は無効です。

原因 : 0 のプロセス ID が spdde に渡されました。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07278: splon: ops\$username がバッファ長を超えています。

原因 : Splon が ops\$username ログオンを構成しましたが、割当てられたバッファ領域を超えていました。

解決方法 : 省略した UNIX ユーザー名または Oracle ユーザー名を使用してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07279: spcre: semget エラーが発生したためセマフォを取得できません。

原因 : 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

解決方法 : errno を調べてください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07280: slsget: プロセス情報を取得できません。

原因 : ioctl コールからエラーが戻りました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法 : errno の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07281: slsget: times エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因 : Times システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法 : 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07282: sksaprd: 文字列のオーバーフローが発生しました。

原因 : 内部バッファが大きくないため、アーカイブ制御文字列を保持できません。これは、内部制限です。

解決方法: アーカイブ制御文字列を短くしてみてください。

ORA-07283: sksaprd: アーカイブ先のポリリューム・サイズが無効です。

原因: 無効なポリリューム・サイズが指定されました。

解決方法: アーカイブ制御文字列で有効なポリリューム・サイズを指定してください。

ORA-07284: sksaprd: 指定されたポリリューム・サイズは無効です。

原因: ポリリューム・サイズ仕様部の次に数字ではないテキストがあります。

解決方法: 正しいアーカイブ制御文字列を入力してください。

ORA-07285: sksaprd: ポリリューム・サイズはディスク・ファイルに指定できません。

原因: ポリリューム・サイズがディスク・ファイル用に指定されていました。

解決方法: ディスク・ファイルをアーカイブする場合、ポリリューム・サイズを指定しないでください。

ORA-07286: sksagdi: デバイス情報が取得できません。

原因: ログのアーカイブ・デバイス上の Stat が失敗しました。

解決方法: 失敗の理由について戻ってきた OSD エラーを調べてください。

ORA-07287: sksagdi: ログ・アーカイブ用にデバイスはサポートされていません。

原因: そのデバイスへのログのアーカイブはサポートされていません。

解決方法: サポートされているデバイスへのログのアーカイブを試してください。

ORA-07290: sksagdi: アーカイブ先に指定されたディレクトリが存在しません。

原因: 指定されたパス名は、ディレクトリではありません。

解決方法: アーカイブ宛先のディレクトリが存在するかどうかを調べてください。

ORA-07300: smscre: \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf の拡張で変換エラーが発生しました。

原因: smscre の sltln(\$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf) の故障です。

解決方法: 詳細は、その他のリターン・エラーを調べてください。

ORA-07301: smscre: SGA の作成時には、\$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルがすでに存在しています。

原因: SGA の作成を行おうとしている間は、sgade f ファイルは存在 できません。別の処理で実行するインスタンスはひどくなります。sltln からのエラーは sercose[0] に格納されます。

解決方法: データベースが本当に停止したことを確認して、sgade f ファイルを削除してください。これは、システムがデータベース稼働中に破損したときにのみ起きます。クリーン・アップした sgade f ファイルは、/etc/rc の外に置くことができます。

ORA-07302: smscre: \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルの作成に失敗しました。

原因: sgade f file を作成しようとしているときに Create() が失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME)/dbs ディレクトリ上の許可があることを確認してください。

ORA-07303: smscre: データベース・バッファ・サイズが無効です。

原因: データベース・バッファ・サイズはデータベース・ブロック・サイズの倍数で最大ブロック・サイズより小さくなっています。

解決方法: init.ora の DB_BLOCK_SIZE パラメータを修正してください。

ORA-07304: smscre: REDO バッファ・サイズが無効です。

原因: 再実行バッファ・サイズをマシン・ブロック・サイズの倍数にしてください。

解決方法: LOG_BUFFER init.ora パラメータが正しいことを確認してください。

ORA-07305: sms1sg: SGA の作成で ftok エラーが発生しました。

原因: ftok() ライブラリ・コールが sms1sg() で失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。存在する場合には、システム障害の可能性があります。System V との互換性がない可能性があります。

ORA-07306: sms1sg: shmget エラーが発生したため共有メモリー・セグメントを獲得できません。

原因: shmget でエラーが発生しました。SGA 全体が入る十分なシングル・セグメントが見つからないときに、致命的なエラーが発生したため、次の割当てモデルに進むことができませんでした。

解決方法: errno を調べてください。SGA 全体が入る十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-07307: sms1sg: shmat エラーが発生したため SGA を Attach できません。

原因: 共有メモリー・セグメントの付加に失敗し、その後に実行しようとした。

解決方法: errno を調べてください。SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-07308: smscre: 書き込みエラー : \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルへ書き込めません。

原因: smscre で書き込みコールに失敗しました。場合によっては、デバイス領域が不足しています。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-07309: smscre: クローズ・エラー : \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルをクローズできません。

原因: Close システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS 障害の可能性がります。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-07310: smscre: SGA を作成できません。

原因: すべての SGA 割当てモデルが試されましたが、成功したものがありません。これは、Oracle システム・エラーの可能性がります。

解決方法: SGA 全体が 1 つのセグメント内に合うように、UNIX カーネルの再構築を試してください。

ORA-07311: smsdes: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf のファイル名の拡張に失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME) と (ORACLE_SID) が正しくセットされていることを確認してください。sltn が戻したエラー番号から、その他のエラーを調べてください。

ORA-07312: smsdes: オープン・エラー : sgadef.dbf ファイルをオープンできませんでした。

原因: sgadef.dbf ファイルをオープンしようとしているときに失敗しました。これは、許可問題の可能性がります。

解決方法: errno を調べます。sgadef.dbf ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-07313: smsdes: 読み込みエラー : sgadef.dbf ファイルを読み込みませんでした。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf を読み込もうとしたときに、読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。Sgadef ファイルは不正になっているか、Oracle バージョンとの互換性がない場合があります。

ORA-07314: smsdes: 共有メモリー・セグメントを破棄しようとしたときに、shmctl エラーが発生しました。

原因: 共有メモリー・セグメントを破棄しようとしたときに、Shmctl(IPC_RMID) コールが失敗しました。これは、許可問題の可能性がります。

解決方法: errno を調べてください。共有されているかを調べてください。手動でセグメントを移動する必要がある場合もあります。

ORA-07315: smsdes: クローズ・エラー : sgadef.dbf ファイルをクローズできません。

原因: sgadef.dbf をクローズするときに、close() でエラーが発生しました。これは、OS エラーの可能性がります。

解決方法: sgadef.dbf ファイルが削除されていることを確認してください。

ORA-07316: smsdes: unlink エラーが発生したため sgadef.dbf ファイルを削除できません。

原因: sgadef.dbf ファイルを破棄しようとしているとき、Unlink() でエラーが発生しました。

解決方法：errno を調べてください。sgadef.dbf ファイルが破棄されていることを確認してください。これは、手動のクリーン・アップが必要になります。

ORA-07317: smsget: sgadef.dbf ファイル名の拡張で変換エラーが発生しました。

原因：\$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf の変換中にエラーが発生しました。

解決方法：\$(ORACLE_HOME) および (ORACLE_SID) の設定が正しいことを確認してください。sltn から戻った追加されたエラーを調べてください。

ORA-07318: smsget: sgadef.dbf ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因：sgadef.dbf ファイルがオープンできません。これは、許可問題の可能性がありません。

解決方法：errno を調べてください。sgadef.dbf ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-07319: smsget: sgadef.dbf ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因：sgadef.dbf ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法：errno を調べてください。ファイルが存在し、適切なサイズかどうかを調べてください。

ORA-07320: smsget: SGA を attach する際に shmat エラーが発生しました。

原因：セグメントが連結できません。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法：errno を調べてください。Sercose[0] にセグメント ID が戻ります。セグメントが存在し、許可が正しいかどうかを調べてください。

ORA-07321: smsget: shmat エラーが発生したため要求されたアドレスでセグメントを Attach できません。

原因：sercose[0] にセグメント ID が戻ります。

解決方法：errno を調べてください。

ORA-07322: クローズ・エラー：sgadef.dbf ファイルをクローズできません。

原因：sgadef.dbf ファイルがクローズできません。これは、OS エラーの可能性がありません。

解決方法：再試行してください。

ORA-07323: smsfre: shmdt エラーが発生したため SGA を削除できません。

原因：共有セグメントの削除で問題が発生しました。

解決方法：再試行してください。errno を調べます。共有メモリのセグメントは、手動でクリーン・アップしなければならない可能性があります。

ORA-07324: smpall: PGA 割当て中に malloc エラーが発生しました。

原因：メモリー割当てライブラリからエラーが戻りました。スワップ領域が不足している可能性があります。

解決方法 : errno を調べてください。

ORA-07325: smsacx: コンテキスト領域割当て中に malloc エラーが発生しました。

原因 : メモリー割当てライブラリからエラーが戻りました。スワップ領域が不足している可能性があります。

解決方法 : errno を調べてください。

ORA-07326: smsfre: マッピングされていない SGA を解放しようとしてしました。

原因 : SGA がマップされていないときに、Smsfre がコールされました。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07327: smpdal: マッピングされていない PGA を削除しようとしてしました。

原因 : PGA が作成されていないときに、smpdal がコールされました。内部エラーです。

解決方法 : オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07328: smsmax: 最大セグメント・サイズを見積もることができません。

原因 : shmget システム・コールから致命的なエラーが戻りました。

解決方法 : errno を調べてください。追加情報として、試みた SGA モデルが示されます。

ORA-07329: smscsg: 共有メモリー・セグメントが多すぎます。

原因 : セグメント情報を保持する内部データ構造が満杯です。

解決方法 : より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成してください。

ORA-07330: smsnsg: SGA の固定領域を割当てられません。

原因 : SGA の固定領域が大きすぎて、連続した 1 つのセグメントに収まりません。

解決方法 : より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成してください。

ORA-07331: smsnsg: SGA の可変領域を割当てられません。

原因 : SGA の可変領域が大きすぎて、連続した 1 つのセグメントに収まりません。

解決方法 : より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成してください。

ORA-07332: smsnsg: REDO バッファを割当てられません。

原因 : Redo ブロック・サイズが大きすぎます。各バッファを連続して割当てることができません。

解決方法 : より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成するか、init.ora の LOG_BUFFER パラメータの値を小さくしてください。

ORA-07333: smsnsg: データベース・バッファを割当てられません。

原因: データベース・ブロック・サイズが大きすぎます。各バッファを連続して割当てることができません。

解決方法: より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成するか、init.ora の DB_BLOCK_SIZE パラメータの値を小さくしてください。

ORA-07334: smsnsg: 共有メモリー・セグメントが多すぎます。

原因: セグメント情報を保持する内部データ構造が満杯です。

解決方法: より大きいセグメントが入るように、UNIX カーネルを再構成してください。

ORA-07335: smsmat: SGA 作成中に ftok エラーが発生しました。

原因: ftok() ライブラリ・コールが smsmat() で失敗しました。

解決方法: sgadef.dbf ファイルが存在するかどうかを調べてください。存在する場合には、システム障害の可能性があります。System V との互換性がない可能性があります。追加情報として、試みた SGA モデルが示されます。

ORA-07336: smsmat: shmget エラーが発生したため共有メモリー・セグメントを獲得できません。

原因: shmget でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。SGA 全体が入る十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。追加情報として、試みた SGA モデルが示されます。

ORA-07337: smsmat: shmat エラーが発生したため SGA を Attach できません。

原因: 共有メモリー・セグメントの付加に失敗し、その後に実行しようとした。

解決方法: errno を調べてください。SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。追加情報として、試みた SGA モデルが示されます。

ORA-07338: smscre: SGA ファイルの存在をテストできません。

原因: access システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS エラーの可能性があります。

解決方法: 戻された errno を調べて、sga ファイルに対する許可を確認してください。

ORA-07339: spcre: 最大セマフォ・セット数を超えました。

原因: 内部バッファが大きくないため、要求された数のセマフォ・セット識別子を入れることができません。

解決方法: 設定あたりのセマフォをより多くもつために OS を再構築してください。

ORA-07390: sftopn: 変換エラーが発生したため、ファイル名を変換できません。

原因: オープンするファイル名の拡張中にエラーが発生しました。追加情報として変換ルーチンで生成されたエラーが戻ります。

解決方法: さらに情報を進めて、その他のエラー・コードを検索してください。

ORA-07391: sftopn: fopen エラーが発生したためテキスト・ファイルをオープンできません。

原因: fopen ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。

解決方法: 存在と許可を確認してください。

ORA-07392: sftcls: fclose エラーが発生したためテキスト・ファイルをクローズできません。

原因: fclose ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。これは、内部エラーの可能性がありえます。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07400: slemtr: メッセージ・ファイルの変換された名前が長すぎます。

原因: メッセージ・ファイル用の名前が内部バッファをオーバーフローしています。

解決方法: メッセージ・ファイルの完全なパス名がディレクトリ階層の再編成によって短くなるように試してください。

ORA-07401: sptrap: ユーザー例外ハンドラを復元できません。

原因: システムがユーザーの例外ハンドラの復元に失敗しました。

解決方法: 失敗したシグナル番号の `errno` および `sercose[0]` を調べてください。

ORA-07402: sprst: ユーザー・シングル・ハンドラを復元できません。

原因: システムがユーザーのシグナル・ハンドラの復元に失敗しました。

解決方法: 失敗したシグナル番号の `errno` および `sercose[0]` を調べてください。

ORA-07403: sfanfy: db_writers パラメータが無効です。

原因: `init.ora` のパラメータ `DB_WRITERS` が、`system-dependent` の最大値を超過しているか、0 未満の値になっています。

解決方法: `init.ora` のパラメータ `DB_WRITERS` を変更してください。

ORA-07404: sfareq: 要求の完了を待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: 書き込みまたはクローズの完了を待機しているときに、マスター・データベース・ライターにタイム・アウトが発生しました。データベース・ライターの 1 つが実行を停止します。

解決方法: すべてのデータベース・ライター・トレース・ファイルを調べてください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07406: slbtpd: 数値が無効です。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07407: slbtpd: 指数は無効です。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07408: slbtpd: バック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07409: slpdtb: バック 10 進数の半バイトは無効です。

原因: 10 進からバイナリへの変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07410: slpdtb: 数値は大きすぎて供給バッファに入りません。

原因: 10 進からバイナリへの変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07411: slgfn: 与えられたバッファに対してフルパス名が大きすぎます。

原因: 与えられたバッファが大きくないため、フルパス名を保持することができません。

解決方法: フルパス名の構成は実行できません。

ORA-07412: sfaslv: 非同期書き込み配列でエントリを取得する際にエラーが発生しました。

原因: データベース・ライター・プロセスの一部が SGA の入力的位置付けで失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07415: slpath: メモリー・バッファ割当てに失敗しました。

原因: Malloc() が ORACLE_PATH を格納するためのバッファの割当てに失敗しました。システムのヒープ領域が不足しています。

解決方法: 追加情報として errno が示されます。

ORA-07416: slpath: 出力バッファ領域不足のためパス名の解釈に失敗しました。

原因: slpath ルーチンの中に入れる名前を拡張するための最大長バッファを与えられます。このバッファは、オーバーフローしました。これは、内部エラーの可能性がありえます。

解決方法: sercose[0] に格納された出力バッファ長さと sercose[1] の構成後のパス名の長さを調べてください。

ORA-07417: sfareq: 1 つ以上の DBWR が使用できない状態です。

原因: 1 つ以上のデータベース・ライター・プロセスが実行されていません。

解決方法: データベース・ライターのトレース・ファイルを調べてください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07418: sfareq: DBWR のタイミング関数でエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミング関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

解決方法: データベース・ライターのトレース・ファイルを調べてください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07419: sfareq: DBWR のタイミング関数でエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミング関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

解決方法: データベース・ライターのトレース・ファイルを調べてください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07425: sdpri: ダンプ・ファイルの位置を変換中に、名前にエラーが見つかりました。

原因: ダンプ・ファイルの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

解決方法: エラー・コードを調べてください。

ORA-07426: spstp: dbs ディレクトリの位置を取得できません。

原因: DBS ディレクトリの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

解決方法: sltln が返したエラーの追加情報を調べてください。

ORA-07427: spstp: dbs ディレクトリへ変更できません。

原因: chdir システム・コールからエラーが戻りました。これは、許可問題の可能性がります。

解決方法: OS エラー・コードの追加情報を調べてください。

ORA-07428: smsgsg: SGA のキーを計算中に ftok() エラーが発生しました。

原因: ftok() ライブラリ・コールが smsgsg() で失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME/sgadefsid.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。存在する場合には、システム障害の可能性がります。System V との互換性がない可能性がります。追加情報として、エラーの発生したセグメントが示されます。

ORA-07429: smsgsg: shmget() はセグメントの取得に失敗しました。

原因: すべてまたは一部の SGA の共有メモリー・セグメントの取得に失敗しました。

解決方法: エラー・メッセージのシステム・エラーの数値を使用して、セグメントが取得できなかった理由を判別してください。エラーがない場合には、"abort" オプションを使用してデータベースをシャットダウンし、再起動してください。許可が正しくないために取得できなかった場合には、Oracle 実行可能プログラムの所有者と共有メモリー・セグメントの所有者が一致しているかどうかを調べてください。

ORA-07430: smsgsg: 計算したキーと記憶していたキーが一致しません。

原因: smsgsg() がセグメントを取得すると、セグメントのキーが再計算されます。次に、その値と sgadev ファイルに格納された値が比較されます。値が一致していない場合には、ファイルが破損している可能性があります。

解決方法: データベースをシャットダウンし、再起動してください。

ORA-07431: フォークが失敗しました。

原因: サーバー・プロセスが、子プロセスのフォークに失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-07432: ネスト・スリープを実行できません。

原因: すでにスリープしているプロセスをスリープにしようとした。このプラットフォームはこの機能をサポートしていません。

解決方法: プロセスがスリープしていないときに SLEEP コマンドを試行してください。

ORA-07440: WMON プロセスがエラーで終了しました。

原因: 起動監視プロセスが停止しました。

解決方法: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-07441: ファンクションのアドレスは、アドレス・バイトの境界上で整列されなければなりません。

原因: 無効な整列ファンクション・アドレスが指定されました。

解決方法: 正しく整列したファンクション・アドレスを使用してください。

ORA-07442: ファンクション・アドレスは number から number の範囲でなければなりません。

原因: 無効なファンクション・アドレスが指定されました。

解決方法: 有効なファンクション・アドレスを指定してください。

ORA-07443: ファンクション function が見つかりません。

原因: 無効なファンクション名が指定されました。

解決方法: 有効なファンクション名を指定してください。

ORA-07444: ファンクション・アドレス address が読み込めません。

原因: 無効なファンクション名 / アドレスが指定されました。

解決方法: 有効なファンクション名 / アドレスを指定してください。

ORA-07445: 例外が見つかりました: コア・ダンプ [exception]

原因: OS 例外が発生しました。これは、コア・ファイルを作成した結果です。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07446: sdnfy: 値 value が正しくありません (パラメータ :name)。

原因: 上記のパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

解決方法: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリ / ファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-07447: ssarena: usinit が失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ファイルの作成に失敗しました。

解決方法: sercerno フィールドで障害の原因を判断してください。

ORA-07448: ssarena: 共有アリーナの最大数を超過しました。

原因: oracle は、許可以上の共有アリーナ・ファイルを作成しようとしてしました。

解決方法: init.ora の MAX_ARENA の値を呼び出してください。

ORA-07449: sc: usnewlock が失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ロックの取得に失敗しました。

解決方法: sercerno の結果コードを調べて、失敗の原因を判断してください。

ORA-07450: sms1sg: vm_mapmem エラーが発生したため共有メモリーを作成できません。

原因: vm_mapmem にエラーが発生しました。SGA の単一の共有メモリー・セグメントとしての作成に失敗しました。

解決方法: sercose[0] の戻された結果コードを調べてください。

ORA-07451: sms1sg: 共有メモリーに付けられているアドレスが無効です。

原因: vm_mapmem システム・コールが、SGA を不正な位置に連結しました。

解決方法: SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-07452: sms1sg: SGA 継承データの変更に失敗しました。

原因: vm_inherit システム・コールが SGA の継承の変更に失敗しました。これは、OS 障害の可能性があります。

解決方法: sercose[0] の戻された結果コードを調べてください。

ORA-07453: smsmat: vm_mapmem エラーが発生したため共有メモリーを作成できません。

原因: vm_mapmem にエラーが発生しました。SGA セグメントの作成に失敗しました。

解決方法: sercerno の戻された結果コードを調べてください。

ORA-07454: smsmat: 共有メモリー Attach アドレスが無効です。

原因: vm_mapmem システム・コールが、SGA セグメントを不正な位置に連結しました。

解決方法: SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-07455: smsmat: SGA セグメント継承データの変更に失敗しました。

原因: vm_inherit システム・コールが SGA のセグメントの継承の変更に失敗しました。これは、OS 障害の可能性があります。

解決方法: sercerrno の戻された結果コードを調べてください。

ORA-07456: smsmax: クラスタ・サイズを取得できません。

原因: cluster_stat システム・コールがクラスタの状態の復帰に失敗しました。これは、OS 障害の可能性があります。

解決方法: sercose[0] の結果コードを調べてください。

ORA-07457: smsdes: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf のファイル名の拡張に失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME) と (ORACLE_SID) が正しくセットされていることを確認してください。sltln から sercose[0] に戻されたエラーの数値を調べてください。

ORA-07458: smsdes: クローズ・エラー : sgadef.dbf ファイルをクローズできません。

原因: ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf をクローズするときに、エラーが発生しました。これは、OS エラーの可能性があります。

解決方法: sgadef.dbf ファイルが削除されていることを確認してください。

ORA-07459: smsvmfcrc: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf のファイル名の拡張に失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME) と (ORACLE_SID) が正しくセットされていることを確認してください。sltln から sercose[0] に戻されたエラーの数値を調べてください。

ORA-07460: smsvmfcrc: SAG の作成時には、sgadef.dbf ファイルはすでに存在しています。

原因: SGA の作成時にファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf が存在していなかったか、あるいは、実行中のインスタンスが破壊されました。

解決方法: データベースが停止したかを確認して、sgadef.dbf ファイルを削除してください。これは、マシンがデータベース稼働中に破損したときにのみ起きます。

ORA-07461: smsvmfcrc: sgadef.dbf ファイルの作成に失敗しました。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf ファイルを作成しようとしているときに、オープンに失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME)/dbs ディレクトリ上の許可があることを確認してください。

ORA-07462: smsget: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因 : \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf のファイル名の拡張に失敗しました。

解決方法 : \$(ORACLE_HOME) と (ORACLE_SID) が正しくセットされていることを確認してください。sltn から sercose[0] に戻されたエラーの数値を調べてください。

ORA-07463: smsget: sgade f.dbf ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因 : \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf を開こうとしたときに、オープンに失敗しました。これは、許可問題の可能性あります。

解決方法 : errno を調べてください。\$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。

ORA-07464: smsget: SGA を attach しようとしたときに、vm_mapmem または vm_allocate エラーが発生しました。

原因 : vm_mapmem または vm_allocate システム・コールが、SGA のセグメントの連結をしようとしたときに、失敗しました。

解決方法 : sercerno の戻された結果コードを調べてください。SGA セグメント番号は sercose[1] に戻されています。

ORA-07465: smsget: 共有メモリー Attach アドレスが無効です。

原因 : vm_mapmem システム・コールが、SGA セグメントを不正な位置に連結しました。

解決方法 : セグメントが存在し、SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-07466: smsget: SGA セグメント継承データの変更に失敗しました。

原因 : vm_inherit システム・コールが SGA のセグメントの継承の変更に失敗しました。これは、OS 障害の可能性あります。

解決方法 : sercerno の戻された結果コードを調べてください。

ORA-07467: smsget: クローズ・エラー : sgade f.dbf ファイルをクローズできません。

原因 : ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf をクローズするときに、エラーが発生しました。これは、OS 障害の可能性あります。

解決方法 : errno を調べてください。

ORA-07468: spwat: mset エラーが発生したためセマフォを設定できません。

原因 : mset ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

解決方法 : sercerno の結果コードを調べてください。セマフォ番号は sercose[0] に戻されています。

ORA-07469: sppst: mclear エラーが発生したためセマフォをクリアできません。

原因 : mclear ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

解決方法 : `sercerrno` の結果コードを調べてください。セマフォ番号は `sercose[0]` に戻されています。

ORA-07470: `snclget`: クラスタ番号を取得できません。

原因 : `cluster_status` システム・コールが、現行のクラスタの状態の情報の取得に失敗しました。これは、OS 障害の可能性がありま

解決方法 : `sercose[0]` の結果コードを調べてください。

ORA-07471: `snclrd`: `sgadef.dbf` ファイル名の変換に失敗しました。

原因 : `$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf` のファイル名の拡張に失敗しました。

解決方法 : `$(ORACLE_HOME)` と `(ORACLE_SID)` が正しくセットされていることを確認してください。 `sltn` から `sercose[0]` に戻されたエラーの数値を調べてください。

ORA-07472: `snclrd`: `sgadef.dbf` ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因 : `$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf` を開こうとしたときに、オープンに失敗しました。これは、許可問題の可能性がありま

解決方法 : `errno` を調べてください。 `$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf` ファイルが存在するかどうかを確認してください。

ORA-07473: `sgadef.dbf` ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因 : `sgadef.dbf` ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法 : `errno` を調べてください。ファイルが存在し、適切なサイズかどうかを調べてください。

ORA-07474: クローズ・エラー : `sgadef.dbf` ファイルをクローズできません。

原因 : ファイル `$ORACLE_HOME/dbs/sgadefsid.dbf` をクローズするときに、エラーが発生しました。これは、OS 障害の可能性がありま

解決方法 : `errno` を調べてください。

ORA-07475: `slsget`: 仮想記憶の統計情報を取得できません。

原因 : `vm_statistics` システム・コールが、仮想メモリーの統計表示の取得に失敗しました。これは、OS 障害の可能性がありま

解決方法 : `sercerrno` の結果コードを調べてください。

ORA-07476: `slsget`: マップされたメモリーの統計情報を取得できません。

原因 : `vm_mapmem` システム・コールが、マップされたメモリーの統計表示取得に失敗しました。これは、OS 障害の可能性がありま

解決方法 : `sercerrno` の結果コードを調べてください。

ORA-07477: `scgcmn`: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因 : ロック・マネージャは、ロックを変換する前に初期化しなければなりません。ロック・マネージャに障害が起きている可能性がありま

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07478: scgcmn: ロック状態を取得できません。

原因: lm_stat_lock に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07479: scgcmn: ロックのオープンまたは変換ができません。

原因: lm_open または lm_open_convert に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07480: snchmod: \$ORACLE_HOME/dbs/sgalm.dbf の権限許可を変更できません。

原因: インスタンスの作成時に、snlmini が \$ORACLE_HOME/dbs/sgalm.dbf に対する許可を変更できませんでした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07481: snlmatt: ロック・マネージャ・インスタンスを Attach できません。

原因: lm_attach がロック・マネージャ・インスタンスの連結に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07482: snlmini: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: lm_create がロック・マネージャ・インスタンスの作成に失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME/dbs に対する許可を調べて、\$ORACLE_HOME/dbs/sgalm.dbf が存在する場合には削除して、再試行してください。

ORA-07483: snlkget: ロックを変換または獲得できません。

原因: lm_convert がロックの変換 (取得) に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07484: snlkput: ロックを変換または出力できません。

原因: lm_convert がロック値の出力に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07485: scg_get_inst: インスタンス番号ロックをオープンできません。

原因: lm_open に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07486: scg_get_inst: インスタンス番号ロックを変換または獲得できません。

原因: lm_convert がロック値の取得に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07487: scg_init_lm: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: lm_create に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07488: scgrcl: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因: ロック・マネージャは、ロックを解放する前に初期化しなければなりません。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07489: scgrcl: ロック状態を獲得できません。

原因: ロックの解放 / 取消し中に、lm_stat_lock に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07490: scgrcl: ロックを変換できません。

原因: ロックの解放 / 取消し中に、lm_convert に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07491: scgrcl: ロック要求を取り消せません。

原因: ロックの解放 / 取消し中に、lm_cancel に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07492: scgrcl: ロックをクローズできません。

原因: ロックの解放 / 取消し中に、lm_close に失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07493: scgrcl: ロック・マネージャにエラーが発生しました。

原因: ロックをリリースするときにエラーが発生しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerno の結果コードを調べてください。

ORA-07494: scgcm: 予期せぬエラーが発生しました。

原因: 未知または予期しないエラー・コードです。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerrno の結果コードを調べてください。

ORA-07495: spwat: lm_wait が失敗しました。

原因: lm_wait が失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerrno の結果コードを調べてください。

ORA-07496: sppst: lm_post が失敗しました。

原因: lm_post が失敗しました。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

解決方法: sercerrno の結果コードを調べてください。

ORA-07497: sdpri: ファイル 'file' を作成できません。 errno = error。

原因: 書込み中にトレース・ファイルが作成できません。

解決方法: ダンプ・ディレクトリが存在するかどうか、そのディレクトリが書込み可能かどうかを調べてください。

ORA-07498: spstp: /dev/resched がオープンできません。

原因: 再スケジュールするドライバ /dev/resched が見つからないか、あるいは正しく機能していません。

解決方法: AIX カーネルに Oracle 再スケジュール・ドライバがインストールされているかどうかを確認してください。

ORA-07499: spglk: リスケジューリングできません。

原因: 再スケジュールするドライバ /dev/resched がオープンできません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

VAX/VMS メッセージ : 07500 ~ 07999

ORA-07500: scglaa: \$cantim 予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$CANTIM が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07501: scgtoa: \$deq 予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07502: scgcmn: \$enq 予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07503: scgcmn: \$setimr 予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$SETIMR が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07504: scgcmn: \$shiber 予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$HIBER が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07505: scggt: \$enq 親ロックの予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07506: scgrl: \$deq 予期せぬ戻り値が lockid 名に 戻されま した。

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07507: scgcm: 予期しないロック状態条件

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージがもしあれば調べて、VMS マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07508: scgfal: \$deq すべての予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07509: scgfal: \$deq 親ロックの予期せぬ戻り値

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07510: scgbrm: \$getlki 予期せぬ戻り値が lockid 名に 戻されました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETLKI が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07511: sscgctl: マスター終了ロックで、\$enq 予期せぬ値が戻されました。

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07512: sscgctl: クライアント終了ロックで、\$enq に予期せぬ値が戻されました。

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07513: sscgctl: term.lock の取り消しで、\$deq が予期せぬ値を戻しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07514: scgcan: ロックの取消し中に、\$deq が予期せぬ値が戻されました。

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07534: scginq: \$getlki 予期せぬ Lockid 名に戻されました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETLKI が、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07548: sftopn: オープンされているファイルが最大数に達しています。

原因: オープンされているテスト・ファイルが多すぎます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07549: sftopn: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07550: sftopn: \$CONNECT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07551: sftcls: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07552: sftget: \$GET に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GET に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07561: szprv: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07562: sldex: 拡張子は 3 文字でなければなりません。

原因: 拡張要素が見つかりましたが、長さが無効です。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07563: sldex: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07564: sldex: ファイル名、または拡張子にワイルドカードが含まれています。

原因: ファイル名にワイルド・カードが使用されました。

解決方法: 正しいファイル名を再入力してください。

ORA-07565: sldex: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07568: slspool: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07569: slspool: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07570: szrfc: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07571: szrfc: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07572: szrfc: ロール名のバッファ領域が不足しています。

原因: OS ロール名が長すぎます。

解決方法: ロール名を正確な長さで再定義してください。

ORA-07573: slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$SPAWN に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07574: szrfc: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07576: sspexst: \$GETPIW に失敗しました。(プロセス ID:number)

原因: VMS システム・サービスの \$GETPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07577: 認証ファイルにはそのようなユーザーは含まれていません。

原因: INTERNAL パスワード (たとえば DBA または OPER 権限) を設定しようとしたが、対応する VMS アカウント (ORA__DBA または ORA__OPER) がまだ作成されていません。

解決方法: ORA__DBA または r ORA__OPER (あるいはその両方) の VMS アカウントを追加してから、パスワードを設定してください。

ORA-07578: szprv: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07579: spini: \$DCLEXH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07580: spstp: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07581: spstp: 予期しないプロセス名から SID を導出することはできません。

原因: バックグラウンド・プロセスで、無効な形式の名前が見つかりました。

解決方法: ジョブ名が変更されている場合には、復元してください。そうでなければ、内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07582: spstp: ORA_SID の値は間違っています。

原因: ORA_SID が存在し、6 文字より短くなければなりません。

解決方法: SID の設定方法に付いては、『VMS Installation Guide』を参照してください。

ORA-07584: spdcr: ORA_sid_(proc_)PQL\$_item の値は無効です。

原因: 分離プロセスの割当て制限の設定に使用された論理名に、無効な値 (数値以外の値) があります。

解決方法: これらの論理名の値を調べてください。エラーのある値を訂正し、再試行してください。

ORA-07585: spdcr: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07586: spdcr: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07587: spdcr: \$CREPRC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CREPRC に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07588: spdcr: \$GETJPIW はイメージ名の取得に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07589: spdcr: \$GETJPIW はイメージ名の取得に失敗しました。

原因: 論理名 ORA_SID が有効な値に変換できません。

解決方法: エラーのあるプロセスの ORA_SID 値を調べて、ORA_SID が正しく設定されていないインスタレーションまたはコマンド・プロシージャを訂正してください。

ORA-07590: spdde: \$DELPRC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DELPRC に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07591: spdde: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07592: sspgprv: 必要な権限を取得中にエラーが発生しました。

原因: 必要な権限の取得中に、エラーが戻されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07593: ssprprv: 権限の解放時にエラーが発生しました。

原因: 権限の解放中に、SYSSSETPRV からエラーが戻されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07594: spiip: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07595: sppid: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07596: sptpa: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07597: spguns: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07598: spwat: \$SETIMR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07599: spwat: \$SCHDWK に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SCHDWK に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07600: slkmnm: \$GETSYIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETSYIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07601: spguno: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07602: spgto: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07605: szprv: \$ASCTOID に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$ASCTOID に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07606: szprv: \$CHKPRO に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHKPRO に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07607: szaud: \$SNDOPR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SNDOPR に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07608: szprv: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07609: szprv: \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07610: \$GETJPIW は、ユーザーの MAC 権限の取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07612: \$GETUAI は、ユーザーのクリアランス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07613: \$GETJPIW は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07614: \$CHANGE_CLASS は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07615: \$CHANGE_CLASS は、指定ファイル・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07616: \$CHANGE_CLASS は、指定ファイル・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07617: \$FORMAT_CLASS は、バイナリ・ラベルの文字列への解釈に失敗しました。

原因: 指定されたバイナリ分類が無効なため、VMS システム・サービス \$FORMAT_CLASS が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07618: \$IDTOASC は、セキュリティ・レベルの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースのセキュリティ・レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービス \$IDTOASC が失敗しました。

解決方法: バイナリ・ラベルが参照を指定している権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07619: \$IDTOASC は、完全性レベルの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースの整合性レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービス \$IDTOASC が失敗しました。

解決方法: バイナリ・ラベルが参照を指定している権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07620: smscre: データベース・ブロック・サイズは間違っています。

原因: パラメータ・ファイルに、無効なデータベース・ブロック・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数であり、物理 I/O データ・サイズの最大値よりも小さくなければなりません。

解決方法: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの db_block_size を変更してください。

ORA-07621: smscre: REDO ブロック・サイズは間違っています。

原因: パラメータ・ファイルに、無効な REDO ログ・バッファ・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数でなければなりません。

解決方法: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの log_buffer を変更してください。

ORA-07622: smscre: \$CREATE に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルの作成中に、VMS システム・サービス \$CREATE が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07623: smscre: \$CRMPSC に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) の作成中に、VMS システム・サービス \$CRMPSC が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07624: smsdes: \$DGBLSC に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) の削除中に、VMS システム・サービス \$DGBLSC が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07625: smsget: \$MGBLSC に失敗しました。

原因: ログオン時にシステム・グローバル領域 (SGA) をマップしているときに、VMS システム・サービス \$MGBLSC が失敗しました。oracle が起動していない可能性があります。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。oracle が起動していない場合には、起動してください。

ORA-07626: smsget: SGA はすでにマップされています。

原因: ログオン時に SGA のマップに失敗しました。すでにマップされています。内部エラーです。

解決方法: プログラムを終了してから再試行してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07627: smsfre: \$CRETVA に失敗しました。

原因: ログオフ時にシステム・グローバル領域 (SGA) をマップ解除しているときに、VMS システム・サービス \$CRETVA が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07628: smsfre: SGA がマップされていません。

原因: ログオフ時に SGA のマップ解除に失敗した。すでにマップ解除されています。内部エラーです。

解決方法: プログラムを終了してから再試行してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07629: smpall: \$EXPREG に失敗しました。

原因: プログラム・グローバル領域 (PGA) の拡張中に、VMS システム・サービス \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07630: smpdal: \$DELTVA に失敗しました。

原因: ログオフ時にプログラム・グローバル領域 (PGA) を削除しているときに、VMS システム・サービス \$DELTVA が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07631: smcacx: \$EXPREG に失敗しました。

原因: コンテキスト領域の作成または拡張中に、VMS システム・サービス \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07632: smsrcx: \$DELTVA に失敗しました。

原因: コンテキスト領域の削除に、VMS システム・サービス \$DELTVA が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07633: smsdbp: 保護値は間違っています。

原因: バッファ・デバッグ・ファンクションで無効な値が使用されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07634: smsdbp: \$CRETVA に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービス \$CRETVA が失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07635: smsdbp: \$SETPRT に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービス \$SETPRT が失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07636: smsdbp: \$MGBLSC に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービス \$MGBLSC が失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07637: smsdbp: SGA の作成時に、バッファ保護オプションは指定されていません。

原因: バッファを保護モードに変更しようとしたが、SGA がバッファ保護デバッグ・オプションで作成されていませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07638: smsget: SGA パッド領域は、作成された SGA に十分な大きさではありません。

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA のマップを試みしました。

解決方法: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07639: smscre: SGA パッド領域は、十分な大きさではありません。(number バイト必要)

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA の作成を試みしました。

解決方法: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07640: smsget: SGA がまだ有効ではありません。初期化は進行中です。

原因: SGA の初期化中に SGA のマップを試みしました。

解決方法: 初期化が完了してから、再試行してください。

ORA-07641: smscre: SGA にシステム・ページファイルを使用できません。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルが、システム・ページファイルを使用して割り当てられませんでした。グローバル・ページのシステム全体の制限を超えています。

解決方法: VMS システム・パラメータ GBLPAGFIL を大きくするか、ディスク・ファイルを SGA バックアップ・ファイルとして使用してください。

ORA-07642: smprtset: \$CMKRNL に失敗しました。

原因: メモリーの領域の保護を設定しようとしたが、\$CMKRNL システム・サービスからエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07643: smsalo: SMSVAR は無効です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このエラーをオラクル社カスタマー・サポートに報告して、init.ora ファイルを提出してください。

ORA-07645: sszfs1: \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

原因: ファイル・ラベルの設定中に、SEVMS サービス \$CHANGE_CLASS が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07646: sszfck: \$CREATE に失敗しました。

原因: ファイルの作成を試行中に、VMS システム・サービス \$CREATE が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、SEVMS システム・マニュアルを参照してください。

ORA-07647: sszfck: \$OPEN に失敗しました。

原因: ファイルの再オープン中に、VMS システム・サービス \$OPEN が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、SEVMS システム・マニュアルを参照してください。

ORA-07650: sigunc: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: ログオン時にユーザーの端末デバイス名、ユーザー名、ユーザー、プログラム名、またはプロセス名を取得しようとしたが、VMS システム・サービス \$GETJPIW が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07655: slsprom:\$STRNLOG に失敗しました。

原因: パスワードの要求で SYSS\$INPUT の変換中に、VMS システム・サービス \$STRNLOG が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07656: slsprom:\$GETDVI に失敗しました。

原因: パスワードの要求でデバイスの特徴を取得中に、VMS システム・サービス \$GETDVI が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07657: slsprom:\$ASSIGN に失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービス \$ASSIGN が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07658: slsprom: \$QIOW は読み込みに失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービス \$QIOW が失敗しました。

解決方法: システム・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07665: ssrexhd: 再帰例外が見つかりました : exception

原因: Oracle 例外ハンドラの実行中に、VMS 例外が発生しました。メッセージに、信号番号、最初および 2 番目の信号引数、例外 PC および PSL、R0 が示されます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07670: \$IDTOASC は、機密カテゴリの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースのセキュリティ・カテゴリの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービス \$IDTOASC が失敗しました。

解決方法: バイナリ・ラベルが参照を指定している権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07671: \$IDTOASC は、完全性カテゴリの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースの整合性カテゴリの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービス \$IDTOASC が失敗しました。

解決方法: バイナリ・ラベルが参照を指定している権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07672: \$PARSE_CLASS は、文字列のバイナリ・ラベルへの解釈に失敗しました。

原因: 指定された文字列に有効な分類がなかったため、SEVMS システム・サービス \$PARSE_CLASS が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS マニュアルを参照してください。

ORA-07680: \$PARSE_CLASS は、文字列のバイナリ・ラベルへの解釈に失敗しました。

原因: oracle 共有イメージエントリ点の呼出しが、共有イメージから発生しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07681: sou2os: Oracle の初期化中にエラーが生じました。

原因: 共有イメージのディスパッチ・ベクターのセットアップ中に、エラーが発生しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07682: sou2os: カーネル分散設定に失敗し、エラーが発生しました。

原因: oracle 共有イメージ・エントリで、カーネル・モードのディスパッチが失敗しました。

解決方法: 共有イメージが CMKRNL 権限でインストールされているかどうかを調べて、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07683: sou2os: SSETPRV リセット・エラー

原因: Oracle 共有イメージ出口でユーザー権限の復元中に、VMS システム・サービス SSETPRV が失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07684: sou2os: スーパーバイザ・スタック・リセット・エラー

原因: Oracle 共有イメージ出口でスーパーバイザ・モード・スタックの復元中に、VMS システム・サービス SSETSTK が失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07685: sou2os: スーパーバイザ・スタック設定エラー

原因: oracle 共有イメージ出口で oracle スーパーバイザ・モード・スタックの設定中に、VMS システム・サービス SSETSTK が失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07700: sksarch: 中断されました。

原因: ログのアーカイブが割り込まれました。

解決方法: 操作を再試行してください。

ORA-07701: sksatln: 内部例外: 出力バッファは小さすぎます。

原因: 制御テキスト文字列の解析で、バッファがオーバーフローしました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07702: アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。

原因: アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07703: アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス・タイプ (ファイルまたはテープを指定する) の後には '/' が必要です。

解決方法: 正しい構文のテキストについては、『SQLDBA Guide』を参照してください。

ORA-07704: アーカイブ・テキストにエラーがあります: デバイス名の後に ':' が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス名の後には、':' が必要です。

解決方法: 正しい構文のテキストについては、『SQLDBA Guide』を参照してください。

ORA-07705: sksaprs: デバイス名のバッファは小さすぎます。

原因: デバイス名のバッファが小さすぎます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07706: アーカイブ・テキストにエラーがあります: ディスク・ファイル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。ディスク・ファイル名がありません。

解決方法: 正しい構文のテキストについては、『SQLDBA Guide』を参照してください。

ORA-07707: アーカイブ・テキストにエラーがあります: ディスク・ファイル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。テーブル・ラベル名がありません。

解決方法: 正しい構文のテキストについては、『SQLDBA Guide』を参照してください。

ORA-07708: sksaprs: テーブ・ラベル名のバッファは小さすぎます。

原因: テーブ・ラベルのバッファが小さすぎます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07709: sksaprs: リモート・ホストへのアーカイブはできません。

原因: ユーザーが、DECnet を介してアーカイブにリモート・ディスクを指定しました。

解決方法: ディスクをローカル・ホストにアーカイブしてください。

ORA-07710: sksaprs: ファイル名のバッファは小さすぎます。

原因: ファイル名のバッファが小さすぎます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07713: sksamtd: アーカイブ・デバイスがマウントできません。SYSSMOUNT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの SYSSMOUNT に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07715: sksadtd: アーカイブ・デバイスがマウントできません。SYSDISMNT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの SYSDISMNT に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07716: sksachk: ARCHIVE へのデバイス指定が無効です。

原因: VMS システム・サービスの SY\$GETDVI に失敗しました。

解決方法: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-07717: sksaalo: メモリー割当てエラー

原因: VMS システム・サービスの LIB\$GET_VM に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07718: sksafre: メモリー解放エラー

原因: VMS システム・サービスの LIB\$FREE_VM に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07721: scgcm: システムのエンキューを取得するのに OS リソースが不足しています。

原因: sys\$enq の呼出しでエラーが戻されました。ロックの作成に 必要なリソースが不足しています。これは、メッセージ SSS_EXENQLM または SSS_INSFMEM の後に発行されます。

解決方法: 必要なロックを作成できるように、リソースを解放してください。

ORA-07740: slemop: ハンドル・サイズは間違っています。(プログラミング・エラー)

原因: エラー・メッセージの読取りに使用した構造が一致しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07741: slemop: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07742: slemop: \$CONNECT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービス \$CONNECT が失敗しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07743: slemop: エラー・ファイル属性が不正です。

原因: エラー・メッセージ・ファイルが不正な形式になっています。

解決方法: エラー・ファイルを変更しなければならない場合、オラクル社技術サポートに連絡してください。

ORA-07744: slemcl: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07745: slemcl: \$CLOSE 失敗しました。

原因: VMS システム・サービス \$CLOSE が失敗しました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07746: slemrd: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07747: slemrd: \$READ に失敗しました。

原因: VMS システム・サービス \$READ が失敗しました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07750: slemcr: fopen に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイルの作成を行おうとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07751: slemcr: malloc に失敗しました。

原因: 新規に作成されるメッセージ・ファイル用のキャッシュを割り当てようとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07753: slemcf: write 前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を書込む前に検索を行おうとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07754: slemcf: fwrite に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素の書込みを行おうとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07755: slemcf: read の前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を読み込む前に検索を行おうとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07756: slemcf: fread に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素の読み込みを行おうとして失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07757: slemcc: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07758: slemcw: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07759: slemtr: 宛先は無効です。

原因: 関数に渡された宛先文字列が短すぎます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07760: slemtr: Sopen に失敗しました。

原因: Sopen サービスが失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07800: slbtpr: 数値は無効です。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07801: slbtpr: 指数は無効です。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07802: slbtpr: バック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: バイナリから 10 進への変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07803: slbtpr: バック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: 10 進からバイナリへの変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07804: slpdtb: 数値は大きすぎて供給バッファに入りません。

原因: 10 進からバイナリへの変換の不可能な要求が行われました。

解決方法: この変換は実行できません。

ORA-07820: sspscn: SYSSCRELNM に失敗しました。

原因: SYSSCRELNM 関数からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07821: sspsdn: SYSSDELLNM に失敗しました。

原因: SYSSDELLNM 関数からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07822: sspscm: SYS\$CREMBX に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの作成を行おうとしたときに、SYS\$CREMBX 関数からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07823: sspsqr: \$QIO に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの読み込みを行おうとしたときに、\$QIO からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07824: sspain: \$SETIMR に失敗しました。

原因: spin-watch タイマーのキューを行おうとしたときに、SYS\$SETIMR からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07825: sspsck: \$QIO は AST レベルで失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの読み込みを行おうとしたときに、SYS\$QIO からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07826: sspscm: SYS\$GETDVIW に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスに関する情報の取得を行おうとしたときに、SYS\$GETDVIW からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07840: sllfop: LIB\$GET_VM に失敗しました。

原因: I/O ベクター用のメモリーの割当て中に LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07841: sllfop: SYS\$OPEN に失敗しました。

原因: 読み込むデータ・ファイルをオープン中に SYS\$OPEN からエラー が戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07842: sllfcl: SYS\$CLOSE に失敗しました。

原因: 入力データ・ファイルのクローズ中に SYS\$CLOSE からエラー が戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07843: sllfcl: LIB\$FREE_VM に失敗しました。

原因: I/O ベクター用のメモリーの解放中に LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07844: sllfop: LIB\$GET_VM に失敗しました。

原因: データおよび索引バッファ用のメモリーの割当て中に LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07845: sllfcl: LIB\$FREE_VM に失敗しました。

原因: データおよび索引バッファによって使用されていたメモリーの解放中に LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07846: sllfop: number バイトのレコードは、number バイトのユーザー・バッファには大きすぎます。

原因: ファイルの最長レコードが割当て可能な最大データ・バッファと合わせられません。

解決方法: より小さいレコードをもつ RMS ファイルに変更してください。

ORA-07847: sllfop: \$CONNECT に失敗しました。

原因: データ・ファイルをオープンしようとしている間に SYSS\$CONNECT によってエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07848: sllfrb: \$GET に失敗しました。

原因: データ・ファイルを読み込もうとしている間に SYSS\$GET によってエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07849: sllfsk: \$GET に失敗しました。

原因: 入力ファイルのレコードをスキップしようとしている間に SYSS\$GET によってエラーが戻されました。

解決方法: システム・エラーを調べて、VMS マニュアルを参照してください。

ORA-07850: sllfop: オプションは間違っています。

原因: ローラー Fixed= に無効なオプションが使用されています。

解決方法: マニュアルを参照してください。

ORA-07860: osnsoi: 中断ハンドラを設定中にエラーが発生しました。

原因: 割込み制御ハンドラの設定中にエラーが発生しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-07880: sdopnf: 内部エラー

原因: このプロセスによってオープンするすべてのファイルのリストが取得に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

データ・アクセス・メッセージ : 08000 ~ 08174

この節には、Oracle がデータまたはデータベース・オブジェクトにアクセスしているときに生成されるメッセージを記載しています。

ORA-08000: セッション順序番号リスト数が最大値を超えました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08001: セッションあたりの順序数が最大値を超えました。

原因: 使用できない資源を操作が要求しました。1 セッションあたりのユーザー順序の最大数は INIT.ORA の DC_SEQUENCES パラメータに指定されています。この最大値を超えると、それ以上の要求は処理されなくなります。

解決方法: 数分してから操作を再試行してください。このエラーが頻発するようであれば、Oracle を停止して INIT.ORA の USER_SEQUENCES パラメータの値を大きくして、Oracle を再起動してください。

ORA-08002: name.CURRVAL はこのセッションでは定義されていません。

原因: 順序 NEXTVAL が参照される前に、順序 CURRVAL が選択されました。

解決方法: CURRVAL を選択する前に、順序から NEXTVAL を選択してください。

ORA-08003: 順序 :name.NEXTVAL が内部制限を超えています。

原因: 一部のパラメータに不正な値が指定された状態で、順序が作成されました。正当な表示サイズを超えているので、NEXTVAL の計算はできません。

解決方法: 有効制限内の順序番号に変更するか、順序番号を再作成してください。

ORA-08004: name.NEXTVAL str [MIN][MAX]VALUE インスタンス化できません。

原因: 要求した NEXTVAL の値が MAXVALUE より大きいか、MINVALUE より小さくなります。

解決方法: 新しい値を要求できるように順序を変更して、操作を再試行してください。

ORA-08005: 指定した行は存在しません。

原因: 指定した ROWID を含む行は、指定した表には存在しません。

解決方法: ROWID または表名の綴りに誤りがないか、問合せを調べて、文を再実行してください。

ORA-08006: 指定した行は現在は存在しません。

原因: 指定した行は、操作が開始された後、他のユーザーによって削除されています。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-08008: 別のインスタンスが `USE_ROW_ENQUEUES = num` でマウントされています。

原因: 起動された共有インスタンスは、`USE_ROW_ENQUEUES` パラメータですでに稼働中のインスタンスとは異なります。

解決方法: すべてのインスタンスの `INIT.ORA` ファイルに、`USE_ROW_ENQUEUES` パラメータと同じ値を指定していることを確かめて、操作を再試行してください。

ORA-08100: 索引は無効なためトレース・ファイルを調べて診断してください。

原因: `VALIDATE INDEX` によって検証された索引にエラーがあります。

解決方法: 関連するトレース・ファイルを調べてください。問題の診断ができない場合は、技術サポート担当者に連絡してください。

ORA-08101: 索引キーは `root dba:num` に存在せず `dba:num num` に存在します。

原因: 一致しない索引が検出されました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: 発生したエラーの状況説明といっしょに、トレース・ファイルをオラクル社カスタマー・サポートに送ってください。オラクル社カスタマー・サポートに、メッセージ内に表示された番号を連絡してください。

ORA-08102: 索引キーが見つかりません, `obj# num, dba num num`

原因: 一致しない索引が検出されました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

解決方法: 発生したエラーの状況説明といっしょに、トレース・ファイルをオラクル社カスタマー・サポートに送ってください。オラクル社カスタマー・サポートに、メッセージ内に表示された番号を連絡してください。

ORA-08103: オブジェクトはもう存在しません。

原因: 操作を開始した時には、オブジェクトは別のユーザーによって削除されていました。

解決方法: そのオブジェクトへの参照は取り除いてください。

ディスクリット・トランザクション・メッセージ: 08175 ~ 08190

ORA-08175: 不連続トランザクション制約違反です (`name`)。

原因: 現在不連続トランザクションではサポートされていない機能を実行しようとした。

解決方法: トランザクションをロールバックして、通常のトランザクションで実行してください。

ORA-08176: 表 / 索引に対する読み込みが続けられません。 - アンドゥ・レコードがありません。

原因: アンドゥ・レコードを生成できない操作です。たとえば、ダイレクト・ロードまたは不連続モードのトランザクションを実行すると、索引を作成しようとする操作が行われる可能性があります。

解決方法: スナップショット時間を変更して再操作してください。索引を使用している場合は、索引を使用しないで再度操作してください

ORA-08177: このトランザクションのアクセスを逐次化できません。

原因: この逐次化可能トランザクションの開始後に発生した操作により変更されたデータを、Oracle が検出しました。

解決方法: 読み / 書きトランザクションの場合は、実行しようとした操作またはトランザクションを再試行してください。

ORA-08178: ユーザー INTERNAL に SERIALIZABLE 句の指定は無効です。

原因: ユーザー INTERNAL に SERIALIZABLE モードを指定しようとした。ユーザー INTERNAL には、SERIALIZABLE モードはサポートされていません。

解決方法: 他のユーザーと再接続して、SET TRANSACTION コマンドを再試行してください。

nCUBE メッセージ : 08200 ~ 08399

ORA-08200: scggc: ロックのオープンに失敗しました。

原因: ロック・マネージャがロックのオープンに失敗しました。

解決方法: 使用可能なメモリーが十分にあることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-08201: scggc: ロックを変換できません。

原因: ロック・マネージャがロックの変換に失敗しました。

解決方法: 操作を再試行してください。

ORA-08202: scggc: ロックのクローズに失敗しました。

原因: ロック・マネージャでロックのクローズのエラーが発生しました。

解決方法: 追加情報用に戻ってきたロック・マネージャの状態を調べてください。

ORA-08203: scgcan: 未処理の変換要求を取消しできません。

原因: ロック・マネージャで変換要求の取消しのエラーが発生しました。

解決方法: 追加情報用に戻ってきたロック・マネージャの状態を調べてください。

ORA-08204: scgcm: 予期しないロック・マネージャ戻りコードが戻されました。

原因: ロック・マネージャが、予期しない値を返しました。

解決方法: 追加情報用に戻ってきたロック・マネージャの状態を調べてください。

ORA-08205: ora_addr: 環境に ORACLE_SID が設定されていません。

原因: 環境変数 (ORACLE_SID) が設定されていません。

解決方法: 環境変数 ORACLE_SID を設定してください。

ORA-08206: ora_addr: アドレス・ファイル名を変換できません。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf の変換に失敗しました。

解決方法: \$ORACLE_HOME と ORACLE_SID が正しくセットされていることを確認してください。

ORA-08207: ora_addr: アドレス・ファイルをオープンできません。

原因: アドレス・ファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: ORACLE が起動しているかどうかを調べてください。ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgade fsid.dbf が存在し、適切な許可があるかどうかを確認してください。

ORA-08208: ora_addr: アドレス・ファイルを読み込めません。

原因: アドレス・ファイルを読み込めませんでした。

解決方法: ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgade fsid.dbf が存在し、1 行のテキストが含まれているかどうかを確認してください。

ORA-08209: scngrs: SCN がまだ初期化されていません。

原因: System Commit Number が初期化されていません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08210: 要求された I/O でエラーが発生しました。

原因: この操作で、Oracle 実行可能プログラムが I/O エラーになる処理を要求しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08230: smscre: SGA の割当てに失敗しました。

原因: n_core システム・コールが失敗しました。メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: より少ないバッファ数を指定してください。init.ora パラメータを確認してください。

ORA-08231: smscre: SGA に接続できません。

原因: プロセスが SGA にアタッチできません。リスナーがアタッチできないか、プロセスがリスナーと通信できない可能性があります。

解決方法: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08232: smsdes: SGA から切り離せません。

原因: リスナー・プロセスが停止した可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08233: smsdes: SGA の割当て解除ができません。

原因: SGA からの割当て解除で n_core システム・コールが失敗しました。

解決方法: nCX エラーを記録してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08234: smsget: インスタンス・リスナー・アドレスを獲得できません。

原因: インスタンス・リスナーアドレスが、sgadef ファイルから読み込めません。

解決方法: \$(ORACLE_HOME) および (ORACLE_SID) の設定が正しいことを確認してください。追加情報として、ora_addr からエラーが戻されます。

ORA-08235: smsget: このノードにはリスナーがありません。

原因: SGA に連結するプロセスが、インスタンスのリスナーと異なるノードにあります。

解決方法: \$(ORACLE_HOME) および (ORACLE_SID) の設定が正しいことを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08236: smsget: リスナーとサブキューブを共用できません。

原因: n_share コールに失敗しました。リスナーが停止している可能性があります。

解決方法: リスナーが実行されているかどうか確認し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08237: smsget: SGA 領域がまだ作成されていません。

原因: 作成されていない SGA に連結しようとしています。

解決方法: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08238: smsfre: SGA から切り離せません。

原因: SGA からの割当て解除で n_core system システム・コールが失敗しました。

解決方法: nCX エラーを調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08240: snlmatt: パラレル・サーバーの名前が長すぎます。

原因: ロック・マネージャのアドレス・ファイルの名前が長すぎます。

解決方法: 短いパラレル・サーバー名を使用してください。

ORA-08241: snlmatt: ロック・マネージャに接続できません。

原因: ロック・マネージャの接続に失敗しました。実行されていない可能性があります。

解決方法: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。ロック・マネージャが実行されているどうかを確認してください。

ORA-08242: snlmdet: ロック・マネージャから切り離せません。

原因: ロック・マネージャからの切離し中に、エラーが発生しました。

解決方法: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08260: ora_addr: ネーム・サーバーをオープンできませんでした。

原因: プロセスがネーム・サーバーと交信できません。

解決方法: ネーム・サーバーが起動されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08261: ora_addr: ネーム・サーバーで名前が見つかりませんでした。

原因: インスタンスのリスナー・ネーム・サーバーのエントリが見つかりません。

解決方法: ネーム・サーバーが起動されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08262: ora_addr: ORACLE_PSRV が定義されていません。

原因: パラレル・サーバー名 ORACLE_PSRV が未定義です。

解決方法: 環境変数 ORACLE_PSRV を設定して、やり直してください。

ORA-08263: ora_addr: リスナー・アドレスを解放できません。

原因: リスナー・ネーム・サーバーのエントリが解放できません。

解決方法: 追加情報として、ネーム・サーバーが状態を戻します。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08264: ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーとの接続がクローズできません。

解決方法: 追加情報として、ネーム・サーバーが状態を戻します。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08265: ora_addr: ネーム・サーバーをオープンできませんでした。

原因: プロセスがネーム・サーバーと交信できません。

解決方法: ネーム・サーバーが起動されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08266: create_ora_addr: ネーム・サーバーで名前を登録できません。

原因: リスナーのアドレス情報が登録できません。

解決方法: ネーム・サーバーが起動されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08267: destroy_ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーとの接続がクローズできません。

解決方法: 追加情報として、ネーム・サーバーが状態を戻します。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08268: ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーとの接続がクローズできません。

解決方法: 追加情報として、ネーム・サーバーが状態を戻します。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08269: destroy_ora_addr: 名前を破棄できません。

原因: リスナーのアドレス情報が削除できません。

解決方法: 追加情報として、ネーム・サーバーが状態を戻します。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08270: sksachk: アーカイブ制御文字列が無効です。

原因: 指定されたアーカイブ制御文字列内に、アーカイブ・ファイルが作成できません。

解決方法: ボリュームが存在するかどうかを確認してください。

ORA-08271: sksablcn: アーカイブ制御文字列に対してバッファ・サイズが十分ではありません。

原因: 指定されたアーカイブ文字列が、多くの文字に拡張されています。

解決方法: アーカイブ制御文字列の長さを短くしてください。

ORA-08274: 環境変数に対してメモリーが不足しています。

原因: メモリーが不足しているため、要求された値を戻せません。

解決方法: メモリーの使用率を低くするか、再試行してください。

ORA-08275: 環境変数が設定されていません。

原因: 要求された環境変数が設定されていません。

解決方法: 要求された変数名が正しいかどうかを確認してください。

ORA-08276: ネーム・サーバーに pid の入る容量がありません。

原因: バックグラウンド・プロセスの PID を格納できません。

解決方法: データベースをいったん停止してから再起動してください。

ORA-08277: 環境変数を設定できません。

原因: メモリーが不足しているため、環境が拡張できません。

解決方法: メモリーの使用率を低くするか、再試行してください。

ORA-08278: CPU 統計を獲得できません。

原因: n_stat が失敗したため、CPU 時間が取得できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08308: sllfop: ファイルをオープンできません。

原因: Oracle が失敗したため、ファイルがオープンできません。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08309: sllfop: ファイルを fstat できません。

原因: Oracle は、オープンしているファイルの情報が取得できません。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08310: sllfop: recsize の値が無効です。

原因: レコード・サイズに無効な値が指定されました。

解決方法: recsize オプションに、0 より大きい値を指定してください。

ORA-08311: sllfop: maxrecsize のサイズが無効です。

原因: 最大レコード・サイズに無効な値が指定されました。

解決方法: maxrecsize オプションに、0 より大きい値を指定してください。

ORA-08312: sllfop: 認識されないオプションを処理しました。

原因: 認識できない処理オプションが指定されました。

解決方法: 『Oracle for nCUBE 2 User's Guide』で有効なオプションで調べてください。

ORA-08313: sllfop: バッファの割当てができませんでした。

原因: ロード・バッファのメモリーが割当てられません。

解決方法: 最大レコード・サイズを少なくしてください。現行のノードで不要なプロセスを排除してから、SQL*Loader を実行してください。

ORA-08314: sllfcf: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08315: sllfrb: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08316: sllfsk: ファイルのシーク・エラー

原因: lseek システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08317: sllfsk: ファイルのシーク・エラー

原因: lseek システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08318: sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08319: sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: 戻された UNIX errno から追加情報を入手してください。

ORA-08320: scnget: scnset または scnfnfnd の前に scnget をコールしました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08321: scnmin: まだ接続されていません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08322: scnmin: バイアス・ロックのオープンまたは変換が失敗しました。

原因: lkmgr の呼出しが失敗したため、バイアス・ロックがオープンおよび変換できません。

解決方法: lkmgr が起動しているかどうかを調べてください。

ORA-08323: scnmin: バイアス・ロックのクローズが失敗しました。

原因: lkmgr の呼出しが失敗したため、バイアス・ロックがクローズできません。

解決方法: lkmgr が起動しているかどうかを調べてください。

ORA-08330: 印刷はサポートされていません。

原因: ファイルが自動的にプリンタにスプールされました。

解決方法: なし。

ORA-08331: 待機操作のタイム・アウトが発生しました。

原因: イベントの待機中に Oracle 実行可能プログラムがタイム・アウトしました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-08332: 指定されたロールバック・セグメント番号 :number は使用できません。

原因: (1545 と同じ)

解決方法: (1545 と同じ) また、開始するインスタンス数に十分なロールバック・セグメントが作成されているかどうかを確認してください。

ORA-08340: このコマンドは nCUBE には実行できません。使用されているスレッドは 1 つだけです。

原因: nCUBE プラットフォームで無効なコマンドが実行されました。

解決方法: このコマンドは発行する必要はありません。

ORA-08341: nCUBE では、このコマンドはインスタンス 1 からしか実行できません。

原因: インスタンス 1 にしか実行できないコマンドが発行されました。

解決方法: インスタンス 1 にログオンし、コマンドを繰り返してください。

ORA-08342: sropen: REDO サーバー接続をオープンできません。

原因: REDO サーバーへの接続を試行中にエラーが発生しました。

解決方法: OS 固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08343: srclose: REDO サーバー接続をクローズできません。

原因: REDO サーバー接続のクローズを試行中にエラーが発生しました。

解決方法: OS 固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08344: srapp: REDO サーバーへ REDO データを送信できません。

原因: REDO サーバーへの REDO の送信を試行中にエラーが発生しました。

解決方法: OS 固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08362: scgcm: ロック・マネージャのメモリが不足しています。

原因: ロック・マネージャでメモリーが不足しました。

解決方法: GC_FILES_TO_LOCKS および GC_ROLLBACK_LOCKS init.ora パラメータも指定するロック数を少なくするか、ロック・マネージャの数を増やしてください。

プロシージャ・ゲートウェイ 用 PL/SQL ユーティリティ・パッケージ・メッセージ : 08401 ~ 08499

ORA-08401: コンパイラ名が無効です : name。

原因: 無効なコンパイラ名が UTL_PG 変換ルーチンに渡されました。

解決方法: 変換ルーチンをコールした PL/SQL コードのコンパイラ名パラメータを訂正してください。

ORA-08412: WMSGBSIZ にエラーがあります。WMSGBLK のサイズが警告メッセージに対して小さすぎます。

原因: WMSGBSIZ は警告メッセージ・ブロックの最大サイズです。1024 バイト ~ 8K バイトにすることを薦めます。

解決方法: 定義されている WMSGBLK のサイズを 1K ~ 8K バイトにして、WMSGBSIZ を WMSGBLK のサイズに更新してください。

ORA-08413: *name* の FORMAT パラメータのコンパイラ型が無効です。

原因: 書式制御ブロックに、無効なコンパイラ・タイプが定義されました。書式制御ブロックが無効です。

解決方法: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で実パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08414: *name* にエラーが発生しました

原因: ファンクション <ルーチン> がエラーを返しました。<> この <ルーチン> は次のいずれかです。

RAW_TO_NUMBER
NUMBER_TO_RAW
RAW_TO_NUMBER_FORMAT
NUMBER_TO_RAW_FORMAT
MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT
MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT

解決方法: このメッセージの前のメッセージに、エラーの詳細が説明されています。それらのメッセージを確認して、取るべき処置を決定してください。

ORA-08429: ロー・データのディスプレイ・タイプ・データに無効な数字があります。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに無効なデータが含まれていました。ピクチャ・マスク・パラメータは数字を指定しましたが、ロー・データからの該当する入力に有効な数字が含まれていませんでした。

解決方法: 入力データが誤っているか、またはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08430: ロー・データに先行する記号がありません。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに先行符号がないにもかかわらず、マスク・オプション・パラメータが先行符号を指定しました。

解決方法: 入力ロー・データまたはマスク・オプションを訂正して、一致するようにしてください。

ORA-08431: ロー・データにピクチャで定義されているゼロがありません。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータにはゼロが含まれているにもかかわらず、ロー・データからの該当する入力はゼロではありませんでした。

解決方法: 入力データが誤っているか、またはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08432: ロー・データの浮動小数点データが無効です。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・データに、無効な浮動小数点データが含まれています。

解決方法: 入力ロー・データを訂正してください。

ORA-08433: ロー・データから数値への変換でピクチャ・タイプが無効です。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれているのに数値データ型への変換が行われました。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08434: ロー・データの後続記号が無効です。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファには後続記号がありませんが、マスク・オプション・パラメータが後続記号を指定しました。

解決方法: 入力ロー・データまたはマスク・オプションを訂正して、一致するようにしてください。

ORA-08435: 記号の先行が指定されているときに、ピクチャ・マスクに先行記号がありません。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力 MASK に先行符号がないのに、マスク・オプション・パラメータが先行符号を指定しました。

解決方法: 入力ロー・データまたはマスク・オプションを訂正して、一致するようにしてください。

ORA-08436: ロー・データに無効な記号桁があります。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファのピクチャ・マスクが記号を指定した位置に、記号数字があります。

解決方法: 入力ロー・データまたはピクチャ・マスクを訂正して、一致するようにしてください。

ORA-08437: ピクチャ・マスクのピクチャ・タイプが無効です。

原因: UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれているのに、数値データ型への変換が行われました。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08440: ロー・バッファが小さすぎて、変換されたデータを保持できません。

原因: UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡された出力ロー・バッファのサイズが、ピクチャ・マスクに基づいた変換結果に十分な大きさではありませんでした。

解決方法: ロー・バッファ・サイズを、変換の結果全体を保持するのに必要なサイズまで大きくしてください。

ORA-08441: ピクチャ・マスクに閉じカッコがありません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクから、閉じカッコが欠落していました。

解決方法: ピクチャ・マスクを訂正してください。

ORA-08443: マスク・オプションの BLANK WHEN ZERO 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの BLANK WHEN ZERO 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、BLANK ZERO、BLANK ZEROS、BLANK ZEROES、BLANK WHEN ZERO、BLANK WHEN ZEROS、BLANK WHEN ZEROES です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08444: マスク・オプションの JUSTIFIED 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの USAGE 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、JUST、JUST RIGHT、JUSTIFIED、JUSTIFIED RIGHT です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08445: マスク・オプションの SIGN 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、SIGN、LEADING SIGN、LEADING SEPARATE SIGN、LEADING SEPARATE CHARACTER SIGN、TRAILING SIGN、TRAILING SEPARATE SIGN、TRAILING SEPARATE CHARACTER SIGN IS LEADING、SIGN IS LEADING、SEPARATE SIGN IS LEADING、SEPARATE CHARACTER SIGN IS TRAILING、SIGN IS TRAILING、SEPARATE SIGN IS TRAILING、SEPARATE CHARACTER です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08446: マスク・オプションの SYNCHRONIZED 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SYNCHRONIZED 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、SYNC、SYNC LEFT、SYNC RIGHT、SYNCHRONIZED、SYNCHRONIZED LEFT、SYNCHRONIZED RIGHT です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08447: マスク・オプションの USAGE 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの USAGE 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、USAGE、DISPLAY USAGE、COMP USAGE、COMP-3 USAGE、COMP-4 USAGE、COMPUTATIONAL USAGE、

COMPUTATIONAL-3 USAGE、COMPUTATIONAL-4 USAGE IS、DISPLAY USAGE IS、COMP USAGE IS、COMP-3 USAGE IS、COMP-4 USAGE IS、COMPUTATIONAL USAGE IS、COMPUTATIONAL-3 USAGE IS、COMPUTATIONAL-4 です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08448: DECIMAL-POINT 環境句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された DECIMAL-POINT 環境句パラメータで構文エラーが検出されました。有効な指定は、DECIMAL-POINT IS COMMA です。

解決方法: 環境句パラメータを訂正してください。

ORA-08449: ピクチャ・マスクに無効な数値シンボルがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、無効な数値シンボルが検出されました。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08450: ピクチャ・マスクに CR の無効な指定があります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 CR が正しく指定されていませんでした。接尾辞 CR を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりだけです。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08451: ピクチャ・マスクに DB の無効な指定があります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 DB が正しく指定されませんでした。接尾辞 DB を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりだけです。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08452: ピクチャ・マスクの E の指定はサポートされていません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータに、浮動小数点指数記号 "E" が指定されました。浮動小数点データ型は、UTL_PG 変換ルーチンでは現在サポートされていません。

解決方法: ピクチャ・マスクを訂正してください。必要であれば、データも訂正してください。

ORA-08453: ピクチャ・マスクに V シンボルが複数指定されています。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の小数点標識「V」が含まれています。ピクチャ・マスクで使える小数点標識は 1 つだけです。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08454: ピクチャ・マスクに S シンボルが複数指定されています。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の演算符号標識「S」が含まれています。ピクチャ・マスクで使える演算符号標識は 1 つだけです。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08455: CURRENCY SIGN 環境句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された CURRENCY SIGN 環境句パラメータで構文エラーが検出されました。有効な指定は CURRENCY SIGN IS x です。この x は有効な通貨記号です。

解決方法: 環境句パラメータを訂正してください。

ORA-08456: マスク・オプションに SIGN 句以外のピクチャ・マスクの記号がありません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに "S"、"+"、"-" などの符号が含まれていませんが、マスク・オプション・パラメータには SIGN 句が含まれています。マスク・オプション・パラメータに SIGN 句が含まれている場合は、ピクチャ・マスク・パラメータに符号が必要です。

解決方法: ピクチャ・マスク・パラメータまたはマスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08457: SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションに構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションで、構文エラーが検出されました。有効な指定は、SEPARATE および SEPARATE CHARACTER です。

解決方法: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08458: 無効なフォーマット・パラメータです。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたフォーマット・パラメータが無効でした。フォーマット・パラメータは、MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT のどちらかより前のコールで作成されていなければなりません。

解決方法: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で実パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08459: フォーマット・パラメータ長が無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたフォーマット・パラメータの長さが正しくありませんでした。フォーマット・パラメータの長さは、2048 バイトでなければなりません。

解決方法: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で実パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08460: 環境パラメータの環境句が無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された環境パラメータに、サポートされていない環境句、または無効な環境句が含まれていました。CURRENCY SIGN 環境句および DECIMAL-POINT IS COMMA 環境句だけがサポートされています。

解決方法: 環境パラメータを訂正してください。

ORA-08462: ロー・バッファに無効な 10 進データがあります。

原因: 原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに、無効な 10 進データが含まれています。

解決方法: 入力データを訂正してください。

ORA-08463: 10 進数から Oracle の数値への変換でオーバーフローが発生しました。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER に渡された出力変数は、入力された 10 進数の変換結果である Oracle 番号を保持するのに十分な大きさではありませんでした。

解決方法: 入力 10 進数が有効なことで、出力変数が Oracle 番号値を保持できる大きさになっていることを確認してください。

ORA-08464: 10 進数から Oracle の数値への変換でオーバーフローが発生しました。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに 42 を超える桁が含まれていました。これは、Oracle 番号の最大サイズを超えています。

解決方法: ロー入力バッファを訂正してください。

ORA-08465: 入力マスクに 32 文字を超える文字が含まれています。

原因: UTL_PG 数値変換ルーチンに渡された入力マスクに、32 を超える文字が含まれていました。

解決方法: マスク入力バッファを訂正してください。

ORA-08466: ロー・バッファ長 :num が name には短すぎます。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファが、長さ < 数値 > バイト未満であるのに、ピクチャ・マスク・パラメータは、< 数値 > バイトの入力データの変換を指定しました。

解決方法: 入力データが誤っているか、またはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08467: Oracle 数値を num に変換中にエラーが発生しました。

原因: Oracle 番号を次の COBOL< タイプ > のいずれかに変換するときに、エラーが発生しました。

DISPLAY

COMP-3

または文字変数

Oracle 番号の書式が正しくありませんでした。

解決方法: 変換ルーチンの呼出しを修正してください。入力は、有効な Oracle 数値変数でなければなりません。

ORA-08468: マスク・オプション *:name* はサポートされません。

原因: マスク・オプション <句> が UTL_PG 変換ルーチンに渡されましたが、UTL_PG でサポートされていません。句には次のいずれかを指定できます。

USAGE IS POINTER

USAGE IS INDEX

USAGE IS COMP-1

USAGE IS COMP-2

POINTER

解決方法: UTL_PG に対する PL/SQL コールのマスク・オプション・パラメータから <clause> を削除してください。

ORA-08498: 警告: ピクチャ・マスク *name* がピクチャ・マスク・オプション:USAGE IS*name* を USAGE IS DISPLAY に上書きしました。

原因: ピクチャ・マスク・オプションが、ピクチャ・マスクによって上書きされています。

解決方法: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-08499: 警告: ピクチャ・マスク・オプション *name* が UTL_RAW によって無視されました。

原因: OCCUR、および、SYNC、その他のピクチャ・マスク・オプションは UTL_PG 数値変換ルーチンによって処理されませんでした。

解決方法: これは単なる情報メッセージです。UTL_PG ルーチンに渡されるパラメータ・リストから不必要なピクチャ・マスク・オプションを取り除くと、このメッセージは表示されなくなります。

MQ Series 用プロトコル・プロシージャ・ゲートウェイ・メッセージ : 08500 ~ 08599

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

SQL*Connect メッセージ : 08600 ~ 09099

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

Oracle Gateway・メッセージ : 09100 ~ 09199

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

DOS、OS/2、Novell メッセージ : 09200 ~ 09499

ORA-09200: sfccf: ファイルの作成中にエラーが発生しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09201: sfcopy: ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: ブロック・サイズが一致していない可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09202: sfifi: ファイルの識別中にエラーが発生しました。

原因: init.ora に指定された DB_BLOCK_SIZE が無効です。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09203: sfofi: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイル属性が変更されました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09204: sfof: テンポラリ・ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09205: sfqio: ディスクの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09206: sfrfb: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09207: sfsrd: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09208: sftcls: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルに破損の可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09209: sftget: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09210: sftopn: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09211: sfwfb: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09212: sfwfbmt: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09213: slgfn: ファイル名の作成中にエラーが発生しました。

原因: ファイル名が長すぎる可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09214: sfdone: I/O エラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09215: sfqio: I/O 完了ルーチンでエラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09216: sdnfy: 値 value が正しくありません (パラメータ :name)。

原因: 上記のパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

解決方法: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリ / ファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-09217: sfsfs: ファイルのサイズ変更に失敗しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09218: sfrfs: ファイル・サイズのリフレッシュに失敗しました。

原因: ファイルが壊れているか、切り捨てられています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。メモリーの割当てのエラーです : 9240 から 9259。

ORA-09240: smpalo: PGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09241: smsalo: SGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09242: smscre: SGA の作成中にエラーが発生しました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09243: smsget: SGA との連結中にエラーが発生しました。

原因: SGA が作成されていません。(データベースが起動していません。)

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09244: smprset: メモリー保護の設定中にエラーが発生しました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09245: smcstk: スタックの切換え中にエラーが発生しました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09246: sfsmmap: SGA をマップできません。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09247: smsdes: SGA の破棄中にエラーが発生しました。

解決方法: プロセスの制御のエラー : 9260 から 9269 のメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09260: sigpidu: プロセス ID の取得中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09261: spdcr: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス作成中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09262: spdde: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス終了中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09263: spini: プロセスの初期化中にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09264: sptpa: プロセスのフラグ化中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09265: spwat: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09266: spawn: Oracle プロセス起動時にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。セキュリティ・エラーです : 9270 ~ 9279。

ORA-09270: spawn: Oracle プロセス起動時にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09271: szlon: ユーザー名検証中にエラーが発生しました。

原因: ユーザー名が長すぎる可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09272: リモート OS ログオンはできません。

原因: リモート OS ログインが試行されましたが、これは許可されていません。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09273: szrfc: ロール名検証中にエラーが発生しました。

原因: ロール名の検証中に、OS エラーが戻されました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09274: szrfc: ロール名検証中にエラーが発生しました。

原因: OS ロール名が長すぎます。

解決方法: ダイレクト・ローダーのエラー : 9280 から 9289 のメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09280: sllfcf: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09281: sllfop: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイルに無効なパス名が指定された可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09282: sllfrb: レコードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09283: sllfsk: レコードのスキップ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。アーカイブのエラーです : 9290 ~ 9299。

ORA-09290: sksaalo: アーカイブ用のメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09291: sksachk: アーカイブ先に指定されたデバイスが無効です。

原因: ディレクトリのアクセスに失敗しました。

解決方法: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-09292: sksabl: アーカイブ・ファイル名を作成できません。

原因: 無効なディレクトリまたは形式が指定されました。

解決方法: init.ora. の LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効なディレクトリを、LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効な形式文字列を指定してください。

ORA-09293: sksasmo: コンソールにメッセージを送信できません。

原因: コンソール・オペレータにメッセージを送信しているときに、エラーが発生しました。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。Windows 固有のエラーです : 9300 ~ 9309。

ORA-09300: osncon: 接続できないため DPMI を使用できません。

原因: DPMI の存在の検出に失敗しました。

解決方法: Windows を再起動して再試行してください。

ORA-09301: osncon: ローカル・カーネルは、標準モードでだけサポートされます。

原因: 高めたモードで、S に接続しようとしてしました。

解決方法: Windows を標準モードで再起動してください。その他のエラーです : 9310 ~ 9339。

ORA-09310: sclgt: ラッチの解放中にエラーが発生しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09311: slsleep: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09312: slspool: プリンタへのファイルのスプール中にエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09313: slsprom: ユーザーへのプロンプト表示でエラーが発生しました。

原因: リソースが不足している可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09314: sltln: 論理名変換中にエラーが発生しました。

原因: 内部バッファがオーバーフローした可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09315: sql2tt: ORACLE_EXECUTABLE 変換中に 2 タスク・エラーが発生しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09316: szrpc: ロールのパスワードは検証できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームにサポートされていない可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09317: szprv: 権限が不足しています。

原因: 指定されたパスワードが無効です。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09318: slkhst: オペレーティング・システムにホスト・アウトできません。

原因: コマンドに十分なメモリーがないか、またはホスト・アウトがこのプラットフォームにサポートされていない可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09319: slgtd: 現在日付および時間を取得できません。

原因: システム時間の設定が不正な可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09320: szrfc: 有効な OS ロールのリストを取得できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームにサポートされていない可能性があります。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09321: slzdtb: ゾーン 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09322: slpdtb: バック 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09330: oacle または Oracle DBA により、内部的にセッションが終了しました。

原因: 自動的に切断されたクライアント・ワーク ステーションが原因で、oracle が約 1 分後にそのセッションを終了しました。停止異常終了が実施される場合は、このメッセージはトレース・ファイルにも表示されます。

ORA-09331: scgcan: LK_SYNC_CANCEL リターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャに戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

ORA-09332: scgcc: LK_CLESE リターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャに戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

ORA-09333: scggc: LK_OPEN_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャに戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

ORA-09334: scggc: LK_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャに戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

ORA-09335: scgcm: 完了プロシージャのリターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャに戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

ORA-09340: 指定された ORACLE_SID が無効か、または長すぎます。

原因: ORACLE_SID は最長でも、アルファベット 4 文字でなければなりません。

ORA-09341: scumnt: データベースをマウントできません。

原因: 別のインスタンスが現在データベースをマウントしています。

ORA-09342: 停止異常終了中に分離プロセスが oracle によって終了されました。

原因: ユーザーが停止異常終了を実行しました。Windows 32 ビット 2 タスク・ドライバです : 9350 ~ 9359。

ORA-09350: Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09351: Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09352: Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは新規の oracle タスクを起動できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09353: Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはイベント・セマフォをオープンできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09354: Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバ: oracle タスクが予期せぬうちに終了しました。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。Windows 3.1 2 タスク・ドライバです : 9360 ~ 9379。

ORA-09360: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09361: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域をロックできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09362: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域の割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09363: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのコンテキスト領域が無効です。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09364: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは隠しウィンドウを作成できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09365: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは隠しウィンドウを破棄できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09366: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09367: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーの割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09368: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは oracle を起動できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09369: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのインスタンス・ハンドルが正しくありません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09370: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバの oracle タスクがタイム・アウトしました。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

MPE/XL メッセージ : 09500 ~ 09699

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

UNIX メッセージ : 09700 ~ 09999

ORA-09700: sclin: 最大ラッチ数を超えました。

原因: Oracle が使用可能なラッチ数以上を使用しようとしています。

解決方法: init.ora パラメータ LATCH_PAGES を増加するか、または使用している共有メモリー量を削減してください。

ORA-09701: scnfy: 最大プロセス数を超えました。

原因: PROCESSES init.ora パラメータを超えました。

解決方法: PROCESSES パラメータを削減し、再起動してください。

ORA-09702: sem_acquire: ラッチ・セマフォの獲得に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの獲得に失敗しました。

解決方法: トレース・ファイルをエラーの再生についての情報と共に、技術サポートに送付してください。

ORA-09703: sem_release: ラッチ・セマフォの解放に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォのリリースに失敗しました。

解決方法: トレース・ファイルをエラーの再生についての情報と共に、技術サポートに送付してください。

ORA-09704: sstascre: テスト / 設定ページの作成中に ftok エラーが発生しました。

原因: ftok() ライブラリ・コールが sstastcre() で失敗しました。

解決方法: tasdefsid.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。存在する場合には、システム障害の可能性があります。System V との互換性がない可能性があります。

ORA-09705: spcre: ラッチ・セマフォの初期化に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの初期化に失敗しました。

解決方法: トレース・ファイルをエラーの再生についての情報と共に、技術サポートに送付してください。

ORA-09706: slsget: get_process_stats エラーが発生しました。

原因: get_process_stats システム・コールで、エラーが戻されました。これは OS エラーの可能性あります。

解決方法: 戻された追加情報を調べてください。OS リファレンスを参照してください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09708: slsget: get_process_stats エラーが発生しました。

原因: ソケットでバインド・システム・コールに失敗しました。

解決方法: OS の追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09709: soacon: 接続の受け入れに失敗しました。

原因: ソケットでアクセプト・システム・コールに失敗しました。

解決方法: OS の追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09710: soarcv: バッファがオーバーフローしました。

原因: 内部バッファが大きくないため、読み込まれたメッセージを保持することができません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09712: orasrv: ログ・アーカイブはすでに接続されています。

原因: 既存の接続はすでにログ・アーカイブから orasrv に行われています。

解決方法: 接続の試行を停止してください。

ORA-09714: 2 タスク・インタフェース: puname が取得できません。

原因: TXIPC ドライバが、PU の名前を取得できません。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: PUs に（一貫性のある）名前が付いていることを検証してください。

ORA-09715: orasrv: puname が取得できません。

原因: Orasrv が、PU の名前を取得できません。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: PUs に（一貫性のある）名前が付いていることを検証してください。

ORA-09716: kslcll: 流れ込み lamport ラッチを固定できません。

原因: oracle プロセスが 1 つ、lamport ラッチを保持したまま停止しました。

解決方法: oracle ユーザー・プロセスをすべて終了（中断）してください。停止（異常終了）して、Oracle RDBMS カーネルを再起動してください。

ORA-09717: osnsui: ユーザー・インタラプト・ハンドラの最大数を超過しました。

原因: ユーザー・インタラプト・ハンドラの内部制限を超過しました。

解決方法: 同時ログオン数を削減するか、またはユーザー・インタラプト・ハンドラの数削減してください。

ORA-09718: osnsui: ユーザー・インタラプト・ハンドラを設定できません。

原因: Malloc() が空白の割当てに失敗したので、ユーザー・インタラプト・ハンドラを保持できません。

解決方法: メモリー・リソース不足の可能性があります。

ORA-09719: osncui: ハンドルは無効です。

原因: osncui に渡されたハンドルは有効な範囲外です。

解決方法: 有効なハンドルを使用してください。

ORA-09740: slsget: 仮想メモリー領域の統計情報を取得できません。

原因: vm_region システム・コールが、仮想メモリー領域の統計表示取得に失敗しました。

解決方法: sercerrno のリターン・コードを調べてください。オペレーティング・システム失敗の可能性があります。

ORA-09741: spwat: ポスト待機中にエラーが発生しました。

原因: Msg_receive システム・コールでエラーが戻されました。内部エラーです。

解決方法: sercerrno のリターン・コードを調べてください。ポート名は sercose[0] に戻されます。

ORA-09742: spwat: ポスト待機中にエラーが発生しました。

原因: Msg_send システム・コールからエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: sercerrno のリターン・コードを調べてください。ポート名は sercose[0] に戻されます。

ORA-09743: smscre: 共有メモリーを Attach できません。

原因: mmap または書き込みシステム・コールでエラーが戻されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09744: smscre: 共有メモリーを Attach できません。

原因: mmap システム・コールでエラーが戻されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09745: smscre: vm_allocate エラーが発生したため共有メモリーを作成できません。

原因: システム・コール `vm_allocate` で、エラーが発生しました。SGA の単一の共有メモリー・セグメントとしての作成に失敗しました。

解決方法: `sercerno` の戻された結果コードを調べてください。SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09746: smscre: vm_allocate エラーが発生したため共有メモリーを作成できません。

原因: `vm_allocate` システム・コールが、SGA を不正な位置に連結しました。

解決方法: SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09747: pw_detachPorts: サーバーの pws_detach のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への `pws_detach` のコールに失敗しました。

解決方法: サーバーがアクティブであることを検証してください。`sercerno` に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09748: pws_look_up: フォークが失敗しました。

原因: `pws_look_up` コールが (Oracle ヘルパー) プロセスのフォークに失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-09749: pws_look_up: ポートの参照に失敗しました。

原因: `pws_look_up` がポートの (Oracle ヘルパーへの) 検索に失敗しました。

解決方法: (Oracle ヘルパー) サーバーが `pws_look_up` によって正しく起動されており、ネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを検証してください。

ORA-09750: pw_attachPorts: port_rename に失敗しました。

原因: `port_rename` システム・コールに失敗しました。これは、内部エラーの可能性があります。

解決方法: `sercerno` のリターン・コードを調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09751: pw_attachPorts: port_rename に失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への `pws_attach` のコールに失敗しました。

解決方法: サーバーがアクティブであることを検証してください。`sercerno` に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09752: pw_attachPorts: port_rename に失敗しました。

原因: `port_allocate` システム・コールが失敗しました。リソースを使い果たした可能性があります。

解決方法: `sercerrno` のリターン・コードを調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09753: spwat: プロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な `oracle` プロセス ID が渡されました。内部エラーです。

解決方法: 追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。

ORA-09754: sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な `oracle` プロセス ID が渡されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09755: osngpn: ポートの割当てに失敗しました。

原因: `port_allocate` システム・コールが失敗しました。システム・リソースが不足している可能性があります。

解決方法: `sercerrno` のエラー・コードを調べてください。

ORA-09756: osnpns: ネーム・サーバーにポートが存在しません。

原因: `Osnpns` が、ネーム・サーバーで指定された名前付きポートの検索に失敗しました。

解決方法: `sercerrno` のエラー・コードを調べてください。シャドウ・プロセスおよびネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを検証してください。

ORA-09757: osnipn: ポートの割当てに失敗しました。

原因: `port_allocate` システム・コールが失敗しました。システム・リソースが不足している可能性があります。

解決方法: `sercerrno` のエラー・コードを調べてください。

ORA-09758: osnpns: ネーム・サーバーにポートが存在しません。

原因: `netname_check_in` コールに失敗しました。

解決方法: `sercerrno` のエラー・コードを調べてください。ネットワーク・ネーム・サーバーが実行されているかどうかを確認してください。

ORA-09759: osnsbt: 受信したメッセージが無効です。

原因: `msg_receive` システム・コールに失敗したか、または不正なメッセージを受信しました。内部エラーです。

解決方法: `sercerrno` に戻されたエラー・コードを報告してください。

ORA-09760: osnpui: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: パイプ・ドライバが `Oracle` シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへのブレーク・メッセージの送信に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09761: pw_destroyPorts: サーバーの pws_stop_instance をコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_stop_instance のコールに失敗しました。

解決方法: サーバーがアクティブであることを検証してください。sercerno に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09762: sNeXT_instanceName: 変換エラーが発生しました。

原因: ORACLE_SID の値を変換している間に故障が発見されました。

解決方法: ORACLE_SID が定義されていることと有効な長さであることを検証してください。

ORA-09763: osnmpx: mch ポートの情報交換時に送受信エラーが発生しました。

原因: mach ドライバが、接続の反対側とのポート情報の交換に失敗しました。

msg_send (sercose[0] == 1) または msg_receive (sercose[0] == 2) のいずれかが失敗しました。

解決方法: sercerno のリターン・コードを調べてください。すでに実行している両方の接続を検証してください。

ORA-09764: osnmop: Oracle 実行可能プログラムでアクセス・エラーが発生しました。

原因: マッチ・ドライバが oracle 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-09765: osnmop: フォークが失敗しました。

原因: マッチ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスの fork に失敗しました。

解決方法: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-09766: osnmop: バッファの割当てに失敗しました。

原因: mach ドライバが十分な vm スペースをその I/O バッファに割り当てるのに失敗しました。

解決方法: 2 タスク・ドライバ hoststring の buffer_size パラメータの値を削減してください。

ORA-09767: osnmfs: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: mach ドライバの送信バッファのフラッシュ中、msg_send システム・コールに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09768: osnmgetmsg: メッセージを読めません。

原因: mach ドライバでメッセージを待機中、msg_receive システム・コールで失敗コードが戻されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09769: osnmb: ブレーク・メッセージの読み込みができません。

原因: mach ドライバが oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへのブレーク・メッセージの送信に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09770: pws_look_up: 変換に失敗しました。

原因: pws_look_up ルーチンが (Oracle ヘルパー) 実行可能ファイル名の変換に失敗しました。

解決方法: ORACLE_SID および \$ORACLE_HOME が設定されており、正しいことを検証してください。追加情報では、変換エラー・コードが表示されます。

ORA-09771: osnmwrtbrkmsg: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: mach ドライバ・ブレークの送信中、msg_send システム・コールに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09772: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: mach ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09773: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: mach ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09774: osnmui: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: mach ドライバが oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへのブレーク・メッセージの送信に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09775: osnmrs: プロトコル・エラーをリセットしました。

原因: mach 2 タスク・ドライバが接続のリセットに失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09776: pws_look_up: (Oracle helper) 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました。

原因: pws_look_up コールが (Oracle ヘルパー) 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: (Oracle ヘルパー) 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-09777: osnpbr: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへのブレーク・メッセージの送信に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09778: snyfyport: 通知ポートの割当てに失敗しました。

原因: ルーチンはタスクの通知するポートの割当てまたは設定に失敗しました。

解決方法: オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09779: snyGetPort: ポート割当てに失敗しました。

原因: port_allocate システム・コールが失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。これは、OS エラーの可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09786: sllfop: ファイルのオープン・エラーが発生しました。

原因: open システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09787: sllfop: 処理オプションが認識されません。フォーマットが無効です。

原因: パスされた処理オプションが不正確な形式になっています。

解決方法: 許される形式の IUG を調べてください。

ORA-09788: sllfrb: ファイルを読み込めません。

原因: 読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09789: sllfsk: ファイルを読み込めません。

原因: 読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09790: sllfcf: ファイルをクローズできません。

原因: Close システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09791: slembdf: 変換エラーが発生しました。エラーのファイル名は変換できません。

原因: 追加情報に sltln から戻されたエラーが表示されます。

解決方法: 追加情報を調べてください。

ORA-09792: sllfop: 読み込みバッファを割当てられません。

原因: Malloc システム・コールからエラーが戻されました。システムのヒープ領域が不足している可能性があります。

解決方法: OS の追加情報を調べてください。

ORA-09793: szguns: ユーザー名の長さがバッファ長を超えています。

原因: 調べようとしたユーザーの名前の長さがコールするルーチンから与えられたバッファのサイズより大きくなっています。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09794: szrbuid: ロール名の長さがバッファ長を超えています。

原因: 調べようとしたロールの名前の長さがコールするルーチン から与えられたバッファのサイズより大きくなっています。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09795: szrbuid: ロール構造の malloc に失敗しました。

原因: ロール記述子を保持するために使用されている内部の構造体のためのメモリーの割当てに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。

ORA-09796: szrbuid: ロール名の malloc に失敗しました。

原因: ロールの名前を保持するために使用されている内部のバッファのためのメモリーの割当てに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。

ORA-09797: O/S の MAC 権限の取得に失敗しました。

原因: オペレーティング・システムはプロセスの権限の回復を実現できません。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09798: ラベルの比較に失敗しました。

原因: 2 つのバイナリ・ラベルの比較が失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09799: ファイル・ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがファイルへ付加されるラベルの取得に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09800: プロセス重要度ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがプロセスのための感度ラベルの取得に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09801: 接続からユーザー ID を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーの ID 番号取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09802: バイナリ・ラベルから文字列への変換に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがバイナリ・ラベルの文字列への変換に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09803: 文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: 取得されるラベルのためのファイルの名前を保持するために使用されるバッファの割当てに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09804: バイナリから Oracle へのクラス変換に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがクラス・コンポーネントのバイナリ形式から Oracle 形式への変換に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09805: 数値から文字列へのカテゴリの変換に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがカテゴリ番号を失敗した文字列表示対応への変換に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。カテゴリ番号は「追加情報」フィールドに含まれています。

ORA-09806: ラベル文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: ラベルを保持するために使用されている一時バッファが割当てに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09807: 文字列からバイナリへのラベルの変換に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがラベルの文字列表示のバイナリ形式への変換に失敗しました。

解決方法: 有効なラベルを再入力してください。

ORA-09808: ユーザー許可を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがユーザーの許可レベルの取得に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09809: 接続からユーザーのグループ ID を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーのグループ ID 番号取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09810: 接続からプロセス ID を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーのプロセス ID 番号取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エ

ラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09811: パッケージが初期化できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがセキュリティ情報取得のために使用されているライブラリの初期化に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09812: 接続からユーザー許可を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーのオペレーティング・システム・セッション許可の取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09813: ディレクトリの状態を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがディレクトリが複数レベルになっている場合の判別に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09814: ファイル名を拡張できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが複数レベルのディレクトリに常駐するファイルの名前の拡張に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。内部エラーです。

ORA-09815: ファイル名バッファがオーバーフローしました。

原因: 拡張された名前の拡張に oracle が使用しているバッファが小さすぎます。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09816: 有効な権限を設定できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09817: 監査ファイルへの書き込みに失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、監査証跡に使用されるファイルへのエントリの書き込みに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09818: 数値が大きすぎます。

原因: oracle 実行可能プログラムが、コンポーネント文字列を数値に変換できませんでした。数値が、整数に使用できる値を超えています。「追加情報」フィールドは最大値を示しています。

解決方法: 文字列を修正し、変換をやり直してください。

ORA-09819: 数値が最大値を超えています。

原因: コンポーネントに指定された数値が、このコンポーネントに使用できる最大値を超えています。

解決方法: コンポーネントの値を最大値より小さい値に変更し、変換をやり直してください。コンポーネントの最大値は、「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09820: 文字列から数値表現へのクラス変換に失敗しました。

原因: oracle 実行可能プログラムが、クラス文字列を数値に変換できませんでした。文字列内の文字に、数値以外のものが含まれています。

解決方法: 文字列をすべて数値にするか、数値以外の文字に変更して、変換を繰り返してください。

ORA-09821: 数値ラベルが無効です。

原因: Oracle 数値形式で指定されたラベルが有効ではありません。

解決方法: 有効なラベルを再入力してください。システムのコード化でコンポーネントに有効な数値を調べてください。

ORA-09822: 監査ファイル名の変換に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムが AUDIT_TRAIL_DEST の初期化パラメータの値の変換に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09823: デバイス名が長すぎます。

原因: デバイス名が長すぎるので、内部バッファーに入りません。追加情報フィールドに、デバイス名の長さが示されます。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09824: allowmacaccess 権限を設定できません。

原因: ラベルを比較したので、Oracle 実行可能プログラムは、allowmacaccess 権限をオンにできませんでした。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。Oracle に allowmacaccess 権限がない場合には、chpriv (1M) を使用して、allowmacaccess 権限を \$ORACLE_HOME/bin/oracle の可能性権限セットに追加 してください。実行可能形式に allowmacaccess 権限がある場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09825: allowmacaccess 権限を使用不可にできません。

原因: ラベルを比較したとで、Oracle 実行可能プログラムは、allowmacaccess 権限をオフにできませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09826: SCLIN: atomic ラッチを初期化できません。

原因: システム・コール atomic_op0 からエラーが戻りました。

解決方法: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09827: SCLGT: atomic ラッチで不明なエラーが返されました。

原因: システム・コール atomic_op0 から予期しないエラーが戻りました。

解決方法: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09828: SCLFR: atomic ラッチでエラーが返されました。

原因: システム・コール atomic_op0 から予期しないエラーが戻りました。

解決方法: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09829: pw_createPorts: サーバーの pws_start_instance コールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_start_instance のコールに失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。

解決方法: サーバーがアクティブであることを検証してください。sncerrno に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09830: snyAddPort: リモート・プロシージャ・コールの実行に失敗しました。

原因: msg_rpc システム・コールからエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09831: snyStartThread: サーバー・ポート・セットの構築に失敗しました。

原因: 要求をリスニングするポート・セットが構築できませんでした。これは、OS 障害の可能性があります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09832: infoCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: 形式が無効な要求が受信されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09833: addCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: 形式が無効な要求が受信されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09834: snyGetPortSet: ポート情報を集めることができません。

原因: port_status システム・コールに失敗しました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09835: addCallback: セット内にすでにコールバック・ポートが存在します。

原因: コールバック・リストに追加されるポートは、すでにポート・セットに存在します。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09836: addCallback: コールバック・セットにポートをこれ以上追加できません。

原因: port_set_add システム・コールに失敗しました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09837: addCallback: コールバック・リンクを追加割当てできません。

原因: メモリー割当てコールが、コールバック・リンクの空間を割り当てられませんでした。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09838: removeCallback: コールバック・ポートを削除することができません。

原因: port port_set_remove システム・コールに失敗しました。これは、OS エラーの可能性あります。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09839: removeCallback: コールバック・セットにはコールバック・ポートが存在しません。

原因: コールバック・リストから削除されるポートは、ポート・セットには存在しません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09840: soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: sltln() が失敗したため、名前付きパイプ \$ORACLE_HOME/dbs/mon2arch_sid は変換できません。

解決方法: この oratab の ORACLE_SID に指定された \$ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09841: soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: sltln() が失敗したため、名前付きパイプ \$ORACLE_HOME/dbs/arch2mon_sid は変換できません。

解決方法: この oratab の ORACLE_SID に指定された \$ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09846: soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: Open() が失敗したため、名前付きパイプ \$ORACLE_HOME/dbs/mon2arch_sid をオープンできません。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

解決方法: 現在データベースを実行をしている OS userid が \$ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索許可があるかどうかを調べてください。

ORA-09847: soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: Open() が失敗したため、名前付きパイプ \$ORACLE_HOME/dbs/arch2mon_sid をオープンできません。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

解決方法: 現在データベースを実行をしている OS userid が \$ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索許可があるかどうかを調べてください。

ORA-09848: soawrt: Named Pipe への書き込みができません。**ORA-09849: soarcv: 名前付きパイプから読み取れません。****ORA-09853: snyRemovePort: 要求からのリターン・コードが無効です。**

原因: コールバック・セットからポートを削除するように要求されましたが、障害コードが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09854: snyPortInfo: 要求からのリターン・コードが無効です。

原因: コールバック・セットからポート情報を収集するように要求されましたが、障害コードが戻されました。これは、OS エラーの可能性がありま。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09855: removeCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: 形式が無効な要求が受信されました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09856: smpalo: PGA 割当て中に vm_allocate エラーが発生しました。

原因: vm_allocate システム・コールからエラーが戻りました。システム・リソースが不足している可能性があります。

解決方法: エラーを調べてください。

ORA-09857: smprset: PGA のプロテクト中に vm_protect エラーが発生しました。

原因: vm_protect システム・コールからエラーが戻りました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09870: spini: 最大数オープン・ファイルの初期化に失敗しました。

原因: ulimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09871: TASDEF_NAME: \$ORACLE_HOME/dbs/tasdefsid.dbf を拡張する際に変換エラーが発生しました。

原因: テストおよび設定ページの作成中に、sltln(\$ORACLE_HOME/tasdefsid.dbf) にエラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、その他のリターン・エラーを調べてください。

ORA-09872: TASDEF_CREATE: \$ORACLE_HOME/dbs/tasdefsid.dbf ファイルの作成に失敗しました。

原因: tasdef file を作成しようとしているときに Create() が失敗しました。

解決方法: \$(ORACLE_HOME)/dbs ディレクトリ上の許可があることを確認してください。

ORA-09873: TASDEF_OPEN: tasdefsid.dbf ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: tasdefsid.dbf ファイルがオープンできません。これは、許可問題の可能性があり
ます。

解決方法: errno を調べてください。tasdefsid.dbf ファイルが存在するかどうかを調べて
ください。

ORA-09874: TASDEF_READ: 読み込みエラー : tasdefsid.dbf ファイルを読み込めませんでした。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/tasdefsid.dbf を読み込もうとしたときに、読み込みシステム・
コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べます。Sgodef ファイルは不正になっているか、Oracle バージョ
ンとの互換性がない場合があります。

**ORA-09875: TASDEF_WRITE: 書き込みエラー : \$ORACLE_HOME/dbs/tasdefsid.dbf ファイル
へ書き込めません。**

原因: 書き込みコールに失敗しました。デバイス上の領域が不足している可能性があります。
ます。

解決方法: errno を調べてください。

**ORA-09876: TASDEF_CLOSE: \$ORACLE_HOME/dbs/tasdefsid.dbf ファイルがクローズで
きません。**

原因: Close システム・コールからエラーが戻りました。これは、OS 障害の可能性があ
ります。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09877: sstascre: shmget エラーのため共有メモリー・セグメントが取得できません。

原因: shmget でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09878: sstascre/sstasat: shmat エラーのため tas 書き込みページが連結できません。

原因: shmat でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べます。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09879: sstascre/sstasat: shmat エラーのため tas 読み込みページが Attach できません。

原因: shmat でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べます。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09880: sstasfre/sstasdel: shmdt エラーのため tas 書き込みページがデタッチできません。

原因: shmdt でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09881: sstasfre/sstasdel: shmdt エラーのため tas 読み込みページの切離しができません。

原因: shmdt でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09882: sstasfre/sstasdel: shmctl エラーのため tas shm ページが削除できません。

原因: shmctl でエラーが発生しました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09883: 2 タスク・インターフェイス: oratab ファイルが存在しません。

原因: oratab ファイルが存在しません。

解決方法: Oracle をインストールしてから、oratab ファイルを再作成してください。

ORA-09884: 2 タスク・インターフェイス: SID が現在の PU と一致しません。

原因: oracle 実行可能プログラムが、oracle が構成されていない別の PU が起動しているか、oratab ファイルに、この SID に対するエントリがありません。

解決方法: 指定された PU(oratab ファイルを参照) で、この SID を使用して oracle を起動してください。あるいは、SID で新しいデータベースをインストールしてください。

ORA-09885: osnTXtt: TXIPC チャンネルを作成できません。

原因: TXIPC ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

解決方法: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯な可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを調べ、システム管理者に連絡してください。

ORA-09886: osnTXtt: txipcsid.trc の拡張中に変換エラーが起きました。

原因: デバッグ・チャンネルの作成中に sltln(txipcsid.trc) が失敗しました。

解決方法: 詳細は、その他のリターン・エラーを調べてください。

ORA-09887: osnTXtt: デバッグ・チャンネルの作成 / オープンに失敗しました。

ORA-09888: osnTXtt: TXIPC チャンネルの作成に失敗しました。

原因: TXIPC ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのチャンネルの作成に失敗しました。

解決方法: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えている可能性があります。システム・ファイル表でオペレーティング・システムのエラー・コードを調べて、システム管理者に連絡してください。

ORA-09889: osnTXtt: Oracle の実行プログラムにアクセスできません。

原因: txipc ドライバが、oracle 実行可能ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を検証してください。

ORA-09890: osnTXtt: malloc に失敗しました。

原因: txipx ドライバが十分なヒープ・スペースをそのコンテキスト領域バッファに割り当ててのに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09908: slkmm: gethostname がエラー・コードを返しました。

原因: システム・コール gethostname がエラーを戻しました。内部エラーの可能性あります。

解決方法: gethostname が別のコンテキストで正しく実行されるかどうかを確認してください。実行された場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09909: スクラッチ・バッファの malloc に失敗しました。

原因: 一時バッファに必用なメモリーが割当てられません。追加情報フィールドに、oracle が割り当てようとしたバイト数が示されます。システムのメモリーが足りない可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09910: ユーザーの Oracle パスワード・ファイル・エントリがありません。

原因: Oracle パスワード・フィールドに、ユーザーのエントリがありません。

解決方法: データベース管理者に依頼して、orapasswd を実行して、パスワード・エントリをインストールしてください。

ORA-09911: ユーザー・パスワードが無効です。

原因: ユーザーが入力したパスワードは無効です。

解決方法: 正しいパスワードを入力してください。

ORA-09912: 名前バッファの malloc に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、DBA およびオペレータ・ユーザー名に使用する 1 つまたは両方のバッファ・メモリーが割当てられませんでした。システムのメモリーが足りない可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09913: ダミー名の malloc に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、ユーザー・パスワードの暗号化に使用するユーザー名のメモリーを割り当てることができませんでした。システムのメモリーが足りない可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09914: Oracle パスワード・ファイルをオープンできません。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、パスワード・ファイルをオープンして読み取ることができませんでした。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。エラーの数値が、ファイルが存在しないことを表している場合には、データベース管理者に依頼し、orapasswd を実行してファイルを作成してください。十分な許可がないことを表している場合には、データベース管理者に苛して、許可を変更してください。もしそうでなければ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09915: パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがパスワードの暗号化に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09916: 必要なパスワードが指定されていません。

原因: ユーザーが "internal" として接続を試みましたが、パスワードが指定されていません。

解決方法: 内部として再度接続し、パスワードを指定してください。

ORA-09918: Oracle Net からユーザー権限を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネット接続からユーザーの権限を取り出すことができませんでした。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09919: 専用サーバーのラベルを設定できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、サーバー専用のラベルに必要な値を設定できませんでした。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。また、Oracle の実行プログラムの権限を調べてください。少なくとも "allowmacaccess" 権限が必要です。

ORA-09920: 接続から重要度ラベルを取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーの重要度レベルの取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09921: 接続から情報ラベルを取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続からユーザーの情報ラベルの取出しに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システム にエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで Oracle Net エラーを調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09922: バックグラウンド・ログ・ディレクトリを正しく作成していないためプロセスを生成できません。

原因: バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle 実行可能プログラムがバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

解決方法: 初期化パラメータ BACKGROUND_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。
1) ディレクトリが存在する。2) その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。3) Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09923: ユーザー・ログ・ディレクトリを正しく作成していないためプロセスを生成できません。

原因: 専用サーバー・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle 実行可能プログラムがバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

解決方法: 初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。1) ディレクトリが存在する。2) その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。3) Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09924: 正しいコア・ダンプ・ディレクトリを作成しないためプロセス実行できません。

原因: 例外イベントで oracle プロセスによって生成されるコア・ダンプが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle 実行可能プログラムがバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

解決方法: 初期化パラメータ CORE_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。1) ディレクトリが存在する。2) その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。3) Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09925: 監査証跡ファイルを作成できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、監査証跡レコードを格納するファイルを作成できませんでした。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09926: サーバーの有効な権限を設定できません。

原因: 専用サーバーが、固有の権限セットを設定できませんでした。

解決方法: Oracle 実行可能プログラムに付与されている権限を確認してください。少なくとも "allowmacaccess" 権限が必要です。

ORA-09927: サーバーのラベルを設定できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、サーバーのラベルに新しい値を設定できませんでした。

解決方法: \$ORACLE_HOME/bin/oracle の権限を確認してください。
"allowmacaccess" 権限があるかどうかを確認してください。

ORA-09928: サーバーのラベルを復元できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、サーバーのラベルをデータベースが拡張される前の値に戻すことができませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09929: 2 ラベルの GLB が無効です。

原因: 2 つのラベルに対する下限操作の結果、無効になりました。

解決方法: 別の 2 つのラベルを使用して操作をやり直してください。システム・コード化ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09930: 2 ラベルの LUB が無効です。

原因: 2 つのラベルに対する上限操作の結果、無効になりました。

解決方法: 別の 2 つのラベルを使用して操作をやり直してください。システム・コード化ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09931: Oracle パスワード・ファイルがオープンできないので、読み込みできません。

原因: パスワード・ファイルをオープンして読み取ろうとしましたが、失敗しました。

解決方法: Oracle ユーザーがオープンできないファイルに対して権限が変更されていないかどうかを確認してください。

ORA-09932: Oracle パスワード・ファイルのクローズに失敗しました。

原因: パスワード・ファイルがクローズできませんでした。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09933: 古いパスワード・ファイルの削除に失敗しました。

原因: 古いパスワード・ファイルの移動に失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09934: 現行パスワード・ファイルの旧版へのリンクに失敗しました。

原因: 古いパスワード・ファイルが保存されているため、Oracle 実行可能プログラムはリンクを作成できませんでした。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09935: 現行パスワード・ファイルのアンリンクに失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、現行のパスワード・ファイルの保存を完了できませんでした。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09936: Oracle パスワード・ファイルがオープンできないので、書き込みできません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがパスワード・ファイルの作成に失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09937: Oracle パスワード・ファイルのモード変更 (chmod) に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがパスワード・ファイルを読み込み専用に変更するのに失敗しました。

解決方法: 詳細は UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09938: 信号ハンドラの保存に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、選択された信号ハンドルの前の値を保存できませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09939: 信号ハンドラの復元に失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムは、選択された信号ハンドルの前の値を復元できませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09940: Oracle パスワード・ファイルのヘッダーが壊れています。

原因: 1 つのパスワード・ファイルのヘッダーが、Oracle 実行可能プログラムの予期した形式になっていませんでした。

解決方法: 両方のファイルのヘッダーを調べてください。ヘッダーの形式は、FILE VERSION: N.N.N.N.N EXECUTABLE VERSION: N.N.N.N.N でなければなりません。N は数値です。壊れているファイルを削除して、"orapasswd" を再実行してください。

ORA-09941: Oracle パスワードまたは Installer のバージョンがファイルより古いです。

原因: 実行中の orapasswd または installer のバージョンが oracle パスワード・ファイルのバージョンよりも古くなっています。ファイルのバージョンは、形式を変更したときに変更されるので、このエラーは、実行可能形式が、ファイル作成時と異なる形式を使用していることを意味しています。

解決方法: ファイルのバージョン以降の installer または orapasswd を実行してください。

ORA-09942: Oracle パスワード・ファイルのヘッダーの書き込みに失敗しました。

原因: Oracle パスワード・ファイルのヘッダーに書き込もうとしましたが、エラーが発生しました。

解決方法: オペレーティング・システムのエラー・コードを調べてください。ファイル・システムが満杯になっている可能性があります。

ORA-09943: パスワード・リスト・コンポーネントへのメモリー割当てに失敗しました。

原因: パスワード・ファイルのエントリ・リストの作成中に、Oracle 実行可能プログラムが複数のコンポーネントにメモリーを割当てました。割当ての 1 つが失敗しました。システムのメモリーが足りない可能性があります。

解決方法: オペレーティング・システムのエラー・コードを調べてください。

ORA-09944: パスワードのエントリが壊れています。

原因: Oracle パスワード・ファイルのエントリが、Oracle 実行可能プログラムの予期した形式になっていませんでした。

解決方法: 壊れているファイルを削除して、"orapasswd" を再実行してください。

ORA-09945: 監査証跡ファイルの初期化ができません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、監査証跡に使用されるファイルへのヘッダー情報の書込みに失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09946: バッファに対しファイル名が長すぎます。

原因: ファイル名を格納するバッファが、生成された名前には小さすぎると判別されました。トレース・ファイルまたは監査ファイルのいずれかの変換後の名前が、使用可能な最大値を超えている可能性があります。多くのポートでは、256 文字が最大値です。

解決方法: ファイル名を短くしてください。

ORA-09947: 接続属性構造の割当てができません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが Oracle ネットの接続から属性の保持に必要なメモリーの割り当てに失敗しました。「追加情報」フィールドに、oracle が割当てようとしたバイト数が示されます。システムのメモリーが足りない可能性があります。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べてください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09948: プロセス情報ラベルの取出しが失敗しました。

原因: Oracle 実行可能プログラムがプロセスの情報ラベルの取得に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09949: クライアント OS 権限を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがクライアント・プロセスのオペレーティング・システム権限の取得に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09950: サーバー OS 権限を取得できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがオペレーティング・システムから権限の取得に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09951: ファイルを作成できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムがファイルの作成に失敗しました。

解決方法: UNIX エラーの数値を調べて、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09952: scgcmn: lk_open_convert が無効な値を戻しました : オープンに失敗しました。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、分散ロック・マネージャ・マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09953: scgcmn: lk_open_convert が無効な値を戻しました : オープンに失敗しました。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: ロック・マネージャのエラー・メッセージを調べて、DLM マニュアルを参照してください。分散ロック・マネージャ・マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09954: scgcc: ロック・クローズのコールバックへのリターン・ステータスが無効です。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: ロック・マネージャのエラー・メッセージを調べて、DLM マニュアルを参照してください。分散ロック・マネージャ・マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09955: scgcan: ロック取消し中のリターン・ステータスが無効です。

原因: DLM システム・サービス x から予期しない値が戻りました。

解決方法: システム・エラー・メッセージを調べて、DLM マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09956: scgcm: 予期しないロック状態条件

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期せぬ値を戻しました。

解決方法: システム・エラー・メッセージがあれば調べて、分散ロック・マネージャ・マニュアルを参照するか、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09957: IMON に終了要求を送信できません。

原因: IMON への終了信号の送信に失敗しました。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09958: IMON: 同じ Oracle pid を持つプロセスが 2 つアクティブになっています。

原因: IMON プロセスが、サーバー・プロセスのエントリを追加できませんでした、別のアクティブなプロセスがスロットを占有しています。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09959: IMON: プロセスの削除に失敗しました。

原因: IMON プロセスが、プロセス ID 配列からサーバー・プロセスを削除できませんでした。プロセスのエントリが見つかりません。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09960: 端末信号への信号ハンドラが確立できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、インスタンスのシャットダウンを通知する信号のハンドラをセットアップできませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09961: 端末信号ハンドラを復元できません。

原因: Oracle 実行可能プログラムが、終了信号のハンドラに前の値を設定できませんでした。内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-09962: scggrc で lk_group_create エラーが発生しました。

ORA-09963: scggga で lk_group_attach エラーが発生しました。

ORA-09964: scggdr で lk_group_detach エラーが発生しました。

ORA-09965: scumnt: db ロック名空間パラメータが NULL です。

ORA-09966: scumnt: \$ORACLE_HOME/dbs/lk の拡張中に変換エラーが起きました。

原因: scumnt の sltln でエラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、その他のリターン・エラーを調べてください。

ORA-09967: scumnt: ファイルを作成またはオープンできません。

原因: open システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べます。

ORA-09968: scumnt: ファイルをロックできません。

原因: ロック・ファイル・オペレーティング・システム・コールからエラーが戻されました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-09974: skxfidini: SDI チャンルの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャンルが正しく初期化できませんでした。

解決方法: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09975: kxfspini: SDI プロセスの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャンルが連結できませんでした。

解決方法: SDI プロセス固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09976: skxfqini: ポート作成エラー

原因: 通信終点が作成できません。

解決方法: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09977: skxfqhini: 接続でエラーが発生しました。

原因: プロセスが他の終点と通信できません。

解決方法: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09978: skxfqhdel: 別のエンドポイントからの切離しでエラーが発生しました。

原因: 他の終点から正しく切り離されませんでした。

解決方法: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを調べてください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09979: skxfqhsnd: 別のエンドポイントへのメッセージの送信でエラーが発生しました。

原因: 既存の終点にメッセージが送信できません。

解決方法: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを調べてください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09980: skxfqdrev: 別のエンドポイントからのメッセージの受信でエラーが発生しました。

原因: メッセージの受信をしようとしたときに、エラーが発生しました。

解決方法: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを調べてください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09981: skxfqdreg: SDI バッファ・プールへのページの追加でエラーが発生しました。

原因: SDI バッファ・プールへのページの追加に失敗しました。

解決方法: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09982: skxfqddrg: SDI バッファ・プールからのページの除去でエラーが発生しました。

原因: SDI バッファ・プールへのページの移動に失敗しました。

解決方法: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09983: skxfidsht: SDI チャネルの停止でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルの停止に失敗しました。

解決方法: SDI ツールを使用して、SDI 永続リソースを調べてください。すべてのプロセスが正しく終了しているかどうか、インスタンスが安全にシャットダウンされている

かどうかを調べてください。現在のインスタンスに関連付けられている、残りの SDI チャンネル ID を削除してください。

ORA-09984: SGA ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgade fsid.dbf は存在しません。

原因: ファイルが存在しないか、アクセスできません。

解決方法: インスタンスを再起動して、SGA 定義ファイルを作成してください。

ORA-09985: SGA 定義ファイルを読み取ることができません。

原因: Read() 操作に失敗しました。

解決方法: errno を調べて、適切な処置を行ってください。

ORA-09986: SGA 定義ファイルから読み取ったバイト数が間違っています。

原因: Struct skgmsdef サイズが、SGA ファイルから読み取ったバイト数と異なります。

解決方法: 2 つの struct 定義を比較して、これらのサイズと構造体が一致するように変更してください。

ORA-09987: READ-ONLY モードで SGA に付加できません。

原因: インスタンスが起動していないか、SGA セグメントが読取り可能ではありません。

解決方法: インスタンスが起動しているかどうか、SGA セグメントに読取り許可が設定されているかどうかを確認してください。

ORA-09988: READ-ONLY モードで SGA に付加できません。

原因: skgmsdef struct が壊れているか、セグメント・アドレスが修正されています。

解決方法: インスタンスを安全にシャットダウンし、SGA セグメントを再度マウントしてください。

ORA-09989: 無効な skgmsdef struct ポインタを使用しようとしてしました。

原因: skgmsdef struct へ n ポインタが妥当性検査されていません。

解決方法: skgmsdef struct ポインタに有効な値を割当ててから、使用してください。

内部メッセージ : 10000 ~ 10999

この範囲の内部エラー・メッセージは、通常は発生しません。内部メッセージについてはこのマニュアルでは説明しません。

Net8 MVS メッセージ : 11000 ~ 11999

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

表スナップショット・メッセージ : 12000 ~ 12099

この節では、表スナップショットのアクセス時に生成されるメッセージを記載します。

ORA-12000: スナップショット・ログが表 *name* にすでに存在します。

原因：すでにスナップショット・ログがある表に対して、スナップショット・ログを作成しようとした。各マスター表はスナップショット・ログを1つだけを持つことができます。

解決方法：表に対するすべてのスナップショットは、その表に対する同一のスナップショット・ログを使用できます。既存のログを変更する必要がある場合は、ALTER SNAPSHOT LOG コマンドを使用するか、またはスナップショット・ログを削除してから再作成してください。

ORA-12001: ログを作れません。表 *name* にはすでにトリガーがあります。

原因：表がすでに AFTER 行トリガーを持っているときに、表に対してスナップショット・ログを作成しようとした。スナップショット・ログは、マスター表に対する AFTER 行トリガーによって満たされ、トリガーは作成できません。

解決方法：スナップショット・ログを作成する必要がある場合には、マスター表にある現行のトリガーを削除してください。

ORA-12002: 表 *:name* に対するスナップショット・ログは存在しません。

原因：存在しないスナップショットを削除しようとした。

解決方法：構文および綴りを調べ、存在するスナップショット名を使用してください。

ORA-12003: スナップショット *:name* が存在しません。

原因：存在しないスナップショットを参照しようとした。

解決方法：入力ミスがないかどうか、スナップショットの名前を調べてください。既存のスナップショット名を使用して、文を再試行してください。

ORA-12004: REFRESH FAST が使用できません。

原因：スナップショットのマスター表のスナップショット・ログがないか、スナップショット・ログを使用できない場合に、スナップショットを高速リフレッシュしようとした。

解決方法：REFRESH FAST を実行するには、最初にマスター表に対してスナップショット・ログを作成してください。そうでない場合、ALTER SNAPSHOT コマンドの REFRESH COMPLETE オプションを使用してください。また、これらのオプションを指定しない場合は、Oracle によって適切なリフレッシュ方式が決定されます。

ORA-12005: 過去の時刻に自動リフレッシュをスケジュールできません。

原因：過去の時間に対して、自動スナップショット・リフレッシュをスケジューリングしようとした。

解決方法: 将来の時間を選択してください。

ORA-12006: 同じ user.name をもつスナップショットがすでに存在します。

原因: 既存のスナップショットの名前を持つスナップショットを作成しようとした。

解決方法: 別の名前を使用してスナップショットを作成するか、または既存のスナップショットを削除してください。

ORA-12007: スナップショット再利用パラメータが矛盾しています。

原因: インポートまたはエクスポート中に、CREATE SNAPSHOT コマンドまたは CREATE SNAPSHOT LOG.. REUSE コマンドの REUSE の直後に、矛盾したパラメータが指定されました。

解決方法: このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。問題の完全な記述については、別のエラー・メッセージを調べてください。

ORA-12008: スナップショット・リフレッシュ・パス内のエラー

原因: 表 SNAPS_ < snapshot_name > がビュー MVIEW\$_ < snapshot_name > から行を読み取りました。ビュー MVIEW\$_ < snapshot_name > は、マスター表上のビューです (マスターはリモート・サイトにある可能性があります)。このパスになんらかのエラーがあると、リフレッシュ時にエラーが発生します。高速リフレッシュでは、表: < master_owner > .MLOG\$_ < master > も参照されます。

解決方法: 他の戻されたメッセージを参照して、問題を解決してください。次のオブジェクトが存在することを確認してください。SNAPS_<snapshot_name>, MVIEW\$_<snapshot_name>,<owner>.<master>@<dblink>,<owner>.<master>@<dblink>

ORA-12009: スナップショットは LONG 列を含むことができません。

原因: LONG 列でスナップショットを作成しようとした。

解決方法: LONG 列ではスナップショットを作成しないでください。

ORA-12010: スナップショット・ログは SYS が所有する表上には作れません。

原因: CREATE SNAPSHOT LOG を表上のトリガーで作成しようとしたが、トリガーは SYS 表上では作成できません。

解決方法: SYS 表上ではスナップ・ショット・ログは作成しないでください。

ORA-12011: ジョブ name の実行に失敗しました。

原因: DBMS_JOB.RUN でなんらかのエラーが検出されました。実行する必要がある 1 つ以上のジョブで、処置できないエラーが発生しました。

解決方法: ジョブが失敗した原因は、アラートログを参照してください。

ORA-12012: ジョブ name の自動実行エラー

原因: ある種のエラーが、ジョブの自動実行中に捕捉されました。

解決方法: 実行が失敗した理由の詳細は、付随するエラーを参照してください。

ORA-12013: 更新可能スナップショットは高速リフレッシュを行えるよう簡単なものでなければなりません。

原因: 更新可能なスナップショット問合せ文は、結合または副問合せ、合併、CONNECT BY、ORDER BY、GROUP BY で指定されます。

解決方法: より単純なスナップショット文を指定してください。結合が必要な場合は、複数の単純スナップショットを作成してください。その後で、その複数のスナップショットの最上行にビューを作成してください。

ORA-12014: 表 *name* に主キー制約がありません。

原因: CREATE SNAPSHOT LOG コマンドが WITH PRIMARY KEY オプション付きで発行されましたが、マスター表には、主キー制約がありません。または、制約は使用不能です。

解決方法: WITH ROWID オプションだけを使用してコマンドを再発行してください。または、マスター表に主キー制約を作成してください。または、既存の主キー制約を使用可能にしてください。

ORA-12015: 複合問合せから高速リフレッシュ・スナップショットは作成できません。

原因: 複合問合せでは、ROWID および主キー制約はサポートされていません。

解決方法: REFRESH FORCE または REFRESH COMPLETE オプションだけを使用してコマンドを再発行してください。または、単純スナップショットを作成してください。

ORA-12016: スナップショットに組み込まれていない主キー列があります。

原因: スナップショットをインスタンス化する問合せに、マスターの主キー制約の列全体が組み込まれていません。

解決方法: スナップショット問合せに、マスターの主キー列全体を組み込んでください。または、ROWID スナップショットを作成してください。

ORA-12017: 主キー・スナップショット *:name* は rowid スナップショットに変更できません。

原因: 主キー・スナップショットの ROWID スナップショットへの変換はサポートされていません。

解決方法: 新規にスナップショットを作成してください。または、スナップショットを削除してから再作成してください。

ORA-12018: *name.name* のコード生成で、次のエラーが見つかりました。

原因: 示されたスナップショットのリフレッシュ操作は、エラーが原因で再生成されませんでした。続いて表示されるエラー・テキストを参照してください。

解決方法: 示された問題を訂正し、操作を繰り返してください。

ORA-12019: マスター表は、リモート・オブジェクトのシノニムです。

原因: リモート・シノニムのスナップショットまたは、リモート・シノニムのスナップショット・ログはサポートされていません。

解決方法: リモート・シノニムにスナップショットまたはスナップショット・ログを作成しないでください。

ORA-12020: スナップショット *name* が登録されていません。

原因: 登録されていないスナップショットを抹消しようとしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-12021: スナップショット *name.name* が壊れています。

原因: 示されたスナップショットは有効ではありません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12022: *name.name* のスナップショット・ログに ROWID が存在しています。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、すでに ROWID 情報があります。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-12023: スナップショット *name.name* で索引がありません。

原因: 指定された ROWID スナップショットには、基礎表の ROWID 列上に必要な索引がありません。

解決方法: スナップショットは破壊されています。スナップショットを削除し再作成してください。

ORA-12024: *name.name* のスナップショット・ログに、主キー列がありません。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、主キー情報がありません。

解決方法: ALTER SNAPSHOT コマンドを使用して、スナップショット・ログに主キーを追加してください。

ORA-12025: *name.name* のスナップショット・ログに、すでに主キーがあります。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、すでに主キー列があります。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-12026: 無効なフィルタ列が見つかりました。

原因: 指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が存在しません。または、指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が主キー列です。

解決方法: 指定されたフィルタ列がすべてマスター表に存在することを確認してください。また、フィルタ列のリストの中に主キー列が含まれていないことを確認してください。

ORA-12027: フィルタ列が重複しています。

原因: 指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が、すでにスナップショット・ログに記録されています。

解決方法: スナップショット・ログ表を記述して、すでにスナップショット・ログに記録されているフィルタ列を指定する SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12028: スナップショット・タイプは、マスター・サイト *name* にサポートされていません。

原因: Oracle8 より前のマスター・サイトでは、高速リフレッシュを実行可能な主キーまたは副問合せスナップショットをサポートできません。

解決方法: ROWID スナップショットを作成してください。または、Oracle8 サイトからマスター表を使用してください。

ORA-12029: LOB 列はフィルタ列として使用できません。

原因: LOB 列はフィルタ列として使用できません。

解決方法: フィルタ列リストから LOB 列を取り除いて、コマンドを再試行してください。

ORA-12030: 高速リフレッシュ・スナップショットは作成できません。

原因: スナップショット・ログが存在しません。または、スナップショット・ログに、高速リフレッシュを実行するためにスナップショットが必要とする情報が記録されていません。

解決方法: スナップショット・ログが存在し、必要な情報が記録されていることを確認してください。ROWID スナップショットでは、マスター表の ROWID が記録されている必要があります。主キースナップショットでは、マスター表の主キー列が記録されている必要があります。副問合せスナップショットでは、フィルタおよび主キー、ROWID の値がすべて記録されている必要があります。

ORA-12031: *name.name* のスナップショット・ログから主キー列が使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

解決方法: 次の高速リフレッシュの前に、完全なリフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12032: *name.name* のスナップショット・ログから ROWID 列が使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

解決方法: 次の高速リフレッシュの前に、完全なリフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12033: *name.name* のスナップショット・ログからフィルタ列が使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

解決方法: 次の高速リフレッシュの前に、完全なリフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12034: *name.name* のスナップショット・ログが、最新のリフレッシュよりも新しくなっています。

原因: スナップショット・ログは、最終リフレッシュよりも新しいものです。高速リフレッシュに使用できません。スナップショット・ログが、最終リフレッシュ時刻よりも新しいものです。

解決方法: スナップショットの完全なリフレッシュを実行してから、別の高速リフレッシュを行ってください。

ORA-12035: *name.name* のスナップショット・ログが使用できません。

原因: スナップショット・ログが存在しません。または、高速リフレッシュ用に使用できません。

解決方法: スナップショットの完全なリフレッシュを実行してから、別の高速リフレッシュを行ってください。スナップショット・ログが存在し、スナップショットが高速リフレッシュ可能な場合は、一度完全なリフレッシュを実行すると、そのスナップショットは高速リフレッシュできるようになります。

ORA-12036: 更新可能なスナップショット・ログは、空でない、リフレッシュ・スナップショットです。

原因: 更新可能 ROWID スナップショットを主キー・スナップショットに変更する前に、更新可能スナップショット・ログを空にする必要があります。

解決方法: スナップショットのリフレッシュによって、更新可能スナップショット・ログが空になっていることを確認してから、更新可能 ROWID スナップショットを主キー・スナップショットに変換してください。

ORA-12037: エクスポート形式が不明です。

原因: 未知のエクスポート・バージョンによってエクスポートされたスナップショットをインポートしようとしてしました。(たとえば、インポートするサイトよりも新しいリリースからエクスポートした場合)

解決方法: インポートするサイトが識別することのできるバージョンのエクスポートを使用して、ファイルを再エクスポートしてください。

ORA-12038: 文字列リテラルに、予期しない長さがあります。

原因: スナップショットのインポート中に、破壊された情報または無効な情報が検出されました。

解決方法: エクスポート・ログ・ファイルが破壊されていないことを確認してください。また、エクスポート中にエラーが発生しなかったことを確認してください。問題が解決しない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12039: ローカル・ロールバック・セグメント *name* が使用できません。

原因: CREATE SNAPSHOT コマンドの中でローカル・ロールバック・セグメントが指定されましたが、自動リフレッシュ・パラメータが指定されませんでした。このため、スナップショットを自動的にリフレッシュするためのリフレッシュ・グループが作成されず、ローカル・ロールバック・セグメントを将来の使用のために登録できませんでした。

解決方法: 自動リフレッシュ・パラメータを指定して、リフレッシュ・グループを作成可能にするか、ローカル・ロールバック・セグメントを指定しないでください。

ORA-12040: マスター・ロールバック・セグメント・オプションは、マスター・サイト *name* にサポートされていません。

原因: 現行のスナップショットのマスター・サイトでは、スナップショット操作で使用する ロールバック・セグメントを指定できません。この機能は、Oracle8 以降のマスター・サイトでだけサポートされています。

解決方法: 現在の操作でマスター・ロールバック・セグメントを指定しないか、あるいは新しいマスター・サイトを選択してください。

ORA-12041: 索引構成表 *name.name* の ROWID が記録できません。

原因: 索引構成表に ROWID がありません。したがって、索引構成表の ROWID を記録するスナップショット・ログが作成できません。

解決方法: CREATE SNAPSHOT コマンドを使っている時は、WITH ROWID オプションを含めないでください。マスター表が索引構成表の場合に、ALTER SNAPSHOT コマンドを使う時には、ADD ROWID オプションを含めないでください。

ORA-12042: シングル・プロセス・モードでは JOB_QUEUE_PROCESSES を変更することはできません。

原因: JOB_QUEUE_PROCESSES の値を変えようとしてしました。シングル・プロセス・モードには連結解除プロセスという概念がないため、この操作はできません。

解決方法: シングル・プロセス・モードで JOB_QUEUE_PROCESSES を設定しないでください。

OSN エラー・メッセージ : 12150 ~ 12195

ORA-12150: TNS: データを送信できません。

原因: データを送信できません。接続が切断した可能性があります。

解決方法: 再度接続してください。エラーが繰り返す場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

ORA-12151: TNS: ネットワーク・レイヤーから不正なパケット型を受信しました。

原因: 原因 : 内部エラーです。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12152: TNS: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: ブレーク・メッセージを送信できません。接続が切断した可能性があります。

解決方法: 再度接続してください。エラーが繰り返す場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

ORA-12153: TNS: 接続されていません。

原因: 現在、リモート・ホストに接続していません。

解決方法: 再度接続してください。

ORA-12154: TNS: サービス名を解決できませんでした。

原因: 指定されたサービスの名前が、TNSNAMES.ORA ファイル内で正しく定義されていません。

解決方法: 次の点を確認し、エラーを修正してください。

-TNSNAMES.ORA ファイルが、適切な位置に存在し、接続できることを確認してください。必須の名前および位置についての詳細は、オペレーティング・システムのそれぞれのマニュアルを参照してください。

- TNSNAMES.ORA ファイルの 1 つの中にあるサービスの名前を確認し、必要ならそれを追加してください。

- ファイル内に構文エラーがないかどうかを確認してください。特に一致しないカッコあるいは文字を搜してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、利用できなくなります。『SQL*Net V2 Administrator's Guide』の第 4 章を参照してください。可能ならば、Oracle Network Manager を使用して、構成ファイルを再生してください。

ORA-12155: TNS: NSWMARKER パケットで不正なデータ型を受信しました。

原因: ブレーク・ハンドル中の内部エラーです。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12156: TNS: 不正確な状態からの行のリセットを試行しました。

原因: ブレーク・ハンドル中の内部エラーです。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12157: TNS: ネットワーク通信の内部エラー

原因: ネットワーク通信中の内部エラーです。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12158: TNS: パラメータ・サブシステムを初期化できませんでした。

原因: パラメータ・ファイルが見つかりません。

解決方法: 有効で、読取り可能なパラメータ・ファイルがあるかどうかを確認してください。

ORA-12159: TNS: トレース・ファイルに書き込めません。

原因: 生成されるトレース・ファイルを、このユーザーは書き込むことができません。

解決方法: ユーザーがトレース・ファイルを書き込むディレクトリに書き込み許可がない場合、DBA に連絡して適切な許可を得るか、SQLNET.ORA 内の TRACE_DIRECTORY_CLIENT を使用して、書き込み可能なディレクトリを指定してください。

ORA-12160: TNS: 内部エラー。: エラー番号が間違っています。

原因: 不正エラーがサブシステムにレポートされました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12161: TNS: 内部エラー : 部分的なデータを受信しました。

原因: 接続が終了した可能性があります。

解決方法: 接続を再試行してください。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12162: TNS: 指定されたサービス名は正しくありません。

原因: TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前と通信する接続記述子が誤って指定されています。

解決方法: 接続記述子内に構文エラーがないことを確認してください。特に、一致しないカッコあるいは文字を探してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、利用できなくなります。『SQL*Net V2 Administrator's Guide』の第 4 章を参照してください。

ORA-12163: TNS: 接続記述子が長すぎます。

原因: TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前に通信する接続記述子が長すぎます。

解決方法: 接続記述子の最大長は 512 バイトであり、この制限を超えました。より短い接続記述子を使用してください。それが不可能な場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12164: TNS: Sqlnet.fdf ファイルがありません。

原因: sqlnet.fdf ファイルが \$ORACLE_HOME/network/admin 内にありません。

解決方法: sqlnet.fdf ファイルは、Oracle トレースを行うために必須です。
\$ORACLE_HOME/network/admin 内に sqlnet.fdf ファイルをインストールするか、
ORA ファイルのトレースをオフにしてください。

ORA-12165: TNS: スワップ領域にトレース・ファイルを書き込もうとしました。

原因: Oracle Trace がトレース情報をユーザーのスワップ領域に書くことができません。

解決方法: Oracle Trace がスワップ領域内にトレース情報を書くことができないので、
トレースを使用禁止にするか、トレース・ファイルをディスクの他の領域にリダイレクトしてください。

NR (ルーティング) エラー・メッセージ : 12196 ~ 12285

ORA-12196: TNS: TNS からエラーを受け取りました。

原因: ナビゲーション・レイヤーが、TNS からエラーを受け取りました。

解決方法: エラー・ログファイルを参照して、TNS エラーを調べてください。

ORA-12197: TNS: キーワード値の解決でエラーです。

原因: ナビゲーション・レイヤーが、キーワードの値を調べようとしてエラーを受け取りました。

解決方法: 接続コマンドの構文を調べてください。

ORA-12198: TNS: 接続先へのパスが見つかりませんでした。

原因: Interchanges を介して接続先へのパスをナビゲートできませんでした。このエラーは、アドレスの文字列内に無効なコミュニティがあるか、アドレスに使用不可のプロトコルがあるか、TNSNAV.ORA ファイルが特定の正しい CMANAGER アドレスをもっていないか、Interchange が停止しています。

解決方法: 要求された接続先を得るために必要な Interchanges が実行されているかどうか、追加の接続に使用できる容量があるかどうかを確認してください。また、使用する CMANAGER アドレスに、正しいコミュニティおよびプロトコルが指定されているかどうかを確認してください。

ORA-12200: TNS: メモリーが割り振れませんでした。

原因: マシン上のメモリー不足です。

解決方法: Interchange を実行している時は、マシンを再構成して記憶領域を増やすか、実行するアプリケーションを減らしてください。

ORA-12201: TNS: 接続バッファが小さすぎます。

原因: アプリケーションが提供する TNS 接続バッファが小さすぎるため送信するデータを取らせません。

解決方法: より大きい接続バッファを設定してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12202: TNS: 内部ナビゲーション・エラーです。

原因: 内部ナビゲーション・エラー。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12203: TNS: 宛先に接続できません。

原因: 無効な TNS アドレスを指定したか、接続先がリスニングしていません。このエラーは、基礎を形成するネットワーク通信の問題でも発生します。

解決方法: コマンド行に入力したサービスの名前が正しいか確認してください。リスナーがリモート・ノードで実行していることと、TNSNAMES.ORA 内で特定された ADDRESS パラメータが正しいことを確認してください。最後に、接続に必要な Interchanges がすべて実行されていることを確認してください。

ORA-12204: TNS: 受信データはアプリケーションから拒否されました。

原因: Interchange あるいは Connection Manager を使用しているアプリケーションが、リスナーでの接続を拒否しました。

解決方法: 接続先のアプリケーション・リスナーが正常に機能していることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12205: TNS: 障害アドレスを取得できませんでした。

原因: 内部ナビゲーション・エラー。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12206: TNS: ナビゲーション中に TNS エラーを受信しました。

原因: 予期しない TNS エラーによる内部ナビゲーションのエラーです。

解決方法: ログファイルを参照して、TNS エラーを検索してください。必要なら、トレースをオンにして操作を繰り返してください。

ORA-12207: TNS: ナビゲーションが実行できません。

原因: ナビゲーション・ファイル TNSNAV.ORA が正しく構成されていません。

解決方法: アプリケーション・マシン上の TNSNAV.ORA ファイルの構文を確認し、それが正しいコミュニティをリストしていることを検証してください。

ORA-12208: TNS: TNSNAV.ORA ファイルが見つかりませんでした。

原因: 入力した Oracle 環境が正しく設定されていないか、あるいはファイルが存在しません。

解決方法: Oracle 環境が、プラットフォーム上に適切に設定されていることと、TNSNAV.ORA ファイルが提示されていることを確認してください。

ORA-12209: TNS: 初期化されていないグローバルが見つかりました。

原因: アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンにあるグローバル変数が、正しく構成されていません。使用可能な TNSNAV.ORA ファイルがないか、欠落しています。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12210: TNS: ナビゲータ・データを検索中にエラーが発生しました。

原因: アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンが持つ TNSNAV.ORA ファイルが正しく構成されていません。

解決方法: TNSNAV.ORA ファイルの構文を調べてください。

ORA-12211: TNS: TNSNAV.ORA に PREFERRED_CMANAGERS エントリがありません。

原因: TNSNAV.ORA で PREFERRED_CMANAGERS が定義されていません。

解決方法: PREFERRED_CMANAGERS エントリを TNSNAV.ORA に追加してください。

ORA-12212: TNS: TNSNAV.ORA 内の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因: クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内にバインディングする PREFERRED_CMANAGERS が、指定された CMANAGER_NAME を持っていません。

解決方法: PREFERRED_CMANAGERS のバインディングの一部として、CMANAGER_NAME を定義してください。Oracle Network Manager を使用すると、このエラーは解決されます。

ORA-12213: TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因: クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが、指定された ADDRESS を持っていません。

解決方法: PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

ORA-12214: TNS: TNSNAV.ORA 内にローカル・コミュニティ項目が欠落しています。

原因: TNSNAV.ORA 内に LOCAL_COMMUNITIES 項目がありません。

解決方法: TNSNAV.ORA のノードに LOCAL_COMMUNITIES を定義してください。

ORA-12215: TNS: TNSNAV.ORA 内の PREFERRED_NAVIGATORS アドレスの形成が不正です。

原因: PREFERRED_NAVIGATORS 項目のアドレス・バインディングが正しく入力されていません。

解決方法: PREFERRED_NAVIGATORS 項目を確認し、TNSNAV.ORA に追加してください。

ORA-12216: TNS: TNSNAV.ORA 内の PREFERRED_CMANAGERS アドレスの形成が不正です。

原因: クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目のアドレス・バインディングが正しくに入力されていません。

解決方法: PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

ORA-12217: TNS: TNSNAV.ORA 内の PREFERRED_CMANAGERS にアクセスできませんでした。

原因: PREFERRED_CMANAGERS エントリに構文エラーがあるか、指定したアドレスが間違っているか、あるいは Connection Manager が使用できません。

解決方法: クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目を確認して訂正するか、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Connection Managers が使用可能かどうかを調べてください。Interchanges が INTCTL STATUS コマンドでアクティブになっているかどうかを確認してください。

ORA-12218: TNS: 受諾不能なネットワーク構成データです。

原因: ネットワーク構成のデータの構成が不十分です。たとえば、クライアントの TNSNAV.ORA ファイルの PREFERRED_CMANAGERS 項目に、間違った CMANAGER_NAME がある可能性があります。あるいは、Navigator の Interchange 停止時間パラメータ (TIMEOUT_INTERVAL) が、INTCHG.OR 内で 0 (ゼロ) に設定されている可能性があります。

解決方法: TNSNAV.ORA の項目および Interchange 構成ファイルを調べて、訂正してください。必要ならば、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Interchanges (Connection Managers) が使用可能で、適切に構成されているかどうかを調べてください。必要ならば、Oracle Network Manager を使用して構成ファイルを生成してください。

ORA-12219: TNS: ADDRESS_LIST 内のアドレスにコミュニティ名が欠落しています。

原因: このエラーは、ADDRESS_LIST の ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがなく、他のアドレスに COMMUNITY コンポーネントがある場合に発生します。

解決方法: 接続記述子に、COMMUNITY コンポーネントがあるアドレスを使用しているかどうかを確認してください。

ORA-12221: TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因: プロトコル・アダプタのパラメータの無効な集合が指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に戻されます。

解決方法: 指定されたプロトコルを使用して、宛先に接続できるかどうか確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを調べてください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、使用しているプラットフォームの Oracle オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー

(DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていないか、名前の綴りが間違っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

ORA-12222: TNS: プロトコル・アダプタがありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ("(PROTOCOL=..)" 形式の TNS アドレス内のキーワード値の組み合わせ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

解決方法: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラーを訂正してください。注意: 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル内のアドレスを確認してください (たとえば、TNSNAMES.ORA、LISTENER.ORA あるいは TNSNET.ORA)。

ORA-12223: TNS: 内部制限を超えています。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

解決方法: 接続を待ってクローズし、再試行してください。

ORA-12224: TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

解決方法: 指定された接続先アドレスが、リスナーの使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイル (あるいは接続が Interchange を介している場合には TNSNAV.ORA) を比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

ORA-12225: TNS: 接続先ホストに到達できません。

原因: リモート・パーティとは接続できません。

解決方法: ネットワーク・ドライバが機能していて、ネットワークが稼動しているかどうかを確認してください。

ORA-12226: TNS: オペレーティング・システムのリソース割当て制限を超えました。

原因: 現ユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超過しました。

解決方法: より多くのオペレーティング・システムのリソースを獲得するか、異なる機能を実行してください。

ORA-12227: TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

解決方法: TNSNAMES.ORA の接続コマンドの構文を調べてください。

ORA-12228: TNS: プロトコル・アダプタがロードできません。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタがランタイムにロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) が欠落

しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーは戻されます。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルに、ロードされなかった共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前がなければなりません。

ORA-12229: TNS: Interchanges にこれ以上の空き接続がありません。

原因: このコールで、必要な宛先へのパスを含む Interchanges に、使用可能な空き接続がありません。

解決方法: Interchanges がビジーでないときにやり直すか、ネットワーク管理者に連絡して、使用している Interchanges を調べ、その interchange に使用可能な接続数を増加してください。

ORA-12230: TNS: この接続を行うときに重大なネットワーク・エラーが起きました。

原因: 宛先の呼出し中に物理的なネットワーク・エラーが発生して、宛先との接続に失敗した場合に、戻されます。

解決方法: ネットワーク・サービスが修復された後でやり直すか、問題が修復できるようにネットワーク管理者に報告してください。

ORA-12231: TNS: 接続先に接続できません。

原因: このエラーは、宛先へのパスで可能な接続の検索に失敗した場合に戻されます。

解決方法: 問題を修復するために、ネットワーク管理者に問題を報告してください。

ORA-12232: TNS: 接続先に使用可能なパスがありません。

原因: このエラーは、宛先へのパスで可能なパスを検索できない場合に戻されます。

解決方法: 問題を修復するために、ネットワーク管理者に問題を報告してください。

ORA-12233: TNS: 接続の受入れに失敗しました。

原因: このエラーは、リダイレクトの失敗が原因で接続が受け入れられなかった場合に戻されます。

解決方法: interchange の問題を分離するために、問題をネットワーク管理者に報告してください。

ORA-12234: TNS: 接続先にリダイレクトします。

原因: このエラーは、この interchange が正しいゲートウェイではなく、接続先へのパスにしたがって他のゲートウェイに接続をリダイレクトする必要があると判断された場合に報告されます。

解決方法: なし。

ORA-12235: TNS: 宛先にリダイレクトできません。

原因: このエラーは、接続先へのパスにしたがって別の interchange への接続のリダイレクトに失敗した場合に報告されます。

解決方法: 問題を修復するために、ネットワーク管理者に問題を報告してください。

ORA-12236: TNS: プロトコル・アダプタがロードされません。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタがランタイムにロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) がロードされていない場合、このエラーは戻されます。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

リスナー・エラー・メッセージ : 12196 ~ 12285

ORA-12500: TNS: リスナーが専用サーバー・プロセスの起動に失敗しました。

原因: 専用サーバープロセスの起動プロセスが失敗しました。実行可能なものが検索できないか、環境が間違っていて設定された可能性があります。

解決方法: ADMIN レベルでトレースをオンにして、操作をやり直してください。ORACLE Server の実行可能形式があり、実行許可が使用可能であるかどうかを確認してください。Oracle 環境が、LISTENER.ORA 内に正しく設定されていることを確認してください。コールされている Oracle プロトコル・アダプタは、ローカル・ハード・ドライブ上にインストールされていない可能性があります。正しいプロトコル・アダプタが正常にリンクされているかどうかを確認してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12502: TNS: リスナーがクライアントから CONNECT_DATA を受信していません。

原因: リスナーへパスされた CONNECT_DATA がありません。

解決方法: TNSNAMES.ORA から解決したサービス名に、接続記述子の CONNECT_DATA コンポーネントがあることを確認してください。

ORA-12504: TNS: リスナーは CONNECT_DATA の SID を取得できませんでした。

原因: CONNECT_DATA から SID が失われていました。

解決方法: CONNECT_DATA に、TNSNAMES.ORA のサービス名に対応する接続記述子に SID コンポーネントがあるかどうかを調べてください。

ORA-12505: TNS: リスナーは、接続記述子に指定された SID を解決することができません。

原因: CONNECT_DATA の SID が、リスナーのテーブルで見つかりませんでした。このエラーは、データベース・インスタンスがリスナーに登録されていない場合に戻されます。インスタンスを開始する必要があります。

解決方法: 指定された SID が正しいかどうかを確認してください。現在リスナーに登録されている SID は、「LSNRCTL SERVICES <listener name>」と入力すると取得できます。これらの SID は TNSNAMES.ORA 内の SID_NAME あるいは、初期化ファイルの TSNAMES.Oracle8, または DB_NAME に対応します。

ORA-12509: TNS: リスナーはサービス・ハンドラをクライアントにリダイレクトできませんでした。

原因: ディスパッチャが不意に終了しました。

解決方法: 接続を再試行してください。同じエラーが発生する場合は、DBA に連絡して、この SID のディスパッチャの状態を確認してください。問題が繰り返される場合は、リスナー内のトレースをオンにして、リダイレクトによる TNS エラーかどうかを判断してください。

ORA-12510: TNS: データベースには、この SID の要求を処理するリソースが不足しています。

原因: ディスパッチャが他の要求の処理でビジーです。

解決方法: DBA に連絡して、この SID をサービスするディスパッチャ数を増加してください。

ORA-12511: TNS: サービス・ハンドラが見つかりましたが、接続を受け入れられません。

原因: ディスパッチャが他の要求の処理でビジーか、または一時的にビジーであることをリスナーに通知しました。

解決方法: 接続を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、DBA に依頼してディスパッチャ数を増加してください。

ORA-12512: TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、リダイレクト・アドレスを登録していません。

原因: ディスパッチャが起動したばかりで、クライアントがリダイレクトするアドレスを記録する時間がありません。

解決方法: 接続を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、DBA に依頼してディスパッチャ数を増加してください。

ORA-12513: TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、異なるプロトコル用に登録されています。

原因: このサービスに記録されているディスパッチャは、クライアントのものとは異なるネットワーク・プロトコルを用いて、リスナーに接続されます。

解決方法: DBA に接続して、プロトコル上のディスパッチャを記録してください。

NS (セッション) エラー・メッセージ : 12530 ~ 12629

ORA-12531: TNS: メモリーを割り振ることができません。

原因: 要求されたアクティビティを稼動する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

解決方法: TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

ORA-12532: TNS: 無効な引数です。

原因: 内部機能が無効パラメータを受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12533: TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因: プロトコル・アダプタのパラメータの無効な集合が指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に戻されます。

解決方法: 指定されたプロトコルを使用して、宛先に接続できるかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを調べてください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、使用しているプラットフォームの Oracle オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー (DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていないか、名前の綴りが間違っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

ORA-12534: TNS: サポートされない操作です。

原因: 内部機能が、(このマシン上で) サポートされていない操作の実行要求を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡しオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12535: TNS: 操作はタイムアウトしました。

原因: 要求された接続は、listener.ora 内の CONNECT_TIMEOUT パラメータに指定されたタイムアウト周期内に完了できませんでした。このエラーは、tnslsnr から発行されます。

解決方法: CONNECT_TIMEOUT を、無制限待機を意味する 0 に再構成するか、CONNECT_TIMEOUT をより高い値に再構成してください。あるいは、タイムアウトが長すぎる場合には、詳細な情報のためにトレースをオンにしてください。

ORA-12536: TNS: この操作を行うと現行プロセスがブロックされます。

原因: 内部操作が現行のプロセスをブロックしているときに、ユーザーが操作の非ブロック化を要求したため、操作は開始しませんでした。

解決方法: 必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-12537: TNS: 接続がクローズされました。

原因: 「ファイルの終わり」条件に達したため、パートナーが切断されました。

解決方法: 必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-12538: TNS: プロトコル・アダプタがありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ("(PROTOCOL=..)" 形式 TNS アドレス内のキーワード値の組み合わせ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

解決方法: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラー を訂正してください。注意: 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル内のアドレスを確認してください (たとえば、TNSNAMES.ORA、LISTENER.ORA あるいは TNSNET.ORA)。

ORA-12539: TNS: バッファ・オーバーフローまたはアンダーフロー

原因: 受信データのバッファが小さすぎるか、送信データのバッファが大きすぎます。

解決方法: この制限 (CONNECT DATA に対応付けられる) は、通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12540: TNS: 内部制限を超えています。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

解決方法: 接続を待ってクローズし、再試行してください。

ORA-12541: TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

解決方法: 指定された接続先アドレスが、リスナーの使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイル (あるいは接続が Interchange を介している場合には TNSNAV.ORA) を比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

ORA-12542: TNS: アドレスがすでに使用中です。

原因: 指定されたリスナー・アドレスがすでに使用されています。

解決方法: 一意アドレスでリスナーを開始してください。

ORA-12543: TNS: 宛先ホストに接続できません。

原因: リモート・パーティとは接続できません。

解決方法: ネットワーク・ドライバが機能していて、ネットワークが稼動しているかどうかを確認してください。

ORA-12544: TNS: コンテキストの待機 / テスト関数が異なります。

原因: 2 つのプロトコル・アダプタに、矛盾する待機 / テスト関数があります。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12545: 接続に失敗しました。ターゲット・ホストまたはオブジェクトがありません。

原因: 指定されたアドレスが有効でないか、接続先のプログラムが存在しません。

解決方法: ADDRESS パラメータが正しく入力されていることを確認してください。ノード名のパラメータが正しくない可能性があります。サーバーの実行可能形式が存在しているかどうかを確認してください。"oracle" が欠落している可能性があります。プロトコルが TCP/IP である場合は、TNSNAMES.ORA ファイルを編集して、IP アドレスの数値をホスト名に変更して、再試行してください。

ORA-12546: TNS: 許可が拒否されました。

原因: ユーザーが要求した操作を実行するには、権限が不足しています。

解決方法: 必要な権限を取得して、再試行してください。

ORA-12547: TNS: 接続を失いました。

原因: プロセスの起動中に、パートナーが不意に失われました。

解決方法: 異常終了したパートナー・アプリケーションを調べてください。Interchange の場合、このエラーは、マシンの負荷が高くなると発生する可能性があります。

ORA-12548: TNS: 読み込みまたは書き込みに失敗しました。

原因: データの受信あるいは送信に失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12549: TNS: オペレーティング・システムのリソース割当て制限を超えました。

原因: 現ユーザーが、オペレーティング・システム内に割当てられたリソースを超過しました。

解決方法: より多くのオペレーティング・システムのリソースを獲得するか、異なる機能を実行してください。

ORA-12550: TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

解決方法: TNSNAMES.ORA の接続コマンドの構文を調べてください。

ORA-12551: TNS: キーワードがありません。

原因: 指定された接続記述子に 1 つ以上の TNS キーワードがありません。

解決方法: 構文を確認して、必須キーワードがすべて指定されているかどうかを確認してください。

ORA-12552: TNS: 操作が中断されました。

原因: 内部操作が割り込まれ、完了できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12554: TNS: 現在操作が進行中です。

原因: 内部操作がまだ進行中です。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12555: TNS: 許可が拒否されました。

原因: ユーザーが要求した操作を実行するには、権限が不足しています。

解決方法: 必要な権限を取得して、再試行してください。

ORA-12556: TNS: コール側がありません。

原因: TNS が受信接続要求を検出しましたが、コール側がありませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12557: TNS: プロトコル・アダプタがロードできません。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタがランタイムにロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーは戻されます。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルに、ロードされなかった共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前がなければなりません。

ORA-12558: TNS: プロトコル・アダプタがロードされません。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタがランタイムにロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) がロードされていない場合、このエラーは戻されます。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

ORA-12560: TNS: プロトコル・アダプタ・エラーです。

原因: 一般的なプロトコル・アダプタ・エラーが発生しました。

解決方法: 使用しているアドレスを調べて、正しいプロトコルが指定されているかどうかを確認してください。このエラーを報告する前に、エラー・スタックを調べて下位レ

ベルの通信エラーを確認してください。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。操作が完了したら、トレースをオフにしてください。

ORA-12561: TNS: 不明なエラー

原因: 一般的なプロトコル・エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

ORA-12562: TNS: 不正なグローバル・ハンドルです。

原因: 内部エラー - コール側から TNS に無効な 'gbh' 引数が渡されました。システムが古いライブラリにリンクされている可能性があります。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12564: TNS: 接続は拒否されました。

原因: リモート・ユーザー（あるいは TNS ソフトウェア）によって 接続要求が拒否されました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

ORA-12566: TNS: プロトコル・エラー

原因: 予期しない TNS プロトコル・エラーが発生しました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12569: TNS: パケットのチェックサムに失敗しました。

原因: 受信したデータが送信したデータと異なります。

解決方法: トランザクションを再試行してください。エラーが繰り返す場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

ORA-12570: TNS: パケット読取り機に障害が発生しました。

原因: データ受信中にエラーが発生しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12571: TNS: パケットの書き込み機に障害が発生しました。

原因: データ送信中にエラーが発生しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12574: TNS: リダイレクションが拒否されました。

原因: リダイレクションが必要なときに、コール側がリダイレクションを要求しなかったため、接続要求が失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12582: TNS: 無効な操作です。

原因: 内部機能が無効な要求を受信しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12583: TNS: 読取り機がありません。

原因: 送信操作が要求されましたが、パートナーがすでに切り離されています。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12585: TNS: データが切り捨てられました。

原因: ユーザーの要求を満たすにはデータが不足しているため、受信操作が完了しませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12589: TNS: 接続は継承可能ではありません。

原因: プロトコル・プロバイダがサポートしないため、あるプロセスから他のプロセスへ接続を継承できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12590: TNS: I/O バッファがありません。

原因: 使用可能なバッファがないため、I/O 操作の実行に失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12591: TNS: イベントの通知に失敗しました。

原因: TNS ソフトウェアは、イベント発生 of の信号を発することができません。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12592: TNS: 不正なパケットです。

原因: 不正なフォームのパケットが TNS ソフトウェアによって発見されました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12593: TNS: 登録済み接続がありません。

原因: イベント通知の接続が登録されていないため、ネットワーク・イベント・アクティビティが要求できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12595: TNS: 確認がありません。

原因: TNS がリモート・パートナーから要求された確認を得られません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12596: TNS: 内部的に矛盾があります。

原因: TNS が内部の不一致を検出しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12597: TNS: 接続記述子がすでに使用中です。

原因: 内部エラー - 接続記述子の使用が無効です。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12598: TNS: バナーの登録に失敗しました。

原因: Oracle サーバーでの製品バナーの登録に失敗しました。

解決方法: これは、通常は外部から参照できないエラーです。トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12599: TNS: 暗号チェックサムが一致していません。

原因: 受信したデータが送信したデータと異なります。

解決方法: トランザクションを再試行してください。エラーが繰り返される場合は、物理的な接続の整合性を確認し、修正してください。

ORA-12600: TNS: 文字列のオープンに失敗しました。

原因: ORACLE NLS 書式内の文字列の作成に失敗しました。

解決方法: これは内部エラーです。トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12601: TNS: 情報フラグの確認に失敗しました。

原因: 接続のネゴシエーションに優先するプロセスで設定される TNS 情報フラグが、ネゴシエーションの完了後も存在しません。

解決方法: 内部エラーです。トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12611: TNS: 操作に移植性がありません。

原因: 試行した操作に移植性がありません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12612: TNS: 接続がビジーです。

原因: 試行した操作が、進行中の処置または接続の状態に矛盾があるため、失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12615: TNS: プリエンプト・エラー

原因: イベント通知がまだ転記されていないため、イベントへのサービス要求が失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12616: TNS: イベント通知がありません。

原因: TNS ソフトウェアは、イベント信号を発することができません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12617: TNS: 無効な 'what' 型

原因: 指定れたデータの型が未知のため、操作が失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12618: TNS: バージョンに互換性がありません。

原因: 2つのマシンが、TNSのバージョンと互換性のない状態で実行されています。

解決方法: バージョン番号を確認して、より小さい番号のバージョンでマシンをアップグレードしてください。

ORA-12619: TNS: 要求されたサービスに権限を付与できません。

原因: 要求されたサービスが、ローカル TNS ソフトウェアによって指定されなかったため、接続要求が失敗しました。

解決方法: 必要であれば、サービス要件を少なくして再度実行してください。

ORA-12620: TNS: 要求された特徴は使用不可です。

原因: 要求された通信の特徴が、リモート TNS ソフトウェアによってサポートされなかったため、接続要求が失敗しました。

解決方法: 必要であれば、サービス要件を少なくして再度実行してください。

ORA-12622: TNS: イベント通知が同種ではありません。

原因: イベント通知のタイプが既存の登録と矛盾するため、イベント通知の接続が登録されませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12623: TNS: この状態での操作は不正です。

原因: 半 2 重方式または全 2 重方式の操作の接続が許可されました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12624: TNS: 接続はすでに登録されています。

原因: すでに記録されているため、イベント通知の接続が登録されませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12625: TNS: 引数が欠落しています。

原因: 引数が欠落しているため、操作に失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12626: TNS: 不正なイベント型です。

原因: イベントのタイプが不明なため、イベント通知の接続が登録できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12628: TNS: イベントのコールバックがありません。

原因: 非同期コールバックが使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12629: TNS: イベント・テストがありません。

原因: イベントをテストする機能が使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12611: TNS: 操作に移植性がありません。

原因: 試行した操作に移植性がありません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12612: TNS: 接続がビジーです。

原因: 試行した操作が、進行中の処置または接続の状態に矛盾があるため、失敗しました。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12616: TNS: イベント通知がありません。

原因: TNS ソフトウェアは、イベント信号を発することができません。

解決方法: 通常はユーザーには表示されません。詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

NA エラー・メッセージ : 12630 ~ 12699

ORA-12630: ネイティブ・サービス操作はサポートされません。

原因: ユーザーによって要求された操作は、ネイティブ・サービス・コンポーネントにサポートされていません。

解決方法: 操作がサポートされている場合には、内部エラーの可能性あります。

ORA-12631: ユーザー名の取出しに失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー名の取出しに失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にして、ルーチンが失敗しているかどうかを判断してください。

ORA-12632: ロールのフェッチに失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー・ロールの 1 つの取出しに失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にして、ルーチンが失敗しているかどうかを判断してください。

ORA-12633: 共有の認証サービスがありません。

原因: ユーザーの指定した認証サービス・リストは、プロセスによってサポートされているものと合致しません。

解決方法: 他のリストを指定するか、要求されたサービスと実行可能形式を再リンクしてください。

ORA-12634: メモリーの割当てに失敗しました。

原因: プロセスがメモリーを割当てられませんでした。

解決方法: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

ORA-12635: 使用可能な認証アダプタがありません。

原因: 実行可能形式が認証サービス・アダプタにリンクされていませんが、認証が必要かどうかを指定する SQLNET.ORA パラメータが正に設定されています。

解決方法: パラメータを使用禁止にするか、サービス・アダプタと実行可能形式を再リンクしてください。

ORA-12636: パケットの送信に失敗しました。

原因: プロセスが、他のプロセスにパケットを送信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。1. その他のプロセスが終了している。2. その他のプロセスが実行中のマシンが停止した。3. 他の通信エラーが発生した。

解決方法: 原因が明らかでない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12637: パケットの受信に失敗しました。

原因: プロセスが、他のプロセスからパケットを受信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。1. その他のプロセスが終了している。2. その他のプロセスが実行中のマシンが停止した。3. 他の通信エラーが発生した。

解決方法: 原因が明らかでない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12638: 資格証明の検索に失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザーの資格証明の取出しに失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12639: 認証サービスのネゴシエーションに失敗しました。

原因: クライアントがサポートしている認証サービスの型とサーバーが使用している認証サービスの型が一致していません。

解決方法: 考えられる解決方法は次のとおりです。1. 使用されるサービスを指定する SQLNET.ORA のエントリを変更する。2. サーバーがサポートする認証サービス・アダプタの1つでクライアントに再リンクする。3. クライアントがサポートする認証サービス・アダプタの1つでサーバーに再リンクする。4. クライアントおよびサーバーの両方の認証を使用禁止にする。

ORA-12640: 認証アダプタの初期化に失敗しました。

原因: サービスの認証表項目に指定された機能が失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12641: 認証サービスが初期化に失敗しました。

原因: 初期化中に、認証サービスが失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12642: セッション・キーがありません。

原因: 使用されている認証サービスがセッション・キーを使用していないため、プロセスに対応するセッション・キーがありません。

解決方法: セッション・キーが必要である場合には、他の認証サービスを使用してください。

ORA-12643: クライアントがサーバーから内部エラーを受信しました。

原因: クライアント・プロセスが、内部 SQL*Net ネイティブ・サービスのエラーが発生したことを示すエラーをサーバーから受信しました。

解決方法: 両方のプロセスのトレースをオンにして、問題の再現を試みてください。問題が再現したら、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12644: 認証サービスの初期化に失敗しました。

原因: ルーチンが認証アダプタ初期化の呼出しに失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。メモリー不足が原因である可能性があります。

ORA-12645: パラメータが存在しません。

原因: 値が必要な SQLNET.ORA パラメータがありません。

解決方法: パラメータ・ファイルのパラメータを設定してください。

ORA-12646: ブール・パラメータに無効な値が指定されました。

原因: パラメータに指定された値に、正 / 不正またはオン / オフ以外の値が設定されました。

解決方法: パラメータの値を訂正してください。

ORA-12647: 認証が必要です。

原因: 認証が必要かどうかを制御するパラメータが正に設定されましたが、実行可能形式にリンクしている認証サービスがありません。

解決方法: 認証サービス・アダプタと実行可能形式を再リンクするか、パラメータを使用禁止にしてください。

ORA-12648: 暗号化またはデータ整合性アルゴリズム・リストが空です。

原因: SQL*Net list-of-algorithms パラメータが空 (たとえば、"0") でした。"0".

解決方法: リストを変更して、インストールされたアルゴリズムの少なくとも 1 つを指定してください。すべてのインストールされたアルゴリズムが該当する場合には、リスト全体を削除してください。

ORA-12649: 暗号化またはデータ整合性アルゴリズムが不明です。

原因: SQL*Net list-of-algorithms パラメータが承認されていないアルゴリズム名を組み込みました。

解決方法: アルゴリズム名を削除するか、綴りの間違いを訂正するか、あるいは欠落しているアルゴリズムのドライバをインストールしてください。

ORA-12650: 共通の暗号化またはデータ整合性アルゴリズムがありません。

原因: クライアントとサーバーに、暗号化またはデータ整合性 (あるいはその両方) に共通のアルゴリズムがありません。

解決方法: オーバーラップするアルゴリズムの集合を選択してください。サーバー・リストにクライアントのアルゴリズムを選択して追加するか、その逆を行ってください。

ORA-12651: 暗号化またはデータ整合性アルゴリズムが受諾不能です。

原因: サーバーが暗号化やデータの整合性に使用するために選択したアルゴリズムは、クライアントに認められる選択ではありません。これは、内部エラー、ネットワーク・データの送信エラー、あるいは送信データが誤って書き換えられました。

解決方法: 詳細は、トレースをオンにして、操作をやり直し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12652: 文字列が切り捨てられました。

原因: 文字列に十分なメモリーが割当てられていないので、切り捨てられます。

解決方法: 文字列を切り捨てることのできる場合は、エラーにはなりません。そうでない場合には、より大きなバッファで再度エラーを報告したルーチンをコールしてください。

ORA-12653: 認証制御機能に障害が発生しました。

原因: 認証サービス・ドライバによって利用される制御機能が失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12654: 認証変換に失敗しました。

原因: 認証サービスが、のユーザーの資格証明を特定の書式から ORACLE 形式に変換できませんでした。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12655: パスワード・チェックに失敗しました。

原因: 使用中の認証サービスが、指定されたパスワードを検証できません。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12656: 暗号チェックサムが不適当です。

原因: 受入れデータのパケットで受信した暗号のチェックサムが、受信の終わりで計算したチェックサムと合致しませんでした。これは、パケットが書き換えられたか、あるいは通信上で壊れた可能性があります。

解決方法: データの壊れたソースを探してください。間違って書き換えられている可能性があります。

ORA-12657: アルゴリズムがインストールされていません。

原因: インストールされたサービスのアルゴリズムがない場合、近い側の接続でそのサービス（暗号かチェックサムのどちらか）を使用しなければなりません。

解決方法: そのサービスの "ON" 要件を削除してください。

ORA-12658: ネイティブ・サービスは必要ですが、TNS バージョンに互換性がありません。

原因: 前のバージョンの TNS を実行しているプロセスが接続を試みましたが、サーバー・プロセスでネイティブ・サービス（認証、暗号化など）が必要だったため、接続に失敗しました。

解決方法: コールする実行可能形式を再リンクして接続を再試行するか、サーバー側で使用されるサービス要件を削除してください。

ORA-12659: 他のプロセスからエラーを受信しました。

原因: 接続の反対側のプロセスのサービスから 1 つ以上のエラーを受信しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。サーバーが生成するエラーはクライアント側では意味がないため、このエラーは直接戻されません。

ORA-12660: 暗号化または暗号チェックサムのパラメータに互換性がありません。

原因: 接続の一方が、暗号化または暗号チェックサムに "REQUIRED" を指定していますが、もう一方は、"REJECTED" を指定しています。

解決方法: 暗号化または暗号チェックサムが必須でない場合には、"REQUIRED" 側を "REQUESTED" に変更してください。そうでない場合には、"REJECTED" 側を "ACCEPTED" に変更してください。

ORA-12661: プロトコル認証が使用されます。

原因: SQL*Net 認証サービスは、使用中の SQL*Net 通信プロトコルがユーザーの ID を認証するのに利用できると判断しました。

解決方法: このエラーは、認証サービスと SQL*Net セッション・レイヤーの間で情報を通信するためにだけ使用され、通常ユーザーには表示されません。エラーが表示された場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12662: プロキシ・チケットの取出しに失敗しました。

原因: SQL*Net に使用される認証アダプタが、データベース・リンクの認証に必要な資格証明の取出しに失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

ORA-12663: クライアントに必要なサービスが、サーバーで使用可能ではありません。

原因: クライアント・プロセスに必要なサービスが、サーバー・プロセスで使用できませんでした。

解決方法: クライアントで必要なサービスを使用できるようにサーバーを構成してください (最も望ましい解決策です)。または、クライアントの構成ファイルから要件を削除してください (安全性が最も低くなります)。

ORA-12664: クライアントに必要なサービスが、サーバーで使用可能ではありません。

原因: サーバー・プロセスに必要なサービスが、クライアント・プロセスで使用できませんでした。

解決方法: サーバーで必要なサービスを使用できるようにクライアントを構成してください (最も望ましい解決策です)。または、サーバーの構成ファイルから要件を削除してください (安全性が最も低くなります)。

ORA-12665: NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: ネイティブ・サービスが、各国語サポート・コンポーネントで使用する文字列を作成できません。

解決方法: 各国語サポート・コンポーネントが適切かどうかを確認してください。適切な場合は、トレースを使用可能にして、オラクル社カスタマー・サポートに問題を報告してください。

ORA-12666: 専用サーバー : アウトバウンド移送プロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 専用サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と同じプロトコルが指定されています。SQL*Net は、専用サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

解決方法: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

ORA-12667: 共有サーバー : アウトバウンド移送プロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 共有サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と同じプロトコルが指定されています。SQL*Net は、共有サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

解決方法: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

ORA-12668: 専用サーバー: アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因: 専用サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

解決方法: SQL*Net 接続文字列あるいは外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。注意 :SQL*Net の制限のため、プロキシ接続で使用するプロトコルはクライアントからサーバーへの接続で使用するものと同じでなくてはなりません。

ORA-12669: 共有サーバー: アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因: 共有サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

解決方法: SQL*Net 接続文字列あるいは外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。
注意 :SQL*Net の制限のため、プロキシ接続で使用するプロトコルはクライアントからサーバーへの接続で使用するものと同じでなくてはなりません。

ORA-12670: ロール・パスワードが無効です。

原因: ロールに指定されたパスワードを、認証サービスは、有効と認められませんでした。

解決方法: 正しいパスワードを指定してください。

ORA-12671: 共有サーバー: アダプタがコンテキストの保存に失敗しました。

原因: マルチスレッド・サーバーを介してプロキシ接続 (データベース・リンク) に必要なデータを保存するときに、認証サービスのアダプタが失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。原因が明らかにならない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12672: データベース・ログオンに失敗しました。

原因: 使用中の認証サービス・アダプタが、ユーザーの試行したログオンを検証しているときにエラーを検出しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、アダプタが検出した正確なエラーを調べてください。

ORA-12673: 専用サーバー：コンテキストが保存されていません。

原因：専用サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

解決方法：このエラーは、通常はユーザーに表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12674: 共有サーバー：プロキシ・コンテキストが保存されていません。

原因：共有サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

解決方法：このエラーは、通常はユーザーに表示されません。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12675: 外部ユーザー名は、まだ使用可能ではありません。

原因：サービスが使用不可だったため、使用中の認証サービスが ORACLE サーバーのユーザーの外部名前を戻しませんでした。

解決方法：これは単なる情報メッセージであり、通常はユーザーに表示されません。エラーがなければ、オラクル社カスタマー・サポートへ問合せしてください。

ORA-12676: サーバーがクライアントから内部エラーを受信しました。

原因：サーバー・プロセスが、内部 SQL*Net ネイティブ・サービスのエラーが発生したことを示すエラーをクライアントから受信しました。

解決方法：両方のプロセスのトレースをオンにして、問題の再現を試みてください。繰り返し問題が起きる場合には、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12677: 認証サービスはデータベース・リンクではサポートされていません。

原因：プロキシ接続（データベース・リンク）によって使用される認証サービスが、認証メカニズムのリストからクライアントが使用するアダプタを見つけることができませんでした。

解決方法：データベース・リンクに使用されるクライアントとサーバーで共有する認証アダプタを指定してください。

ORA-12678: 認証は使用できませんが、必要です。

原因：SQL*Net 認証を使用禁止にするかどうかを制御する構成パラメータが、両方とも TRUE に設定されています。

解決方法：パラメータは両方とも FALSE に設定してください。

ORA-12679: 他のプロセスでは使用できませんが、必要なネイティブ・サービスです。

原因：リモート・プロセスはネイティブ・サービスを使用禁止にしましたが、ローカル・プロセスには必要です。

解決方法：リモート・プロセス上のネイティブ・サービスを使用可能にするか、それらをローカルで使用禁止にしてください。

ORA-12680: ネイティブ・サービスは使用できませんが、必要です。

原因: プロセスはネイティブ・サービスを使用禁止にしましたが、少なくとも 1 つのサービスが必要です。

解決方法: ネイティブ・サービスを使用可能にするか、使用可能なサービスが必要ないように構成ファイルを変更してください。

ORA-12681: ログインに失敗しました : SecurID カードにはまだ PIN コードがありません。

原因: Oracle へのログオンに使用された SecurID カードには、ピンコードが割り当てられていません。

解決方法: Security Dynamics 提供のプログラムの 1 つを使用して、カードにピンコードを割り当ててください。

ORA-12682: ログインに失敗しました : SecurID カードは次の PRN モードにあります。

原因: SecurID カードと SecurID サーバーの同期が取れていません。サーバーは、カードを再度同期化するために、次のカードコードを必要としています。

解決方法: Security Dynamics 提供のプログラムの 1 つを使用して、SecurID カードを再度同期化してください。

ORA-12683: 暗号化 / 暗号チェックサム : Diffie-Hellman シードがありません。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルに、"sqlnet.crypto_seed" パラメータがありません。

解決方法: 次の行を SQLNET.ORA に追加してください。
sqlnet.crypto_seed = "randomly-chosen text "

ORA-12684: 暗号化 / 暗号チェックサム : Diffie-Hellman シードが小さすぎます。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルの "sqlnet.crypto_seed" パラメータが小さすぎます。

解決方法: パラメータに無作為選択テキストをさらに追加してください。Network Manager が使用する可能性があります。

ORA-12685: ネイティブ・サービスがリモートで必要ですが、ローカルで使用禁止になっています。

原因: リモート・サービスにネイティブ・サービスが必要ですが、ネイティブ・サービスはローカルで使用禁止になっています。

解決方法: ネイティブ・サービスをローカルで使用可能にするか、ネイティブ・サービスが必要でないように、リモート・ホスト上の構成パラメータを変更してください。

ORA-12686: サービスに対して無効なコマンドが指定されました。

原因: 存在しない操作がネイティブ・サービスに指定されました。

解決方法: これはプログラム・エラーであり、通常はユーザーに表示されません。エラーがなければ、オラクル社カスタマー・サポートへ問合せってください。

ORA-12687: サービスに対して無効なコマンドが指定されました。

原因: 要求されたデータベース・リンクでユーザーの認証に使用された資格証明が期限切れになりました。

解決方法: 資格証明を新しくしてください。使用している Network Authentication Adapter のマニュアルで、証明方法を調べてください。

ORA-12688: ログインに失敗しました : SecurID サーバーが新規 PIN コードを拒否しました。

原因: SecurID サーバーがピンコードを拒否する理由には、次のような原因が考えられます。ユーザーに自分のピンコードを構成する許可がない。- ピンコードが長すぎるか短かすぎる (有効なピンコードは 4 文字から 8 文字までの文字から構成されている)。ピンコードは英数字が含まれている。

解決方法: 操作をやり直して、上の要件を満たすピンコードを使用しているかどうかを確認してください。問題が繰り返される場合は、接続の Oracle Server 側のトレースをオンにし、トレース・ファイルで正確なエラーを調べてください。

ORA-12689: サーバーの認証が必要ですがサポートされていません。

原因: この接続でサーバー認証が必要になりましたが、接続の両側によってサポートされていません。

解決方法: 接続の両側に正しいバージョンの Secure Network Service があることを確認してください。また認証アダプタがサーバー認証をサポートすることを確認してください。

ORA-12690: サーバー認証に失敗しました。ログインは取り消されました。

原因: サーバー認証が必要になりましたが、サーバーの資格証明がクライアントによって無効になっていました。

解決方法: サーバーに有効な設定の資格証明があることを確認してください。この方法については、それぞれのマニュアルの認証アダプタを参照してください。

ORA-12699: ネイティブ・サービス内部エラー

原因: ネイティブ・サービスで内部エラーが発生しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

各国語対応メッセージ : 12700 ~ 12799

この節では、Oracle の各国語対応機能がアクセスされた場合に生成されるメッセージを記載します。

ORA-12700: 無効な NLS パラメーター値 (name) です。

原因: 無効な NLS 初期化パラメータを指定しました。

解決方法: パラメータの構文と綴りを調べてください。初期化パラメータ・ファイルには正しいパラメータを入力してください。

ORA-12701: 不明な CREATE DATABASE キャラクタ・セットです。

原因: CREATE DATABASE コマンドに指定したキャラクタ・セットがシステムに存在しません。

解決方法: システムのキャラクタ・セットに関する情報は、Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。CREATE DATABASE コマンドに有効なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12702: 無効な NLS パラメータ文字列が SQL 関数に使用されました。

原因: SQL 関数の NLS パラメータ文字列に無効なパラメータまたは値を入力しました。

解決方法: 関数の構文とパラメータを調べてください。正しい構文と有効な値を使用してコマンドを再入力してください。

ORA-12703: このキャラクタ・セット変換はサポートされません。

原因: 2 つのキャラクタ・セット間の変換に CONVERT 関数を使用しようとしたが、いずれか一方のキャラクタ・セットまたは両方のキャラクタ・セットが使用可能でないために、要求した変換は実行できません。

解決方法: CONVERT 関数にはシステムで使用可能なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12704: キャラクタ・セットが一致していません。

原因: 次のどれかです。

- 演算子または組込み関数の文字列オペランド (NLSPARAMS 引数以外) のキャラクタ・セットが同じでない。
- NLSPARAMS オペランドがデータベース・キャラクタ・セットと一致していない。
- データベース・キャラクタ・セット以外のキャラクタ・セットを含んだ文字列データが予期していなかった組込み関数に転送された。
- CHR() または CSCONVERT() の 2 番目の引数が CHAR_CS または NCHAR_CS でない。
- INSERT 文の VALUES 句 または UPDATE 文の SET 句の文字列式に含まれたキャラクタ・セットは、値を挿入する列のキャラクタ・セットと同じでない。
- 表を作成するときに DEFAULT 句に提供された値のキャラクタ・セットは、列に対して宣言されたキャラクタ・セットと同じでない。
- PL/SQL 機能の引数は、対応するパラメータのキャラクタ・セット要件に適合しない。

解決方法: NCHAR または NCHAR VARYING で宣言されている文字列は、CHAR または VARCHAR2 で宣言されている文字列との相互運用性はありません。TRANSLATE() 関数を使ってどちらかのキャラクタ・セットに明示的に変換してください。

ORA-12705: 無効または不明な NLS パラメータ値が指定されました。

原因: 考えられる原因は 2 つあります。無効な NLS パラメータまたは値を指定して ALTER SESSION 文を発行しようとしたか、NLS_LANG 環境変数に無効な言語、 Territory、キャラクタ・セットが含まれています。

解決方法: ALTER SESSION コマンドと NLS パラメータの構文を確認し、構文を訂正して文を再試行するか、または NLS_LANG 環境変数に正しい値を指定してください。ALTER SESSION コマンドの構文の詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER SESSION コマンド」を参照してください。

ORA-12706: この CREATE DATABASE キャラクタ・セットは許可されません。

原因: ASCII ベースのマシン上で EBCDIC ベースのキャラクタ・セット (またはその反対) を使用して、データベースを作成しようとした。これは許可されません。

解決方法: ハードウェアがサポートしているキャラクタ・セットによって、ASCII ベースまたは EBCDIC ベースのどちらかのキャラクタ・セットを使用してデータベースを作成してください。サポートされているキャラクタ・セットのタイプの詳細は、Oracle オペレーティング・システム固有のマニュアルを参照してください。

パラレル問合せ / インデックスの作成メッセージ : 12800 ~ 12849

この節では、パラレル問合せ、またはパラレル・インデックスの作成中に生成されるいくつかのメッセージを記載します。

ORA-12800: システムはビジーすぎてパラレル問合せを実行できません。

原因: システム上のロードは、高すぎてパラレル問合せを実行できません。

解決方法: 文を直列に再入力するか、またはシステム・ロードが短縮されるまで待ってください。

ORA-12801: パラレル問合せサーバー *name* にエラー信号が発生しました。

原因: パラレル問合せサーバーに、付随するメッセージに記述される例外が発生しました。

解決方法: 付随するメッセージに記述されたエラーを修正してください。

ORA-12802: パラレル問合せサーバーはコーディネータとの接触を失いました。

原因: パラレル問合せサーバーは、パラレル問合せをコーディネイトするサーバーと通信できませんでした。

解決方法: オペレーティング・システムまたはネットワーク・エラーを確認し、文を再実行してください。この問題が再発する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12803: パラレル問合せサーバーは、別のサーバーとの接触を失いました。

原因: パラレル問合せサーバーは、パラレル問合せに含まれる別のサーバーと通信できませんでした。

解決方法: オペレーティング・システムまたはネットワーク・エラーを確認し、文を再実行してください。この問題が再発する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12804: パラレル問合せサーバーが停止したようです。

原因: パラレル問合せサーバー・スレッドに関するプロセス情報が見つかりません。

解決方法: オペレーティング・システム・エラーを確認し、文を再実行してください。この問題が再発する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12805: パラレル問合せサーバーが突然停止しました。

原因: PMON プロセスはプロセスを終結処置しました。パラレル問合せサーバーが予期せず終了したからです。

解決方法: オペレーティング・システム・エラーを確認し、文を再実行してください。この問題が再発する場合、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12806: バックグラウンド・プロセスにエンキューを保持させられませんでした。

原因: これは通常発行されない内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12807: 処理待ち行列はパラレル問合せメッセージを受信できませんでした。

原因: これは通常発行されない内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-12808: インスタンス *num* の数より大きい [CACHE | SCAN]_IN は設定できません。

原因: ALTER SYSTEM コマンドを使用して、利用可能なインスタンスの数より大きい値に CACHE_INSTANCES または SCAN_INSTANCES を設定しようとしてしました。

解決方法: 実現可能な最大値の付随するメッセージを参照するか、SCAN_INSTANCES または CACHE_INSTANCES を ALL に設定してください。

ORA-12809: 排他モードでマウントされた場合、< [CACHE | SCAN] > _INSTANCES は設定できません。

原因: データベースが排他モードにマウントされている間に、ALTER SYSTEM コマンドを使用して CACHE_INSTANCES または SCAN_INSTANCES を設定しようとしてしました。

解決方法: データベースが PARALLEL または SHARED モードに設定されている間は、CACHE_INSTANCES または SCAN_INSTANCES だけが設定できます。

ORA-12810: RALLEL_MAX_SERVERS は *num* 以下でなければなりません。

原因: システムに可能な最大値より高い値に PARALLEL_MAX_SERVERS 初期化パラメータを設定しようとしてしました。

解決方法: 実現可能な最大値の付随するメッセージを参照してください。

ORA-12811: PARALLEL_MIN_SERVERS は PARALLEL_MAX_SERVERS, *num* 以下でなければなりません。

原因: PARALLEL_MAX_SERVERS より高い値に PARALLEL_MIN_SERVERS 初期化パラメータを設定しようとした。

解決方法: 実現可能な最大値の付随するメッセージを参照してください。

ORA-12812: 指定可能な PARALLEL または NOPARALLEL 句は 1 つだけです。

原因: PARALLEL が複数回指定されたか、NOPARALLEL が複数回指定されたか、または、PARALLEL と NOPARALLEL の両方が、CREATE TABLE 文、CREATE CLUSTER 文、CREATE INDEX 文、ALTER TABLE 文、ALTER CLUSTER 文、または RECOVER コマンドに指定されました。

解決方法: PARALLEL または NOPARALLEL を一度だけ指定してください。

ORA-12813: PARALLEL または DEGREE の値は 0 より大きくなければなりません。

原因: PARALLEL 0 または DEGREE 0 が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER、CREATE INDEX、ALTER TABLE、ALTER CLUSTER 文または RECOVER コマンドに指定されました。

解決方法: 値を 1 以上に指定してください。または PARALLEL を程度なしに使用するか、PARALLEL 文内の DEGREE DEFAULT を使用してデフォルトの並列性を指定してください。

ORA-12814: 指定可能な CACHE または NOCACHE 句は 1 つだけです。

原因: CACHE または NOCACHE が複数回指定されました。または、CACHE および NOCACHE が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER、CREATE INDEX、ALTER TABLE、ALTER CLUSTER、RECOVER のいずれかのコマンドに指定されました。

解決方法: CACHE または NOCACHE を 1 度だけ指定してください。

ORA-12815: INSTANCES 値は 0 より大きくなければなりません。

原因: インスタンスの番号を指定している PARALLEL パラメータは、正の整数または DEFAULT であるべきです。

解決方法: インスタンス全体に渡って並列性が必要な場合は、INSTANCES に対して正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12817: パラレル問合せオプションは使用可能でなければなりません。

原因: パラレル問合せオプションに必要とされる操作を試みました。

解決方法: パラレル問合せオプションを使用可能にしてください。

ORA-12818: PARALLEL 句内に無効なオプションが使用されました。

原因: 認識できないオプションを PARALLEL 句で指定しています。

解決方法: DEGREE {<n> | DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {<n> | DEFAULT} の任意の組合わせを指定してください。

ORA-12819: PARALLEL 句にオプションが欠落しています。

原因: PARALLEL 句は、あるオプションが欠落した状態で指定されました。

解決方法: DEGREE {<n> | DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {<n> | DEFAULT} の任意の組合わせを指定してください。

ORA-12820: 無効な DEGREE 値です。

原因: PARALLEL 句内で DEGREE の無効な値が指定されました。

解決方法: 正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12821: 無効な INSTANCES 値です。

原因: PARALLEL 句内で INSTANCES の無効な値が指定されました。

解決方法: 正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12822: PRALLEL 句にオプションが重複しています。

原因: DEGREE または INSTANCE を 1 つの PARALLEL 句で 2 度以上指定しました。

解決方法: オプションを 1 度だけ指定してください。

ORA-12823: デフォルトの度合いの並列性はここでは指定できません。

原因: ALTER DATABASE RECOVER コマンドを PARALLEL 句の DEGREE DEFAULT オプションで指定したか、または別のコマンドを PARALLEL 句のオプションなしで指定しました。

解決方法: 並列性の度合いを明示的に指定してください。

ORA-12824: INSTANCES DEFAULT はここでは指定できません。

原因: ALTER DATABASE RECOVER コマンドが、INSTANCES DEFAULT オプションで指定されました。

解決方法: INSTANCE 用に明示的に値を指定するか、または単一のインスタンスの回復を望む場合、INSTANCE オプションを削除してください。

ORA-12825: ここでは明示的な度合いの並列性を指定しなければなりません。

原因: ALTER DATABASE RECOVER コマンドは、DEGREE オプションなしで指定されました。

解決方法: 並列性の度合いを明示的に指定してください。

ORA-12826: 停止したパラレル問合せは消去されました。

原因: パラレル問合せサーバーは異常終了し、後続にキルされました。

解決方法: 問合せを再実行しても、エラーが続く場合は、トレース・ファイルに記録されている疑いのあるイベントをオラクル社カスタマー・サポートへ連絡してください。

ORA-12827: 使用可能なパラレル問合せスレーブが足りません。

原因: PARALLEL_MIN_PERCENT パラメータが指定され、最小限のスレーブを獲得できませんでした。

解決方法: PARALLEL_MIN_PERCENT の値を小さくして問合せを再実行してください。または、いくつかの実行中の問合せが完了してスレーブが解放されるまで待ってください。

PARALLEL_MIN_PERCENT パラメータの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「PARALLEL_MIN_PERCENT パラメータ」を参照してください。

ORA-12828: パラレル・トランザクションを起動できません。分配トランザクションが処理中です。

原因: 分散トランザクションが処理中であるため、PDML トランザクションを起動できません。

解決方法: DML 文を変更してリモート表への更新を除外してから、文を再実行してください。

ORA-12829: デッドロック - ブロック: <名前> (ファイル: <名前>) で itls が同胞に占有されています。

原因: 現行ブロック内の全 itls が同じトランザクションの同胞によって占有されているため、パラレル文を実行できませんでした。

解決方法: ブロックの MAXTRANS を増加するか、文に対する並列性の度合いを減らしてください。文を再実行してください。問題が解決しない場合は、トレース・ファイル中の疑わしいイベントについて Oracle 社技術サポートに連絡してください。

ORA-12830: パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 実行後に COMMIT または ROLLBACK を発行してください。

原因: パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

解決方法: COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12831: APPEND ヒントをもつ INSERT の実行後に COMMIT または ROLLBACK を発行してください。

原因: APPEND ヒントをもつ INSERT 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

解決方法: COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12832: 指定されたインスタンスでスレーブを割り当てられなかったものがあります。

原因: グローバル v\$ 固定ビューの問合せを実行した後に、1 以上のインスタンスが問合せを処理するスレーブを割り当てられませんでした。

解決方法: 正常に割当てられたスレーブからの結果の戻りを可能にするには、ALTER SESSION SET ALLOW_PARTIAL_SN_RESULTS=TRUE 文を実行するか、各インスタンスのパラメータを確認してください。

ORA-12833: 座標のインスタンスが PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーではありません。

原因: 座標のインスタンスは、この操作を実行する PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーでなければなりません。

解決方法: 座標のインスタンスを現行の PARALLEL_INSTANCE_GROUP に追加するか、PARALLEL_INSTANCE_GROUP を変更してください。

ORA-12834: インスタンス・グループ名 *name* が長すぎます。 *num* 未満にしてください。

原因: インスタンス・グループ名が長すぎます。

解決方法: 名前を短くするか、インスタンス・グループを取り除いてください。

ORA-12835: OPS_ADMIN_GROUP にアクティブなインスタンスがありません。

原因: グローバル・ビューの問合せを実行するには、OPS_ADMIN_GROUP に 1 以上のインスタンスが存在していなければなりません。

解決方法: OPS_ADMIN_GROUP の値を変更してください。

ORA-12838: オブジェクトをパラレルで変更すると、読み込みや変更はできません。

原因: 同じトランザクションの中で、読み込み文が変更文をパラレルあるいはダイレクト・ロードで変更した後、表の上で追加しようとしていました。これは許可されません。

解決方法: トランザクションを書き換えるか、または 2 つのトランザクションに分割するかしてください。1 つは最初の変更を含み、もう 1 つはパラレル変更操作を含みます。

ORA-12839: オブジェクトを変更すると、パラレルでの変更はできません。

原因: 同じトランザクションの中で、表が変更されてからパラレル変更操作を行おうとしました。これは許可されません。

解決方法: トランザクションを書き換えるか、または 2 つのトランザクションに分割してください。1 つはパラレル変更を含み、もう 1 つは最初の変更操作を含みます。

ORA-12840: パラレル・トランザクションではリモート表にアクセスできません。

原因: トランザクションの中で、PDML あるいは挿入直接文が発行されたあとに分配アクセスを行おうとしました。

解決方法: 先に PDML トランザクションをコミットまたはロールバックしてから、分配アクセスを実行してください。あるいは、トランザクションの最初の PDML 文により前に分配アクセスを実行してください。

ORA-12841: トランザクション内でセッション・パラレル DML 状態を変更することはできません。

原因: トランザクションの処理中にセッション・パラレル DML を変更しようとした。

解決方法: トランザクションをコミットあるいはロールバックして、実行し直してください。

空間データ・オプション・メッセージ : 13000 ~ 13199

この節では、空間データ・オプションが使用可能になっているときに返される可能性があるメッセージのいくつかを記載します。

ORA-13000: ディメンション数値が範囲外です。

原因: 指定された次元が 1 より小さいか HHCODE に符号化された次元番号よりも大きくなっています。

解決方法: 次元番号が 1 から最大次元番号 (HHCODE にコード化) の間であることを確認してください。

ORA-13001: 次元が一致していません。

原因: バイナリ HHCODE 操作に関連する 2 つの HHCODE の次元番号が一致しません。

解決方法: 2 つの HHCODE の次元番号が一致していることを確認してください。

ORA-13002: 指定されたレベルが範囲外です。

原因: 指定されたレベルが 1 よりも小さいか、または、HHCODE にコード化された最大レベルよりも大きくなっています。

解決方法: 全レベルが 1 から最大レベル番号 (HHCODE にコード化) の間であることを確認してください。

ORA-13003: ディメンションに指定された範囲が無効です。

原因: ディメンションに指定した範囲が無効です。

解決方法: 下限 (lb) が上限 (ub) よりも小さいことを確認してください。

ORA-13004: 指定されたバッファ・サイズが無効です。

原因: ファンクションのバッファ・サイズが無効です。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13005: 再帰的 HHCODE 関数エラー。

原因: 再帰的にコールされる HHCODE ファンクションでエラーが発生しました。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13006: 指定されたセル番号が無効です。

原因: セル識別子が 0 よりも小さいか、または $(2^{\text{ndim}} - 1)$ よりも大きくなっています。

解決方法: セル識別子が 0 から ($2^{\text{ndim}} - 1$) の間であることを確認してください。

ORA-13007: 無効な HEX 文字が検出されました。

原因: [0-9] または [A-Fa-f] の範囲にない字が検出されました。

解決方法: 文字列のすべての文字が [0-9] または [A-Fa-f] の範囲内であることを確認してください。

ORA-13008: 指定された日付形式に無効な構成要素があります。

原因: 指定された日付形式の一部が無効です。

解決方法: 日付形式が有効であることを確認してください。

ORA-13009: 指定された日付ストリングが無効です。

原因: 指定された日付文字列に無効な構成要素があるか、指定された形式文字列と一致しません。

解決方法: 日付文字列の構成要素が有効であり、日付文字列と形式文字列が一致することを確認してください。

ORA-13010: 無効な数の引数が指定されています。

原因: SDO 関数に無効な数の引数を指定しました。

解決方法: ファンクション・コールの構文を確認してください。

ORA-13011: 値が範囲外です。

原因: 指定された次元の値が次元の定義範囲外です。

解決方法: コード化されたすべての値が定義された次元の範囲にあることを確認してください。

ORA-13012: 無効なウィンドウ型が指定されました。

原因: 無効なウィンドウ型を指定しました。

解決方法: 有効なウィンドウ型は、RANGE、PROXIMITY、POLYGON です。

ORA-13013: 指定されたトポロジは INTERIOR でも BOUNDARY でもありませんでした。

原因: 指定されたトポロジが INTERIOR または BOUNDARY ではありません。

解決方法: HHCODE のトポロジの記述に INTERIOR または BOUNDARY が使用されていることを確認してください。

ORA-13014: 1 から 8 の範囲にないトポロジ識別子が指定されました。

原因: 1 から 8 の範囲にないトポロジ識別子が指定されました。

解決方法: 1 から 8 の範囲内でトポロジを指定してください。

ORA-13015: ウィンドウ定義が無効です。

原因: ウィンドウの定義に使用されている値の番号がウィンドウ型に対応していません。

解決方法: ウィンドウ定義に使用されている値の番号がウィンドウ型および次元番号に対して正しいことを確認してください。

ORA-13016: パーティション定義が無効です。

原因: パーティションの共通コードが正しく復号化されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13017: 認識不能な行パーティション形状です。

原因: 2 次元ライン・パーティションの形が判別できませんでした。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13018: 距離型が無効です。

原因: 指定された距離型が無効です。

解決方法: サポートされている距離ファンクションは EUCLID と MANHATTAN だけです。

ORA-13019: 座標が有効範囲外です。

原因: 頂点の座標が指定されたディメンションの有効範囲外にあります。

解決方法: 頂点の座標を指定された範囲内に定義し直してください。

ORA-13020: 座標が NULL です。

原因: 頂点の座標が NULL 値になっています。

解決方法: 頂点の座標を非 NULL 値に定義し直してください。

ORA-13021: 要素が連続していません。

原因: 図形要素を定義している座標が接続されていません。

解決方法: 図形要素の座標を定義し直してください。

ORA-13022: 多角形が自己交差しています。

原因: 多角形の図形要素を定義している座標が、セグメントの交差を表しています。

解決方法: 多角形の座標を定義し直してください。

ORA-13023: 内部要素が外部要素に影響しています。

原因: 図形オブジェクトの内部要素が、そのオブジェクトの外部要素に影響しています。

解決方法: 図形要素の座標を定義し直してください。

ORA-13024: 多角形のセグメントが 3 未満です。

原因: 多角形の図形要素を定義している座標が、セグメントが 3 未満であることを表しています。

解決方法: 多角形の座標を定義し直してください。

ORA-13025: 多角形が閉じていません。

原因: 多角形の図形要素を定義している座標が、開いた多角形を表しています。

解決方法: 多角形の座標を定義し直してください。

ORA-13026: 要素 *<layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number* の要素型が不明です。

原因: *<layer>_SDOGEOM* 表の中の SDO_ETYPE 列が無効な幾何学要素型値を含んでいます。

解決方法: サポートされている SDO_ETYPE 値の 1 つを使って、指定した幾何学要素の、*<layer>_SDOGEOM* 表内の幾何学要素型を定義し直します。SDO_ETYPE とそれが使える値の説明は、『Oracle Spatial Cartridge ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ORA-13027: *<layer>_SDODIM* からディメンション定義を読み込むことができません。

原因: *<layer>_SDODIM* 表からディメンション定義を読み込むことに問題があります。

解決方法: *<layer>_SDODIM* 表が存在し、その表に適切な権限があることを確認してください。メッセージと一緒に他のエラーが表示されたら、それも対処してください。

ORA-13039: 要素 *<layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number* の空間的索引を更新することに失敗しました。

原因: 問題を示す別のエラーがこのメッセージに付随しています。

解決方法: これらのエラーを修正してください。他のエラーが表示されない場合は、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-13040: タイルの副分割に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: これに伴うエラーを書き留め、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13041: タイルと要素 *<layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number* の比較してください。

原因: 生成されたタイルと指定された要素の間の空間的な関係が決定されません。

解決方法: 内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシージャを使って幾何を確認してください。プロシージャがエラーを返さない場合、ORA-13041 に伴うエラーを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13042: SDO_LEVEL と SDO_NUMTILES の組み合わせが無効です。

原因: <layer>_SDOLAYER 表からの SDO_LEVEL の値と SDO_NUMTILES の値の組合せが読み込まれました。多くの場合、その列は NULL になっています。

解決方法: SDO_LEVEL 列と SDO_NUMTILES 列の組合せが『Oracle Spatial Cartridge ユーザーズ・ガイド』に記述されている有効な整数値を含んでいるかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13043: <layer>_SDOLAYER 表からメタ・データの読み込みに失敗しました。

原因: <layer>_SDOLAYER 表を読み込む時にエラーが発生しました。

解決方法: このエラーは通常、以前のエラーの結果であり、以前のエラーも報告されています。以前のエラーを処理し、現在の操作を再び行ってください。以前のエラーが報告されていない場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13044: 指定されたタイルの大きさが最大の分解能を超えています。

原因: 固定サイズの tessellation に指定されたタイルの大きさが、レイヤー・メタ・データから計算されたとおりに最大の分解能を超えています。

解決方法: タイリング・レベル、タイル・サイズ、タイル分解能の説明は、『Oracle Spatial Cartridge ユーザーズ・ガイド』を参照してください。タイリング・パラメータが、生成されたタイルが常に分解能の最大レベルのタイルと同じかそれより大きいことを確認してください。これは幾何学的なオブジェクトより少ないタイルを使うか、現在のタイルより小さなタイル値を指定することによって達成できます。

ORA-13045: compatibility フラグが無効です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13046: 引数の個数が無効です。

原因: SDO_GEOM 関数に無効な数の引数が指定されました。

解決方法: 適切な SDO_GEOM 関数の構文と方法の詳細は、『Oracle Spatial Cartridge user documentation』を参照してください。

ORA-13047: 表 <layer>_SDOLAYER から ordinate 件数を決めることができません。

原因: SDO_GEOM 関数が、SDO レイヤー <layer> の ordinate の数を決めることができませんでした。

解決方法: <layer>_SDOLAYER 表に列 SDO_ORDCNT に対して有効な値があることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13048: 再帰的 SQL フェッチ・エラー

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13049: 表 <layer>_SDODIM から許容度値を決めることができません。

原因: SDO_GEOM 関数が SDO レイヤー *<layer>* の許容値を決めることができませんでした。

解決方法: *<layer>*_SDODIM 表に列 SDO_TOLERANCE に対して有効な値があることを確認してください。

ORA-13050: 空間オブジェクトを組み立てることができません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13051: 空間オブジェクトの初期化に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13052: 図形 *<layer>*_SDOGEOM.SpatialObjectID の図形型がサポートされていません。

原因: *<layer>*_SDOGEOM 表の中の特定のインスタンスの図形型が Oracle Spatial Cartridge でサポートされている一連の図形型の中にありません。

解決方法: 『Oracle Spatial Cartridge ユーザーズ・ガイド』でサポートされている図形型のリストを確認し、SDO スキーマを持つ、サポートされていない図形型の保存と検索ができる対策を確認してください。

ORA-13053: 引数リスト内の幾何学要素が最大値を超えました。

原因: SDO_GEOM 関数の引数リストで指定できる幾何学要素が最大値を超えました。

解決方法: 『Oracle Spatial Cartridge ユーザーズ・ガイド』で SDO_GEOM の構文を確認し、引数を減らして幾何学を記述してください。あるいは SDO_WINDOW パッケージの記述で、表の中でオブジェクトを保存し、それを SDO_GEOM 関数のコールの引数として使える対策を確認してください。

ORA-13054: 再帰的 SQL 解析エラー

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13055: Oracle オブジェクト・テキストが指定された表にありません。

原因: 要求したオブジェクトが指定した表に存在しません。

解決方法: このエラーを報告した関数あるいはプロシージャの構文を確認し、指定された表に本当にオブジェクトが存在することを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13108: 空間表 *name* が見つかりません。

原因: 指定された空間表が存在しません。

解決方法: 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを調べて、表が登録されていることを確認してください。

ORA-13109: 空間表 *name* が存在します。

原因: 指定された空間表が空間データのデータ・ディクショナリに登録されています。

解決方法: 既存の表を空間データ・オプションのデータ・ディクショナリから削除するか、または別の名前を使用してください。

ORA-13110: 空間表 *name* がパーティションに分割されていません。

原因: 指定された空間表はパーティションに分割されていません。

解決方法: 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを調べて、高水位が設定されていることを確認してください。

ORA-13111: 空間表 *name* にパーティション・キーが未定義です。

原因: 指定された空間表にパーティション・キーが定義されていません。

解決方法: 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを調べて、表がパーティションで分割されていることを確認してください。

ORA-13112: 無効なカウント・モード (*name*) です。

原因: 指定されたカウント・モードが無効です。

解決方法: カウント・モードを変更してください。有効なカウント・モードは ESTIMATE または EXACT です。

ORA-13113: Oracle 表 *name* が存在していません。

原因: 指定された Oracle 表が存在しません。

解決方法: Oracle7 のデータ・ディクショナリを調べて、表が存在していることを確認してください。

ORA-13114: 表領域 *name* が見つかりません。

原因: 指定された表領域が存在しません。

解決方法: Oracle7 のデータ・ディクショナリを調べて、指定された表領域が存在し、その表領域に領域割当てが定義されていることを確認してください。

ORA-13115: 表領域 *name* はすでに割当てられています。

原因: 指定された表領域はすでに空間表に割り当てられています。

解決方法: 別の表領域名を表に割り当ててください。

ORA-13116: 表領域 *name* は表 *name* に割り振られていません。

原因: 指定された表領域が、指定された空間表に割り当てられていません。

解決方法: 表領域を空間表に割り当ててください。

ORA-13117: パーティション *name* が見つかりません。

原因: 指定されたパーティションが存在しません。

解決方法: 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを調べて、パーティション名を確認してください。

ORA-13119: ソース表領域およびターゲット表領域が同一です。

原因: パーティションを移動しようとしたときに同じソース表領域とターゲット表領域が指定されました。

解決方法: パーティションを移動したい場合は別々のソース表領域とターゲット表領域を指定してください。

ORA-13121: 子パーティションの作成に失敗しました。

原因: 子パーティションの作成に失敗しました。

解決方法: このエラーに伴う他のエラーを調べて、先にそれを訂正してください。

ORA-13122: 子パーティション *name* が見つかりません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13123: 列 *name* はすでに定義されています。

原因: 指定された列は空間表ですすでに定義されています。

解決方法: 別の列名を使用してください。

ORA-13124: 列 *name* の列 ID を判別できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13125: パーティション・キーはすでに設定済みです。

原因: 空間表にはパーティション・キーがすでに存在しています。

解決方法: パーティション・キーは空間表ごとに 1 つだけ指定できます。

ORA-13126: 空間表 *name* のクラスを判別できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13127: ターゲット・パーティションの生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13128: 現行のタイリング・レベルはユーザーが指定したタイリング・レベルを超えています。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13129: HHCODE 列 *name* が見つかりません。

原因: 指定された空間列が存在しません。

解決方法: 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを調べて、指定された列が空間列であることを確認してください。

ORA-13135: 空間表を変更できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13136: NULL 共通コードが生成されました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13137: 表領域順序番号を生成できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13138: オブジェクト *name* の名前を判別できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13139: *name* の列定義を取得できませんでした。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13140: 無効ターゲット型です。

原因: 指定されたターゲット型が無効です。

解決方法: 有効なターゲット型に置き換えてください。有効なターゲット型は TABLE または VIEW です。

ORA-13141: 無効な RANGE ウィンドウ定義です。

原因: 指定された RANGE ウィンドウが正しく定義されていません。

解決方法: RANGE ウィンドウは、1 組の値としてそれぞれの次元の下限と上限を指定して定義します (例 :lower_bound1,upper_bound1,lower_bound2,upper_bound2,...)。値は偶数個になります。

ORA-13142: 無効な PROXIMITY ウィンドウ定義です。

原因: 指定された PROXIMITY ウィンドウが正しく定義されていません。

解決方法: PROXIMITY ウィンドウは、中心点と半径を指定して定義します。中心点は ND の値で定義します。ND+1 個の値が必要です。

ORA-13143: 無効な POLYGON ウィンドウ定義です。

原因: 指定された POLYGON ウィンドウが正しく定義されていません。

解決方法: POLYGON ウィンドウは、多角形の対角線を表す N 組の値を指定して定義します。値は偶数個になります。

ORA-13144: ターゲット表 *name* が見つかりません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13145: 範囲リストの生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13146: 表置換変数 *name* が見つかりません。

原因: パーティション名の置換変数名が SQL フィルタで見つかりませんでした。

解決方法: パーティション名の位置を示すため、置換変数名は SQL フィルタ内になければなりません。

ORA-13147: MBR の生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13148: SQL フィルタの生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13149: 空間表 *name* の次の順序番号の生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13150: 例外レコードの挿入に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの挿入操作に失敗しました。

解決方法: 報告された他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13151: 例外レコードの削除に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの挿入操作に失敗しました。

解決方法: 報告された他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13152: 無効な HHCODE 型です。

原因: 指定された HHCODE 型が無効です。

解決方法: 有効な HHCODE 型に置き換えてください。有効な HHCODE 型は POINT および LINE です。

ORA-13153: 高水位標の指定が正しくありません。

原因: 高水位標は 0(ゼロ) 以上でなければなりません。

解決方法: 高水位標が 0(ゼロ) 以上の整数であることを確認してください。

ORA-13154: 精度の指定が正しくありません。

原因: 指定された精度が範囲外です。

解決方法: 0(ゼロ) 以上の整数でなければなりません。

ORA-13155: 次元の数の指定が正しくありません。

原因: 指定された次元番号が範囲外です。

解決方法: 次元番号は 1 から 32 の間でなければなりません。

ORA-13156: 表が *name* で登録されますが、*name* が空ではありません。

原因: 指定された表に行があります。

解決方法: 登録する表が空であることを確認してください。

ORA-13157: Oracle エラー ORA-*nnnnn* が *name* で見つかりました。

原因: 表示された Oracle エラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラーを修正してください。

ORA-13158: Oracle オブジェクト *name* が存在しません。

原因: 指定したオブジェクトが存在しません。

解決方法: 指定されたオブジェクトが存在していることを確認してください。

ORA-13159: Oracle 表 *name* はすでに存在します。

原因: 指定された表はすでに存在しています。

解決方法: 指定した表を削除してください。

ORA-13181: *num_SDOINDEX.SDO_CODE* 列の長さを判断できません。

原因: *<layer>_SDOINDEX* 表の中の *SDO_CODE* 列の長さを判断できません。

解決方法: *<layer>_SDOINDEX* 表が *SDO_CODE* と一緒に存在することを確認してください。適切な権限が表にあることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13182: 要素 *<layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number* の読み込みに失敗しました。

原因: 指定された要素が *<layer>_SDOGEOM* 表から読み込めません。

解決方法: 指定された要素が表の中に存在していることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13183: *<layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID* 幾何学で幾何学型がサポートされていません。

原因: *<layer>_SDOGEOM* 表の中の幾何学型がサポートされていません。

解決方法: 図形タイプをサポートされているタイプのものに変更してください。

ORA-13184: tessellation パッケージの初期化に失敗しました。

原因: tessellation パッケージの初期化に失敗しました。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13185: 初期 HHCODE の生成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13186: 固定タイル・サイズ tessellation が失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13187: 副分割に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13188: セルのデコードに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13189: 再帰的 SQL 解析に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記入し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13190: 再帰的 SQL フェッチに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13191: SDO_ORDCNT 値の読み込みに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13192: 数値あるいは要素行の読み込みに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13193: 幾何学に空間を割当てられませんでした。

原因: メモリー不足のため、データベースから幾何学を読み込めません。

解決方法: 図形を確認してください。返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13194: スーパーセルのデコードに失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13195: 最大タイル値が生成できませんでした。

原因: 内部エラーです。

解決方法: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-13196: 要素 <layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number の supercell が計算できませんでした。

原因: 最小枠 HHCODE か、幾何学の supercell の計算ができませんでした。

解決方法: 別のエラーがこのエラーとともに発生している場合があります。別のエラーを訂正してください。また幾何学が正確かどうかを確認してください。

ORA-13197: 要素 <layer>_SDOGEOM.SpatialObjectID.Element_Number が範囲外です。

原因: 基盤目次の配列は、この要素にはタイルを生成しませんでした。このエラーは。幾何学定義が <layer>_SDODIM 表で定義されたドメインの外に幾何学を置くと起きることがあります。

解決方法: 幾何学が有効で定義されたドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13199: テキスト

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

パーティション・オブジェクト - 解析メッセージ : 14000 ~ 14119

ORA-14000: LOCAL 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: 2 つ以上の LOCAL 句を含んだ CREATE INDEX 文が発行されました。

解決方法: LOCAL オプションは 1 度だけ指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14001: LOCAL 句が前に指定された GLOBAL 句に矛盾します。

原因: GLOBAL 句と LOCAL 句を含んだ CREATE INDEX 文が発行されました。

解決方法: LOCAL 句と GLOBAL 句の両方を 1 度に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14002: GLOBAL 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: 2 つ以上の GLOBAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

解決方法: GLOBAL オプションは 1 度だけ指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14003: GLOBAL 句が前に指定された LOCAL 句に矛盾します。

原因: LOCAL 句と GLOBAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

解決方法: GLOBAL 句と LOCAL 句の両方を 1 度に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14004: PARTITION キーワードがありません。

原因: 発行された文には PARTITION キーワードがありません。

解決方法: 不足しているキーワードを指定し、操作を再試行してください。

ORA-14005: RANGE キーワードがありません。

原因: 発行された文には RANGE キーワードがありません。

解決方法: 不足しているキーワードを指定し、操作を再試行してください。

ORA-14006: 無効なパーティション名

原因: 期待された書式 <名前> のパーティション名が存在しません。

解決方法: 正しいパーティション名を指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14007: LESS キーワードがありません。

原因: 発行された文には LESS キーワードがありません。

解決方法: 不足しているキーワードを指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14008: THAN キーワードがありません。

原因: 発行された文には THAN キーワードがありません。

解決方法: 不足しているキーワードを指定してください。操作を再試行してください。

ORA-14009: パーティション・バウンドは LOCAL 索引パーティションに指定できません。

原因: LOCAL パーティション索引を作成する CREATE INDEX 文の解析時に、パーティションの中に VALUES LESS THAN 句が入っていることがわかりました。LOCAL 索引はパーティション・バウンドを基礎表から継承するので、VALUES LESS THAN 句は不当です。

解決方法: LOCAL 索引パーティションの記述から VALUES LESS THAN 句をすべて削除してください。

ORA-14010: この物理属性は索引パーティションに指定できません。

原因: 索引パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED です。また、パーティション記述のリストの最後に閉じ（右）括弧がない場合にも、このメッセージが出力されることがあります。

解決方法: 索引パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14011: 結果のパーティションに割当てる名前は固有でなければなりません。

原因: 既存の表または索引パーティションの分割から生じたパーティションに対して、固有でない名前が与えられました。

解決方法: 結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なった、固有の名前でなければなりません。

ORA-14012: 結果のパーティション名が既存のパーティション名と同じです。

原因: 既存の表または索引パーティションの分割から生じたパーティションに対して、他の表または索引の既存パーティション名と同じ名前が与えられました。

解決方法: 結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なった、固有の名前でなければなりません。

ORA-14013: パーティション名が重複しています。

原因: 作成中の表または索引のパーティションに対して、一意でない名前が与えられました。

解決方法: パーティションの名前を変更してください。パーティションの名前は、作成中の表または索引のパーティションの中で一意の名前でなければなりません。

ORA-14014: パーティション化列の最大数は 16 です。

原因: パーティション化列リストの中の列数が、許可された最大値 16 を超えています。

解決方法: 16 列を超えないように、パーティション化列リストを修正してください。

ORA-14015: パーティションの記述が多すぎます。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX のパーティション記述が多すぎます。最大パーティション数は、 $2^{32}-1$ (65535) です。

解決方法: $2^{32}-1$ (65535) を超えないように、パーティション数を減らしてください。

ORA-14016: LOCAL パーティション化索引の基礎表はパーティション化されていなければなりません。

原因: 非パーティション化表に対して LOCAL パーティション化索引を作成しようとしてしました。非パーティション化表を基礎にして作成できるのは、GLOBAL 索引 (パーティション化およびそれ以外) だけです。

解決方法: 文を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14017: パーティション・バウンド・リストの要素が多すぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数よりも多くなっています。

解決方法: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14018: パーティション・バウンド・リストの要素が少なすぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数よりも少なくなっています。

解決方法: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。

ORA-14019: パーティション・バウンドの要素は文字列リテラル、番号、MAXVALUE のどれかです。

原因: パーティション・バウンド・リストに無効なデータ型（つまり、番号、空でない文字列リテラル、MAXVALUE 以外）の要素が含まれています。

解決方法: パーティション・バウンド・リストの全要素が有効なデータ型であることを確認してください。

ORA-14020: この物理属性は表のパーティションに指定できません。

原因: 表パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED です。また、パーティション記述のリストの最後に閉じ（右）括弧がない場合にも、このエラーが発生することがあります。

解決方法: 表パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14021: MAXVALUE はすべての列に指定しなければなりません。

原因: GLOBAL 索引の最大（最後の）パーティションの VALUES LESS THAN 句で、MAXVALUE が指定されていない列があります。

解決方法: GLOBAL 索引の最後のパーティション用の VALUES LESS THAN 句で、MAXVALUE をすべての列に対して指定してください。

ORA-14022: LOCAL パーティション化クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因: LOCAL パーティション化クラスタ索引を作成しようとしたが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

解決方法: LOCAL およびパーティション記述（存在する場合）を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14023: GLOBAL パーティション化クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因: GLOBAL パーティション化クラスタ索引を作成しようとしたが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

解決方法: PARTITION BY RANGE 句およびパーティション記述を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14024: LOCAL 索引のパーティション数は基礎表のものと同じでなければなりません。

原因: 作成しようとした LOCAL パーティション化索引のパーティション数が、基礎表のものと異なります。

解決方法: CREATE INDEX 文を訂正して正しいパーティション数を指定し、操作を再試行してください。

ORA-14025: PARTITION はスナップショットまたはスナップショット・ログに指定できません。

原因: スナップショットまたはスナップショット・ログ定義の解析時に、PARTITION オプションが検出されました。

解決方法: SNAPSHOT 定義に無効なオプションが含まれていないことを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-14026: PARTITION 句と CLUSTER 句が両方含まれています。

原因: 表定義に PARTITION 句と CLUSTER 句の両方を定義することは許可されません。

解決方法: 対立する句の一方を取り除き、操作を再試行してください。

ORA-14027: PARTITION 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: 2 つ以上の PARTITION 句が CREATE TABLE 文に含まれています。

解決方法: PARTITION オプションを 1 度だけ指定して操作を再試行してください。

ORA-14028: AT キーワードがありません。

原因: 発行された文には AT キーワードがありません。

解決方法: 不足しているキーワードを指定し、操作を再試行してください。

ORA-14029: GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引でなければなりません。

原因: グローバル・パーティション化索引のパーティション化列に、索引のキー列の接頭辞が含まれていません。

解決方法: 作成中の GLOBAL パーティション化索引に接頭辞があることを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-14030: CREATE TABLE 文にパーティション列がありません。

原因: CREATE TABLE 文に指定されたパーティション化列は、作成中の表のものではありません。

解決方法: パーティション化列リストのすべての列が、現在作成している表の列であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14031: パーティション列は LONG または LONG RAW 型にできません。

原因: LONG または LONG RAW 型のパーティション列が指定されていますが、これは許可されません。

解決方法: LONG または LONG RAW 型のパーティション列がないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14032: パーティション番号 *num* のパーティション・バウンドが大きすぎます。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、ハイ・バウンドが次のパーティションよりも高くなっています。これは許可されません。

解決方法: パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドよりも低いことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14036: 列に対するパーティション・バウンドが大きすぎます。

原因: パーティション・バウンド値が、対応するパーティション列よりも長くなっています。

解決方法: 上位バウンド値の長さが、対応するパーティション列の長さを超えていないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14037: パーティション名のパーティション・バウンドが高すぎます。

原因: このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドが次のパーティションよりも高くなっています。これは許可されません。

解決方法: パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドよりも低いことを確認してください。

ORA-14038: GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引でなければなりません。

原因: 接頭辞がない GLOBAL パーティション化索引を作成しようとしたが、これは許可されません。

解決方法: 接頭辞のない索引を作成したい場合は、LOCAL として作成しなければなりません。そうでない場合は、キーまたはパーティション化列（あるいはその両方）のリストを訂正し、索引に接頭辞を付ける必要があります。操作を再試行してください。

ORA-14039: パーティション列には UNIQUE 索引のキー列のサブセットを形成しなければなりません。

原因: 作成しようとした UNIQUE パーティション化索引では、パーティション列がキー列のサブセットを形成していません。

解決方法: 索引のパーティション列がキー列のサブセットを形成しない索引を本当に作成したい場合は、索引を非 UNIQUE として作成しなければなりません。そうでない場合は、索引のパーティション列がキー列のサブセットを形成するように、キーまたはパーティション列（あるいはその両方）のリストを訂正する必要があります。操作を再試行してください。

ORA-14041: 結果のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} SPLIT PARTITION 文の解析時に、結果のパーティションで VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

解決方法: 既存の表または索引パーティションの分割から生じたパーティション記述から、VALUES LESS THAN 句を取り除いてください。操作を再試行してください。

ORA-14042: 移動、変更、再構築中のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} MODIFY PARTITION 文または ALTER TABLE MOVE PARTITION 文、ALTER INDEX REBUILD PARTITION 文の解析時に、移動、変更、再構築中のパーティションの新しい物理属性記述で VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

解決方法: 移動または変更、再構築するパーティションの新しい属性記述から VALUES LESS THAN 句を取り除いてください。操作を再試行してください。

ORA-14043: パーティションは 1 つだけしか追加できません。

原因: ALTER TABLE ADD PARTITION 文に 2 つ以上の追加パーティションの記述が含まれています。

解決方法: 文中のパーティション定義が 1 つだけであること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14044: パーティションは 1 つだけしか移動できません。

原因: ALTER TABLE MOVE PARTITION 文に 2 つ以上の移動パーティションの記述が含まれています。

解決方法: 移動パーティションが文中に 1 つだけ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14045: パーティションは 1 つだけしか変更できません。

原因: ALTER TABLE|INDEX MODIFY PARTITION 文に 2 つ以上の変更パーティションの記述が含まれています。

解決方法: 変更パーティションが文中に 1 つだけ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14046: パーティションが正確に 2 つの新規パーティションに分割されていません。

原因: ALTER TABLE|INDEX SPLIT PARTITION 文に、既存の表または索引パーティションを正確に 2 つに分割する新規パーティションの記述が含まれていません。

解決方法: 既存のパーティションを正確に 2 つのパーティションに分割する記述であるかどうか文の内容を確かめてください。操作を再試行してください。

ORA-14047: ALTER TABLE|INDEX RENAME は他の操作に結合できません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で RENAME 操作を他の操作に結合しようとしたが、これは許可されません。

解決方法: RENAME 操作は ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文に指定された唯一の操作であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14048: パーティション・メンテナンス操作は他の操作に結合できません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でパーティション・メンテナンス操作（たとえば、MOVE PARTITION）を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に結合しようとしたが、これは許可されません。

解決方法: パーティション・メンテナンス操作は、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文に指定された唯一の操作であることを確認してください。パーティションの処理、パーティション化された表 / 索引のデフォルトの属性、または表の改名（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と結合できます。

ORA-14049: ALTER TABLE MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP、ALLOCATE EXTENT、DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 有効なオプションを指定して、オプションを再試行してください。

ORA-14050: ALTER INDEX MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文に対して、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 有効なオプションを指定して、オプションを再試行してください。

ORA-14051: ALTER SNAPSHOT のオプションが無効です。

原因: ALTER SNAPSHOT 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 有効なオプションを指定して、オプションを再試行してください。

ORA-14052: パーティション拡張表名の構文はこのコンテキストでは禁止されています。

原因: パーティション拡張表名の構文を使用できないコンテキスト（つまり、FROM 句または INSERT 文、DELETE 文、UPDATE 文以外）でしようとしてしました。

解決方法: 上記以外のコンテキストでは、パーティション拡張表名を使用しないでください。

ORA-14053: *name* を変更しようとしてしました (*name* 文)。

原因: オブジェクトの作成時に ALTER 文で属性（たとえば、表）を変更しようとしてしました。

解決方法: ALTER 文に指定された新しい値が、オブジェクトの作成後に変更可能な属性値だけであることを確認してください。

ORA-14054: ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION のオプションが無効です。

原因: ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION 文で、パーティション名の後続に無効なオプションを指定しようとしてしました。切り捨てられるパーティション名の後続に指定できるオプションは、DROP STORAGE または REUSE STORAGE だけです。

解決方法: ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION とともに DROP STORAGE または REUSE STORAGE 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14055: ALTER INDEX REBUILD のキーワード REBUILD は *name* の後に指定しなければなりません。

原因: ALTER INDEX 文のキーワード REBUILD が索引属性（たとえば、INITRANS）の後に指定されています。

解決方法: 変更する索引名の直後にキーワード REBUILD が指定されているかを確認してください。

原因: ORA-14056: パーティション番号 *num*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

解決方法: パーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14057: パーティション *name*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このメッセージに表示されたパーティション名の PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

解決方法: パーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14058: パーティション番号 *num*: INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さくありません。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値よりも大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルトの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

解決方法: INITRANS 値（明示的に指定した値、またはパーティション化表またはパーティション化索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-14059: パーティション *name*: INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さくありません。

原因: このメッセージに表示されたパーティション名では、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値よりも大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティ

ション化表またはパーティション化索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション化表またはパーティション化索引に対するデフォルトの INTRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

解決方法：INTRANS 値（明示的に指定した値、またはパーティション化表またはパーティション化索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。

ORA-14060: 表のパーティション列のデータ型またはデータ長は変更できません。

原因：ALTER TABLE 文で指定された表に対して、定義された索引のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。

解決方法：表のパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14061: 索引のパーティション列のデータ型またはデータ長は変更できません。

原因：ALTER TABLE 文で指定された表に対して、定義された索引のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。

解決方法：索引のパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14062: 読み込み専用の表領域に表のパーティションが 1 つ以上あります。

原因：読み込み専用の表領域にパーティションが 1 つ以上ある表に対して、ALTER TABLE 文を使用して、既存の VARCHAR2 型（または VARCHAR 型）の列を CHAR 型（または CHARACTER 型）の列に変更しようとした、または既存の CHAR 型（または CHARACTER 型）の列の長さを増加しようとした、またはユーザー指定のデフォルトによって列を追加しようとした。

解決方法：読み込み専用の表領域にパーティションが 1 つ以上あるパーティション化された表に対して、上記の操作は行わないでください。

ORA-14063: 使用できない索引が一意 / 主制約キーに存在しています。

原因：Index Unusable マークのある索引をもった表の列に対して、主キー / 一意の制約の追加または使用可能化しようとした。

解決方法：既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD を使って索引を再構築してください。

ORA-14064: 使用できないパーティションのある索引が一意 / 主制約キーに存在しています。

原因：1 以上のパーティションに Index Unusable マークのある索引をもった表の列に対して、主キー / 一意の制約の追加または使用可能化が試行されました。

解決方法：既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD PARTITION で使用できないパーティションを再構築してください。

ORA-14065: ALLOCATE STORAGE はパーティション化された表に指定できません。

原因: パーティション化された表に対して発行された ALTER TABLE 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しようとした。

解決方法: ALLOCATE STORAGE オプションを取り除いてください。個々のパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14066: パーティション化されていない表に対しては無効なオプションです。

原因: パーティション化されていない表に対して、オプション（たとえば、TABLESPACE および INITIAL、STORAGE 句内の FREELISTS および FREELIST GROUPS）を含んだ ALTER TABLE 文を発行しようとした。これらのオプションは、パーティション化された表に対してだけ許可されます。

解決方法: 無効なオプションを取り除いて操作を再試行してください。

ORA-14067: TABLESPACE_NUMBER の指定が重複しています。

原因: 索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE_NUMBER 句が 2 つ以上指定されています。

解決方法: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14068: TABLESPACE と TABLESPACE_NUMBER の両方は指定できません。

原因: 索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE 句と TABLESPACE_NUMBER 句の両方を指定しようとした。

解決方法: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14069: 無効な TABLESPACE_NUMBER 値

原因: 0 から 0x7FFFFFFF までの整数でない TABLESPACE_NUMBER 値を指定しようとした。

解決方法: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14070: パーティション化索引に対して、または REBUILD とともに指定できるオプションです。

原因: パーティション化された索引に対して指定するか、REBUILD を伴う場合にだけ指定できるオプション（たとえば、PCTFREE および TABLESPACE、[NO]PARALLEL、INITIAL、STORAGE 句内の FREELISTS および FREELIST GROUPS）を含んだ ALTER INDEX 文を発行しようとした。

解決方法: 無効なオプションを取り除いて操作を再試行してください。

ORA-14071: 制約に使われる索引に対しては無効なオプションです。

原因: 制約に使われる索引に対して、COMPRESS、NOCOMPRESS、PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、TABLESPACE、PARALLEL、NOPARALLEL、RECOVERABLE、UNRECOVERABLE、LOGGING、NOLOGGING、LOCAL、GLOBAL 以外のオプションが指定されました。

解決方法: 有効な索引オプションを選択して、操作を再試行してください。

ORA-14072: 固定表は切り捨てられません。

原因: 固定表を切り捨てようとしてしました。固定表は切り捨てられません。

解決方法: 切り捨てられた表が固定表でないことを確認してください。

ORA-14073: ブートストラップ表またはクラスタは truncate できません。

原因: ブートストラップ表またはクラスタを切り捨てようとしてしました。ブートストラップ表またはクラスタは truncate できません。

解決方法: truncate された表（またはクラスタ）がブートストラップ表（またはクラスタ）でないことを確認してください。

ORA-14074: パーティション・バウンドは最終のものより上位に設定しなければなりません。

原因: パーティション操作 SPLIT または ADD に対するパーティション・バウンドが、前のパーティションのパーティション・バウンドより高くなっていません。

解決方法: すべてのパーティション（ただし、最初のパーティション以外）のパーティション・バウンドが、前のパーティションよりも高くなっていることを確認してください。

ORA-14075: パーティション・メンテナンス操作はパーティション化された索引でだけ実行されます。

原因: ALTER INDEX パーティション・メンテナンス操作で指定された索引は、パーティション化されていません。したがって、パーティション・メンテナンス操作は無意味です。

解決方法: パーティション・メンテナンス操作を指定した ALTER INDEX 文の索引が、パーティション化された索引であることを確認してください。

ORA-14076: DROP/SPLIT PARTITION は LOCAL 索引パーティションには適用されません。

原因: LOCAL 索引パーティションを削除または分割しようとしてしました。

解決方法: DROP/SPLIT PARTITION 文で指定された索引が GLOBAL パーティション化索引であることを確認してください。

ORA-14077: 指定されたパーティションは存在しません。

原因: 存在しないパーティションに関連したパーティション・メンテナンス操作を実行しようとしてしました。

解決方法: 指定されたパーティションが、ALTER TABLE/INDEX 文で指定されたパーティション化オブジェクト（表または索引）に含まれていることを確認してください。

ORA-14078: GLOBAL 索引の最高位パーティションは削除できません。

原因: GLOBAL 索引の最高位パーティションを削除しようとした。

解決方法: ALTER INDEX DROP PARTITION 文に指定されたパーティションが索引の最高位パーティションでないことを確認してください。

ORA-14079: Index Unusable とマークされたパーティションには無効なオプションです。

原因: Index Unusable とマークされたパーティションに対して、STORAGE 句または DEALLOCATE SPACE 句（あるいはその両方）を含んだ ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文が発行されました。

解決方法: 有効なオプションだけが指定されていることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-14080: 指定された上位バウンドでパーティションを分割できません。

原因: パーティションの分割に指定されたバウンドは、分割されるパーティションのバウンドよりも高いか、または分割の直前のパーティション・バウンドよりも低くなっています。

解決方法: パーティションを分割するバウンドは、分割されるパーティションのバウンドよりも低く、分割の直前のパーティション・バウンドよりも高いことを確認してください。

ORA-14081: 新規パーティション名は旧パーティション名と別でなければなりません。

原因: 入力しようとした ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定されたパーティション名は、オブジェクトの既存パーティションの名前と同一です。

解決方法: 新しいパーティション名は、与えられた表または索引に存在するどのパーティション名（改名されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14082: 新規パーティション名は他のオブジェクトのものと別でなければなりません。

原因: 入力しようとした ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定されたパーティション名は、オブジェクトの既存パーティションの名前と同一です。

解決方法: 新しいパーティション名は、与えられた表または索引に存在するどのパーティション名（改名されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14083: パーティション化された表の唯一のパーティションは削除できません。

原因: 表のパーティションが 1 つだけのときに、パーティションの削除コマンドを実行しました。

解決方法: 2 つ以上のパーティションがあることを確認してください。すべてのパーティションを取り除くときは、表を削除してください。

ORA-14084: TABLESPACE DEFAULT が指定できるのは LOCAL 索引だけです。

原因: LOCAL 索引以外のオブジェクトに対して TABLESPACE DEFAULT を指定しようとした。

解決方法: TABLESPACE DEFAULT 句のない文を再入力してください。

ORA-14085: パーティション化された表に LONG データ型をもつ列は含められません。

原因: パーティション化された表を LONG データ型で作成しようとしたか、または LONG データ型の列をパーティション化された表に追加しようとした。

解決方法: パーティション化された表では LONG データ型はサポートされません。LONG 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていないものに変更してください。列を追加する場合は、LONG データ型を使用しないでください。データ型を LONG に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表でなければなりません。

ORA-14086: パーティション化された索引全体を再構築することはできません。

原因: ALTER INDEX REBUILD 文を使用してパーティション化された索引を再構築しようとした。

解決方法: (ALTER INDEX REBUILD PARTITION を使用して) 1 度に 1 パーティションずつ索引を再構築するか、または索引をいったん削除してから索引全体を作り直してください。

ORA-14094: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION のオプションが無効です。

原因: EXCHANGED の対象となる表名の後に、[{INCLUDING | EXCLUDING} INDEX][{WITH | WITHOUT} VALIDATION] 文がありません。

解決方法: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION とともに INCLUDING INDEX または EXCLUDING INDEX 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14095: ALTER TABLE EXCHANGE はパーティション化、クラスタ化されてない表で実行されます。

原因: クラスタ化またはパーティション化された表に EXCHANGE 操作を実行しようとした。

解決方法: パーティションを交換する表が、パーティション化された表またはクラスタ化された表でないことを確認してください。

ORA-14096: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の列の数は同じでなければなりません。

原因: EXCHANGE 文に指定された 2 つの表では、列数が異なります。

解決方法: 2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14097: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の列型またはサイズが一致していません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定された表では、対応する列の型またはサイズが異なります。

解決方法: 2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14098: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の索引が一致していません。

原因: EXCHANGE 文で指定された 2 つの表の索引が等しくありません。

解決方法: 2 つの表の各索引が次の規則にしたがっているか確認してください。パーティション化されていない表のパーティション化されていない索引はすべて、パーティション化された表に同一の LOCAL 索引がなければなりません（その逆の場合も同様）。同一の索引とは、列の位置、型、サイズが同一の索引を意味します。

ORA-14099: 表の中に指定されたパーティションに適さない列があります。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定されたパーティションに適さない行が、パーティション化されていない表の中で 1 つ以上検出されました。

解決方法: セグメント中のすべての行が、パーティションに適していることを確認してください。ALTER TABLE 操作を NO CHECKING オプション付きで実行してください。パーティションで ANALYZE table VALIDATE を実行して無効な行を検出し、削除してください。

ORA-14100: パーティション拡張表名はリモート・オブジェクトを参照できません。

原因: パーティション拡張表名の構文をリモート・オブジェクト名と一緒に使用しようとしてしました。

解決方法: 文を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14101: パーティション拡張表名はシノニムを参照できません。

原因: パーティション拡張表名の構文をシノニム名と一緒に使用しようとしてしました。

解決方法: 文を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14102: LOGGING または NOLOGGING 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: LOGGING または NOLOGGING が複数回指定されました。または、LOGGING および NOLOGGING の両方が指定されました。

解決方法: LOGGING または NOLOGGING 句を 1 つだけ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14103: LOGGING/NOLOGGING は RECOVERABLE/UNRECOVERABLE と結合できません。

原因: 文中に [NO]LOGGING 句と [UN]RECOVERABLE 句の両方が入っていますが、これは許可されません。

解決方法: 無効な句を取り除いてください。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。UNRECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して

ALTER してください。RECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14104: RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティション化された表 / 索引に指定できません。

原因: パーティション化された表 / 索引の作成に使われた CREATE TABLE/INDEX 文に RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句が含まれています。

解決方法: 無効な句を取り除いてください。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。UNRECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14105: RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はこのコンテキストで指定できません。

原因: このコンテキストでは、RECOVERABLE/UNRECOVERABLE 句は無効です。

解決方法: 無効な句を取り除いてください。RECOVERABLE/UNRECOVERABLE は、パーティション化されていない表または索引を記述した CREATE TABLE/INDEX 文および ALTER INDEX REBUILD 文でだけ指定できます。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。UNRECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句のセマンティクスを 2 倍にするには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14106: LOGGING/NOLOGGING はクラスタ化された表に指定できません。

原因: クラスタ化された表が関与する CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文に LOGGING 句または NOLOGGING 句を指定しようとしました。

解決方法: 無効な句を取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-14107: パーティション・オブジェクトにはパーティションの指定が必須です。

原因: パーティション名を提供するパラメータが入力されていません。パーティション化されていないオブジェクトに対してこのパラメータの指定は任意ですが、パーティション化されたオブジェクトに対しては必須です。

解決方法: 不足しているパラメータを指定し、操作を再試行してください。

ORA-14108: パーティション拡張表名の構文が無効です。

原因: パーティション番号またはバインド変数を使用しようとしました。アクセスするパーティションは、必ずパーティション名を使って指定しなければなりません。

解決方法: パーティション名を使用してパーティションを参照できるように、構文を変更してください。

ORA-14109: パーティション拡張オブジェクト名が使用できるのは表だけです。

原因: 表でないオブジェクトに対してパーティション拡張オブジェクト名を使用しようとしました。

解決方法: 表以外のオブジェクトでパーティション拡張名の構文を使用しないでください。

ORA-14110: パーティション列は ROWID 型にはできません。

原因: ROWID 型のパーティション列が指定されました。

解決方法: ROWID 型のパーティション列が存在しないことを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-14111: クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引の作成はサポートされていません。

原因: クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引を作成しようとしたが、これは現在では許可されていません。

解決方法: PARTITION BY RANGE() 句およびパーティション・リストを取り除き、GLOBAL 非パーティション索引をクラスタ化された表に作成してください。

ORA-14112: RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティションに指定できません。

原因: RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句を含んだパーティションの記述が CREATE TABLE/INDEX 文で検出されました。

解決方法: 無効な句を取り除いてください。かわりに LOGGING または NOLOGGING を指定して、操作を再試行してください。

ORA-14113: パーティション化された表には LOB データ型をもつ列は含められません。

原因: LOB データ型をもったパーティション化表を作成しようとしたか、または LOB データ型をもった列をパーティション化表に追加しようとした。

解決方法: パーティション化された表では LOB データ型はサポートされません。LOB 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていないものに変更してください。列を追加する場合は、LOB データ型を使用しないでください。データ型を LOB に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表でなければなりません。

ORA-14114: パーティション化表には ADT、REF、ネスト化表、配列データ型をもつ列は含められません。

原因: OBJECT データ型 (ADT、REF、ネスト化表、配列) をもったパーティション化表を作成しようとしたか、または OBJECT データ型をもった列をパーティション化表に追加しようとした。

解決方法: パーティション化された表では Object データ型はサポートされません。Object 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていないものに変更してください。列を追加する場合は、OBJECT データ型を使用しないでください。データ型を OBJECT に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表でなければなりません。

ORA-14115: パーティション番号 :num のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、ハイ・バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

解決方法: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14116: パーティション *num* のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

解決方法: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14117: パーティションはオフライン化された表領域にあります。

原因: オフライン化された表領域にあるパーティション内のデータにアクセスしなければならない操作を実行しようとした。この種の操作には、索引定義をもった表または制約によって参照された表の表領域の削除などがあります。

解決方法: 操作を実行しようとする前に、表領域のオンラインを提供してください。

ORA-14118: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の CHECK 制約が一致しません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の CHECK 制約が定義されています。

解決方法: 2 つの表のどの列にも CHECK 制約定義がないことを確認してください。

ORA-14119: 指定されたパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: 追加する表パーティションの上位バウンド、または既存の表パーティションが索引パーティションを分割する上位バウンドのリニア・キー表現の長さが、有効な限界値（4K）を超えています。

解決方法: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14120: DATE 列に対するパーティション・バウンドの指定が不完全です。

原因: DATE 列に対するパーティション・バウンドとしての日付を、完全に（つまり日、月および世紀を含む年）指定していない書式の日付表現を使用しようとした。この書式は、（TO_DATE() 機能を使用して）明示的に指定されているか、または（NLS_DATE_FORMAT で）暗示的に指定されている可能性があります。

解決方法: DATE 列に対するパーティション・バウンドで使用される日付書式が完全な日付の仕様部（たとえば日、月および世紀を含む年）をサポートすることを確認してください。NLS_DATE_FORMAT が完全な（つまり世紀を含む）年の仕様部をサポートしていない場合は、TO_DATE()（たとえば TO_DATE'01-01-1999'、'MM-DD-YYYY'）を使用して指定の日付を完全に表現してください。

ORA-14121: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES は他の操作と組み合わせて指定できません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でパーティション・メンテナンス操作（たとえば、MOVE PARTITION）を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に結合しようとしたましたが、これは許可されません。

解決方法: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES 操作は、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文に指定された唯一の操作であることを確認してください。パーティションの処理、パーティション化された表 / 索引のデフォルトの属性または表の改名（ALTER TABLE RENAM）以外の操作は、他の操作と結合できます。

ORA-14122: REVERSE と NOREVERSE 句は同時に指定できません。

原因: REVERSE と NOREVERSE の両方が CREATE INDEX 文に指定されました。

解決方法: REVERSE または NOREVERSE 句を 1 つだけ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14123: NOREVERSE 句が重複しています。

原因: NOREVERSE が ALTER INDEX 文に 2 回以上指定されました。

解決方法: NOREVERSE 句を 1 つだけ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14124: REVERSE 句が重複しています。

原因: REVERSE が ALTER INDEX または CREATE INDEX 文に 2 回以上指定されました。

解決方法: REVERSE 句を 1 つだけ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14125: REVERSE/NOREVERSE はこのコンテキストでは指定できません。

原因: このコンテキストでは、REVERSE/NOREVERSE 句は無効です。

解決方法: 無効な句を取り除いてください。REVERSE は、CREATE INDEX 文と ALTER INDEX REBUILD の索引（パーティション化された索引を作成する場合は、個々のパーティションの索引ではない）の属性として指定される可能性があります。NOREVERSE は、ALTER INDEX REBUILD 文でだけ指定できます。

ORA-14126: <parallel clause> だけが、結果としてできたパーティションの記述に続くことができます。

原因: 表の分割や索引パーティションの分割から生じたパーティションの記述の後に、オプションの <parallel clause> が続いているかも知れません。これは、文全体に適用し、他の句が続くことはできません。

解決方法: ALTER TABLE/INDEX SPLIT PARTITION 文の、結果のパーティションの記述の括弧のついたリストの中に、すべてのパーティション属性があらわれていることを確認してください。

ORA-14128: FOREIGN KEY 制約が ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION と一致しません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の FOREIGN KEY 制約が異なっています。

解決方法: 2 つの表のどの列にも FOREIGN KEY 制約定義がないことを確認するか、2 つの表の両方で FOREIGN KEY 制約を無効にしてください。操作を再試行してください。

パーティション・オブジェクト - 実行メッセージ: 14400 ~ 14499

ORA-14400: 挿入されたパーティション・キーが最大パーティション・キーを超えています。

原因: 挿入レコードの連結パーティション・キーは、最後のパーティションの連結パーティション・バウンド・リストの許容値を超えています。

解決方法: キーの挿入を取り止めるか、またはキーを受け入れられるようなパーティションを追加してください。

ORA-14401: 挿入されたパーティション・キーが指定されたパーティションの範囲外です。

原因: INSERT 文で指定されたパーティションは、2 つの連結パーティション・バウンド・リストによって許容範囲が定められています。挿入レコードの連結パーティション・キーは、定められた範囲外にあることが検出されました。

解決方法: キーの挿入を取り止めるか、または別のパーティションに挿入してください。

ORA-14402: パーティション・キー列を更新するとパーティションが変更されます。

原因: パーティション・キー列を UPDATE 文で更新しようとした。

解決方法: パーティション・キー列の更新を取り止めるか、または新列の値と旧列の値が等しいことを確認してください。

ORA-14403: DML パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。

原因: INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 文の実行時に、パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。このエラーは opixexe() で捕らえられて DML 文が再試行されるので、ユーザーには決して返されないエラーです。

解決方法: 必要な処置はありません。エラーはユーザーに返ってきません。

ORA-14404: パーティション化された表に異なる表領域のパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれていないパーティションをもった表が領域内に存在します。

解決方法: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションをもった表を見つけてください。そのような表を削除するか、パーティションを別の表領域に移動してください。

ORA-14405: パーティション化された索引に異なる表領域のパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれている表に対して定義された索引には、パーティションの一部が領域内に完全に含まれていないものがあります。

解決方法: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションをもった索引を見つけてください。そのような索引を削除するか、索引のパーティションを別の表領域に移動するか、索引の定義された表を見つけて削除（または移動）してください。

パーティション・オブジェクト - 分析メッセージ : 14500 ~ 14999

ORA-14500: LOCAL オプションにはパーティション名が必要です。

原因: LOCAL オプションに対して指定された構文が正しくありません。

解決方法: LOCAL オプションにパーティション名を入力し、コマンドを再試行してください。

ORA-14501: オブジェクトがパーティション化されていません。

原因: 表または索引は、パーティション化されていません。無効な構文です。

解決方法: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14502: パーティションが存在しません。

原因: オブジェクトに存在しないパーティションを指定しようとした。

解決方法: 有効なパーティション名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-14503: パーティション名は1つだけしか指定できません。

原因: ANALYZE オプションに対して2つ以上のパーティション名が指定されました。

解決方法: パーティション名を1つだけ指定して、操作を再試行してください。

ORA-14504: 分析用の構文はサポートされていません。

原因: ANALYZE オプションに対してパーティション番号またはバインド変数が使用されました。

解決方法: 有効なパーティション名を指定してください。

ORA-14505: LOCAL オプションはパーティション化された索引にだけ有効です。

原因: LOCAL オプションに対して指定された構文が正しくありません。

解決方法: パーティション化された索引を指定して構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

ORA-14506: LOCAL オプションにはパーティション化された索引が必須です。

原因: パーティション化された索引に対して指定された構文が正しくありません。

解決方法: LOCAL オプションを指定して構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

ORA-14507: パーティション不正。パーティション・バウンド内にはない列があります。

原因: 他のパーティション内に存在すべき行が、パーティション内に含まれています。原因として、妥当性検査なしのパーティションの交換が考えられます。

解決方法: パーティション・バウンドから外れたパーティションの行を削除してください。

ORA-14508: 指定された VALIDATE INTO 表が見つかりません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーに適切な権限がありません。

解決方法: 使用する表を訂正するか、または適切な権限を取得してください。

ORA-14509: 指定された VALIDATE INTO 表のフォームが正しくありません。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

解決方法: 使用する表を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-14510: VALIDATE INTO 句はパーティション化された表にだけ指定できます。

原因: パーティション化されていない表またはクラスタ、索引に対して、VALIDATE INTO が指定されました。

解決方法: VALIDATE INTO 句はパーティション化された表にだけ使用してください。訂正後、操作を再試行してください。

Oracle Hot Standby: 16000 ~ 16099

ORA-16000: データベースは読み専用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは読み専用アクセスでオープンされています。このエラーが発生する不適当な DML または DDL 文を使用するデータベースを変更しようとした。

解決方法: このデータベースを変更するためには、まずデータベースをシャット・ダウンしてから読書き両用アクセスで再オープンしなければなりません。

ORA-16001: データベースは別のインスタンスで読み専用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは別のインスタンスによって読み専用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを読書き両用アクセスでオープンすることはできません。

解決方法: このインスタンスを読書き両用アクセスでオープンするか、または他のすべてのインスタンスをシャット・ダウンしてから読み専用アクセスで再オープンしなければなりません。

ORA-16002: データベースは別のインスタンスで読書き両用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは別のインスタンスによって読書き両用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを読込み専用アクセスでオープンすることはできません。

解決方法: このインスタンスを読込み専用アクセスでオープンするか、または他のすべてのインスタンスをシャット・ダウンしてから読書き両用アクセスで再オープンしなければなりません。

サーバー管理の回復メッセージ:19500 ~ 19998

ORA-19500: デバイス・ブロック・サイズ: *num* が無効です。

原因: シーケンシャル I/O OSD から戻されたデバイス・ブロック・サイズが無効です。

解決方法: ブロック・サイズを訂正して操作を再試行してください。

ORA-19501: ファイル *name* の読込みエラー。ブロック番号 *name* (ブロックサイズ=*num*)

原因: 入力ファイルで読込みエラーが検出されました。

解決方法: ファイルが破壊されていないか確認してから、操作を再試行してください。

ORA-19502: ファイル *name* の書込みエラー。ブロック番号 *name* (ブロックサイズ=*num*)

原因: 出力ファイルで書込みエラーが検出されました。

解決方法: ファイルが破壊されていないか確認してから、操作を再試行してください。

ORA-19503: デバイス情報の取得不可。デバイス名=*name*、タイプ=*name*、タイプ=*name*

原因: デバイス情報を取得するコールからエラーが戻されました。一般的な原因として、デバイス名、タイプ、パラメータのどれかが正しく入力されていないことが考えられます。

解決方法: デバイス名、タイプ、パラメータが正しいかどうかを確認してから操作を再試行してください。

ORA-19504: ファイル *name* の作成に失敗しました。

原因: ファイルを作成するためのコールからエラーが返されました。

解決方法: その他のメッセージやアクセス許可を確認し、必要な訂正を行ってから、操作を再試行してください。

ORA-19505: ファイル *name* の識別に失敗しました。

原因: ファイルを識別するためのコールからエラーが戻されました。一般的な原因として、ファイル名が正しく入力されていないか、ファイルが存在しないことが考えられます。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。ファイルが存在しているかを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-19506: シーケンシャル・ファイルの作成失敗。ファイル名 =name、パラメータ =name

原因: シーケンシャル・ファイルを作成するためのコールからエラーが戻されました。一般的な原因として、アクセス許可が正しく設定されていないことが考えられます。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。アクセス許可を確認し、必要ならば訂正してください。操作を再試行してください。

ORA-19507: シーケンシャル・ファイルの検索失敗。ハンドル =name、パラメータ =name

原因: シーケンシャル・ファイル検索のためのコールからエラーが戻されました。一般的な原因として、ファイル名が正しく入力されていないか、ファイルが存在しないことが考えられます。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。ファイル名が正しく入力されているか、ファイルが存在するかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-19508: ファイル name の削除に失敗しました。

原因: ファイルを削除するためのコールからエラーが戻されました。一般的な原因として、ファイル名が正しく入力されていないか、ファイルが存在しないことが考えられます。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。

ORA-19509: シーケンシャル・ファイルの削除失敗。ハンドル =name、パラメータ =name

原因: シーケンシャル・ファイルを削除するためのコールからエラーが戻されました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。

ORA-19510: name ブロックのサイズ設定に失敗しました (ファイル name、ブロックサイズ =num)。

原因: ファイルのサイズ変更のためのコールからエラーが返されました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。

ORA-19550: ディスパッチャ使用中にバックアップ / 復元関数は使用できません。

原因: マルチ・スレッド・サーバーでディスパッチャに接続中に、バックアップ / 復元関数を使用しようとしてしました。バックアップと復元に使用されるデバイスは、単一のプロセスに割り当てられていなければならないので、これは許可されません。

解決方法: インスタンスに直接接続してから BACKUP または RESTORE 機能を再実行してください。

ORA-19551: デバイスが使用中です。デバイス・タイプ: name、デバイス名: name

原因: 示されたデバイスは別のセッションに割り当てられているため、またはデバイス名が指定されていないため、または要求されたタイプのデバイスはすべて使用中のため、指示されたデバイスを割り当てられませんでした。

解決方法: 別のデバイスの割当てを試行するか、または必要なデバイスが使用中でなくなるまで待機してください。

ORA-19552: デバイス・タイプ *name* が無効です。

原因: 指示されたデバイス・タイプが無効です。

解決方法: 正しいデバイス・タイプを指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19553: デバイス名 *name* が無効です。

原因: 指示されたデバイス名は無効です。

解決方法: 正しいデバイス名を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19554: デバイスの割当て中にエラーが発生しました。デバイス・タイプ: *name*、デバイス名: *name*

原因: 指定されたデバイスを割り当てられませんでした。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19555: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST INIT.ORA パラメータが無効です。

原因: 初期化パラメータの LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST は、有効な範囲内にありません。

解決方法: 正しい値を指定してください。自動アーカイブが使用可能になった ARCHIVELOG モードのデータベースである場合、LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST は 1 または 2 です。

ORA-19556: 必須のアーカイブ先 2 つのうち、1 つが使用できません。

原因: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用不能になりました。この宛先にアーカイブできないことが原因であると考えられます。

解決方法: 次のいずれかを実行してください。

(1) 必須の宛先の数を変更します。

(2) LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST を指定し直します。

ORA-19557: デバイス・エラーが発生しました。デバイス・タイプ: *name*、デバイス名: *name*

原因: プラットフォーム固有のデバイス・コードでエラーが発生しました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19558: デバイスの割当て解除でエラーが発生しました。

原因: 指定されたデバイスの割当てを解除できませんでした。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19559: デバイス・コマンド : *name* の送信中にエラーが発生しました。

原因: 指示されたコマンドをセッション・デバイスに送信中に、エラーが発生しました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19560: デバイス制限 *name* は無効です。

原因: X\$DBMS_BACKUP_RESTORE.SETLIMIT へのコールで指定されたデバイス制限のタイプが無効です。

解決方法: 次の制限のうちの 1 つを使用してください: KBYTES または READRATE または PARALLEL。

ORA-19561: *name* には NULL セッション・デバイスが必須です。

原因: 試行されたデータ・ファイルまたはアーカイブ・ログ、制御ファイルのコピーでは、NULL デバイスをセッションに割り当てなければなりません、NULL 以外のデバイスが検出されました。

解決方法: 現在のデバイスの割当てを解除し、NULL デバイスをセッションに割り当ててください。訂正後、コピーを再試行してください。

ORA-19562: ファイル *name* が空です。

原因: 指示されたアーカイブ・ログまたは制御ファイル、データ・ファイルは、コピー、走査またはバックアップ操作中に空であることが検出されました。

解決方法: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-19563: *name* ヘッダーの妥当性チェックでエラーが検出されました (ファイル *name*)

原因: コピーまたはバックアップ・セットに入れるためにファイルをオープンしたとき、ファイル・ヘッダーが有効なヘッダーとして認識されませんでした。そのファイルは、現行データベースに属しておらず、指示された型 (データ・ファイルまたはアーカイブ・ログ、制御ファイル) のファイルでないことがわかりました。あるいは、ファイルは現行データベースに属しますが、バックアップ・セットに入れる指定が行われた後に変更された可能性があります。

解決方法: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されているかを確認してください。

ORA-19564: *num* バイト (ブロック番号 *num*) 書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。できる限りエラーを訂正して、コピーまたはバックアップ、復旧操作を再試行してください。

ORA-19566: 破損ブロックの制限 : *num* を超えています (ファイル : *name*)

原因: データ・ファイルのコピーまたはバックアップ操作のために指定されたデータ・ファイルの読取り中に、ユーザー指定の許容破損ブロック制限を超過しました。

解決方法: なし。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。破損したブロックの詳細は、セッション・トレース・ファイル内にあります。

ORA-19567: バックアップまたはコピー中のため、ファイル: *name* を縮小できません。

原因: ALTER 文で指示されたファイルの大きさを縮小しようとしたが、そのファイルは現在バックアップ中またはコピー中です。

解決方法: バックアップまたはコピーが完了してから、サイズ変更を再試行してください。

ORA-19568: このセッションにはデバイスがすでに割当てられています。

原因: デバイスがすでに割り当てられているセッションに対して、デバイスの割り当てが試行されました。

解決方法: 現在のデバイスの割当てを解除してから、操作を再試行してください。

ORA-19569: このセッションにデバイスが割当てられていません。

原因: 操作を実行するには、現行セッションにデバイスが割り当てられていなければなりません。このセッションにはデバイスが割り当てられていません。

解決方法: デバイスを割り当てた後、操作を再試行してください。

ORA-19570: ファイル番号 *name* が 1 から *name* の有効範囲外です。

原因: COPY または BACKUP、RESTORE 操作に使用されたファイル番号は、現行データベースに対して有効ではありません。

解決方法: 有効なファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19571: *num* RECID *num* のスタンプ *name* が制御ファイルに見つかりません。

原因: ファイルを記述したレコードが制御ファイルに見つからないため、COPY または BACKUP 操作に指定された入力ファイルをオープンできませんでした。

解決方法: 正しい RECID/ スタンプを指定して、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19572: ファイルはサイズ変更中のため、ファイル *name* を処理できません。

原因: COPY または BACKUP 操作に指定された入力ファイルは、現在サイズの変更中であるため、オープンできませんでした。

解決方法: サイズ変更が完了するまで待機し、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19573: *name* エンキュ (データ・ファイル *num*) を取得できません。

原因: COPY または BACKUP 操作で指定されたファイルのファイル・アクセス・エンキュを取得できませんでした。エンキュ型が「共有」と示された場合、そのファイルはバックアップまたはコピー用の入力ファイルです。型が「排他的」の場合、そのファイ

ルはデータ・ファイルのコピーまたは復旧用の出力ファイルであり、現在アクティブなファイル・バージョンを上書きしようとしているファイルです。後者の場合、ファイルはオフラインであるか、またはデータベースがクローズされています。

解決方法: 競合操作が完了するまで待機し、COPY または BACKUP を再試行してください。

ORA-19574: 出力ファイル名を指定してください。

原因: 指定された型の COPY または RESTORE には、出力ファイル名が必要です。

解決方法: 出力ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19575: 予想されるブロック数は *num* ですが (ファイル *name*) 検出されたブロック数は *num* です。

原因: 指示されたファイルには、ファイル・ヘッダーに指示された数量のブロックが入っていないことが、BACKUP または RESTORE、COPY、SCAN 操作のときに判明しました。

解決方法: 入力コピーまたはバックアップ断片が破損している可能性があります。復元しているファイルの他のバックアップまたはコピーが存在する場合は、破損ファイルをリカバリ・カタログから削除してから操作を再起動することができます。

ORA-19576: データ・ファイル *num* が制御ファイルに定義されていません。

原因: 指定されたファイル番号は、制御ファイルにありません。

解決方法: 正しいファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19577: ファイル *name* がありません。

原因: copyDataFileCopy または restoreDataFileTo 関数にファイル番号が指定されていますが、出力ファイル名が指定されていません。これは、出力ファイル名を制御ファイルから取得するという指示を表しています。しかし、制御ファイルのエントリによると、このファイルはデータ・ディクショナリに存在したファイルに対して作成されたものですが、最新の CREATE CONTROLFILE 文の実行時にファイル名が指定されませんでした。このため、制御ファイルの中のファイル名を復旧に使用することはできません。

解決方法: 出力ファイル名を指定するかまたは SQL RENAME コマンドを発行して、制御ファイルのこのファイルに有効な名前を入力してください。

ORA-19580: *name* 会話がアクティブではありません。

原因: 会話が開始する前に BACKUP または RESTORE 操作を実行しようとしました。

解決方法: 会話を開始してから、操作を再試行してください。

ORA-19581: ファイル名が指定されていません。

原因: BACKUP または RESTORE 会話をファイル名指定フェーズから断片処理フェーズに進めようとしたますが、BACKUP または RESTORE 用のファイルが 1 つも指定されていません。

解決方法: ファイルを指定してから、操作を再試行してください。

ORA-19583: エラーのため会話が終了しました。

原因: エラーが発生したため、現行の BACKUP または RESTORE 会話が終了しました。

解決方法: 問題の原因の識別に役立つその他のエラー・メッセージが出力されます。エラーを訂正して、新たな会話を開始してください。

ORA-19584: ファイル名はすでに使用されています。

原因: COPY または RESTORE 操作のターゲットとして指定されたファイルは、すでにデータベースにより使用されています。

解決方法: 別のファイル名を指定して、COPY または RESTORE 操作を再試行してください。

ORA-19585: 断片 *name* のボリューム・エンドが不完全です。

原因: 指示されたバックアップ断片の作成中に、すべてのバックアップ・セット制御データがバックアップ断片に書き込まれる前に、エンド・オブ・ボリューム状態が検出されました。バックアップ・セットの制御データ量は、バックアップ・セットの全データ量に比べて非常に少ないので、媒体エラーの可能性が大了。

解決方法: より大きい断片の出力メディアで断片を再試行してください。

ORA-19586: 制限 (*num* K バイト) が小さすぎるため断片ディレクトリを保持できません。

原因: ユーザー指定の制限 (各バックアップ断片につき K バイト) では、バックアップ・セット制御データの保持に不十分です。

解決方法: SETLIMIT プロシージャを使用して K バイト制限を増加し、操作を再試行してください。

ORA-19587: *num* バイト (ブロック番号 *num*) 読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

解決方法: エラー原因の追求を支援する 1 以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、COPY または BACKUP、RESTORE 操作を再試行してください。

ORA-19588: *num* *recid* *num* スタンブ *name* が無効です。

原因: 指示されたレコードは削除済みとしてマークされています。これは、別のコピーまたは復旧によってファイルが上書きされたか、または switchToCopy 操作によってコピーが「消滅」したことを意味します。

解決方法: コピーしたいファイル名が分かっている場合は、ファイル名を調べてから新規 RECID を指定するコピーを再試行してください。

ORA-19589: *name* はスナップショットまたはバックアップ制御ファイルではありません。

原因: バックアップまたはコピー操作のソースになっている制御ファイルは、SNAPSHOT または BACKUP 制御ファイルではありません。

解決方法: SNAPSHOT または BACKUP 制御ファイルの名前を指定してください。

ORA-19590: すでにアクティブな会話があります。

原因: BACKUP または RESTORE 会話を開始しようとしたが、このセッションではすでに別の会話がアクティブです。

解決方法: 現行の会話を継続するか、または backupCancel が restoreCancel をコールして現行の会話を終了してから新しい会話を開始してください。

ORA-19592: name 会話タイプが正しくありません。

原因: バックアップまたは復旧するファイルの型を指定しようとしたが、そのファイルの型は現行の会話では処理できません。たとえば、アーカイブ・ログをデータ・ファイルのバックアップ・セットに入れることはできません。指定されたファイルは、BACKUP または RESTORE 操作に組み込まれません。

解決方法: 必須の処置はありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19593: データ・ファイル番号 num はすでに name として組み込まれています。

原因: このデータ・ファイルは、すでに BACKUP または RESTORE 会話への組込みが指定されています。BACKUP または RESTORE 会話では、データ・ファイルの 1 つのインスタンスしか処理できません。

解決方法: 必須の処置はありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19594: 制御ファイルはすでに name として組み込まれています。

原因: 制御ファイルは、すでに BACKUP または RESTORE 会話への組込みが指定されています。BACKUP または RESTORE 会話では、制御ファイルの 1 つのインスタンスしか処理できません。

解決方法: 必須の処置はありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19595: アーカイブ・ログ・スレッド name の順序番号 name はすでに name として組み込まれています。

原因: 指示されたアーカイブ・ログは、すでにこのバックアップ会話への組込みが指定されています。バックアップ会話では、アーカイブ・ログの 1 つのコピーしか処理できません。

解決方法: 必須の処置はありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19596: スナップショット制御ファイルが作成されていません。

原因: スナップショット制御ファイルのバックアップ・セットへの組込みを要求しようとしたが、このインスタンスのスナップショット制御ファイルが作成されていません。

解決方法: 別の制御ファイル名を指定するか、または cfileMakeAndUseSnapshot をコールしてスナップショット制御ファイルを作成してください。

ORA-19597: ファイル *name* のブロックサイズ *num* が設定されたブロックサイズ *num* と一致しません。

原因: バックアップ・セットに組み込むファイルが指定されましたが、指定されたファイルの論理ブロック・サイズがバックアップ・セットの残りのファイルのブロック・サイズと異なります。バックアップ・セットのすべてのファイルで、論理ブロック・サイズが同じでなければなりません。

解決方法: バックアップ・セットの残りのファイルと同じブロック・サイズのファイルを指定してください。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19598: インクリメント・バックアップには起動 SCN を指定しなければなりません。

原因: backupDataFile または backupDataFileCopy に対して、起動 SCN が指定されていません。現行のバックアップ会話はインクリメント・バックアップ用であるため、すべてのデータ・ファイルに対してゼロ以外の SCN を指定しなければなりません。

解決方法: 会話はまだアクティブです。ゼロ以外の SCN をもったデータ・ファイルを指定し直してください。

ORA-19599: *name* のブロック番号 *num* が壊れています。

原因: バックアップまたはコピー用に読み込まれている制御ファイルまたはアーカイブ・ログ、バックアップ断片で破損ブロックが検出されました。制御ファイルまたはアーカイブ・ログ、バックアップ断片での破損は許可されません。

解決方法: なし。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。バックアップ・セットの場合は、会話がまだアクティブであるため、断片を再試行できます。

ORA-19600: 入力ファイルは名前 *num* です。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の入力ファイルを識別します。ファイル番号と（名前が判別された場合は）ファイル名の両方が表示されます。

- データ・ファイルの場合、ファイル番号は DBA_DATA_FILES ビューに表示されるデータ・ファイルの絶対ファイル番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューに表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューの RECID 列に表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- アーカイブ・ログの場合、ファイル番号は、V\$ARCHIVED_LOG ビューの RECID 列に表示されるログの制御ファイル・レコード番号を参照します。

解決方法: エラー原因および解決策の追求を支援するその他のメッセージが表示されません。

ORA-19601: 出力ファイルは、名前 *num* です。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の出力ファイルを識別します。フィールドの詳細は、メッセージ 19600 を参照してください。新規データ・ファイルのコピーを

作成している場合は、このメッセージの出力時に制御ファイルのレコード番号が判別できていないことがあります。その場合、レコード番号はゼロと表示されます。

解決方法: エラー原因および解決策の追求を支援するその他のメッセージが表示されません。

ORA-19602: NOARCHIVELOG モードでアクティブ・ファイルのバックアップまたはコピーはできません。

原因: ファイルのコピーまたはバックアップが試行されましたが、そのファイルは正常にクローズされておらず、またデータベースは NOARCHIVELOG になっていました。復元されたファイルが使用可能になるには redo アプリケーションが必要ですが、現在の redo にはオンライン redo ログの内容以上のものは保管されていないので、この操作は許可されません。

解決方法: 表領域をオフラインにして、データベースをクローズし、コピーまたはバックアップ操作を再試行してください。

ORA-19604: 会話ファイルの名前設定フェーズが終了しました。

原因: 最初のバックアップ断片が処理された後に、バックアップまたは復元するファイルを指定するコールが行われました。

解決方法: 最初のバックアップ断片が処理された後に、バックアップまたは復元の会話の途中で新たな処理ファイルを指定しないでください。ファイルを追加しなければならない場合は、新規会話を開始してください。

ORA-19605: 入力ファイル名を指定してください。

原因: 制御ファイルのコピー操作に対して、入力ファイル名が指定されていません。

解決方法: 入力ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19606: スナップショット制御ファイルへのコピーまたは復元はできません。

原因: 制御ファイルのコピーまたは復元操作で、スナップショット制御ファイルの名前が出力ファイルとして指定されました。スナップショット制御ファイルをこの方法で上書することは許可されません。利用可能なその他の方法でスナップショット制御ファイルを作成してください。

解決方法: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。復元の場合は、スナップショットがまだアクティブなので、追加のファイルを指定できます。

ORA-19607: name はアクティブ制御ファイルです。

原因: 制御ファイルのコピーまたは復元、バックアップで、INIT.ORA ファイルに指定された制御ファイル名を入力ファイルまたは出力ファイルとして指定しました。

解決方法: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。バックアップまたは復元の会話の場合は、会話がまだアクティブなので、追加のファイルを指定できません。

ORA-19608: name はバックアップ断片ではありません。

原因: 指定されたファイルは、DBMS_BACKUP_RESTORE パッケージによって作成されたバックアップ断片ではありません。バックアップ断片の先頭ブロックが破壊されているか、またはこのファイルはバックアップ断片ではありません。

解決方法: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19609: *name* は異なるバックアップ・セットのもので。スタンプ: *name*、件数: *num*

原因: 指定されたファイルは、現在処理中のバックアップ・セットのものではありません。このファイルは、異なるバックアップ・セットの部品です。この断片を含むセットの識別が表示されます。

解決方法: 正しいバックアップ断片を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19610: ディレクトリ・ブロック *name* が破損しています。

原因: 指示されたディレクトリ・ブロックは、チェックサム妥当性検査で失敗しました。このバックアップ断片は使用できません。

解決方法: 同じバックアップ断片の別のコピーを供給するか、復元会話を終了してください。

ORA-19611: バックアップ断片が不正です。予想される *name* が検出されました。

原因: このバックアップ断片は、順序が不正です。

解決方法: 正しいバックアップ断片を指定してください。

ORA-19612: データ・ファイル *num* は *name* のため復元されませんでした。

原因: 一部のデータ・ブロックがバックアップ断片で見つからなかったため、指示されたファイルを復元できませんでした。

解決方法: 復元の会話は引続きアクティブであるため、現在の断片を再処理しなければなりません。現在の断片の再処理によって障害が解決されない場合は、復元の会話をキャンセルしなければなりません。

ORA-19613: データ・ファイル: *num* がバックアップ・セットにありません。

原因: 指示されたファイルがバックアップ・セットに存在しないため、ファイルを復元できませんでした。ファイル番号がゼロの場合は、制御ファイルを参照します。

解決方法: このメッセージは、最初のバックアップ断片からディレクトリが読み取られ、復元で指定された 1 以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。復元の会話は引続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ断片を提供しなければなりません。

ORA-19614: アーカイブ・ログ・スレッド *name* の順序番号 *name* がバックアップ・セットにありません。

原因: 指示されたアーカイブ・ログ・ファイルの復元を明示的に指定しましたが、このバックアップ・セットには含まれていません。

解決方法: このメッセージは、最初のバックアップ断片からディレクトリが読み取られ、復元で指定された 1 以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。復元の会話は引き続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ断片を提供しなければなりません。

ORA-19615: 一部のファイルがバックアップ・セットにありません。

原因: 復元で指定された一部のファイルが、バックアップ・セットのディレクトリに存在しません。存在しない各ファイルごとに、メッセージ 19613 または 19614 が発行されます。

解決方法: メッセージ 19613 の指示を参照してください。

ORA-19616: データベースがマウントされていないときは出力ファイル名を指定する必要があります。

原因: データ・ファイルの復元に対してターゲット・ファイル名が指定されていないうえ、データベースがマウントされていません。ターゲット・ファイル名を指定しないときは、制御ファイルからターゲット・ファイル名を取得できるように、データベースがマウントされていなければなりません。

解決方法: 復元会話がアクティブのままです。ターゲット・ファイル名を指定せずにデータ・ファイルの復元を実行する場合は、データベースをマウントしてから処理を続けてください。さもないと、データ・ファイルを復元するすべてのコールでターゲット・ファイル名を指定しなければなりません。

ORA-19617: ファイル: *name* に異なるリセットログ・データがあります。

原因: 指示されたファイルに入っているリセットログ・データは、すでにバックアップ・セットに組み込まれているアーカイブ・ログ・ファイルと異なります。バックアップ・セットのすべてのアーカイブ・ログ・ファイルは、同じリセットログ・データをもっていなければなりません。

解決方法: 復元会話がアクティブのままですので、バックアップ設定で論理和のアーカイブ・ログ・ファイルの指定を継続できます。

ORA-19618: restoreValidate コール後にファイル名の指定はできません。

原因: バックアップ・セットから復元するファイルを指定するコールが発行されましたが、以前に restoreValidate コールが発行されています。

解決方法: 復元するファイルを指定する場合は、会話をいったんキャンセルしてから再び会話を始動してください。

ORA-19619: ファイル名指定後に restoreValidate はコールできません。

原因: restoreValidate 操作がコールされましたが、すでに一部のファイルの復元が指定されています。

解決方法: restoreValidate をコールしたい場合は、会話をいったんキャンセルしてから再始動してください。

ORA-19620: アーカイブ・ログの宛先 *name* が最大長 *num* を超えています。

原因: restoreSetRedoLog のアーカイブ・ログの宛先指定が、システムで許可された最大長を超えています。

解決方法: アーカイブ・ログの宛先を短くして、操作を再試行してください。

ORA-19621: アーカイブ・ログの範囲はすでに指定されています。

原因: ログの範囲は、すでに指定されています。SCN 範囲は会話ごとに 1 つだけ指定できます。

解決方法: 復元の会話は引続きアクティブであるため、必要な場合はスレッド及び順序番号によりログをさらに指定できます。

ORA-19622: アーカイブ・ログ・スレッド *name* の順序番号 *name* は *name* のため復元されませんでした。

原因: 一部のデータ・ブロックがバックアップ断片で見つからなかったため、指示されたファイルを復元できませんでした。

解決方法: 復元の会話は引続きアクティブであるため、現在の断片を再処理しなければなりません。現在の断片の再処理によって障害が解決されない場合は、復元の会話をキャンセルしなければなりません。

ORA-19623: ファイル: *name* がオープンしています。

原因: SwitchToCopy 操作でデータ・ファイルのコピーが指定されましたが、そのデータ・ファイルの親ファイルがオープンしています。

解決方法: 所有する表領域をオフラインにするか、データベースをクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-19624: 操作が失敗しました。再度実行してください。

原因: バックアップまたは復元、イメージ・コピーの操作が I/O エラーで失敗しました。I/O エラーの原因を修正できれば、操作を再度実行できます。

解決方法: Recovery Manager はこのメッセージを使用して操作を再試行するかどうか決定します。

ORA-19625: ファイル: *name* がありません。

原因: コピーまたはバックアップ操作、インクリメント復元のターゲットとして指定されたファイルが、見つかりませんでした。

解決方法: 存在するファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19626: バックアップ・セット・タイプが *name* です。この会話では処理できません。

原因: バックアップ・セットのデータは、現在の会話と適合しません。

解決方法: 現在の会話と一致したバックアップ・セットから最初の断片を提供するか、またはこのバックアップ・セットを処理できる新しい復元の会話を始動してください。

ORA-19627: 制御ファイル・アプリケーション動作中はバックアップ断片を読み込めません。

原因: この制御ファイルの復元の会話では、データ・ファイルのチェックポイント・データを更新するために、1 以上の制御ファイルからオフラインの範囲情報を使用しています。このタイプの会話の動作中に、バックアップ・セットは使用されません。

解決方法: 会話はまだアクティブなので、制御ファイルをさらに適用できます。

ORA-19628: SCN の範囲が無効です。

原因: restoreRedoLogRange の開始 SCN が、終了 SCN よりも大きくなっています。

解決方法: 開始 SCN の値を終了 SCN 以下に指定してください。

ORA-19629: 指定されたアーカイブ・ログの SCN 範囲にファイルがありません。

原因: このバックアップ・セットには、指定された範囲にファイルがありません。

解決方法: 正しい範囲にファイルが入っているバックアップ・セットを提供するか、または新規の会話を始動し、このバックアップ・セットからファイルが選択されるような範囲を指定してください。

ORA-19630: バックアップ断片コピー中にボリューム・エンドになりました。

原因: バックアップ断片を OS 固有のファイル・システムから出力デバイスにコピー中に、出力デバイスがボリューム・エンドになりました。

解決方法: コピーは失敗します。これは、バックアップ断片全体を保持するのに十分な大きさでないテープが使用された場合に発生します。

ORA-19631: アーカイブ・ログ・レコードにファイル名がありません。

原因: このアーカイブ・ログ・レコードは、以前の内容を保管せずにアクティブ・ログに切り替えられています。以前のログ・ファイルの内容は、失われています。

解決方法: ファイル名を含むアーカイブ・ログ・レコードの RECID を指定してください。固定ビュー V\$ARCHIVED_LOG を使用すれば、アーカイブ・ログを検査できます。

ORA-19632: 指定されたファイル名が制御ファイルで検出されません。

原因: getFno に転送されたファイル名は、制御ファイルで見つかりません。

解決方法: 有効なファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19633: 制御ファイル・レコード *name* が回復カタログと同期していません。

原因: deletePiece または deleteDataFileCopy、deleteRedoLog のコールで削除されるファイルを記述した制御ファイルのレコード記述が、Recovery Manager から提供されたデータと一致しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-19634: この関数にはファイル名が必須です。

原因: deletePiece または deleteDataFileCopy、deleteRedoLog に、fname またはハンドル・パラメータが指定されていません。

解決方法: これらの関数をコールするときは、fname パラメータを指定してください。

ORA-19635: 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因: データ・ファイルのコピー操作に対して、指定された入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

解決方法: 入力ファイル名と異なった出力ファイル名を指定してください。

ORA-19636: アーカイブ・ログ・スレッド *name* の順序番号 *name* はすでに組み込まれています。

原因: 指示されたアーカイブ・ログは、この復元の会話への組み込みがすでに指定済みです。復元の会話で処理できるのは、1つのアーカイブ・ログのコピーだけです。

解決方法: 必須の処置はありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19637: DISK デバイス使用時には、backupPieceCreate にファイル名が必要です。

原因: 現在セッション・デバイスはディスクに割当てられているため、ファイル名が必要です。

解決方法: ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19638: ファイル *name* が最新ではないためこのインクリメント・バックアップは適用できません。

原因: インクリメント・バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、インクリメント・バックアップの起点よりも小さくなっています。このバックアップを適用した場合は、データ・ファイル・チェックポイントからインクリメント・バックアップの起点までのすべての変更が失われる可能性があります。

解決方法: 適用できるバックアップ設定を供給してから操作を再試行してください。

ORA-19639: ファイル *name* はこのインクリメント・バックアップよりも新しいファイルです。

原因: インクリメント・バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、インクリメント・バックアップ・セット中のファイルのチェックポイントと等しいか、より小さくなっています。このバックアップでは、ターゲット・ファイルのチェックポイントを進めることができないので、適用する意味がありません。

解決方法: 適用できるバックアップ設定を供給してから操作を再試行してください。

ORA-19640: データ・ファイルのチェックポイントは SCN: *name* タイム: *num* です。

原因: このメッセージは、インクリメント・バックアップを取るには古すぎたデータ・ファイルのチェックポイント、または適用できなかったインクリメント復元のターゲットを識別します。

解決方法: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19641: バックアップ・データ・ファイルのチェックポイントは SCN*name*、タイム *num* です。

原因: このメッセージは、適用できなかったインクリメント・バックアップ・セット中のデータ・ファイルのチェックポイントを識別します。

解決方法: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19642: インクリメント起動 SCN は *name* です。

原因: このメッセージは、適用できなかったインクリメント・バックアップの起動 SCN を識別します。

解決方法: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19643: データ・ファイル:*name*: インクリメント起動 SCN が新しすぎます。

原因: インクリメント・データ・ファイル・バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、データ・ファイルのチェックポイント SCN よりも大きいので、数ブロックが欠如する可能性があります。

解決方法: インクリメント起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19644: データ・ファイル *name*: インクリメント起動 SCN がリセットログ SCN *name* 以前のものです。

原因: インクリメント・データ・ファイル・バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、resetlogs SCN よりも小さくなっています。

解決方法: インクリメント起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19645: データ・ファイル *name*: インクリメント起動 SCN が作成 SCN *name* 以前のものです。

原因: インクリメント・データ・ファイル・バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、データ・ファイル SCN よりも小さくなっています。

解決方法: インクリメント起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19646: データ・ファイル: *name* のサイズを *num* から *num* へ変更できません。

原因: 指示されたファイルは、このインクリメント・バックアップを取る以前にサイズ変更されていますが、インクリメント・バックアップではファイルを新しいサイズに設定できませんでした。

解決方法: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19647: INCREMENTAL が FALSE のときは、0(ゼロ)以外の LEVEL は指定できません。

原因: インクリメントが FALSE のとき、ゼロ以外の BACKUP_LEVEL で BackupSetDataFile がコールされました。

解決方法: インクリメントを TRUE に設定するか、または BACKUP_LEVEL をゼロに変更してください。

ORA-19648: データ・ファイル:*name*: インクリメント起動 SCN がチェックポイント SCN と同じです。

原因: インクリメント・データ・ファイル・バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN が、データ・ファイルのチェックポイント SCN と同じです。インクリメント・バックアップをデータ・ファイルに適用するには、データ・ファイルのチェックポイント SCN が、バックアップ・セットのインクリメント起動 SCN (SCN 値を含む) からバックアップ・セットのチェックポイント SCN (SCN 値を含まない) までの間になければなりません。このバックアップ・セットを適用できるデータ・ファイルは1つも存在しません。

解決方法: インクリメント起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19649: オフライン範囲レコード *recid num* スタンプ *name* がファイル *name* 内にありません。

原因: 指示された制御ファイル内に存在しない RECID/ スタンプを用いて applyOfflineRange をコールしました。指定された制御ファイルは、Recovery Manager が考えている制御ファイルと同じでない可能性があります。

解決方法: 制御ファイルのコピー内に存在するレコードの RECID/ スタンプを指定してください。

ORA-19650: ファイル *name* のオフライン範囲レコード *recid num* スタンプ *num* に、SCN *name* があります。

原因: このメッセージは、指示されたファイル内の指示されたオフライン範囲レコードにあるオフライン・クリーン SCN を識別します。

解決方法: 表示されたその他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19651: データ・ファイル *:name* にオフライン範囲レコードを適用不可。SCN が不一致です。

原因: データ・ファイルのチェックポイント SCN が、指定されたオフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN と正確に一致しないかぎり、applyOfflineRange によってオフライン範囲レコードをターゲット・データ・ファイルに適用することはできません。

解決方法: オフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN が、ターゲット・データ・ファイルのチェックポイントと一致するようにオフライン範囲レコードを指定してください。

ORA-19652: データ・ファイル *name* へのオフライン範囲レコード適用不可。ファイルがファジーです。

原因: applyOfflineRange コールのターゲット・データ・ファイルがファジーです。

解決方法: クリーンにクローズされたターゲット・データ・ファイルを指定してください。

ORA-19653: 古いファイルの表示内容に切り換えられません。

原因: この制御ファイルがバックアップされる以前に削除されたデータ・ファイルのコピーを用いて SwitchToCopy をコールしました。

解決方法: 復元して以前の制御ファイルをマウントしてください。指定されたデータ・ファイルの作成以前にバックアップされた制御ファイルを使用することはできません。

ORA-19654: ファイルの表示内容を切り換えるには、バックアップ制御ファイルを使用。

原因: switchToCopy 操作によってデータ・ファイルの表示内容を切り換えようとしたが、現在マウントされている制御ファイルはバックアップ制御ファイルではありません。

解決方法: 復元してバックアップ制御ファイルをマウントしてください。

ORA-19655: 異なるリセットログ・データの表示内容に切り換えられません。

原因: switchToCopy 操作によってデータ・ファイルへの切換えが試行されましたが、そのデータ・ファイルのリセットログはデータベース・バージョンが異なります。

解決方法: ターゲット・データ・ファイルのコピーと同じデータベース・バージョンから取得されたバックアップ制御ファイルを復元するか、または別のデータ・ファイル・コピーに対して切換えを行ってください。

ORA-19656: オンライン・ログ *name* はバックアップ、コピー、削除できません。

原因: 指示されたログ・ファイルは、アクティブ・ログです。バックアップまたはコピー、削除できるのは、アーカイブ・ログだけです。

解決方法: 指示されたログ・ファイルは処理できません。別のファイルを選択してください。

ORA-19657: 現行データ・ファイル *name* を検査できません。

原因: 検査しているファイルは、マウントされた現行データベースの一部です。

解決方法: 処置は必要ありません。そのファイルはすでにデータベースの一部になっています。

ORA-19658: *name* を検査できません。ファイルがリセットログと異なります。

原因: 検査しているログ・ファイルのリセットログ・データは、マウントされた現行制御ファイルのものと一致しません。

解決方法: 指示されたファイルは処理できません。別のファイルを検査してください。

ORA-19659: インクリメント復元ではファイル: *name* 以前のリセットログを進めます。

原因: この増分バックアップは指定したデータ・ファイルに適用できません。データ・ファイルは以前に再現したデータベースのもので、そのチェックポイントもあまりにも前なので現行のデータベースの再現では回復不可能です。

解決方法: このインクリメントはこのデータ・ファイルに適用できません。データベースをリセットログ・オプションでオープンできるように、ファイルをリセットログシステム変更番号 (SCN) に回復するには、インクリメント復元ではなく REDO ログ回復を使用してこのファイルを回復してください。

ORA-19660: バックアップ設定のファイルに検証できないものがあります。

原因: バックアップ設定のすべてのファイルを検証する復元会話が行われました。メッセージ 19661 または 19662 に印刷されているファイルはバックアップ設定にそれらのファイルの不正なブロックが見つかったため検証されませんでした。

解決方法: バックアップ設定のダメージが回復できない場合、指示されたファイルはこのバックアップ設定から復元できません。

ORA-19661: データ・ファイル: *name* は検証できません。

原因: 指示されたデータ・ファイルのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ設定において不正です。

解決方法: バックアップ設定のダメージが回復できない場合、指示されたデータ・ファイルはこのバックアップ設定から復元できません。

ORA-19662: アーカイブ・ログ・スレッド: *name* (順序番号: *name*) は検証できません。

原因: 指示されたアーカイブ・ログのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ設定において不正です。

解決方法: バックアップ設定のダメージが回復できない場合、指示されたアーカイブ・ログはこのバックアップ設定から復元できません。

ORA-19663: 現行のオフライン範囲をデータ・ファイル: *name* に適用できません。

原因: 現行のオフライン範囲を指定されたデータ・ファイルに適用しようとしたが、データ・ファイルが、現在十分でないかオフライン範囲を適用する正しいシステム変更番号 (SCN) にありません。

解決方法: データ・ファイルが変更されないままです。

ORA-19664: ファイル型: *type*、ファイル名: *name*

原因: これはエラーの対象であるファイルを識別するメッセージです。

解決方法: なし。これは情報メッセージです。エラーの原因を説明するオラクルのメッセージが他にあります。

ORA-19665: ファイル・ヘッダーのサイズ: *num* が実際のファイル・サイズ: *num* と一致しません。

原因: ファイル・ヘッダーに示されているファイル・サイズがファイルの本当のサイズと合致しません。2 つの異なるサイズが論理ブロックの単位に表示されています。

解決方法: このファイルは使用できません。切り捨てられた可能性があります。

ORA-19666: 制御ファイルのインクリメント復元ができません。

原因: 制御ファイルがインクリメント復元会話に含まれていました。

解決方法: 制御ファイルを復元するには、制御ファイルを完全に復元する必要があります。

ORA-19667: データファイル名のインクリメント復元ができませんでした。

原因: データファイルのバックアップが全体バックアップです。

解決方法: データファイルを復元するには、データファイルを完全に復元する必要があります。

ORA-19668: データファイル名の完全復元ができません。

原因: データファイルのバックアップがインクリメント・バックアップです。

解決方法: データファイルを復元するには、データファイルをインクリメント復元する必要があります。

ORA-19700: デバイス・タイプが最大長: *num* を超えています。

原因: 指示されたデバイス・タイプが無効です。

解決方法: 正しいデバイス・タイプを指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19701: デバイス名が最大長: *num* を超えています。

原因: 指示されたデバイス名は無効です。

解決方法: 正しいデバイス名を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19702: デバイス・パラメータが最大長: *num* を超えています。

原因: デバイス・パラメータがポート固有の最大長を超えています。

解決方法: パラメータを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-19703: デバイス・コマンド文字列が最大長: *num* を超えています。

原因: デバイス・コマンド文字列が最大長を超えています。

解決方法: コマンドを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-19704: ファイル名が最大長: *num* を超えています。

原因: コピーまたはバックアップ、復元操作のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

解決方法: ファイル名を短くして操作を再試行してください。

ORA-19704: ファイル名が最大長: *num* を超えています。

原因: コピーまたはバックアップ、復元操作のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

解決方法: ファイル名を短くして操作を再試行してください。

ORA-19705: タグ値が最大文字数: *num* を超えています。

原因: バックアップまたはコピー操作中に提供されたタグ値が長すぎるため、ファイル・ヘッダーに収容できません。

解決方法: タグを短くして操作を再試行してください。

ORA-19706: SCN が無効です。

原因: 入力された SCN が正整数でないか、または大きすぎます。

解決方法: 入力 SCN をチェックし、有効な SCN であることを確認してください。

ORA-19707: レコード・ブロック番号 : *num* が無効です。

原因: 入力された番号が負数であるか、または大きすぎます。

解決方法: 入力したレコード・ブロック番号をチェックし、データベース作成文の有効な番号句であることを確認してください。

ORA-19708: ログの宛先が最大文字数 : *num* を超えています。

原因: 復元会話の起動時に指定されたログ復元の宛先が、ポート固有の最大長を超えています。

解決方法: 宛先を短くして操作を再試行してください。

ORA-19709: 数値パラメータは負でない整数でなければなりません。

原因: X\$DBMS_BACKUP_RESTORE プロシージャへの数値パラメータが負であるか、または小数が入っています。

解決方法: 有効な数値パラメータを提供してください。

ストアド・プロシージャ・メッセージ : 19999 ~ 21099

他のストアド・プロシージャ・メッセージは 48 ページの「ストアド・プロシージャ・メッセージ : 04040 ~ 04059」を参照してください。

ORA-19999: skip_row 手順が呼び出されました。

原因: skip_row プロシージャが呼び出されるときに、このエラーが発生しました。

解決方法: このプロシージャは、トリガー内またはトリガーによって呼び出されたプロシージャ内でだけ、呼び出すべきです。

ORA-20000: application_specific_message

原因: このエラーが発生する原因となったストアド・プロシージャ 'raise_application_error' が呼び出されました。

解決方法: エラー・メッセージの記述どおりに問題を訂正するか、または詳細をアプリケーション管理者やデータベース管理者に問い合せてください。

ORA-21000: num の RAISE_APPLICATION_ERROR に対するエラー引数が範囲外です。

原因: -20000 ~ -20999 の範囲内でない数値を指定しようとしてしました。

解決方法: ユーザー指定エラー番号の有効範囲は、-20000 ~ -20999 です。この範囲外の数値は指定しないでください。

ORA-21001: num の RAISE_SYSTEM_ERROR に対するエラー引数が範囲外です。

原因: -23300 ~ -24299 または -29300 ~ -29399 (各値を含む) の範囲内でない数値を指定しようとしてしました。

解決方法: -23300 ~ -24299 または -29300 ~ -29399 (各値を含む) の範囲内のエラー番号を使用してください。

内部メッセージ : 21100 ~ 21299

内部メッセージについてはこのマニュアルでは説明しません。

オブジェクト・インタフェースおよびサブシステム・メッセージ : 21300 ~ 22799

ORA-21300: オブジェクト・オプションがインストールされていません。

原因: このサイトでは、オブジェクト・オプションがインストールされていません。したがって、オブジェクト・タイプおよびその他のオブジェクト機能を使用することはできません。

解決方法: オブジェクト・オプションをインストールしてください。オブジェクト・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入しなくてはなりません。オブジェクト・オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-21301: オブジェクト・モードで初期化されていません。

原因: この関数にはオブジェクト・モードで初期化された OCI プロセスが必要です。

解決方法: OCIInitialize() コールで OCI_OBJECT モードを指定してください。

Oracle Runtime Environment for Objects (OREO) 内部メッセージ : 21500 ~ 21503

ORA-21500: 内部エラー・コード , 引数 : [num]、[num]、[num]、[num]、[num]、[num]、[num]、[num]

原因: ユーザー・サイドの Oracle Runtime Environment for Objects (OREO) 内部エラーの一括エラー番号です。実行時環境で例外条件が検出されたことを示します。

解決方法: バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。最初の引数は内部エラー番号です。

ORA-21503: 致命的なエラーによりプログラムが終了しました。

原因: プログラムは回復不能な状態にあります。

解決方法: バグとしてオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

KOD/KOFD/KOUD (データ) メッセージ : 21520 ~ 21559

ORA-21520: ドライバが見つかりません。

原因: 持続的ストアー・ドライバに接続しようとしたが、ドライバはリンクされていません。

解決方法: origrgc() で提供されたサーバー名をチェックしてください。サーバー名に対応したドライバがリンクされているか、またサーバー表に入力されているかチェックしてください。

ORA-21521: 接続最大数を超えています。

原因: 各 OMS インスタンス当りに許可された最大接続数 (255) を超えています。

解決方法: origurg() を使用して既存の接続をいくつかクローズしてから、追加の接続を要求してください。

ORA-21522: 接続番号が無効です。

原因: 指定された接続番号に対応する接続エントリは存在しません。

解決方法: 接続番号をチェックし、接続が存在することを確認してください。

ORA-21523: サーバーが機能をサポートしていません。(オブジェクト・モードのみ)

原因: サーバーがサポートしていない機能を使用しようとした。

解決方法: サーバーをアップグレードしてください。

ORA-21524: オブジェクト型が一致しません。

原因: オブジェクト型が指定されたものと異なります。

解決方法: オブジェクト型をチェックし、修正してください。

ORA-21525: 属性番号または (索引のコレクション要素) num が制約に違反しています。

原因: 属性番号またはコレクション要素の値が制約に違反しています。

解決方法: 属性値またはコレクション要素値を制約に合わせて変更してください。制約は属性またはコレクション要素のスキーマ情報の一部として指定されます。

ORA-21526: 初期化に失敗しました。

原因: 初期化順序に失敗しました。これは NLS_DATE_FORMAT のような環境変数に無効が値に設定されていると起きることがあります。

解決方法: すべての NLS 環境変数が正しいことを確認してください。

ORA-21560: 引数 name は NULL であってはなりません。

原因: 引数の期待値は NULL 以外の有効な値ですが、転送された引数 値は NULL または無効、範囲外です。このエラーはたとえば、LOB/FILE の定位置引数またはサイズ引数の値が 1 から (4GB-1) までの範囲外であるとき、または無効なオープン・モードでファイルをオープンしたときなどに発生します。

解決方法: プログラムをチェックし、NULL または無効、範囲外の引数値を転送しないよう、ルーチンの呼び側を訂正してください。

ORI*/KOI* (インタフェース) メッセージ : 21600 ~ 21699

ORA-21600: パス式が長すぎます。

原因: 入力したパス式が長すぎます。パス式は、オブジェクト内での属性の位置を指定します。ORI* 関数がパス式を使用して属性を検索すると、プリミティブ型の属性に遭遇するため、式のすべての要素を検索しきれません。

解決方法: 属性を位置づけるために、正しいパス式で転送してください。

ORA-21601: 属性がオブジェクトではありません。

原因: 操作 (オブジェクト型だけに有効な操作) をプリミティブ型の属性に実行しようとした。たとえば、プリミティブ型の属性に対して、動的に NULL 構造体を設定するなどの操作があります。

解決方法: プリミティブ型の属性にこの操作を行わないでください。

ORA-21602: 指定されたタイプ・コードがサポートされていません。

原因: 実行しようとした操作では、指定されたタイプ・コードがサポートされていません。

解決方法: 関数でサポートされた有効なタイプ・コード範囲を使用してください。

ORA-21603: プロパティ id [name] が無効です。

原因: 指定されたプロパティ ID が無効です。

解決方法: 有効なプロパティ ID を指定してください。有効なプロパティ ID は、OCIObjectPropId で数え上げが可能です。

ORA-21604: プロパティ [name] が一時インスタンスあるいは値インスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトだけに適応するプロパティを得ようとした。

解決方法: 存続期間値をチェックし、このプロパティを永続オブジェクトだけに得てください。

ORA-21605: プロパティが [name] 値インスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトと一時オブジェクトだけに適応するプロパティを得ようとした。

解決方法: 存続期間をチェックし、このプロパティを永続オブジェクトと一時オブジェクトだけに得てください。

KOC (キャッシュ) メッセージ : 21700 ~ 21799

ORA-21700: オブジェクトが存在していないか、または削除マークが設定されています。

原因: 未結合の参照で参照された、削除済みまたは存在しないオブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとした。存在しないオブジェクトまたは削除済みオブジェクトに適用できない操作には、削除および更新、メモリー割当てなどがあります。

解決方法: 操作を行う前に存在するオブジェクトを参照するために、参照を再初期化してください。

ORA-21701: オブジェクトはバージされています。

原因: 削除マークが設定されたオブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしました。実オブジェクトがデータベース内で変更されている可能性があります。削除されたオブジェクトに適用できない操作には、更新および削除、フラッシュなどがあります。

解決方法: オブジェクトを再び確保して、新しいデータを取り込んでください。

ORA-21702: オブジェクトがキャッシュでインスタンスiertされていません。

原因: オブジェクト・キャッシュでインスタンスiertされていない一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしました。インスタンスiertされていない一時オブジェクトに適用できない操作には、この種のオブジェクトの削除またはピンなどがあります。

解決方法: オブジェクトをインスタンスiertしないで操作が行われているか、また、オブジェクトの割当ての期限が切れた後に操作が行われているか、コードを確認してください。

ORA-21703: 変更されていないオブジェクトはフラッシュできません。

原因: オブジェクトが変更されていないため、オブジェクトをフラッシュできませんでした。

解決方法: オブジェクトをフラッシュしないでください。

ORA-21704: フラッシュを実行しないとキャッシュまたは接続を終了できません。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

解決方法: トランザクションをアボートまたはコミットしてから、キャッシュまたは接続を終了してください。

ORA-21705: サービス・コンテキストが無効です。

原因: 有効でないサービス・コンテキストを提供しようとしました。

解決方法: サービス・コンテキストを設定し、操作を再試行してください。

ORA-21706: 時間が存在していないか、または無効です。

原因: 有効でない時間番号を提供しようとしました。

解決方法: 時間を設定するか、または正しい定義済み時間を使用してください。

ORA-21707: 確保された時間は割当て時間を超えています。

原因: 提供しようとしたピン継続時間は、割当て時間を超えています。これはピンまたはデフォルト・パラメータの設定などの操作に影響します。

解決方法: 確保継続時間を短くするか、NULL 継続時間を使用してください。

ORA-21708: 一時オブジェクトで不適切な操作が行われました。

原因: 一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしてしました。一時オブジェクトに適用できない操作には、フラッシュおよびロッキングなどがあります。

解決方法: 一時オブジェクトに、フラッシュおよびロッキングの操作は行わないでください。

ORA-21709: 操作は現行オブジェクトだけに実行できます。

原因: 現行でないオブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしてしました。現行でないオブジェクトに適用できない操作には、ロッキングおよび更新、削除、フラッシュなどがあります。

解決方法: 現行でないオブジェクトにロッキングまたは、更新、削除、フラッシュの操作は行わないでください。

ORA-21710: マジック番号が一致していません。

原因: 提供しようとしたオブジェクトが無効です。不良ポインタがオブジェクトに転送されたか、またはオブジェクトを期待していた関数に値が転送された可能性があります。

解決方法: 有効なポインタまたは有効な値が関数に転送されるかを確認してください。

ORA-21779: 期間がアクティブではありません

原因: すでに終了した時間を使用しようとしてしました。

解決方法: 操作では終了した時間を使用しないでください。

ORA-22000: 可変長文字列のサイズ (*num* バイト) が、有効範囲 (*num* ~ *num* バイト) 内にありません。

原因: 有効範囲外の可変長文字列を転送しようとしてしました。

解決方法: 有効範囲内のサイズで文字列を指定して、操作を再試行してください。

ORA-22053: オーバーフロー・エラーが発生しました。

原因: 数値が大きすぎて、Oracle では表現できません。

解決方法: 操作は Oracle の数値範囲を超えています。

ORA-22054: アンダーフロー・エラーが発生しました。

原因: 数値が小さすぎて、Oracle では表現できません。

解決方法: 操作は Oracle の数値範囲を超えています。

ORA-22055: 符号フラグ値 [*name*] が不明です。

原因: 使用された符号フラグは、ORL.H で定義された ORLTSB または ORLTUB ではありません。

解決方法: ORLTSB または ORLTUB のどちらかを符号フラグとして使用してください。

ORA-22056: 値 [num] が 0 (ゼロ) で割られました。

原因: ゼロでの除算が発生しました。

解決方法: 無効な演算を変更して、コマンドを再発行してください。

ORA-22057: 整数長 [num] が無効です。

原因: Oracle 数値への変換 (またはその逆) が試行されましたが、整数の長さ (つまり、バイト数) が無効です。

解決方法: 1 または 2、4、8 バイト長の整数だけを使用してください。

ORA-22059: バッファ・サイズ [num] が小さすぎます。[num] が必要です。

原因: バッファが小さすぎるため、Oracle 数値から変換されたテキスト文字列を保持できません。

解決方法: エラー・メッセージで提案されたバッファ・サイズ以上を使用して、操作を再試行してください。

ORA-22060: 引数 [num] が無効か、または未初期化数値です。

原因: 関数に転送された数値が無効または初期化されていません。

解決方法: kolnini() をコールして、数値を使用する前に初期化してください。

ORA-22061: フォーマット・テキスト [num] が無効です。

原因: 文字を Oracle 数値に変換 (またはその逆変換) するときに使用された数値フォーマット文字列が無効です。

解決方法: 『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の TO_NUMBER 変換関数のフォーマット指定の説明を参照してください。

ORA-22062: 入力文字列 [name] が無効です。

原因: 数値への変換に使用されたテキスト文字列が無効です。

解決方法: 有効な入力文字列を使用して、操作を再試行してください。

ORA-22063: 負の値 [num] が符号なしで読み込まれました。

原因: 負数を符号なし整数に変換しようとした。

解決方法: 符号付きの数値を変換するには、符号フラグ ORLTSB を使用してください。

ORA-22064: NLS パラメータ文字列 [name] が無効です。

原因: 文字を Oracle 数値に変換 (またはその逆変換) するときに使用されたパラメータ文字列が無効です。

解決方法: 『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の TO_NUMBER 変換関数のフォーマット指定を参照してください。

ORA-22065: 所定フォーマットに対するテキスト変換に指定された数値がオーバーフローしました。

原因: 与えられた文字列フォーマットに丸めると、オーバーフローが発生します。

解決方法: オーバーフローが発生しないように文字列フォーマットを変更してください。

ORA-22130: バッファ・サイズ *num* が必要サイズ *num* よりも小さいです。

原因: 16 進 REF 文字列をバッファ内に書き込もうとしましたが、バッファが小さすぎます。

解決方法: 必要なサイズのバッファを提供して、操作を再試行してください。

ORA-22131: 16 進文字列長 *num* が無効です。

原因: 16 進文字列にゼロ以下の長さを指定しようとした。

解決方法: 16 進文字列にゼロより大きい長さを指定してください。

ORA-22132: 16 進文字列が有効な REF に一致しません。

原因: 16 進文字列が無効です。

解決方法: 値に `orl2h()` 関数を使用して、有効な 16 進文字列を取得してください。操作を再試行してください。

ORA-22140: 所定のサイズ *num* は、0 から *num* の範囲で指定しなければなりません。

原因: サイズ変更されたサイズは無効です。

解決方法: 与えられたサイズが要求された範囲内であることを確認してください。

ORA-22150: 可変長配列が初期化されていません。

原因: 初期化されていない可変長配列に対して操作を実行しようとした。

解決方法: `kolaini()` 関数を使用して可変長配列を初期化してから、操作を実行してください。

ORA-22151: 0 (ゼロ) 以外の可変長配列は 0 (ゼロ) 要素にサイズ変更できません。

原因: 0 (ゼロ) 以外の可変長配列を 0 (ゼロ) 要素にサイズ変更しようとした。

解決方法: 0 (ゼロ) 以外の可変長配列に対してこの操作を実行しないでください。

ORA-22152: 接続先の可変長配列が初期化されていません。

原因: 初期化されていない可変長配列を割当て (`kolasg()`) の右辺で使用しようとしたか、または結合の宛先配列として使用しようとした。

解決方法: `kolaini()` 関数を使用して可変長配列を初期化してから、操作を再試行してください。

ORA-22153: ソースの可変長配列が初期化されていません。

原因: 初期化されていない可変長配列を割当て (`kolasg()`) の左辺で使用しようとしたか、または結合 (`kolapp()`) のソース配列として使用しようとした。

解決方法: kolaini() 関数を使用して可変長配列を初期化してから、操作を再試行してください。

ORA-22160: 索引 *name* に要素が存在しません。

原因: 存在しない索引でコレクション要素を使用しようとした。

解決方法: 存在する要素の索引を指定して、操作を再試行してください。

ORA-22161: タイプ・コード *name* が無効です。

原因: 使用されたタイプ・コードが無効です。

解決方法: 有効なタイプ・コードについて ORO.H ファイルを参照してください。

ORA-22162: 索引 *name* の要素は削除されています。

原因: 索引に存在しないコレクション要素にアクセスしようとした。

解決方法: 関数をコールする前に、要素が存在するかどうかを確認してください。確認後、関数を再試行してください。

ORA-22163: 左側と右側のコレクションのタイプが異なります。

原因: 同じタイプでない左辺と右辺のコレクションを使用しようとした。

解決方法: 演算 (たとえば、ASSIGNMENT) の左辺と右辺に同じコレクション・タイプが転送されていることを確認してください。

ORA-22164: 可変長配列で要素削除操作はできません。

原因: 可変長配列 (VARRAY) の要素を削除しようとした。

解決方法: VARRAY タイプのコレクションに対して、要素削除 (DELETE ELEMENT) 操作を実行しないでください。関数をコールする前に、コレクションのタイプが VARRAY でないことを確認してください。確認後、関数を再試行してください。

ORA-22165: 所定の索引 *name* は、0 から *num* の範囲で指定しなければなりません。

原因: 要求された範囲にない索引を使用しようとした。

解決方法: 要求された範囲に存在する索引に変更して、操作を再試行してください。

ORA-22166: コレクションが空です。

原因: 空のコレクションを使用しようとした。

解決方法: コレクションが空であるかどうかをテストしてから、この関数を呼び出してください。

ORA-22167: 与えられた切捨てサイズ *num* は *num* 以下でなければなりません。

原因: 現行のコレクション・サイズよりも大きい切捨てサイズを使用しようとした。

解決方法: コレクション・サイズ以下の切捨てサイズを指定して、この関数を再試行してください。

KOLL - LOB: 22275 ~ 22279

ORA-22275: 指定された LOB ロケータが無効です。

原因: いくつかの原因があります。(1) LOB ロケータが初期化されませんでした。(2) ロケータが BFILE 用であると、ルーチンは BLOB/CLOB/NCLOB ロケータを要求します。(3) ロケータが BLOB/CLOB/NCLOB 用であると、ルーチンは BFILE ロケータを要求します。(4) トリガー本体で LOB を更新しよう としますが、トリガー本体での LOB は、読み専用です。

解決方法: (1) のためには、変数ロケータを選択するか、あるいは、LOB ロケータを空に設定することにより、LOB ロケータを初期化します。(2) および (3) のためには、正しいタイプのロケータをルーチンに移します。(4) のためには、LOB 値を更新するトリガー本体コードを削除します。

ORA-22276: LOB バッファリング用のロケータが無効です。

原因: いくつかの原因があります。(1) ロケータがバッファリングには使用不可能でした。(2) 更新ロケータではなく、write/flush 操作のために使用されています。

解決方法: (1) のためには、ロケータをバッファリングのために使用可能にします。(2) 更新されたロケータだけが確実に LOB 更新操作に使用されるようにします。

ORA-22277: 同一 LOB の変更には、2 つの異なるロケータを使用できません。

原因: LOB バッファが使用可能で、2 つの異なる LOB ロケータ を使用して同一の LOB を変更しよう としました。

解決方法: LOB バッファリングを使用するときは、ひとつの LOB ロケータだけで LOB を変更します。

ORA-22278: LOB は、その LOB バッファだけを使用して更新する必要があります。

原因: この LOB のために LOB バッファリングが可能となり、バッファ・プール の中に、この LOB のためのバッファが存在します。したがって、LOB バッファ以外の方法で LOB を更新することはできません。

解決方法: LOB バッファリングが可能となったロケータを使用して、LOB バッファにより LOB を更新します。もし、この操作が必須の場合は、この LOB に関連したバッファは、必要なものとしてフラッシュされるか、または、バッファリングが不可能となるはず です。これが済んだら、再度コマンドを 出します。

ORA-22279: LOB バッファが使用可能な状態では、操作を実行できません。

原因: LOB バッファが使用可能な状態では、操作できません。

解決方法: この操作が必須の場合は、LOB バッファリングを 使用すべきではありません。この場合は、入力 LOB ロケータに関連したバッファを必要なものとしてフラッシュし、入力 LOB ロケータ上でのバッファリングを 不可能にした上で、再度コマンドを出します。

LOB: DBMS_LOB および KOLF - ファイルマネージャ一般メッセー

ジ: 22280 ~ 22299

ORA-22280: 現行の LOB が使用する *num* の操作のために使用できるバッファがありません。

原因: 2 つの原因があります。

- ケース 1: バッファ・プールの中にあるバッファがすべて前の操作で 使用されてしまいました。
- ケース 2: 前にバッファされた更新操作をせずに、LOB をフラッシュさせます。

解決方法: ケース 1 のためには、LOB を更新するために使用されている ロケータによって、LOB(s) をフラッシュさせます。現行の LOB 使用方法是、現在の操作に関連した LOB 用に保持されているバッファの数値を表示します。

- ケース 2 の場合には、バッファをフラッシュさせる前に、バッファリング可能となったロケータによって、最初に LOB に書き込みます。

ORA-22281: 更新済ロケータでこの操作は実行できません。

原因: 入力ロケータがバッファリングを可能にし、しかも LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を更新するために、その入力ロケータが使用されました。変更されたバッファは、書き込みが入力ロケータにより実行されたため、フラッシュされていません。したがって、入力ロケータは更新ロケータとみなされます。更新ロケータはコピー操作のソースになることはできません。LOB ごとにひとつのロケータのみ、LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を変更するために使用されることがあります。

解決方法: 入力ロケータによって LOB バッファリング・サブシステムに行われた変更がサーバーに書き込まれるかどうかにより、変更書き込みのためにバッファをフラッシュさせるか、または、変更を廃棄するためにロケータ上でのバッファリングを使用禁止にします。それから、再度コマンドを出します。

ORA-22282: バッファ使用可能な LOB に対する断続的な追加はできません。

原因: バッファされた書き込み操作は、LOB の終わりを過ぎた 1 バイトまたは 1 文字以上の入力オフセット値を保持しています。

解決方法: バッファされた書き込み操作によって更新しようとしている LOB の長さより厳密に 1 文字または 1 バイト大きい入力オフセット値を明記します。

ORA-22285: *name* 操作用のディレクトリまたはファイルが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとしたか、またはアクセスしようとしたファイルのディレクトリが存在しません。

解決方法: 指定したディレクトリに対応するシステム・オブジェクトがデータベース・ディクショナリに存在することを確認してください。または、ディレクトリ名が正しいことを確認してください。

ORA-22286: *name* 操作を実行するにはファイルまたはディレクトリの権限が不十分です。

原因: 操作を実行するために必要なディレクトリ・別名またはファイルへのアクセス権がありません。

解決方法: ディレクトリ・別名またはファイルに必要な権限の付与について、データベース / システム管理者に相談してください。

ORA-22287: *name* 操作中に無効または修正されたディレクトリがあります。

原因: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、現行の操作で使用されたディレクトリ・別名が無効です。以前にアクセスしている場合は、DBA によってこのディレクトリが変更されています。

解決方法: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、有効な ディレクトリ名を提供してください。このエラーが発生する以前に、このディレクトリ下でファイルのオープンに成功している場合は、いったんファイルをクローズしてから、DBA によって変更された有効なディレクトリ・エイリアスで操作を再試行してください。Oracle ではディレクトリの変更を休止期間中にだけ行うことをお勧めします。

ORA-22288: ファイル操作 *name* が失敗しました。

原因: ファイルに対して操作を実行できませんでした。

解決方法: ファイルが存在するかどうか、および指定された操作の実行のために必要な権限が設定されているかどうかを確認してください。エラーが持続する場合は、DBA に報告してください。

ORA-22289: オープンしていないファイルで *name* 操作を実行できません。

原因: ファイルがオープンしていないので、必要な操作を実行できません。

解決方法: 現行の操作に先立って、正常なファイル・オープンが行われていることを確認してください。

ORA-22290: オープン・ファイルが最大数を超えました。

原因: オープン・ファイル数が最大限度に達しました。

解決方法: いくつかのオープン・ファイルをクローズしてから、オペレーションを再試行してください。

ORA-22303: TYPE *name.name* が検索できません。

原因: タイプの情報を取得しようとしたますが、そのタイプが見つかりません。

解決方法: タイプが正常にコミットされているかどうか、およびスキーマ情報が正しく提供されているかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22305: 入力名が無効です。

原因: 使用しようとした入力名が無効です。タイプに存在しない名前です。

解決方法: ルーチンを呼び出す者が機能の呼び出しに有効な名前を パスできるよう、プログラムを変更します。

ORA-22306: 入力したスキーマ名 *name*、タイプ名 *name* はすでに存在しています。

原因: 作成しようとしたスキーマ名とタイプ名の対は、すでに存在するスキーマ名とタイプ名の対と一致します。

解決方法: まだ存在していないスキーマ名とタイプ名の対を転送するように、プログラムのルーチン・コールを修正してください。

ORA-22307: 変更しようとしているタイプがユーザー定義タイプではありません。

原因: ユーザー定義タイプでない入力タイプを使用しようとしてしました。変更できるのはユーザー定義タイプだけです。

解決方法: ルーチンを呼び出す者が入力タイプとしてユーザー定義タイプを パスできるよう、プログラムを変更します。

ORA-22309: 入力名 *name* がすでにタイプで存在しています。

原因: タイプで一意でない名前入力が使用されました。

解決方法: まだタイプに存在しない名前が転送されるように、プログラムのルーチン・コールを修正してください。

ORA-22311: 属性 *name* のタイプが存在しません。

原因: 存在しないタイプが属性に対して使用されました。

解決方法: この DDL トランザクションでは、タイプが 1 つも作成 / 変更されていません。DDL トランザクションを再実行して、属性タイプの作成を DDL トランザクションに追加してください。

ORA-22313: 同タイプ *name* の 2 つのバージョンを使用できません。

原因: このタイプのバージョンが、アプリケーションとリンクされた別のライブラリで使用されている同タイプのバージョンと一致しません。アプリケーションで使用できるのは、1 タイプにつき 1 バージョンだけです。

解決方法: このアプリケーションとリンクされているライブラリが 同タイプのバージョンを使用していることを確認します。

ORA-22314: ALTER TYPE でメソッド情報が一致しません。

原因: メソッド数またはメソッドの署名が、オリジナルの型宣言のものと一致しません。型の不一致はサポートされません。

解決方法: メソッド署名が、前に宣言されたメソッドのためのものと同一のままであることを確認します。既存メソッドを削除しないでください。

ORA-22315: タイプ *name* にマップ関数または順序関数がありません。

原因: 入力したタイプにはマップ関数または順序関数が含まれていないので、値を返すことができません。

解決方法: タイプにマップ関数または順序関数を挿入して、操作を再試行してください。

ORA-22316: 名前のないプリミティブ・タイプが入力されました。

原因: 名前のないプリミティブ・タイプで NPT 固有の情報を取得しようとした。

解決方法: 名前の付いたプリミティブ・タイプを関数に使用して、操作を再試行してください。

ORA-22317: タイプ・コード *name* が数値型として有効ではありません。

原因: 使用しようとした数値のタイプ・コードが無効です。

解決方法: 次の数値タイプ・コードだけを使用してください。OROTCSML、OROTCINT、OROTCSHO、OROTCUSH、OROTCLON、OROTCULO、OROTCREA、OROTCDOU、OROTCFLO、OROTCNUM、OROTCDEC。

ORA-22318: 入力タイプが配列タイプではありません。

原因: 配列タイプ以外から要素数を取得しようとした。

解決方法: 配列である、名前の付いたコレクション型だけを転送してください。

ORA-22319: ALTER TYPE でタイプ属性情報が変更されました。

原因: 入力したタイプ属性情報は、タイプ変更時のオリジナルの型宣言のタイプ属性情報と一致しません。

解決方法: タイプ変更時に、タイプ情報の変更はできません。新規メソッドの追加ができるだけです。

ORA-22321: メソッドの結果が戻されません。

原因: メソッドに対して ortgrbp() 関数コールが行われましたが、メソッドからいっさい結果が戻されません。

解決方法: 正しいメソッド・デスク립タが転送されているか、またはメソッドの作成が正しく行われているかを確認してください。

KOP* (Pickler): 22600 ~ 22699

ORA-22600: 処理できない 8.0.2(ベータ) VARRAY データが見つかりました。

原因: Production Oracle8 (8.0.3 およびそれ以上) は、Oracle8 8.0.2(ベータ 2) により作成、記憶された VARRAY データに遭遇しました。Production Oracle8 は、そのような VARRAY データを理解、プロセスできません。

解決方法: 表を削除するか、行を削除するか、あるいは VARRAY 列を取り消すことにより、表から VARRAY データを削除します。この変換の自動操作に役立つようなスクリプトやツールは提供されていません。

オブジェクト SQL メッセージ : 22800 ~ 22849

ORA-22800: 無効なユーザー定義タイプです。

原因: 不完全なタイプをコンストラクタとして使用しようとした。

解決方法: 問合せで使用する前にタイプ定義を完成させてください。

ORA-22801: オブジェクト行変数が無効です。

原因: 指定されたオブジェクト行変数が、名称分析解決の有効範囲内にありません。

解決方法: 行オブジェクト変数の指定が正しいか検証してください。または、有効範囲で参照できる有効な行オブジェクト変数を使用してください。

ORA-22803: オブジェクト型に属性が含まれていません。

原因: 属性のないオブジェクト型の列またはコンストラクタを作成または指定しようとした。このコンテキストでは、少なくとも 1 以上の属性をもったオブジェクト型だけを使用できます。

解決方法: 有効なオブジェクト型を指定し、操作を再試行してください。

ORA-22804: オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されていません。

原因: オブジェクト型がオブジェクトまたは REF、ネストした表、VARRAY のうちのどれかであるリモート・オブジェクト表またはリモート表の列に対して、問合せまたは DML 操作を実行しようとした。

解決方法: 文中のリモート表の参照を削除してください。

ORA-22805: オブジェクト表またはネストされた表に NULL オブジェクトは挿入できません。

原因: オブジェクト表またはネストされた表に NULL オブジェクトを挿入しようとした。

解決方法: NULL でないオブジェクトを表に挿入するか、または属性値 NULL を伴ったオブジェクトを挿入してください。

ORA-22806: オブジェクトまたは REF ではありません。

原因: オブジェクトでも REF でもない項目から属性を取り出そうとした。

解決方法: オブジェクト型または REF 型の項目を使用して、操作を再試行してください。

ORA-22807: スカラー・タイプかコレクション・タイプが判別できません。

原因: 非スカラー（たとえば、オブジェクト型）項目の使用が無効です。

解決方法: 項目のデータ型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-22808: REF デリファレンスは使用できません。

原因: REF 項目のデリファレンスによって型の属性にアクセスしようとした。

解決方法: オブジェクト型の REF 項目とせずに、その項目をオブジェクト型にしてください。

ORA-22809: 属性が存在しません。

原因: オブジェクト型の属性にアクセスしようとしたが、属性が存在しません。

解決方法: 属性の参照が有効であるかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22810: REF デリファレンスでオブジェクト属性は変更できません。

原因: PDATE 文で、REF 列のデリファレンスによってオブジェクトの属性を変更しようとした。

解決方法: REF の参照オブジェクトを含んだ表を更新するか、または REF 列をオブジェクト型の列に変更してください。

ORA-22812: NESTED TABLE 列の記憶表を参照できません。

原因: ネストされた表の列の記憶表へのアクセスは、このコンテキストでは許可されません。

解決方法: ネストされた表の列を含んだ親表に対して文を発行してください。

ORA-22813: オペランド値がシステム制限値を超えています。

原因: オブジェクトまたはコレクション値が大きすぎます。ソート・コンテキストで値のサイズが 30K を超えているか、または使用可能メモリーに対してサイズが大きすぎます。

解決方法: 別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22814: 属性または要素の値がタイプで指定された値を超えています。

原因: オブジェクト型の属性またはコレクション要素の値が、型宣言で指定されたサイズを超えています。

解決方法: 別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22816: RETURNING 句を使用する機能はサポートされていません。

原因: RETURNING 句が、現在ではオブジェクト型列、ロング列、リモート表、および副問合せによる挿入のためにサポートされていません。

解決方法: 値を得るために異なる SELECT 文を使用します。

オブジェクト SQL DDL メッセージ : 22850 ~ 22879

ORA-22850: LOB 記憶領域オプションの指定が重複しています。

原因: LOB 記憶領域オプション (CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX) が 2 度以上指定されています。

解決方法: LOB 記憶領域オプションはすべて 1 度だけ指定してください。

ORA-22851: CHUNK LOB 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: CHUNK LOB 記憶領域オプションの値は整数でなければなりません。

解決方法: 適当な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22852: PCTVERSION LOB 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: PCTVERSION LOB 記憶領域オプションの値は整数でなければなりません。

解決方法: 適当な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22853: LOB 記憶領域オプションの指定が無効です。

原因: LOB 記憶領域オプションが指定されていません。

解決方法: LOB 記憶領域句の一部として (CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX) のうちの 1 つを指定してください。

ORA-22854: LOB 記憶領域索引のオプションが無効です。

原因: 有効な LOB 記憶領域索引のオプションが指定されていません。

解決方法: LOB 記憶領域索引の一部として、(INITTRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE) のうちの 1 つを指定してください。

ORA-22855: LOB 記憶領域セグメントのオプション名が正しく指定されていません。

原因: 列リストで、LOB 記憶領域セグメントのオプション名が複数列で指定されました。

解決方法: 各列の LOB 記憶領域をオプション名だけで指定してください。

ORA-22856: オブジェクト表に列を追加できません。

原因: オブジェクト表に列を追加しようとした。オブジェクト表の定義はオブジェクト型がベースになっているので、列の追加によってオブジェクト表を変更できません。

解決方法: その他の属性で新規作成タイプを作成し、オブジェクト表を作成するために新規作成タイプを使用します。新規オブジェクト表には、希望した列が含まれます。

ORA-22857: オブジェクト表の列を変更できません。

原因: 既存の列を変更してオブジェクト表を変更しようとした。オブジェクト表の定義はオブジェクト型がベースになっているので、既存の列の変更によってオブジェクト表を変更することはできません。表定義は、対応する型と同期がとれていなければなりません。

解決方法: その他の属性で新規作成タイプを作成し、オブジェクト表を作成するために新規作成タイプを使用します。新規オブジェクト表には、希望した列が含まれます。

ORA-22858: データ型の変更が無効です。

原因: 列型をオブジェクトまたは REF、ネストされた表、VARRAY、LOB 型に変更しようとした。

解決方法: 希望する型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用して現行の列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22859: 列の変更が無効です。

原因: オブジェクトまたは REF、VARRAY、ネストされた表、LOB の列型を変更しようとした。

解決方法: 希望する型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用して現行の列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22860: オブジェクト型が必要です。

原因: 非オブジェクト型を使用してオブジェクト表を作成しようとしたか、または非オブジェクト型への REF である列を作成しようとした。

解決方法: 表定義または列定義で有効なオブジェクト型を使用してください。

ORA-22861: ユーザー定義の型が無効です。

原因: 存在しない型で列またはオブジェクト表を作成しようとした。

解決方法: 表定義または列定義で有効な型を指定してください。

ORA-22862: 指定されたオブジェクト識別子は、既存のオブジェクト識別子と一致できません。

原因: 型のオブジェクト識別子を指定しようとしたが、同名の不完全な型の既存識別子と一致しません。

解決方法: 正しいオブジェクト識別子を指定するか、または識別子を文から除外してください。

ORA-22863: データ型 *name.name* にシノニムは使用できません。

原因: データ型にシノニムを指定しようとした。

解決方法: データ型にシノニムを指定しないでください。

ORA-22864: LOB 索引は変更または削除できません。

原因: LOB 索引を変更または削除しようとした。

解決方法: システム定義の LOB 索引に直接操作を行わないでください。対応する LOB 列に操作を実行してください。

ORA-22865: 列が複数指定されています。

原因: 複数の列を指定しようとしたが、指定できるのは 1 つだけです。

解決方法: シングル列を明記し、操作を再試行します。

ORA-22866: デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

原因: キャラクタ LOB が定義されましたが、デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

解決方法: キャラクタ LOB を定義する前に、キャラクタ・セットの幅が固定されているかを確認してください。

ORA-22868: LOB がある表のセグメントが異なる表領域にあります。

原因: 削除しようとした表領域には、表の LOB 列のセグメントはありますが、表セグメントがありません。

解決方法: この表領域内で、表でないセグメントをもった LOB 列を含んだ表を検索してください。それらの表を削除してから、表領域の削除を再発行してください。

ORA-22869: 型依存階層の深さが制限値を超えています。

原因: 深さが 1024 を超える型依存階層が作成されました。

解決方法: 型依存階層の深さを減らして再作成してください。

ORA-22870: 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようとしています。

原因: 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようしました。

解決方法: 最初に非オブジェクト型を削除し、それからオブジェクト型として それを再作成します。

オブジェクト SQL REF/DEREF サポート・メッセージ: 22880 ~ 22899

ORA-22880: REF が無効です。

原因: アクセスした REF が無効です。

解決方法: REF を修正してから操作を再試行してください。

ORA-22881: REF が未結合です。

原因: REF に対応するオブジェクトにアクセスしましたが、対応するオブジェクトは存在しません。

解決方法: REF 値が参照しているオブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-22882: オブジェクトの作成に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースに挿入できません。

解決方法: オブジェクト表が存在するかどうか、およびオブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22883: オブジェクトの削除に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースから削除できませんでした。

解決方法: 表が存在するかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22884: オブジェクトの変更に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースで変更できませんでした。

解決方法: オブジェクト表が存在するかどうか、およびオブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22885: 非固定オブジェクトに対して REF は取得できません。

原因: オブジェクト表の中のオブジェクト以外の何かに対して、REF を取得しようとしていました。REF を取得できるのは、オブジェクト表の中のオブジェクトだけです。

解決方法: オブジェクト表から REF 値を取得するために問合せを書き直します。

ORA-22886: 対象表 *name* (スキーマ *name*) はオブジェクト表ではありません。

原因: EF 列に対して指定された対象表は、オブジェクト表ではありません。

解決方法: 対象表がオブジェクト表であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22887: REF 列の型が対象表の列の型と一致しません。

原因: REF 列に指定された型と、対象表に指定された型が異なっています。

解決方法: REF 列の型と対象表の型が同一であることを確認してください。

ORA-22888: REF 列に対する SCOPE 句の指定が重複しています。

原因: 1 つの REF 列に対して複数の SCOPE 句が指定されました。

解決方法: 重複した SCOPE 句を取り除いて操作を再試行してください。

ORA-22889: REF 値が対象表を示していません。

原因: 対象表を参照しない REF 値を挿入しようとしてしました。

解決方法: REF 値が対象表を参照していることを確認してください。

ORA-22890: REF 列の制約に対して制約名は指定できません。

原因: REF 列の制約に対して制約名を指定しようとしてしました。

解決方法: 制約名を取り除いて操作を再試行してください。

ORA-22891: REF 制約に列は複数指定できません。

原因: 1 つの REF 制約で複数の列を指定しようとしてしました。

解決方法: 列ごとに別個の制約を指定して、操作を再試行してください。

ORA-22892: 対象表 *name* がスキーマ *name* に存在しません。

原因: REF 列に対して指定された対象表が存在しません。

解決方法: 対象表が存在することを確認して、操作を再試行してください。

ORA-22893: 制約は REF 列にしか指定できません。

原因: 指定された制約は、REF 以外の列に適用できません。

解決方法: 制約を取り除いてください。

ORA-22894: 既存の空ではない表の REF 列に制約は追加できません。

原因: 1 以上の行が入っている表の既存 REF 列に対して、制約を追加しようとした。

解決方法: 制約指定を取り除くか、または表を空にしてから制約を追加してください。

SQL ネスト表およびコレクション・メッセージ : 22900 ~ 22919

ORA-22900: THE 演算子のない副問合せの項目の選択は、コレクションではありません。

原因: THE 副問合せでは、コレクション項目を選択しなければなりません。

解決方法: コレクション項目の選択を行うように副問合せを変更して、操作を再試行してください。

ORA-22901: ネストされた表、VARRAY、LOB 属性のいずれかとオブジェクト型の比較はできません。

原因: MAP または ORDER メソッドがないとき、オブジェクト型のネストされた表、VARRAY、LOB 属性の比較をしようとした。

解決方法: オブジェクト型の型に対して MAP または ORDER メソッドを定義し、操作を再試行してください。

ORA-22902: CURSOR の式は使用できません。

原因: 副問合せの CURSOR が許可されるのは、問合せのトップ・レベル SELECT リストだけです。

解決方法: CURSOR 式を取り除き、操作を再試行してください。

ORA-22903: MULTISSET の式は使用できません。

原因: ネストされた表または VARRAY 型への CAST の外部で、MULTISSET 式を使用しようとした。

解決方法: MULTISSET (副問合せ) 式をネストされた表または VARRAY 型への CAST の内部に入れてください。

ORA-22904: ネストされた表の列の参照は無効です。

原因: ネストされた表の列に対する参照が無効です。

解決方法: ネストされた表の無効な参照を取り除き、操作を再試行してください。

ORA-22905: ネストされていない表項目の行にはアクセスできません。

原因: 項目の行にアクセスしようとしたが、その項目の型は構文解析で不明であるか、またはネストされた表項目ではありません。

解決方法: CAST 演算子を使用して、ネストされた表型に項目をキャストしてください。

ORA-22906: 式またはネストされた表のビュー列で DML は実行できません。

原因: ネストされた表のビュー列で DML を実行しようとしたますが、基本表のネストされた表の列でなければなりません。

解決方法: ネストされた表のビュー列の DML 文を取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-22907: ネストされた表または VARRAY ではない型に対する CAST は無効です。

原因: ネストされた表または VARRAY 型以外の型に対して、CAST が実行されました。

解決方法: ネストされた表または VARRAY 型だけに CAST を実行して操作を再試行してください。

ORA-22908: NULL の表値を参照しています。

原因: THE 副問合せの評価結果が NULL 値になりましたが、これは NULL 表インスタンスを暗示します。THE 副問合せの結果は、1 つの NULL でない表インスタンスでなければなりません。

解決方法: THE 副問合せの評価結果が、NULL でない 1 つの表インスタンスになるか確認してください。THE 副問合せを挿入のターゲットにした挿入文のコンテキストでエラーが発生する場合は、空のネスト表コンストラクタを指定したネスト表の親表の行の列を更新することで空のネスト表インスタンスが作成されているかどうかを確認してください。

ORA-22909: 最大 VARRAY 制限を超えています。

原因: VARRAY の作成に使用された要素数の合計が、指定された VARRAY 制限を超えています。

解決方法: 指定された制限値を超える要素数を VARRAY の作成に使用しないでください。

ORA-22910: ネストされた表にスキーマ名は指定できません。

原因: ネストされた表の記憶領域句で、表名の修飾にスキーマ名が使用されています。

解決方法: スキーマ名の修飾子を取り除いて、ネストされた表の記憶領域句を再指定してください。ネストされた表の記憶表は、デフォルトにより、ネストされた表を含んだ表と同じスキーマで作成されます。

ORA-22911: ネストされた表項目に対する記憶領域の指定が重複しています。

原因: ネストされた表の列に対する記憶領域句が 2 度以上指定されています。

解決方法: 重複した記憶領域指定を削除してください。

ORA-22912: 指定された列または属性がネストされた表の型ではありません。

原因: 列または属性の記憶領域句が指定されていますが、ネストされた表の列または属性ではありません。

解決方法: 有効なネストされた表の列または属性を指定してください。

ORA-22913: ネストされた表の列または属性には表名を指定しなければなりません。

原因: ネストされた表の列または属性に対して、記憶領域句が指定されていません。

解決方法: ネストされた表の記憶領域句を使用して表名を指定してください。

ORA-22914: ネストされた表の削除はサポートされていません。

原因: ネストした表を削除しようとしてしました。

解決方法: ネストされた表を明示的に削除することはできません。ネストされた表を削除するには、その表が入っている親表を削除しなければなりません。

ORA-22915: ネストされた表は追加 / 変更列に変更できません。

原因: ネストされた表の列を追加または変更しようとしてしました。

解決方法: ネストされた表で、列を追加または変更することはできません。このような変更を行うには、親表のネストされた表の列を変更しなければなりません。

ORA-22916: ネストされたカーソルをもつ問合せで正確な取出しはできません。

原因: 問合せからカーソルが返される場合は、問合せで正確な取出しはできません。

解決方法: 正確な取出しを使用しないでください。

ORA-22920: LOB 値を含む行がロックされていません。

原因: LOB データを更新する前に、LOB データを含んだ行がロックされませんでした。

解決方法: LOB データを更新する前に、LOB データを含んだ行をロックしてください。

ORA-22921: 入力バッファの長さが要求された量よりも小さいです。

原因: バッファ長が不十分なため、要求されたデータを保持できませんでした。

解決方法: 入力パラメータで指定したバイト数 / 文字数の合計が、入力バッファ長パラメータで指定したバイト数よりも大きくなっていないことを確認してください。必要であれば、入力バッファに追加のスペースを割り当ててください。

ORA-22922: LOB が存在しません。

原因: 入力されたロケータに関連付けられた LOB 値が存在しません。ロケータの情報が、既存の LOB を参照していません。

解決方法: SELECT 文を発行することによりロケータを再配置し、操作を再試行します。

ORA-22923: ストリーム式 LOB 書込みで指定されたデータ量が 0 (ゼロ) です。

原因: ストリーミング・メカニズム (つまり、無制限の書き込み) によって LOB データを書き込もうとしたが、ストリームに対する入力データ量が 0 (ゼロ) に指定されていました。これは、0 (ゼロ) バイトを LOB データに書き込むことを意味しています。

解決方法: 0 (ゼロ) バイトよりも多くのデータを LOB データに書き込んでください。

ORA-22924: スナップショットが長すぎます。

原因: 一貫した読み込みを行うのに必要であった LOB データ・バージョンが、すでに別の書き込み機能によって上書きされていました。

解決方法: バージョン・ブールを拡大して操作を再試行してください。

ORA-22925: LOB 値の最大許容サイズを超えています。

原因: LOB に書き込もうとしているデータ量が多すぎます。LOB サイズは、4GB までに制限されています。

解決方法: さらに小さい LOB オフセットで書き込みを開始するか、またはデータ量を少なくして LOB に書き込みます。

ORA-22926: 指定された切捨ての長さが現行の LOB 値の長さを超えています。

原因: LOB データを切り捨てるために指定された切捨ての長さが、現行の LOB データ長を超えています。

解決方法: 指定された切捨ての長さよりも LOB データの方が短いので、切り捨てる必要がないかもしれません。または、実際に LOB データの切捨てが必要な場合は、切捨てる長さを短くしてください。

ORA-22927: LOB ロケータの入力が無効です。

原因: LOB ロケータ入力が無効です。初期化されていません。

解決方法: 入力した LOB ロケータを初期化し、初期化された LOB ロケータを関数に転送してください。

ORA-22928: ディレクトリにおける権限が無効です。

原因: 付与または取り消そうとしたディレクトリの権限が無効です。

解決方法: ディレクトリで付与または取消しができる権限は、CREATE および DELETE、READ、WRITE 権限だけです。その他の権限の付与または取消しは、行わないでください。

ORA-22929: ディレクトリが無効か、または存在しません。

原因: 要求されたディレクトリ名は無効であるか、または存在しません。

解決方法: 有効な名前を指定してください。

ORA-22930: ディレクトリが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとしてしました。

解決方法: ディレクトリ名が正しいかどうかを確認してください。

ORA-22950: MAP または ORDER メソッドのないオブジェクトは順序付けできません。

原因: 等式および不等式を除いたすべての比較演算に対して、オブジェクト型では MAP または ORDER メソッドが定義されていなければなりません。

解決方法: オブジェクト型の MAP または ORDER メソッドを定義してください。

ORA-22951: ORDER メソッドから NULL が戻されました。

原因: 2 つのオブジェクト値の比較に使われた ORDER メソッドから NULL が戻されました。

解決方法: NULL を戻さないように ORDER メソッドを再定義してください。

ORA-22970: オブジェクト・ビューが必要です。

原因: 入力された式がビュー名でないか、または指定された名前がオブジェクト・ビューに対応していません。

解決方法: 式をオブジェクト・ビュー名に置き換えて、操作を再試行してください。

ORA-22971: PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子に対するデータ型が無効です。

原因: タイプ・ビューの作成時に、プライマリ・キーに基づいたオブジェクト識別子に対して許可されないデータ型が、WITH OID 句の式で指定されました。

解決方法: 式を適切なスカラー・データ型の 1 つと置き換えて、操作を再試行してください。

ORA-22972: PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子で NULL 値は使用できません。

原因: プライマリ・キーに基づいたオブジェクト識別子の構成値が NULL でした。

解決方法: MAKE_REF システム関数または CREATE VIEW の WITH OID 句の中の式が NULL でないことを確認してください。

ORA-22973: オブジェクト識別子のサイズが最大値を超えています。

原因: タイプ・ビューのプライマリ・キーに基づいたオブジェクト識別子のサイズが大きすぎます。

解決方法: タイプ・ビューを作成するとき、WITH OID 句に指定するプライマリ・キー列を減少または小さくしてください。

ORA-22974: WITH OID 句が必要ですが、指定されていません。

原因: タイプ・ビューの作成時に、WITH OID 句が指定されませんでした。

解決方法: WITH OID 句を指定するか、またはタイプ化されていないビューをかわりに作成するか、または単一のタイプ表またはビューでタイプ・ビューを作成してください。

ORA-22975: このオブジェクト・ビューに対して PRIMARY KEY に基づいた REF は作成できません。

原因: MAKE_REF 関数に指定されたオブジェクト・ビューで、プライマリ・キーに基づいた OID がありません。このようなビューでは、プライマリ・キーに基づいた REF を作成できません。

解決方法: MAKE_REF 関数の中にある OID に基づいたプライマリ・キーを保持するオブジェクト・ビューを明記します。

ORA-22976: MAKE_REF に対する引数の数が正しくありません。

原因: MAKE_REF に対する引数の数が、オブジェクト・ビューのプライマリ・キー属性の数と異なります。

解決方法: MAKE_REF に対して必要なすべての引数を指定してください。

ORA-22977: 属性がないか、または無効です。

原因: WITH OBJECT OID 句の属性名が欠落しているか、または属性名が無効です。

解決方法: オブジェクト・ビューのオブジェクト型の有効な属性を指定してください。

ORA-22978: WITH OBJECT OID 句で利用できるのは、単純な属性名だけです。

原因: WITH OBJECT OID 句でネストされた属性を指定しようとした。

解決方法: オブジェクト・ビューのオブジェクト型のトップ・レベル属性を指定してください。

ORA-22979: オブジェクト・ビューの REF は表に挿入できません。

原因: オブジェクト・ビューから選択した REF を表の REF 列に挿入しようとした。現在、このような REF をデータベースに保管することはできません。

解決方法: REF 列に挿入される REF が表から選択されていることを確認します。

ORA-22990: LOB ロケータは複数のトランザクションにまたがることはできません。

原因: A トランザクションですでに選択されている LOB ロケータを別のトランザクションで使用することはできません。

解決方法: LOB ロケータを再選択して、操作を再試行してください。

ORA-22991: 引数 *name* に割当てられた領域が不足しています。

原因: 引数に割り当てられた領域よりも大きいデータが引数に戻されます。

解決方法: 引数に割り当てる領域を増加してください。

ORA-22992: リモート表から選択された LOB ロケータは使用できません。

原因: 原因: リモート LOB 列の参照はできません。

解決方法: リモート表の LOB への参照を取り除いてください。

ORA-22993: 指定された入力量は実際のソース量を超えています。

原因: ケース 1: LOB 書き込みについて、受け取ったデータ量が送付表示された予想データ量と違います。

- ケース 2: LOB のコピーおよびファイルからのロードについて、明記された入力量がコピー / ロードされる以前に、ソースの終わりの LOB/FILE 値に達してしまいました。

解決方法: ケース 1: これは、OCI の一定量方式メカニズムをポーリングまたはコールバック関数と一緒に使用した時に起こります。明記された量を送るため、または、どのようなデータ量でも送ることができるよう入力量として 0 (ゼロ) をパスさせるために、コードを変更します。

- ケース 2: これは、開始ソース・オフセットに与えられたソース LOB/FILE に対し明記された入力量が大きすぎる場合、起こります。開始ソース・オフセットを減少させるか、またはコピー / ロードする量を減少させます。

ORA-22994: ソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

原因: LOB COPY あるいは LOB LOADFROMFILE のソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

解決方法: LOB の長さを確認し、ソース・オフセットを調整してください。

DBMS PL/SQL パッケージ・メッセージ : 23300 ~ 24299

この節には、DBMS_SYS_ERROR パッケージで生成されるメッセージを記載しています。

ORA-23300: application_specific_message

原因: ストアド・プロシージャ RAISE_SYSTEM_ERROR が呼び出され、このメッセージが生成されました。

解決方法: メッセージに示されている問題点を訂正するか、詳細をアプリケーション・プログラマまたはデータベース管理者に問合せてください。

ORA-23301: 遅延 RPC 接続先モードの複合使用です。

原因: 複製カタログが決定した遅延リモート・プロシージャ・コールの宛先が、同一トランザクションの他のメカニズムで決定された宛先と混在していました。

解決方法: 同一トランザクション内で宛先タイプを混在させないでください。

ORA-23302: アプリケーションが遅延 RPC 時に通信障害を提示しました。

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コール中に、アプリケーションが通信障害を起こしました。

解決方法: 通信が復元されたら、アプリケーションを再試行してください。

ORA-23303: アプリケーションが遅延 RPC 時に一般例外を提示しました。

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コール中に、アプリケーションが一般障害を起こしました。

解決方法: アプリケーションに依存。

ORA-23304: 遅延 RPC の引数が無効です (引数 :name(name)、コール: <名前>、tid:name)

原因: カウント・パラメータ DBMS_DEFER.CALL によって決定された正しい数の引数を使用しないで、遅延リモート・プロシージャ・コールが発行されました。

解決方法: 引数の数がカウントと必ず一致するようにしてください。

ORA-23305: 内部遅延 RPC エラー : str

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コールで内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-23306: スキーマ<名前>が存在しません。

原因: スキーマ名が NULL であるか、綴りが間違っているか、またはスキーマがローカルに存在していません。

解決方法: スキーマを正しく指定するか、または CREATE USER を使用してスキーマを作成してください。

ORA-23307: 複製スキーマ: <名前> がすでに存在します。

原因: 指定したデータベースは、指定したスキーマをすでに複製しています。

解決方法: 別のスキーマまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23308: オブジェクト<名前> . <名前> が存在しないか、無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態の複製オブジェクトとして存在していません。

解決方法: オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23309: オブジェクト<名前> . <名前> (タイプ<名前>) が存在します。

原因: 同一の名前領域にオブジェクトが存在し、それが別のタイプまたは形である可能性があります。または、同じオブジェクトが別のオブジェクト・グループに複製オブジェクトとしてすでに登録されています。

解決方法: 違反しているオブジェクトを SQL DROP コマンドを使って削除するか、違反しているオブジェクトの登録を DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT() を使って取り消してください。または、RETRY や USE_EXISTING_OBJECT などのパラメータ boolean に TRUE を使って要求を再度呼び出してください。

DBMS_REPCAT パッケージの詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「DBMS_REPCAT パッケージ」を参照してください。

ORA-23310: オブジェクト・グループ<名前> は休止していません。

原因: 要求した操作を行うには、オブジェクト・グループを中断しなくてはなりません。

解決方法: 複製グループの MASTERDEF で SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を呼び出して、状態が中止に変わるまで待ち、元の要求を再試行してください。

中止とレプリケートされた環境、レプリケーション・アクティビティの中断の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「中止」、「レプリケーション・アクティビティの中断」、「SUSPEND_MASTER_ACTIVITY」を参照してください。

ORA-23311: オブジェクト・グループ <名前> は休止しています。

原因: オブジェクト・グループが通常の操作を再開する前に、SUSPEND_MASTER_ACTIVITY がコールされました。

解決方法: RESUME_MASTER_ACTIVITY 要求が保留状態の場合は、完了するまで待つてから、SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を再度呼び出してください。中止とレプリケートされた環境、レプリケーション・アクティビティの再開の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「中止」、「レプリケーション・アクティビティの再開」、「SUSPEND_MASTER_ACTIVITY」、「RESUME_MASTER_ACTIVITY」を参照してください。

ORA-23312: <名前> によれば MASTERDEF ではありません。

原因: グループ名が NULL であるか、綴りが間違っています。または、起動したデータベースあるいは指定されたデータベースが MASTERDEF ではないか、マスターのいずれかが起動データベースを MASTERDEF として認識していません。

解決方法: 指定したグループ名および MASTERDEF が両方とも正しい場合は、MASTERDEF に接続して要求を再試行するか、または RELOCATE_MASTERDEF を使って問題のデータベースに MASTERDEF を再割当てしてください。マスター定義サイト変更の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「回復」と「RELOCATE_MASTERDEF」を参照してください。

ORA-23313: オブジェクト・グループ<名前>は<名前>ではマスターにされていません。

原因: グループ名が NULL、または、綴りが間違っています。または、起動したデータベースがマスターではないか、または、起動データベースが指定されたデータベースをマスターとして認識していません。

解決方法: 指定したグループ名が正しい場合は、現行のマスターに接続して要求を再試行し、ADD_MASTER_DATABASE を使用して起動データベースをマスターにしてください。または、起動データベースがスナップショット・サイトの場合は、SWITCH_SNAPSHOT_MASTER を使用してください。マスター・サイト追加とスナップショット・サイト・マスターの変更の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「マスター・サイト作成」、「マスター定義サイト変更」、「ADD_MASTER_DATABASE」、「SWITCH_SNAPSHOT_MASTER」を参照してください。

ORA-23314: データベースは<名前>のスナップショット・サイトではありません。

原因: 起動データベースが、指定されたオブジェクト・グループのスナップショット・データベースではありません。

解決方法: 必要なスナップショット・データベースに接続して要求を再試行するか、または、CREATE_SNAPSHOT_REPSHEMA や CREATE_SNAPSHOT_REPGROUP を使用して、起動データベースをスナップショット・サイトにしてください。

ORA-23315: 複製カタログ・バージョンまたは要求:<名前>がバージョン:<名前>でサポートされません。

原因: 互換性のない REPCAT バージョンが使われているか、または REPCATLOG レコードが破壊されています。

解決方法: 互換性のある REPCAT バージョンにマスターを変換するか、または要求を再試行してください。

ORA-23316: MASTERDEF は<名前>です。

原因: 削除するマスターのいずれかが MASTERDEF です。

解決方法: 削除しないマスターに MASTERDEF を再配置して、新しい MASTERDEF で REMOVE_MASTER_DATABASES 要求を再度呼び出してください。

ORA-23317: 通信障害が発生しました。

原因: リモート・データベースがアクセス不能です。

解決方法: リモート・データベースが動作していること、通信ネットワークが機能していること、該当するデータベース・リンクが存在することを確認してください。

ORA-23318: DDL 障害が発生しました。

原因: ユーザーが提供した DDL またはシステムが生成した DDL が正しく実行されませんでした。

解決方法: DDL、データベースの状態、REPCATLOG、ALL_ERRORS を調べて、障害が発生した原因を判断してください。

ORA-23319: パラメータ値:<name> が不適切です。

原因: 指定したパラメータ値が NULL であるか、綴りが間違っているか、またはサポートされていません。

解決方法: マニュアルを参照して、状況に適したパラメータ値を使用してください。

ORA-23320: この要求は値 name および name のため失敗しました。

原因: REPCATLOG レコードの DDL レコードが欠落しているか、または REPCAT ビューに一貫性がありません。

解決方法: 要求を再試行するか、またはビューに一貫性を持たせてください。

ORA-23323: パラメータ長が遅延 RPC の制限を超えています。

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コール・パラメータが、遅延リモート・プロシージャ・コールの制限よりも長くなりました。この制限は、CHAR/VARCHAR2 パラメータの場合は 2000 バイトで、raw パラメータの場合は 255 バイトです。

解決方法: より小さいパラメータを使用してください。

ORA-23324: エラー:<数値>、<名前>の遅延エントリを作成中に、エラー:<数値>が発生しました。

原因: メッセージに表示されているエラー・コードとデータベースに対して DEFERROR 項目を作成しようとして、エラーが検出されました。

解決方法: エラーの原因を訂正してください。

ORA-23325: パラメータ・タイプが<タイプ>ではありません。

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コール待ち行列から遅延リモート・プロシージャ・コール・パラメータを検索するために、DBMS_DEFER_SYS_QUERY 内の関数がコールされましたが、パラメータのタイプが、その関数の戻り型と一致していません。

解決方法: パラメータ・タイプに対応する関数を使用してください。

ORA-23326: システムが停止中です。

原因: データベースの休止中に、遅延リモート・プロシージャ・コール・操作が試行されました。

解決方法: DBMS_REPCAT.RESUME_MASTER_ACTIVITY コールを使用して、データベース・アクティビティを再開してください。

ORA-23327: インポートされた遅延 RPC データがインポートする DB の <id> と一致しません。

原因: 遅延リモート・プロシージャ・コールの待ち行列が、インポートするデータベースとは異なるグローバル名またはオペレーティング・システムを持つデータベースからインポートされました。

解決方法: 遅延リモート・プロシージャ・コール・データのインポート先は、同一のグローバル名、ハードウェア、オペレーティング・システムを持つデータベースでなければなりません。

ORA-23328: スナップショット実表<名前> . <名前> は複製されるマスター表と同じでなければなりません。

原因: REPCAT によるスナップショットの作成時に、スナップショット実表がマスターの複製された表名と一致しませんでした。

解決方法: マスターの複製された表名と同じ実表を使用するように、スナップショット DDL を変更してください。

ORA-23329: ユーザー提供 DDL は正常ですが、スナップショット *name.name* がありません。

原因: スナップショット作成のユーザー提供 DDL は正常に実行されましたが、スナップショットが存在しません。

解決方法: 手動で DDL のバックアップをとり、DDL とスナップショットを一致させて再登録してください。

スナップショット実表の命名の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「スナップショット、命名」、「スナップショット、実表」を参照してください。

ORA-23330: 列グループ<名前> はすでに存在しています。

原因: 列グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

解決方法: オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23331: 列グループ<名前> が存在しません。

原因: 指定した列グループが NULL であるか、綴りが間違っているか、または登録されていません。

解決方法: 登録されている列グループを使用してください。

ORA-23332: グループ<名前>は使用中です。削除できません。

原因: 指定した列グループまたは優先グループが、競合を回避するために使用されています。

解決方法: 削除する前に、DBMS_REPCAT プロシージャ DROP_UPDATE_RESOLUTION、DROP_DELETE_RESOLUTION、DROP_UNIQUE_RESOLUTION をコールして、その列グループまたは優先グループが使用されていない状態にしてください。

ORA-23333: 列<名前>はすでに列グループの一部です。

原因: その列がすでに列グループのメンバーであるのに、列グループに追加しようとしました。

解決方法: 列を別の列グループに追加する前に、既存の列グループからその列を削除してください。

ORA-23334: 列<名前>は表または列グループ内に存在しません。

原因: 指定した列が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定した表または列グループの一部ではありません。

解決方法: 表または列グループのメンバーである列を使用してください。

ORA-23335: 優先グループ:<名前>はすでに存在します。

原因: 優先グループは、オブジェクト・グループにすでに登録されています。

解決方法: オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23336: 優先グループ<名前>が存在しません。

原因: 優先グループは、オブジェクト・グループにすでに登録されています。

解決方法: オブジェクト・グループにまだ登録されていない優先グループ名を使用してください。

ORA-23337: 優先順位または値が優先グループ<名前>にありません。

原因: 指定した値または優先順位が、優先グループの一部として登録されていません。

解決方法: 優先グループの一部である別の値または優先順位を指定するか、優先グループにその値を追加してください。

ORA-23338: 優先順位または値がすでに優先グループ<名前>内に存在します。

原因: 指定した値または優先順位は、優先グループの一部としてすでに登録されています。

解決方法: 優先グループの一部ではない別の値または優先順位を指定するか、優先グループからその値を削除してください。

ORA-23339: 競合解消情報が重複しています。

原因: 指定した列グループ、および順序、競合タイプ、パラメータ表名（またはそのどちらか）パラメータ列名、パラメータ順序番号の組合せは、すでに登録されています。

解決方法: その他の解決情報を追加する必要があるか確認して、別の順序番号を指定してください。既存の情報を変更する場合は、最初にその既存の情報を削除しなければなりません。

ORA-23340: 解決方法<名前>が誤りです。

原因: 競合の解決方法が「USER FUNCTION」でない場合、または指定した解決方法が事前定義済みの方法でない場合に、ユーザー・ファンクションが指定されています。

解決方法: 競合解決方法が「USER FUNCTION」ではないのにユーザー・ファンクションが指定される場合は、「USER FUNCTION」として関数を再登録するか、NULLのユーザー・ファンクションを指定してください。または、マニュアルに記述およびサポートされている競合解決方法を指定してください。

ORA-23341: ユーザー・ファンクションが必要です。

原因: 「USER FUNCTION」の方法として、NULLのユーザー・ファンクションが指定されました。

解決方法: マニュアルで記述されているユーザー・ファンクションの仕様に従ったユーザー・ファンクション名（たとえば、「スキーマ名. パッケージ名. ファンクション」）を指定してください。または、マニュアルに記載のあるサポートされている競合解決方法を指定してください。

ORA-23342: パラメータ列<名前>が無効です。

原因: パラメータ列名が NULL であるか、綴りが間違っているか、起動データベースがマスターでないか、または指定した競合解決方法のタイプが誤っています。

解決方法: 競合解決方法のタイプが正しい、指定された列グループのパラメータ列を指定してください。

ORA-23343: 指定された競合解決情報が一致しません。

原因: 指定した列グループ、順序、競合タイプの組合せは、登録されていません（たとえば、コメントを追加するため）。

解決方法: 登録されている列グループ、順序、競合タイプの組合せを指定してください。

ORA-23344: 制約<名前> . <名前>が存在しません。

原因: 一意性の競合の登録時に、指定された制約が NULL か、綴りが間違っているか、または存在していません。

解決方法: 指定の表に指定した制約を登録してください。

ORA-23345: 表<名前> . <名前>が統計表示収集用に登録されていません。

原因: 統計表示収集のために登録されなかった表に対して、競合解消統計収集を処理するプロシージャがコールされました。

解決方法: DBMS_REPCAT.REGISTER_STATISTICS をコールして、表を登録してください。

ORA-23346: 主キーが表: <名前> に定義されていません。

原因: 制約または DBMS_REPCAT_COLUMNS によって定義されている主キーのない表に対してレプリケーション・サポートを生成しようとしています。

解決方法: 表に主キー制約を追加するか、または DBMS_REPCAT_COLUMNS を使用して、主キーを定義してください。

ORA-23347: データ型: <名前> (列: <名前> 表: <名前>) はサポートされていません。

原因: その表には REPCAT がサポートしていないデータ型の列があります。

解決方法: 表から列を削除するか、またはサポートされているデータ型を持つように列を変更してください。

ORA-23348: プロシージャ<名前>を複製できません。IN パラメータのみサポートされます。

原因: OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを持つプロシージャがあるパッケージに対して複製サポートを生成しようとしています。

解決方法: パッケージからプロシージャを除去するか、プロシージャから OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを除去してください。

ORA-23349: ファンクションのレプリケーション・サポートを生成できません。

原因: パブリック・ファンクションのあるパッケージ、またはスタンドアロン・ファンクションに対してレプリケーション・サポートを生成しようとしています。

解決方法: パッケージからパブリック・ファンクションを除去するか、またはファンクションがプロシージャになるように変更してください。

ORA-23350: 再帰的コールの最大数を超えました。

原因: 同一行への同時更新によって、競合が生じるため、表内の競合を解消しようとすると、通常このエラーが発生します。

解決方法: DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE_ERROR を使用して、DEFERERROR から遅延トランザクションを再実行してください。

ORA-23351: パラメータ・データ型: <名前> (プロシージャ: <名前>) はサポートされません。

原因: プロシージャに REPCAT がサポートしていないデータ型のパラメータがあります。

解決方法: プロシージャからパラメータを削除するか、またはサポートされているデータ型を持つようにパラメータを変更してください。

ORA-23352: 遅延トランザクションの宛先が重複しています。

原因: DBMS_DEFER.CALL コール、または前の DBMS_DEFER.TRANSACTION コール、DBMS_DEFER_SYS.ADD_DEFAULT_DEST コールの遅延トランザクションに対して、重複する宛先が指定されました。

解決方法: 重複するエントリを削除してください。

ORA-23353: 遅延 RPC 待ち行列にはオブジェクト・グループ<名前>用の項目があります。

原因: 要求したアクションは、指定したオブジェクト・グループに対してキューが空になるまで実行できません。

解決方法: DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE または DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

遅延トランザクション・キューの強制実行および遅延トランザクション・キュー内のトランザクションの削除の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「遅延トランザクション、プッシング変更」および「DefError 表からのトランザクションの削除」、「DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE」、「DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN」を参照してください。

ORA-23354: <名前>に対する遅延 RPC の実行は使用禁止です。

原因: 宛先での遅延リモート・プロシージャ・コールの実行が失敗しました。伝播が使用不可能なためです。

解決方法: DBMS_DEFER_SYS.ENABLE コールを使用して、遅延リモート・プロシージャ・コールの実行を可能にしてください。

ORA-23355: オブジェクト<名前>・<名前>はマスター・サイトにおいて存在しないが無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態の複製オブジェクトとして存在していません。

解決方法: オブジェクトがマスター・データベース内で有効であること、および、ユーザーが参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

マスター・サイトで有効なオブジェクトの詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「スナップショット・サイト、有効なオブジェクト」を参照してください。

ORA-23356: MASTERDEF は MASTERDEF を認識しないマスターを認識します。

原因: DROP_MASTER_REPGROUP がマスター・サイトで実行されたにもかかわらず、そのマスターのマスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES が実行されていない可能性があります。

解決方法: マスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES を実行して適切なマスターを削除してください（関連エラー・メッセージを参照してください）。

ORA-23357: プロパゲータが存在しません。

原因: プロパゲータが存在しません。

解決方法: 新しいプロパゲータを登録してください。

ORA-23358: リモート・ユーザーが無効です。

原因: ローカル・ユーザーが、データベース・リンクを介して接続されているリモート・ユーザーと一致しません。

解決方法: 識別されたデータベース・リンクの所有者と同じ接続先ユーザーへのデータベース・リンクを削除し、再作成してください。

ORA-23359: repcatlog レコードの DDL レコード作成中にエラーが発生しました。

原因: repcatlog レコード内のユーザー ID が、接続されたユーザーのユーザー ID と一致しません。

解決方法: 別のユーザーを指定して操作を再試行してください。

ORA-23360: マスター表<名前>のスナップショットは1個しか作成できません。

原因: 同じ複製グループ内のマスター表に2つ以上のスナップショットを作成しようとしてしました。

解決方法: これらのスナップショットは別のサイトの異なる複製グループに作成してください。

スナップショットの作成の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「スナップショット・サイト、作成」および「スナップショット・ログ、マスター表、作成」を参照してください。

ORA-23361: スナップショット<名前>はマスター・サイトにおいて存在しません。

原因: スナップショットのオフライン・インスタンス用マスター・サイトにスナップショットが存在しません。

解決方法: 正しい手順でマスター・サイトの別のスキーマにスナップショットを作成してから、スナップショットのオフライン・インスタンス用マスター・サイトの手順にしたがってください。

スナップショットの作成の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「スナップショット・サイト、作成」および「スナップショット・ログ、マスター表、作成」を参照してください。

ORA-23362: ユーザー名が無効です。

原因: 指定されたユーザーは存在しません。

解決方法: 有効なユーザーの名前を入力し、操作を再試行してください。

ORA-23363: マスターおよびスナップ・サイトにおいてスナップ実表<名前>が一致しません。

原因: マスター・サイトのスナップショットの基本表の名前がスナップショット・サイトの基本表の名前と異なります。このエラーはスナップショットのオフライン・インスタンス用マスター・サイトに発生します。

解決方法: 24 バイトより小さいスナップショット名を使用して、オフライン・インスタンス用マスター・サイトを再試行してください。

スナップショット実表の名前指定の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「スナップショット、実表」を参照してください。

ORA-23364: 機能が使用可能になっていません: アドバンスト・レプリケーション

原因: このサイトではアドバンスト・レプリケーション機能が使用可能になっていません。したがって、更新できるスナップショット、遅延 RPC などのレプリケーション機能は使えません。

解決方法: この機能は使用しないでください。アドバンスト・レプリケーション機能を購入しても使用ができない場合は、Oracle 顧客サポートに連絡してください。

ORA-23365: サイト <名前> が存在しません。

原因: DIFFERENCES() ルーチンまたは RECTIFY() ルーチンのコール時に REFERENCE_SITE や COMPARISON_SITE の引数に指定されたサイトに存在しているサイトの名前が指定されていません。

解決方法: 指定されたデータベース・サイトが実際に存在することを確認し、ルーチンを再実行してください。DIFFERENCES() ルーチンへの引数と、RECTIFY() ルーチンに対する引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23366: 整数値 <数値> が 1 より小さいです。

原因: ルーチン DIFFERENCES() に対する引数 MAX_MISSING の値は、1 以上でなければなりません。ルーチン DIFFERENCES() とルーチン RECTIFY() に対する引数 COMMIT_ROWS の値は 1 以上でなければなりません。

解決方法: これらの引数が 1 以上になるように整数値を選択してください。

DIFFERENCES() ルーチンと RECTIFY() ルーチンへの引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23367: 表 <名前> には 1 次キーが欠落しています。

原因: DIFFERENCES() ルーチンのコール時に引数 ONAME1 または ONAME2 に指定された表に、1 次キーまたは仮想 1 次キー（対称型レプリケーションで DBMS_REPCAT パッケージを使用して定義される）がありません。

解決方法: 指定した表に 1 次キーが定義されていることを確認してください。

DIFFERENCES() ルーチンに対する引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23368: 名前 <名前> を NULL または空の文字列にできません。

原因: DIFFERENCES() または RECTIFY() に対する引数 SNAME1、または、SNAME2、ONAME1、ONAME2、MISSING_ROWS_SNAME、MISSING_ROWS_ONAME1、MISSING_ROWS_ONAME2 は、NULL または空の文字列にできません。

解決方法: 引数を NULL 以外または空の文字列以外に変更してください。

DIFFERENCES() ルーチンと RECTIFY() ルーチンへの引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23369: <名前> 引数の値は NULL であってはなりません。

原因: DIFFERENCES() ルーチンに対する引数 MAX_MISSING は NULL にできません。

解決方法: MAX_MISSING に対して有効な値は 1 以上の整数です。DIFFERENCES() ルーチンに対する引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23370: 表 <名前> および表 <名前> は形状が等価 (<名前>) ではありません。

原因: 指定された表の形が等しくありません。つまり、列数、および、名前、データ型、データ長が同じではない可能性があります。問題はカッコに関するものであり、次のいずれかが原因です。列数が同じではない場合、または、異なる表にある同じ名前の列のデータ型が異なる場合、VARCHAR2 列と CHAR 列の長さが同じではない場合、数値データ型の精度と桁が同じではない場合。

解決方法: 比較している 2 つの表の列数および列名、データ型が同じであることを確認してください。

列グループの使用の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「列グループ、使用」を参照してください。

ORA-23371: 表 <名前> 内で列 <名前> が不明です。

原因: DIFFERENCES() ルーチンに対する引数 ARRAY_COLUMNS の列の中に指定された表の列に対応しないものがあります。

解決方法: ARRAY_COLUMNS または COLUMN_LIST のすべての列が指定された表の中にあることを確認してください。

DIFFERENCES() ルーチンに対する引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23372: 表 <名前> 内の型 <名前> はサポートされません。

原因: 表比較ユーティリティ内にはサポートされていない型があります。

解決方法: 比較対象の表内の列の型が対称型レプリケーションでサポートされている型であることを確認してください。

列グループの詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「列グループについて」を参照してください。

ORA-23373: オブジェクト・グループ <名前> が存在していません。

原因: グループ名が NULL であるか、または、綴りが間違っています。または、グループがローカルに存在しません。

解決方法: グループを正確に指定するか、または、DBMS_REPCAT.CREATE_MASTER_REGROUP() を使用してグループを作成してください。

複製グループの作成の詳細は、『Oracle8 Server 分散システムの』の索引項目「複製グループの作成」および「DBMS_REPCAT.CREATE_MASTER_REGROUP」を参照してください。

ORA-23374: 優先グループ: <名前>はすでに存在しています。

原因: 指定したデータベースは、指定したオブジェクト・グループをすでに複製しています。

解決方法: 別のファイル・グループまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23375: 機能はデータベース・バージョン<数値>と互換性がありません。

原因: 指定されたデータベースと互換性のない機能が使用されています。

解決方法: INIT.ORA ファイルの COMPATIBLE パラメータの値を設定するか、または、値を大きくして必要な互換性レベルに合わせます。

パラメータ・ファイルおよびそれらの初期化パラメータの詳細は、『Oracle8 Server 概要』の索引項目「パラメータ・ファイル」を参照してください。

ORA-23376: ノード<名前>はレプリケーション・バージョン" <名前>"と互換性がありません。

原因: リモート・データベースと互換性のない機能が使用されています。

解決方法: リモート・データベースをアップグレードしてから操作を再試行してください。

レプリケーションの互換性の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23377: 引数 MISSING_ROWS_ONAME1 の名前<名前>が不正です。

原因: 引数 MISSING_ROWS_ONAME1 の名前としてインタフェース・サイト表の名前を使用しようとした。

解決方法: 引数 MISSING_ROWS_ONAME1 とは異なる名前を付け、別個に作成した表を指定してください。別個に作成された表には比較されている表の間の相違情報が入ります。

MISSING_ROWS_ONAME1 引数の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23378: 接続修飾子はオブジェクト・グループには無効です。

原因: 指定されたオブジェクト・グループのデータベース・リンクで使われる接続修飾子が、CREATE_MASTER_REPGROUP のグループに指定された修飾子と一致しません。

解決方法: 正しい接続修飾子を含むデータベース・リンクを使用または作成してください。

接続修飾子の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23379: 接続修飾子が長すぎます。

原因: 接続修飾子を含むデータベース・リンクの最大長は 128 バイトです。

解決方法: 短い接続修飾子を使用するか、または、データベース・リンクの名前を短くしてください。接続修飾子の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』を参照してください。

ORA-23380: 伝播モードが無効です。

原因: 指定された伝播は綴りが間違っているか、または、サポートされていません。

解決方法: 有効な伝播モードの複製データについてはマニュアルを参照してください。

伝播の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「変更の伝播」を参照してください。

ORA-23381: 基礎オブジェクト用の生成オブジェクトが存在しません。

原因: 指定された基本オブジェクト用にシステムが生成したオブジェクトが、指定されたサイトに存在しません。現行の操作では、基本オブジェクトには生成された複製サポートが必要です。

解決方法: 基本オブジェクト用に生成された複製オブジェクトが存在し、指定されたサイトで有効であることを確認してください。生成されたオブジェクトが存在しない場合、プロシージャ `dbms_repcat.generate_replication_support()` を基本オブジェクトのマスター定義サイトからコールする必要があります。

レプリケーション・サポートの生成の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「レプリケーション・サポートの生成」を参照してください。

ORA-23382: スナップショット REPGROUP がサイトに登録されていません。

原因: スナップショット REPGROUP は現在マスターに登録されていないので、登録を取り消すことはできません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-23383: スナップショット REPGROUP の登録に失敗しました (サイト)。

原因: ローカル REPSHEMA 表への追加に失敗しました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-23384: レプリケーション・パラレル・プッシュ引数 *name* が有効範囲外です。

原因: `DBMS_DEFER_SYS.PUSH` に対して指定された数値引数が無効です。

解決方法: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23385: レプリケーション・パラレル・プッシュ引数が無効です。

原因: `DBMS_DEFER_SYS.PUSH` に対して指定された文字列引数が無効です。

解決方法: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23386: レプリケーション・パラレル・プッシュでスレーブ処理を作成できません。

原因: パラレル・プッシュのスレーブ・プロセスを作成中にエラーが発生しました。

解決方法: `PARALLEL_MAX_SERVERS` 初期化パラメータが 0 (ゼロ) の場合は、パラメータを再構成して 0 (ゼロ) より大きくなるようにしてください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-23387: レプリケーション・パラレル・プッシュでディキュー・エラーが発生しました。

原因: 新しいキュー・バッチ番号を割り当てようとしたときに、遅延トランザクションのデキューに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-23388: レプリケーション・パラレル・プッシュ Water Mark でエラーが発生しました。

原因: system.def\$_destination の High Water Mark を更新しようとしたときに、パラレル・プッシュでエラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-23389: プロシージャ廃止。オブジェクトを削除して新規マスターを使って再作成してください。

原因: DBMS_REPCAT.SWITCH_SNAPSHOT_MASTER はサポートされなくなりました。

解決方法: オブジェクト・グループ内のオブジェクトを削除し、新しいマスターを使ってそれらを再作成してください。

ORA-23392: に関係付けられているスナップショットが見つかりません。

原因: マスター・サイトから取得したトリガーまたは索引に関係付けられているスナップショットが見つかりません。

解決方法: スナップショットまたはマスター、マスター索引、トリガーがレプリケート・オブジェクトとして登録されていることを確認してください。

ORA-23393: ユーザーはすでにプロパゲータです。

原因: 指定されたユーザーはすでに現行のプロパゲータです。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-23394: プロパゲータが重複しています。

原因: 有効なプロパゲータが複数存在します。

解決方法: 重複しているプロパゲータのいずれかを登録抹消してください。

ORA-23395: タイプのオブジェクトが存在しないか、無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態の複製オブジェクトとして存在していません。

解決方法: オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23396: データベース・リンクが存在していないか、スケジュールされていません。

原因: データベース・リンクがレプリケーション・プロパゲータのスキーマに存在しないか、またはスケジュールされていません。

解決方法: データベース・リンクがデータベースに存在すること、およびアクセス可能なこと、実行がスケジュールされていることを確認してください。

ORA-23397: グローバル名がデータベース・リンク名と一致しません。

原因: リンクがアクセスするデータベースのグローバル名がローカル・ノードのデータベース・リンク名と一致しません。

解決方法: グローバル名が TRUE に設定されていること、およびリンク名がグローバル名と一致していることを確認してください。

ORA-23398: ユーザー名 (データベース・リンク) がローカル・ユーザー名と不一致。

原因: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー名と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー名が異なります。対称型レプリケーションでは、2つのユーザーが同じであることが必要です。

解決方法: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー ID と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー ID が同じであることを確認してください。

ORA-23399: *name.name* に対するレプリケーション・サポートの生成が完了していません。

原因: 指定されたオブジェクトのレプリケーション・サポートが生成されていないか、生成プロセスが完了していません。

解決方法: そのオブジェクトに対してレプリケーション・サポートが生成されたことを確認してください。DBMS_REPCAT.GENERATE_REPLICATION_SUPPORT() を使ってオブジェクトのレプリケーション・サポートを生成してください。

ORA-23400: スナップショット名 "*name*" が無効です。

原因: DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に指定されたスナップショットが、NULL かまたは綴りが間違っているか、書式が間違っています。

解決方法: DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に有効なスナップショット名を指定してください。

ORA-23401: スナップショット *name.name* が存在しません。

原因: SYS.SNAPS またはその関連のビュー内に存在しないスナップショット名が DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に指定されました。

解決方法: SYS.SNAPS または ALL_SNAPSHOTS、USER_SNAPSHOTS に存在しているスナップショット名を指定してください。

ORA-23402: 遅延トランザクションによって発生した競合のためにリフレッシュが異常終了しました。

原因: スナップショットのマスターの DEFERROR 表に、未解決の競合がロギングされています。

解決方法: マスター DEFERROR 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。または、REFRESH_AFTER_ERRORS を TRUE に設定してリフ

レッシュしてください。これによって、マスターの DEFERROR 表 で競合があってもリフレッシュを続行できます。競合が発生しているにもかかわらず続行すると、競合の消後にリフレッシュが成功するまで、更新可能なスナップショットの変更が一時的に失われているように見える場合があります。

ORA-23403: リフレッシュ・グループ はすでに存在します。リフレッシュ・グループに格納しますか？

原因：同一名のグループがすでに SYS.RGROUP\$ にある場合は、別のリフレッシュ・グループを作成してください。

解決方法：別のリフレッシュ・グループ名を選択してください。

ORA-23404: リフレッシュ・グループ が存在しません。

原因：SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ名が指定されました。

解決方法：SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ名を指定してください。

ORA-23405: リフレッシュ・グループ番号が存在しません。

原因：SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ番号が指定されました。

解決方法：SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ番号を指定してください。

ORA-23406: ユーザーに対する権限が不十分です。

原因：呼出し側がスナップショットの所有者ではなく、ALTER ANY SNAPSHOT 権限を持っていません。

解決方法：スナップショットの所有者として、または ALTER ANY SNAPSHOT 権限を持つユーザーとして操作を実行してください。

ORA-23407: オブジェクト名は「スキーマ・オブジェクト」または「オブジェクト」のような形状でなければなりません。

原因：ロールバック・セグメント、スナップショット名、リフレッシュ・グループなどのオブジェクト名が正しく指定されませんでした。

解決方法：オブジェクト名を正しく指定して（たとえば、「SCHEMA.OBJECT」または「OBJECT」）操作を再試行してください。

ORA-23408: このレプリケーション操作は複合構成でサポートされていません。

原因：オブジェクト・グループが Oracle バージョン 8 以前のノードでレプリケートされている場合は、この操作はサポートされません。

解決方法：レプリケート・オブジェクト・グループのすべてのノードが Oracle バージョン 8 であることを確認してください。

ORA-23409: 未使用のリフレッシュ・グループ番号がありません。

原因: RGROUPSEQ 番号で定義されている 1000 の連続リフレッシュ・グループ番号が、SYS.RGROUPS の行によってすでに使用されていました。

解決方法: 有効な未使用範囲内に入るように順序番号を変更して、不必要なリフレッシュ・グループを破棄してください。

ORA-23410: スナップショットはすでにリフレッシュ・グループ内にあります。

原因: 同一名のスナップショットがリフレッシュ・グループにすでに存在しています。

解決方法: 現行のリフレッシュ・グループからスナップショットを除去して、それを新しいリフレッシュ・グループに追加するか、またはこの 2 つのリフレッシュ・グループを結合して、1 つのリフレッシュ・グループにしてください。

ORA-23411: スナップショット <名前> . <名前> はリフレッシュ・グループ <名前> . <名前> 内にありません。

原因: 指定したスナップショットは、指定したリフレッシュ・グループに存在しません。

解決方法: 正しいスナップショット名とリフレッシュ・グループ名を使用して、再実行してください。

ORA-23412: マスター表の主キー列が変更されました。

原因: 主キー・スナップショットが作成された後にマスター表の主キー制約が変更されました。

解決方法: 主キー・スナップショットを削除してから再作成してください。

ORA-23413: 表<名前> . <名前> にスナップショット・ログがありません。

原因: マスター表にスナップショット・ログが格納されていないので、高速リフレッシュを実行できません。

解決方法: CREATE SNAPSHOT LOG コマンドを使ってマスター表にスナップショット・ログを作成してください。

ORA-23414: スナップショット・ログに rowid が記録されていません。

原因: ROWID スナップショットが高速リフレッシュされていますが、スナップショット・ログは ROWID 情報を記録していません。

解決方法: CREATE SNAPSHOT LOG...ADD ROWID コマンドを使って、スナップショット・ログへの ROWID 情報の記録を開始してください。

ORA-23415: スナップショット・ログに主キーが記録されていません。

原因: 主キー・スナップショットが高速リフレッシュされていますが、スナップショット・ログは主キー情報を記録していません。

解決方法: CREATE SNAPSHOT LOG...ADD PRIMARY KEY コマンドを使って、スナップショット・ログへの主キー情報の記録を開始してください。

ORA-23416: 表に主キー制約がありません。

原因: マスター表に主キー制約がありません。または、主キー制約が使用禁止になっていました。

解決方法: マスター表に主キー制約を作成するか、既存の制約を使用可能にしてください。

ORA-23417: 不明なスナップショットのタイプ<名前>です。

原因: 不明なタイプまたはサポートされていないタイプのスナップショットに対して高速リフレッシュが実行されました。

解決方法: ALL_SNAPSHOTS を確認し、リフレッシュされたスナップショットが有効なスナップショットであることを確認してください。

ORA-23418: 現在使用しているプロパゲータの登録は取り消せません。

原因: プロパゲータは現在レプリケーション RPC の伝播に使われています。

解決方法: レプリケーション RPC の伝播でアクティブなトランザクションがなくなってから、再試行してください。

ORA-23419: レプリケーション・サポート再生成後にマスター・アクティビティを再開してください。

原因: レプリケーション・サポートの再生成を必要とする表がオブジェクト・グループ内にあります。

解決方法: ALL_REPOBJECTS ビューの GENERATION_STATUS 列を確認してください。オブジェクト・グループ内で「NEEDSGEN」ステータスになっているすべての表についてレプリケーション・サポートを再生成してください。マスター・アクティビティを再開してください。

ORA-23420: INTERVAL は未来の時刻に評価されなければなりません。

原因: パラメータ INTERVAL は、SYSDATE よりも前の時刻の数値を求めます。

解決方法: SYSDATE よりも後の時刻の数値を求める式を選択してください。

ORA-23421: ジョブ番号<数値> はジョブ待ち行列内のジョブではありません。

原因: 指定したジョブ番号で呼出し側が参照できるジョブはありません。

解決方法: 呼出し側が参照できるジョブの番号を選択してください。

ORA-23422: Oracle Server が未使用のジョブ番号を生成できません。

原因: 別のジョブを認識するのに使用されなかったジョブ番号を、Oracle Server が生成できませんでした。

解決方法: 操作を再試行してください。

ORA-23423: ジョブ番号: <数値> が正の数ではありません。

原因: 指定したジョブ番号は 1 未満です。

解決方法: 正の整数を選択してください。

ORA-23424: 名前 <名前> でスナップショット *basename.extension* が登録されていません。

原因: 指定したスナップショットは、このサイトに正常に登録されていません。

解決方法: マスター・サイトまたはスナップショット・サイトに、スナップショットを手動で登録してください。

ORA-23425: スナップショット識別子<名前>が無効です。

原因: DBMS_SNAPSHOT.PURGE_SNAPSHOT_FROM_LOG に指定された引数が無効なスナップショット識別子であるか、この引数が Oracle 8 の高速リフレッシュ可能スナップショットを認識しないか、スナップショットがすでにパージされているかのいずれかです。

解決方法: スナップショットが Oracle 8 の高速リフレッシュ可能スナップショットである場合は、PURGE_SNAPSHOT_FROM_LOG に有効なスナップショット識別子を指定してください。

ORA-23426: 遅延 RPC キューにはエントリ: <名前>があります。

原因: 要求したアクションは、指定したサイト / データベース・リンクに対してキューが空になるまで実行できません。

解決方法: DBMS_DEFER_SYS.PUSH または DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE、DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

ORA-23427: 遅延パージ・キュー引数: <名前>は有効範囲にありません。

原因: DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE に対して指定された数値引数が無効です。

解決方法: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23430: 引数<名前>は NULL であることも空の文字列であることもできません。

原因: 値を NULL または空の文字列を指定できない引数を出し側が指定しました。

解決方法: 指定された VARCHAR2 の値が NULL または空の文字列でないことを確認し、コールを再試行してください。

NULL および VARCHAR2 の詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の索引項目「NULL」、「VARCHAR2」を参照してください。

ORA-23431: 間違った状態: <名前>

原因: 複製オブジェクト・グループに対してルーチンが実行されましたが、このグループの状態が正しくありません。

解決方法: 複製オブジェクト・グループがエラー・メッセージに示されている状態にあるかどうかを確認してください。

複製スキーマの詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「複製スキーマ」を参照してください。

ORA-23432: マスターサイト: <名前>がすでに存在します。

原因:すでにオブジェクト・グループの一部であるマスター・サイトの複製オブジェクト・グループをインスタント化しようとした。

解決方法:このサイトを追加しようとしていた場合は、このサイトはすでに存在しているので、何もしないでください。それ以外の場合は、別のサイトの名前を選択して、ルーチンを再実行してください。

複製スキーマの詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「複製スキーマ」を参照してください。

ORA-23433: 誤ったマスター・サイト *name* に対して実行しています。

原因:ルーチンの引数で指定されているサイトと異なるサイトでルーチンを実行しようとした。

解決方法:ルーチンの実行対象のサイトを正しく示すルーチンに対して引数を指定してください。

サイトの優先順位の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「サイトの優先順位」を参照してください。

ORA-23434: マスター・サイト *name* はオブジェクト・グループでは不明なマスター・サイトです。

原因:ルーチンの引数として指定されたサイト名はまだ複製オブジェクト・グループに認識されていません。

解決方法:DBMS_OFFLINE_SCHEMA.BEGIN_INSTANTIATION() ルーチンを実行して複製スキーマに新しいサイトを追加してください。

サイトの優先グループへのメンバー追加の詳細は、『Oracle8 Server 分散システム』の索引項目「サイトの優先グループへのメンバーの追加」を参照してください。

ORA-23435: LOB 列を持つ更新可能な ROWID スナップショットが作成できません。

原因:スナップショット・サイトからマスター・サイトに LOB データを波及するには、レプリケートされた表に主キーが必要です。したがって、LOB 列を含む更新可能な ROWID スナップショットはサポートされません。

解決方法:ROWID スナップショットではなく、主キー・スナップショットを作成してください。スナップショットがすでにある場合には、ALTER SNAPSHOT DDL コマンドで主キー・スナップショットに変換できます。

拡張問合せ用管理インタフェース・メッセージ: 24000 ~ 24099

ORA-24000: 値: *name* が無効です。 *name* の形式は、[SCHEMA.]NAME でなければなりません。

原因:パラメータに無効な値が指定されました。

解決方法:フォーム [SCHEMA.]NAME の文字列を指定してください。

ORA-24001: QUEUE_TABLE を作成できません。 <名前> がすでに存在します。

原因: このキュー表はすでにキューイング・システムに存在しています。

解決方法: DROP_QUEUE_TABLE() コマンドを使用して最初に表を削除するか、別の表を指定してください。

ORA-24002: QUEUE_TABLE name は存在しません。

原因: QUEUE_TABLE は存在しません。

解決方法: ユーザー・ビュー USER_QUEUE_TABLES を問合せで、既存のキュー表を確認してください。

ORA-24003: キュー表の索引: <名前> が、キュー表: <名前> と不整合です。

原因: キュー表の索引が正常にインポートされていません。

解決方法: キュー表のキューを使用する前に、キュー表の索引をインポートしてください。インポートが失敗した場合は、問題を訂正して、キュー表の索引のインポートを再試行してください。

ORA-24004: SORT_LIST の列名: <名前> は無効です。ENQ_TIME または PRIORITY が必要です。

原因: SORT_LIST に無効な列名が指定されました。

解決方法: 有効な列名は ENQ_TIME および PRIORITY です。

ORA-24006: QUEUE を作成できません。 <名前> はすでに存在します。

原因: 作成が要求されたこのキューはすでに存在しています。

解決方法: 別のキュー名を指定してください。ユーザーのスキーマに存在するすべてのキューを USER_QUEUES に問合せてください。

ORA-24007: 値: <数値> が無効です。MAX_RETRIES には負数ではない整数が必要です。

原因: MAX_RETRIES に無効な値が指定されました。

解決方法: 非負整数を指定してください。

ORA-24009: 値: <数値> が無効。QUEUE_TYPE には NORMAL_QUEUE または EXCEPTION_QUEUE が必要です。

原因: キュー・タイプ・パラメータが無効です。

解決方法: 標準キューに対する有効値は NORMAL_QUEUE で、例外キューに対する有効値は EXCEPTION_QUEUE です。

ORA-24010: キュー: <名前> が存在しません。

原因: 指定されたキューが存在しません。

解決方法: 有効なキューを指定してください。USER_QUEUES にすべての有効なキューを問合せってください。

ORA-24011: QUEUE を削除できません。最初に <名前> を停止する必要があります。

原因: キューが停止されていません。つまり、ENQUEUE または DEQUEUE がまだ使用可能になっています。

解決方法: STOP_QUEUE コマンドを使ってキューを停止してから、エンキューおよびデキューを使用禁止にしてください。

ORA-24012: QUEUE_TABLE を削除できません。 <名前> 内のキューの一部が削除されていません。

原因: キュー表に削除されていないキューが存在します。すべてのキューを削除する必要があります。

解決方法: drop_queue() コマンドを使って、このキュー表に属するキューをすべて削除してください。削除する前にキューを適切に停止させてください。または、DROP_QUEUE_TABLE の FORCE オプションを使用してください。

ORA-24013: 値: <数値> が無効です。RETRY_DELAY には負数ではない値が必要です。

原因: RETRY_DELAY に負の値が指定されました。

解決方法: RETRY_DELAY に負以外の値を指定してください。

ORA-24014: 値: <数値> が無効です。RETENTION_TIME には FOREVER または非負数が必要です。

原因: キュー保持時間が指定されましたが、保持時間が 0 (ゼロ) 未満に指定されています。

解決方法: 保持時間には負以外の値または FOREVER を指定してください。または、保持時間を指定しないでください。

ORA-24015: QUEUE_TABLE を作成できません。QUEUE_PAYLOAD_TYPE が存在しません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内に指定された QUEUE_PAYLOAD_TYPE が無効です。

解決方法: QUEUE_PAYLOAD_TYPE には、RAW またはデータベースにすでに存在するオブジェクト型が必要です。

ORA-24016: QUEUE_TABLE を作成不可。QUEUE_PAYLOAD_TYPE の実行権限がありません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内の QUEUE_PAYLOAD_TYPE に指定したオブジェクト型が無効です。

解決方法: キューに指定したオブジェクト型に対し、実行権限を所有する必要があります。

ORA-24017: QUEUE のエンキューを使用可能にできません。name は例外キューです。

原因: 例外キューに対してエンキューを使用可能にしようとした。

解決方法: なし。

ORA-24018: <名前>の STOP_QUEUE に失敗しました。未処理のトランザクションがありました。

原因: キューに未処理のトランザクションがあり、WAIT が FALSE に設定されていたため、キューの停止時に STOP_QUEUE が失敗しました。

解決方法: WAIT を TRUE に設定し、STOP_QUEUE を再試行してください。未処理のトランザクションがすべて完了するまで停止します。

ORA-24019: 名前に対する識別子が長すぎます。 num 文字を超えることはできません。

原因: 指定されたキュー名が長すぎます。

解決方法: 24 文字長以下の識別子を指定してください。より短い名前ですべて再試行してください。

ORA-24020: DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL で内部エラーです。 <名前>

原因: パッケージ DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL で内部エラーが発生しました。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24021: キュー表の定義が<名前>。 <名前>にインポートされていません。

原因: キュー表が正しくインポートされなかったため、キュー定義が更新されていません。

解決方法: キュー表を再度インポートしてください。

ORA-24022: 指定されたパラメータはキューに使用できません。

原因: このパラメータの組合せではキューが開始または停止しません。

解決方法: なし。これは警告メッセージです。

ORA-24025: 値が無効。QUEUE_PAYLOAD_TYPE には RAW またはオブジェクト型が必要です。

原因: パラメータ QUEUE_PAYLOAD_TYPE の値が無効です。

解決方法: 有効なオブジェクト型または RAW を指定してください。

ORA-24031: 値が無効です。 <名前> には NULL でない値が必要です。

原因: パラメータが NULL です。

解決方法: パラメータに NULL 以外の値を指定してください。

ORA-24032: オブジェクト: <名前> は存在しています。キュー表: <名前> の索引は作成できませんでした。

原因: Oracle アドバンスト・キューイングで、エラー・メッセージに指定した名前を使って索引を作成しようとした。同じ名前のオブジェクトが存在するため、指定したキュー表に対し、索引を作成できませんでした。

解決方法: エラー・メッセージに指定したオブジェクトを削除し、コマンドを再試行してください。別の名前のキュー表を選択することもできます。

ORA-24033: メッセージの利用者または受信者が存在しません。

原因: 複数のデキュー元に対して設定されているキューに対しエンキューが実行されましたが、キューに対するデフォルトの加入者も、コールに指定された受信者もありませんでした。

解決方法: デフォルトの加入者をキューに追加するか、エンキュー・コールに受信者リストを渡してください。

ORA-24034: アプリケーション: <名前> はすでにキュー: <名前> の利用者です。

原因: すでにキューの加入者であるアプリケーション名を DBMS_AQ.SUBSCRIBE コールに指定しました。

解決方法: 別のアプリケーション名を選択し、コールを再試行してください。

ORA-24035: AQ エージェント名がキュー名の利用者ではありません。

原因: キューの加入者ではない AQ エージェントが指定されました。

解決方法: エージェントの名前および / またはアドレスを確認し、コールをやり直してください。

ORA-24036: キュー表に対して指定された SORT_ORDER 列: <名前> が無効です。

原因: キュー表の作成コマンドが、TRANSACTIONAL に設定された MESSAGE_GROUPING および 優先順位でないソート順序列を使って発行されました。トランザクション別にグループ化されたキュー表では、優先順位列だけがソート順序に指定できます。

解決方法: キュー表の作成コマンドのソート順序リストを変更して、コールを再試行してください。

ORA-24037: QUEUE_NAME のスキーマ: <名前> は QUEUE_TABLE のスキーマ: <名前> と同じではありません。

原因: CREATE_QUEUE の QUEUE_NAME パラメータに指定したスキーマが、QUEUE_TABLE パラメータに指定したスキーマと同じ名前ではありません。

解決方法: QUEUE_NAME パラメータおよび QUEUE_TABLE パラメータに対して同じスキーマ名を使用し、コマンドを再試行してください。

ORA-24038: 複数 consumer キューに対して RETRY_DELAY は指定できません。

原因: CREATE_QUEUE コマンドまたは ALTER_QUEUE コマンドが、0 (ゼロ) でない RETRY_DELAY および複数の消費者に対して作成された QUEUE_TABLE を使って発行されました。

解決方法: RETRY_DELAY を 0 (ゼロ) に設定するか、複数の消費者に対して作成されていないキュー表にキューを作成してください。

ORA-24039: 複数消費者用のキュー表にキュー: <名前> が作成されません。

原因: 空でない受信者リストの ADD_SUBSCRIBER または REMOVE_SUBSCRIBER、ENQUEUE が、複数の消費者に対して作成されていないキューに対し発行されました。

解決方法: 複数の消費者に対して作成されているキュー表にキューを作成し、コールを再試行してください。

ORA-24041: 伝播スケジュールが QUEUE 名と DESTINATION 名に存在しています。

原因: A SCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、すでに伝播スケジュールがあるあて先ペアに発行されました。

解決方法: UNSCHEDULE_PROPAGATION を発行し、既存のスケジュールを取り消し、SCHEDULE_PROPAGATION コールを再発行してください。

ORA-24042: QUEUE 名と DESTINATION 名に伝播スケジュールがありません。

原因: AN UNSCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、伝播スケジュールがないあて先ペアに発行されました。

解決方法: 指定した QUEUE と DESTINATION のスペルを確認し、正しいスペルでコールを再発行してください。

ORA-24043: あて先名が確保されている名前、AQ\$_prefix が有効でない名前を使っています。

原因: 確保されている名前をあて先に指定しようとした。

解決方法: 別の値か NULL をローカルあて先に入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24044: ソース名とあて先名のオブジェクト型が一致しません。

原因: メッセージの受信者のキューは、送信者のキューと違うオブジェクト構造になっています。メッセージが伝播できません。

解決方法: 受信者を送信者のキューの加入者リストからはずすか、ソース・キューのオブジェクト型に一致するオブジェクト型のあて先キューを作成します。

ORA-24045: エージェント・アドレス num が無効です。エージェント・アドレスはフォーム [SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] でなければなりません。

原因: エージェント・アドレス・パラメータに無効な値が指定されました。

解決方法: フォーム [SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] の文字列を指定してください。

ORA-24046: 今後使用予定のプロトコル属性

原因: AQ エージェント・オブジェクト型のプロトコル属性は今後使用される予定です。

解決方法: エージェント・オブジェクト型の中でプロトコル属性を指定しないでください。

ORA-24047: エージェント name 名が無効です。エージェント名の形式は NAME でなければなりません。

原因: エージェント名パラメータに無効な値が指定されました。

解決方法: フォーム NAME の文字列を指定してください。操作を再試行してください。

DBMS_HO サポート・パッケージ・メッセージ : 24270 ~ 24279

ORA-24270: <名前>にこれらのパラメータに対する行がすでに存在しています。

原因: 指定された表内に新しい行を作成するコールが実行されました。その表には指定された値を持つ行がすでに存在します。

解決方法: 適切な API を使って既存の行を削除するか、行を作成するときに使ったパラメータを確認してください。

ORA-24271: 変換タイプは T、S、M のいずれかでなければなりません。

原因: 変換タイプ・パラメータが T、S、M のいずれでもありません。T または S、M 以外の値が指定されました。

解決方法: 変換タイプを修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24272: 初期化の値は F または T でなければなりません。

原因: 初期化の値は F または T でなければなりません。F または T 以外の値が指定されました。

解決方法: 初期化値を修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24273: 変換タイプが T または S のときは変換テキストが必須です。

原因: 変換タイプに T または S が指定されている場合は、変換テキストを指定する必要があります。

解決方法: 変換テキストを指定し、API コールを再実行してください。

ORA-24274: <名前>表にこれらのパラメータに対する行が存在しません。

原因: 存在しない行を更新するコールが実行されました。または、表を作成するために指定された外部キー値が存在しません。

解決方法: 適切な API を使って行を作成してください。または、新しい行を作成するために使ったパラメータを確認して、指定されたすべての値が存在することを確認してください。

ORA-24275: ファンクション: <名前>パラメータ: <名前>がないか、または無効です。

原因: NULL または長さゼロ (0) 無効な値を持っているパラメータを使って関数がコールされました。

解決方法: マニュアルに指定されているデータ型と制限に準拠した値を提供するように、パラメータを訂正してください。

ORA-24276: 関数 <名前>の出力 <名前>が最大値を超えました。

原因: 関数が、許容される最大値を超える出力パラメータの値を算出しました。個別ではそれぞれ有効な複数の入力パラメータが組み合わさって無効な結果を指定すると、このエラーが発生することがあります。たとえば、長さパラメータにコピー・パラメータを掛けたものが出力データ型の最大値を超える合計長になる場合などです。

解決方法: 入力値を訂正して、マニュアルに指定された制限に準拠する結果を生成してください。

ORA-24277: <名前>を実行する権限が不十分です。

原因: このプロシージャに対するアクセスは、起動した者が持たない、ある権限を与えられたユーザーに制限されます。

解決方法: マニュアルを確認して、指定したプロシージャを実行するために必要な権限を確認してください。

ORA-24278: 権限タイプが一致しません。

原因: 実行権のようなオブジェクトに関する権限、またはライブラリ作成権のようなユーザーに対する権限が、ユーザーに付与できます。それらは、異なるタイプの権限です。ユーザー権限表にオブジェクト権限を挿入できません。その逆も同じです。

解決方法: 権限タイプが正しいか確認してください。

ORA-24279: ライブラリを作成するには権限が不十分です。

原因: リモート・ライブラリ作成権限を持たずに、リモート・ライブラリを作成しようとした。

解決方法: ローカル DBA は、DBMS_HS_EXTPROC.GRANT_CREATE_LIBRARY() を呼び出して、ライブラリ作成権限をリモート・ユーザーに付与する必要があります。

DBMS_LOB (FILE) パッケージ・メッセージ : 24280 ~ 24299

ORA-24280: パラメータ: <名前>の入力値が無効です。

原因: パラメータの入力値に負の数または範囲外、NULL が指定されました。

解決方法: マニュアルの記述にしたがって、入力値を有効かつ範囲内のものに修正してください。

ORA-24281: LOB パラメータ: *name* の最大サイズを超えるアクセスは無効です。

原因: 位置パラメータまたはサイズ・パラメータの値が、LOB で許可されている 4GB の最大サイズを超えています。

解決方法: 合計が 4GB 以下になるように、量およびオフセットの入力値を修正してください。読み込みまたは書き込みループでエラーが発生する場合は、ループ条件またはオフセット増分値、あるいはその両方を確認してください。

UPI/OCI メッセージ : 24300 ~ 24999

他の OCI メッセージは、337 ページの「OCI LOB/FILE 関連メッセージ : 24800 ~ 24999」および 351 ページの「トランザクション OCI メッセージ : 25350 ~ 25375」を参照してください。

ORA-24300: モードの値が無効です。

原因: 指定したモード値は未定義でした。

解決方法: 正しいモードが選択され、モードに対して有効な値が指定されていることを確認してください。

モード値の詳細は、『Oracle コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「モード、C の場合のパラメータ」および「モード、COBOL の場合のパラメータ」、「モード、FORTRAN の場合のパラメータ」を参照してください。

ORA-24301: NULL ホストが thread-safe ログオン内に指定されました。

原因: スレッド安全環境で実行していましたが、HDA がログオン・コールで指定されませんでした。

解決方法: ログオン・ルーチンをコールするときに HDA が NULL ではないことを確認してください。

ホスト・データ領域 (HDA) および OCI データ構造の定義の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「ホスト・データ領域」および「データ構造の定義」を参照してください。

ORA-24302: ホスト接続が別のスレッドで使用中です。

原因: 別のスレッドでホストを使用していましたが、ホスト接続を使用しようとした。

解決方法: 他のスレッドが完了するのを待ってからこの接続を使用してください。

Oracle Server の接続の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「接続、複数」を参照してください。

ORA-24303: 非遅延リンケージではサポートされないコールです。

原因: 遅延モード・リンクで排他的にサポートされていたコールの 1 つが、クライアントが非遅延でリンクされるときに呼び出されました。

解決方法: 遅延モードのリンクでこのコールを使用してください。

遅延モード・リンクの詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「遅延モード・リンク」を参照してください。

ORA-24304: このコールでは許可されないデータ型です。

原因: このデータ型のデータは断片で送信したりフェッチしたりできません。

解決方法: 他のバインドを使用するか、または、このデータ型にコールを定義してください。

バインドとコールの定義の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「開発、OCI プログラム」を参照してください。

ORA-24305: 不正なバインドまたは定義コンテキストです。

原因: カーソルに対してコールが実行されましたが、これは無効です。

解決方法: このコールがこのカーソルに対して有効であることを確認してください。たとえば、適切なバインドおよび定義がこのカーソルに対して実行されている場合、GET PIECE INFORMATION および SET PIECE INFORMATION は有効です。

コールのバインドと定義の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「バインド操作」、「定義操作」を参照してください。

ORA-24306: 不正な断片のバッファです。

原因: 長さゼロまたは NULL のバッファ・ポインタが指定されました。

解決方法: バッファがこの断片を指しているか、またはバッファの長さがゼロでないことを確認してください。断片が最後に挿入されるものでその列に他にデータがない場合は、次の断片用のバッファ・ポインタまたはその長さをゼロにできます。

フェッチ操作の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「行のフェッチ」を参照してください。

ORA-24307: 断片の長さが無効です。

原因: 断片の長さがデータの最大サイズを超えています。

解決方法: この断片の長さとい前のすべての断片の累計の長さが、OBINDPS コールに指定されている PROGVL パラメータを超えていないことを確認してください。

フェッチ操作の詳細は、『Oracle8 コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド :Vol.2』の索引項目「行のフェッチ」を参照してください。

ORA-24308: 指定されたデータ型の変数が無効です。

原因: 存在しない変数に対してデータ型の定義が行われました。

解決方法: この変数に対して定義コールが発行済みであることを確認してください。

ORA-24309: すでにこのサーバーに接続されています。

原因: 指定されたサーバー・ハンドルはすでにサーバーに接続されています。

解決方法: サーバーから切断し、ociattach() コールを再試行してください。

ORA-24310: NULL の接続文字列に長さが指定されました。

原因: 接続文字列が NULL ですが、それに対して長さが指定されました。

解決方法: 接続文字列が NULL の場合は長さを 0 (ゼロ) に設定してください。

ORA-24311: メモリーの初期化に失敗しました。

原因: ユーザー・メモリーを初期化できません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24312: ユーザー・メモリーの割当て用に指定されたパラメータが正しくありません。

原因: ユーザー・メモリーに無効なサイズまたは NULL ポインタが指定されました。

解決方法: ユーザー・メモリーに正しいサイズと有効なポインタを指定してください。

ORA-24313: ユーザーはすでに認証を取得しています。

原因: ユーザーはこのサービス・ハンドルですでに認証を取得しています。

解決方法: 別のユーザー用に使う前に、サービス・コンテキストを終了してください。

ORA-24314: サービス・コンテキストを初期化する前に、明示的に連結する必要があります。

原因: ociisc() コールよりも前に ociatch() コールが実行されませんでした。

解決方法: ociisc() コールよりも前に ociatch() コールを実行してください。

ORA-24315: 属性タイプが無効です。

原因: ハンドルに無効な属性タイプが指定されました。

解決方法: ユーザー・マニュアルの説明にしたがって、このハンドルで有効な属性を指定してください。

ORA-24316: ハンドル・タイプが無効です。

原因: 無効なハンドル・タイプが指定されました。

解決方法: ユーザー・マニュアルの説明にしたがって、有効なハンドル・タイプを指定してください。

ORA-24317: 異なる位置で再定義しています。

原因: 異なる位置で定義が再度行われました。

解決方法: 再定義するときには前回と同じ位置を指定してください。

ORA-24318: スカラー・データ型には使用できないコールです。

原因: スカラー型に対してバインド型のコールまたは定義型のコールが発行されました。

解決方法: この変数のデータ型が指定されたデータ型であることを確認してください。

ORA-24319: 診断記録用のメモリーを割当てられません。

原因: プロセスがメモリーを割当てられませんでした。

解決方法: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

ORA-24320: mutex を初期化できません。

原因: mutex の初期化に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24321: ociapi に渡されたパラメータが矛盾しています。

原因: 3 つのメモリー・ファンクション・ポインタの 1 つが NULL または NULL 以外です。

解決方法: すべてのメモリー・ファンクションが NULL または NULL 以外で統一されていることを確認してください。

ORA-24322: 初期化された mutex は削除できません。

原因: 初期化された mutex の削除に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24323: 値は使用できません。

原因: 必須パラメータに NULL 値または不正な値が渡されました。

解決方法: すべての必須パラメータが正しく初期設定されていることを確認してください。

ORA-24324: サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: 不適切なサービス・コンテキスト・ハンドルが使われようとしてしました。

解決方法: サービス・コンテキスト・ハンドルのすべてのパラメータが初期化され、このコール用に設定されていることを確認してください。

ORA-24325: この OCI 操作は現在使用できません。

原因: 不適切なコンテキスト・ハンドルが使われようとしてしました。

解決方法: このコンテキスト・ハンドルが、他の OCI コール用のログオン・データ領域に変換されたサービス・コンテキストの一部ではないことを確認してください。コンポーネントを使うには、そのログオン・データ領域をサービス・コンテキストに再変換する必要があります。

ORA-24326: 渡されたハンドルはすでに初期化されています。

原因: 初期化されたハンドルが渡されようとしてしました。

解決方法: ハンドルを取り出すために渡されたパラメータが、まだハンドルを指していないことを確認してください。

ORA-24327: ユーザーに認証を与える前に明示的に連結する必要があります。

原因: セッションを作成する前にサーバー・コンテキストを初期化する必要があります。

解決方法: サーバー・ハンドルを作成および初期化してください。

ORA-24328: 属性値が無効です。

原因: 渡された属性値が正しくありません。

解決方法: ユーザー・マニュアルの説明にしたがって、ハンドルに正しい属性値を指定してください。

ORA-24329: キャラクタ・セットの識別子が無効です。

原因: 指定されたキャラクタ・セットの識別子は無効です。

解決方法: OCI コールで有効なキャラクタ・セットの識別子を指定してください。

ORA-24330: 内部 OCI エラーです。

原因: 内部 OCI エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24331: ユーザー・バッファが小さすぎます。

原因: 出力データを格納するユーザー・バッファが小さすぎます。

解決方法: より大きなバッファを指定してください。

ORA-24332: オブジェクト型が無効です。

原因: 記述コールで無効なオブジェクト型が要求されました。

解決方法: 記述コールで有効なオブジェクト型を指定してください。

ORA-24333: 繰返し数が 0 (ゼロ) です。

原因: select 以外の文で繰返し数に 0 (ゼロ) が指定されました。

解決方法: この文を実行する回数を指定してください。

ORA-24334: この位置に対する記述子はありません。

原因: アプリケーションはハンドルから不正な位置の記述子を取得しようとしてしました。

解決方法: ポジション番号を確認してください。

ORA-24335: 1000 列以上はサポートされていません。

原因: 列数がサポートされている最大数を超過しました。

解決方法: 1000 未満の列数を指定してください。

ORA-24336: result set 記述子が無効です。

原因: result set 記述子は、有効なデータをフェッチしてからでないと文ハンドルに変換することはできません。

解決方法: 記述子を文ハンドルに変換する前に、有効なデータをその記述子にフェッチしてください。

ORA-24337: 文の処理が準備されません。

原因: 要求の準備をする前に文を実行することはできません。

解決方法: 文を準備してからそれを実行してください。

ORA-24338: 文の処理が実行されません。

原因: 文の処理を実行する前にフェッチが実行されようとしてしました。

解決方法: 文を実行してからデータをフェッチしてください。

ORA-24340: 256 列以上はサポートされていません。

原因: 列数が、サーバーでサポートされている最大数を超過しました。

解決方法: 操作中の列数を 255 列以下に制限してください。

ORA-24341: 不正なモードが指定されました。

原因: スレッドが作成されていないクライアントに OCI_ENV_NO_MUTEX モードが指定されました。

解決方法: OCI_ENV_NO_MUTEX は、プロセスの初期設定時に OCI_THREADED が指定された場合に指定できます。

ORA-24342: mutex を破棄できません。

原因: mutex の破棄に失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24343: ユーザー定義コールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義コールバック関数の有効な戻り値は OCI_CONTINUE だけです。他の値が戻されるとこのエラーが発生します。

解決方法: ユーザー定義コールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるようにしてください。

ORA-24344: 正常に終了しましたが、コンパイル・エラーがあります。

原因: SQL/PLSQL コンパイル・エラーが発生しました。

解決方法: エラー・コードとともに OCI_SUCCESS_WITH_INFO を戻してください。

ORA-24345: 切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

原因: 切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

解決方法: バッファ・サイズを、戻りデータが格納できる大きさにしてください。操作を再試行してください。

ORA-24346: バインディング変数がないと実行できません。

原因: バインドされている SQL 文のバインド変数がありません。

解決方法: すべての変数をバインドしてから、実行してください。

ORA-24350: この OCI コールは使用できません。

原因: この OCI コールバックはトラステッド 3GL コールアウトからは許可されていません。

解決方法: このコールは使わないでください。

ORA-24351: 無効な日付が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールの 1 つに無効な日付が渡されました。

解決方法: 日付バインド値を確認して、それらを訂正してください。

ORA-24352: 無効な COBOL 表示タイプが OCI コールに渡されました。

原因: 無効な COBOL 表示タイプが OCI コールの 1 つに渡されました。

解決方法: COBOL 表示タイプ・バインド値を確認し、それらを修正してください。

ORA-24353: ユーザー・バッファが小さすぎて COBOL 表示型を格納できません。

原因: COBOL 表示型にユーザーが提供したバッファが小さすぎるため、フェッチされた数値を収容できません。

解決方法: COBOL 表示型バッファの割当てを増やしてください。

ORA-24354: フェッチされた数値が大きすぎて COBOL 表示型バッファに格納できません。

原因: フェッチされた数値が表示できる範囲を超えています。

解決方法: データベース内の数値を確認してください。

ORA-24355: 符号なしの表示型に負数を保存しようとしてしました。

原因: 負数を符号なしの表示型に変換しようとしてしました。

解決方法: データベース内の数値を確認するか、定義されているデータ型を変更してください。

ORA-24356: COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24357: OCIDate への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: OCIDate 型への変換中に内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24358: オブジェクト型または参照に対する OCIBindObject が起動していません。

原因: OCIBindObject が起動されなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

解決方法: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIBindObject コールを起動してください。

ORA-24359: オブジェクト型または参照に対する OCIDefineObject が起動していません。

原因: OCIDefineObject が起動されなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

解決方法: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIDefineObject コールを起動してください。

ORA-24360: オブジェクトのバインド / 定義に対する型記述子オブジェクトが指定されていません。

原因: 型記述子オブジェクトは、オブジェクト型バインドおよび定義に対する必須パラメータです。

解決方法: 有効な型記述子オブジェクトとともに、OCIBindObject() または OCIDefineObject() コールを起動してください。

ORA-24361: 拡張バインド・コールを起動する前に基本バインド・コールが起動していません。

原因: 拡張バインド・コールを実行する前に、このバインド・ハンドルで、基本バインド・コールの 1 つが起動されませんでした。

解決方法: 基本バインド・コールを実行した後にだけ、このバインド・ハンドルで、拡張バインド・コールを起動してください。

ORA-24362: 文字件数フラグの使用方法が適切ではありません。

原因: 文字件数フラグを設定するとき、サーバー内のバッファの最大サイズは、ゼロ以外に指定すべきです。

解決方法: サーバー内のバッファの最大サイズに、ゼロ以外の値を使用してください。

ORA-24363: 文字数の計算が不当です。

原因: サーバーまたはクライアントいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合、バイトの代わりである文字数計算は無効です。

解決方法: クライアントまたはサーバーいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合、バインド・ハンドルに対して、OCI_ATTR_CHAR_COUNT 属性を使用しないでください。そのかわりに、OCI_ATTR_MAXDATA_SIZE を使用してください。

ORA-24364: ブランクの埋込み中に内部エラーが発生しました。

原因: 文字列データのブランクに埋込みをしようとしているときに、内部エラーが発生しました。このエラーは通常は発生しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24365: 文字変換でエラーが発生しました。

原因: ソース・データが、マルチバイト文字の中央で異常終了している場合、マルチバイト文字データの変換中、通常このエラーが発生します。

解決方法: すべてのマルチバイト文字データが適切に終了していることを確認してください。

ORA-24366: 移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されています。

原因: これはユーザー認証中に発生します。移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されてしまっています。

解決方法: サービス・ハンドルが、別のユーザーの認証に使用されているとき、移行可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定しないでください。

ORA-24367: ユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されていません。

原因: これは移行可能なユーザーの認証中に発生します。移行不可能なユーザー・ハンドルが、サービス・ハンドルに設定されていません。

解決方法: サービス・ハンドルが、移行可能なユーザーの認証に使用されているとき、移行不可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定しないでください。

ORA-24368: ハンドルの解放時に OCI mutex カウンタがゼロになっていません。

原因: 内部 OCI エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24369: 1 つ以上のバインド・ハンドルに、必要なコールバックが登録されていません。

原因: RETURNING 句の一部ではない 1 つ以上のバインド・ハンドルに対して、コールバックが登録されていません。

解決方法: RETURNING 句を持つ DML 文のデータを受け取るバインド・ハンドルは、それらのモードを DATA_AT_EXEC に設定し、コールバック関数は、OCIBindDynamic を使用して、これらのバインド・ハンドルに登録する必要があります。

ORA-24370: 試行された区分的操作は無効です。

原因: 区分的操作をサポートしないあるデータ型のデータが、断片で送信またはフェッチされています。

解決方法: 区分的操作をサポートしないデータ型に対する、OCI_ONE_PIECE に区分値を常に設定してください。

ORA-24371: データが大きすぎるため現行の事前取出しバッファに格納できません。

原因: 内部 OCI エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24372: 記述対象のオブジェクトが無効です。

原因: 記述されるオブジェクトが無効です。それは、コンパイルまたは認可のエラーのいずれかです。

解決方法: 記述されるオブジェクトを有効にする必要があります。

ORA-24373: 文に無効な長さが指定されました。

原因: 0 か、大きすぎる長さが文に指定されました。

解決方法: 文に有効な長さを指定してください。

ORA-24374: フェッチあるいは実行してフェッチする前に定義していません。

原因: アプリケーションがフェッチ・コールを発行する前、あるいは実行コール内に 0 以外の行カウントを指定してフェッチを呼び出す前に、フェッチされたデータのアウトプット変数を定義していません。

解決方法: OCI 定義コールをフェッチする列に発行してください。

ORA-24375: V8 サーバーと会話している時、V6 構文は使えません。

原因: V6 構文は V8 サーバーではサポートされなくなりました。

解決方法: 構文を V7 構文あるいはそれ以上の構文に変えてください。

ORA-24750: 属性のサイズが正しくありません。

原因: トランザクション ID の属性のサイズが正しくありません。

解決方法: サイズ・パラメータが正しいことを確認してください。

ORA-24752: ローカル・トランザクションに OCI_TRANS_NEW フラグを指定しなければなりません。

原因: アプリケーションが OCI_TRANS_NEW を使わずにローカル・トランザクションを開始しようとしてしました。

解決方法: ローカル・トランザクションを開始するときには OCI_TRANS_NEW を使ってください。

ORA-24753: ローカル・トランザクションは連結解除できません。

原因: ローカル・トランザクションの連結解除が試行されました。

解決方法: ローカル・トランザクションはコミットまたはロールバックしかできません。

ORA-24754: アクティブ・トランザクションと一緒に新規トランザクションを起動できません。

原因: アクティブ・トランザクションがあるときに新規トランザクションを開始しようとしてしました。

解決方法: 新規トランザクションを開始する前に、既存のトランザクションをコミットまたはロールバック、連結解除してください。

ORA-24755: OCI_TRANS_NOMIGRATE、OCI_TRANS_JOIN オプションはサポートされていません。

原因: これらのフラグは現在サポートされていません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24756: トランザクションが存在しません。

原因: 無効なトランザクション識別子またはコンテキストが使われました。またはトランザクション完了済みです。

解決方法: トランザクションが完了していない場合は、有効な識別子を指定してコールを再試行してください。

ORA-24757: トランザクション識別子が重複しています。

原因: 既存のトランザクションですでに使われている識別子で新規トランザクションを開始しようとしてしました。

解決方法: 識別子が使用中でないことを確認してください。

ORA-24758: 要求されたトランザクションには連結していません。

原因: 現行のトランザクション以外のトランザクションに対して連結解除または完了が試行されました。

解決方法: トランザクション・コンテキストが現行のトランザクションを参照していることを確認してください。

ORA-24759: トランザクション起動フラグが無効です。

原因: 無効なトランザクション起動フラグが渡されました。

解決方法: OCI_TRANS_NEW、OCI_TRANS_JOIN、OCI_TRANS_RESUME のいずれかの値が指定されていることを確認してください。

ORA-24760: 分離レベル・フラグが無効です。

原因: 無効な分離レベル・フラグが渡されました。

解決方法: OCI_TRANS_READONLY、OCI_TRANS_READWRITE、OCI_TRANS_SERIALIZABLE の値のいずれか 1 つだけが使われていることを確認してください。

ORA-24761: トランザクションがロールバックされました。

原因: アプリケーションがトランザクションのコミットを試行し、サーバーがそれをロールバックしました。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24762: 予期せぬエラーのためサーバーに障害が発生しました。

原因: サーバー・コミット・プロトコルで内部エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24763: トランザクション操作を完了できません。

原因: セッションを指定されたトランザクションに切り換えられないので、今はコミットまたはロールバックを実行できません。

解決方法: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-24764: トランザクション・ブランチはヒューリスティックにコミットされています。

原因: これは情報メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24765: トランザクション・ブランチはヒューリスティックにロール・バックされています。

原因: これは情報メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24766: トランザクション・ブランチは部分的にコミットされ、異常終了しました。

原因: これは情報メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24767: トランザクションは読み専用で、コミットされています。

原因: これは情報メッセージです。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-24768: サーバーでコミット・プロトコル・エラーが発生しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24769: アクティブ・トランザクションは無視できません。

原因: トランザクション識別子がアクティブ・トランザクションを参照しています。

解決方法: アクティブ・トランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24770: 準備完了状態のトランザクションは無視できません。

原因: トランザクション識別子が準備完了状態のトランザクションを参照しています。

解決方法: 準備完了状態のトランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24771: ローカル・トランザクションは連結解除、準備、無視はできません。

原因: サービス・ハンドルにローカル・トランザクション・コンテキストが含まれています。

解決方法: トランザクション・コンテキストがローカル・トランザクションを参照していないことを確認してください。

ORA-24772: 密結合と疎結合のブランチは一緒に処理できません。

原因: アプリケーションはグローバル・トランザクション識別子および誤ったオプションでトランザクションを開始しようとしていました。

解決方法: グローバル・トランザクションのすべてのブランチが OCI_TRANS_TIGHT オプションまたは OCI_TRANS_LOOSE オプションで開始されていることを確認してください。アプリケーションが正しく、分散更新を使っている場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24773: トランザクション・タイプのフラグが無効です。

原因: OCI_TRANS_TIGHT モードまたは OCI_TRANS_LOOSE モードが指定されませんでした。

解決方法: 正しいパラメータが使われていることを確認してください。

ORA-24774: 指定されたトランザクションに切り換えられません。

原因: コールで指定されたトランザクションが、別のユーザーによって作成されたトランザクションを参照しています。

解決方法: 切り換え可能にするために、トランザクションを同じ認証で作成してください。

ORA-24775: 0(ゼロ)以外のロック値をもつトランザクションは準備またはコミットできません。

原因: 0以外のロック値をもつトランザクションを連結解除しようとした。

解決方法: ロック値を 0(ゼロ)に設定してトランザクションを連結解除し、その後でトランザクションの準備またはコミットを試行してください。

ORA-24776: 新規トランザクションを起動できません。

原因: セッションがすでに既存のトランザクションに連結されているときに、新規トランザクションを起動しようとした。

解決方法: 現行のトランザクションを終了してから新規トランザクションを作成してください。

ORA-24777: 移行可能なトランザクションを作成できません。

原因: トランザクションは、非マルチスレッド・サーバー・インスタンスからリモート・データベースにアクセスしようとした。

解決方法: ローカル・データベースで作業を実行するか、クライアントからリモート・データベースへの接続をオープンしてください。マルチスレッド・サーバー・オプションがインストールされている場合は、ディスパッチャを介して Oracle インスタンスに接続してください。

ORA-24778: 接続をオープンできません。

原因: セッション自体がリモート・データベースへの接続をオープンしているときに、移行可能なトランザクションがリモート・データベースにアクセスしようとした。

解決方法: セッション内の接続をクローズした後で、移行可能なトランザクションからリモート・データベースへのアクセスを試行してください。それでもエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

OCI LOB/FILE 関連メッセージ : 24800 ~ 24999

他の OCI メッセージは、324 ページの「UPI/OCI メッセージ : 24300 ~ 24999」および 351 ページの「トランザクション OCI メッセージ : 25350 ~ 25375」を参照してください。

ORA-24801: OCI lob 関数のパラメータ値が無効です。

原因: OCI lob 関数内のパラメータ値の 1 つが無効です。

解決方法: OCI Lob 関数コールのすべてのパラメータを確認し、それらが正しいことを確認してください。オフセットは 1 以上でなければなりません。

ORA-24802: ユーザー定義 lob 読み込みコールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義 lob 読み込みコールバック関数で有効な戻り値は OCI_CONTINUE だけです。他の値が戻されるとこのエラーが発生します。

解決方法: ユーザー定義 lob 読み込みコールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるか確認してください。

ORA-24803: lob read 関数のパラメータ値が無効です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: このエラーは通常は発生しません。このエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24804: lob write 関数のパラメータ値が無効です。

原因: 原因 : 内部エラーです。

解決方法: このエラーは通常は発生しません。このエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-24805: LOB のタイプが一致しません。

原因: LOB ロケータをコピーまたは追加するときは、コピーまたは追加元とコピーまたは追加先の両方の LOB ロケータが同じ型でなければなりません。

解決方法: コピーまたは追加の際には同じ型の LOB ロケータを渡してください。

ORA-24806: LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB に対して読み込みまたは書き込みを行うときは、ユーザー・バッファのキャラクタ・セット・フォームが LOB のキャラクタ・セット・フォームと同じでなければなりません。

解決方法: 読み込みまたは書き込みに使うバッファが LOB のバッファと同じフォームであることを確認してください。

ORA-24807: LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB をコピーまたは追加するときは、コピーまたは追加元とコピーまたは追加先の両方の LOB ロケータが同じキャラクタ・セット・フォームでなければなりません。

解決方法: LOB をコピーまたは追加するときは、同じキャラクタ・セット・フォームのロケータを渡してください。

ORA-24808: ロブ・バッファリング使用時に、ロブ・データをストリーム式にはできません。

原因: LOB バッファリングが、入力 lob ロケータに対して使用可能なとき、ポーリング・モードまたはコールバックを介して、LOB データをストリームしようとした。

解決方法: 少量の LOB データの読み込み / 書き込みを行うとき、ストリーミングは不必要なので、LOB バッファリングが役に立ちます。ストリーミングを使用しないように、OCILobRead/OCILobWrite コールを修正してください。データのストリーミングが必要な場合、LOB バッファリングは使用すべきではありません。この場合、必要に応じて入力 LOB ロケータに関連するバッファをフラッシュし、入力 LOB ロケータのバッファリングを使用禁止にし、OCILobRead/OCILobWrite コールを再発行してください。

ORA-24809: 指定された量が多すぎるため LOB バッファに格納できません。

原因: 入力 LOB ロケーターに LOB バッファリングが使えません。このためバッファリングが使われます。しかしバッファが保持できる以上の LOB データを読み込もう、あるいは書き込もうとしました。

解決方法: 入力 LOB ロケータのバッファリングを使用禁止にして、コマンドを再発行するか、小さな量を渡してください。

ORA-24810: 指定された以上のデータを書き込もうとしました。

原因: LOB に書き込んでいる間、指定された以上のデータが供給されました。

解決方法: データがピースで書かれていたら、示した以上のデータをピースで（累積的に）提供していないかどうかを確かめてください。

ORA-24811: 示された次のデータが書き込みに提供されました。

原因: LOB に書き込んでいる間、指定された以下のデータが供給されました。

解決方法: データがシングル・ピースで書かれていたら、指定されたバッファ長が十分に、提供されるデータが入ることを確認してください。データがピースで書かれていたら、すべてのデータが OCI_LAST_PIECE を指定する前に提供されていることを確認してください。

トリガー・メッセージ: 25000 ~ 25099

この節では、トリガーのアクセス時に生成されるメッセージを記載しています。他のトリガー・メッセージは、51 ページの「トリガー・メッセージ: 04070 ~ 04099」を参照してください。

ORA-25000: トリガーの WHEN 句内のバインド変数の使用が無効です。

原因: トリガーの WHEN 句でバインド変数が使用されました。

解決方法: バインド変数を削除してください。表の列にアクセスするには (new/old).column_name. を使用してください。

トリガーの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「トリガー」を参照してください。

ORA-25001: このトリガー型はビューには作成できません。

原因: ビューで作成できるのは INSTEAD OF トリガーだけです。

解決方法: トリガー型を INSTEAD OF に変更してください。

ORA-25002: INSTEAD OF トリガーは表には作成できません。

原因: 表で作成できるのは BEFORE または AFTER トリガーだけです。

解決方法: トリガー型を BEFORE または AFTER に変更してください。

ORA-25003: トリガーのこの列型の NEW 値は変更できません。

原因: オブジェクトまたは REF、ネストした表、VARRAY、サポートされていない LOB データ型の NEW トリガー変数を変更しようとしてしました。

解決方法: トリガー本体では NEW トリガー変数を変更しないでください。

ORA-25004: INSTEAD OF トリガーに WHEN 句は使用できません。

原因: INSTEAD OF トリガーに WHEN 句が指定されています。

解決方法: INSTEAD OF トリガーを作成するときは WHEN 句を削除してください。

ORA-25005: CREATE INSTEAD OF トリガーは読み専用ビューには作成できません。

原因: 読み専用オプションで作成されたビューで INSTEAD OF トリガーを作成しようとした。ビューは INSTEAD OF トリガーを使って更新できません。

解決方法: トリガーを作成しないでください。

ORA-25006: UPDATE OF 句にこの列は指定できません。

原因: 句では許可されていない LOB やネストした表などのデータ型を持つ列に UPDATE OF トリガーを作成しようとした。

解決方法: UPDATE OF 句を削除してください。

ORA-25007: WHEN 句に関数またはメソッドは使用できません。

原因: トリガーを作成するときに、WHEN 句には PL/SQL 関数コールまたはメソッド呼出しを指定できません。

解決方法: WHEN 句から関数コールまたはメソッド呼出しを削除してください。

ORA-25008: 代替トリガーの LOB データ型が明示的に変換されていません。

原因: instead-of トリガーを使ってビューに対して挿入または更新を行うとき、LOB ビュー列の新しい値が別のデータ型です。

解決方法: LOB ビュー列の新しい値として LOB 値を指定してください。

解析メッセージ: 25100 ~ 25199

ORA-25100: TABLESPACE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して TABLESPACE オプションが使用されました。

解決方法: ALTER INDEX REBUILD TABLESPACE< 表領域名 > を使用してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25101: REBUILD オプション指定が重複しています。

原因: ALTER INDEX に対して REBUILD オプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: オプションは 1 度だけ指定してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25102: PARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できません。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して PARALLEL オプションが使用されました。

解決方法: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25103: NOPARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できません。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して NOPARALLEL オプションが使用されました。

解決方法: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25104: UNRECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できません。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して UNRECOVERABLE オプションが使用されました。

解決方法: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」、「UNRECOVERABLE」、「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25105: RECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できません。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して RECOVERABLE オプションが使用されました。

解決方法: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25106: PARALLEL または NOPARALLEL 句のうち 1 つしか指定できません。

原因: PARALLEL または NOPARALLEL が複数回指定されました。または、PARALLEL および NOPARALLEL の両方が ALTER INDEX REBUILD 文に指定されました。

解決方法: PARALLEL 句および NOPARALLEL 句のうちどちらかを残してすべて削除してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX のその他のオプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25107: TABLESPACE オプションの指定が重複しています。

原因: ALTER INDEX REBUILD 文に対して TABLESPACE が 2 回以上指定されました。

解決方法: TABLESPACE 句を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ALTER INDEX オプションと、CREATE INDEX の TABLESPACE オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「ALTER INDEX」と「CREATE INDEX」を参照してください。

ORA-25108: 待機ロック名領域が制限文字数 :num を超えています。

原因: スタンバイ・データベース（予備データベース）のロック名領域が最大文字列長を超えています。

解決方法: 初期化パラメータ STANDBY_LOCK_NAME_SPACE が指定された文字数よりも少ない文字列になるように変更してください。

予備データベースの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「予備データベース」を参照してください。

ORA-25109: 待機ロック名領域に不正文字 char があります。

原因: スタンバイ・データベース（予備データベース）に指定したロック名領域が無効です。スタンバイ・データベースのロック名領域に使える文字は、A-Z、および 0-9、"_", "#", "\$", "@" だけです。

解決方法: 初期化パラメータ STANDBY_LOCK_NAME_SPACE を有効な文字列に変更してください。

予備データベースの詳細は、『Oracle8 Server 管理者ガイド』の索引項目「予備データベース」を参照してください。

ORA-25110: NOSORT はビットマップ索引では使用できません。

原因: NOSORT オプションを使用してビットマップ索引を作成しようとした。

解決方法: CREATE BITMAP INDEX 文から NOSORT を取り除いてください。

NOSORT オプションの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE INDEX コマンド」を参照してください。

ORA-25111: BITMAP はクラスタ索引で使用できません。

原因: クラスタ索引を BITMAP 属性で作成しようとしてしました。

解決方法: CREATE INDEX 文から BITMAP を取り除いてください。

CREATE INDEX コマンドの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE INDEX コマンド」を参照してください。

ORA-25112: ビットマップ索引は 1 列しか索引付けできません。

原因: ビットマップ索引を複数の列で作成しようとしてしました。

解決方法: CREATE INDEX 文内に列を 1 つだけ残して他はすべて削除してください。

CREATE INDEX コマンドの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE INDEX コマンド」を参照してください。

ORA-25113: BITMAP 索引に対する DML 操作はインプリメントされていません。

原因: BITMAP 索引が少なくとも 1 つは定義されている表で INSERT、UPDATE、DELETE などの DML 操作が実行されました。

解決方法: 表に定義されているすべての BITMAP 索引を取り除いてください。

CREATE INDEX コマンドの詳細は、『Oracle8 Server SQL リファレンス』の索引項目「CREATE INDEX コマンド」を参照してください。

ORA-25114: DUMP DATAFILE コマンドに指定されたファイル番号が無効です。

原因: データ・ファイルのダンプに使われたファイル番号が無効です。

解決方法: 有効なファイル番号を指定してください。

ORA-25115: BLOCK オプション指定が重複しています。

原因: DUMP DATAFILE コマンドで BLOCK (MIN/MAX) が 2 回以上指定されています。

解決方法: BLOCK オプションを 1 つ選び、それを指定してください。

ORA-25116: DUMP DATAFILE コマンドに指定されたブロック番号が無効です。

原因: データ・ファイルのダンプに使われているブロック番号が無効です。

解決方法: 有効なブロック番号を指定してください。

ORA-25117: MIN/MAX/Block Number のいずれかを使用してください。

原因: DUMP DATAFILE コマンドには MIN/MAX またはブロック番号が必要です。

解決方法: 構文を修正して再試行してください。

ORA-25118: DUMP DATAFILE のオプションが無効です。

原因: DUMP DATAFILE コマンドに無効なオプションが指定されています。

解決方法: 構文を修正して再試行してください。

ORA-25119: LOGGING/NOLOGGING オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に、LOGGING または NOLOGGING (またはその両方) のオプションが 2 回以上指定されました。

解決方法: ロギング指定を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25120: MINIMUM EXTENT オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションが 2 回以上指定されています。

解決方法: MINIMUM EXTENT 指定を 1 つだけ残して他をすべて削除してください。

ORA-25121: MINIMUM EXTENT 値が最大拡張サイズを超えています。

原因: CREATE/ALTER TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションに指定された値が最大拡張サイズを超えています。

解決方法: MINIMUM EXTENT オプションに指定されている値を減らしてください。

ORA-25122: パーティション化された表に使用できるのはローカル・ビットマップ索引だけです。

原因: パーティション表にグローバル・ビットマップ索引を作成しようとした。

解決方法: かわりにローカル・ビットマップ索引を作成してください。操作を再試行してください。

ORA-25123: 名前に指定したコンポーネントが多すぎます。

原因: 名前に対して、可能な数以上のコンポーネントが指定されています。

解決方法: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25124: データベース・リンク名は指定できません。

原因: 許可されていないときに、データベース・リンク名を指定しています。

解決方法: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25125: BUFFER_POOL 記憶オプションは指定できません。

原因: BUFFER_POOL 記憶領域オプションを指定しようとした。このオプションは、CREATE/ALTER TABLE/CLUSTER/INDEX 間でしか指定できません。

解決方法: このオプションを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-25126: BUFFER_POOL に指定された名前が正しくありません。

原因: ユーザーが指定したバッファ・プール名が無効です。有効な名前は、KEEP、RECYCLE および DEFAULT だけです。

解決方法: 有効な名前を使用するか、または BUFFER_POOL 句を削除してください。

ORA-25175: PRIMARY KEY 制約が見つかりません。

原因: この編成では、表に PRIMARY KEY 制約を定義する必要があります。

解決方法: PRIMARY KEY 制約を定義し、操作を再試行してください。

ORA-25176: 主キーに記憶領域の指定はできません。

原因: この編成の表では、PRIMARY KEY 制約に記憶領域パラメータを定義できません。

解決方法: 主キーの記憶領域指定を削除してください。

ORA-25177: UNRECOVERABLE オプションは指定できません。

原因: この編成の表では、主キーに UNRECOVERABLE オプションを指定できません。

解決方法: 主キーの UNRECOVERABLE オプションを削除してください。

ORA-25178: PCTTHRESHOLD 記憶領域オプションの指定が重複しています。

原因: 記憶領域オプション PCTTHRESHOLD が 2 回以上指定されています。

解決方法: 記憶領域オプションは、最高 1 回だけ指定してください。

ORA-25179: PCTTHRESHOLD 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、正の整数でなければなりません。

解決方法: 適切な値を指定してください。

ORA-25180: PCTTHRESHOLD は特定の表編成にのみ有効です。

原因: PCTTHRESHOLD は、特定の編成を持つ表でのみ指定できます。

解決方法: PCTTHRESHOLD オプションを削除してください。

ORA-25181: NESTED INDEX に ON キーワードがありません。

原因: nested index 列のネストを指定するには ON キーワードが必要です。

解決方法: ON キーワードを追加し、操作を再試行してください。

ORA-25182: 機能は索引付き構成表に対して現在使用可能ではありません。

原因: 索引構成表で現在サポートされていない次の機能のうち、1 つ以上を使用しようとしてしました。

- LOB/BFILE/VARRAY 列付きの CREATE TABLE
- パーティション化 /PARALLEL/CREATE TABLE AS SELECT オプション
- ADD/MODIFY 列オプション、CREATE INDEX 付きの ALTER TABLE

解決方法: このリリースでは、使用不可な機能は使用しないでください。

ORA-25183: 索引で作られた表のトップ索引セグメントが異なる表領域にあります。

原因: 索引のみの表のオーバーフロー・セグメントだけを含み、トップ索引セグメントを含まない表領域を削除しようとしてしました。

解決方法: 削除される表領域と他の表領域をまたがる索引で作られた表を探してください。これらの表を削除してください。

ORA-25184: 列 name が予想されました。

原因: 索引構成表の索引セグメントに含める最後の列を指定する CREATE TABLE で要求された列名が存在しません。

解決方法: 構文で必須の列名を指定してください。

ORA-25185: 最終列以外の索引列は INCLUDE 句に指定できません。

原因: 索引のみの表の作成中に、索引構成表に使われる CREATE TABLE 文の INCLUDING 句に非索引列名ではなく索引列名が使われました。

解決方法: INCLUDING 句には、索引構成表のトップ索引に属さない列名を指定してください。

ORA-25186: INCLUDING に OVERFLOW 句の指定がありません。

原因: CREATE TABLE の INCLUDING 句は、OVERFLOW 句を持つ索引構成表でのみ有効なオプションです。

解決方法: 索引構成表に OVERFLOW 句を指定してください。

ORA-25187: 指定された例外表のフォームが正しくありません。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

解決方法: 使用する表を訂正してください。

ORA-25188: 索引付き構成表に対する PRIMARY KEY 制約を削除 / 使用禁止 / 延期できません。

原因: 索引のみの表で主キー制約を削除、使用禁止または遅延しようとした。これは許可されていません。

解決方法: これは情報メッセージです。索引のみの表で主キー制約を削除、使用禁止または遅延しないでください。

ORA-25189: 索引付き構成表に対する ALTER TABLE のオプションが無効です。

原因: 索引構成表の変更中に、ユーザーが TABLESPACE、ALLOCATE/DEALLOCATE EXTENT、PCTFREE/PCTUSED オプションの 1 つ以上を IOT トップ索引セグメントに入力しようとした。

解決方法: 不正なオプションを削除してください。

ORA-25190: 索引付き構成表のメンテナンス操作は他の操作といっしょに実行できません。

原因: ALTER TABLE 文が、索引構成表のメンテナンス操作（たとえば物理属性の変更）を他の操作（たとえば ADD 制約）と結合しようとした。これは無効です。

解決方法: 索引構成表のメンテナンス操作は、ALTER TABLE 文で指定される唯一の操作としてください。

ORA-25191: 索引付き構成表のオーバーフロー表を参照できません。

原因: 索引構成表のオーバーフロー表に、直接アクセスしようとした。

解決方法: 指定したオーバーフロー表を含んだ親索引構成表に対して文を発行してください。

ORA-25192: 索引付き構成表に対するオプションが無効です。

原因: [NO]CACHE、NO LOGGING、CLUSTER オプションのうち、1 つ以上を索引構成表に指定しようとした。

解決方法: 無効なオプションを削除してください。

アドバンスト・キューリー・メッセージ : 25200 ~ 25699

アドバンスト・キューリー・メッセージは、317 ページの「拡張問合せ用管理インタフェース・メッセージ: 24000 ~ 24099」を参照してください。

ORA-25200: 値: *name* が無効です。 *name* の QUEUE_NAME は [SCHEMA.]NAME でなければなりません。

原因: キュー名に NULL パラメータが指定されました。

解決方法: NULL 以外のキュー名を指定してください。

ORA-25201: 無効な値です。 VISIBILITY は ON_COMMIT または IMMEDIATE でなければなりません。

原因: 無効値がパラメータ VISIBILITY に指定されました。

解決方法: ON_COMMIT または IMMEDIATE を指定してください。

ORA-25202: NULL は無効です。 *name* には NULL 以外の値を指定してください。

原因: パラメータに対する値が指定されていません。

解決方法: NULL 以外の値を指定してください。

ORA-25203: 値: *num* は無効です。 DELAY は非負数でなければなりません。

原因: 負の値または NULL が DELAY に指定されました。

解決方法: 負の整数以外を DELAY に指定してください。

ORA-25204: 無効な値です。 SEQUENCE_DEVIATION は BEFORE または TOP でなければなりません。

原因: 無効な SEQUENCE_DEVIATION が指定されました。

解決方法: オプションの BEFORE または TOP を指定してください。

ORA-25205: キュー: *name.name* が存在しません。

原因: 指定されたキューが存在しません。

解決方法: キューを作成してから、エンキューまたはデキューを指定してください。

ORA-25206: エンキューに失敗しました。例外キュー: *name.name* へのエンキューはできません。

原因: 例外キューに対してエンキューを実行しようとした。

解決方法: 別のキューに対してエンキューを試行してください。

ORA-25207: エンキューに失敗しました。キュー: *name.name* にエンキューできません。

原因: エンキューが実行されないようにするためにキューが停止しています。

解決方法: 管理操作によって最初にキューを使用可能にしてください。

ORA-25208: SEQUENCE_DEVIATION が BEFORE のときは RELATIVE_MSGID を指定してください。

原因: シーケンス偏差が BEFORE と指定されている場合は、相対メッセージ識別子を指定する必要があります。

解決方法: シーケンス偏差に NULL 以外のパラメータを指定してください。有効値は A または B、T です。

ORA-25209: 無効な値です。EXPIRATION は非負数または NEVER でなければなりません。

原因: 失効期限が 0 (ゼロ) 未満か NULL です。

解決方法: 失効後の有効な値には、0 (ゼロ) 以上または NEVER を指定してください。

ORA-25210: RELATIVE_MSGID の値が無効です。この MSGID のメッセージがキューにありません。

原因: msgid を持つキューのメッセージ inm は指定された RELATIVE_MSGID と等しくありません。

解決方法: 有効な RELATIVE_MSGID で再試行してください。

ORA-25211: 順序偏差オプション使用時に無効な DELAY が指定されました。

原因: エンキューで指定された DELAY は、定められた相対メッセージ id を持つメッセージのディレイより大きい。

解決方法: DELAY を、定められた相対メッセージ id を持つメッセージのディレイより小さいか同等に設定してください。TOP オプションが使用される場合、ディレイはキューの中のすべてのメッセージのディレイより小さいかまたは同等でなければなりません。

ORA-25212: 順序偏差オプションを使用中に無効な PRIORITY が指定されました。

原因: エンキューで指定された PRIORITY は、定められた相対メッセージ id を持つメッセージの優先順位より小さい。

解決方法: PRIORITY を、定められた相対メッセージ id を持つメッセージのディレイより小さく設定してください。TOP オプションが使用される場合、優先順位はキューの中のすべてのメッセージの優先順位より大きいまたは同等でなければなりません。

ORA-25213: RELATIVE_MSGID で指定されたメッセージはデキューされました。

原因: 順序偏差の BEFORE オプションで、RELATIVE_MSGID フィールドによって指定されたメッセージは、デキューされました。

解決方法: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-25215: ユーザー・データ型とキューの型が一致しません。

原因: 異なる型のオブジェクトに対して作成されたキューに対して、オブジェクトをエンキューしようとした。

解決方法: 正しい型のオブジェクトを使用して、エンキューを再試行してください。

ORA-25225: 値: *name* は無効です。DEQUEUE_MODE は REMOVE、BROWSE、LOCKED のいずれかです。

原因: DEQUEUE_MODE に無効なパラメータが指定されました。

解決方法: REMOVE、BROWSE または LOCKED を指定してください。

ORA-25226: デキューに失敗しました。キュー: *name.name* はデキューに使用できません。

原因: キューでデキューが使用可能にされていません。

解決方法: START_QUEUE を使ってキューを使用可能にしてください。

ORA-25228: メッセージ待機中に *name.name* からのデキューでタイムアウトしました。

原因: ユーザーが指定したデキュー待機時間が経過しましたが、メッセージが取り出されていません。

解決方法: 適切な WAIT_TIME を指定してデキューを再試行してください。

ORA-25230: 値: *name* は無効です。WAIT は非負数でなければなりません。

原因: WAIT に対する負の値が指定されました。

解決方法: 負以外の値または FOREVER を指定してください。

ORA-25231: SUBSCRIBER は指定されていません。

原因: 記名用に作成されたキューからデキューしようとしたが、記名者が指定されていません。

解決方法: 記名者の名前を指定してから、デキューを再試行してください。

ORA-25232: メッセージに指定された受信者が重複しています。

原因: 受信者のパラメータにある複製キュー・エージェントを使ってエンキューが実行されました。

解決方法: 複製キュー・エージェントを削除して、コールを再試行してください。

ORA-25233: NAVIGATION に指定されたパラメータが正しくありません。

原因: NAVIGATION に無効なパラメータが指定されました。

解決方法: FIRST_MESSAGE、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のどれかひとつを選択してください。基準を満たす最初のメッセージのデキューに FIRST_MESSAGE を、基準を満たす次のメッセージのデキューに NEXT_MESSAGE を、

そして別のトランザクションによってエンキューされた一連のメッセージへの移動に NEXT_TRANSACTION を使用 してください。

**ORA-25234: NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションはキュー表:
basename.extension には無効です。**

原因: NEXT_TRANSACTION のナビゲーション・フラグが、トランザクションのグループ化のために作成されていないキュー表のキューから、デキューに使用されました。

解決方法: FIRST_MESSAGE か NEXT_MESSAGE のどちらかを、ナビゲーション・オプションに指定してください。トランザクションのグループ化を使用してメッセージをデキューする場合は、トランザクションのグループ化が使用可能なキュー表に、キューを新規作成してください。

ORA-25235: 現行トランザクションの全メッセージが取り出されています。

原因: 同じトランザクションに属するメッセージがないデキューで、NEXT_TRANSACTION のナビゲーション・オプションが使用されました。

解決方法: NEXT_TRANSACTION のナビゲーション・オプションを使用して、同じトランザクションに属する次のメッセージ・グループに移動してください。FIRST_MESSAGE オプションを使用して、キューの先頭から再び開始することもできます。

ORA-25236: ユーザー・データ用のバッファが小さすぎます。

原因: Out パラメータ・ペイロードに使用される変数またはバッファが、デキューされるユーザー・データに対して小さすぎます。

解決方法: バッファのサイズ、または変数のサイズを大きくしてください。最大サイズは 32K です。

ORA-25237: ナビゲーション・オプションの指定順序が正しくありません。

原因: すべてのメッセージをデキューした後に、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のオプションが指定されました。

解決方法: FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用して、デキュー位置をリセットし、次に NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のオプションを指定してください。

ORA-25238: メッセージに多数の受信者が指定されています。

原因: 32 より多い受信者に対してエンキューが実行されました。

解決方法: 受信者数を 32 に減らして、コールを再試行してください。

ORA-25239: 例外キュー *name.name* からデキューする時に、メッセージ ID が示されていません。

原因: デキュー・オプションにメッセージ ID を含めないで、例外キューからデキューしようとした。

解決方法: アプリケーションを確認し、キュー名が正しく指定されていることを確かめてください。キュー名が正しい場合は、例外キューからデキューするときに、メッセージ ID を示してください。

ORA-25240: デキュー・オプションにメッセージ ID も関連 ID も指定されました。

原因: デキュー・オプションにメッセージ ID と関連 ID の両方を含めてデキューしようとしてしました。デキュー・オプションでできるのは、メッセージ ID と関連 ID のどちらか一方だけを指定すること、あるいは、どちらの ID も指定しないことです。

解決方法: デキュー・メッセージでは、デキュー・オプションの中でメッセージ ID か関連 ID の一方だけを指定し、両方は指定しないでください。キューのソート順序の中でデキューするならば、デキュー・オプションの中でメッセージ ID と関連 ID のどちらか一方を指定してください。

トランザクション OCI メッセージ: 25350 ~ 25375

他の OCI メッセージは、337 ページの「OCI LOB/FILE 関連メッセージ: 24800 ~ 24999」および 324 ページの「UPI/OCI メッセージ: 24300 ~ 24999」を参照してください。

ORA-25350: 最大同時実行トランザクション・ブランチ数を超えました。

原因: 同時実行トランザクション・ブランチ数の制限を超えました。

解決方法: システムをシャットダウンし、INIT.ORA のパラメータ TRANSACTIONS の値を増やしてからシステムを再起動してください。

ORA-25351: トランザクションは現在他のセッションに連結されています。

原因: ユーザー・トランザクションは現在他のユーザーによって使われています。

解決方法: 他のセッションに連結されているトランザクションには切り換えしないでください。

ORA-25352: 現行のトランザクションはありません。

原因: ユーザー・セッションはどのトランザクションにも連結されていません。

解決方法: 現行トランザクションがないときは、連結解除をしないでください。

ORA-25353: ブランチに削除マークが設定されています。

原因: 指定されたブランチに行消去マークが設定されていますが、このブランチは別のセッションで使われているためすぐには行消去できません。割り込みできない現在の操作が終わりしだい行消去が実行されます。

解決方法: 削除するブランチに処置は必要ありません。

アプリケーション・フェイルオーバー・メッセージ: 25400 ~

25425

アプリケーション・フェイルオーバー機能からは以下のエラー・メッセージが戻されることがあります。

ORA-25400: フェッチを再実行してください。

原因: このカーソルで最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、カーソルを元の状態に戻してフェッチを継続することができました。

解決方法: これは内部的に使われるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25401: カーソルでフェッチを実行できません。

原因: このカーソルで最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、カーソルを元の状態に戻してフェッチを継続することができませんでした。

解決方法: 文を再実行して、最初からフェッチを始めてください。

ORA-25402: トランザクションをロール・バックしてください。

原因: この接続でトランザクションがアクティブだったときに障害が発生しました。

解決方法: クライアントはロールバックを行う必要があります。

ORA-25403: 再接続できません。

原因: データベースへの接続が失われ、再接続に失敗しました。

解決方法: 手動で再接続してください。

ORA-25404: インスタンスを失いました。

原因: プライマリ・インスタンスを失いました。

解決方法: これは内部的に使われるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25405: トランザクションの状態が不明です。

原因: トランザクションがコミットしようとしたときに障害が発生しました。フェイルオーバーはインスタンスの状態を自動的に判断できませんでした。

解決方法: トランザクションの状態を手動で判断してください。

ORA-25406: バックアップ接続文字列を生成できませんでした。

原因: フェイルオーバーがバックアップ・インスタンスの接続文字列を生成できませんでした。

解決方法: このエラーをオラクル社カスタマー・サポートに報告してください。

ORA-25407: フェッチ中に接続が切れました。

原因: フェッチの実行中に接続が失われました。

解決方法: これは内部的に使われるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25408: 安全にコールを再実行することはできません。

原因: このコールを実行中に接続が失われました。フェイルオーバー後に再実行するのは安全ではありません。

解決方法: コールの結果が行われたかどうかを確認し、次に希望する場合はそれを再実行してください。

ORA-25425: ロールバック中に接続が切断されました。

原因: ロールバックを発行中に接続が失われました。

解決方法: トランザクションが外部的に調整されていない場合は、Oracle は暗黙のうちにロールバックを行うため、処置は必要ありません。それ以外の場合は、ROLLBACK FORCE が必要かどうかを判断するために、PENDING_TRANSS を調べてください。

DBLINK 集中化メッセージ : 25426 ~ 25435

ORA-25426: リモート・インスタンスでは共有 dblink はサポートされていません。

原因: バージョンが古く共有 DBLINK 機能をサポートしていないリモート・インスタンスへの接続に、この機能が使われました。

解決方法: このインスタンスに接続する必要がある場合は、標準の DBLINK を使用してください。

ダイレクト・パス・ロード・メッセージ : 26000 ~ 26099

ORA-26000: パーティション・ロードが指定されたが、表がパーティション化されていない。

原因: ローダー制御ファイルには PARTITION 句が含まれていますが、ロードされた表はパーティション化されていません。

解決方法: SQL*Loader 制御ファイルからパーティション指定を削除し、ロードを再試行してください。

ORA-26001: SORTED INDEXES に指定された索引 : name が表 : %s に存在しません。

原因: SORTED INDEXES 句に存在しない索引が指定されました。

解決方法: 既存の索引を SORTED INDEX に指定して、操作を再試行してください。

ORA-26002: 表 : name に索引が定義されています。

原因: 索引が定義されている表にパラレル・ロードが指定されました。

解決方法: 次の 1 つを実行してください。

- 表で定義されている索引を削除してください。
- パラレル・ロードを使用しないでください。

- SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションを使ってください。

ORA-26004: ダイレクト・パスを使ってロードされた表はクラスタ化できません。

原因: クラスタ化表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26007: INSERT オプションを使用する表は空でなければなりません。表: *name* でエラーが発生しました。

原因: 空でない表に対して INSERT オプションを使用しようとしました。

解決方法: SQL*Plus から表を空にするか、REPLACE オプションを使ってください。

ORA-26008: NOT NULL 列: *name* に NULLIF 句があります。

原因: データベース内の NOT NULL 列に SQL*Loader NULLIF 句が指定されています。

解決方法: SQL*Loader 制御ファイル内の NULLIF 句を削除してください。

ORA-26009: NOT NULL 列: *name* に NULL に評価される DEFAULTIF 句があります。

原因: データベース内の NOT NULL 列に、NULL として評価される SQL*Loader DEFAULTIF 句があります。

解決方法: SQL*Loader 制御ファイル内の DEFAULTIF 句を削除してください。

ORA-26010: 列: *name* (表: *name*) が NOT NULL なのでロードされていません。

原因: データベース内の NOT NULL 列がロードされていないため、すべての行が拒否されます。

解決方法: SQL*Loader 制御ファイル内の INTO TABLE 句に NOT NULL 列を指定することにより、列をロードしてください。

ORA-26011: ダイレクト・パスを使用してロードされた表はオブジェクト表にはできません。

原因: オブジェクト表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26012: ダイレクト・パスを使用してロードされた表にはオブジェクト列を組み込めません。

原因: ユーザーがオブジェクトを持つ表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26013: ダイレクト・パスを使用してロードされた表はネスト化できません。

原因: ネストした表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26014: ダイレクト・パスを使用してロードされた表には REF 列を組み込めません。

原因: REF 列を持つ表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26015: ダイレクト・パスを使用してロードされた表には配列の列を組み込みません。

原因: 配列表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしました。

解決方法: 従来型パスを使用して操作を再試行してください。

ORA-26016: レコード : *name*: 拒否。表 : *name*、パーティション : *name* でエラーが発生しました。

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

解決方法: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

ORA-26017: グローバル索引はダイレクト・パス・パーティションのロードで使用できません (表 *name*)。

原因: ダイレクト・パスが表の単一のパーティションをロードするときに、表に対してグローバル索引が定義されています。

解決方法: グローバル索引を指摘された表から削除し、操作を再試行してください。

ORA-26018: 列 : *name*(表 : *name*) が存在しません。

原因: ローダー制御ファイルに指定された列が存在しません。

解決方法: 列が存在し、それに対する権限が付与されていることを確認してください。ローダー制御ファイルに誤りがある場合は修正してください。

ORA-26019: 列 : *name*(表 : *name*、タイプ : *name*) はダイレクト・パスでサポートされていません。

原因: 指定された SQL 列タイプの列は、ダイレクト・パス・ローダーではサポートされていません。

解決方法: 列が NULL 値可の場合は、それを制御ファイルの記述から削除してください。それから、NULL としてロードしてください。

ORA-26020: 索引 : *name.name* に *name* キーが正常にロードされました。

原因: パーティション化されていない索引情報は、正常にログ・ファイルに追加されました。

解決方法: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26021: 索引 : *name.name* パーティション : *name* に *name* キーが正常にロードされました。

原因: パーティション化された索引情報は、正常にローダー・ログ・ファイルに追加されました。

解決方法: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26022: 索引 *name.name* が使用できません。

原因: 原因: エラー・メッセージと共に表示されているエラーにより、パーティション化されていない索引が原因で索引が使えなくなりました。

解決方法: エラーに応じて、索引を再構築するか、または削除してから再作成してください。

ORA-26023: 索引 *name.name* のパーティション *name* が使用できません。

原因: エラー・メッセージと共に表示されているエラーにより、パーティション索引のパーティションが原因で索引が使えなくなりました。

解決方法: エラーに応じて、索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26024: SKIP_UNUSABLE_INDEXES が要求されましたが、索引セグメントが開始前に使用できませんでした。

原因: SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションが指定されましたが、ロードの開始前に索引セグメントが使えない状態にありました。

解決方法: これは単なる情報メッセージです。索引または索引パーティションの再構築か、索引の再作成のどれかひとつを行う必要があります。

- 索引または索引パーティションの再構築
- 索引の再作成

ORA-26025: SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションが要求されました。

原因: ダイレクト・パス・ロードで索引メンテナンスのスキップが要求されました。

解決方法: 索引メンテナンスのスキップを要求したため、リストされた索引は Index Unusable 状態になりました。次のどれかひとつを行う必要があります:

- 索引または索引パーティションの再構築
- 索引の再作成

ORA-26026: UNIQUE 索引 *name.name* が使用できない状態になっています。

原因: 一意索引が IU 状態にあります (一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションを使用して索引メンテナンスをスキップできません)。

解決方法: 索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使ってください。

ORA-26027: UNIQUE 索引 *name.name* のパーティション *name* が使用できない状態になっています。

原因: 一意索引のパーティションが IU 状態にあります (一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションを使用して索引メンテナンスをスキップできません)。

解決方法: 索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使ってください。

ORA-26028: 索引 *name.name* が使用できない状態になっています。

原因: ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引が IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

解決方法: 索引を再構築または再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使ってください (Sql*Loader の場合のみ)。

ORA-26029: 索引 *name* のパーティション *name* が使用できない状態になっています。

原因: ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引のパーティションが IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

解決方法: 索引パーティションを再構築するか、索引を再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使ってください (Sql*Loader の場合のみ)。

ORA-26030: 索引 *name.name* のパーティション *name* が使用できなくなりました。

原因: 1 つ以上の索引パーティションに影響するパーティション索引で、表示されているエラー・メッセージにリストされている論理索引エラーが発生しました。

解決方法: 影響を受ける索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26031: 索引メンテナンス・エラー。ロードが継続できません。

原因: ダイレクト・パス・ロードの索引メンテナンス・フェーズ中に 索引エラーが発生しました。ロードを継続できません。表示されたその他のエラー・メッセージを参照してください。

解決方法: 表示されたその他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-26032: 索引 *name.name* のロードが、*name* キーの後で異常終了しました。

原因: 索引編成表のダイレクト・ロード中に索引エラーが発生しました。ロードが異常終了しました。行はロードされませんでした。

解決方法: 上記キーの数値のすぐ後に続くキーを確認してください。このキーが、メッセージに記述されている索引問題の原因です。

表領域関連 DBA エラー : 26100 ~ 26110

ORA-26100: 未使用エラー

原因: このエラーは使用されません。

解決方法: 処置は必要ありません。

ORA-26101: ファイル %s のファイル・ヘッダーの表領域 # が %s ではなく、%s でした。

原因: ファイル・ヘッダー内の表領域番号が、制御ファイル内の表領域番号と一致していません。

解決方法: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26102: ファイル %s のファイル・ヘッダーの関連ファイル # が %s ではなく、%s でした。

原因: ファイル・ヘッダー内の関連ファイル番号が、制御ファイル内の関連ファイル番号と一致していません。

解決方法: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26103: V6 または V7 データ・ファイルが制御ファイルの作成に使用されました。

原因: 参照ファイルのファイル・ヘッダーが V6 または V7 のフォーマットです。

解決方法: CREATE CONTROL FILE コマンドからファイルを削除するか、またはなんらかの方法でファイル・ヘッダーを V8 のフォーマットに移行してください。

レプリケーション : 26500 ~ 26999

このセクションでは、レプリケーション機能で生成されるメッセージを記載します。

ORA-26500: name.name のキャッシュ中にエラーが発生しました。

原因: オブジェクトのカatalogで使えないレプリケーション情報をキャッシュしようとしてしました。

解決方法: DBMS_REPUTIL.SYNC_UP_REP を使ってレプリケーション・Catalogの妥当性を検査してください。

ORA-26501: RepAPI 操作に失敗しました。

原因: 外部 RepAPI 操作が失敗しました。

解決方法: 詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26502: エラー再表示

原因: 内部サービスが失敗し、エラーがシグナルされました。

解決方法: このエラーに付随する詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26503: 内部 RepAPI 操作がオブジェクト : name.name で失敗しました。

原因: 予期しない内部 RepAPI 障害が検出されました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-26504: 操作がインプリメントされません。

原因: 呼出し元がインプリメントされていない RepAPI 操作を要求しました。

解決方法: このコールは発行しないでください。

ORA-26505: 予期しない内部 NULL

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

解決方法: RepAPI が使えるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26506: グローバルなコンテキストが NULL です。

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

解決方法: RepAPI が使えるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26507: マスター接続が NULL です。

原因: マスター接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

解決方法: マスター接続が有効であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-26508: スナップショット接続が NULL です。

原因: クライアント接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

解決方法: クライアント接続が有効であることを確認してください。

ORA-26509: スナップショット制御構造体が NULL です。

原因: 内部スナップショット制御構造体を取得できませんでした。

解決方法: 指定された所有者とユーザーが正しいことを確認してください。

ORA-26510: スナップショット名: *name* が最大長を超えています。 *num* バイトが最大長です。

原因: 指定されたスナップショット名が長すぎます。

解決方法: スナップショット名を短くしてください。

ORA-26511: マスター表 *name.name* が見つかりません。

原因: 存在しないマスター表または無効なマスター表に対して RepAPI 操作を実行しようとした。

解決方法: マスター表オブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-26512: トランザクションを DEF\$ERROR へ送信するときにエラーが発生しました。

原因: マスター・サイトに DEF\$ERROR RPC を送信するときに予期しないエラーが発生しました。

解決方法: DBMS_DEFER パッケージが有効であり、RepAPI クライアントから実行可能であることを確認してください。必要に応じてローカル・サイトまたはマスター・サイトの管理者に問い合せてください。

ORA-26513: 送信エラー: マスター PROC. *name*\$RP.*name* が失敗しました (trans:*neme seq:name*)。

原因: SRP.REP_insert() または REP_update()、REP_delete() 関数の実行中にマスター・サイトで競合 / エラーが発生し、それがマスターの競合解消ロジックで処理されませんでした。

解決方法: マスター・サイトのシステム管理者または DBA に連絡してください。

ORA-26514: オブジェクト *name.name* が見つかりません。

原因: 指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。

解決方法: 指定されたオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。

ORA-26515: *name.name* で使用可能なマスター・ログがありません。

原因: 指定されたマスター・ログが見つかりません。または、指摘された表で使用可能ではありません。

解決方法: マスター・サイトでマスター・ログを作成するか、ログに問題がある場合はそれを修正してください。

ORA-26516: 送信トランザクションの通知がありません。

原因: RepAPI は、最後の送信トランザクションがマスター・サイトによって正常にコミットされたことを確認できませんでした。

解決方法: ローカル・サイトとマスター・サイト間の通信リンクがまだ有効であることを確認してください。トランザクションがマスターでコミットされていない場合は、トランザクションを再送信してください。

ORA-26517: *name.name* のスナップショット制御項目が見つかりません。

原因: 指定されたスナップショット・カタログ制御レコードが見つかりませんでした。

解決方法: ローカル・スナップショット・カタログが有効であり、ローカル・スナップショットが正しく定義されていることを確認してください。

ORA-26518: 送信待ち行列の同期エラーを検出しました。

原因: クライアントは、すでにマスター・サイトでコミットされているトランザクションを再送信しようとしていました。この問題は、一般にローカル・サイト・トランザクション順序機構の初期化または更新時にローカル・サイトでエラーが発生したことが原因です。

解決方法: RepAPI がマスター・サイトへ再送信しようとしているトランザクション・データがマスター表に存在し、有効であり、ローカル・サイトと一貫性のあることを確認してください。このエラーが発生する場合は、重複して識別されたトランザクションは無視され、ローカルの更新可能スナップショット・ログからパーズされます。ローカル・サイトで新しいトランザクション識別子が正しく割り当てられ、一意でない値が意図せず生成されていないことを確認してください。

ORA-26519: 割当て可能なメモリーがありません。

原因: RepAPI プロセスで使えるメモリーが残されていません。このエラーは、RepAPI が新しい表バッファ領域を割り当てようとするときに発生することがあります。

解決方法: ヒープ・メモリーを解放するため 1 つまたは複数のローカル・アプリケーションをシャットダウンして、RepAPI を再試行してください。

ORA-26520: 内部メモリー障害

原因: 内部メモリー・エラーが検出されました。

解決方法: その他のエラーが発生しているかどうかを確認してください。または、ローカル・アプリケーションがメモリー・サブシステムを破壊していないかどうかを判断してください。

ORA-26521: RPC 初期化エラー。

原因: PL/SQL RPC の初期化中にエラーが発生しました。

解決方法: 起動するプロシージャが存在し、それがマスター・サイトで有効であり、RepAPI ユーザーから実行可能であることを確認してください。

ORA-26522: RPC 実行エラー。

原因: PL/SQL RPC の実行中にエラーが発生しました。

解決方法: リモート・プロシージャからのエラー・メッセージを確認し、起動された RPC の実行を妨害している可能性のあるリモート・サイトの問題を修正してください。

ORA-26523: RPC 終了エラー

原因: PL/SQL RPC の終了時にエラーが発生しました。通常は、オープンされているカーソルをマスター・サイトがクローズできないこと、または RepAPI が内部メモリーの割当てを解除できないことが原因です。

解決方法: 最初にサーバー・サイドの問題を解決し、RepAPI のメモリー・サブシステムが破壊されているかどうかを判断してください。

ORA-26524: NLS サブシステムの初期化に失敗しました (製品 =name、機能 =name)。

原因: NLS 製品 / 機能エラー・メッセージ・ファイルが見つからないか、または正しく初期設定されていませんでした。

解決方法: エラー・メッセージのディレクトリとファイルが正しくインストールされていることを確認してください。

ORA-26525: name(@name) のセッション接続が失敗しました。

原因: 提供された接続文字列を使って指定されたデータベースへの接続を確立できませんでした。

解決方法: ユーザーおよびパスワード、接続文字列、ネーム・サービス、ネットワーク、リモート・サイトのリスナー・プロセスが正しくインストールされ、動作していることを確認してください。

ORA-26526: name.name のスナップショット SQL DDL の解析 / 拡張が失敗しました。

原因: マスター Oracle サイトがクライアントの SQL スナップショット定義問合せを正しく解析できませんでした。

解決方法: スナップショット DDL SQL が、現在接続されている Oracle のバージョンと互換性があり、RepAPI SQL の制約または制限に違反していないことを確認してください。

ORA-26527: *name.name* に対するローカルの格納コールバックが INIT フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、INIT フェーズ中に指摘されたオブジェクトで失敗しました。

解決方法: クライアント・コールバックが参照しているオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-26528: *name.name* に対するローカルの格納コールバックが PROC フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、PROC フェーズ中に指摘されたオブジェクトで失敗しました。

解決方法: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-26529: *name.name* に対するローカルの格納コールバックが TERM フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、TERM フェーズ中に指摘されたオブジェクトで失敗しました。

解決方法: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-26530: スナップショット・リフレッシュ制御リストを作成できません。

原因: スナップショット制御リストを組み立てられません。これは一般に、ローカル・スナップショット・カタログへのアクセス中にエラーが発生したことが原因です。

解決方法: 指摘されるスナップショットが正しく定義され、有効であることを確認してください。次に操作を再試行してください。

ORA-26531: レプリケーション・パラレル送信の障害回復テスト・イベントです。

原因: 適用するものがありません。

解決方法: 使用したイベントでパラレル送信テストのサイト障害をシュミレートしてください。

ORA-26532: レプリケーション・パラレル送信でサイトの障害をシュミレートしました。

原因: ネットワークまたは接続先サイトの障害のシミュレーションを行うために、イベント ORA×26531 を使用可能にしてパラレル送信を実行するとこのエラーが呼び出されます。

解決方法: 標準操作ではこのイベントを使用可能にしないでください。

ORA-26534: 衝突 : tranID num は無視され、除去されました。

原因: 送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

解決方法: E_QUEUESYNC (ORA-26518) の処置の項を参照してください。

ORA-26535: num バイトの行キャッシュは、rowsize=num の表には十分ではありません。

原因: 送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

解決方法: RepAPI 行バッファのサイズを増やすか、レプリケート表の幅を削減してください。

ORA-26536: 遅延トランザクションによって発生した競合のためにリフレッシュが異常終了しました。

原因: スナップショットのマスター・サイトの DEFERROR 表に、未解決の競合がロギングされています。

解決方法: 次の 1 つを実行してください。

- マスター DEFERROR 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。
- マスター・サイトの DEFERROR 表に競合がある場合でも、REFRESH_AFTER_ERRORS でリフレッシュしてください。既存の競合があるまま操作を進めた場合、更新可能なスナップショットの変更が一時的に失われているように見えることがあります。競合が解決後、次のリフレッシュで変更を復元してください。

ORA-26563: この表の名前は変更できません。

原因: レプリケート表または更新可能スナップショット表、スナップショット・ログが作成されたスナップショットのマスター表を改名しようとしたため。

解決方法: 必要に応じて、DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT を使ってレプリケート表の登録を抹消するか、推奨プロシージャを使ってスナップショットのマスター表を改名してください。

ORA-26564: %s 引数が指定された型ではありません。

原因: 示された引数番号に渡された型が、格納されている引数内の引数の型と一致しません。

解決方法: 正しい型 (GET_XXX_ARG) のプロシージャを起動してください。

ORA-26565: DBMS_DEFER.CALL の呼出し前に <type>_ARG が呼び出されました。

原因: 遅延コールを開始する前に <type>_ARG プロシージャを起動しようとしてしました。

解決方法: 正しい順序で必要なプロシージャを起動してください。

ORA-26566: name への 接続 をオープンできません。

原因: 指定された DBLINK を使って接続をオープンできませんでした。

解決方法: DBLINK が有効であり、リモート・マシンが稼働していることを確認してください。

UNIX メッセージ : 27000 ~ 27299

ORA-27000: skgfpini: 記憶領域サブシステム (SBT) レイヤーの初期化に失敗しました。

原因: sbtinit からエラーが戻りました。追加情報にエラーが表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27001: デバイス・タイプがサポートされていません。

原因: 指定されたデバイス・タイプがこのプラットフォームでサポートされています。

解決方法: サポートされているデバイス・タイプの V\$BACKUP_DEVICE を確認してください。

ORA-27002: 無効なデバイス構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーです。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27003: NOIO とともに割当てられたデバイスのファイルをオープンできません。

原因: 内部エラーです。ファイルが NOIO オプションで割当てられたデバイス上で作成中 / 検索中です。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27004: 指定されたブロックサイズが無効です。

原因: 内部エラーです。ファイルを作成中のデバイスに指定された ブロックサイズが不正です。追加情報に指定されたブロックサイズとエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27005: 非同期がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルはオープンできません。

原因: 内部エラーです。非同期 I/O がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルをオープンしようとしています。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27006: sbtremove からエラーが戻されました。

原因: 追加情報に sbtremove から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27007: ファイルのオープンに失敗しました。

原因: sbtopen からエラーが戻りました。追加情報に sbtopen から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27008: 無効なファイル構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーです。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27009: skgfwr: 読み込み用にオープンしたファイルに書き込みはできません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27010: skgfwr: ファイルへの書き込みに失敗しました。

原因: sbtwrite からエラーが戻りました。追加情報に sbtwrite から戻されたエラーが表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27011: skgfrd: 書き込み用にオープンしたファイルから読み込みはできません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27012: skgfrd: ファイルからの読み込みに失敗しました。

原因: sbtread からエラーが戻りました。追加情報に sbtread から戻されたエラーが表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27013: skgfdel: オープンしているファイルは削除できません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27014: skgfpini: SS_UDMPDIR 拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: skgfqpin 内の sltln の障害です。

解決方法: 詳細は、その他のリターン・エラーを調べてください。

ORA-27015: skgfcls: ファイルのクローズに失敗しました。

原因: sbtclose からエラーが戻りました。追加情報に sbtclose から 戻されたエラーが表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27016: skgfcls: sbtinfo からエラーが戻されました。

原因: 追加情報に sbtinfo から戻されたエラーが表示されます。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27017: skgfcls: sbtinfo から戻されたメディア・ハンドルが最大長 (SSTMXQMH) を超えています。

原因: メディア・ハンドル文字列の長さが SSTMXQMH を超えています。

解決方法: ベンダーの記憶領域サブシステム製品が正常に動作しており、プラットフォーム制限 (SSTMXQMH) が最低 64(sbtinfo に指定されている制限) であることを確認してください。追加情報に sbtinfo から戻されたメディア・ハンドル文字列の長さと制限 (SSTMXQMH) が表示されます。

ORA-27018: skgfidev: デバイス・パラメータのブロックサイズは SSTKBLCK の倍数でなければならない。

原因: ユーザーが SSTKBLCK の倍数でないブロックファクターを指定しました。

解決方法: 追加情報にユーザーから提供されたブロックファクターと SSTKBLCK の値が表示されます。SSTKBLCK の倍数になる値を指定してください。

ORA-27019: テープ・ファイル名の長さが制限 (SBTOPMXF) を超えています。

原因: 順次 I/O 関数に指定されたテープ・ファイル名の長さが長すぎます。

解決方法: 追加情報にエラーが発生した関数、指定されたファイル名の長さ、ファイル名の制限が表示されます。

ORA-27020: 指定されたデバイスはサポートされていません。

原因: プラットフォームまたは指定されたデバイス・タイプでは、指定されたデバイスがサポートされません。

解決方法: デバイスの名前を指定しないでください。または指定されるデバイスをサポートするデバイス・タイプを使用してください。V\$BACKUP_DEVICE ビューを使って、使用可能なデバイス・タイプと名前 (ある場合) を検索してください。

ORA-27021: 順次ファイル・ハンドルを指定してください。

原因: sbtopen へ渡されるファイル名が未指定でした。

解決方法: ファイル名を指定して続行してください。バックアップの設定を Recovery Manager から作成する場合は、「書式」オプションを使用してバックアップ対象のハンドル名を指定してください。

ORA-27031: ミラー resilvering ファンクションはサポートされていません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27032: skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: getrlimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27033: skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: ulimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27034: skgfrcre: ORACLE_SID の最大長を超えています。

原因: ORACLE_SID 文字列の文字が多すぎます。

解決方法: ORACLE_SID を改名して、システムに指定された最大文字数の文字列にしてください。

ORA-27035: 論理ブロック・サイズが無効です。

原因: Oracle ファイルの論理ブロック・サイズは物理ブロック・サイズの倍数であり、最大値より小さいことが必要です。

解決方法: 指定されたブロック・サイズが、追加情報として戻されます。init.ora パラメータを確認してください。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます。

ORA-27036: 変換エラーが発生しました。ファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報に sltln/slrm エラーが表示され、エラーが発生した関数も表示されます。

解決方法: 追加情報を調べてください。

ORA-27037: ファイル・ステータスを取得できません。

原因: Stat システム・コールからエラーが戻りました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27038: skgfrcre: ファイルが存在しています。

原因: データベース・ファイルを作成しようとしたますが、同じ名前のファイルがすでに存在します。

解決方法: その名前が正しいことを確認してください。必要に応じ reuse を指定してください。

ORA-27039: ファイルの作成に失敗しました。ファイル・サイズが制限に達しています。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとしてしました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: ファイル・サイズ制限を上げてください。

ORA-27040: skgfrcre: 作成エラーが発生しました。ファイルを作成できません。

原因: create システム・コールからエラーが戻りました。ファイルを作成できません。

解決方法: ファイル名と許可を確認してください。

ORA-27041: ファイルをオープンできません。

原因: open システム・コールからエラーが戻りました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27042: skgfrcre: 最終ブロックのシークおよび書込みができません。

原因: ファイルの最終ブロックのシークおよび書込みをしようとしてしました。デバイス上の領域が不足している可能性があります。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27043: ファイルの先頭をシークできません。

原因: seek システム・コールに失敗しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27044: ファイルのヘッダー・ブロックを書き込めません。

原因: write システム・コールに失敗しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27045: ファイルをクローズできません。

原因: close システム・コールに失敗しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27046: ファイル・サイズが論理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: stat が示したファイル・サイズが正しくありません。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: ファイルが上書きまたは切り捨てられていないことを確認してください。

ORA-27047: ファイルのヘッダー・ブロックを読み込みません。

原因: read システム・コールに失敗しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27048: skgfifi: ファイルのヘッダー情報が無効です。

原因: データベースファイルでないものをデータベース・ファイルとして使用しようとしている可能性があります。

解決方法: ファイルがデータベース・ファイルであることを確認してください。

ORA-27049: 最終ブロックのシークおよび読み込みができません。

原因: ファイルの最終ブロックのシークおよび書き込みをしようとした。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27050: 無効な FIB/IOV 構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーです。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27051: I/O エラーが発生しました (シュミレート)。

原因: シュミレートされたエラーです (実際のエラーではありません)。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: なし。

ORA-27052: ファイル・データをフラッシュできません。

原因: fsync システム・コールからエラーが戻りました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27053: skgfifi: ファイル・ヘッダーのブロックサイズが論理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: 論理ブロック・サイズが無効です。追加情報に論理ブロック・サイズとファイル・ヘッダーのブロック・サイズが表示されます。

解決方法: 異なるブロック・サイズを使用するか、またはファイルを再使用しないでください。

ORA-27056: skgfrdel: ファイルを削除できませんでした。

原因: Unlink システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27057: skgfask: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因：内部エラーです。非同期 I/O がサポートされていないファイルでは、非同期ベクトル I/O についての問合せが発生します。

解決方法：トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27058: skgfask: 問合せパラメータが無効です。

原因：内部エラーです。無効な問合せが発生しています。

解決方法：トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27059: skgfrsz: ファイル・サイズを削減できません。

原因：fcntl システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法：errno を調べてください。

ORA-27060: skgfofi: ファイルに close-on-exec ビットを設定できません。

原因：fcntl システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法：errno を調べてください。

ORA-27061: skgfospo: 非同期 I/O の待機に失敗しました。

原因：aiowait 関数からエラーが戻りました。

解決方法：errno を調べてください。

ORA-27062: skgfospo: 一時停止中の非同期 I/O が見つかりません。

原因：内部エラーです。システムには、非同期 I/O がいくつか存在したはずですが、ブロック aiowait は、I/O がもはや存在していないことを示しています。

解決方法：トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27063: skgfospo: 読み込み / 書き込みのバイト数が正しくありません。

原因：aiowait から戻された読み込み / 書き込みのバイト数が元の数と合致しません。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

解決方法：errno を調べてください。

ORA-27064: skgfdisp: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因：内部エラーです。IOV に非同期 I/O をファイルで実行できないことが示されているときに、非同期 I/O を実行するように要求しました。

解決方法：トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27065: skgfdisp: ファイルに対して非同期ベクトル I/O を実行できません。

原因：内部エラーです。ファイルで実行できない非同期ベクトル I/O の実行を要求しました。

解決方法：トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27066: skgfdisp: ベクトル I/O のバッファ数が最大値を超えています。

原因: 内部エラーです。ベクトル I/O のバッファ数が OSD が実現する最大値を超えています。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27067: skgfdisp: バッファのサイズが無効です。

原因: 内部エラーです。バッファ・サイズが 0、または SSTIOMAX より大きい、論理ブロック・サイズの倍数でないかのいずれかです。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・サイズが表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27068: skgfdisp: バッファが正しく位置揃えされていません。

原因: 内部エラーです。バッファが SSIOALIGN 境界に正しく位置揃えされていません。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・ポインタが表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27069: skgfdisp: ファイルの範囲外で I/O 処理を試みました。

原因: 内部エラーです。読み込みまたは書き込みを行っているブロックの範囲がファイルの範囲外です。追加情報に、開始ブロック番号と I/O 内のブロック数、ファイル内の最後の有効なブロックが表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27070: skgfdisp: 非同期の読み込み / 書き込みに失敗しました。

原因: aioread/aiowrite システム・コールからエラーが戻りました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27071: skgfdisp: ファイルの要求位置をシークできません。

原因: lseek システム・コールからエラーが戻りました。追加情報にシークをしようとしたファイルのブロック番号が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27072: skgfdisp: I/O エラー

原因: Read/write/readv/writev システム・コールからエラーが戻りました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27073: skgfcfi: 非同期 I/O がこのファイルのデキュー用に残されています。

原因: 内部エラーです。ファイルが閉じます。しかしファイルへの非同期 I/O すべてが待ち行列解除になったわけではありません。追加情報にファイル上の未処置の I/O の数値が表示されます。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27074: skgffrofl: オープン・ファイルの制限を取得できません。

原因: getrlimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27075: skgffrofl: SSTMOFRC 定数が大きすぎます。

原因: 内部エラーです。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27076: skgffrofl: オープン・ファイル数の制限を設定できません。

原因: setrlimit システム・コールからエラーが戻りました。

解決方法: errno を調べてください。

ORA-27077: skgffofi: オープンされているファイルが多すぎます。

原因: 内部エラーです。skgffofi によってオープンされているファイルの数値が制限値に達しました。

解決方法: トレース・ファイルを検索し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27100: 共有メモリー領域がすでに存在します。

原因: インスタンスの複製をしようとしたか、正しくシャットダウンされていないインスタンスを再起動しようとした。

解決方法: 別のインスタンス名を使うか、失敗したインスタンスの SGA をクリーン・アップしてください。

ORA-27101: 共有メモリー領域が存在しません。

原因: 共有メモリー領域の位置が分かりませんでした。

解決方法: 領域がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-27102: メモリーが足りません。

原因: メモリーが足りません。

解決方法: トレース・ファイルで詳細を確かめてください。

ORA-27103: 内部エラー

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27120: 共有メモリー・セグメントの削除ができませんでした。

原因: shmctl() へのコールが失敗しました。

解決方法: セグメントの許可を確認し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27121: 共有メモリー・セグメントのサイズを判断できません。

原因: shmctl() へのコールが失敗しました。

解決方法: セグメントの許可を確認し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27122: メモリーの保護ができません。

原因: mprotect() へのコールが失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27123: 共有メモリー・セグメントがアタッチできません。

原因: shmat() コールへのコールに失敗しました。

解決方法: セグメントの許可を確認し、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27124: 共有メモリー・セグメントからデタッチできません。

原因: shmdt() へのコールに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27125: 共有メモリー・セグメントの作成ができません。

原因: shmget() へのコールに失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27126: コア内で共有メモリー・セグメントをロックできません。

原因: コア内で共有メモリー・セグメントをロックする権限が不十分です。

解決方法: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27127: 共有メモリー・セグメントのロック解除ができません。

原因: 共有メモリー・セグメントのロック解除をする権限が不十分です。

解決方法: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27128: ページ・サイズを判断できません。

原因: sysconf() へのコールが失敗しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27141: プロセス ID が無効です。

原因: 無効なプロセス ID を使用してプロセス操作をしようとした。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27142: 新規プロセスを作成できませんでした。

原因: OS システム・コールです。

解決方法: errno を調べてください。可能ならプロセス数を増加してください。

ORA-27143: OS システム・コールに障害が発生しました。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27144: プロセスの消去に失敗しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27145: 要求されたプロセス数に対するリソースが不十分です。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27146: 通知 / 待機の初期化に失敗しました。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27147: 通知 / 待機のリセットに失敗しました。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27148: spawn 待機エラー

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27149: 割当てが有効範囲にありません。

原因: 内部エラーです。型に対して要求された変換が大きすぎます。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27150: 保留中の ORADEBUG コール処理の通知に失敗しました。

原因: OS システム・コールです。

解決方法: errno を調べ、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27151: プロセス ID 文字列を保持するにはバッファ・サイズが不十分です。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27152: プロセスへの通知に失敗しました。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27153: 待機操作に失敗しました。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27154: 通知 / 待機の作成に失敗しました。

原因: 内部エラーです。複数の通知 / 待機の作成を同時に実行しようとした。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27155: ファイルを実行できません。

原因: OS システム・コールに失敗しました。

解決方法: エラー番号を調べ、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27156: プロセス情報の要求に失敗しました。

原因: 内部エラーです。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

このトピックに関するメッセージは、『Oracle8 エラー・メッセージ、リリース 8.0.3』のエラー・メッセージ・セットの他の場所に説明されています。

IPC メッセージ : 27500 ~ 27650

ORA-27500: インスタンス間の IPC エラー

原因: OS システム・コール・エラーの可能性あります。

解決方法: 他の情報を調べて、オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-27501: ポートの作成中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27502: シグナル・ハンドラの設定中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27504: ポートのネットワーク・アドレス問合せ中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27505: ポートの破棄中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27506: ポートへの接続中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27507: ポートの切断中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27508: メッセージの送信中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27509: メッセージの受信中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27510: 要求完了待機中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27512: プロセスへの通知中に IPC エラーが発生しました。

原因: OS システム・コール・エラーです。

解決方法: errno を確認し、オラクル技術サポートに連絡してください。

ORA-27528: 通信バッファに 0 (ゼロ) サイズを割当ててはできません。

原因: クライアントが長さ 0 (ゼロ) のメッセージを割当てようとした。

解決方法: kgxpvalo() の使用方法についての情報は、kgxp.h を参照してください。

ORA-27529: サイズ 0 (ゼロ) の通信バッファを割当ててはできません。

原因: クライアントが長さ 0 (ゼロ) のメッセージを割当てようとした。

解決方法: kgxpvalo() の使用方法についての情報は、kgxp.h を参照してください。

ORA-27530: NULL メモリーへのポインタの割当てを解除できません。

原因: クライアントが割当て解除で NULL ポインタを渡しました。

解決方法: kgxpvfre() の使用方法についての情報は、kgxp.h を参照してください。

ORA-27531: 無効なポートを破棄できません。

原因: 指定されたポートが無効です。

解決方法: ポートを再作成してください。

ORA-27532: IPC グローバル・ネーム・サービスはサポートされていません。

原因: KGXP で使われたグローバル・ネーム・サービスがサポートされていません。

解決方法: 別のネーム・サービスを使うか、または現行のプロセス / スレッドを強制終了させてください。

ORA-27533: 無効な接続識別子を破棄しようとしてしました。

原因: 渡された接続識別子が無効です。

解決方法: 接続識別子を確認するか、またはプロセス / スレッドを強制終了させてください。

ORA-27534: 位置揃えされていないメッセージは送信できません。

原因: 送信されたメッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

解決方法: KGXPALSZ() マクロを使ってメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27535: 最大ベクトル・メッセージ・サイズを超えています。

原因: 最大ベクトル・サイズを超えるベクトル・メッセージを送信しようとしてしました。

解決方法: より小さなベクトル・サイズを使ってください。

ORA-27536: マルチキャスト・メッセージが正しい境界に割当てられていません。

原因: マルチキャストするメッセージが正しい境界で位置揃えされていませんでした。

解決方法: メッセージを正しく位置揃えしてください。

ORA-27537: 位置揃えされていないバッファにメッセージを受信できません。

原因: 受信のために転記されたメッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

解決方法: KGXPALSZ() マクロを使ってメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27538: フリー・プールに対する受入れハンドルの追加に失敗しました。

原因: フリー・プールに受け入れハンドルを追加できませんでした。

解決方法: プロセスを終了してください。

ORA-27539: 受入れハンドルのフリー・プールが空です。新規接続を受け入れられません。

原因: 受け入れハンドルのフリー・プールが空です。

解決方法: 受け入れハンドルをフリー・プールに追加してください。

ORA-27540: プロセス / スレッドにこれ以上通信チャネルを作成できません。すでに最大値です。

原因: 指定された最大通信チャネルが、すでにこのプロセス / スレッドで使われています。

解決方法: 不要な接続を破棄してください。

ORA-27541: リモート・ポートへの接続中に致命的なエラーが発生しました。

原因: リモート・アドレスが有効でないか、またはプロセスで障害が発生しました。

解決方法: すべての接続を破棄し、それらを再確立してください。

ORA-27542: 受入れハンドルの待ち行列処理に失敗しました。

原因: OSD では、新規着信接続を受け入れるために必要な記憶領域の待ち行列処理を KGXP が行うことはできません。

解決方法: パラメータを確認し、正しい場合にはプロセスを強制終了させてください。

ORA-27543: 未処理の要求は取り消せません。

原因: OSD は、未処理の要求を即時に取り消すことはできません。

解決方法: すべての接続をシャットダウンし、プロセスを強制終了させてください。

ORA-27544: メモリー・マップ通信はサポートされていません。

原因: プラットフォームがメモリー通信をサポートしていません。

解決方法: デフォルトの送受信を使ってください。

ORA-28000: アカウントがロックされています。

原因: 誤ったパスワードがプロファイル・パラメータ FAILED_LOGIN_ATTEMPTS で指定されている最大回数を超えて入力されたか、または DBA がアカウントをロックしました。

解決方法: PASSWORD_LOCK_TIME で指定された時間待機するか、または DBA に連絡してください。

セキュリティ関連メッセージ : 28000 ~ 28499

その他のセキュリティ・メッセージについては、392 ページの「セキュリティ・サーバー・メッセージ: 28750 ~ 29249」を参照してください。

ORA-28001: パスワードが期限切れです。

原因: ユーザーのアカウントが期限切れであり、パスワードを変更する必要があります。

解決方法: パスワードを変更するか、DBA に連絡してください。

ORA-28002: パスワードが *num* 日以内に期限切れになります。

原因: ユーザーのアカウントの期限切れが近い場合、パスワードを変更する必要があります。

解決方法: パスワードを変更するか、DBA に連絡してください。

ORA-28003: 指定されたパスワードのパスワード照合に失敗しました。

原因: 新規パスワードが要求される複雑さ仕様を満たしていないため、PASSWORD_VERIFY_FUNCTION が失敗しました。

解決方法: 別のパスワードを入力してください。新規パスワードの選択の規則を DBA に問い合せてください。

ORA-28004: PASSWORD_VERIFY_FUNCTION: *name* に指定された関数の引数が無効です。

原因: パスワード照合関数に、必要な入出力引数の数値と型または戻り引数、あるいはその両方がありません。

解決方法: 『Oracle8 Server リファレンス・マニュアル』を確認し、パスワード照合関数の形式を検索してください。

ORA-28005: ログオン・フラグが無効です。

原因: コールの発行でログオン・フラグが正しく設定されていないか、または競合フラグが設定されています。

解決方法: 適切なフラグを設定して関数をコールしてください。

ORA-28006: パラメータ: *name* と: *name* の値が矛盾します。

原因: パラメータ PASSWORD_REUSE_TIME と PASSWORD_REUSE_MAX の両方が設定されています。一方のパラメータが設定されているときは、もう一方のパラメータは無制限とする必要があります。

解決方法: 1 つのパラメータの値を明示的に UNLIMITED に設定してください。

ORA-28007: パスワードは再利用できません。

原因: 指定された日数が経過した後、または指定された回数だけパスワードを変更した後に、パスワードを再利用しようとしてしました。

解決方法: 指定された日数または指定されたパスワード変更回数だけ使われていないパスワードを試してください。CREATE PROFILE 文のパスワード・パラメータを参照してください。

ORA-28008: ユーザーを認証できません。パスワードが変更できません。

原因: システムに提供された旧パスワードが誤りです。旧パスワードを使って認証を実行できません。

解決方法: 認証に対して正しい旧パスワードを提供して、操作を再試行してください。

ORA-28009: SYS への接続は SYSDBA または SYSOPER で行わなければならないません。

原因: CONNECT SYS/<パスワード>ORA- は有効な構文ではなくなりました。

解決方法: CONNECT SYS/<パスワード>ORA-AS SYSDBA または CONNECT SYS/<パスワード>ORA-AS SYSOPER を試してください。

ORA-28010: 外部またはグローバル・アカウントを失効させることができません。

原因: ユーザー・アカウントが IDENTIFIED EXTERNALLY または IDENTIFIED GLOBALLY として作成されている場合は、このアカウントを失効させることはできません。

解決方法: データベース・パスワードを持つユーザーのパスワードを失効させてみてください。

ORA-28020: IDENTIFIED GLOBALLY がすでに指定されています。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY 句が 2 回指定されました。

解決方法: IDENTIFIED GLOBALLY 句は 1 つだけ使ってください。

ORA-28021: グローバル・ロールは付与できません。

原因: 付与されたロールが IDENTIFIED GLOBALLY でした。グローバル・ロールはドメインの中央認可を介してのみ付与できます。

解決方法: ALTER ROLE を使ってロールのタイプを変更 (IDENTIFIED GLOBALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ) するか、中央認可レベルによってグローバル・ユーザーに割り当ててください。

ORA-28022: グローバル・ユーザーまたはロールに外部ロールは付与できません。

原因: 付与されたロールが IDENTIFIED EXTERNALLY でした。外部ロールはグローバル・ユーザーまたはグローバル・ロールに付与できません。

解決方法: ALTER ROLE を使って付与されたロールのタイプを変更 (IDENTIFIED EXTERNALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ) するか、ALTER ROLE または ALTER USER を使ってユーザーのタイプまたは権限受領者であるロールのタイプを変更してください。

ORA-28023: 先に他のユーザーへのこのロールの付与を取り消してください。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたロールが、1 つ以上の他のユーザーまたはロール、あるいはその両方に付与されています。グローバル・ロールは他のユーザーまたはロールに付与できません。

解決方法: REVOKE を使用して他のユーザーからのロールを取り消すか、または最初に複数のロールを取り消してください。

ORA-28024: このロール / ユーザーへの外部ロールの付与を取り消してください。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたユーザーまたはロールには外部ロールが直接付与されています。外部ロールをグローバルのユーザーまたはロールに付与できないので、これらを取り消す必要があります。

解決方法: REVOKE を使って、変更されるユーザーまたはロールから外部ロールを取り消してください。

ORA-28025: 外部名がないか、または NULL です。

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY AS または IDENTIFIED GLOBALLY AS 句が有効な外部名で指定されました。

解決方法: 有効な外部名を提供してください。

ORA-28026: 同じ外部名のユーザーがすでに存在しています。

原因: 作成または変更されるユーザーに指定された外部名が、すでに他のユーザー用に存在します。

解決方法: 外部名は他のユーザーと重複してはなりません。別の外部名を指定してください。

ORA-28027: 権限データベース・リンクはグローバル・ユーザーが使用できます。

原因: ユーザー IDENTIFIED GLOBALLY だけが権限データベース・リンクを使えます。

解決方法: ユーザーをグローバル・ユーザーに変更するか、または別のデータベース・リンクを使ってください。

ORA-28028: リモート・サーバーを確認できませんでした。

原因: 権限データベース・リンクのオープン中に、ネットワーク・セキュリティ・サービスを使用してリモート・サーバーが安全に確認されませんでした。追加のエラーが続きます。

解決方法: リモート・サーバーを正常に構成する方法は、ネットワーク・セキュリティ・サービス・ドキュメンテーションを参照してください。

ORA-28029: ユーザー : *name* はリモート・サーバーを使用できません。

原因: 権限データベース・リンクのオープン中に、現行のグローバル・ユーザーとして接続するために必要な認証を持たないリモート・サーバーが見つかりました。サーバーがネットワーク・セキュリティ・サービスによって認証されていない可能性があります。または、ローカル・サーバーが DBMS_SECURITY_DOMAINS_ADMIN パッケージを使ってリモート・サーバーによるアクセスを制限している可能性があります。

解決方法: リモート・サーバーに正しい認可を付与して、特定のグローバル・ユーザーとして接続してください。そしてローカル・サーバーがアクセスを制限しないことを確認してください。

異機種間サービス・メッセージ: 28500 ~ 28549

次のメッセージは、異機種間サービス機能から戻されることがあります。

ORA-28500: ORACLE から非 Oracle システムへの接続から次のメッセージが戻りました。

原因: 原因は次のメッセージで説明されます。

解決方法: 次のメッセージについては、Oracle 以外のシステムのマニュアルを参照してください。

ORA-28501: 異機種間データベース・リンクで通信エラーが発生しました。

原因: 予期しない通信障害が、非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクで発生しました。上記のメッセージの後に、接続された非 Oracle システムで生成された別のメッセージが続きます。

解決方法: 2 番目のエラー・メッセージの説明は、非 Oracle システムのドキュメンテーションを参照してください。

ORA-28502: 異機種間データベース・リンクで内部通信エラーが発生しました。

原因: ORACLE の異機種間サービスへの内部通信エラーが発生しました。通常は発生しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28503: バインド値を非 Oracle システム用の SQL テキストに変換できません。

原因: このメッセージが出力される原因は 2 つ考えられます。原因は次のいずれかです。

- 異機種間データベース・リンク上で接続された非 Oracle システムではバインドがサポートされません。
- RESOLVE_BINDS 初期化パラメータによってバインドが使用禁止にされました。

解決方法: RESOLVE_BINDS 初期化パラメータを TRUE に設定してバインドを使用可能にするか、またはバインド変数を使用しない SQL 文に変更してください。

ORA-28504: 異機種間データベース・リンクに対する rowid キャッシュで ROWID が見つかりません。

原因: 異機種間サービスの ROWID キャッシュが指定された ROWID に対応する項目を 1 つも保持していません。おそらく ROWID 項目が ROWID キャッシュで上書きされました。

解決方法: 初期化パラメータ ROWID_CACHE_SIZE の値を増やして、異機種間サービスの ROWID キャッシュ・サイズを大きくしてください。

ORA-28505: name から非 Oracle システムの機能を取得できません。

原因: ORACLE は、異機種間データベース・リンクを介して接続された非 Oracle システムの機能情報を取り出すことができませんでした。この機能情報は、HS_CLASS_CAPS データ・ディクショナリ・ビューで表示できるデータ・ディクショナリ表に格納されているはずです。

解決方法: AGENT_ID および FDS_ID が、異機種間データベース・リンクで使われる Net8 サービス名定義で正しく設定されていることを確認してください。Net8 サービス名は、TNSNAMES.ORA 構成ファイルまたは Oracle Names Server で定義されます。これらが正しい場合は、HS_CLASS_CAPS ビューで表示できるディクショナリ表に格納された異機種間サービス・データ・ディクショナリ情報が正しくインストールされていることを確認してください。

ORA-28506: name(name に保存) に対するデータ・ディクショナリの変換で解析エラーが発生しました。

原因: ORACLE データ・ディクショナリ表への参照または非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクのビュー名が変換できません。ビュー HS_CLASS_DD で表示できる ORACLE データ・ディクショナリ表にデータ・ディクショナリの変換で無効な SQL が含まれています。

解決方法: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28507: 異機種間サービス初期化パラメータ処理時に、DD 表: *name* でエラーが発生しました。

原因: 異機種間サービスの初期化パラメータ表が存在しないか、またはその構造体（列数または列型）が正しくありません。

解決方法: 異機種間サービスの初期化パラメータのビューと HS_CLASS_INIT および HS_INST_INIT が正しくインストールされていることを確認してください。これらを使用可能でない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内のスクリプト CATHO.SQL を実行したことを確認してください。

ORA-28508: 異機種間サービス初期化パラメータ: *name* の値: *name* が正しくありません。

原因: Oracle データ・ディクショナリに格納されている異機種間サービス初期化パラメータの値が無効です。

解決方法: 異機種間サービスのドキュメンテーションを確認して有効な値を判別し、DBMS_HS パッケージ内のプロシージャを使って HS_INST_INIT 内のパラメータを更新してください。

ORA-28509: 非 Oracle システムへの接続を確立できません。

原因: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクの初期化で、この非 Oracle システムの異機種間サービス・エージェント・プロセスへの接続が失敗しました。

解決方法: 次の箇所で Net8 サービス名定義を確認してください。

- CREATE DATABASE LINK 文の USING 句
- TNSNAMES.ORA ファイル
- Oracle Names Server

名前の不一致の理由として次のことが考えられます。

- CREATE DATABASE LINK 文の USING 句は、TNSNAMES.ORA または Oracle Names Server で定義されるサービス名と合致しなければなりません。
- 非 Oracle システムへ接続するためのサービス名定義には、その他の異機種間サービス情報が必要です。この情報はエージェント固有です。詳細は、エージェントのインストールレーションおよびユーザー・ガイドを参照してください。
- サービス名定義のプロトコル固有の情報は、リスナーのプロトコル固有定義と合致しなければなりません。
- サービス名定義 (TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server にある) の SID=< 名前 > が、応答するリスナーの LISTENER.ORA の値と合致しなければなりません。

ORA-28510: 異機種間データベース・リンクの初期化に失敗しました。

原因: 非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクの初期化が、この非 Oracle システムのエージェントによって識別されたエラーにより失敗しました。

解決方法: 非 Oracle システムが稼働しており、エージェントの環境および初期化の値すべてが正常に設定されていることを確認してください。

ORA-28511: SID=num を使用する異機種間リモート・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因: 次の 1 つで致命的エラーが発生しました。

- ORACLE サーバーとエージェント間の接続
- 異機種間サービスのリモート・エージェント自体
- 非 Oracle システムへの接続

このエラーは通信が正常に確立した後発生しました。

解決方法: 最初にネットワークの問題とリモート・ホストのクラッシュを確認してください。問題はエージェントのソフトウェアにある可能性が高いです。エージェント・ベンダーのカスタム・サポートに連絡してください。

ORA-28512: name からの異機種間 DD 変換情報の問合せ中にエラーが発生しました。

原因: データ・ディクショナリ透過表が存在しないか、またはその構造体（列数または列型）が正しくありません。

解決方法: データベース・リンク定義で参照される AGENT_ID および FDS_ID が、Net8 サービス名定義で正しく設定されていることを確認してください。これらが正常である場合は、異機種間サービスのデータ・ディクショナリが正常にインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHO.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-28513: 異機種間リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

原因: 異機種間データベース・リンクをサポートしている Oracle リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

解決方法: エラーがどのように生成されたかをメモし、エージェント・ベンダーのカスタム・サポートの代理オブジェクトに連絡してください。

ORA-28514: 異機種間データベース・リンクの初期化でシステム日付を変換できませんでした。

原因: 現在、システム日付を取得できません。

解決方法: システム日付を確認してください。

ORA-28515: name から異機種間の定義を取得できません。

原因: ORACLE は、分散外部プロシージャまたは非 Oracle システムのインスタンスに登録されたリモート・ライブラリの定義を取出すことができませんでした。おそらく基本データ・ディクショナリ表が存在しないか、変形しているためです。

解決方法: AGENT_ID および FDS_ID が、データベース・リンクの接続パラメータで、またはリンク定義で参照される TNSNAMES.ORA エントリで正しく設定されていることを確認してください。これらが正常である場合は、異機種間サービスのデータ・ディクショナリが正常にインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHO.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-28518: データ・ディクショナリ変換に不正な変換タイプがあります。

原因: このエラーは、データ・ディクショナリ情報をインストールするためエージェント・ベンダーからのスクリプトを実行するとき発生します。データ・ディクショナリ変換が不正な変換タイプ・コードを指定しています。有効な値は、'T' または 't'; が ' 変換のため、'M' または 'm'; が ' 模擬のため、' です。エラーの原因となっている正確なデータ・ディクショナリ変換に関する情報は、ORACLE インスタンスのトレース (.TRC) ファイルおよび ORACLE インスタンスのアラート・ログに書き込まれています。

解決方法: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28519: 使用可能な異機種間データ・ディクショナリ変換がありません。

原因: ORACLE サーバー・データ・ディクショナリが、接続された非 Oracle システムのデータ・ディクショナリ変換を定義していません。接続されたエージェントが、自己登録 (自動データ・ディクショナリ・アップロード) を使用可能にしていません。

解決方法: スクリプトを実行して、異機種間サービス・データ・ディクショナリに非 Oracle システム固有の情報をロードしたことを確認してください。このスクリプトはエージェント・ベンダーから提供されます。スクリプトが実行されても、エラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートの代理オブジェクトに連絡してください。

ORA-28520: データ・ディクショナリ変換初期化中にエラーが発生しました。

原因: ORACLE が、非 Oracle システムのインスタンスに対してデータ・ディクショナリ変換を取り出すことができませんでした。おそらく基礎を形成するデータ・ディクショナリ表が存在しないか、変形しているためです。

解決方法: AGENT_ID および FDS_ID が、データベース・リンク定義で使われる Net8 サービス名定義で正しく設定されていることを確認してください。これらが正しい場合は、次のことを確認してください。

- 異機種間サービスのデータ・ディクショナリが正常にインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHO.SQL スクリプトを実行してください。
- スクリプトを実行して、異機種間サービス・データ・ディクショナリに非 Oracle システム固有の情報をロードしたことを確認してください。このスクリプトはエージェント・ベンダーから提供されます。

スクリプトが両方実行されても、エラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートの代理オブジェクトに連絡してください。

ORA-28521: 使用可能な異機種間機能情報がありません。

原因: ORACLE カーネルのデータ・ディクショナリに、接続された非 Oracle システムのための機能が含まれていません。接続されているエージェントが、自己登録を使用可能にしています。

解決方法: スクリプトを実行して、異機種間サービス・データ・ディクショナリに非 Oracle システム固有の情報をロードしたことを確認してください。このスクリプトはエージェント・ベンダーから提供されます。スクリプトが実行されても、エラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28522: 異機種間機能初期化中にエラーが発生しました。

原因: ORACLE インスタンスのデータ・ディクショナリからの非 Oracle システムの機能定義の読み込みに失敗しました。

解決方法: AGENT_ID および FDS_ID が、データベース・リンク定義で使われる Net8 サービス名定義で正しく設定されていることを確認してください。これらが正しい場合は、次のことを確認してください。

- 異機種間サービス・データ・ディクショナリが正常にインストールされていること。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHO.SQL スクリプトを実行してください。
- スクリプトを実行して、異機種間サービス・データ・ディクショナリに非 Oracle システム固有の情報をロードしたことを確認してください。このスクリプトはエージェント・ベンダーから提供されます。

スクリプトが実行されても、エラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートの代理オブジェクトに連絡してください。

ORA-28523: ORACLE と異機種間エージェントのバージョンに互換性がありません。

原因: データベース・リンク上での操作が非 Oracle システムに接続しようとした。非 Oracle システムの ORACLE インスタンスとリモート・エージェント・プロセスに互換性がありません。

解決方法: DBA に、ORACLE インスタンスとエージェントの両方の構成を確認してもらってください。バージョンの非互換性の詳細情報は、ORACLE インスタンスとエージェントのトレース (.trc) ファイルおよび ORACLE インスタンスのアラート・ログにロギングされています。エージェントのインストールおよびユーザーズ・ガイドを確認して、Oracle サーバーがサポートされているリリースを見つけてください。

ORA-28524: 異機種間の表の列に指定された最大長が無効です。

原因: 異機種間サービスでは、クライアント定義に対して列の最大長が設定されています。異機種間サービスがハンドルできる値の範囲にない長さを受け取ると、このエラーがシグナルされます。このエラーは通常発生しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28525: 異機種間サービスのエラー・メッセージ・テキストを作成できません。

原因: 不正な引数がエラー・メッセージ作成ルーチンに渡されました。このエラーは通常発生しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28526: 無効な記述情報が異機種間サービスに戻されました。

原因: 異機種間サービスが、異機種間サービス・エージェントから選択リストまたは結合リスト、格納プロシージャに対して無効な記述情報を受け取りました。これは、異機種間サービスの非 Oracle システム・エージェントに問題があることを示しています。

解決方法: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28527: 異機種間サービス・データ型のマップ中にエラーが発生しました。

原因: Oracle データ型と非 Oracle システムのデータ型間のマッピングがデータ・ディクショナリの機能表に格納されています。このエラーは次の理由で発生します。

- Oracle データ型を、非 Oracle システム・データ型上でマップすることはできませんでした。
- 非 Oracle システムのデータ型を、Oracle データ型上でマップすることはできませんでした。

解決方法: スクリプトを実行して、異機種間サービス・データ・ディクショナリに非 Oracle システム固有の情報をロードしたことを確認してください。このスクリプトには、データ型の機能情報が含まれています。このスクリプトはエージェント・ベンダーから提供されます。スクリプトが実行されても、エラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28528: 異機種間サービス・データ型の変換中にエラーが発生しました。

原因: 異機種間サービスが Oracle データ型からの値を非 Oracle システム・データ型からの値に変換できませんでした。または非 Oracle システム・データ型からの値を Oracle データ型からの値に変換できませんでした。理由は次のいずれかである可能性があります。

- オーバーフロー問題 (数値のケース)
- 長さ制限 (文字列のケース)
- 変換ルーチンに渡された無効な値

解決方法: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。問題が Oracle と非 Oracle システム間のサイズの相違によるものである場合は、値の変換ができない可能性があります。

ORA-28529: Net8 サービス名定義のパラメータがないか、または無効です。

原因: TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server のいずれかに格納されている Net8 サービス名定義内の異機種間サービス・パラメータが無効か、またはパラメータがありません。

解決方法: DBA に連絡し、情報が正しく完全であることを確認してください。Net8 サービス定義に組み込まれる正しい情報はエージェントのインストレーションおよびユーザー・ガイドに記載されています。

ORA-28530: 異機種間サービス初期化中にエラーが発生しました。

原因: 異機種間サービスの初期化中にエラーが発生しました。このエラーは通常発生しません。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28532: 異機種間サービス SQL 生成エラー

原因: 異機種間サービスで非 Oracle 以外のシステムに送られる SQL 文が生成できませんでした。最も可能性のある原因は、ケイバピリティ表がデータ・ディクショナリ変換表のどちらかで設定が間違っていることです。

解決方法: ケイバピリティ表とデータ・ディクショナリ変換表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、DBA で変更されます。DBA とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい機能とデータ辞書設定をインストールしてください。

ORA-28533: 異機種間サービス強制処理エラー

原因: 異機種間サービスが強制処理でエラーを起こしました。エージェント・ベンダーが選択すれば、異機種間サービスは暗黙的な強制を含む SQL 文や、TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE といった 強制関数を含む SQL 文について追加の処理を行います。この機能は、強制に関する機能が制御しています。このエラーは異機種間サービスがこれらの機能設定内でエラーを起こすと表示されます。

解決方法: ケイバピリティ表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、DBA で変更されます。DBA とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28534: 異機種間サービス前処理中のエラー

原因: 異機種間サービスが実行できる機能の 1 つとして、暗黙的な強制を含む SQL 文の一部あるいは、TO_CHAR TO_NUMBER や TO_DATE のような明示的な強制ファンクションを呼び出す SQL 文の一部を前処理する機能があります。たとえば、TO_DATE へのコールをバインド変数に変換したり、TO_DATE 関数コールを前評価して、結果の値をバインド値として Oracle 以外のシステムに渡したりすることができます。この動作は強制に関係のある機能が制御しています。機能の設定が間違っていた場合、前処理を行おうとすると、異機種間サービスはエラーを生じます。

解決方法: 機能表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、DBA で変更されます。DBA とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28535: 異機種間サービス・コンテキストが無効です。

原因: エージェントのインプリメンタが無効なコンテキスト・パラメータを持つ HS サービス・ルーチンの 1 つを呼び出しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートあるいはエージェント・ベンダーに連絡してください。

ORA-28550: Passthrough SQL: カーソルが見つかりません。

原因: 関数またはプロシージャ・コールから渡されたカーソルが無効です。

解決方法: API OPEN_CURSOR コールで戻されたカーソル番号を使ってください。

ORA-28551: Passthrough SQL: SQL 解析エラーが発生しました。

原因: 非 Oracle システムへ不法な SQL が渡されようとしてしました。

解決方法: API 解析コールに提供された SQL が、非 Oracle システムに受け入れられていることを確認してください。

ORA-28552: Passthrough SQL: コール・フロー・エラーが発生しました。

原因: Passthrough SQL 関数を無効な順序でコールしようとしてしました。

解決方法: API コールの順序を変更して、マニュアルに記載されている フローと合致するようにプログラムを修正してください。

ORA-28553: Passthrough SQL: API パラメータ・エラーが発生しました。

原因: Passthrough 解析 SQL API: 位置が無効です。位置を通知するパラメータが範囲外です。

解決方法: パラメータがバインド変数の数値または選択リスト項目の範囲内であることを確認してください。

ORA-28554: Passthrough SQL: カーソル数が範囲外です。

原因: 認められているオープン・カーソルの数を超えました。

解決方法: Passthrough SQL API クローズ・コールを使ってオープン・カーソルをクローズしてください。

ORA-28555: Passthrough SQL: 必須パラメータがないか、または NULL です。

原因: NULL でないパラメータへ NULL 値が渡されようとしてしました。

解決方法: パラメータに NULL でない値を使ってください。

ORA-28556: 認証が不十分で表にアクセスできません。

原因: 問合せが、権限または権限列を持つ非 Oracle システムの表にアクセスしようとしてしました。

解決方法: DBA に連絡してください。DBA は、権限表または列へのアクセス許可を付与することができます。

ORA-28557: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクに対する name は不明です。

原因: 異機種間サービス・データベース・リンクを通して非 Oracle システムへの接続をしようとしたとき、この非 Oracle システムをサポートしているエージェントから FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME、あるいはその両方が戻りませんでした。ORACLE ではこれらの名前で異機種間データベース・リンクが構成されることが必要です。

解決方法: DBA に連絡して、接続の設定と異機種間サービスのエージェントを確認してください。

ORA-28558: FDS_CONNECT_STRING が非 Oracle システムに対して定義されていません。

原因: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクには、ORACLE データ・ディクショナリ内に異機種間サービスに対する FDS_CONNECT_STRING 初期化パラメータが必要です。このパラメータがないため接続は完了できませんでした。

解決方法: DBA に連絡して、ORACLE の異機種間サービス・データ・ディクショナリにある FDS_CONNECT_STRING エントリの正確な設定を確認してください(『Oracle8 Server リファレンス・マニュアル』の HS_ALL_INITS ビューを参照してください)。SYS.DBMS_HS パッケージの PL/SQL プロシージャを使用して、FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の接続のためのエントリを作成または置換する必要がある場合があります。

ORA-28559: FDS_CLASS_NAME は name です。FDS_INST_NAME は name です。

原因: このメッセージには補足情報が提供され、別のメッセージでレポートされたエラーの診断を支援します。FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME を使用して、ORACLE データ・ディクショナリの表やビューの情報にアクセスし、データベース・リンク上の異機種間サービスの操作を非 Oracle データ・ストアに指示してください。

解決方法: FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の値を使用して、必要に応じて ORACLE データ・ディクショナリの内容を確認して、対応付けられたエラーの原因を診断してください。

アンストラテッドおよび分散外部プロシージャ・メッセージ: 28575 ~ 28599

ORA-28575: 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続をオープンできません。

原因: 外部プロシージャ・エージェントへのネットワーク接続の初期化に失敗しました。ネットワークの問題または不正なリスナー構成、不正な転送コードが原因の可能性があります。

解決方法: LISTENER.ORA および TNSNAMES.ORA のリスナー構成または Oracle Names Server を確認してください。

ORA-28576: 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因: 通信が正常に確立された後で、RPC ネットワーク接続または外部プロシージャ・エージェント、起動された 3GL で致命的エラーが発生しました。

解決方法: 最初に起動する 3GL コードを確認し、ネットワークに問題がないことを確認してください。ほとんどの場合、起動している "C" ルーチンが異常終了しています。すべてのコンポーネントが正しいように見え、問題が解決しない場合は、転送コードの内部論理エラーの可能性があります。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28577: 外部プロシージャ名の引数名は、データ型名がサポートされていません。

原因: エージェントへの外部プロシージャ引数の転送時に、サポートされていないデータ型が検出されました。

解決方法: 外部プロシージャ引数としてサポートされているデータ型をマニュアルで確認してください。

ORA-28578: 外部プロシージャからのコールバック中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28579: 外部プロシージャ・エージェントからのコールバック中にネットワーク・エラーが発生。

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部ネットワーク・エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28580: 再帰的外部プロシージャはサポートされていません。

原因: ユーザーの 3GL ルーチン内のコールアウトによって、別の外部プロシージャが起動されました。

解決方法: コールバックで実行された SQL が、別の外部プロシージャを直接にコールしていないことを確認してください。または、外部プロシージャをコールするトリガーや、外部プロシージャをコールする PL/SQL プロシージャなど、別の外部プロシージャを間接的にコールしていないことを確認してください。

ORA-28581: 再帰的外部プロシージャの実行中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: 別の外部プロシージャのコールバックの結果として外部プロシージャが実行されようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28582: このエージェントへの直接接続は許可されていません。

原因: ユーザーまたはツールが、外部プロシージャ・エージェントまたは異機種間サービス・エージェントへの直接接続を確立しようとした。次に例を示します。

```
SVRMGR> CONNECT SCOTT/TIGER@NETWORK_ALIAS
これは許可されていません。
```

解決方法: CONNECT 文を実行する場合、データベース・リンクまたはネットワークの別名が異機種間サービス・エージェントまたは外部プロシージャ・エージェントをポイントしていないことを確認してください。

ビットマップ索引 : 28600 ~ 28620

ORA-28605: ビットマップ索引は逆にできません。

原因: 逆ビットマップ索引を作成しようとしてしました。

解決方法: この機能はサポートされていません。

ORA-28611: ビットマップ索引が壊れています。診断についてはトレース・ファイルを参照してください。

原因: 引数索引の中でインデックス検出ビットマップ破壊を確認してください。

解決方法: このビットマップ索引を削除し、新しいビットマップ索引を作成してください。

セキュリティ・サーバー・メッセージ : 28750 ~ 29249

他のセキュリティ・サーバー・メッセージについては、378 ページの「セキュリティ関連メッセージ : 28000 ~ 28499」を参照してください。

ORA-28750: 不明なエラーが発生しました

原因: 不明なタイプの Oracle Security Service エラーが発生しました。

解決方法: オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。このエラーは、通常はアプリケーションから参照できません。

ORA-28751: メモリーの割当てに失敗しました。

原因: システム・メモリーを使い果たしたため、メモリーの割当てに失敗しました。

解決方法: 他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

ORA-28752: データ・ソースの初期化に失敗しました。

原因: データ・ソースの初期化に失敗しました。

解決方法: エラーの正確な原因を判別するために、Net8 トレースを使用可能にしてください。このエラーは、システム資源が使い果たされていることが原因の場合が多くあります。

ORA-28753: データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因: データ・ソースの使用終了に失敗しました。

解決方法: エラーの正確な原因を判別するために、Net8 トレースを使用可能にしてください。このエラーは、メモリーまたはディスクの破壊が原因である可能性があります。

ORA-28755: オブジェクトの検索に失敗しました。

原因: ファイルまたはデータベースからの情報の取出しに失敗しました。

解決方法: データ・ソースが存在することを確認してください。または、取り出す対象の情報が正しいことを確認してください。

ORA-28756: コールバックでメモリーの割当てに失敗しました。

原因: 呼出し元が提供した関数でメモリーの割当てに失敗しました。

解決方法: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

ORA-28757: 0(ゼロ)バイトのメモリーを割当てようとした。

原因: メモリーを使い果たしました。

解決方法: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

ORA-28758: メモリーの解放に失敗しました。

原因: メモリー断片部分の解放に失敗しました。アプリケーションまたは Oracle Security Server ライブラリ内のメモリーが破壊されている可能性があります。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、操作が失敗した理由を判断してください。

ORA-28759: ファイルのオープンに失敗しました。

原因: 指定されたファイルのオープンに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、オープンできなかったファイルの名前とその理由を判断してください。

ORA-28763: 無効なパラメータの型です。

原因: おそらく SQLNET.ORA 内のパラメータにエラーがあります。

解決方法: SQLNET.ORA ファイルでこのパラメータ値を確認してください。

ORA-28764: 構成パラメータの検索に失敗しました。

原因: 構成パラメータの検索に失敗しました。

解決方法: 必要な構成パラメータを提供してください。

ORA-28766: データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因: データ・ソースの使用を終了しようとしたときにエラーが発生しました。システム・エラーの可能性があります。

解決方法: トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かを判断してください。

ORA-28767: 無効なバージョン番号です。

原因: ファイルのバージョン番号が正しくありません。

解決方法: 正しいバージョン番号を入力し、操作を再試行してください。

ORA-28768: マジック番号が正しくありません。

原因: データ・ファイルに無効なマジック番号が指定されました。

解決方法: ディスクが破壊されているか、または他のプロセスがファイルを上書きした可能性があります。トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かを判断してください。

ORA-28769: 指定されたメソッドが存在しません。

原因: 構成ファイルに指定されているデータ・アクセス・メソッドはサポートされていません。

解決方法: サポートされているメソッドを指定してください。サポートされているタイプは Oracle Security Server のマニュアルで調べてください。

ORA-28770: データ・ソースはすでに初期化されています。

原因: 呼出し元は、すでに初期化されているデータ・ソースを初期化しようとした。

解決方法: これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは、データ・ソースを 2 回以上初期化してはなりません。

ORA-28771: データ・ソースはまだ初期化されていません。

原因: 呼出し元は、まだ初期化されていないデータ・ソースを使おうとしました。

解決方法: これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは必ずデータ・ソースを初期化する必要があります。

ORA-28773: マジック番号およびバージョン番号の書込みに失敗しました。

原因: マジック番号とバージョン番号の書込みに失敗しました。

解決方法: このエラーは、通常はディスク領域が使い果たされたために発生します。

ORA-28774: ディスクへのファイルの書込みに失敗しました。

原因: ファイルの出力に失敗しました。

解決方法: このエラーは、通常はディスク領域が使い果たされたために発生します。

ORA-28775: ファイルのクローズに失敗しました。

原因: データ・アクセス・メソッドで使われるファイルのクローズに失敗しました。

解決方法: このエラーは、通常はメモリーの破壊やシステム・エラーなどを示しています。トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かをトレース・ファイルで調べてください。

ORA-28776: 供給された出力バッファが小さすぎます。

原因: 関数から戻されるデータが大きすぎるため、供給されているバッファに入りきりません。

解決方法: より大きなバッファを使ってルーチンを再度コールしてください。

ORA-28777: バインディングの作成に失敗しました。

原因: パラメータ値の解析で使うバインディングの作成に失敗しました。このエラーは、たとえば必要な位置に右かっこがないなど、パラメータ値の形式に誤りがあること、またはシステム・メモリーが使い果たされていることが原因の可能性があります。

解決方法: パラメータが正しい形式で指定されていることを確認してください。形式が正しい場合は、プロセスを終了してシステム・メモリーを解放するか、メモリーを追加してください。

ORA-28778: 指定されたパラメータの形式が正しくありません。

原因: 構成パラメータが正しい形式で指定されていません。

解決方法: このパラメータの正しい形式は、Oracle Security Server のマニュアルで調べてください。

ORA-28779: パラメータにデータ・アクセス・メソッドが指定されていません。

原因: パラメータ値にデータ・アクセス用のメソッドが指定されていませんでした。

解決方法: パラメータ・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドは、Oracle Security Server のマニュアルで調べてください。

ORA-28780: パラメータにより指定されたメソッドが無効です。

原因: パラメータ値で指定されたデータ・アクセス・メソッドはサポートされていません。

解決方法: データ・アクセス・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドは、Oracle Security Server のマニュアルで調べてください。

ORA-28781: パラメータにメソッド・データが指定されていません。

原因: 指定されたアクセス・メソッドで使うパラメータにデータが指定されていません。

解決方法: アクセス・メソッド用に指定する必要があるデータは、Oracle Security Server のマニュアルで調べてください。

ORA-28782: データ・ソースが割当てられていません。

原因: データ・ソースにメモリーが割当てられていません。

解決方法: アプリケーションは、データ・ソースの初期化関数をコールする必要があります。

ORA-28783: 無効なパラメータです。

原因: 構成ファイル内のパラメータ名と一致しません。

解決方法: SQLNET.ORA ファイル内のパラメータを確認してください。

ORA-28784: ファイル名の変換に失敗しました。

原因: Oracle 形式から固有形式へのファイル名の変換に失敗しました。

解決方法: 正しい名前を指定してください。正しいファイル名形式は、ORACLE のマニュアルで調べてください。

ORA-28785: パラメータが存在しません。

原因: 構成パラメータがパラメータ・ファイルに存在しません。

解決方法: 必要なパラメータを提供してください。

ORA-28786: 暗号化アルゴリズムが不明です。

原因: 不正なパスワードが暗号解読に使われました。

解決方法: 正しいパスワードを入力してください。

ORA-28787: メモリーの割当てに失敗しました。

原因: システム・メモリーが使い果たされたため、バッファを拡張するためのメモリー割当てに失敗しました。

解決方法: 他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

ORA-28788: 無効なキーのサイズです。

原因: プロンプトに対するユーザーの入力が正しくありません。または、不明なエラーです。

解決方法: 正しい入力を提供するか、またはトレースを使用可能にしてトレース・ファイルでエラーを確認してください。

ORA-28790: NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: NLS サブシステムが使う文字列のオープンに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28791: 証明の照合に失敗しました。

原因: ユーザーが供給した証明の照合に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28792: PL/SQL の操作でエラーが発生しました。

原因: Oracle Security Service が実行しようとした PL/SQL 操作に失敗しました。

解決方法: 内部エラーです。Net8 を使用可能にし、操作を再試行してください。アシスタンスについてはオラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28794: データ型の属性初期化に失敗しました。

原因: データ型の属性の初期化に失敗しました。

解決方法: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。このエラーは、システム・リソースを使い果たしたことが原因の可能性があります。

ORA-28795: 属性データ型の使用終了に失敗しました。

原因: 属性データ型サブシステムの使用終了に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28796: アクセス・メソッドがサポートされていません。

原因: データのアクセスに指定されたメソッドがサポートされていません。

解決方法: サポートされているアクセス・メソッドを使ってください。

ORA-28797: 無効なデータ型です。

原因: キーに指定されたデータ型はサポートされていません。

解決方法: キー型を修正して、操作を再試行してください。

ORA-28798: 結合するサブキーの数がキーの数と一致しません。

原因: 結合するためにアプリケーションから渡されたキーの数が、キーの作成に使われる数と一致しません。

解決方法: これは内部プログラミング例外です。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28799: 共有メモリーの割当てに失敗しました。

原因: 共有サーバーに関連する操作で使う共有メモリーの割当てに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。このエラーは、おそらく Oracle Server で供給されているメモリー・ヒープが使い果たされたことが原因です。

ORA-28800: オープンに失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のオープンに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28802: 指定されたモードは無効です。

原因: 構成ファイルに指定されているモードまたはデータ・ソースが正しくありません。

解決方法: SQLNET.ORA ファイルでメソッド・パラメータを確認してください。あるいは、Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28803: 入出力操作に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のアクセスに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28804: クローズに失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のクローズに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28805: 検索に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）からの情報の検索に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28806: 保存に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）への書込みに失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28807: 更新に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）の更新に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28808: メソッド情報の検索に失敗しました。

原因: メソッド（ファイル / データベース）情報の検索に失敗しました。

解決方法: SQLNET.ORA ファイルでメソッド構成パラメータを確認してください。
Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28809: 削除に失敗しました。

原因: データ・ソースからの情報の削除に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28810: 作成に失敗しました。

原因: キー記述子の作成に失敗しました。

解決方法: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

ORA-28814: Oracle 形式から固有形式への数値変換に失敗しました。

原因: Oracle 形式で指定された数値を固有形式に変換できませんでした。

解決方法: これは内部プログラミング例外です。Net8 トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡し、トレース・ファイルを供給してください。

ORA-28815: 固有形式から Oracle 形式への数値変換に失敗しました。

原因: 固有形式で指定された数値を Oracle の移植性のある形式に変換できませんでした。

解決方法: これは内部プログラミング例外です。Net8 トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。オラクル社カスタマー・サポートに連絡し、トレース・ファイルを供給してください。

ORA-28816: パスワードが渡されていません。

原因: 要求されたパスワードが PL/SQL 関数に渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28817: PL/SQL 関数からエラーが戻されました。

原因: PL/SQL 関数から予期せずエラーが戻されました。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28818: パッケージ・コンテキストが渡されていません。

原因: セキュリティ・パッケージの状態を保持するコンテキストが、それを必要としている関数またはプロシージャに渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28819: 識別名が渡されていません。

原因: ユーザーの識別名が PL/SQL 関数またはプロシージャに提供されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28820: 状態が渡されていません。

原因: 署名または暗号解読 / 暗号化のどちらかの状態が PL/SQL 関数 またはプロシージャに渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28821: 入力バッファが渡されていません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャが期待したバッファに渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28822: シードがありません。

原因: PL/SQL のシード初期化関数にシードが指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28823: バイト数が指定されていません。

原因: 発生する乱数のバイト数が PL/SQL 乱数発生ルーチンへ指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28824: 暗号化 / 暗号解読 / 署名の状態が正しくありません。

原因: PL/SQL の暗号化、暗号読解、または署名のプロシージャまたは関数に無効な状態が渡されています。

解決方法: 正しい状態値を指定して、操作を再試行してください。

ORA-28825: 暗号エンジン関数が指定されていません。

原因: 暗号エンジン関数が指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28826: 暗号エンジン関数が正しくありません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに不正な暗号エンジン関数が渡されています。

解決方法: 正しいエンジン関数を指定して、操作を再試行してください。

ORA-28827: 無効な暗号タイプです。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに不正な暗号タイプが渡されています。

解決方法: 正しい暗号タイプを指定して、操作を再試行してください。

ORA-28828: 無効な ID タイプ

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに不正な ID タイプが渡されています。

解決方法: 正しい ID タイプを指定して、操作を再試行してください。

ORA-28829: 暗号タイプが指定されていません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに暗号タイプが渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28830: 身元証明タイプが指定されていません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに身元証明タイプが渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28831: データ単位フォーマットが渡されていません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャにデータ単位フォーマットが渡されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28832: データ単位フォーマットが正しくありません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに不正なデータ単位フォーマットが渡されています。

解決方法: データ単位フォーマットを指定して、操作を再試行してください。

ORA-28833: 十分な情報が提供されていません。

原因: PL/SQL 関数に十分な情報 (通常パラメータ) が提供されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28834: バッファが小さすぎます。

原因: PL/SQL が Oracle Security Server Toolkit 関数に提供しているバッファが、戻されるデータには小さすぎます。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28835: 身元証明記述子がないか、または小さすぎます。

原因: PL/SQL 関数または記述子に渡された身元証明記述子が提供されていないか、サイズが正しくありません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28836: Wallet がオープンしていません。

原因: 使用される Wallet がまだオープンしていません。

解決方法: Wallet をオープンする関数をコールして、操作を再試行してください。

ORA-28837: Wallet 記述子がありません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに Wallet 記述子が指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28838: 身元証明記述子がありません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに身元証明記述子が指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28839: Persona 記述子がありません。

原因: PL/SQL 関数またはプロシージャに Persona 記述子が指定されていません。

解決方法: 内部エラーです。オラクル社カスタマー・サポートに連絡してください。

ORA-28840: Wallet はすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしている Wallet をオープンしようとしてしました。

解決方法: これはプログラミング・エラーです。Wallet をオープンするのは一度だけです。

ORA-28841: サポートされていない操作です。

原因: サポートされていない操作を実行しようとしてしました。

解決方法: これはプログラミング・エラーです。

ORA-29228: 出力のバイト数を計算できませんでした。

原因: 暗号エンジンがアルゴリズムについて混同しています。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29229: ヘッダーで検出されたマジック番号が期待値と一致しません。

原因: 入力 TDU が破壊されているか、または正しく使われていません。

解決方法: TDU が最初から使われていることを確認してください。可能なら、生成時の TDU のサイズと使おうとしたサイズを比較してください。

ORA-29230: メッセージ・ヘッダーのヘッダー長が不十分です。

原因: 入力 TDU が破壊されているか、または正しく使われていません。

解決方法: TDU が最初から使われていることを確認してください。可能なら、生成時の TDU のサイズと使おうとしたサイズを比較してください。

ORA-29231: 暗号エンジンの初期化に失敗しました。

原因: 暗号エンジンの初期化中に、なんらかのエラーが発生しました。このエラーには、メモリーの不足や、乱数発生ルーチンをシードしようとしたことなどがあります。

解決方法: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、およびスワップ・スペースが使い尽くされていないことを確認してください。

ORA-29232: 暗号エンジン・キーの初期化に失敗しました。

原因: 暗号化用のキーの初期化中になんらかのエラーが発生しました。このエラーには、メモリーの不足や不正な引数の受渡しなどがあります。

解決方法: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、および暗号関数に正しいパラメータが使用されていることを確認してください。

ORA-29233: キー・オブジェクトをコード化できませんでした。

原因: キー・オブジェクトが破壊されているか、またはサポートされない型です。

解決方法: コード化ルーチンに渡されているキー・オブジェクトを確認してください。

ORA-29234: キー・オブジェクトがコード化されませんでした。

原因: コード化が破壊されているか、またはキー・オブジェクトではありません。

解決方法: 復号化ルーチンに渡されたコード化およびパラメータを確認してください。

ORA-29235: キー情報を取得できませんでした。

原因: キーが破壊されているか、またはサポートされない型です。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29236: ランダム・ナンバー・ジェネレータがシードを受け入れません。

原因: 暗号エンジンがメモリーを使い尽くした可能性があります。

解決方法: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていることを確認してください。

ORA-29237: 暗号エンジンでアルゴリズムを終了できませんでした。

原因: 暗号エンジンが、アルゴリズムの適用を正しく完了するために必要な情報を持っていません。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29238: 暗号エンジンでアルゴリズムを適用できませんでした。

原因: 暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく適用するために必要な情報を持っていません。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29239: 暗号エンジンでアルゴリズムを初期化できませんでした。

原因: 暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく初期化するために必要な情報を持っていません。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29240: 暗号エンジンでアルゴリズムを認識できません。

原因: アプリケーションはおそらく間違ったパラメータを渡しました。

解決方法: 暗号関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29241: バッファ・ブロックにさらに領域が必要ですが、長さが固定されています。

原因: アプリケーションは、その操作用には短かすぎる出力バッファを事前割当てし、必要に応じてバッファを拡張しないことを指定しました。

解決方法: より大きなバッファを事前割当てするか、Toolkit が必要に応じて出力バッファを拡張できるようにしてください。

ORA-29242: 非対称キーが短すぎてデータに使用できません。

原因: 非対称キーは、暗号化に使われるデータよりも少なくとも 11 バイト長くなければなりません。

解決方法: より長い非対称キーを使うか、またはデータをより小さな断片に分割してください。

ORA-29243: 使用しているキーのタイプが Toolkit に認識されません。

原因: アプリケーションはおそらく間違ったパラメータを渡しました。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29245: 使用している関数が Toolkit に認識されません。

原因: アプリケーションはおそらく間違ったパラメータを渡しました。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29246: Toolkit で tdu を解析できませんでした。

原因: TDU が壊れている可能性があります。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29247: オープンする前に Toolkit オブジェクトが使用されました。

原因: 一部の Toolkit オブジェクトは、使う前にオープンする必要があります。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29248: 認識されない WRL が Wallet のオープンに使用されました。

原因: WRL は、特定の型セットを持ち、正しくフォーマットされている必要があります。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

ORA-29249: 暗号関数に渡された状態が認識されません。

原因: アプリケーションはおそらく間違ったパラメータを渡しました。

解決方法: Toolkit 関数で使われているパラメータを確認してください。

DBMS_SQL メッセージ : 29250 ~ 29399

ORA-29250: DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで無効な索引が指定されました。

原因: DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで無効な索引が指定されました。索引が NULL または不適切な値である可能性があります。

解決方法: PL/SQL プログラムを変更して索引値を修正し、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29251: DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで Index1 が Index2 の値を超えています。

原因: bind_array の呼出しで、index1 の値が index2 の値を超えています。結合される表の要素は index1 以上かつ index2 以下の索引を持つので、これは正しくありません。

解決方法: 2 つの索引の値を修正して、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29252: DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで、索引位置の要素がコレクションに含まれません。

原因: DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで、結合表が両方の索引位置に要素を含んでいません。これは不正です。両方の索引位置が要素を含んでいる必要があります。つまり、tab.exists(index1) と tab.exists(index2) は、どちらも TRUE を戻す必要があります。

解決方法: 2 つの索引か表の目次のどちらかを変更して、呼出しを再試行してください。

ORA-29253: プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された COUNT 引数が無効です。

原因: パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された count 引数の値が無効です。無効な値は負数および NULL です。引数は正整数でなければなりません。

解決方法: 有効な引数だけが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29254: プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された LOWER_BOUND 引数が無効です。

原因: プロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された LOWER_BOUND 引数の値が無効です。有効な値は、0 (ゼロ) を含むすべての整数値 (正および負) です。NULL 値は無効です。

解決方法: 有効な引数だけが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29255: カーソルに許可されない結合配列および定義配列が含まれています。

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY と BIND_ARRAY の両方がコールされました。これは不正です。1 つのカーソルが配列結合と配列定義の両方を含むことはできません。配列定義は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使い、配列結合は PL/SQL 表を非選択問合せに結合するために使います。

解決方法: 手元のカーソルの種類によって 2 つの関数のうち 1 つにだけ呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29256: カーソルに不正な標準定義および配列定義があります。

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY と DEFINE_COLUMN の両方がコールされました。これは不正です。1 つのカーソルが標準定義と配列定義の両方を含むことはできません。配列定義は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使い、標準定義は選択問合せから PL/SQL 変数にデータを移動するために使います。

解決方法: 手元の状況によって 2 つの関数のうち 1 つにだけ呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29300: 表領域の適正時点回復で Oracle エラーが発生しました。

原因: DBMS_PITR パッケージで Oracle エラーが発生しました。

解決方法: エラーの説明は、Oracle エラー・メッセージのテキストを参照してください。

ORA-29301: DBMS_PITR パッケージ関数 / プロシージャの順序が正しくありません。

原因: DBMS_PITR パッケージ関数 / プロシージャが不正な順序でコールされました。

解決方法: 正しい順序で表領域の適正時点回復を再起動してください。

ORA-29302: データベースがクローンとしてオープンされていません。

原因: データベースがクローン・データベースとしてオープンされていませんでした。

解決方法: データベース・クローンをマウントし、データベースをオープンしてください。

ORA-29303: ユーザーが SYS でログインしていません。

原因: ユーザーは、クローン・データベースで表領域の適正時点回復を実行するために SYS としてログインしませんでした。

解決方法: SYS としてログインし、表領域の適正時点回復を再起動してください。

ORA-29304: 表領域 'name' が存在しません。

原因: 選択された表領域がデータベースに存在しません。

解決方法: V\$TABLESPACE で表領域のリストを確認し、有効な表領域を選択してください。

ORA-29305: 表領域 '*name*' を適正時点回復できません。

原因: 表領域を読み込み専用に変更しようとした。

解決方法: 表領域が SYSTEM であるか、またはオンライン・ロールバック・セグメントを持つかを確認してください。

ORA-29306: データ・ファイル: *name* はオンラインではありません。

原因: 選択されたデータ・ファイルがオンラインではありません。

解決方法: データ・ファイルをオンラインにし、必要に応じて改名してください。

ORA-29307: データ・ファイル: *name* がエラーです。 *name*

原因: データ・ファイルが表領域の適正時点回復用に準備されていません。

解決方法: 表領域の正しい適正時点回復手順を確認してください。

ORA-29308: TS_PITR_CHECK ビューが失敗しました。

原因: 回復セットの境界を超える一部のオブジェクトが、表領域の適正時点回復で許可されていませんでした。

解決方法: TS_PITR_CHECK を問合せで、境界を超えるオブジェクトを解決してください。

ORA-29309: エクスポート・ダンプ・ファイルが異なるバージョンの DBMS_PITR パッケージで生成されました。

原因: DBMS_PITR のバージョンが、クローン・データベースのバージョンと異なります。

解決方法: クローン・データベースのバージョンと一致するバージョンの DBMS_PITR をロードしてください。

ORA-29310: データベースがオープンしていないか、またはクローンでオープンされています。

原因: データベースがオープンされていないか、またはクローン・データベースとしてオープンされていました。

解決方法: かわりに本番データベースをオープンしてください。

ORA-29311: エクスポート・ダンプ・ファイルはこのデータベースで生成されません。 *name* が不一致です。

原因: 本番データベースがクローン・データベースと異なります。

解決方法: 正しい本番データベースをオープンし、インポートを再試行してください。

ORA-29312: データベースに互換性がありません。 *name name*

原因: 回復を実行するために適正時点表領域が選択されましたが、現行のデータベースは適正時点表領域の作成に使われたデータベースと互換性がありません。

解決方法: 別の適正時点を選択し、操作を再試行してください。

ORA-29313: 表領域: 'name' へ 2 回インポートできません。

原因: 内部エラーです。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29314: 表領域: 'name' は OFFLINE FOR RECOVER、READ ONLY のどちらでもありません。

原因: 表領域消去 SCN (システム・コミット番号) が 0 (ゼロ) または無効です。

解決方法: 表領域 OFFLINE FOR RECOVER を変更してください。

ORA-29315: 表領域 'name' が再作成されました。

原因: 表領域を再作成する前に、適正時点回復を実行しようとした。

たとえば、1/1 に表領域 FINANCIAL を作成し、それを 1/10 に削除します。1/12 に、同じく FINANCIAL という新しい表領域を作成します。ORACLE ではこれが可能です。2 つの FINANCIAL 表領域は別のものであることに注意してください。さらに、1/14 に表領域 FINANCIAL を 1/5 の時点に回復しようとした。ORACLE は 1/5 時点の FINANCIAL 表領域を見つけますが、これは 1/14 時点で存在する FINANCIAL 表領域とは別のものなので、ORACLE は上記のエラーを戻します。そのため、FINANCIAL が再作成されていません。

解決方法: 異なる回復の時点を選択してください。

ORA-29316: データ・ファイル: name は 2 回インポートされています。

原因: 内部エラーです。

解決方法: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29317: データ・ファイル: name が存在しません。

原因: 指定されたデータ・ファイルが本番データベース内にありません。

解決方法: クローン・データベースからデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29318: データ・ファイル: name がオンラインです。

原因: データ・ファイルがオンラインです。

解決方法: データ・ファイルをオフラインにしてください。

ORA-29319: データ・ファイル: name が正しくありません。

原因: 正しくないデータ・ファイルが本番データベースにコピーされています。エクスポート・ダンプ・ファイル内のデータ・ファイル情報が、本番データベースのデータ・ファイル内の情報と異なります。

解決方法: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29320: データ・ファイルのヘッダーがエラーです。

原因: データ・ファイル・ヘッダーの読取り中にエラーが発生しました。

解決方法: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーし、操作を再試行してください。

ORA-29321: 適正時点から追加されたデータファイルが多すぎます。

原因: 適正時点以降に回復セットに追加されたデータ・ファイルが多すぎます。適正時点以降に追加されたデータ・ファイル数は 100 以下であることが前提とされています。

解決方法: 回復セットをより小さなサブセットに分割し、Oracle に連絡してください。

ORA-29322: SCN 文字列サイズが長すぎます。最大サイズは 58 バイト / 文字です。

原因: SCN 文字列に指定した文字が多すぎます。

解決方法: 必要のない文字はすべて削除してください。48 ビット SCN の 16 進数および 10 進数表現の両方に必要な文字は 15 文字です。

ORA-29323: SET COMPATIBILITY コマンドは、8.0.0 以前のリリースでは使用できません。

原因: ローリング・リリース機能が最初の実現されたのは 8.0.3 です。

解決方法: SET COMPATIBILITY の値として 8.0.3 を試してください。

ORA-29324: SET COMPATIBILITY のリリース文字列フォーマットが正しくありません。

原因: SET COMPATIBILITY リリース文字列が 8.x.x のフォームで指定されていません。

解決方法: 8.x.x のフォームでリリース文字列を入力してください。例、8.0.3。

ORA-29325: SET COMPATIBILITY のリリース番号が互換リリース番号と一致しません。

原因: 8.0.3 では、リリース番号は互換リリース番号と一致している必要があります。

解決方法: リリース番号を COMPATIBLE 初期化パラメータと一致するように指定してください。この場合、リリース番号は 8.0.0 未満は使用できませんので注意してください。

ORA-29326: 指定された SET COMPATIBILITY のリリース番号は release_number になりました。

原因: 1 つまたはそれ以上のインスタンスが低いリリース番号を持っていました。

解決方法: リリースを指定した番号にロールするには、すべてのインスタンスが同じリリース番号かそれ以上のリリース番号に移行する必要があります。

Oracle データ・カートリッジ・メッセージ: 29400 ~ 29499

ORA-29400: データ・カートリッジ・エラー: name

原因: データ・カートリッジ外部プロシージャでエラーが発生しました。このメッセージの後に、データ・カートリッジ・エラーに関する詳細を記した 2 番目のメッセージが続きます。

解決方法: 2 番目のエラー・メッセージの説明に関しては、データ・カートリッジ・マニュアルを参照してください。

分散ロック・マネージャ (DLM) メッセージ : 29700 ~ 29799

ORA-29700: DLM ロック変換統計表示を使用可能にします。

原因: DLM ロック変換統計表示が使用可能になっています。

解決方法: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-29701: グループ・メンバーシップ・サービス (GMS) に接続できません。

原因: GMS への接続に失敗したか、または、時間切れです。

解決方法: GMS が起動されていることを確認してください。GMS が起動されていなければ、起動してからデータベースの起動を再試行してください。GMS が停止しているか応答がない場合、Oracle および GMS トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29702: グループ・メンバーシップ・サービス操作でエラーが発生しました。

原因: GMS 操作を実行中に予期せぬエラーが発生しました。

解決方法: グループ・メンバーシップ・サービスがまだアクティブであるかどうかを確認してください。また、Oracle および GMS トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29703: DLM 操作でエラーが発生しました。

原因: DLM 操作を実行中に予期しないエラーが発生しました。

解決方法: Oracle トレース・ファイルでエラーを確認してください。

PL/SQL および FIPS メッセージ

この章では、PL/SQL で出力されるメッセージを記載しています。各エラーごとに、考えられる原因と正しい解決方法を記載します。

エラーを見つけて修正しやすいように、オブジェクト名および数値、文字列がエラー・メッセージに挿入される場合があります。このようなメッセージに対する挿入は、それぞれ **name**、**num**、および **str** で表されます。たとえば、次のエラー・メッセージの場合を見てください。

PLS-00388: 副問合せの列 name が定義されていません。

このエラー・メッセージは、実際には次のように表示されます。

PLS-00388: 副問合せの列 AMPNO が未定義です。

また、この章では、Oracle ツールで FIPS フラガーを使用できる場合、FIPS フラガーが出す警告メッセージを記載します。

PL/SQL エラー・メッセージ

PLS-00101: 今後使用予定の予約番号

PLS-00102: ネストが深すぎるため、解析機能スタックがオーバーフローしました。

原因: PL/SQL 文の構文を調べる解析機能は、スタックと呼ばれるデータ構造を使用します。PL/SQL ブロック内のネストのレベル数が、スタックの容量を超えました。

解決方法: ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00103: str が見つかりましたが、次のいずれかが必要です。str

原因: 解析機能が発行するエラー・メッセージです。現在のコンテキストでは不適当なトークン（言語要素）を発見しました。

解決方法: エラー・メッセージに示されたトークンと前のトークンを調べてください。エラー・メッセージに記された行および列の番号は、誤りを含んでいる言語構成体の末尾を示しています。

PLS-00104: プロシージャ *name* のコールでは、空の引数リストは省略してください。

原因: サブプログラム・コールで、サブプログラム名の後に空のパラメータ・リストがあります。たとえば、プロシージャ P が P() として呼び出されていました。これは許可されていません。

解決方法: 空のパラメータ・リストを削除してください。上の例では、プロシージャ・コールを P に変更してください。

PLS-00105: 型 *name* の前方宣言は 1 つしか許可されていません。

原因: 1 つしか許可されていません。

PLS-00108: 宣言単位は、単一の変数宣言でなければなりません。

原因: 宣言節 (BEGIN...END を伴わないトップレベルの宣言ブロック) の確認中に、PL/SQL はある項目が複数宣言されているか、変数の宣言として認められない項目を検出しました。1 つの表ではユニット・レベルで共通の変数宣言が許されます。TABLE を定義するために、DECLARE コンパイル・ユニットをコンパイルします。ただし、実行できるのは一度に 1 回だけです。

解決方法: 別々の宣言単位に変数を宣言してください。

PLS-00109: PRAGMA EXCEPTION_INIT で未知の例外名: *name* が検出されました。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマで参照される例外名の宣言が、プラグマの有効範囲内にありません。

解決方法: 例外宣言の後にプラグマが続いていることと、同じ有効範囲内にあることを確認してください。

PLS-00110: バインド変数 *name* は現コンテキストで無効です。

原因: 接頭辞としてコロンの付いた識別子であるバインド変数が、不適当なコンテキストで発見されました。

解決方法: コロンを削除するか、バインド変数を適当なオブジェクトで置き換えてください。

PLS-00111: コメントの中にファイルの終わり (EOF) があります。

原因: コメント開始文字 (/*) でコメントが始まりましたが、コメント終端文字 (*/) が発見される前にファイルの終わりマークに達しました。

解決方法: コメント開始文字を削除するか、コメント終端文字を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、コメント開始文字の前の最後の有効なトークンの先頭を指しています。

PLS-00112: 引用された識別子の中に行の終わり (EOL) があります。

原因: 二重引用符で囲まれた識別子に初めの二重引用符 (") はありますが、終わりを示す二重引用符 (") が発見される前に行の終わりマークに達しました。

解決方法: 初めの二重引用符を削除するか、終わりを示す二重引用符を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、引用符で囲まれた識別子の先頭を示しています。

PLS-00113: 行 *num*、列の *num* の END 識別子 *name1* は、*name2* と一致していなければなりません。

原因: いくつかの言語構成体（ループ、およびブロック、ファンクション、プロシージャなど）の終わりを示すキーワード END の後には、オプションとして構成体の名前が置けます。たとえば、ループ L の定義の末尾には、END L と書けます。

このエラーは、オプションの名前が言語構成体に与えられた名前と一致しないときに発生します。通常は識別子の綴りが間違っているか、ブロック構造がおかしいときに起こります。

解決方法: END 識別子の綴りが言語構成体に指定された名前を一致し、ブロック構造が正しいかどうかを確認してください。

PLS-00114: 識別子 *name* が長すぎます。

原因: PL/SQL 変数の名前が 30 文字を超えています。正しい識別子（引用された識別子を含む）の長さは、最大で 30 文字です。文字列リテラルが誤って、引用符ではなく二重引用符で囲まれている可能性があります。その場合、PL/SQL では引用された識別子とみなされます。

解決方法: 名前を 30 文字以下にしてください。文字列リテラルが使用されている場合は、二重引用符を引用符に置き換えてください。

PLS-00115: この PRAGMA は *name* の宣言の後に続かなければなりません。

原因: プラグマが未宣言の PL/SQL オブジェクトを参照しています。または、プラグマが参照の有効範囲の中にありません。識別子をプラグマの中で使用するには、その識別子を宣言しなければなりません。前方参照は許可されません。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00116: 表の式で WHERE 句が重複しています。

原因: DELETE 文、SELECT 文または UPDATE 文の中で、複数の WHERE 句が発見されました。WHERE 句は、表の中の行が処理される条件を指定します。条件には、AND または OR で結合した複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる WHERE 句は 1 つだけです。

解決方法: WHERE 句の 1 つを削除し、必要であれば AND または OR の論理式を使用してください。

PLS-00117: 表の式で CONNECT BY 句が重複しています。

原因: SELECT 文に複数の CONNECT BY 句が発見されました。CONNECT BY 句は、行を階層的な順序で戻すために使われる関係を定義します。関係には、関係演算子（= や != など）で区切られた 2 つの式を入れることができますが、文が含むことのできる CONNECT BY 句は 1 つだけです。

解決方法: CONNECT BY 句の 1 つを削除し、必要であれば、関係演算子で式を分けてください。

PLS-00118: 表の式で GROUP BY 句が重複しています。

原因: SELECT 文に複数の GROUP BY 句が発見されました。GROUP BY 句は、選択された行の各グループの集計行を作成するために使われる列の式のリストを与えます。このリストには、カンマで区切られた複数の列式を入れることができますが、文が含むことのできる GROUP BY 句は 1 つだけです。

解決方法: GROUP BY 句の 1 つを削除し、必要であれば、列の式をカンマで分けてください。

PLS-00119: 表の式で HAVING 句が重複しています。

原因: SELECT 文に複数の HAVING 句が発見されました。HAVING 句は、(GROUP BY 句で作られた) 行のグループを結果に入れるときの条件を指定します。条件には、AND または OR で結合された複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる HAVING 句は 1 つだけです。

解決方法: HAVING 句の 1 つを削除し、必要であれば AND または OR で論理式を分けてください。

PLS-00120: OPEN 文に不適当な引数があります。

原因: OPEN 文の cursor_name パラメータの綴りが間違っているか、パラメータが正しく宣言されたカーソルを参照していません。

解決方法: cursor_name パラメータの綴りを確かめてください。また、カーソルが正しく宣言されていることを確認してください。

PLS-00121: 引数にアスタリスクが使用できるのは、set ファンクション COUNT だけです

原因: COUNT 以外の SQL グループ関数の引数リストで、アスタリスク (*) オプションが使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
SELECT SUM(*) INTO emp_count FROM emp; -- should be COUNT(*)
```

表内の行数を戻すアスタリスク・オプションは、COUNT でだけ使用できます。

解決方法: 引数リストからアスタリスク・オプションを削除し、1 つ以上のデータベース列を参照する式と置き換えてください。

PLS-00122: この関数で USING は使用できません。

原因: 関数の引数が、カンマではなくキーワード USING で区切られていますが、この関数は組込み関数ではないので USING は使用できません。

解決方法: 引数指定または関数名を変更してください。

PLS-00123: プログラムが大きすぎます。

原因: PL/SQL は安定したトランザクション処理を実現することを重視して設計されています。こうした特殊な目的で設計した結果、PL/SQL コンパイラはブロック・サイズに制限を設けています。制限は PL/SQL ブロックの中の文の構成に依存します。この制限を超えるブロックがあると、エラーが発生します。

解決方法: 最もよい解決方法は、定義するサブプログラムごとにプログラムをモジュール化し、Oracle データベースに格納する方法です。もう 1 つの解決方法は、プログラム

を 2 つのサブブロックに分割することです。最初のブロックで、2 番目のブロックが必要としているデータを一時データベース表に INSERT します。2 番目のブロックで、その表からデータを SELECT します。

PLS-00124: EXCEPTION_INIT プラグマの第 1 引数は例外名でなければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡される第 1 引数が例外名ではありませんでした。この第 1 引数は正しく宣言された例外名でなければいけません。

解決方法: 第 1 引数を正しく宣言された例外名にしてください。

PLS-00125: 型 name が必要です。

原因: 定数または変数を宣言するときに、データ型を指定しませんでした。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
pi CONSTANT := 3.14159; -- should be CONSTANT REAL := 3.14159
```

定数および変数には、すべてデータ型がなければならず、データ型が記憶形式および制約、値の有効範囲を指定します。

解決方法: 欠落しているデータ型指定子を指定してください。

PLS-00126: セレクタ ALL は使用できません。

原因: システム権限または文オプションを指定するための ALL が SQL 文で使用されました。PL/SQL は、ALL ショートカットをサポートしません。

解決方法: SQL 文から ALL ショートカットを削除してください。

PLS-00127: プラグマ name はサポートされているプラグマではありません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) は PL/SQL でサポートしているものの中にはありません。プラグマ名の綴りが間違っているか、またはプラグマの構文が間違っている可能性があります。

解決方法: プラグマの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00128: プラグマ name の引数の数が正しくありません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡される引数 (実際のパラメータ) の数が誤っています。必要な引数が引数リストに入っていないか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータ間のカンマが欠落しています)。

解決方法: 必要な引数を指定するか、構文エラーを修正してください。

PLS-00129: プラグマ INTERFACE では、第 1 引数は C でなければなりません。

原因: プラグマ INTERFACE に渡された最初の引数には C 以外のホスト言語が指定されました。現在、ホスト言語としてサポートされているのは C 言語だけです。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。最初のパラメータは C でなければなりません。

PLS-00130: プラグマ *name* の最初の引数はプロシージャまたはファンクション、パッケージ、カーソルでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるサブプログラムまたはパッケージ、カーソルの名前ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00131: プラグマ *name* の 2 番目の引数はプロシージャでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるプロシージャの名前ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00132: プラグマ RESTRICT_REFERENCES では *str* はサポートされていません。

原因: プラグマ RESTRICT_REFERENCES に渡されたパラメータの 1 つは必要とされる WNDS または WNPS、RNDs、および RNPS のいずれかではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: すべてのパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00133: プラグマ *name* への最初の引数は識別子または文字列リテラルでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00134: プラグマ *name* への 2 番目の引数は識別子でなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00135: プラグマ *name* への 3 番目の引数は識別子または文字列リテラルでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 3 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

解決方法: 3 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00136: プラグマ *name* への 3 番目の引数は空の文字列でなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 3 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる空の文字列ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、あるいはプラグマの構文が誤っている可能性があります (たとえば、2 つのパラメータ間のカンマが欠落しています)。

解決方法: 3 番目のパラメータのコードを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00137: プラグマ *name* への 4 番目の引数は数値リテラルでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 4 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる数値リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、あるいはプラグマの構文が誤っている可能性があります (たとえば、2 つのパラメータ間のカンマが欠落しています)。

解決方法: 4 番目のパラメータのコードを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00138: バイナリ型の精度は、8、16、32 のいずれかでなければなりません。

原因: 符号付きまたは符号なしのバイナリ型に対して無効な精度が指定されました。

解決方法: 8 または 16、32 のいずれかの精度を指定してください。

PLS-00139: サブプログラム式で外部 NAME 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 NAME 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 NAME 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00140: サブプログラム式で外部 LIBRARY 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 LIBRARY 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 LIBRARY 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00141: サブプログラム式で外部 PARAMETER STYLE 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

Action: 外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00142: サブプログラム式で外部 PARAMETER リスト指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00143: サブプログラム式で外部 LANGUAGE 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 LANGUAGE 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 LANGUAGE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00144: サブプログラム式で外部 CALLING STANDARD 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 CALLING STANDARD 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 CALLING STANDARD 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00145: サブプログラム式で外部 WITH CONTEXT 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 WITH CONTEXT 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 WITH CONTEXT 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00146: サブプログラム式で外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: 外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00147: LIBRARY ファイル指定の文字列が空です。

原因: LIBRARY ファイル指定に長さが 0 の文字列が見つかりました。

解決方法: LIBRARY ファイル指定に長さが 0 以外の文字列を指定してください。

PLS-00148: この型の PRAGMA はサブプログラムごとに 1 つしか使用できません。

原因: サブプログラムに PRAGMA RESTRICT_REFERENCES 指定が 2 つ見つかりました。

解決方法: PRAGMA RESTRICT_REFERENCES の 1 つを削除してください。

PLS-00150: *name* が見つかりましたが、INTEGER が必要です。

原因: このエラーは、PL/SQL 外部型: [SIGNED | UNSIGNED] BINARY INTEGER (<precision>) を作成するときに発生します。これを参照できるのは、CREATE TYPE 文の中だけです。このような型は問合せ不能です。

- ・ 'INTEGER' 以外の型が指定されています。

解決方法: 別の型を使って、操作を再試行してください。

PLS-00151: 式または変数が PL/SQL に対して不正です: *name*

原因: PL/SQL に属していない型が使用されました。この型は、CREATE TYPE 文の中だけで参照できる問合せ不能なデータ型です。

解決方法: 別の型を使って、操作を再試行してください。

PLS-00152: POINTER 型でできるのは、オブジェクト型の参照だけです。

原因: PL/SQL に属していない POINTER 型で参照できるのは、オブジェクト型だけです。この型は、CREATE TYPE 文の中だけで参照できる問合せ不能なデータ型です。

解決方法: 別の型を使って、操作を再試行してください。

PLS-00153: name 型が使用できるのは、オブジェクト型属性としてだけです。

原因: POINTER または [SIGNED/UNSIGNED] BINARY INTEGER は、オブジェクト型の属性としてだけ使用できます。これらの型は、CREATE TYPE 文の中だけで参照できる問合せ不能なデータ型です。これらの外部 PL/SQL 型のどれかが、オブジェクト型ではありません。

解決方法: 別の型を使って、操作を再試行してください。

PLS-00154: オブジェクト型に対しては MAP メソッド 1 つまたは ORDER メソッド 1 つのいずれかです。

原因: 複数の MAP または ORDER ファンクションが宣言されました。1 つのオブジェクト型に対して 1 つの MAP ファンクションまたは 1 つの ORDER ファンクションを指定できますが、両方指定することはできません。

解決方法: 型の MAP または ORDER ファンクションを 1 つだけにしてください。

PLS-00155: MAP または ORDER メソッドとして指定できるのはファンクションだけです。

原因: MAP または ORDER メソッドのいずれかとしてメンバー・プロシージャが宣言されました。MAP または ORDER メソッドとなり得るのは、メンバー・ファンクションだけです。

解決方法: プロシージャをファンクションに変更してください。

PLS-00156: オブジェクト属性に対する NULL 制約はサポートされていません。

原因: オブジェクトの属性に NULL 制約が指定されました。型の不一致はサポートされません。

解決方法: 制約を取り除いて操作を再試行してください。

PLS-00201: 識別子 name が宣言されていません。

原因: 次のいずれかを参照しようとしてしました。

- ・ 未宣言の変数または例外、プロシージャ、その他のオブジェクト
- ・ 権限が付与されていない項目
- ・ ロールを介してのみ権限が付与されている項目

解決方法: 参照される名前の綴りと宣言を確かめてください。

1. また、参照項目に対する宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

2. 参照項目が宣言されていても、その項目を参照する権限がない場合には、セキュリティ上の理由により、その項目が宣言されていないことだけが通知されます。
3. 参照項目が宣言されていて、その項目を参照する権限が付与されていると思われる場合には、権限を確認してください。ロールを介してのみ権限が付与されている場合には、これは予測されたそして文書化されているとおりの動作です。ストアド・オブジェクト（パッケージ、プロシージャ、ファンクション、トリガー、ビューなど）はオブジェクト所有者のセキュリティ・ドメイン内で実行され、PUBLIC 以外のロールは有効化されません。この場合も、項目が宣言されなかったことだけが通知されます。

PLS-00202: 型 *name* が宣言されていません。

原因: 未定義のタイプを参照しようとしてしました。タイプ指定子を宣言しなかったか、またはタイプ指定子が参照の有効範囲内にありませんでした。

解決方法: 型指定子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00203: 関数 DECODE のコールには最低 3 つの非ブール引数が必要です。

原因: 組込み関数 DECODE に渡された引数が 3 つ未満でした。DECODE は（ブール以外の）引数の変数値をとりますが、DECODE には少なくとも 3 つの引数を渡さなければなりません。

解決方法: 3 つ以上の引数を指定して、DECODE をコールしてください。

PLS-00204: 関数、疑似列 *name* は SQL 文の中でしか使用可能ではありません。

原因: プロシージャ文で疑似列または禁止された関数が使用されています。SQL 疑似列（CURRVAL、LEVEL、NEXTVAL、ROWID、ROWNUM）は、SQL 文でしか使用できません。同様に、DECODE、DUMP、VSIZE などの関数、および SQL グループ関数（AVG、MIN、MAX、COUNT、SUM、STDDEV、VARIANCE）も SQL 文でしか使用できません。

解決方法: プロシージャ文から疑似列参照またはファンクション・コールを削除してください。または、プロシージャ文を SELECT INTO 文に置き換えてください。たとえば、

```
bonus := DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...);
```

この文を次のように書き換えます。

```
SELECT DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...) INTO bonus FROM dual;
```

PLS-00205: ここでは集合体は使用できません。

原因: 集合、すなわち (7788, 'SCOTT', 20) のようなカッコで囲んだ値のリストが、不適当なコンテキストで発見されました。

解決方法: 集合を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00206: %%TYPE は変数または列、フィールド、属性に適用され、*name* には適用されません。

原因: %TYPE データ型属性を使って宣言されたオブジェクトが適当なクラスではありません。これは変数、列、レコード構成要素、サブプログラムの仮パラメータまたは値が代入できるその他のオブジェクトでなくてはなりません。

解決方法: 適切なクラスのオブジェクトを宣言するか、別の方法 (たとえば、%ROWTYPE) でデータ型を定義してください。

PLS-00207: 識別子 *name* は暗黙 SQL カーソルの属性に対して無効です。

原因: カーソル属性ではない識別子が識別子 SQL に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りが間違っているときに発生します。

解決方法: カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00208: 識別子 *name* は正当なカーソルの属性ではありません。

原因: カーソル属性として宣言されていない識別子が、カーソルとして宣言されている識別子に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りが間違っているときに発生します。

解決方法: カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00209: 表 *name* が FROM 句にありません。

原因: 問合せで、選択リストで参照されている表の名前が、FROM 句の中で指定されていません。

解決方法: 表名の綴りを確かめ、選択リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00210: この CASE 文には OTHERS 句が必要です。

原因: CASE 文の句で選択した式の型のすべての値が指定されていない場合には、CASE 文の最後の句として OTHERS 句を指定しなければなりません。INTEGER (または NUMBER) 型のすべての値を指定することはできません。したがって、キーワード CASE の後にある式が INTEGER (または NUMBER) 型の場合は、必ず OTHERS 句が必要です。

解決方法: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00211: CASE ラベルまたは範囲は、異なる WHEN 句で重複しないようにしてください。

原因: この CASE 文の複数の WHEN 句で同じ値が指定されました。CASE 文では 1 つの値を 1 つの WHEN 句でしか使用できません。

解決方法: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00212: CASE 文のコンパイルに必要なメモリーを確保できません。

原因: CASE 文が大きすぎます。コンパイラの記憶域が足りないためこの文は処理できません。

解決方法: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00213: パッケージ STANDARD にアクセスできません。

原因: PL/SQL コンパイラは、現行の Oracle データベースで STANDARD パッケージを見つけられませんでした。プログラムをコンパイルするためには、このパッケージが必要です。

解決方法: 現行の Oracle データベースでパッケージ STANDARD が使用可能かどうかを確認し、操作を再試行してください。

PLS-00214: BEGIN...END ブロックのネストが深すぎます。

原因: PL/SQL ブロックのネストのレベル数が多すぎます。メモリーなどのシステム・リソースの可用性に応じて、ブロックは最大 255 レベルまでネストできます。

解決方法: ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00215: 文字列の長さ制約は 1 .. 32767 の範囲です。

原因: 文字変数を宣言するときに、有効な範囲外の長さを指定しました。たとえば、次の宣言は正しくありません。

```
flag CHAR(0); -- illegal; zero length
name VARCHAR2(-10); -- illegal; negative length
```

解決方法: 1 .. 32767 の範囲内になるように、長さ制約を変更してください。

PLS-00216: NUMBER 精度制約は、1 .. 38 の範囲です。

原因: 有効な範囲外の精度で NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER (800) や N NUMBER (123,10) などの宣言はサポートされません。

解決方法: 1 .. 38 の範囲内になるように、不正な NUMBER 精度制約を変更してください。

PLS-00217: NUMBER スケール制約は、-84 ..127 の範囲です。

原因: 有効な範囲外のスケールで NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER (10,345) や N NUMBER (10,-100) などの宣言はサポートされません。

解決方法: -84 .. 127 の範囲内になるように、不正な NUMBER スケール制約を変更してください。

PLS-00218: NOT NULL で宣言した変数には初期割当てが必要です。

原因: 一般に、宣言の中に初期化句がない変数は、自動的に NULL に初期化されます。NOT NULL 制約の付いた変数でこれが起こると非論理的なので、初期化句が必要です。

解決方法: 初期化の句を変数宣言に追加してください。構文的に複雑すぎて初期化が指定できない場合は、ファンクション・コールを追加してください。

PLS-00219: ラベル *name* の参照が有効範囲外です。

原因: ブロックまたはループのラベルを使って、宣言されていない変数またはラベルの有効範囲外の変数を修飾しようとした (outer_block.date など)。変数名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

解決方法: 変数名の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00220: このコンテキストでは単純名を使用してください。

原因: A.B、A.B.C などの修飾名を入力しようとしたが、ここでは修飾名は使用できません。

解決方法: A などの単純名を使ってください。

PLS-00221: *name* は未定義もしくはプロシージャ名として無効です。

原因: プロシージャとして参照されている識別子が宣言されていないか、実際には別のオブジェクトを表しています (たとえば、ファンクションとして宣言されている)。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00222: この有効範囲内に、名前 *name* のファンクションは存在しません。

原因: ファンクションとして参照されている識別子が宣言されていないか、識別子が実際には別のオブジェクトを表しています (たとえば、プロシージャとして宣言されている)。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00223: ファンクションでパラメータのないプロシージャ *name* が使用されました。

原因: パラメータなしのファンクションとして参照されている識別子は、実際にはプロシージャを表しています。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。必要ならば識別子の宣言を変更するか、参照を変更して戻り値を不要にしてください。

PLS-00224: ここでは、オブジェクト *name* はファンクションまたは配列でなければなりません。

原因: ファンクションまたは配列として参照されている識別子は、この方法では参照できないオブジェクト (たとえば数値や日付) を実際には表しています。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00225: サブプログラムまたはカーソル *name* の参照が有効範囲外です。

原因: サブプログラムまたはカーソルが、宣言されていない変数か、サブプログラムまたはカーソルの有効範囲にない変数を参照しています。変数名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

解決方法: 変数名の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00226: パッケージ *name* が変数の参照として使用されています。

原因: パッケージが式の中で変数またはファンクションとして参照されました。変数またはファンクションの名前の綴りが間違っているか、参照が完全に修飾されていません。たとえば、パッケージ *my_package* に格納されているファンクション *my_function* を呼び出すには、次のようにピリオド記号を使わなくてはなりません。

```
... my_package.my_function ...
```

解決方法: 変数またはファンクション名の綴りを修正するか、ドット表記法でパッケージ化された変数またはファンクションを参照してください。

PLS-00227: サブプログラムの IN 仮パラメータ *name* が表記できるようになっていません。

原因: サブプログラムの仮パラメータを宣言したときに、1 つのパラメータを使用して別のパラメータを初期化しようとしてしました。

```
PROCEDURE my_proc (j NUMBER, k NUMBER := j) IS ...
```

1 番目のパラメータは実行時まで値を持たないので、他のパラメータの初期化には使用できません。

解決方法: 不正な仮パラメータ参照を削除してください。

PLS-00228: LONG 型の変数は宣言できません。

原因: LONG 型の変数が宣言されました。LONG 型で宣言できるのは列だけです。

解決方法: 不正な変数定義を削除してください。

PLS-00229: SQL 式の中に属性の式があります。

原因: SQL 文で SQL%NOTFOUND などの属性式が使用されましたが、属性式はプロシージャ文でしか使用できません。

解決方法: このような制限の基では、属性式を変数に代入して SQL 文において、その変数を使用することが必要です。次に例を示します。

```
INSERT INTO audits VALUES (c1%ROWCOUNT, ...);
```

上記のような文は、次のような文に置き換えてください。

```
row_count := c1%ROWCOUNT;
```

```
INSERT INTO audits VALUES (row_count, ...);
```

PLS-00230: OUT および IN OUT 仮パラメータにデフォルトの式は使用できません。

原因: プロシージャの仮パラメータを宣言したときに、OUT または IN OUT パラメータがデフォルト値に初期設定されました。

```
PROCEDURE calc_bonus (bonus OUT REAL := 0, ...) IS ...
```

しかし、この場合 IN パラメータだけ初期化できます。

解決方法: 不正なデフォルト式を削除してください。

PLS-00231: 関数 *name* は SQL では使用できません。

原因: 禁止されているファンクションが SQL 文で使用されました。SQLCODE や SQLERRM など、ファンクションのうちいくつかは、プロシージャ文でしか使用できません。

解決方法: SQL 文からファンクション・コールを削除してください。または、ファンクション・コールをローカル変数に置き換えてください。たとえば、次の文は無効です。

```
INSERT INTO errors VALUES (SQLCODE, SQLERRM);
```

ただし、SQLCODE および SQLERRM の値をローカル変数に割り当てて、その変数を SQL 文で次のように使用できます。

```
err_num := SQLCODE;
```

```
err_msg := SQLERRM;
```

```
INSERT INTO errors VALUES (err_num, err_msg);
```

PLS-00232: パッケージはネストできません。

原因: あるパッケージが別のパッケージ内で宣言されましたが、パッケージの宣言は、トップ・レベルでだけ許可されます。つまり、パッケージはネストできません。

解決方法: パッケージの外側にパッケージ宣言を移動してください。

PLS-00233: WHEN 句で、関数名が例外名として使用されています。

原因: 例外ハンドラ中の WHEN 句で、例外名のかわりにファンクション・コールが含まれています。例外ハンドラを適切に指定するためには、例外とこの例外が呼び出されたときに実行される一連の文を WHEN 句の後に指定する必要があります。

解決方法: WHEN 句の識別子の綴りを確認し、ファンクションを例外名に変更してください。

PLS-00234: PARAMETER STYLE SQL を PARAMETERS リストとともに指定できません。

原因: PARAMETER STYLE SQL と明示的な PARAMETERS リストの両方をサブプログラムで指定することはできません。デフォルトの PARAMETERS リスト型を指定するには PARAMETER STYLE GENERAL を使用してください。

解決方法: サブプログラム仕様を変更してください。

PLS-00235: このパラメータに対しては、指定した外部型は不適当です。

原因: パラメータを指定された外部パラメータ型に変換しようとして失敗しました。

解決方法: 別の外部型またはパラメータ型を指定してください。

PLS-00236: *name* に対する外部型の指定が無効です。

原因： 指定した外部型が、INDICATOR または LENGTH、MAXLEN、TDO、DURATION、CHARSETID、CHARSETFORM に対して無効です。

解決方法： マニュアルで確認して適切な外部型を指定してください。

PLS-00237: BY VALUE による標識または長さの指定が無効です。

原因： OUT または IN OUT モードで渡される標識または長さパラメータを持つ BY VALUE が指定されました。値によって渡すことができるのは IN モード・パラメータだけです。

解決方法： BY VALUE 指定を削除するか、IN モードに変更してください。

PLS-00238: 外部パラメータ名が仮パラメータ・リストに見つかりません。

原因： 仮パラメータ・リスト内の名前と一致しない外部パラメータ名が指定されました。

解決方法： 外部パラメータ名を修正してください。

PLS-00239: SQLCODE に対する外部型の指定が無効です。

原因： SQLCODE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

解決方法： SQLCODE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00240: RETURNINDICATOR または LENGTH、TDO、DURATION に対して型指定が無効です。

原因： RETURNINDICATOR または LENGTH、TDO、DURATION に対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

解決方法： RETURN パラメータの指定を修正してください。

PLS-00241: SQLSTATE に対する外部型の指定が無効です。

原因： SQLSTATE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

解決方法： SQLSTATE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00242: CONTEXT に対する外部型の指定が無効です。

原因： CONTEXT パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

解決方法： CONTEXT パラメータの指定を修正してください。

PLS-00243: SQLNAME に対する外部型の指定が無効です。

原因： SQLNAME パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

解決方法： SQLNAME パラメータの指定を修正してください。

PLS-00244: 外部関クションの仮パラメータ・リストでの宣言が重複しています。

原因: FORMAL または INDICATOR、LENGTH、MAXLENGTH、CONTEXT のうち少なくとも 1 つが、複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で各仮パラメータに対して上記のいずれか 1 つの宣言しかできません。

解決方法: PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00245: 'parameters' 句では、仮パラメータは 1 回しか使用できません。

原因: PARAMETERS 句で仮パラメータが複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で仮パラメータは 1 回しか宣言できません。

解決方法: PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00246: PARAMETER STYLE はサポートされていません。

原因: 外部サブプログラム本体の中に PARAMETER STYLE 句があります。

解決方法: PARAMETER STYLE 句を削除してください。

PLS-00247: LIBRARY 名を指定してください。

原因: 外部サブプログラム本体に LIBRARY 名が指定されていません。

解決方法: 有効な LIBRARY 名を追加してください。

PLS-00248: LIBRARY 構文が無効です。

原因: 入力された LIBRARY の構文が間違っています。

解決方法: LIBRARY の構文を修正して再コンパイルしてください。

PLS-00249: WITH CONTEXT 構文が無効です。

原因: WITH CONTEXT 句または PARAMETERS 句で CONTEXT が使用されました。これは無効です。

解決方法: PARAMETERS 句に CONTEXT を指定せずに WITH CONTEXT を使用しているどうかを確認してください。PARAMETERS 句は完全でなければなりません。WITH CONTEXT を指定する場合は、PARAMETERS 句（ある場合）で CONTEXT を参照しなければなりません。

PLS-00250: パラメータ句での name の使用方法が正しくありません。

原因: PARAMETERS 句で MAXLEN、LENGTH、CHARSETID などのキーワード使用が不適切です。

解決方法: PL/SQL 仮パラメータや仮パラメータのモードで、MAXLEN、LENGTH、TDO、DURATION、CHARSETID、CHARSETFORM などのキーワードが使用できないと、このエラーが発生します。たとえば、MAXLEN は、PL/SQL 変数 CHAR または VARCHAR2 に対してだけ宣言でき、OUT または INOUT PL/SQL 変数に対してだけ使用できます。また、RETURN が PL/SQL PROCEDURE 用の PARAMETERS 句内で指定されました。たとえば次の場合です。

```
CREATE PROCEDURE proc は EXTERNAL です。  
名前 ... ライブラリ ...
```

```
パラメータ (RETURN INDICATOR SHORT, RETURN);
```

PLS-00251: 実関数の戻りを指定する RETURN は、パラメータ句の最後になければなりません。

原因: 実関数の戻りを指定する RETURN は、パラメータ句の最後になければなりません。

例: 次の例では、実関数の戻りを指定する RETURN がパラメータ句の最後にないため、エラーになっています。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
                        var2 BINARY_INTEGER)
    RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
            RETURN INT, RETURN INDICATOR SHORT);
```

正しい構文は、次のとおりです。実関数の戻りを指定する RETURN は、パラメータ句の最後になければなりません。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
                        var2 BINARY_INTEGER)
    RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
            RETURN INDICATOR SHORT, RETURN INT);
```

解決方法: PARAMETERS 句の RETURN を修正してください。

PLS-00252: 間違ったパッケージ STANDARD のコピーが参照されました。

原因: データベースがオープンしているときに、修正されたパッケージ・バージョンの STANDARD が参照されたか、データベースがクローズしているときに、ディスク内のバージョンが参照されました。SYS.X\$ パッケージ名を明示的に使用すると、このようなエラーになります。データベースをクローズしてコンパイルを始めても、name-res が完了する前に別のセッションがオープンすると、このようなエラーが発生します。

解決方法: データベースがオープンしているときには、ディスク内のパッケージ・バージョンを使用し、データベースがクローズしているときには、修正済み (プリロード) のパッケージ・バージョンを使用してください。適切なセットを使用してください。SYS.X\$ 名を明示的に指定する場合を除いて、間違ったセットを参照することはできません。

PLS-00302: コンポーネント *name* が宣言されていません。

原因: 構成要素への参照で、構成要素が宣言されていません (たとえば、名前 A.B では B が A の構成要素です)。構成要素の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

解決方法: 構成要素の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00303: 修飾子 *name* が宣言されていません。

原因: A.B というような名前では、A が修飾子で、B が修飾子の構成要素です。このエラーは、修飾子の宣言が発見できないときに起こります。修飾子の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

解決方法: 修飾子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00304: コンパイル済みの仕様がいないため *name* の本体をコンパイルできません。

原因: パッケージ本体をコンパイルするために必要なコンパイル済みのパッケージ仕様部が見つけれませんでした。次のような原因が考えられます。

- ・ パッケージ名の綴りに誤りがある
- ・ パッケージ仕様部が 1 度もコンパイルされていない
- ・ コンパイル済みのパッケージの仕様部にアクセスできない

パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージ仕様部をコンパイルしなければなりません。また、コンパイラがコンパイル済みの仕様部にアクセスできなければなりません。

解決方法: パッケージ名の綴りを確認してください。パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージの仕様部をコンパイルしてください。また、コンパイラがコンパイル済みの仕様部にアクセスできることを確認してください。

PLS-00305: *name* の以前の使用方法がこの使用方法と競合します。

原因: カーソル、またはプロシージャ、ファンクション、パッケージの以前の宣言を探しているときに、コンパイラが同じ有効範囲で同じ名前を持つ別のオブジェクトを発見しました。または、パッケージ仕様部と本体のサブプログラムのヘッダーが完全に一致していません。

解決方法: カーソル、またはプロシージャ、ファンクション、パッケージの名前の綴りを確認してください。また、同じ有効範囲の中で宣言されているすべての定数および変数、パラメータ、例外の名前を確認してください。次に、重複する名前を持つオブジェクトを削除するか改名してください。またはパッケージ・サブプログラムのヘッダーを変更して、完全に一致させてください。

PLS-00306: *name* の呼出しで、引数の数または型が正しくありません。

原因: このエラーは、表示されたサブプログラム・コールが、そのサブプログラム名の宣言と一致しないときに発生します。サブプログラム名の綴りが間違っている、パラメータのデータ型が違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。たとえば、組込みの平方根関数

SQRT を間違った名前で呼び出したり、間違ったデータ型のパラメータを付けて呼び出した場合に、このエラーが発生します。

解決方法: サブプログラムの綴りと宣言を確認してください。また、コールが正しいこと、パラメータのデータ型が正しいこと、それが組込み関数でない場合は、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00307: このコールに一致する *name* が複数宣言されています。

原因: 宣言とコールが完全一致せず、パラメータのデータ型の暗黙の変換が使用されると、複数の宣言がコールと一致するので、サブプログラム名の宣言が不明確になります。サブプログラム名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。

解決方法: サブプログラムの綴りと宣言を確認してください。また、コールが正しいこと、パラメータのデータ型が正しいこと、それが組込み関数でない場合は、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00308: この構成は代入元としては使用できません。

原因: 構成体または式が、変数に代入できるような値を表していません。たとえば、データ型名 NUMBER は、X:=NUMBER のように代入文の右辺では使用できません。

解決方法: 無効な代入文を訂正してください。

PLS-00309: %LAST 属性で *name* は数え上げ可能な変数である必要があります。

原因: "%LAST" 属性は、数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）に適用しなければなりません。"%LAST" が、数え上げ可能な型として宣言されていない名前した後で使用されると、このようなエラーが発生します。

解決方法: %LAST 属性が数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）の後で使用されていることを確認してください。

PLS-00310: %ROWTYPE 属性で *name* は表名、カーソル名、またはカーソル変数名を指定する必要があります。

原因: %ROWTYPE 属性は、カーソル、カーソル変数、データベース表として宣言された識別子に適用しなければなりません。そのように宣言されていないなんらかの識別子の後に %ROWTYPE が付けられていると、このエラーが発生します。

解決方法: 宣言を変更するか、識別子に %ROWTYPE 属性を適用しないでください。

PLS-00311: データ型 *name* の宣言の形式が無効です。

原因: この識別子は、データ型が正しく定義されていないためにコンパイルできません。

解決方法: 不正なデータ型の宣言を訂正してください。

PLS-00312: 定位置パラメータ対応が名前指定対応に準じていません。

原因: パラメータのリストがサブプログラムまたはカーソルに渡されるときに、位置指定対応と名前指定対応の両方を使用する場合は、宣言された順序で、すべての位置指定対応を、すべての名前指定対応（順序は任意）の前に置かなければなりません。

解決方法: 上の条件を満たすようにパラメータ・リストの順序を変えるか、名前指定対応だけを使用してください。

PLS-00313: name は有効範囲内で宣言されていません。

原因: 参照の有効範囲の中には、この識別子の宣言がありません。識別子の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00314: TABLE 宣言は PL/SQL ローカル変数として使用できません。

原因: プリコンパイルされたプログラムで、誤って埋込み PL/SQL ブロック内に DECLARE TABLE 文を使用しました。埋込み PL/SQL ブロックが、まだ存在しないデータベース表を参照した場合、プリコンパイラにその表がどのようなものであるかを知らせるために DECLARE TABLE 文を使用します。ただし、DECLARE TABLE 文はホスト・プログラムでだけ使用が許されています。

解決方法: 埋込み PL/SQL ブロックの外側に DECLARE TABLE 文を移動してください。データベース表から選択されたデータの行全体、またはカーソルやカーソル変数から取り出されたデータの行全体を格納できる変数が必要な場合は、%ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00315: PL/SQL TABLE 宣言で BINARY_INTEGER 索引を使用していなければなりません。

原因: PL/SQL 表宣言の INDEX BY 句で、BINARY_INTEGER 以外のデータ型が指定されています。PL/SQL 表は、1 つの列と 1 つの主キーを持つことができます。列はスカラー型であればどのデータ型でもかまいませんが、主キーは BINARY_INTEGER でなければなりません。

解決方法: データ型指定子を BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00316: PL/SQL の表では現在、単一の BINARY_INTEGER 索引を使用する必要があります。

原因: PL/SQL 表宣言の INDEX BY 句で、複合主キーが指定されました。PL/SQL 表は主キーは単一、名前なしの BINARY_INTEGER 型でなければなりません。

解決方法: 無効な句を INDEX BY BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00317: 不完全な型 name が宣言リージョン内で完了していません。

原因: 不完全な型宣言が、宣言リージョン内で完了していません。

解決方法: 型を適切に完了させてください。

PLS-00318: 型 *name* の形式が誤っています。それは相互再帰的な非 REF 型です。

原因: 次のような型宣言になっています。

```
-- non-REF recursive type
type t is record (a t);
または

-- non-REF mutually dependent types
type t1;
type t2 is record (a t1);
type t1 is record (a t2);
が入力されました。
```

解決方法: 別の型を使用して、再帰を削除してください。

PLS-00319: IN または NOT IN 句の副問合せの列は 1 つでなければなりません。

原因: 次のような無効な式

```
IN (SELECT x, y, z FROM ... )
```

が使用されました。副問合せで [NOT]IN 句を使用するときは、集合のメンバーであるかどうかは調べられません。[NOT]IN 句内の式の数と副問合せの選択リスト内の式の数は一致しなければなりません。したがって、前述の例では、副問合せで 1 つの列だけを指定しなければなりません。

解決方法: 複数の列を選択しないように、副問合せを変更してください。

PLS-00320: この式の型の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因: 宣言の中で、変数またはカーソルの名前の綴りが間違っているか、宣言が前方参照を行っています。PL/SQL では前方参照ができません。PL/SQL では前方参照ができません。変数またはカーソルは、他の文（他の宣言文も含む）で参照する前に宣言しておかなければなりません。たとえば、次に示す dept_rec の宣言は、未宣言のカーソルを参照しているために例外を呼び出します。

```
DECLARE
    dept_rec dept_cur%ROWTYPE;
    CURSOR dept_cur IS SELECT ...
    ...
```

解決方法: 宣言内のすべての識別子の綴りを確認してください。必要ならば、前方参照が起こらないように宣言を移動してください。

PLS-00321: 式 *str* は、代入文の左側の式としては不適切です。

原因: この式は値を代入できるような変数を表していません。たとえば、関数 SYSDATE は、次のように代入文の左辺では使用できません。

```
SYSDATE := '01-JAN-1990';
```

解決方法: 無効な代入文を訂正してください。

PLS-00322: 定数 *name* の宣言では初期化をする必要があります。

原因: 定数宣言に初期値の代入がありません。たとえば、次の宣言「:= 3.14159」は初期化の句です。

```
pi CONSTANT NUMBER := 3.14159;
```

解決方法: 必要な初期化割当てを指定して、定数の宣言を修正してください。

PLS-00323: name はパッケージ仕様部 / 本体の両方で指定する必要があります。

原因: パッケージ仕様部にサブプログラム仕様が置かれていますが、対応するサブプログラム本体がパッケージ本体に置かれていません。パッケージ本体は、パッケージ仕様部をインプリメントします。したがって、パッケージ仕様部で宣言されているすべてのサブプログラムの宣言がパッケージ本体に含まれていなければなりません。

解決方法: サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体をパッケージ本体に追加してください。

PLS-00324: カーソル属性は、非カーソル name には適用されません。

原因: カーソルの属性（%FOUND、%NOTFOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN）がカーソルまたはカーソル変数として宣言されていない識別子の後にあると、このエラーが発生します。たとえば、`my_cur%FOUND` の変数名 `my_cur` がカーソルとして正しく宣言されていない場合や、変数宣言がブロック構造の中で正しい位置に置かれていなかった場合に発生します。

解決方法: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00325: このコンテキストでは、非正数リテラル num は使用できません。

原因: 整数（小数点がない数値）が必要なコンテキストで、整数ではない数値リテラルが使用されました。

解決方法: 不適当なりテラルを整数リテラルに置き換えてください。

PLS-00326: IN 句には副問合せとして同じ数の式が必要です。

原因: IN 句の中の式の数が、対応する副問合せの選択リストの中の式の数と一致しません。たとえば、次の文は IN 句が式を 2 つ含み、副問合せの選択リストが式を 1 つか含んでいないために不正な文になります。

```
... WHERE (ename, sal) IN (SELECT sal FROM emp);
```

解決方法: 各セットの式の数を確認し、数が一致するように式を訂正してください。

PLS-00327: 'name' は、ここの SQL 有効範囲にありません。

原因: SQL 文で、有効範囲外のデータベース・オブジェクトに対して参照が行われました。参照されたオブジェクトの綴りが誤っているか、または次の例に示すように参照が混在している可能性があります。

```
CURSOR c1 IS SELECT dept.dname FROM emp;
```

解決方法: SQL 文のデータベース・オブジェクトの綴りがすべて正しいかどうか、すべての参照がカーソルの有効範囲内のオブジェクトに対して行われているかどうか確認してください。

PLS-00328: サブプログラム本体が、*name* の先送り宣言に対して定義されなければなりません。

原因: サブプログラム仕様が宣言されましたが、対応するサブプログラム本体が定義されていません。サブプログラム仕様部と本体を 1 つの単位として記述してください。もう 1 つの解決方法は、仕様部を本体から分離することです。これは相互に再帰的なサブプログラムを定義したり、サブプログラムを 1 つのパッケージにグループ化する場合に必要です。

解決方法: サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体を指定してください。

PLS-00329: スキーマ・レベル型に、*name* に対する不正な参照が含まれています。

原因: スキーマ・レベルの型からそれ以外の型を参照しようとしてしました。

解決方法: 無効な参照をスキーマ型で置き換えてください。

PLS-00330: タイプ名またはサブタイプ名の使用方法に誤りがあります。

原因: 定数、変数、式のかわりに、誤ってデータ型またはサブタイプ指定子が使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF emp_count > number THEN ... -- illegal; NUMBER is a datatype specifier
```

解決方法: データ型またはサブタイプ指定子を有効な定数または変数、式で置き換えてください。

PLS-00331: *name* に対する参照が正しくありません。

原因: ユーザー SYS のオブジェクトに無効な参照が行われました。このエラーは、次の場合に発生します。

- ・ ユーザーにシステム・オブジェクトを参照する権限があるが、そのオブジェクトを不正な方法で使用した。
- ・ ユーザー SYS のオブジェクトに無効な参照が行われた。

解決方法: 参照を削除してください。

PLS-00332: *name* は、修飾名に対する有効な接頭辞ではありません。

原因: 接頭辞が無効なため、修飾名が間違っています。

解決方法: 参照を削除または変更してください。

PLS-00333: *name* は、このコンテキストにあるオブジェクト表の別名と一致しなければなりません。

原因: REF または VALUE コンテキストで現れる名前が、オブジェクト表の別名の参照を解決していません。

解決方法: 1) 有効範囲内にオブジェクト表がない場合には、REF または VALUE を削除してください。そうでない場合には、必要なオブジェクト表参照を指定してください。

2) 有効範囲内にオブジェクト表があり、その表を参照していない場合には、参照を追加してください。

PLS-00334: name が別名のない表またはビューと一致しています。

原因: 別名のない表またはビューの名前を参照しています。

解決方法: 参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00335: パッケージ名が既存のオブジェクトと競合します。

原因: CREATE PACKAGE 文で、パッケージ（論理的に関連付けられている PL/SQL タイプ、オブジェクト、サブプログラムをグループ化するデータベース・オブジェクト）に、既存のデータベース・オブジェクトと同じ名前が指定されました。

解決方法: パッケージに固有の名前を付けてください。

PLS-00336: このコンテキストでは、オブジェクトのない表 name は不正です。

原因: オブジェクト表以外に、REF または VALUE 修飾子を使用されました。

解決方法: 参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00337: name と一致するオブジェクト表の別名が多すぎます。

原因: オブジェクト表の別名に対する参照があいまいです。同じ有効範囲内に、オブジェクト表の別名が少なくとも 2 つ存在します。

解決方法: 参照を 1 つだけ残すか、残りの別名を変更してください。

PLS-00338: name は、列または行の式として解決できません。

原因: 列または行式として解決できない名前を参照しています。これは、オブジェクト表を含む UPDATE または INSERT 文で発生します。

解決方法: UPDATE 文を列参照としてコーディングする場合には、そのように修正してください。行式としてコーディングする場合には、オブジェクト表の別名を参照するように変更してください。

PLS-00339: name が、REF または VALUE 修飾子のないオブジェクト表と一致しています。

原因: REF または VALUE 修飾子を使用せずに、オブジェクト表の名前を使用しています。

解決方法: REF または VALUE 修飾子を付けてコーディングする場合には、修飾子を追加してください。列参照としてコーディングする場合には、適切に参照を変更してください。それ以外の場合には、参照を削除してください。

PLS-00341: カーソル name の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因: カーソル宣言が間違っているか、またはカーソル宣言の中で参照されている識別子が正しく宣言されていません。既存のデータベース表または以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照しない戻り型が指定されている可能性があります。たとえば、次のカーソル宣言は c1 が完全に定義されていないため無効となります。

```
CURSOR c1 RETURN c1%ROWTYPE IS SELECT ... -- illegal
```

この場合、戻り型は暗黙に決定されるので、指定する必要はありません。

解決方法: カーソル名およびカーソル宣言で参照している識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。戻り型を指定する場合は、既存のデータベース表、以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照することを確認してください。

PLS-00351: データベース *name* にログオンしていません。

原因: ログオンしないで Oracle データベースにアクセスしようとしてしました。不正なユーザー名またはパスワードが入力された可能性があります。

解決方法: データベースにアクセスするには、綴りの正しいユーザー名およびパスワードを入力して、Oracle にログオンしてください。

PLS-00352: 別のデータベース *name* にアクセスできません。

原因: 現行のローカルまたはリモート Oracle データベース以外のデータベース内のオブジェクトを参照しようとしてしました。

解決方法: 参照を修正し、現行の Oracle データベースに入っているオブジェクトを参照するようにしてください。

PLS-00353: *name* をデータベース中でユーザー名にする必要があります。

原因: ユーザー名の綴りが間違っている場合、またはユーザーがデータベースに存在しない場合に、このエラーが発生します。

解決方法: ユーザー名の綴りを確認し、そのユーザーが存在していることを確かめてください。

PLS-00354: ユーザー名は単純識別子でなければなりません。

原因: scott.accts などのように修飾されたユーザー名はこのコンテキストでは使用できません。

解決方法: scott などのような単純ユーザー名を指定してください。

PLS-00355: PL/SQL 表はこのコンテキストでは使用できません。

原因: 間違ったコンテキストで PL/SQL 表が参照されました（たとえば、リモート・リンクを使用）。

解決方法: PL/SQL 表の参照を削除するか、またはコンテキストを変更してください。

PLS-00356: *name* でユーザーがアクセスする表を指定する必要があります。

原因: ユーザーは表示された表にアクセスできません。このエラーは、表の名前またはユーザー名の綴りが間違っている場合、または表やユーザーがデータベースに存在しない場合、ユーザーが必要な権限を与えられていない場合、表の名前がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複している場合に発生します。

解決方法: 表の名前とユーザー名の綴り確かめてください。また、表とユーザーが存在すること、ユーザーが必要な権限を持っていること、表名がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複していないことも確認してください。

PLS-00357: 現コンテキストで *name* は表、ビューの参照として無効です。

原因: 表、ビュー、参照が不適当なコンテキストで発見されました。表参照は SQL 文の中か、変数宣言の中で %TYPE 属性、%ROWTYPE 属性と組み合わせないと使用できません。次にいくつかの正しい例を示します。

```
SELECT ename, emp.deptno, dname INTO my_ename, my_deptno, my_dept
    .FROM emp, dept WHERE emp.deptno = dept.deptno;
DECLARE
    last_name emp.ename%TYPE;
    dept_rec  dept%ROWTYPE;
```

解決方法: 無効な参照を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00358: 列 *name* は複数の表で使用されるので修飾子を指定してください。

原因: その文は、同じ列名を持つ 2 つ以上の表を指定しているため、不明確です。たとえば、次の文は deptno が両方の表の列であるためにあいまいです。

```
SELECT deptno, loc INTO my_deptno, my_loc FROM emp, dept;
```

解決方法: 列参照があいまいにならないように、列名の前に表名（たとえば *emp.deptno*）を付けてください。

PLS-00359: *str* の割当てターゲットにはコンポーネントが必要です。

原因: 割当てターゲットの宣言で、代入された値を格納するために必要なコンポーネントが欠落しています。たとえば、列値の行をレコードではなく変数に代入すると、このエラーが発生します。次に例を示します。

```
DECLARE
    dept_rec  dept%ROWTYPE;
    my_deptno dept.deptno%TYPE;
    ...
BEGIN
    SELECT deptno, dname, loc INTO my_deptno -- invalid
        FROM dept WHERE ...
```

解決方法: 割当てターゲットとそのすべてのコンポーネントの綴りを確認してください。割当てターゲットが必要なコンポーネントとともに宣言されていることと、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00360: 本体のないカーソル宣言には戻り型が必要です。

原因: カーソル宣言に、本体（SELECT 文）がないか、戻り型がないかのどちらかです。カーソルの指定を本体から切り離す場合、次のように戻り型の入力が必要です。

```
CURSOR c1 RETURN emp%ROWTYPE;
```

解決方法: SELECT 文または戻り型をカーソル宣言に追加してください。

PLS-00361: IN カーソル名に OPEN'ed は使えません。

原因: IN カーソルをオープンしようとしてしました。IN モードのカーソルパラメータは変更できないので、オープンできません。

解決方法: カーソル・パラメータを IN OUT あるいは OUT に変更してください。操作を再試行してください。

PLS-00362: カーソルの戻り型が無効です。'name' はレコード型でなければなりません。

原因: カーソルの指定または REF CURSOR 型の定義で、NUMBER や TABLE などの非レコード型が戻り型として指定されました。これは許可されていません。次の戻り値だけが許可されています。

- <record_type_name>
- <record_name>%TYPE
- <table_name>%ROWTYPE
- <cursor_name>%ROWTYPE
- <cursor_variable_name>%ROWTYPE

解決方法: 上の戻り型を指定するように、カーソルの指定または REF CURSOR 型定義を訂正してください。

PLS-00363: 式 str は割当てターゲットとして使用できません。

原因: リテラル、定数、IN パラメータ、ループ・カウンタ、ファンクション・コールが、誤って割当てのターゲットとして使用されました。たとえば、次の文は、割当てターゲットの 30 が定数なので不正な文です。

```
SELECT deptno INTO 30 FROM dept WHERE ... -- illegal
```

解決方法: 正しい割当てターゲット使って、誤りのある文を修正してください。

PLS-00364: ループ索引変数 name の使用方法に誤りがあります。

原因: 不適切なコンテキストでループ・カウンタへの参照が見つかりました。たとえば、次の文は無効です。ループ・カウンタがそれ自身の範囲式の中で終了値として使用されているからです。

```
FOR j IN 1 .. j LOOP ... -- illegal
```

解決方法: ループ・カウンタを参照しないように、ループの範囲式を変更してください。範囲式の中で、ループ・カウンタと同じ名前を持つ別の変数を参照する場合は、名前を変更するか、変数名をラベルで修飾してください。

PLS-00366: NOT NULL タイプのサブタイプは、同様に NOT NULL でなければなりません。

原因: サブタイプを NOT NULL として定義した後、NULL として定義されている別のサブタイプの基本型として使用しました。これは許可されていません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
DECLARE
    SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
    SUBTYPE Weekend IS Weekday NULL; -- illegal
```

正しくは次のとおりです。

```
DECLARE
```



```
SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
```

```
SUBTYPE Weekend IS Weekday;
```

解決方法: サブタイプ定義を訂正して、矛盾をなくしてください。

PLS-00367: 例外名のない RAISE 文は、例外ハンドラの内部になければなりません。

原因: 例外ハンドラの外で、例外名が後に付いていない RAISE 文が発見されました。

解決方法: RAISE 文を削除するか、例外ハンドラに移すか、または例外名を追加してください。

PLS-00368: RAISE 文で *name* は例外名でなければなりません。

原因: RAISE 文の中の識別子が正しい例外名ではありません。

解決方法: RAISE 文の中の識別子が例外として宣言されていることと、ブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。PL/SQL 事前定義済み例外の名前を使用している場合は、その名前の綴りを確認してください。

PLS-00369: 例外ハンドラで、OTHERS は単独で使用されなければなりません。

原因: 次の形式の要素

```
WHEN except1 OR OTHERS =>
```

が例外ハンドラの定義内で検出されました。OTHERS ハンドラは、ブロック内の最後の例外ハンドラとして単独で置かなければなりません。

解決方法: OTHERS で表される識別子を削除するか、その識別子に別の例外ハンドラを作成してください。

PLS-00370: OTHERS ハンドラは、例外ハンドラのブロックの中で最後になければなりません。

原因: OTHERS ハンドラの後に、1 つまたは複数の例外ハンドラがあります。しかし、OTHERS ハンドラは、名前が具体的に指定されているすべての例外用のハンドラとして機能するため、ブロックまたはサブプログラム内の一番最後に置く必要があります。

解決方法: 特定の例外ハンドラに続くように、OTHERS ハンドラを移動してください。

PLS-00371: 宣言セクションでは、*name* の宣言は 1 回でなければなりません。

原因: ブロック、プロシージャ、ファンクションの宣言部分に矛盾する宣言があるため、識別子の参照が不明確です。識別子の宣言は、1 つの宣言部分で 1 回しか行えませんが、

解決方法: 識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、識別子の宣言を 1 つ除いて、すべて削除してください。

PLS-00372: プロシージャでは、RETURN 文に式を入れることはできません。

原因: プロシージャ中の RETURN 文で式が使用されていますが、これは許されません。ファンクション中の RETURN 文では式を含んでいる必要があります。なぜならその値がファンクション識別子に代入されるからです。しかしプロシージャにおける RETURN 文は、単にプロシージャの最後に処理が到達して終了するだけの意味を持ちます。

解決方法: RETURN 文から式を削除するか、ファンクションとしてプロシージャを再定義してください。

PLS-00373: EXIT ラベル *name* は LOOP 文で使用する必要があります。

原因: EXIT 文内のラベルは、ループを参照しません。EXIT 文はラベルの指定は不要です。ただし、ラベルが指定されている (EXIT *my_label* など) 場合は、そのラベルは、ループ文を参照しなければなりません。

解決方法: ラベル名の綴りが正しいかどうか、ラベル名がループ文を参照しているかどうか確認してください。

PLS-00374: 無効な EXIT 文です。EXIT 文はラベル *name* のループ内になければなりません。

原因: EXIT 文はラベルの指定は不要です。ラベルが指定されている場合 (EXIT *my_label* など) そのラベルによって指定されるループ内に EXIT 文がなければなりません。

解決方法: ラベル名の綴りが正しいかどうかを確認してください。必要であれば、ラベルが参照するループの内側に EXIT 文を移動してください。

PLS-00375: GOTO 文が無効なためラベル *name* への分岐に失敗しました。

原因: エラー・メッセージに記された行と列の番号は、一連の文を含む構成 (ループや例外ハンドラなど) の外側から、一連の文の内側のラベルに分岐している GOTO 文を示しています。このような分岐は許されません。

解決方法: 文の順序内に GOTO 文を移動するか、ラベル付きの文を文の順序の外側に移動してください。

PLS-00376: 無効な EXIT 文です。EXIT 文はループの内部になければなりません。

原因: ループ構成体の外側に EXIT 文があります。EXIT 文はループを途中で終了するために使用されるので、必ずループの内側になければなりません。

解決方法: EXIT 文を削除するか、ループの内側に入れてください。

PLS-00378: 渡されたコンパイル・ユニットは、現行のリリースの PL/SQL では無効です。

原因: 「コンパイル・ユニット」とは、コンパイラに渡される、PL/SQL ソース・コードが入ったファイルのことです。コンパイル・ユニットは、ブロックおよび宣言、文、サブプログラムしか含むことができません。このエラーは、これ以外の言語構成体がコンパイラに渡されたときに発生します。

解決方法: コンパイル・ユニットにブロック、宣言、文、サブプログラム以外のものがあるかどうかを調べてください。

PLS-00379: CASE 文は現行のリリースの PL/SQL では使用できません。

原因: コンパイル・ユニットに CASE 文が含まれています。しかし、現行のリリースの PL/SQL は CASE 文をサポートしていません。

解決方法: コンパイル・ユニットから CASE 文を削除してください。

PLS-00381: 列と、副問合せまたは INSERT 文の変数で、*name* の型が一致していません。

原因: 列と変数のデータ型が一致しません。この変数は副問合せか INSERT 文の中にあります。

解決方法: 列のデータ型に合うように、変数のデータ型を変更してください。

PLS-00382: 式の型が正しくありません。

原因: 式のデータ型が、その式が検出されたコンテキストには正しくありません。

解決方法: 式のデータ型を変更してください。データ型の変換関数も使えます。

PLS-00383: IN または NOT IN 句で、*name* の型が一致していません。

原因: X NOT IN (SELECT Y ...) などのような集合のメンバーシップの検査で、式 X と Y のデータ型が一致せず、この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要であるか不明です。

解決方法: データ型が一致するように式を変更してください。選択リストでデータ型変換関数も使えます。

PLS-00384: UPDATE の SET 句で、*name* の型が一致していません。

原因: UPDATE 文の SET 句の等号の左側にある列が、等号の右側にある列、式、副問合せとデータ型が一致しません。この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要なのかは不明です。

解決方法: データ型が一致するように式を変更してください。SET 句でデータ型変換関数も使えます。

PLS-00385: SELECT...INTO 文で、*name* の型が一致していません。

原因: SELECT...INTO 文の INTO 句の左右にある式のデータ型が一致せず、この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要であるか不明です。

解決方法: データ型が一致するように式を変更してください。選択リストでデータ型変換関数も使えます。

PLS-00386: FETCH カーソルと INTO 変数で、*name* の型が一致していません

原因: FETCH 文の INTO リスト内の割当てターゲットが、カーソル宣言の選択リスト内の対応する列とデータ型が一致しません。この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要か不明です。

解決方法: カーソル宣言を変更するか、代入先のデータ型を変更してください。カーソルに結び付けられている問合せの選択リストでデータ型変換関数を使うこともできます。

PLS-00387: INTO 変数はデータベース・オブジェクトにできません。

原因: FETCH 文または SELECT 文の INTO リストに含まれる項目がデータベース・オブジェクトでした。INTO は出力値を代入するユーザー定義の変数のリストを与えます。このため、INTO リストではデータベース・オブジェクトが指定できません。

解決方法: INTO リスト項目の綴りを確認してください。必要ならば INTO リストから項目を削除するか、ユーザー定義の出力変数に置き換えてください。

PLS-00388: 副問合せの列 *name* が定義されていません。

原因: 副問合せに、指定された表に対して定義されていない列名が含まれています。

解決方法: 式を変更して、定義された列を指定します。

PLS-00389: このコンテキストでは、表またはビュー、別名の *name* は不適当です。

原因: 通常 (オブジェクト以外) の表に対応する表、ビュー、または別名 *name* が、不適切なコンテキストにあります。

解決方法: 参照を削除するか、列参照としてコーディングする場合にはそのように修正してください。

PLS-00390: INSERT 文の列 *name* が定義されていません。

原因: INSERT 文が、データの挿入先の表またはビューで定義されていない列を参照しています。

解決方法: 列名の綴りを確認し、定義済み列だけを参照するように文を修正してください。

PLS-00391: UPDATE 文の列 *name* が定義されていません。

原因: UPDATE 文が、更新される表またはビューで定義されていない列を参照しています。

解決方法: 列名の綴りを確認し、定義済み列だけを参照するように文を修正してください。

PLS-00392: BETWEEN の引数で指定した型が無効です。

原因: X BETWEEN Y AND Z などの比較で、式 X、Y および Z のデータ型が一致せず、この不一致を解消するためにどの暗黙変換を行えばいいのかが不明です。

解決方法: データ型が一致するように式を変更してください。データ型の変換関数も使えます。

PLS-00393: SELECT...INTO 文の列の数が正しくありません。

原因: SELECT...INTO 文で選択された列数が、INTO 句の変数の数と一致しません。

解決方法: 選択リストの中の列の数が INTO 句の中の変数の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00394: FETCH 文の INTO 句の値の数が正しくありません。

原因: FETCH 文の INTO 句に含まれる変数の数が、カーソル宣言の列の数と一致しません。

解決方法: INTO 句の変数の数がカーソル宣言の列の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00395: INSERT 文の VALUES 句の値の数が正しくありません。

原因: INSERT 文の列の数が、VALUES 句の値の数と一致しません。たとえば、次の文は値 20 に対して列が指定されていないので正しくありません。

```
INSERT INTO emp (empno, ename) VALUES (7788, 'SCOTT', 20);
```

解決方法: 列リストの項目の数か VALUES リストの項目の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00396: INSERT 文の副問合せの列の数が正しくありません。

原因: INSERT 文の列の数が、副問合せの選択リストの列の数と一致しません。たとえば、次の文は *col3* に対応する列が指定されていないので不正です。

```
INSERT INTO emp (ename, empno) SELECT col1, col2, col3 FROM ...
```

解決方法: INSERT 文の列リストの項目数と選択リストの項目数が一致するように、変更してください。

PLS-00397: IN へ渡す引数の型が一致しません。

原因: X IN (Y,Z) のようにして集合のメンバーであるかどうかを調べるときに、式 X および Y、Z のデータ型が一致せず、この不一致を解消するためにどの暗黙変換を行えばいいのかが不明です。

解決方法: データ型が一致するように式を変更してください。データ型の変換関数も使えます。

PLS-00398: UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の数が正しくありません。

原因: UNION 式、または INTERSECT 式、MINUS 式の左右の SELECT 句で選択されている列の数が違います。たとえば、次の文は選択リストの含む項目数が等しくないので正しくありません。

```
CURSOR my_cur IS SELECT ename FROM emp
INTERSECT SELECT ename, empno FROM emp;
```

解決方法: 項目数が一致するように、選択リストを変更してください。

PLS-00399: UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の型が一致していません。

原因: UNION 式、または INTERSECT 式、MINUS 式の左右の選択リストで、データ型が一致しない列が少なくとも 1 つ選択されています。たとえば、次の文は定数 3 のデータ型が NUMBER であるのに対して、SYSDATE のデータ型は DATE なので正しくありません。

```
CURSOR my_cur IS SELECT 3 FROM emp
INTERSECT SELECT SYSDATE FROM emp;
```

解決方法: データ型に一致するように、選択リストを変更してください。1 つまたは複数の問合せの選択リストでデータ型変換関数も使えます。

PLS-00400: カーソル SELECT 文と戻り値の列数が一致しません。

原因: カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値の数が選択リストの項目の数と一致しません。

解決方法: カーソルの戻り型または選択リストを変更して両者の数が一致するようにしてください。

PLS-00401: name でカーソル SELECT 文と戻り値の型が一致しません。

原因: カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値のデータ型が、対応する選択リストの項目のデータ型と異なります。

解決方法: カーソルの戻り型または選択リストを変更して両者の型が一致するようにしてください。

PLS-00402: 列名が重複しないように SELECT リストで別名を使用する必要があります。

原因: 重複する列名を含む SELECT 文で SQL カーソルが宣言されています。この参照は、不明確です。

解決方法: 選択リストで重複している列名を別名で置き換えてください。

PLS-00403: 式 str は SELECT/FETCH 文のターゲットとして使用できません。

原因: FETCH 文で、代入先が正しい形式の正しく宣言された変数ではないために、INTO リストに含まれる代入先に値は代入できません。たとえば、'Jones' は文字列で、変数ではないため、次の代入は正しくありません。

```
FETCH my_cur INTO 'Jones';
```

解決方法: 代入先の綴りと宣言を確認してください。変数名の作成規則に従っていることを確認してください。

PLS-00404: CURRENT OF を使用するには、カーソル name が FOR UPDATE で宣言されていなければなりません。

原因: CURRENT OF cursor_name 句の使用は、cursor_name が FOR UPDATE 句で宣言された場合にだけ有効です。

解決方法: カーソルの定義に FOR UPDATE 句を追加するか、CURRENT OF cursor_name 句を使わないようにしてください。

PLS-00405: 現コンテキストでの副問合せは無効です。

原因: 不適当なコンテキストで副問合せが使われました。次に例を示します。

```
if (SELECT deptno FROM emp WHERE ... ) = 20 then ...  
副問合せは SQL 文でしか使用できません。
```

解決方法: 次のように、一時変数を使用しても同じ結果が得られます。

```
SELECT deptno INTO temp_var FROM emp WHERE ...;  
IF temp_var = 20 THEN ...
```

PLS-00406: 副問合せの SELECT リストの長さは、代入先の数値に一致していなければなりません。

原因: 問合せの選択リストの長さが、戻された値を受け取る代入先のリストの長さとは一致しません。たとえば、次の文は副問合せが 2 つの値を戻すのに対して、代入先が 1 つしかないので正しくありません。

```
UPDATE emp SET ename =  
    (SELECT ename, empno FROM emp WHERE ename = 'SMITH') ...
```

解決方法: 項目数が一致するように、リストの 1 つを変更してください。

PLS-00407: '*' は使用できませんので列のリストを指定してください。

原因: 列名のリストの省略形としてアスタリスク (*) が使用されました。しかし、このコンテキストでは列名は明示的な指定が必要です。

解決方法: アスタリスクを列名のリストで置き換えてください。

PLS-00408: INSERT、UPDATE で列 *name* は重複しています。

原因: UPDATE 文または INSERT 文に、重複する列名がある列リストが含まれています。

解決方法: 列名の綴りを確認し、重複がないようにしてください。

PLS-00409: INTO リストで変数 *name* は重複しています。

原因: SELECT 文または FETCH 文では、INTO リストで同じ変数を 2 度指定できません。

解決方法: 変数のいずれかを INTO リストから削除してください。

PLS-00410: レコード、表での重複した列名は無効です。

原因: ユーザー定義レコードを宣言するときに、2 つのフィールドに同じ名前を指定しました。データベース表の列名と同様、ユーザー定義レコードのフィールド名は一意である必要があります。

解決方法: フィールド名の綴りを確認し、重複しているものがあれば削除してください。

PLS-00411: 集合体と副問合せの値番号が一致しません。

原因: 形式 (集合体) = (副問合せ) の文で、集合体の値の数と副問合せの値の数がか一致していません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
... WHERE (10,20,30) = (SELECT empno,deptno FROM emp WHERE...);
```

解決方法: 値の数がか一致するように、集合体と副問合せを変更してください。

PLS-00412: ファンクション、プロシージャで値のリストを引数とすることは無効です。

原因: カンマで区切ってカッコで囲んだ値リスト (すなわち集合) が間違ったコンテキストで使用されました。たとえば、次の用法は「不正」です。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

ただし、等号は、左側と右側の引数として、それぞれ値のリストと副問合せをとることができます。したがって、次の使用法は有効です。

```
WHERE (col1, col2) = (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

解決方法: 式を書き直してください。次に例を示します。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

上記の句は、次のように書き直すことができます。

```
WHERE col1 > (SELECT col3 FROM my_table ...) AND  
      col2 > (SELECT col4 FROM my_table ...)
```

PLS-00413: CURRENT OF 句の識別子がカーソル名ではありません。

原因: CURRENT OF 句の識別子がカーソル以外のオブジェクトの名前です。

解決方法: 識別子の綴りを確認してください。それが DELETE 文または UPDATE 文のカーソルの名前であることと、FOR ループ変数の名前ではなく、カーソル自体の名前であることを確認してください。

PLS-00414: 表に列 *name* がありません。

原因: 列の参照を修飾するために表の名前または別名が使用されましたが、表の中に列がありません。列が定義されていなかったか、列名の綴りが間違っています。

解決方法: 列が定義されているかどうか確認し、列名の綴りが正しいかどうかを調べてください。

PLS-00415: *name* は OUT パラメータですが、ファンクションでは使用できません。

原因: ファンクション指定で OUT または IN OUT 仮パラメータが使用されました。

解決方法: パラメータを IN パラメータに変更してください。

PLS-00416: DECODE の第 3 引数は NULL に指定できません。

原因: DECODE の 3 番目の引数が NULL になっています。

解決方法: 適切な型および値を指定した引数を入力してください。

PLS-00417: *name* は、列として解決できません。

原因: SQL 文に存在していないデータベース表、ビュー、列が指定されたか、表またはビューへのアクセスに必要な権限が付与されませんでした。

解決方法: 表（またはビュー）および列の名前の綴りを確認してください。また、その表および列が存在していることを確認してください。必要な場合は、アクセスするための権限を DBA に要請してください。

PLS-00418: 配列バインド型は、PL/SQL 表の型に一致していなければなりません。

原因: ホスト配列は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、PL/SQL 表パラメータにバインドするため、PL/SQL サブプログラムに渡されました。ただし、配列要素のデータ型と PL/SQL 表の列に互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

解決方法: データ型に互換性があるように、配列要素または PL/SQL 表行のデータ型を変更してください。

PLS-00419: リモート・カーソル属性の参照は許可されていません。

原因: リモート・カーソル属性を参照しようとしたますが、これは許されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF SQL%NOTFOUND@newyork THEN ...
```

解決方法: リモート・カーソル属性は参照しないでください。

PLS-00420: ビルトイン・ルーチンをリモートで呼出すことはできません。

原因: 組み PL/SQL 関数をリモートでコールしようとしたが、これは許されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_sqlerrm := SQLERRM@newyork;
```

または

```
INSERT INTO emp VALUES (my_empno, STANDARD.RTRIM@newyork(my_ename), ...);
```

解決方法: 組み関数は常にローカルで呼び出し、データベース・リンクは指定しないでください。

PLS-00421: シノニム定義のネストが深すぎます。シノニム間にループのある可能性があります。

原因: 直接的または間接的に、シノニムがそれ自体によって定義され、循環定義を作成しました。あるいは、PL/SQL コンパイラが処理するには長すぎるシノニムの連鎖が定義されました。

解決方法: シノニムを再定義し、循環定義を削除してください。必要なら、シノニムの連鎖を短くしてください。

PLS-00422: このバインド変数に対応するバインド型への PL/SQL 変換が行われませんでした。

原因: ホスト変数は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、バインドのため、PL/SQL に渡されました。ただし、そのデータ型は PL/SQL のデータ型と互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

解決方法: PL/SQL データ型と互換性があるように、ホスト変数のデータ型を変更してください。

PLS-00423: ORDER BY 項目は SELECT リストの式の数でなければなりません。

原因: UNION または INTERSECT、MINUS 集合演算子を使用する SELECT 文の ORDER BY 句で、列の別名が使用されました。これは許可されていません。このような場合、ORDER BY 句の中の式は、選択リスト項目の元の位置を示す符号なし整数でなければなりません。

解決方法: ORDER BY 句の別名を、問題のある選択リストの起点になる符号なし整数に変更してください。

PLS-00424: RPC のデフォルトにはパッケージ状態を入れておくことはできません。

原因: デフォルトのパラメータがパッケージ状態に依存する、リモート・サブプログラムをコールしようとしたが、これは許されません。リモート・サブプログラムを呼び出すには、たとえ対応する仮パラメータがパッケージ状態に依存する場合であっても、実パラメータを明示的に渡さなければなりません。

解決方法: それぞれの実パラメータを明示的に渡して、リモート・サブプログラムをコールしてください。

PLS-00425: SQL では、ファンクションの引数および戻り型が SQL 型でなければなりません。

原因: ストアド・ファンクションが SQL 文からコールされたときに、誤った型のパラメータが渡されました。SQL 文からコールできるようにするには、ストアド・ファンクションがいくつかの要件を満たしていなければなりません。そのうちの 1 つは、引数が SQL のデータ型（たとえば、CHAR、DATE、NUMBER など）を持っていることです。どの引数も、SQL 以外の型（たとえば、BOOLEAN、TABLE、RECORD など）を持つことはできません。

解決方法: ファンクション・コールの引数が、すべて SQL データ型かどうか調べてください。

PLS-00428: この SELECT 文では INTO 句が必要です。

原因: SELECT INTO 文の INTO 句が省略されました。たとえば、コードが次のようになっている可能性があります。

```
SELECT deptno, dname, loc FROM dept WHERE ...
```

正しくは次のとおりです。

```
SELECT deptno, dname, loc INTO dept_rec FROM dept WHERE ...
```

PL/SQL では副問合せだけが INTO 句なしで書かれています。

解決方法: 必要な INTO 句を追加してください。

PLS-00450: PRIVATE 型の変数の宣言が無効です。

原因: 他のコンパイル・ユニットで PRIVATE として宣言されている型が、変数宣言で使用されています。

解決方法: この型を PRIVATE 変数宣言で使用しないでください。

PLS-00451: リモート型は許可されていません。

原因: 定数または変数が宣言されたときに、リモート・ライブラリ・ユニットに定義されているデータ型が指定されました。これは許可されていません。

解決方法: ローカルで定義していないデータ型は、指定しないでください。

PLS-00452: サブプログラム *name* が関連プラグマを侵しています。

原因: パッケージ仕様部に RESTRICT_REFERENCES プラグマをコーディングしてピュリティ・レベルをアサートしない限り、SQL 文からパッケージ・ファンクションをコールすることはできません。副次作用を制御するために使用されるプラグマは、データベース表またはパブリック・パッケージ変数（あるいはその両方）へのパッケージ・ファンクションの読み取り / 書き込みアクセスを拒否するように PL/SQL コンパイラに指示します。プラグマに違反している SQL 文をコーディングすると、コンパイル・エラーが発生します。

解決方法: ファンクションのピュリティ・レベルを高めるか、プラグマの制約を少なくしてください。

PLS-00453: オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されていません。

原因: リモート・オブジェクト表またはユーザー定義型の列へのリファレンスが発見されました。

解決方法: リモート・オブジェクト表やユーザー定義型列は参照しないでください。操作を再試行してください。

PLS-00454: RETURNING INTO 句で、リモートあるいは副問い合わせの表の表現は使えません。

原因: リモート表や副問い合わせへの参照が RETURNING INTO 句を持つ SQL 文に発見されました。

解決方法: それに参照しないか、後続の SELECT 文を使ってください。

PLS-00483: 例外 *name* は、このブロックの 1 つの例外ハンドラでしか使用できません。

原因: PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの例外ハンドリング部で、同じ例外が 2 つの WHEN 句、(つまり 2 つの異なる例外ハンドラ) で指定されています。

解決方法: 例外への参照のうちのどちらかを削除してください。

PLS-00484: 例外 *name* と *name* は同一の例外ハンドラになければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマを使用して、異なる例外が同じ Oracle エラー番号に初期化されて、同一の例外処理部内の別の例外ハンドラで参照されました。このような参照は競合します。

解決方法: 例外の 1 つを削除するか、例外を別の Oracle エラー番号に初期化してください。

PLS-00485: 例外ハンドラ *name* は例外名である必要があります。

原因: 例外ハンドラの WHEN 句に、例外として宣言されていない識別子が指定されています。WHEN 句では例外の名前しか使用できません。

解決方法: 例外名の綴りを確認し、例外が正しく宣言されているかどうかを確認してください。

PLS-00486: SELECT リストはカッコで囲むことができません。

原因: SELECT 文で、選択リストが次のようにカッコで囲まれています。

```
SELECT (deptno, dname, loc) FROM dept INTO ...
```

これは SQL の構文規則に反しています。キーワード SELECT と FROM は選択リストの範囲を定めるので、カッコは必要ありません。

解決方法: 選択リストを囲んでいるカッコを削除してください。

PLS-00487: 変数 *name* への参照が無効です。

原因: 変数への参照がデータ型と矛盾しています。たとえば、次のようにスカラー変数を誤ってレコードとして参照した可能性があります。

```
DECLARE
    CURSOR emp_cur IS SELECT empno, ename, sal FROM emp;
```

```
emp_rec emp_cur%ROWTYPE;  
my_sal NUMBER(7,2);  
BEGIN ... total_sal := total_sal + my_sal.sal; -- invalid  
...
```

解決方法: 変数名の綴りを確かめてください。変数が正しく宣言されたことと、宣言と参照のデータ型に矛盾がないことを確認してください。

PLS-00488: 無効な変数宣言: *name* は、タイプまたはサブタイプでなければなりません。

原因: 変数宣言の中の型指定子が正しい型またはサブタイプを示していません。たとえば、次のように、%TYPE 属性が宣言に追加されていない可能性があります。

```
DECLARE  
my_sal emp.sal%TYPE;  
my_ename emp.ename; -- missing %TYPE  
...
```

定数または変数を宣言するときに、列のデータ型を自動的に与えるためには %TYPE 属性を使用してください。同様に、レコードの宣言で、行のデータ型を自動的に与えるときにも、%ROWTYPE 属性を使用してください。

解決方法: データ型指定子が正しい型を示していることを確認してください。必要ならば %TYPE 属性と %ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00489: 無効な表参照: *name* はこの式の列でなければなりません。

原因: 問合せで選択リスト項目が FROM 句の表を参照しましたが、データベース列ではありませんでした。

解決方法: 列名の綴りを確かめ、選択リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00490: 無効な文です。

原因: 文が想定されている箇所に、定数、変数、ファンクション・コール、不完全な文が使用されました。たとえば、式からファンクションをコールするかわりに、ファンクションが（プロシージャのように）文としてコールされた可能性があります。

解決方法: コマンド、識別子、演算子、デリミタ、終了記号が完全で、有効な PL/SQL 文を構成しているかどうか、文を調べてください。

PLS-00491: 数値リテラルが必要です。

原因: 数値リテラルが必要な箇所に、定数または変数が使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_ename VARCHAR2(max_len);  
正しくは次のとおりです。
```

```
my_ename VARCHAR2(15);  
VARCHAR2 の変数の最大長を指定するときには、整数リテラルを使用しなければなりません。
```

解決方法: 識別子を数値リテラルで置き換えてください。

PLS-00492: 変数または定数の初期化では、同一パッケージ内で宣言された関数を参照しない場合があります。

原因: パッケージ仕様部 p でファンクション f が宣言されている場合、同一パッケージ仕様部の変数宣言でそのファンクションは使用できません。これは循環インスタンス化の問題によるものです。パッケージ仕様部を完全にインスタンス化するために、変数を初期化する必要があります。変数を初期化するには、パッケージ本体中のファンクション本体のコードを実行しなければなりません。そのためには、パッケージ本体をインスタンス化する必要があります。ただし、パッケージ仕様部が完全にインスタンス化されないとパッケージ本体はインスタンス化できません。

解決方法: 変数の初期化からファンクションに対する参照を削除してください。一般的に有効な方法は、パッケージ仕様部の変数宣言からパッケージ本体の初期化ブロックに変数の初期化を移動する方法です。

PLS-00493: ローカル・コンテキストで、サーバー側のオブジェクトに対する無効な参照が見つかりました。

原因: PL/SQL オブジェクトしか存在できないコンテキストで（ローカル・ファンクションのパラメータ・リスト内や、（ローカル）PL/SQL 表の索引としてなど）、サーバー側オブジェクトに対する参照（列など）が見つかりました。

解決方法: 違反している文を書き直すか、または（ローカル・ファンクション・コールが問題のコンテキストである場合には）ファンクションを非ローカルにしてください（パッケージ化されたまたはトップ・レベルの状態です）。

PLS-00494: 複数レコード・ターゲットへの強制はサポートされていません。

原因: SELECT または FETCH の INTO リストで複数のレコード型ターゲットが指定されており、列型を INTO リストに一致させるためにレコードへの強制が必要です。これは型チェックでは正しいですが、まだサポートされていません。

解決方法: 列型がすべて入る新しいレコード型を作成するか、各ソース列に INTO ターゲットのある SELECT をコーディングしてください。

PLS-00495: レコード・ターゲットのバースト後の SELECT...INTO 文の列が多すぎます。

原因: 型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードはフィールド内にバーストされます。各列に対してレコード内のフィールドが足りません。

解決方法: INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00496: レコード・ターゲットのバースト後の SELECT...INTO 文の列が少なすぎます。

原因: 型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードはフィールド内にバーストされます。レコード内のすべてのフィールドを格納できるだけの列がありません。

解決方法: INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00497: 単一行と複数行 (バルク)SELECT を混在させることはできません。

原因: SELECT または FETCH の INTO リストで、対応する列と同じ型の変数もあれば、対応する列の型のコレクションである型を持つ変数もあります。これでは、1 行をフェッチするのか複数行（バルク）をまとめてフェッチするのかが、あいまいです。

解決方法: すべての変数が列と同じ型（変換可能な型）になるように、あるいはすべての INTO 変数が、対応する列と同じ型のコレクションになるように、INTO リストを変更してください。

PLS-00498: 型を宣言する前に不正に使用しています。

原因: コンパイル・ユニットの後の方で宣言される型の変数または定数が宣言されたか、またはコンパイル・ユニットの後の方で宣言される型を親とする型またはサブタイプが宣言されました。

解決方法: 型の宣言が、変数 / 定数 / 型宣言の使用に先立って行われていることを確認してください。

PLS-00499: レコードのコレクションへの強制はサポートされていません。

原因: SELECT または FETCH で、列リストをレコードのコレクションである変数に強制する指定をしています。これは型チェックでは正しいですが、暗黙的なレイアウト変更が必要であるため、まだサポートされていません。

解決方法: 列の周囲にオブジェクト・コンストラクタのある SELECT を使用するか、INTO 変数としてオブジェクトのコレクションを使用してください。

- ・ または、一度に 1 行ずつ各行をレコードに強制し、そのレコードが要素となるコレクションを作成します。
- ・ または、コレクションのレコードを使用します。

PLS-00503: ファンクションからの戻りでは、RETURN<value> 文が必要です。

原因: ファンクション本体で、式が含まれていない RETURN 文が使用されました。文は制御を呼出し側へ戻すだけなので、プロシージャ内の RETURN 文には式は含まれません。ただし、ファンクション内の RETURN 文は式を含んでいなければなりません。これは、その値がファンクション識別子に代入されるためです。

解決方法: RETURN 文に式を追加してください。

PLS-00504: 型 `name_BASE` は STANDARD パッケージの外側では使用できません。

原因: 宣言で、誤ってデータ型 NUMBER_BASE（たとえば）が指定されました。CHAR_BASE、DATE_BASE、NUMBER_BASE といったデータ型は内部で 사용되는だけのものです。

解決方法: NUMBER_BASE を取り除いた（NUMBER_BASE 型ならば NUMBER 型のように）型で指定してください。

PLS-00505: ユーザー定義の型は PL/SQL の表またはレコードとしてのみ定義できます。

原因: COLLECTION または OBJECT、RECORD 以外の型を定義しようとしました。PL/SQL のこのリリースでは、ユーザー定義の型だけが許可されています。たとえば、次の型定義は無効です。

```
TYPE Byte IS INTEGER(2); -- illegal
```

解決方法: 型定義を削除するか、COLLECTION、OBJECT、または RECORD 型を指定するように型定義を修正してください。

PLS-00506: ユーザー定義の制約付きサブタイプは無効です。

原因: 制約サブタイプを定義しようとしたますが、PL/SQL のこのリリースで許可されるのは、無制約サブタイプだけです。たとえば、次の型定義は無効です。

```
SUBTYPE Acronym IS VARCHAR2(5); -- illegal
```

解決方法: 無効な型制約を削除してください。

PLS-00507: PL/SQL 表には複合フィールドを持つ表またはレコードが入っていない可能性があります。

原因: TABLE 型の定義で、ネストしたレコード型が要素型として指定されました。これは許可されていません。レコード内のすべてのフィールドは、スカラーでなければなりません。

解決方法: TABLE 型定義を削除するか、ネストされたレコード型を単純なレコード型に置き換えてください。

PLS-00508: RETURN 文中の式が型ではありません。

原因: 次の例に示すように、ユーザー定義ファクションの RETURN 文で、式ではなくデータ型指定子が使用されました。RETURN 文と RETURN 句を混同しないでください。RETURN 文は、結果値にファクション識別子を設定し、RETURN 句は結果値のデータ型を指定します。

```
FUNCTION credit-rating (acct_no NUMBER) RETURN BOOLEAN IS
BEGIN
    ...
    RETURN NUMBER; -- should be an expression
END;
```

解決方法: RETURN 文のデータ型指定子を適切な式で置き換えてください。

PLS-00509: 処理系の制限。フィールドを選択する前に戻されたレコードを一時識別子に渡します。

原因: 1 つのレコードまたは複数のレコードの PL/SQL 表を戻すパラメータなしのファクションをコールするのに、誤った構文が使用されました。パラメータが必要で、レコードを戻すファクションをコールするには、次の構文を使用してレコード内のフィールドを参照します。

```
function_name(parameters).field_name
```

ただし、PL/SQL では空のパラメータ・リストを使用できないため、上記の構文を使用してパラメータなしのファクションはコールできません。つまり、次のような構文は無効です。

```
function_name().field_name -- illegal; empty parameter list
```

次のような構文も無効になるため、単に空のパラメータ・リストの削除はできません。

```
function_name.field_name -- illegal; no parameter list.
```

解決方法: ローカル・レコードまたはファンクションの結果を割り当てるレコードの PL/SQL 表を宣言して、そのフィールドを直接参照してください。

PLS-00510: FLOAT には有効範囲は指定できません。

原因: 次の例で示されているように、FLOAT 変数を宣言するときに、その精度と有効範囲が指定されました。

```
DECLARE
    Salary FLOAT(7,2);
```

ただし、次のように、FLOAT 変数の有効範囲は指定できません。指定できるのは精度だけです。

```
Salary FLOAT(7);
```

解決方法: 宣言から有効範囲指定子を削除するか、NUMBER 変数を宣言してください。

PLS-00511: レコードに複数のレコードの PL/SQL 表を入れることはできません。

原因: RECORD 定義で、1 つのフィールドが複数のレコードの PL/SQL 表として宣言されました。これは許可されていません。あるレコードが別のレコードのコンポーネントとなることはあり得ますが（つまり、レコードをネストすることができる）複数のレコードの PL/SQL 表が 1 つのレコードのコンポーネントとなることはあり得ません。

解決方法: フィールド宣言を削除するか、単純なレコード型を指定して宣言を修正してください。

PLS-00512: 処理系の制限: 'name' リモートパッケージ変数あるいはカーソルを直接アクセスできません。

原因: リモート・パッケージ変数またはカーソルを参照しようとしてしました。これは許可されていません。そのかわりとして、リモート・パッケージ変数またはカーソルの値を戻すファンクションをリモート・パッケージに追加してください。

解決方法: 無効な参照を削除してください。

PLS-00513: SQL からコールされた PL/SQL ファンクションは、戻り値が有効な SQL の型でなければなりません。

原因: SQL 文では、SQL で処理できない戻り型を持つ PL/SQL ファンクションをコールしないでください。たとえば、BOOLEAN 型およびレコード、索引付き表は SQL ではサポートされていないので、このような値を戻すファンクションは SQL からコールできません。

解決方法: 戻された型を変更し、操作を再試行してください。

PLS-00514: REF INTO 句を持つ INSERT 文は、一定の型の表でなければなりません。

原因: INTO 句で指定されている表がオブジェクト表でない場合には、REF INTO 句を指定した INSERT 文は無効です。

解決方法: REF INTO 句を削除して、操作を再試行してください。

PLS-00515: REF INTO 変数 'name' の型は、表の型に対して REF でなければなりません。

原因: REF INTO 句を指定した INSERT 文では、REF INTO 句で使用する変数または列の型は、REF <T> でなければなりません。<T> は、INTO 句の表の型です。

解決方法: 適切な型の変数または列を使用してください。

PLS-00516: オブジェクト表と INSERT 文の値 'name' の型が一致しません。

原因: 一定の型の表（オブジェクトの表）を操作する INSERT 文で、非集合値の型が表のオブジェクト型と一致していません。

解決方法: 適切な型の値を指定してください。

PLS-00517: 副問合せ付きの INSERT 文中の対応する表列と選択リスト要素 'name' の型が一致しません。

原因: 副問合せを指定した INSERT 文で、選択リストの少なくとも 1 つの要素が、INTO 句の対応する表の列と型の互換性がありません。このエラーは、副問合せをターゲット表の構造と一致するように書き直す必要があることを示しています。

解決方法: 選択リストの要素に互換性のある型を指定してください。

PLS-00518: この INSERT 文にはカッコで囲んだ値リストを含む VALUE 句が必要です。

原因: カッコで囲んだ SQL データ項目のリストを指定しないで VALUE 句が入力されました。明示的な列リストを指定したすべての INSERT 文では、VALUES 句の中にカッコで囲んだ SQL データ項目のリストを含める必要があります。次に例を示します。

```
INSERT INTO my_tab (a,b,c) VALUES (1,2,my_variable);
```

解決方法: 文を書き直して SQL データ項目のリストをカッコで囲んでください。

PLS-00519: この INSERT 文には、値リストではなくオブジェクト型の式を含む VALUE 句が必要です。

原因: 一定の型の表を指定した INSERT 文で、オブジェクト型の項目が必要な箇所に集合体が使用されています。

解決方法: 集合体をオブジェクト・コンストラクタまたはその他のオブジェクト型の式に置き換えてください。

PLS-00520: MAP メソッドは SELF(オプション) 以外のパラメータはなしで宣言する必要があります。

原因: パラメータを指定して MAP メンバー・ファンクションが宣言されました。MAP メンバー・ファンクションで指定できるのは、デフォルトの SELF パラメータだけです。MAP メソッドを宣言する場合は、パラメータはいっさい指定できません。コンパイラによって SELF パラメータが追加されます。

解決方法: MAP メンバー・ファンクションからパラメータを削除してください。

PLS-00521: ORDER メソッドは SELF に加えてパラメータを 1 個つけて宣言する必要があります。

原因: ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには 2 つのパラメータがあります。1 つ

はデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。もう 1 つのパラメータはユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型でオーダー・メソッドを宣言する必要があります。

解決方法: パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00522: MAP メソッドではスカラー型を戻さなければなりません。

原因: MAP メンバー・ファンクションが、スカラー型以外の型を戻すように書かれています。

解決方法: スカラー型を戻すように MAP ファンクションを書き直してください。

PLS-00523: ORDER メソッドでは INTEGER を戻さなければなりません。

原因: ORDER メンバー・ファンクションが整数型以外の型を戻すように書かれています。

解決方法: 整数型を戻すように ORDER メソッドを書き直してください。

PLS-00524: ORDER メソッドのパラメータ型はそこに含まれるオブジェクト型でなければなりません。

原因: ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには 2 つのパラメータがあります。1 つはデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。2 つ目のパラメータは、ユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型で ORDER メソッドを宣言する必要があります。

解決方法: パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00525: SQL 文内では、オブジェクトの比較は MAP または ORDER 関数がない場合、等価比較だけです。

原因: 関係比較用の MAP または ORDER ファンクションが指定されていません。MAP または ORDER ファンクションを指定しない場合、使用できるのは等値比較だけです。

解決方法: オブジェクトに MAP または ORDER ファンクションを指定してください。そうしない場合は、等値比較だけを使用するようにプログラムを変更してください。

PLS-00526: PL/SQL のオブジェクトを比較するには、MAP または ORDER ファンクションが必要です。

原因: スタンドアロンの PL/SQL 内部で、MAP または ORDER ファンクションを指定しないでオブジェクトを比較しようとしてしました。

解決方法: MAP または ORDER ファンクションを指定して操作を再試行してください。

PLS-00527: MAP または ORDER 関数には WNDS、WNPS、RNPS、RNDS を指定する PRAGMA RESTRICT_REFERENCES が必要。

原因: PRAGMA RESTRICT_REFERENCES を指定していないか、または WNDS、WNPS、RNPS、RNDS のいずれか 1 つを指定していません。

解決方法: PRAGMA を追加または修正して、操作を再試行してください。

PLS-00528: ORDER 関数に対するパラメータは IN モードを持っていない必要があります。

原因: ORDER ファンクションのパラメータを OUT または IN OUT モードとして宣言しました。

解決方法: IN モードだけを使用するようにパラメータを修正してください。

PLS-00529: INSERT 文中の列名 *name* が不適当です (識別子でなければなりません)。

原因: INSERT 文で、識別子ではない列名を使用しようとした。明示的な列リストを指定した INSERT 文では、列名は単純な識別子でなければなりません。

解決方法: 列名に単純な識別子を使用して、INSERT 文を書き直してください。

PLS-00530: オブジェクト型属性: *name* に対して不正な型が使用されています。

原因: オブジェクトの型属性に、無効な型が使用されました。

解決方法: オブジェクト型属性に対してサポートされている型だけを使用してください。

PLS-00531: VARRAY または TABLE 型では、*name* はサポートされていない型です。

原因: VARRAY または TABLE 型にサポートされていない型が使用されました。

解決方法: VARRAY または TABLE 型でサポートされている型だけを使用してください。

PLS-00532: REF のターゲットは、完全または不完全なオブジェクト型です。

原因: 完全でも不完全でもないオブジェクト型の REF ターゲットが指定されました。REF ターゲットは、次のいずれかです。

- ・ 完全なオブジェクト型。次に例を示します。

```
CREATE TYPE type_with_no_errors (a number);
CREATE TYPE t2 (a REF type_with_no_errors);
```

- ・ 精度の高い不完全な型。次に例を示します。

```
CREATE TYPE pure_incomplete_type;
CREATE TYPE t2 (a REF pure_incomplete_type);
```

- ・ 精度の低い、不完全なオブジェクト型。次に例を示します。

```
CREATE TYPE type_with_semantic_errors (an undeclared_type);
CREATE TYPE t2 (a REF type_with_semantic_errors);
```

解決方法: REF を使用する場合には、REF のターゲットが完全、または不完全なオブジェクト型になるように REF を書き直してください。そうでなければ、REF を削除してください。

PLS-00533: non_queryable 型の表はサポートされていません。

原因: 問合せ不能な型の表が作成されました。このような型の表はサポートされません。

解決方法: 問合せ可能でない型を含むオブジェクト型を作成してください。次に、そのオブジェクト型で構成されている表を作成してください。

PLS-00534: 表型にネストされた表型および VARRAY を含むことはできません。

原因: 次のいずれかを行おうとしました。ネストしたコレクション型を含む表型を定義しようとしたか、または、(おそらくネストした)別の表型または VARRAY 型を持つオブジェクト表を定義しようとした。

解決方法: 表定義にネストした表または VARRAY が含まれていないことを確認してください。

PLS-00535: VARRAY 型に NESTED TABLE または VARRAY、LOB を含むことはできません。

原因: 次のいずれかを行おうとしました。ネストしたコレクション型または LOB を含む VARRAY 型を定義しようとしたか、または、NESTED TABLE、VARRAY、LOB 型のいずれかのネストした属性を持つオブジェクト型の VARRAY 型を定義しようとした。

解決方法: ネストされたコレクション型、LOB、ネストされている属性を含んでいないかどうか、VARRAY 定義を調べてください。

PLS-00536: REF 変数を介したナビゲーションは、PL/SQL ではサポートされていません。

原因: フォーム `refvar.field` の式が入力されました。これは、このバージョンの PL/SQL ではサポートされません。

解決方法: このナビゲーションは、データベース・オブジェクトの場合のみサポートされます。REF 変数を使用すると、同じ型のデータベース列に挿入をしたり、そこから選択したりできます。ただし、REF 変数を介してナビゲーションはできません。ナビゲーションを削除する必要があります。

PLS-00537: VARRAY には、正の制限が必要です。

原因: VARRAY 型が正の制限なしで宣言されました。たとえば、VARRAY(0)。

解決方法: 正の制限を指定して VARRAY を宣言し、操作を再試行してください。

PLS-00538: オブジェクト型仕様部でサブプログラムまたはカーソル *name* が宣言されましたが、オブジェクト型本体でも定義されていなければなりません。

原因: 指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の仕様部で宣言されていますが、オブジェクト型本体で定義されていません。

解決方法: オブジェクト型本体にサブプログラムを定義するか、仕様部から宣言を削除してください。

PLS-00539: サブプログラム *name* がオブジェクト型本体で宣言されましたが、これはオブジェクト型仕様部で定義されていなければなりません。

原因: 指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の本体で宣言されましたが、これはオブジェクト型の仕様部で定義されていなければなりません。カーソル本体は仕様部がなくても存在することに注意してください。

解決方法: オブジェクト型の仕様部にサブプログラムを宣言するか、本体から宣言を削除してください。

PLS-00540: このコンテキストでは、オブジェクトはサポートされません。

原因: ローカル有効範囲 (ファンクション、プロシージャ、無名ブロック) の内側またはパッケージ有効範囲内でオブジェクトが宣言されましたが、これはサポートされていません。

解決方法: グローバルまたはデータベースの有効範囲内で型を宣言してください。

PLS-00541: 指定されたサイズまたは長さが長すぎます。

原因: データ項目に指定されたサイズまたは長さが大きすぎます。

解決方法: 指定する値を小さくして、操作を再試行してください。

PLS-00542: CLOB および NCLOB は、サーバーで可変幅の文字セットを使用できません。

原因: 可変幅の文字セットが使用される埋込み CLOB または NCLOB 属性でサーバー型が作成されました。

解決方法: CLOB ではなく VARCHAR2 を使用するか、固定幅の文字セットを使用してください。

PLS-00543: PLSQL 表にネストされた表型または VARRAY を入れることはできません。

原因: ネストされた表型または VARRAY を含む PLSQL 表を作成しようとしてしました。ネストされたコレクション型はサポートされていません。

解決方法: ネストされた表型または VARRAY を削除して、操作を再試行してください。

PLS-00546: SELF は REF 文として宣言できません。

原因: メンバー・ファンクションまたはプロシージャに対し、SELF が REF パラメータとして宣言されました。SELF は REF としてサポートされていません。

解決方法: 値パラメータとして SELF を再度宣言してください。

PLS-00550: キャラクタ・セット仕様部は、この型では使用できません。

原因: 必要のない型にキャラクタ・セット仕様部が作成されました。

解決方法: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、型を変更してください。

PLS-00551: キャラクタ・セット ANY_CS は、サブプログラム・パラメータの場合にのみ使用できます。

原因: キャラクタ・セット ANY_CS が指定されましたが、これは無効です。

解決方法: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00552: コンポーネント要素では、柔軟性のあるキャラクタ・セットは使用できません。

原因: ANY_CS または %CHARSET が ANY_CS パラメータへの参照に使用されましたが、このパラメータは CHAR、VARCHAR2、または CLOB 型ではありません。ANY_CS または %CHARSET は、レコードのフィールド、オブジェクト、コレクションの要素などには使用できません。

解決方法: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00553: キャラクタ・セット名が認識できません。

原因: キャラクタ・セット仕様部に、認識できない名前があります。

解決方法: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00554: キャラクタ・セットは、すでに判断されています。

原因: 冗長なまたは矛盾しているキャラクタ・セットが指定されました。

解決方法: CHARACTER SET の仕様部を削除するか、指定されたキャラクタ・セットを変更してください。

PLS-00560: キャラクタ・セットが一致しません。

原因: キャラクタ・セットが間違っている式が使用されました。

解決方法: TRANSLATE(... USING ...) を使用して式を変更してください。あるいは、キャラクタ・セットを変更してください。

PLS-00561: パラメータ *name* の値でキャラクタ・セットが一致していません。

原因: キャラクタ・セットが間違っている式が使用されました。

解決方法: TRANSLATE(... USING ...) を使用して式を変更してください。あるいは、キャラクタ・セットを変更してください。

PLS-00562: 関数は型を戻さなければなりません。

原因: 現在の関数は、データ型以外のものを戻すように定義されています。

解決方法: 関数が data_type を戻すように修正してください。

PLS-00563: CAST 式の使用方法が無効です。

原因: CAST (PLSQL 内の) が DML 有効範囲の外側で使用されました。

解決方法: DML 文の外側で CAST を使用しないでください。

PLS-00564: リモート・コールでは、LOB 引数は使用できません。

原因: 原因 リモート・コールで LOB 引数が使用されましたが、これは許可されません。この制約は LOB を含む複合型にも適用されることに注意してください。

解決方法: リモート・コールから LOB 引数を削除してください。

PLS-00565: name は、REF ターゲット (オブジェクト型) として完了しなければなりません。

原因: REF 依存性のターゲットになる不完全なライブラリ単位は、REF 依存性のターゲットの候補になるように、完成しなければなりません (このライブラリ単位で REF 依存性を持つライブラリ単位になるため)。REF ターゲットの候補には、完全なオブジェクト型と不完全なオブジェクト型があります。このエラーは、REF ターゲットの候補以外のものとして REF ターゲットの候補を完成させようとする、発生します。

解決方法: このライブラリ単位に別の名前を使用するか、元の不完全なライブラリ単位を削除してください。

PLS-00566: タイプ名の *name* は制約になりません。

原因: A LOB、DATE、BOOLEAN、ROWID、MLSLABEL 型が長さ指定で制約を受けました。次に例を示します。

```
X BLOB(5);
```

解決方法: 制約を取り除いてください。

PLS-00567: NULL を NOT NULL 制約された仮パラメータに渡すことはできません。

原因: NULL を NOT NULL 制約された仮パラメータに渡そうとしました。これは許可されません。

解決方法: かわりに NOT NULL 式を渡してください。

PLS-00700: *name* の PRAGMA EXCEPTION_INIT は同一ブロックの例外宣言を必要とします。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマがその例外として同じブロックに宣言されていません。この 2 つは同じブロック内に正しい順序で宣言されていなければならず、プラグマ宣言が例外宣言の後になくてはなりません。

解決方法: プラグマが参照する例外宣言の直後に、EXCEPTION_INIT プラグマを置いてください。

PLS-00701: PRAGMA EXCEPTION_INIT で無効な Oracle エラー番号 *num* が見つかりました。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡されたエラー番号が範囲内にありません。エラー番号は、Oracle エラーの場合は -9999 から -1 の間でなければなりません。ただし -100 は除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 から -20999 でなければなりません。

解決方法: 正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00702: PRAGMA EXCEPTION_INIT の 2 番目の引数は、数値リテラルでなければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマの 2 番目の引数が数値リテラルではありません (たとえば、変数)。2 番目の引数は数値リテラルで、Oracle エラーの場合は -9999 から -1 の範囲でなければなりません。ただし -100 を除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 から -20999 の範囲でなければなりません。

解決方法: 2 番目の引数に正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00703: リスト内の名前付きインスタンスが複数あります。

原因: サブプログラム・コールで 2 つ以上の実パラメータが同じ仮パラメータを参照しています。

解決方法: 重複している実パラメータを削除してください。

PLS-00704: *name* は、例外として宣言しなければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡された *exception_name* パラメータの綴りが間違っているか、正しく宣言された例外を参照していません。または、プラグマの位置が間違っています。例外宣言の後の同一宣言節に置かなければなりません。

解決方法: *exception_name* パラメータの綴りを確かめてください。次に例外宣言を確認し、例外名とキーワード EXCEPTION が正しい綴りになっていることを確認してください。また、例外宣言の後の同一宣言節にプラグマが置かれていることも確認してください。

PLS-00705: 式で使用された *name* には、戻り型が必要です。

原因: 式で例外が参照されています。例外には名前がありますが、値はありません。したがって、式に対して値を与えることはありません。たとえば、次の RETURN 文は無効です。

```
FUNCTION credit_limit (cust_no INTEGER) RETURN NUMBER IS
    制限      数値 ;
    over_limit EXCEPTION;
    ...
BEGIN
    ...
    RETURN over_limit; -- illegal
END;
```

解決方法: 式の識別子の綴りを調べて、例外を参照しないように式を書き換えてください。

PLS-00706: 選択済みコンポーネントの接頭辞として例外 *name* は使用できません。

原因: コンポーネントへの参照を修飾するために、例外名が誤って使用されました。たとえば、レコード内のフィールドを指定するのに、ドット表記法が使用されたときに、レコード名ではなく例外名がコーディングされた可能性があります。

解決方法: 有効な接頭辞（たとえば、パッケージ、レコード、スキーマなどの名前）を使用して、コンポーネント参照を書き換えてください。

PLS-00707: サポートされない構造体または内部エラー [*num*]

原因: 実行時では、これは内部エラーです。コンパイル時に発生した場合は次のいずれかの問題を示します。

- ・ パラメータ型を持つリモート・サブプログラムまたはコール側のサイトでサポートしていないデフォルトの式に対してコールが行われた。
- ・ プロシージャを格納しているデータベースに対して不完全なアップグレードまたはダウングレードが行われた。STANDARD.SQL のような誤ったバージョンのシステム・パッケージがインストールされたことが考えられます。
- ・ コンパイラのバグが検出された。このような場合には、有効な PL/SQL 構文がコンパイルできません。

解決方法: 内部エラーをオラクル社技術サポートに報告するか、問題に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- ・ パラメータ型を使用するためのアプリケーションのロジックと、ローカル・サイトおよびリモート・サイトの両方でサポートされているデフォルトの式を修正する。
- ・ インストールするシステム・パッケージのバージョンがすべて正しいものであるか確認して、アップグレードまたはダウングレードを正しく完了する。
- ・ 有効な構文エラーをオラクル社技術サポートに連絡する。エラー・メッセージとともに行番号や列番号が表示されている場合、手掛りを見つけるのに役立つことがあります。たとえば、バグを避けるために、エラーのある行を記録するようにします。

PLS-00708: プラグマ *name* は、パッケージ仕様部で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたプラグマがパッケージ仕様部で宣言されていません。たとえば、プラグマ `RESTRICT_REFERENCES` はパッケージ仕様部で宣言されていなければなりません。

解決方法: 位置の異なるプラグマを削除するか、または位置を変更してください。

PLS-00709: プラグマ *name* は、パッケージ仕様部および本体で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたプラグマは、パッケージ仕様部で宣言されていますが、パッケージ本体では宣言されていません。あるいはその逆です。

解決方法: プラグマのないパッケージ宣言部分にプラグマを追加してください。

PLS-00801: 内部エラー [*num*]

原因: これは、コンパイルまたは実行時に発生する内部エラーの総称です。最初のパラメータは、内部エラー番号です。

解決方法: このエラーは、オラクル社技術サポートにバグとして連絡してください。

PLS-00900: ユニット *name* の本体が見つかりません

原因: 実行時に、プログラム・ユニットの本体が見つかりませんでした。次の 2 つの理由が考えられます。

- ・ 第 1 に、ユニット '*a*' がモジュール '*b*' をコールしたときに、'*b*' の仕様部が存在し、本体が存在しなかった場合が考えられます。この場合には、仕様部が存在するのでコンパイル時にエラーは発生しません。
- ・ 第 2 に、SQL 文などの適切なコンテキストの外部でシーケンスを参照している場合は、このエラーが発生する可能性があります。この場合、順序参照の「仕様部」は見つかりますが、次のように SQL 文の外側の順序を参照するコードを実際に行うことは有効ではありません。

```
i := seq.nextval;
```

解決方法: 最初の理由でエラーが発生している場合には、参照されているオブジェクトの本体を作成してください。第 2 の理由によってこのエラーが発生している場合には、シーケンスを SQL 文の中に移動してください。たとえば次のような場合です。

```
i := seq.nextval;
```

これは次のように置き換えることができます。0

```
select seq.nextval into temp from dual;  
i := temp;
```

PLS-00901: 表 *name* の列 *name* のデータ型はサポートされていません。

原因: データベースの表の列が、現在のリリースの PL/SQL ではサポートされていないデータ型になっています。

解決方法: 問題のある列を表から削除するか、必要な列を別の表にコピーしてください。

PLS-00902: 読取り専用のバインド変数が OUT または IN OUT コンテキストで使用されました。

原因: 更新できないホスト変数が、更新が可能なコンテキストで使用されました。

解決方法: コンテキストを調べて、ホスト変数の使用方法を変更するか、ホスト変数の値を PL/SQL ローカル変数に割り当ててローカル変数を使用してください。

PLS-00904: オブジェクト *name* にアクセスするには、権限が足りません。

原因: 必要な権限を持っていないデータベース・オブジェクトを操作しようとした。たとえば、SELECT 権限だけが付与されている表を UPDATE しようとした場合に、このエラーは発生します。

解決方法: DBA に依頼して操作を実行するか、必要な権限を取得してください。

PLS-00905: オブジェクト *name* は無効です。

原因: 無効なパッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムが参照されました。パッケージ仕様部やストアド・サブプログラムは、それらが最後にコンパイルされた後に、ソース・コードやそれらが参照しているデータベース・オブジェクトが変更、削除されると無効になってしまいます。

解決方法: パッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムを無効にしている原因を探し、Oracle がエラーなしで再コンパイルできるようにしてください。

PLS-00906: コンパイルできません。

原因: 稼働環境に問題があるため、PL/SQL コンパイラが正しく機能しません。たとえば、そのエラー・メッセージ・ファイルがアクセス不能である可能性があります。

解決方法: PL/SQL の稼働環境を調べ、コンパイラが必要なファイルすべてにアクセスできるようにしてください。

PLS-00907: ライブラリ単位 *name* が見つかりません。

原因: PL/SQL は、前に使用可能であったライブラリ単位を見つけてロードすることができませんでした。これは通常、補助記憶装置からライブラリ単位をロードする際に、その単位が依存しているその他のライブラリ単位が補助記憶装置上にない場合に発生する可能性があります。

解決方法: 必要なライブラリ単位を用意してください。

PLS-00908: 格納されている形式 *name* は、このリリースではサポートされていません。

原因: PL/SQL は、格納されている形式のライブラリ単位を認識できませんでした。このバージョンと互換性のない PL/SQL のバージョンを使用してコンパイルまたはシュリンク・ラップされています。

解決方法: このバージョンの PL/SQL に合わせて、ライブラリ単位を再コンパイルしてください。

PLS-00950: この SQL 文で PL/SQL 表を使用することは、このバージョンではできません。

原因: SQL 文で、PL/SQL 表への参照が正しくありません。たとえば、次のような参照が行われた可能性があります。PL/SQL 表の属性はプロシージャ形式の文でだけ使用できます。

```
SELECT ename_tab.COUNT INTO name_count WHERE ...
```

解決方法: 間違った参照を SQL 文から削除してください。

PLS-00951: name 機能は、このリリースではサポートされていません。

原因: インポートされたライブラリ単位の中に、PL/SQL が認識できない単位がありました。その単位は、このバージョンでは認識できない新しい機能または古い機能を使用しています。

解決方法: インポートされたライブラリ単位をこのバージョンの PL/SQL で再コンパイルし、サポートされていない機能を探してください。

PLS-00960: このリリースでは、RPC はスキーマ・レベルのユーザー定義型の変数を使うことはできません。

原因: スキーマ・レベルのユーザー定義型か、この型を再帰的に使う型は、RPC では使えません。次に例を示します。

```
create type foo as object (...)  
create package my_pack is  
type my_tab is table of foo;  
-- on a remote server:  
x my_pack.my_tab@rpc; --illegal attempt to use type my_tab
```

解決方法: RPC コールには PL/SQL 定義型だけを使ってください。このようなデータを RPC 内で動かすためには、エレメント・ワイズ・コピートップレベルタイプへの余分なコードをローカル・タイプに追加する必要があるかも知れません。

PLS-00989: レコード、オブジェクト、または、コレクションのカーソル変数は、このリリースではサポートされていません。

原因: レコード、オブジェクト、またはコレクションで、カーソル変数が入力されました。これは、このバージョンの PL/SQL ではサポートされていません。

解決方法: スタンドアロンのカーソル変数またはパラメータ（あるいはその両方）を使用して、アプリケーションを書き換えるか、レコードで使用する場合には、PL/SQL 2.3 を使用してください。

PLS-00990: カーソル変数に索引表は使用できません。

原因: カーソル変数で索引表をビルドしようとした。

解決方法: スタンドアロンのカーソル変数またはプロシージャ・パラメータ、レコードおよびループの索引表を使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00992: カーソル変数からはフェッチできません。

原因: カーソル変数から FETCH を実行しようとした。

解決方法: PL/SQL 2.3 にアップグレードしてください。このリリースでは、このような制約はありません。あるいは、OCI または FETCH 用のプリコンパイラを使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00993: カーソル変数を RPC 引数または結果として渡せません。

原因: リモート・サブプログラムとの間でカーソル変数の受渡しが行われましたが、これは許可されていません。たとえば、カーソル変数のオープンにリモート・プロシージャを使用することはできません。リモート・サブプログラムはカーソル変数の値を戻せないためです。

解決方法: ローカル・データベースを参照するように、サブプログラムの呼出しを変更してください。あるいは、この制約がない PL/SQL 2.3 にアップグレードを検討するか、OCI またはプリコンパイラを使用してアプリケーションを書き直してください。

PLS-00994: カーソル変数がパッケージの一部として宣言できません。

原因: パッケージ仕様部でカーソル変数が宣言されましたが、これは許可されていません。REF CURSOR 型は PL/SQL ブロック、サブプログラム、パッケージで定義できますが、カーソル変数を宣言できるのは、ブロックまたはサブプログラム内だけです。

解決方法: カーソル変数の宣言を PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの中に移動するか、ローカル・カーソル変数またはカーソル変数のプロシージャ・パラメータ (あるいはその両方) を使用して、アプリケーションを書き直してください。

PLS-00995: 未処理例外 # num

原因: 例外が発生しましたが、ハンドラが見つかりません。呼び出された例外を処理するハンドラが見つからない場合は、PL/SQL はホスト環境に未処理例外を戻します。メッセージに埋め込まれている数値は Oracle のエラー・コードで、このマニュアルに記載されています。

解決方法: 例外が発生した条件を修正し、適切な例外ハンドラを作成するか、別のハンドラを使用してください。このブロックに適切なハンドラがある場合に、宣言または例外ハンドラで例外が発生し、囲みブロックに即座に波及しました。

PLS-00996: メモリーが足りません。

原因: メモリー不足で、PL/SQL からの要求が処理できません。

解決方法: PL/SQL 表の正しい行を参照しているかどうか、プログラムの再帰度が深すぎないかどうかを調べてください。

FIPS 警告 : 01400 ~ 01799

この節では、FIPS フラガーが Oracle ツール (Server Manager、SQL*Plus、Oracle プリコンパイラなど) で使用可能になっており、次のいずれかに該当する場合に生成される可能性のある警告メッセージを記載します。

- SQL92 標準への Oracle 拡張機能が使用されている
- SQL92 機能が非標準様式で使用されている

FIPS 警告メッセージは完全性を期するために示します。原因および解決方法は、ANSI 文書の ANSI X3.135-1992 に記述されています。

PLS-01400: ||' トークンの使用

PLS-01401: 識別子が 18 文字を超えています。

PLS-01402: 引用された識別子の使用

PLS-01403: コメント・デリミタ /* */

PLS-01404: ANSI 識別子は、文字、数値、およびアンダースコアから構成されます。

PLS-01405: ANSI の文法では、指数を表す数値データは、大文字の E で表現しなければなりません。

PLS-01406: ANSI ではキーワードとして認識される PL/SQL ではキーワードではない識別子が見つかりました。

PLS-01407: 識別子 CHAR、CHARACTER、または INTEGER の 1 つがプログラマに再定義されました。

PLS-01408: & トークンの使用

PLS-01409: PRIOR_ トークンの使用

PLS-01410: MOD トークンの使用

PLS-01411: REM トークンの使用

PLS-01412: EXP トークンの使用

PLS-01413: NULL 式の使用

PLS-01414: 修飾された式が使用されました。

PLS-01415: 集合体の値が使用されました。

PLS-01416: <id> (<value>...) が使用されました。

PLS-01417: % 属性が使用されました。

PLS-01418: ANSI では、副問合せに集合演算子を組み込むことはできません。

PLS-01419: 副問合せでは、* または 1 つの列を選択リストに持たなければなりません。

PLS-01420: ANSI では、INTERSECT および MINUS は集合演算子ではありません。

PLS-01421: FOR UPDATE 句

PLS-01422: 別名

PLS-01423: SET 句の右側に副問合せがあります。

PLS-01424: 句が非 ANSI 順です。

PLS-01425: 句による接続

PLS-01450: この <value expression> に、合致しないデータ型があります。

PLS-01451: この <value expressions> データ型は、比較可能でなければなりません。

PLS-01452: このファンクションは、ANSI 規格にありません。

PLS-01453: このプロシージャは、ANSI 規格にありません。

PLS-01454: データ型 CHAR といっしょに演算子は使用できません。

PLS-01455: 述部 IS NULL and IS NOT NULL が定義できるのは、列指定部だけです。

PLS-01456: 名前の長さは 3 までです。

PLS-01458: UPDATE 文の SET 句には、長さが 1 の列名が必要です。

- PLS-01460: リモート・ホストのオブジェクトにアクセスできません。
- PLS-01463: STDDEV は、標準セットの関数ではありません。
- PLS-01464: VARIANCE は、標準セットの関数ではありません。
- PLS-01466: NULL 文字列は使用できません。
- PLS-01467: IN 述語の値リストは、副問合せでなければ、value_specifications のみを含みます。
- PLS-01468: 類似述語の最初の引数は、文字列型の列でなければなりません。
- PLS-01469: ANSI 規格はレコードを許可しません。
- PLS-01470: 類似述語のエスケープ文字は CHAR 型のリテラルか変数でなければなりません。
- PLS-01471: キーワード DISTINCT は COUNT(DISTINCT sim_expr) に存在しなければなりません。
- PLS-01472: セットファンクション指定では、DISTINCT が存在するなら、式は列指定でなければなりません。
- PLS-01473: != や ~= でなく、<> を使用してください。
- PLS-01474: ANY の使用は、非 ANSI です。
- PLS-01500: 結合はビューの定義では許可されません。
- PLS-01501: CREATE TABLE 文のオプションは非 ANSI です。
- PLS-01502: 制約名および制約状態は非 ANSI です。
- PLS-01503: SET 句の式は集合関数を含めません。
- PLS-01504: CREATE TABLE 文の AS フェーズの使用は非 ANSI です。
- PLS-01505: ALTER は非 ANSI です。
- PLS-01506: CREATE INDEX は非 ANSI です。
- PLS-01507: DROP は非 ANSI です。
- PLS-01701: ROLLBACK WORK 文に無効な構文があります。
- PLS-01702: COMMIT WORK 文に無効な構文があります。
- PLS-01703: CLOSE 文のカーソル名は長さが 1 でなければなりません。
- PLS-01704: ソート句の式は、オプションの ASC または DESC で、列指定または符号なし整数でなければなりません。
- PLS-01705: カーソル指定が UNION または ORDER_BY を持つ場合、カーソルに指定された表はアップデートできません。
- PLS-01707: 位置づけられた DELETE または UPDATE 文で、表はカーソルの指定で識別されなければなりません。
- PLS-01708: 検索 DELETE、UPDATE または INSERT 文で、表は検索条件の副問合せの FROM 句に表示されてはなりません。
- PLS-01709: INSERT 文の値リストは、副問合せ以外の値リストで指定された場合、値指定でなければなりません。
- PLS-01710: 位置づけられた DELETE または UPDATE 文で、カーソル名は長さが 1 でなければなりません。
- PLS-01711: SELECT 文が ORDER_BY、HAVING、または GROUP_BY 句を含んではなりません。

PLS-01712: ANSI はバインド変数を INDICATORS として許可しません。

PLS-01713: これらの型への制約が一致しません。

PLS-01714: ここで ANSI が必要としているのは、リテラル値ではなく列名です。

PLS-01715: ANSI は SAVEPOINT を受け入れません。